

今日に於ける

家庭の役割

昭和39年 全国婦人会議記録

目次

はしがき	2
全国婦人会議の組織	5
全国婦人会議日程	4
記念講演 東京大学総長 大河内 一男	5
部会	
第一部会	9
第二部会	16
第三部会	41
第四部会	71

は し が き

労働省では、昭和三十九年四月十日から一週間「現代社会における家庭の役わり——産業化と家庭の問題」を目標として、第十六回婦人週間を全国的に展開しましたが、この週間の中央行事として、第十二回全国婦人会議を四月十四日から四日間、東京において、日本放送協会と共催いたしました。

会議は、全国からの応募者二、一六二名の中から、中央選考委員会の書類選考によって選ばれた六十名の婦人が参加しました。会議は四部会にわかれ、「今日における家庭の役わり——産業社会の進展の中で——」をテーマとして、リーダーの助言のもとに第一日第二日の二日間話し合いが行なわれました。第三日は都内において移動会議を実施し、各種施設や工場を訪問し、見学の後、懇談しました。なお、全国に組織をもつ婦人団体や労働組合婦人部等から推んされた方々や青年の方々に、特別オブザーバとして各部会に参加していただき話しあひの傍聴と意見発表をお願いして会議を援助していただきました。最終日の総会では、会議員および部会リーダーによる部会報告ならびに一般傍聴者との質疑応答が行なわれ、続いて第十六回婦人週間の特別来賓として来日された、インドネシア共和国社会大臣ルシア・サルジヨノ女史による講演が行なわれました。ここに会議の速記を集録いたしますが、婦人問題に関心を持たれる方々の御参考になれば幸いです。なお、紙数の都合で割愛した部分があることをお断りいたします。

昭和三十九年十二月

労働省婦人少年局

全国婦人会議の組織

名 称	主 催	期 日	会 場	会 員	中央選考委員	特別オブザーバ
全国婦人会議	今日における家庭の役わり ——産業社会の進展の中で——	昭和三十九年四月十四日～十七日	東京（産経会館・虎ノ門共催会館・NHKホール）	六十名（全国からの応募者中から中央選考委員会が決定）	東京大学総長 日本女子大学講師 東京大学教授 評論家 東京学芸大学教授 日本放送協会教育局長 日本放送協会教養部長 労働省婦人少年局長 労働大臣官房長	大河内 一男 磯 野 富士子 日 高 六郎 古 谷 綱正 松 原 治郎 長 浜 道夫 川 原 正人 谷 野 勝美 和 田 勝美 磯 野 富士子 日 高 六郎 古 谷 綱正 松 原 治郎
会議の編成	総会、部会、移動会議により構成					
部 会						
第一部会	各部会とも「今日における家庭の役わり——産業社会の進展の中で——」についてを討議主題とする。					
第二部会						
第三部会						
第四部会						
移動会議	急速な工業化の進展の中で、大きく変化してきている家庭の諸問題を検討するとともに、家庭の機能をすこやかに保つために、婦人が、それぞれの立場で、いかにあるべきかを討議する。					
第一部会	公衆衛生関係施設を訪問					
第二部会	産業安全関係施設を訪問					
第三部会	相談業務に関する施設を訪問					
第四部会	工場見学					

全国婦人会議次第

四月十四日(火)

開会式 一〇・三〇〜一一・三〇

——合唱「世界の花」——

開会のことば

労働省婦人少年局長

谷 野 せ っ

あいさつ

労働大臣

大 橋 武 夫

日本放送協会会長

阿 部 真 之 助

来賓祝辞

インドネシア共和国 社会大臣

ルシア・サルジヨノ女史

会議員・部会リーダー紹介

記念講演

東京大学総長

大河内 一 男

(全国婦人会議選考委員会委員長)

外国からのメッセーシ

部 会 一三・三〇〜一七・〇〇

四月十五日(水)

部 会 一〇・〇〇〜一七・〇〇

四月十六日(木)

移動会議(見学と懇談)——東京都内

第一部会 東京都下水道局小台処理場(公衆衛生関係施設)

第二部会 労働省産業安全研究所(産業安全関係施設)

第三部会 国立精神衛生研究所東京出張相談室(相談業務に關する施設)

第四部会 石川島播磨重工業(株)第二工場(工場見学)

四月十七日(金)

総 会 一〇・三〇〜一三・三〇

——合唱「世界の花」——

第一部

あいさつ

日本放送協会教育局長

長 浜 道 夫

経過報告

労働省婦人少年局長婦人課長

高 橋 展 子

全体での話し合い 部会リーダー・会議員・傍聴者

司 会 鎌 田 暉 子

第二部

特別講演 インドネシア共和国 社会大臣

ルシア・サルジヨノ女史

アトラクション

歌と歌唱指導 ポニージャックス

演 奏 矢野康子クワルテット

閉会のことば

労働省婦人少年局長

野 せ っ

記念講演

現代の「貧乏物語」

東京大学総長

全国婦人会議選考委員会委員長

大河内

一 男

これから、今年の婦人会議の主題に因んで短かいお話を申し上げることにいたします。

この話の主題は「現代の貧乏物語」ということでございますが、おそらく貧乏物語と申しますとすぐ思い出しますのは、昔の京都大学の河上肇博士が大正六年にお出しになった「貧乏物語」という書物のことだろうと思います。この河上博士の「貧乏物語」というのは、最初はその前年の大正五年に大阪の新聞、朝日ですが、大正五年の九月からその年の十二月下旬まで連載された随想風の社会時評でございます。これがたいへん名調子の文章でございます。現在読んでみてもひじょうに感激を覚える文章ですが、文章はともかくとして、その中に流れておりますものの考え方が、ちやうど現在の日本のいろいろな生活問題をわれわれが考えます場合に、ひじょうに大きな暗示を与えるように私は感じております。この河上博士の「貧乏物語」の冒頭の一句は次のようであります。読んでみますと「米・英・独・仏・その他の諸邦・國は著しく富めるもの、民ははなはだしく貧しい。げに驚くべきは、これら文明國における多數人の貧乏である」

多少古風ですが名調子です。これは河上博士が、多少重々しいと申しますか、荘重な文体で書いただけに、なお読む人に印象が深かったのだらうと思います。がここで問題なのは、大正五年・六年、この年でありますが、ちやうど大正三年から、たぶん御存じと思いますが、第一次世界大戦が始まりました、日本も参戦國の一つで、戦争が始まると同時に参戦國ではあるが、國內が戦争になつたわけでもない。却って戦争を利用して當時の日本は海外輸出が盛んになりました。國內の軍事産業はたいへんうけにいった好景氣、いわゆる軍需景氣と申しますか、今日で申せば経済成長が激しかったとい

える。ところがこのような軍需景気で世間は調子に乗り、会社は大いに儲かって笑いがとまらないくらい。あるいは鉄成金、船成金が独占して儲かった。金の使い道がわからないというくらい世間が浮いた調子になっていたのが大正五年、六年でありましたが、同時に反面物価が高騰してまいって、特に米価の統制がなかったため、米の買占めが行われ、庶民は日常の生活にひじょうに困るという事態が、反面ひじょうなデンプラであらわれてまいりました、こういう背景で河上博士はその「貧乏物語」を半年間以上書き続けたが、要するに博士が言おうとしていたのは、日本に限りず、どこかの近代国家でも、その国が経済成長が起って進んだり、あるいは戦争ブームが起ったり、そうした時代があるいは災難、家族生活が破綻する問題が、いろいろの面を巻き起しているに違いない、という河上博士の認識であります。

「げに驚くべきはこれら文明国における多数人の貧乏である」と申ししたのはこういう点であります。その当時はこの貧乏などという問題は、日本国民は真面目に話題にしていない。同時にその当時京都帝國大学という重々しい層書きの法学博士河上肇という題で書かれたので、当時の日本人は、こんな問題もわれわれの足下にはあるのかな、という印象をひじょうに深くみなが持ったと思います。今日ではこの書物を日本のという面での古典の一つにしている所以ではないかと思ひます。

で、今年の婦人会議の主題も、こうした「貧乏物語」というものの着想と相通するものがあるように思ひます。現代社会における家庭の役割という主題でございますが、その主題には、日本の産業革命、あるいは工業化といつてもよろしゅうございまいしょうが、そういうものが日本の在来(ざいらい)の家庭生活、家庭のしくみというものに、どうい

放しになる。どうやって今までのような農家の家庭というものを主婦が責任をもって保ってゆくことができるかどうかという心配があります。

あるいは出稼(でか)ぎに御主人が都会に出てしまふ。残された奥さんは夫婦生活というものをめぐる一つの不安定が危機に落ち込んでくる。日本全体の産業成長の中で、あるいは農家の中の人間関係というものが、いま一つの危機に落ち込みつつある。どうしたらいいかという問題で、同じようなことは、都会のほうでも労働力の流動性というものに関係して、多数の共稼ぎ世帯、年令の若い対象の共稼ぎが特別現象であります。一方では現金収入を多少でも得なければならぬという差し迫った事情で共稼ぎが始まるのであります。同時にそのことによって、たとえばそうした共稼ぎ世帯の家計というものがいったいどういふふうを保っていくか、それが大きな心配であり、またすこし年令がかさめば、最近新聞で問題になる非行少年という問題についての著しい心配がある。一方ではいろいろな大企業、新聞その他のマスコミが、いろいろな手段を弄して消費ブームを煽り立てます。またこれにある程度巻き込まれるでしょう。そういう中で、いよいよもって不安定な共稼ぎ世帯の家庭の状況というものが現われてくるように思われますが、こういうふうにして日本の経済成長というものは、経済の面からだけ見ればいろいろ問題がありましようが、全体としてたしかに日本の高度成長というものは、数字の上ではだんだんふくらみを見せていることはたしかであります。これが今日の主題、家庭の中での人間関係というものは、農村をとつても都会をとつても、工業地帯、ホワイトカラーの家庭をとつても、甚しく不安定な状態の中に一年一年落ち込んでゆく危険が私には感ぜられてならないのであります。そうして

彼奴やシヨツクを与えているか、また今後与えるだろうかというのが問題の根拠だと思ひます。

そこでみなさん御存じのように、ここ数年の日本はいろいろ書われますように、経済成長であるとか、高度成長であるとか、世界の中の覇者であるとか、ということがいろいろない方ではないかとまいりましたけれども、同時に、河上博士の言ひ方を真似るわけではありませんが、その裏側、あるいは高度成長の底辺をちょっとわれわれがさぐってみたら、どういふ問題がそこにかくされているかというところは案外真面目に取り上げられておりません。多少とも大正五・六年の日本人同様にうわつた大平ムードみたいなものがわれわれの周囲にただよっているのではないだろうかという感じが私にはしてなりません。

多数の立派な感想文、みなさまが書きになっておられるわけですが、それらの中でやはり問題を重要点だけ集約してみますと、たとえば農村をとつてみれば、今日の日本の産業全体の高度成長の中で、農村のつまり在来(ざいらい)の農家経済というものの非常に大きな偏重が始まり、老人だけしか残らないとか、主婦農家という言葉でいわれるような日本の農業経済の一つの危機が潜在的に進行している。労働力の流動化というものがどんどん始まっておりますので、農村から若い世代が都会に流出(りゅうしゅつ)離村(りき)しはじめております。こういう農村では婦人の農業労働、農業経済に対する責任が非常に大きく重いかけられてくるわけですが、そういう中で、いったい今後の日本の農業経済がどういふふうな、支えてゆけるかどうか、大丈夫だろうかという心配がある。同時にまた農家の世帯の中に、婦人を中心とした家庭といふもの、ハウスキーピングといふものを考えると、育児の問題その他万端(ばんぱん)の家庭の仕事にしましても、手が足りなくて抛(な)り

この婦人会議の主題にこういうものが選ばれたのは、そうしたことを予期しての一つだと判断しております。

要するに、婦人が一方で職業をもたなければならぬという建前、またその経済的必要それと他方で、たとえば一つの世帯の中での育児の問題、あるいはそれ以外の、家庭をどうやって合理的に始末をつけるかという問題。この二つの、職業をもつ必要と、個々の世帯をどうやって合理的に保つてゆくかという問題と、この二つの問題をどうやって正しく、今後調整(ていしゆ)したらいいかということについて、甚しく現在(げん)はどなたも自信をもっていない。またそういう、日本のいまの社会的環境だということでありましよう。

こういう点で、やはり河上博士が言ったような、貧乏物語的な着眼(ちゃくがん)というものは、やはり現在でも同様に通用しなければならぬと思ひます。経済が高度成長を遂げる中で、裏側には多数の人間の生活危機、あるいは生活不安といふものが類積(るいせき)しつつあるという認識であります。

こういふようにして考えますと、今後いいたいわれわれはこの問題をどういふふうな処理したらいいか。具体的にはどうしたらいいかという妙案は、おそらくありませんでしょう。そうして、多数の感想文をお書きになったものの中でも、積極的にはこうしたいという対策は見当(みあた)らなかつたと思ひますが、いずれにしてもこの問題をここで時間をかけて正面から取り組むことが、われわれに残された唯一の正しい態度であり、消費ブームや経済の高度成長ムードというふうなものの中で泳ぎ回(およ)るということはわれわれのとるべきことではないと思ひますし、かといって、すべての戦法的な取組み方から身をそらして、すべて悲観的に問題を処理しようという態度も私は正しいとは思ひません。時間がかかるとしても、こうした認

説の上に立って、今後の農村なり都会なりのそれぞれの日本の世帯
というものが、どういうふうにしたならば、婦人が職業をもつ、あ
るいは婦人が仕事をもたなければならぬという事態と、また婦人
が責任を負って家庭を切り盛りし、婦人が育児その他の問題に責任
をもつという二つの問題を、どうして調整したらいいかということ
が、今後に残された、時間をかけて始末しなければならぬ大問題
と考えております。

(おわり)

第一部会

会議員

岩手	吉田澄江(無職)	石川	北川倫子(社会教育主事)
秋田	奈良たか(農業)	福井	杉原美代子(坊守)
栃木	丸山淑子(無職)	岐阜	加藤綾子(無職)
東京	家徳すみ子(無職)	大阪	佐藤真己子(無職)
		奈良	北邨智福(無職)
		鳥取	秋房昌子(無職)
		山口	杉山竜子(農業)
		香川	柳千重子(無職)
		高知	野中喜美(無職)
		佐賀	重松ヒサヨ(産休補助教員)
		宮崎	森岡陽子(無職)
リーダー	磯野富士子(日本女大学講師)		
特別オブザーバー			
	竹井二三子(日本生活協同組合連合会婦人部全国協議会)		
	三本信子(日本有権者同盟)		
	菊地むつみ(主婦連合会)		
	宗像なみ子(日本子どもを守る会)		

第一日目 四月一四日 一・〇〇〜五・〇〇

磯野(リーダー) きょうはまず、討議の予定表に従いまして、三
時までの時間に、産業化が家庭にどのような変化をもたらしたか
ということについて考えていただきたいと思います。今朝、大河
内先生からのお話もございましたように、この産業化が家
庭に及ぼした影響、それから生じた問題というのは、ある
点では全世界の婦人、あるいは家庭で直面している問題で、こ
の二日間の討議で、その解決策というものを、みんながもって
帰れば、これ程どめでたいことはないわけで、しかし、これは
残念ながら、早急な解決はできないし、また安直な結論を出すべ
きものでもないと思います。ですから、この二日間の討議の間で
むしろどういうところに問題があるかということについて、みん
なでいちばん身近な、底のほうから問題をとりあげていきたいと
思います。

とかく私達は、それはこうすればいいのだとか、それは現在の
資本主義の矛盾だとかいうことで片付けるような議論も耳に入
りますけれど、ここではそういう公式論を離れて、自分が本当に
どういうところで問題を感じたかということ、それぞれ違った
生活の場での体験をはなし合って、その中から、みんなに共通な
問題を引き出していきたいと思っています。

まず産業化というものが、家庭に及ぼしたいちばん大きな影響
は、なんと申しまして、いわゆる昔からあった家業というものが
が生産の中心であった時代、つまり一家の人達が力を合わせて家
業にいましめ、それによって生活していく、という形がだんだん

と変ってきて、それぞれの家族員、とくに父親、あるいは夫である男性が外の職場へ雇われていく、そして、そこで得た賃金で家族員が生活する。それからまた、さらに近頃のように婦人の社会的進出、職場への進出ということが出てきますと、夫だけでなく、妻も一個の人間として、家庭の外に仕事をもつということになってきます。またそういう進展に伴って、いままで家業といわれてきたものも、昔の家業そのまゝの形では済まなくなつて、たとえば農業を続けているところでも、昔のように女の人が嫁として農業に従事するといふのではなくて、夫は外に働きに出ていき、女が農業の生産の中心になる。あるいは商家のような場合でも、産業化に伴って、若い人達は工場のようなところに雇われていくので、なかなか昔のような店員さんのような性格の従業員が得られなくなつて、人手不足になつた。そこで商店なども休暇や労働時間を決めるようになってきた、というふうに、ただ家庭の外で仕事をもつ家族が多くなるということばかりではなくて、昔からの家業というものの、その暮らしがたにいろいろと変化が出てきたと思います。

そこで、これから話を進めていく上で、このグループのかたがたの家業についてうかがつておいたほうがよいと思いますので、まず、お家が農業のかたからお手をあげて下さい。

香川の柳さん、山口の杉山さん、岐阜の加藤さん、石川の北川さん、秋田の奈良さん。その中で兼業農家のかたは、香川の柳さん、山口の杉山さん、岐阜の加藤さんの三人。

それから商家のかたが、奈良の北郷さん、栃木の丸山さんのお二人。

杉山 私のところは十年前までは一町五反作つておりました。そして家族全部が農耕に従事しておりましたけれど、末の弟が別居いたしました。それに田んぼを分けてやりましてからは、主人もサラリーマンになりました。私がいまは六反を耕作しております。当然みんな私の肩にかかってくるわけですが、はじめは農業というものがなんだか、いやでいやでたまらなかつたのが責任をもつてやるようになりましてからは、いろいろの勉強をしたり、教えていただいたりして、農業に興味をもつようになり、今ではとてもおもしろく、たのしみがわいて参りました。その農業もものように肉休労働がはげしくなくなり、技術革新によって、草取りなども一、二回で済みますので、余暇をとつても有効に過ごせるわけ、今までは家の中にとじこめておりましたのが、社会の一員としての社会活動も少しづつできるようになつたことを、とてもうれしく思つておる次第でございます。

北川 私の場合は、現在農村に住んでおりませんので、農家の娘の立場から申し上げるわけです。私の家では水田が八反くらいしかありませんが、子供が五人いても、その誰かが農業をしたくないといふことで、私は長女ですが、最初から農業というものに興味をもちませんでしたし、水田が少ないのですから、両親だけで十分だといふわけで、一家揃つて農業をやつていくのでは、とても生活がもたせられませんので、長男も一応サラリーマンになつております。その嫁もやはり勤めておりまして、共稼ぎの夫婦で、しかも別居しておりますので、私の家では両親だけで農業というものはやれるのじゃないかと思つていたのですが、最近両親も年とつて参りましたし、またいろいろと機械化されましたので、

お家で企業をなすつてゐるかたは、大阪の佐藤さん、宮崎の藤岡さん。

それから、いわゆるご主人がお勤めになつていらっしゃるかたが、佐賀の重松さん、高知の野中さん、鳥取の秋野さん、岩手の吉田さん。

こういう機構になつております。いろいろな面から産業化にしたがつて、それぞれの家庭で、どのような変化がおこつたかといふことを、みなさんで話し合つてみたいと思います。まず、農業を主にしていられるかたの中で、最近工業化によつて、どんな変化がおこつたかといふことを出していただきたいと思ひます。

加藤 私のところは一ヘクタールの田畑を耕しております。以前は家内全部でやっていたのですけれど、日本の経済成長のために、農業だけではやっていけなくなりましたので、ほとんど主婦農家の形です。家族構成は、私共夫婦に高松二年の娘と長男夫婦、孫が三人でございます。主人と長男は外の仕事に出ておりますので、農業は私と嫁にゆだねられておりますけれど、嫁は三人の孫をかかえておりますので、育児のほうも大事かと思ひまして、ほとんど金責任は私の肩にかかつております。したがつて農業のことについては、私の命令一下、主人も長男も暇のある限り手伝うといふふうに、前とはまるで反対の立場になりましたが、そこにはいろいろの問題がありますので、これから皆さんのお話を伺つて考へて参りたいと思つております。

秋野（リーダー） だいたい何年くらい前から、加藤さんご自身が農業の中心におなりになりましたか。

加藤 五、六年前からでございます。

弟達は自分のレジャーをたのしむという意味で、日曜は家に帰つて農業の手伝いをしております。しかし家の相続問題とか、いろいろな面で、これから私達がいろいろ考へてゆかねばならない問題がたくさんありますので、今後の問題として、たのしみながら解決してゆきたいと思つております。

柳 主人が公務員で勤めておりますので、内職程度の農業を、私一人でやっております。肥料の配合とか、病虫害の予防とか、たいいてい一人でやっておりますが、一人でできないしごととたくさんありまして、そういった人件費とか、肥料代など精算してみると、結局赤字になるような状態で、なんのために田を作っているのかわからなくなりました。こんな調子なら、いっそ農業をやめてしまつて、どこかに勤めたほうがましじゃないかと、真剣に考えることもあります。でも、この年齢になりますと、そういった職場も希望するようなどころはありませんし、そういうことを皆さんとご相談して話し合つていきたいと思つております。

奈良 私の家では専業農家で、両親と私達夫婦がやっております。しかし専業とはいつても、生活費はかかる、機械化などの消耗品経費もなみたいていなので、はたして自立農家といえるかどうかいまだところの問題になつております。また私達の子供には、農業ばかりでは暮らしていけそうもないので、どうか学校に入つて、サラリーマンにして、農業は私達がやって、そして最後にはサラリーマン生活に変わるうかと考へたり、また逆に自立しよう、開墾したり、田んぼを売る農家があれば、それを買つて、ますます大きな百姓になるようにしようなどと話を合つてゐるこの頃です、そのへんのことについて、皆さんのご意見を伺いたい

と思っております。

磯野（リーダー） 農家のかたたちのお話をうかがいましたが、割合に新しいというか、明るい面もかなりあるような気がいたします。つまり今まではただ家業の手伝いをしていた。こんど自分が農業経営の中心となるという形になりますと、ご苦労も多いかも知れませんが、家族の中の関係として、やはり何か積極的なものも出てくるのじゃないか。そのへんのところを農家の問題の続きとして、農家以外のかたも混えてみなさんで話し合ってみたらどうでしょうか。

柳 農家のみなさんにお伺いしたいんですけど、どういうふうに家庭でお仕事を分担していらっしゃるのでしょうか。

奈良 早速農業機家の場合、現在までは水田・畑作の二本でやって参りまして、あと生活費に困るとか、特別の機械を購入する場合などは、少しばかりある山林に頼ってやって参りましたけれど、山林は一年や二年で金になるものではありません。それに養鶏・乳牛などやるようになってからは、労働過剰で、それこそ夜も昼もという現状で、昼休みの時間もないし、これから先、本当に不安になって参ります。

杉山 私のところは六反くらいですから、百姓がいい、わるいという点では、あまり悩んでいないように思いますが、私の所は農繁期には、中学三年を頭に三人の子供達を動員して手伝わせ、少しでも人件費を節約するというところに重点をおいております。子供もまた喜んで家業を手伝ってくれますので、子供のためにもいいのじゃないかと思っております。

加藤 私のところは米作一本で、うちで食べて残ったお米を販売し

離れますので、農業自体のことには、第四部会の松原先生が専門でございますので、できれば松原先生から直接お聞きになっていただければと思います。

次に商家と中小企業、家で農業以外の家業をしていらっしゃるかたのところにも、この産業化の進展に伴って、いろいろ変化がおこってきていると思いますので、こんどは、そちらに移ってみましょう。

森岡 私の家は家具を作っております。以前はよほどの熟練工でなければ家具なんかできなかったのですけれど、だんだん機械化が進みまして、素人にも誰でもできるようになりました。それで昨今の人手不足で家庭の婦人がうちにもだいたい入ってきまして、私の店の手伝いをしたり、工場のほうの事務をとったりしているのですけれど、忙しければ忙しいほど子供が押しやられる。私の友達にも商家のかたが多いのですけれど、子供がいつも片隅で淋しい思いをしているのを見えます。そこで家にいらっしゃる恵まれているかたが、もう少しそういう子供達に温かいやりをもってくれたらと思うわけでございます。

北郷 私のところは奈良の中心部の商店街でございます。七十軒ほど商店が並んでおります。そこで、いまいはん問題になっているのは、いま森岡さんがおっしゃったように人手不足のことで、そのため主婦が第一線でお客さんの応対にかなければならなりませんので、やはり子供を追いやる結果になります。現在は定休日も二回ほどありますが、奈良は観光都市ですので、定休日が日曜祭日と重なる場合は翌日になりますから、子供の休みと一緒にするということは絶対にないので、子供を連れて遊びに行くとか、

て、それでほとんど家計費はまかなわれておりますが、耕耘機とか、脱穀機購入の時は、主人と長男のほうから補ってもらっております。それで百姓は苦しい苦しいと申しますが、ものを生産する、作り出して育てるということは本當にたのしいことで、その行りに気持ちをゆだねてやっております。そして時間の余裕のとき、たときは、出られる限り、ほとんどの会に出ております。家のもの達も、ときどきはおばあちゃんや留守のほうに気楽でいいと思っております。また嫁が出る時も、気持ちよく出してやれるということ、たのしくやっております。

柳 農業機家の場合は、昔から役割はそう変わってないように伺ったのですが、兼業農家とか、共稼ぎの場合に、奥さんの仕事を主人が手伝って下さいますか。私の近所では見かけませんけれど、加藤 私の近くでは、奥さんが農閑期に外へ出られると、ほとんど遊んで御主人がずいぶん手伝っていらっしゃいますよ。しかも年輩のかたですけれども。

柳 私の地方は封建性の強いせいもあるかと思いますが、男の人が手伝うという姿を見かけません。

磯野（リーダー） その問題になりますと、農家だけに限らず、夫と妻の役割がどういうふうに変化したかということにかかっていると思います。それで農家自身の問題はまた農業そのものの問題と正面から取組みますと、家族の中だけのことではどうにもならないことがいろいろありますし、とくに秋田の奈良さんの問題などは、むしろこれからの日本の農業全体がどういう道を通っていくかという大変むずかしい問題になります。ここでそれを突込んでやっていく時間も、また私自身の知っている範囲から非常に

家族との団らんということも、ほとんどできかねるような状態です。

佐藤 私のところでは、十年前には工員が百人ほどおりましたが、盛大なストをやりました。その時に家の前の電信柱のアジビラを見て、びっくりしたんです。おきまりのお腹の大きな社長の漫画で、社長の奥さんは、んな大きなダイヤの指輪をはめそいる漫画でした。当時の実情としては、主人は寝食を忘れて財産を手離しながら事業につきとみ、私も和哉の内職までやって、なるほど家は大きい家になりましたけれど、つねに火を上げずようにして事業をやっていたのです。雇主と工員が仇同士では事業が成り立つはずがないと思ひまして、それから、むしろすすんでこちらから話しかけてゆくようにして、自分の息子のような年頃の工員さん達には、母親のような気持ちで接して参りました。工員達が病氣した時にも、自分の肉親のようになつても、病院に連れていったり、心と心の触れ合いを第一に心がけて参りました。いまではみんななごやかになって、わりかたスムーズにいったります。

磯野（リーダー） その工員のかたは住込みですか。

北郷 住込みの人と通いの人もいます。いまは五十人ほどの中で住込みは自身の十人ほどです。

丸山 店をもつ家族の中でいつも気になるのは子供との触れ合いです。家族は夫と三男一女ですが、食事中はもちろん、病氣中さえも、店の都合にゆづらなければなりません。家事・育児は仕事のうちに入っておりませんで、合間にやるわけです。本當に忙しい時には、勉強中の子供に手伝ってもらうこともあります。ですから、子供に話しかけられてもウワのソラで返事をしてしまうと

とも多いのです。これではいけないと思って、二年前から、「ママとぼく達の日記」を作りました。書くのでしたら、電話をかけて相手が出るまで一行くらい書けますから、子供も返事がもらえるので喜んであります。でも筆不精で、兄弟げんかや、お願いのことしか書いてくれませんが「ぼくも悪かった」と反省したり、「お母さん本当にありがとう」とか口に出して言いくいことを書いています。また、どんなに忙しくても、日に一度だけは、インスタント品を使わないで、家族の好きなものを作ってやります。私はそのくらいのことしかできないのですけれど、皆さんはどういうふうになすっていらっしゃるか知りたいと思います。

磯野（リーダー） いまお話を伺いましたかたがたは、皆さん家で仕事をしていたらいい。しかも人手不足で積極的に手伝わなければならぬ。そこでお家の中での役割、分担と申しますか、お仕事のわりふりは、最近変ってきたでしょうか。そのへんのところをお話し下さい。

北郷 家で子供用品を主に振ってありますので、主人より女の方が売りやすいので、どうしても私が手を離せない時は、主人がほとんどなら作ってくれます。目玉焼とか、即席で間に合わせることもございます。

杉原 私のところは寺ですが、嫁いで間もなく年寄り二人とも亡くなりました。主人が足がわるいので、私が檀家まわりをしたり、講演会などがあると、私が出て筆記をとってきて、二人で話し合ったりいたします。私が出るようになって十七・八年になりますので、簡単なおかずでしたら主人がしてくれられます。

吉田 一年四ヶ月です。おとしの暮に退めました。

家徳 私の場合は、長男夫妻と、小学四年生の孫と私と四人家族でございます。嫁も家事だけです。私が手を出すほどのことはないわけです。むしろ主婦の仕事をとるというよりは、かえってよくないのではないかと思っていますし、私も五人の子供を育てあげたのだから、これからは何か社会にお役に立つことがしたいと思いついて、十年來地域でいろいろお手伝いをしてあります。いまはほんの内職程度でございますが、東京都の嘱託として、労働力調査をしてあります。お金が欲しくないといえは嘘になりますけれど、私の場合はそれよりも、精神的収入が大きく、生活に非常にハリがあるのです。それでやめるといわれるまで続けたいと思いますけれど、新しい人を入れるのに、やはり四十までの人がいいということ、年寄りはなかなか仕事もらえません。

磯野（リーダー） 家徳さんのような場合は、お姑さんというものの新しい役割ということ、非常に参考になると思います。

家徳 私も外に出たことによって、百余りの家庭を見せていただき、外の風に吹かれたことによって、自分が磨かれたと思います。

秋房 私の場合は、主人も一番末っ子です。子供は五才と二才になり、一から十まで手をかけなくてもいいので、割合に自分の時間が多いわけです。そこで私のはじめ考えたことは、経済的には内職をしたほうが、少しでも足しになります。それよりも、サラーマンの家庭は、主人が出ますと、別に見ている人もいないし、近所の人の関係もありますので、自分がどうやって心の中がピリツとして、これから先、生きてきたという感じがするだろうということでした。はじめは鍋物とか洋裁ができます

森岡 私の家は姑がいますから、私が忙しくて家事のことができない時は「おばあさん、きょうのおかずをお願いします」とか「おばあさんのところにいって遊んできなさい」ということで、だいぶ救われています。主人はお茶を飲む暇もないくらいで朝から晩まで忙しいので、家事の手伝いは全然できません。年寄りがけむたい時もありますけれど、でも安心して子供を頼めるということ、はともありがたいことだと思っています。

丸山 私のところは年寄りがいませんので、うらやましいです。

主人は、割合手伝ってはくれますけれど、やはり男ですから……。磯野（リーダー） 御主人の生活に対する協力という点について、あとで家庭生活の変化がもたらした問題というところで、さらに話したいと思っております。こんどは第三の分類の家庭にいるかたのお話を伺ってみたいと思います。

吉田 いまままでのお話を伺っておりますと、サラーマンの家庭は仕事の面では、商家・農家のかたに比べて、時間の余裕がありすので、非常に恵まれています。経済的には苦しいこともありますが、生活しやすいし、家庭の中の役割といたしても、一家庭にいますから、そんなにいざこざもおきないで平和にやっております。ただ私としては、今まで共稼ぎをして、非常に忙しい生活を経験しておりますので、それを取戻すというわけではなく、おだやかな平和な家庭を作るのが仕事だというふうな感じがあります。主人に気持ちよく働いてもらうために、家の中のこと、少しでも明るくしたいということだけです。

磯野（リーダー） 吉田さんは、お子さんがどのくらいになるまで共稼ぎでしたか。

ので、ときどき他人のものを作ったりしましたが、何だかもの足りなくて、その次は社会奉仕的なことをしてみましたけれど、家庭が経済的に苦しいのに、自分ばかりいい子になって、そんなことばかりしていても心苦しいので、内職をはじめました。今まで暇がたくさんあるように思っていたのに、内職していると、案外に時間がないんです。しかし主人は、仕事をするようになってからのほうが、話し合いができるようになって、家庭の中が明るくなってよかったとほめてくれますので、無理してでも、これからはやってみようと考えております。

野中 私は共稼ぎをしたこともありませんけれど、こんどの所感文では共稼ぎ問題を書きました。私の場合、夫は教員をしておりまして、男の子が一人で、これも目下サラーマンですから、わりと暇です。郷里におりました時は、自分の家で庭も広かったのので野菜や花を作るのをたのしみにしておりました。ところが主人の転勤で高知県の中村というところに参りました。知らないところで毎日淋しく、ラジオ・テレビ・新聞を相手にしておりました。ところが、昨年の春、郷里から共稼ぎのかたが転勤して参りました。幼稚園の子供があるから、幼稚園から帰って、どちらかの親が帰ってくるまでみてくれないかということで、少しでもお役に立てばと、お預りするようになりました。そこには誕生そこそこの赤ちゃんもあって、お母さんの忙しいことといたたら、なんだか戦争みたいにみえまして、やはり子どもが小さいうちは、お母さんが家にいてあげたらどんなにいいだろうかと、またお母さんが一旦職場を去って、また職場に戻る場合に、不利な立場にならないように、なんとかいい方法はないだろうかということを書いたのです。

重松 私は老人を一人もち、子供が五人、共稼ぎの経験が二十七年ばかりあります。いま一番末の娘が二十になりました。老人はおりますけれど、家庭管理ということも、ずいぶん余裕がでて参りました。学校に勤めておりましたが、やめてから、教員の右手は使いたくなくて、結局、社会活動というよりなかつたことになって、婦人会の世話をしたりしておりましたが、今日の産業進歩の中で人手不足ということで、教員をやめて十年経過して、またかり出されて、現在勤めております。そして学校の状態を眺めてみますと、生徒が四十人ばかりいる中で、少くとも一割はいわゆる縫っ子で、家に置いて帰ろうとしない。また両親の話によりますと、今朝は学校に出るようになっていたが、帰ってみたら家にいた。ということ、子供に聞いてみると「お腹が痛かった頭が痛かった」とかいて、喜んで学校に出てこない。とくに寒い時や、気候の悪い時は、そういうのが多い。また学校で共稼ぎの女の先生の負担が非常に重いという話が出てきて、私が共稼ぎで子供を五人育てたところは、家事使用人も、年寄りもいて非常に条件がよかったのですが、最近はそのようなわけにはゆかない。そこで私達のように年をとったものがどこかお役に立つ場所はないかと考えました。保育所はだんだん設備されてきていますが、小学一年になると帰りが早いので家に帰っても家族がいない、学校で学んだり、あるいは見えないうちで遊んでいる。また私は十年ばかり青少年の指導や更生のお手伝いをしていましたけれど、そういう状態を眺めまして、学齢児童の保育ということ、女の人の再就職ということ、気遣に働けるような雰囲気でも作ることができたらという夢をもちております。

秋房 インスタントは、とかくいろいろな色付けがしてあったりして有害なものもありますから、そんな点に問題があるんじゃないかと思ひます。

森岡 ラーメンなどはお湯をかけるだけでは、あまり味気ないのでスープをお湯でとくとか、いろいろなものを入れるとか、ちょっとした心使いで、私は十分それでいいと思うのですけれど。

重松 私は年をとったせい、インスタントはあまり賛成しません。使うことが下手で、金銭に私は生ものを好んでおります。

家徳 たしかにインスタント食品は現在の忙しい世の中に大変調法ですが、私共の育つ時分には、家庭の味というものがあって、いわばお母さんの味とか、お父さんの味とか独特のものがあってそれが非常にたのしみでした。今でも嫁が泊りがけで里へ行った時、私が子供を育てた頃を作りますと、「よくお母さん、これを食べたっけ」と息子は四十くらいになってもそう申します。そういう点でも、インスタントは、夜食とか、おやつ程度のものにして一家団らん食べる時は、やはりお母さんの手のかかったもののほうが、子供達のためにいいんじゃないかと私は思ひます。

吉田 私は農家ではありませんが、農家では自分のところでできる野菜・たまご・牛乳を使って料理すれば、安く栄養もあるのに忙しいこと、作ったものをいくらでも多く売りたいために、かえって高いインスタント食品を買って、ほとんど手も加えないで食べているとありますが、そういう点、農家のかたから伺いたいと思ひます。

奈良 私達のところでは、インスタントは普通の食膳にはあまり使

磯野(リーダー) 再就職の問題、子供の問題ということ、あとでまた改めて、それを中心にとりあげてみたいと思ひますけれど、皆さんの話を伺って、お互に感じたことは、一家の暮らし方、家族の生活が最近非常に変わってきている。また以前は、家庭の中の男女の仕事の分野がきまっていたが、それが非常に変わってきている。その結果、主婦の仕事が今までやってきたこと以上にふえたから機械化をしなければならぬ、ということがあると同時に、機械化やインスタント食品などによって、ある点で主婦が何かのことに手を出すことができるような暇もできた。

しかし、インスタント食品や既製品などの問題で、インスタント食品より自分の手で作って子供達に食べさせたほうがいい。それが家庭の神髄だという考え方もありますし、またどうしても時間が足りないから、インスタント食品を使って、時間をりみ出した方がいい、という考えもあります。皆さんは、そのへんどうお考えですか。

佐藤 私の主人も男の子も、インスタントというのを嫌いして、頭からインスタントはまずいと思ひ込んでいますけれど、あれもちょっと加工すると見違えるほどおいしくなりますね。ポタージュのスープにちょっと手を加えましたら「インスタントかい」ときくので「いいえ」といって、「おいしい、おいしい」と満足して食べているんです。

北郷 うちでは夕食がいつも六時頃ですから、店を始めてからどうしても何か欲しくなります。それから作る気にもなりませんので、主人にもできるので、そういう時にはインスタントで間に合わせしております。

つておりません。婦人学級とか、グループ活動などでも、普及員の皆さんの指導の下に、栄養知識を得ているせいもあると、ほとんど買っている農家は少ないように感じます。

柳 農家では、わりに使わないらしいですね。

加藤 主婦農家で農閑期に出稼ぎに出るお母さんなどは、インスタントといつても、つくだに程度のもを箱で買ってきて、本当に味気ない食事をしてるのを見ると、そこに問題があると思ひます。私の家は仕事の分担ということで、嫁に家事一切をまかせてありますので、けっこう家で何か作ってくれています。

秋房 先程、東京のかたが、家庭の味ということをおっしゃいました。たけれど、私のところではウラの畑にネギを植えているんです。子供は今までネギが嫌いだっただけで「これはお母ちゃんを作ったのよ」というと、よく食べるようになったのをみて、やはり違ふのかなという感じがしています。

北川 農村ではほとんどインスタントを使っておりません。ただ子供が学校から帰ってきてお腹がすいた時など、自分で作るような場合もあります。それから私の問題ですが、インスタントを買う場合に、とても迷うわけです。ラーメンでもメーカーがたぐいありまして、スーパーマーケットなんかで買おうと安いの、古いんじゃないかという懸念もあります。どの食品についても、どのメーカーがいいか、どこの製品が優秀かということなど、勉強しないとわからなないので、大変困るわけです。

また農村の場合、プロパンガスを入れたり電化したりしても、ガス代や電気料がかかる。山村ですと、山にいくらでも燃料がある。それを使わないで、電気やガスに現金を出すということに厭

病になってきて、風呂場など改造しても自分の家にあるたき木を使うという傾向に少ずつ変わってきつつあるのじゃないか。

それからもう一つ主婦のレジャーの問題ですが、今までかまどの前で一時間も二時間もかかってごはんをたいていたのが、電気釜に変わり、また電気洗濯機も入りましたが、その余った暇をレジャーに使っているかというと、けっしてそうではなくて、ごはんをたいている間に屋根掃除や、洗濯している間にもみの手入れをするという具合で、話し合えば相当暇があるようになっていくけれど、現状は決して農村の主婦は暇ではない。それだけ余計に働かなければならないという矛盾を感じます。農休日にしても、一年くらいは守られますけれど、日がたつにつれて、自分達で定めたことを、自分達でこわしていくという繰返しというのが現状です。

磯野（リーダー） インスタント食品などは使い場所とか、使いかた、あるいは手間ははぶくという点ではいいけれど、その内容が栄養上、衛生上、問題だということもあると思いますが、このへんで特別オブザーバーの日本生活協同組合の竹井さんから、このように問題について、いろいろお考えになったり、調査などされたことについて伺いたいと思います。

竹井（特オブ） 東京の山の手に、去年の十月、主婦の力で一千万の金を集めて、スーパーの店を作ったわけです。私はその専務理事として従事しております。理事長も婦人で、理事十二名、全部家庭の主婦でございます。昭和二十一年から、小さな町の中の組織として、私連女の支える消費者の組織だから、大事につぶさないようにしようというわけでしたわけです。ところが、あちこちどんな身体にもちゃんと合うようにできていて、非常に安くてもある。ですからやはりあまり古い概念にとらわれて、インスタント品は心がこもらないという考えかたは捨てたほうがいいじゃないか。

ただ問題になるのは、メーカーがちょっと手を加えて、加工品だということと非常に高く売っているものがあります。そういうものは私達の目で見抜いて、これは自分のところで手を加えるほうが安いとか、これだけのお金を出して買おうに値するか、どうかを、よく見究めて選択したほうがいいのじゃないかと思えます。

磯野（リーダー） なかなか考えさせられる問題を提起して下さいと思います。たしかにインスタントを使うことによって、時間を節約して主婦がほかのことができるようになることはあります。ただその代りに、商品について消費者のほうからも監視して、注文を出していくという姿勢が必要だとつくづく感じました。ついでながら自分のことを申しますと、子供こそおろしませんけれど、仕事をもち、一人でやっておりまして、昨日も朝、洗濯をして台所を片付けて、ごはんをたいて、夕方五時までに出てきたわけです。私はおひる一人のときにはもっぱらインスタントを愛用して、できるだけお野菜なんかを加えて食べるようにしております。夜はできるだけ自分で作りたいと思っていますが、こっちは手を加えて作るために、あまり疲れると気が立って折角夫のためにと、思ってしまうので、帰ってきた夫に当たりちらすというよりなことになりまして困りますので、そのへんのところもよく秤にかけて何が一番いいかと考えて選んでいく必要があると思うわけでございます。

ちねスーパーができるし、デパートにゆけば何でもあるし、生活を守る運動といっても、小さな店に汚いものを並べていたのではとても役目が果たせないのじゃないかということから、それではひとつきれいな店を私達の力で持とうということで、みんなで金集めをして、三十五坪、二階を入れて七十坪で、生鮮食品・加工品・一般食品・衣料にいたるまでおいて消費者の組織として経営しております。経営者であり、また買う立場の消費者であるわけです。そういう時に、いまのインスタント食品の問題など、関心深く聞かせていただいたのですが、最近私は再認識したわけですね。主人は公務員で、家庭には女中もおりませんで、三人の子供を育て、孫もおります。そういう中で社会運動を続け、どんなに忙しくても主婦が手料理をこしらえて食べさせるのが温い家庭の雰囲気を作るものだという信念でやってきたのですけれど、最近になって、その考え方を改めざるを得なくなった。それと申しますのは、自分ばかりがそういうふうにして一生懸命信念を貫いて育てても、社会がどんどん変わってしまふ。お店ではインスタント品がどんどん売れるというところは、やはりそこに長所があり、一般の人に飲まれるものがあるのじゃないか。その長所は何かと思つて考えてみますと、時代が大量生産にどんどん進んできているわけです。そこで私達もインスタント製品のいいところは太いに吸収しながら、悪いところは補充して、上手に利用していくことが賢明な主婦じゃないかと考えるようになりました。

います。

いままでのお話を伺って、一方でインスタントや機械化によって昔のような手間はかからなくなった代りに、たしかに主婦の仕事がふえた。ことに子どもの問題ということが出て参ります。うっかりすると、女はやはり家庭に帰れ、家の中にいたほうがすべりゆくのだというように出てくる心配もあります。しかし、いきなり反論する前に、では、いったい、なぜ主婦や家庭をもっている人が、家事以外の仕事をしなければならぬのか、あるいはしたいのか、そのへんのところをもうちょっと突込んでみる必要があると思うのです。経済的な事情から、どうしても共稼ぎをせなくてはならないという場合には、もう少し夫の賃金がまともなものだったら、何も無理して共稼ぎをしないでもいいという人もあるし、また一方、経済的には外に出て働かなくてもいいが、家の中にばかりいては女性が伸びない、こういう両方の全然違った問題が、いま、まぜこぜになって論じられる場合が多いのです。ですから、なぜ妻の仕事が、ふえているのかということを見てみたらどうかと思うのです。

そこで家事・育児以外の仕事を、もし経済的な事情が許すならば、夫の収入がそんなに低くないならば、したくはない、あるいはしないで済ませればよいと思っているかたは、どのくらいいらっしゃるのでしょうか。

柳 氏は経済的な事情が許すならば田んぼの仕事はしたくないです。杉原 子供が幼稚園にいくまでは木当にしたいと思いましたが、子供の手が離れた今となれば仕事をもちてよかったと思えます。

吉田 私は一昨年の暮まで共稼ぎをしていました。共稼ぎをしなから、苦しい生活でしたけれど、子供ができてからはもう少し経済的に早くやめて子供の面倒をみたいと思っていたのです。そして、いろいろ子供の教育のことを考えた末、貧乏暮らしを承知で思い切って仕事をやめました。今は経済的には、どうにもならないくらい苦しいんですけど、お金で買えない何か、私達の家庭にあると思っております。しかし子供が大きくなって手がからなくなったら、やはり外に出て何かして生活にハリを持たせたいと思っております。

家徳 東京会議の時に、家を治めることを主とすべきか、自分の能力を生かすことを主とすべきか。女性の地位の向上のために消極的であってもいいものか。子供の養育のために自分の能力をおさえてよいものかとか、大変活発な意見が出ましたが、私はやはり子供がある場合は、どちらを主にするかということは考えさせられる問題だと思いました。

秋房 私は以前、幼稚園に勤めておりましたが、子供ができてすぐやめました。保育という仕事をしていた関係もあって、子供を自分の手で育てたいというのが一番の望みで、岩手のかたと同じように、貧乏承知でやめたのです。でも少し大きくなりますと、やはり働きたいと思うわけです。友達が「出ないか、出ないか」といってくるのですが、私はなんとか主人が元気に勤めている間は、家の中でできる仕事をしたいということで、いまの仕事始めたのです。

磯野（リーダー） さっき家徳さんがおっしゃいましたように、やはり女が家事・育児以外の仕事をもつということは、いろいろな幸福を守る第一の土台として必要だ。それだけではないが、経済的な基礎ができるということも無視してはならない。心がけだけで、家の中で仲良くしていればできるのだ。またそうするのが非常に美徳だと言われた戦前の考え方もありますけれど、産業化に伴って、私達の家庭もまた、その波をかぶらないではいられない。家庭の経済的な基礎が確立できるような社会の態勢、そういう方法をいろいろと私達も要求してゆかなければならないということ、だれも異存はないと思うわけです。その上で、飢えに追いまわされたのではなくて、女の人が社会に対してどういう貢献ができるかというところは、大いに考えなければならぬことだと思えます。その場合に、自分が社会に出て、共稼ぎという形で働くという道と、それから、お金が入らないが、社会的奉仕活動をする奉仕という古めかしくなりますが、この両方の面があるわけですね。まず、社会活動によって社会とつながる道があるということ、ちょっと考えてみたいと思います。何かの形でそういう社会活動に参加しているかたはどのくらいありますか。

（重松、杉山、北郷、加藤、北川、家徳、手をあげる）
磯野（リーダー） だいたい半分のかたが社会的な活動をしていらっしゃるわけですね。では、社会活動について、どういう道があるかとか、こういう組織をしたら大変によかったというよりな例を少しお話しになって下さい。

家徳 私は、昔は政治というものに全然無関心でしたが、私の住む新宿区で、区会議員が地域から出ないと何人にもできない。自分の地盤だけはいっしょけんめいやるけれども隣りまではなかなかできないということをつくづく見せられまして、どうしても地

意味をもつし、いろいろを面から考えられると思っております。この会議に出ていらっしゃるようなかたがたは、まあ慮られていらっしゃることも言えるわけですね。私達がここで考えなければならぬのは、私達だけのことじゃなくて、社会全体の女の人の進歩のことを考えますと、さっき吉田さんは、共稼ぎをしていた時代より、物質的には苦しいけれど、それを補うものがあるとおっしゃいました。吉田さんの場合には、ともかくやめられたわけですね。しかし、それは女性開放とか、職場進出というよりなことで以前の問題として、どうしても食糧のために女の人も朝から晩までガムシラに働かなければならないという状態がある。それをそのままにしておいていいものでしょうか。そういう点について、何かお考えになっていませんか。

吉田 私が勤めていたときに、一緒に勤めていた女の人で、御主人を亡くして、当時四つくらいの子の双児をかかえて勤めに知られたわけですね。はじめは保育所に入れていましたから五時まではよかったのですが、小学校になると保育所ではみてくれませんので、学校が午前中で終ると、勤め先の近所にきて道路で遊んでいるんです。そういうのをみると、小学校に入ってから放課後の保育所というものがあれば、共稼ぎのお母さん達も、女手一つで子供を育てているかたも、少しはらくになるんじゃないかと思えます。

磯野（リーダー） 今までのことを一応整理してみますと、女の人が経済的に仕事をもたなければならぬという状態はなんとかしなければならぬ。つまり生活ができるだけの賃金がどこでもとれるような態勢を作ることが、家庭の土台を作るのに絶対必要だ。それは農家でも、商家、中小企業でも、ともかく家族の

元から出さなければならぬことで、そのためにずいぶん努力いたしました。地域から議員を出しました。そして、まず、子供のために遊園地を作りたいと思いましたが、地域的にそういう空気があまりなかったのです。ところが、戦災で引越したままのあき地が百六十坪ばかりありましたので、貸していただきたくて交渉いたしました。そこは草ぼうぼうではえやかが出るし、夏は風紀を乱すようなところで、みんな困っておりました。町内で整地しようとしたら、とても町会費ではできないので、その議員を通じて区役所に話してもらったら、三年間借りられるなら設備をしてやるよということで、地主さんと交渉した結果、息子が家を建てるまで三年間貸してあげるということで、六十万かけて区役所が設備してくれました。ところがそれがあと一年ということになって、取りあげられたら、子供の遊び場がなくなってしまうと、区役所が地主さんのほうで売ってもいいということ、区で買っていたら永久に遊び場になりますと、大変喜んでおります。

磯野（リーダー） そういうことも、結局、女の人がただ家の中に引込んでいただけだったなら、そういうことはできなかったわけですね。

重松 私、ずっと以前から全園婦人会議に関心をもっておりまして地域の婦人会長をしておりました時に、二百人ばかりでこのテーマについて分科会をもったのです。いろいろな意見が出た中で、先年非常に小児麻疹が流行したことをとらえて、私達の地域で環境衛生上わるいところはないかという問題が出ました。そして市長さんにお会いして、一番非衛生的なところを一つ指名しました

ところ、それが建設課にいたり、地区の区長を通したりして実
を結びまして、いろいろの方面から協力していただいて、現在は
立派な道路や排水溝ができて、非常に良かったと喜んでおり
ます。

それからもう一つ、ごみの処理の問題ですが、ごみは市役所の
職員が処理するのですが、われものとか、缶類の処理について、
婦人団体が詰合って、ある一定の場所を決めましたところ、市役
所できりあげてくださって、衛生課から連絡委員が見えて、相談
の結果、われものなどを入れるために大きなドラム缶を各部落で
買っておいでくださいになりました。それが暫くすると、こぼれ
るほど入るわけですが、それを市役所で処理していただくわけだ
けれど、それがまた私達に返ってくるようにと市長さんにお願
いしてあるので、やがて形をかえて返ってくるのじゃないかと期待
しております。

磯野（リーダー） 家業とか、子供の世話などの手がぬけて、時間
ができた時に、いわゆる職場進出というのではなくて、婦人の社
会的に活動する場合は、いろいろあるし、またわれわれもそういう
時間ができた時に、する道を考えておいでいいたいんじゃないかと思
います。主婦連のかたがたは、長いこといろいろの方面にご活
躍をなさっていらっしゃると思いますので、その一端を……

菊地（特オプ） 主婦連合会は婦人団体が連合して、東京に本部を
おいて活動していますが、結局そのもとになるのは一つの団体で
あり、それはまた一人一人の主婦の寄り集まりです。それぞれ個
人の立場では、時間は一日二十四時間ですけれど、自分のゆとり
のある時間を割けば、三時間出せる人もあるし、三十分出せる

主婦連の試験室のかたが、ジョーヌの問題を学会で報告しまし
たが、消費者がそういうことをしたということは珍しいということ
で、学会でもずいぶん問題になりました。インスタント食品には
ソーセージなども農林規格、ジャスマークのついているものは一
応安心して買えるのですが、買う人は無関心なことが多いという
ことでございます。したがって私達はただ毛嫌いだけではなしに、
世の中の趨勢を知って、勉強してゆかなければならない。いくつ
になっても勉強ということが残っているものだ。きょうの皆さん
のお話を聞きながらつくづく感じました。

磯野（リーダー） ありがとうございます。主婦連のほうで長年
活動していらっしやるお話を伺いまして、私達消費者がもっとそ
ういうことに気をつけなければ、生産者はいい気になって、なるべ
く安いものを高く売るといことになるので、私達はそれをしょ
っ中監視していなければならぬ。また安心して買えるようにな
れば、それだけ時間も浮いてくるということになると思います。

そろそろ時間でございますので、後半はいよいよ難題に入るわ
けでございます。今までは産業化によってこういうような変化が
あったというところを見渡して参りましたが、こんどは、それでは
そのような産業化の影響をこうむった家庭の中で、どんな困った
ことがおきているか。それを二つに分けて、まず主婦が仕事をし
た場合に、仕事が多くなると、人間というものはとかく
いらいらしくなる。そこで婦人の社会的進出ということとは、
同時に家族に心理的な負担をかけることになる。一方、更に問題
をむずかしくすることは、家族というものは始めは生産の単位で
あって、人間は家族という集団に頼らなければ生きてゆかれない

人もあります。そういう時間をいかに利用するか、あるいは自分
の才能をいかに出すかということを考えて、あまり遠くなると、
なかなか集まらないので、まず地元で、そういう集まりの力をで
きるだけ大きくして、力強いものにしようじゃないかということ
に一番重きを置いております。そういうふうにして話し合いの場
を作りまして、その人それぞれの才能、時間を生かしてできるだ
け社会に奉仕する。社会というときと大きく違いますが、自分
以外のものにづくすという根本精神を培ってゆく。そのより集ま
りでの話し合いが昔情になり、要望になり、あるいは世の中にい
ろいろ訴えることになったりしているわけでございます。一人一
人の力というところが一番大事だということ、それから一人より
二人、二人より三人というふうな、小さな単位でもいいから組ん
で、だんだん大きくなる、というふうな方向でゆきたいというこ
とでございます。

それから、さきほどインスタントのお話しが出ましたが、イン
スタント食品は、好むと好まざるにかかわらず、ますます出てく
る状態にきていると思いますから、ただ毛嫌いをしないで、消費
者である主婦として質のよしあしを知っていかなければならぬ
と思います。このあいだ、ある主婦が、インスタントラーメンを
主婦連の試験室で調べてほしいといつて実物をもって来られまし
たが、私達の毎日の献立の中の食品には、防腐剤や着色剤や香料
など、七十種類くらいは添加物が製造過程に入れられているよう
な現状ですから、私たちは、そういうものが人体にどうい影響
を及ぼすかということについて、厚生省とか、都の衛生局に調査
をお願いしたり、また私達自身にも調べたわけです。つい最近、

った。ところがだんだん家庭がやっていた生産的機能が社会に移
されていって、人々は家族に頼らなくても、物質的な生活だけは
やってゆけるということになってまいりました。夫婦のことを考
えてみても、もとは夫に頼って家の中で暮らさなければ生存でき
なかった。ところが婦人の経済的な独立ができるようになり、独
立してゆこうとした場合の婦人の権利も守られるようになって参
りますと、ある点では昔より恩がしやすくなった。逆から申しま
すと、そういう外側からのタガがなくなったから、中側からの愛
情がしつかりしていなければ家庭はばらばらにこわれてしまう。
また家族の機能がだんだんと外に移されていって、いずれは家族
なんかいらなくなるのじゃないか、という意見さえ一時出たよう
なわけですが、人間の心についての研究が進んで参りますと、や
はり人間というものは、どこかで憩いの場を必要とする。ことに
近代社会のように刺激が強くなって参りますと、どこかで精神的
な安定を回復する場所がなければならぬ。更に子供の問題でも
昔は婦人が社会に出て働いて、子供は託児所で専門家が育てれば
婦人の開放と両立すると思われていた時代もありましたが、この
頃は、三才くらいの子供にはお母さんの密接な愛育が必要だとい
うことになって参りますと、進歩的とか保守的とかいう問題では
なく、子供に何が必要か、子供に本当に必要なものはどうしたら
与えられるかという現実をみつめた上で対策を考えてゆかなけれ
ばならないということになって、一時代よりも問題はもっと複雑
になってきたわけでございます。

まとめ申しますと、家族に期待されるものが、物質的な面で
はだんだん減ってきたが、精神的、心理的な面では非常に大きく

なってきた。それにもかかわらず女の自身が自分の仕事をもつ、その両方のシレンマというものが、非常に大きな問題として出てきている。そこを後半の時間にご一緒に考えてみたいと思います。問題が二つに分けてありますが、むしろ「母親の仕事と子供」というほうにより多く重点をおいていったらどうかと思います。

柳 はじめにお聞きしなければならぬ問題でしたが、生活のギリギリの線というか、これから先は主婦が働きに出なければならぬという線は、主婦のものの考え方、その家族の考えによってそれぞれ違うのじゃないかと思うのですけれど。

磯野(リーダー) それは、ことに子供の問題に関して、子供の小さいうちとか、大きくなってからとか、いうことじゃないですか。それから今の時代ということがありますね。それを決める基準は、まず家の中どのような影響が入ってくるかということが非常に重要でしよう。子供や主人を呼んだら来てまで外に出なくていいじゃないかということに關係してくるわけですね。

杉原 主婦が勤めに出るということは、主婦の健康状態にもよりますし、家族の構成にもよりますね。お隣りも勤めるから私もいくというんじゃないかと、自分が自主的に健康とか家族構成をみてから判断すべきじゃないかと思います。

磯野(リーダー) 結局、主婦の負担がどのくらい過重になるか、また過重になったものが家族の中にどう影響を及ぼすかというより個人個人のいろいろな事情によると思います。

杉原 このあいだも近所で、小学校二年を頭に三人の子供を持つお母さんが、食品工場にいらっていたのですが、過重になって胸がわるくなり、医者は入院しなければならぬというのですが、経済

います。

北郷 現在は人手不足で、人間が働きさえすればお金になるという条件にあります。だから、みな働いて、少しでもお金もうけして、家のためにしようと思ってるのですけれど、生活水準というのには、家族の幸福を考え主婦がそのけじめをどの程度をもってゆくかを決めて、それ以上のことは働かないほうがいいと思います。

森岡 私の義理の姉のことですけれど、結婚した当座は、兄の給料が足りないで、共稼ぎで先生をしていたのですが、小さい子供を保育所に預けたりして悪戦苦闘して恩給がつくまでやめたくないというって勤めていたが、恩給がついてもまだやめない。なぜやめないのかと姉に聞いてみると、私の生活から教員というものを除いたら、なんにも残らない。一生涯の仕事として、定年まで絶対この仕事を続けたいということなんです。そこでこれから若い人達が職業的訓練を積んだら、家庭に入ってしまう切れないだらうと思うのです。そういう意味で、裕福になっても働く人がだんだんふえてくるのじゃないかと思えます。

野中 私の近所に、共稼ぎをしている家二軒、共稼ぎをしていない家二軒、両方とも大体収入は同じくらいですが、朝も早いし、夜帰ってお掃除の暇もありませんし、子供さんの面倒をみて、どうも子供さんに落着きがありません。お母さんのいるほうのお子さんは、私達職前の目から見ると、お行儀もいいし、落着きがあります。そしてお母さんが自分で縫ったり、編んだり、結構きれいに暮らしています。そしてそのお母さん達のいうのには、働きに出れば、ずいぶん収入も得られるが、子どもの教育のために家

や家族構成から、どうしても入院できないので、自宅療養しているわけですが。こんなことになるくらいならどんなに貧しくても働けないほうがよかったなとみているのですけれど。

柳 私の近所を家庭をみると、切実に経済的な問題と取組んで働いている人はそのうちの半分くらいで、残りの半分は、いわゆる文化生活を営みたいとか、共稼ぎムードのほうというか、時流にまき込まれている。そして残りの少しばかりのかたは、家庭の複雑さから逃れるために勤めに出る。理由はいろいろあるが、主人にいわせると少しくらいもうけてきてくれなくても、家にいてキチンとしてくれたほうが、いいのだというかたもあるのです。加藤 いまのことの解決じゃないのですが、私の近くの四・五軒ですが、農家の主婦が農閑期に働きに出まして、朝晩のラッシュにはマイクロスプが、道を横切るのに大変なくらい通っていて、そのバスに乗るために三ヶ月ばかりのうちに働きに出ているお母さん三人が交通事故で亡くなられたのです。それが、経済的に本当に困って出たのかというのと、そうじゃないんです。このことなんかも事前に家族の人と本人とよく話し合ってみればよかったのじゃないかと考えておられます。

家徳 家を建てるために共稼ぎをするという家庭がかなりあるということですね。生活はギリギリでなくても、何か目的のためにお隣りがオルガンを買ったから、うちの子供にも買ってやるというので、お母さんが働くとかいう話を聞かして、文化生活のためかお母さんの健康のためか、子供への愛情のためか、疑問に思えます。もしお母さんの留守に、子供が怪我をするとか、不良化するとしたら、いっぺんにふっとんでしまうのじゃないかと思

あるのに、私はやはり子供をほったらかしては可愛想でとても出てゆけない、旦那さんも奥さんが家にいるのを望んでいるわけですから。そこで、主婦のやりかたで、共稼ぎをしないでもやってゆけるかたはやはり家庭にいて、お子さんをみてあげたほうが、お子さんのためにもよいのじゃないかと、私など古いせいか、そんなふうに思っています。

北川 私達のグループでの話し合いで、やはり家から解放されるということは、とてもたのしいという意見も出ております。また家事労働はいくら働いても、お金が目に見えて入らないけれど、外に働きに出れば、現金が入るので、ある程度自由にお金を使えるということ、それからやはり家事労働よりもむしろという意見が出ました。そういうふうに考えてみると、家事労働だけでは物足りない、何か周囲がみんな出ていると、自分も出たいし、家事労働というものの対して外に出て働く労働より、劣等感をもっているように感じられます。ですから家事労働というものを、もっと研究して、主婦の壁を高いものにして、個性を生かしたすばらしい家庭生活ができるということまで求めていく必要があるのじゃないかと思えます。

奈良 専業主婦の場合は、夏のうち働いて、農閑期には主人が出稼ぎに出るわけですが。その理由は、生活面でいくらかでもたしになるようにという考えもありますけれど、やはり農家の場合、姑さんや、兄弟がたくさんありますから、そういういざこざから抜け出したいという考えからだと思います。それと同じうつぶんを嫁である私達も持っているのに、主人だけが出稼ぎにいったら家が庭に残る。そして女はそれを忍耐強く我慢するということに私は

不満を感じているのです。この頃では二人で出稼ぎにいくという傾向が見られますけれど、私などの場合、百姓仕事が多いものですから、家にいて家事や農繁期の農作業の準備などしておりますが、いつでも両親と一緒に顔を合わせておりますと、そのうつぶんを、つい子供にはらしてしまふという結果になって、子供からなんでもうちのお母さんはこんなにおこつてばかりいるのかと批判を受けます。そんなうつぶんをはらすために、部落のみんなに呼びかけて、二十名のグループを作って活動しておりますが、そういう中에서도私と同じような考えをもっている人が多分にあるようです。

吉田 奈良さんのお話とは少し離れますけれど、さっきもなにか共稼ぎムードとおっしゃいましたが、共稼ぎしないでもいいような人まで出ていくということもありましたから、共稼ぎする、しないは自分の家庭の状況とか、個人の考え方に合わせてやればいいと思います。あまりあまりにふりまわされないので、自分の生活を見つめて、自分の家庭のペースでできるのが、一番いいと思うのです。

杉原 家の雑事から解放されたいし、お小遣いも欲しいという場合に、子どもが幼稚園にゆくようになったら、パートタイムというゆきかたもあると思います。私はその条件として、子どもが幼稚園にゆく時に一緒に行つて、子どもが帰る時には家に帰つてきて、家事をしながら、あるいは疲れて横になっていても、子どもと一緒に過ごす時間を少しでも余計にもったほうがいいと思います。

加藤 今までのお話を聞いておきますと、大人の側からの考えはか

まけていようでもやさしい心を失なわまい主婦のほりが家庭を幸せにできるのではないかと思います。

重松 最近、非行少年は中流家庭に多いということが言われますけれど、一例ですが、共稼ぎをしている相当年齢のかたで男のお子さんが一人あって、愛情のかわりに物質を与えて成長したので、結局、精神的に何か足りないものができて、ついに手がつけられなくなり、非常に困った状態になった例を見ておりますが、小さい時に物質で満足させて、成長するにしたがつて、その要求がだんだん大きくなっていく。そして共稼ぎくらの物質では補えないくらの額になってしまふということを大いに考えなければならぬと思います。

秋房 鳥取の大会の時にBGのかたから共稼ぎの問題が出まして、第三者からみた立場で、子供が生れると仕事を休むということでは、同性として被害を受けるのはこちらだということです。そして結局自分の人生観を確立して、どこに自分が重点をおくかということを考えて仕事をしてみたいということになったのです。家徳 東京会議の時に助言者の先生が、子どもの問題について、必しも一日中一しよにしているのが愛情の表われとはかり言えない。量より質ということもあるとおっしゃいました。愛情過剰というか側についているとさく勉強しなさいというよりも、こういうわけで働かなければならぬのだということ、子供に十分納得させて、一緒にいる時には、その留守の間の愛情もかけるという気持ちでいれば、決してわるい子どもはできないという話がありました。

杉原 どうしても託児所や他人に預けなければならぬ場合に、帰ってきた時には、やさしさときびしさが必要だと思ひます。帰っ

り多かったように思います。これは岐阜の地方会議で出た話ですが、戦前から共稼ぎをしていた中年のかたで、長男、次男に嫁をとる時に、息子さん達のいった言葉が「ぼくは共稼ぎの家内は絶対もらわない」ということだったそうです。そのお母さんは、戦前だったからお手伝いさんもおいて、子どもにも何と自由させた覚えはない、親の愛情も欠けないように、物質的にも十分みてやつたつもりだったけれど、そんなことを言われて、頭をガンとやられたような気がしたとおっしゃったのです。それでやはり、自分達大人の考えばかりでなくて、子供の考えも、その中に入れた、本当に家族で話し合つてみたいと思ひます。

佐藤 大阪の地方会議である主婦の発言で、皆さん現金収入を得るために働きにゆくと言われるけれど、家庭の主婦の家事労働ももっと重くみて欲しい。いまお手伝いさんを雇えば三度三度の食事付きで最低三千円、高いのは一万円も給料を出さなければならぬ。その代り主婦がやっているのだから、私は大いばりで家計費の中から一万円ポンともらいます。それでいけませんかと言われたのに対して、助言者の大阪大の先生が「その通りです。家事労働を卑下することはありません。皆さんも堂々と胸を張つて家事労働費をとられるようにするとうれしい。」ということ、会場からワアツと拍手がわいたのです。そして家事労働を完全にやり、家計を立派にマネージメントする価値ももう少し再認識していいのじゃないかという声、万智の拍手で認められたということ、お伝えしておきます。

丸山 愛情は、もはや言葉ではなくて生活だと思ひます。働くばかりで疲れ切つて家族から嫌われるようになってはおかしいで、な

てきて子供を一目見た時に、きょうはこの子にやさしさが足りなかったかな、それともきびしさが足りなかったかな、何か変ったことがないかなと、母親として感ずる知恵というか、英知というか、そういうものを養つてゆく必要があるのじゃないかと思ひます。

柳 共稼ぎされるのも、お母さんが働きに出られるのも、生活をゆたかにするためだと思ひます。そのゆたかな生活ということが何かいまのところ物質的な面にだけ片寄り過ぎて、精神的なものが欠けているような気がするのです。お母さんが働きに出られるために家庭生活とか、子供さんに対する小さな心使いがあるのか、なつてはいけな思ひます。

北郷 地方会議の時は、助言者の先生が全部男性で、五十才前後のかたでした。どうもいろいろお聞きすると、先生がたの本当の心は「婦人よ家庭に帰つて欲しい」ということらしいんです。それくらの年配の人だったら、給料も多いからやつてゆけるからいいと思ひますが、私達は一応反撥したんです。

奈良 農家の場合、どうしても子供の教育という面でおろそかになつていられると思ひます。私達は主婦であっても労働力であると考えられておりますし、またそのような状態に追いやられる現状です。雨降りて外に出られないような時は、子供と話をする機会もありますけれど、天気の良い日は、子供が学校に行く時の姿をみたくとがたいほどです。帰るのもいつ帰つてくるのか、子供が昼間どうして暮しているものやら、さっぱり見当が付きません。また零細農家の場合など、子供をかごに入れて田んぼの畦道に置いてひっくり返つたのも知らないで作業している、川に落ちたのも知らない

かったという悲劇もありますが、そんな場合、各地域に保育所があったらと思うのです。また学校から帰った子供達もそのような施設に入って、建物の中で遊ぶとか、宿題するとか、そういう設備が欲しいと思うのです。

磯野（リーダー） いろいろお話が出ましたが、お母さんが農家にしろ、商家にしろ家事のために忙しい。また共稼ぎのお母さんが家にいないという場合、子供は十分手がかけられない。しかし一方では、お母さんがあまり子供にかかりつきり、育児過剰になつていとも言われている状態がある。また一方では、母親も共稼ぎして社会に出て働いたほうがいいという意見もある。あるいはまた三つくらいまでは母親が家にいて欲しい。そういう点で、たとえば家にいて子供にかかりつきりになつているばかりがいいんじゃない。あるいはかきつきりになつているから悪いのだという意見、一方では三つくらいまでの子供がほおびっぱなしになつている。野中さんのおっしゃったように、共稼ぎの家の子供と、そうじゃない家の子供と比べてみると違いがある。たしかにお母さんが仕事をもつていて、プラスの面とマイナスの面というところがあると思うのです。今すぐここで、その結論のようなものは出てこないのですけれど、たとえば、どういふふりなことができれば、これは解決の道に向かうんじゃないかということ、少し皆で考えてみたらどうでしょうか。

森岡 地方会議で出たのですが、子どもを三人乳児院に預けておいたら、とても情緒の発達がおくれて苦労をなさったお母さんがいらつたのです。それは乳児院に預けっぱなしで、夜も連れ帰ってはいけないところだったらしいのです。六人子供

杉原 福井の会議で出たことですが、福井の商店街で、子供が帰ってきて親が面倒みられないために、あるときとなくお母さんが子どもを預けて、洗濯から靴下のつぎまでして下さるので、また今年頼まれる子どもがふえたという話があったのですけれど、やはり一人がみるということには限界がありますから、どうしてもたくさんのお腹のあるかたが積極的にそういうことをなすたら、幾分でもよくなるんじゃないかと思ひます。

北郷 これは私自身が考えているだけで、いつ実現されるかわかりませんが、私の店は子どものものばかり扱っておりまして、店が大きくなれば、二階でも三階でもビルに建てて、手のあいているお母さんをバートで雇って、子どもさんを預る場所を作れたらいいなと思ひているのですが……

秋房 保育士の資格のある人が市に登録しておけば、市を通して補助も出て安く預けられるそうですが、実際預った人の話によりますと、共稼ぎの人は、嫌がさっぱり出ていないので、よほど率仕的な精神に徹した人でないと、とてもつとまらないというのが実感だそうです。それから鳥取の児童会館に「どんぐり学級」というのがあるんです。これは学校の放課後子どもを預かることです。

重松 私のほうにも保育所はありますが、乳児を預ってくれるところが多かったのですが、今年から、共稼ぎに限り乳児を預かることになりました。乳児というのは案外世話がむずかしいもので、さつきおっしゃったときとくなくかたでも、乳児の世話はむずかしいと思うのです。共稼ぎのかたにお願いしたいことは、もっと謙虚な気持ちになつていただきたいということです。共稼ぎをしている

がいて、預けたほうの三人と預けなかったほうの三人と全然性格が違つて苦労したという話があったのです。そんなままでして働かなければならぬお母さんがいた場合に、地域で小さな施設でもいいから暇なお母さんがそういう子供を二、三人でも集めてみてくださるようなものができたら、共稼ぎもわりにもムースにゆくのじゃないかと思うのです。

秋房 個人のことですけれど、私はそういうことを少し勉強していたものですから、なるべく愛情過多にならないように努力したつもりでも、上の子はかかりつきりだったのですが、下の子の時は仕事をしながら子どもをみていました。男の子と女の子の差があるかも知れないけれど、仕事しながら育った下の子の方が、自分一人で工夫して週末などで遊ぶより気がするのです。

柳 早速の地方会議でも、森岡さんが言われたように、経済的にも時間的にもゆとりのある方が、お子さんを集めて、昼間だけでも面倒をみてあげるような方法はないものだろうかという話が出ました。

杉山 私、農家はとかく作業に追われがちですから、この労働負担を軽減するために、共同作業をとり入れていったらいいと思ひます。

磯野（リーダー） 共同作業をとり入れて、お母さんの手がいまほどからなくなれば、それだけ子どものほりに手がまわるといふことですね。さきほど柳さんがお出しになったのは、まず子どもを預けるということでしたが、これは仕事の面で自分一人の工夫や心がけだけでなく、みんなが共同して仕事を軽減できないかというところで、二つの問題がでてきたわけですね。

が故に、自分達は経済的にゆたかであっても、社会的に迷惑をかけている面が多い。たとえば隣組の月当番とか、お互いに助け合つて地区の仕事をしななければならぬのにやれないとか、また子どもをほおびっぱなしで迷惑をかけているとか、いろいろあります。それから、いま私の夢として考えているのは、学童保育ということですね。そのための施設として自分の家を開放するということは、なまやさしいことではないので、市などにお願ひして、そういう施設を作ってもらえば婦人はある程度安心して働けるんじゃないかと思ひます。

森岡 そういうキチンとした施設になった場合、保育士の資格がいると思ひます。しかしいま保育士の資格をもった人が少ないので、子供の養育のベテランの中年の婦人を二、三ヶ月でも養成して、公民館あたりを開放していただけたら、どんなに安心して働けるかと思ひます。

北川 こういう問題は、やはり地域の補助や制度にまたなければできないと思ひます。それからやはり自分自身の生活を見つめて、何も子どもは母親だけのものではなくて主人と共同のものであるから、家事労働のない主人には時間的にある程度余裕があると思ひますので、何らかの形で主人にも子どもの養育を手伝ってもらふことを考えると同時に、やはり結婚と同時に、家族計画というものも含めて、経済的な裏付けと、子どもの養育の問題について考へておく必要があると思ひます。自分達夫婦が知恵をしぼって、それでも足りないところは、地域的な問題などと併行して考へてゆくより仕方がないと思ひます。

佐藤 地方会議の時、傍聴のかたからの発言で、毎年地方会議に出

席するが、その度下手をつなぎました。社会とつながりを持ちましょうという結論だけで、結局、具体的にどういうふうにするかは手をつなげるのか、それを教えて下さいということだったのです。そして、助産者の先生が、ちよいといまの問題で、近所に共済会のかたがあつたりした場合に資格とかなんとかが大きなことを考えないで、近所で気の毒だから、お子さんを連れてきて、自分の子どもと同じように面倒をみてあげるとか、そういう小さなことでも、立派に社会とつながり、婦人が手をつなぐ系になるのだからという解決を与えられました。

家徳 それは大変いいことですけれど、なかなかできないことじゃないかと思ひます。結局、そんなギリギリの線で働かなければいかんお母さんのために公立の安く預けられる保育所が望ましいという事です。現在ある保育所の費用と、そのお母さんの収入とのアンバランスが問題になっておりました。それから育児手当のようなものが支給される制度になればいいのじゃないか。また大きな会社にはあるようですが、職場の中に働くお母さん達のために子供を保育する場所を設けることが望ましいという事が出ました。

加藤 佐藤さんのお話に関連して言いますが、本家に全然子どもがなくて、よそのお子さんを見る預るといふことは、大変なことだと思ひます。私も孫をもつて感ずるのですが、自分の子どもを育てる時には、案外気を使わなかったんですけれど、孫となると心配になります。ましてやよそのお子さんといふのは、本心に心配です。その点、うちの孫と同年で、幼稚園にいっているお子さんが、昨年御主人が交通事故でなくなつて未亡人になつて、どうし

自分の子どもと一緒に保育をしてあげれば捕いができるというふうに、いろいろと出て参りました。次に、家徳さんから育児手当のことが出ましたが、はじめて日本で児童手当といふものが必要であるといふことが取り上げられてきましたので、こういう面からも少し考えてみる必要があると思ひます。

個人や隣り近所ですらあるかといふ身近な問題と、もう一つは、根本的にそういう問題がおきないでも済むような態勢を国の政策として取り上げてもらえたら、この問題に大いに役立つと思ひますので、少し上のほうからの方法を考えてみたかどうか。

吉田 これも本場に夢物語ですが、保育所に預けるのも結構ですが、二、三才までが非常に大事な時期だといふことならば、せめて三才になるまで、勤め先の籍を抜かないで休職の形にでもしておいてもらつて、もしできればその期間、五割ほどの賃金を出してもらつて子どもの三才までの基礎をこしらえて、それからまた、もとの職場にもどれるようになればいいかと考えていたのですけれど。

磯野（リーダー） 今ある産休といふのをずっとのばしていつて、その間有給という形ができれば、ということですね。

北郷 昨年一年生の教科書無償が実施されましたね。一人の本代は知れていますが、国全体とすると、大きなお金だと思ひます。しかしこれを本場に喜んでお母さんは少ないのじゃないか。子ども自身も本に對して、ただで頂けるのだといふことで、あまり愛着を感じないし、むしろそういうお金をほかの何かにまわしたいのじゃないかと思ひます。

ても働かなければならないというので、昼間保育園に預けて、帰つてくると、うちの子とも同じように、お母さんが帰るまで家で遊んでおります。夜、お母さんの帰りが遅い時は、夕食を一緒に食べさせて待たせるということ、うちに同じような子どもがある時はかえつてみてあげるのになんか思ひます。

磯野（リーダー） 子どもの保育の問題をどうしたらいいかという問題に對して、全体的な解決ではありせんけれど、いろいろ方法があるといふことが出されたわけです。まずこのへんで整理してみると、一つには、子ども一人一人に乳幼児を小さく子どもを個人に預けるという事は、預かるほうも大変だし、いろいろな点で、あとになつて子どもの性格形成上に問題があるといふこと、そうすると共済会をどうしてもしなればならないといふ経済的な事情をまずなんとかして退治しなければならぬ。食べのために子どもの精神が犠牲にされるというようなことは、まずみんなをなくさなければならぬ。それは個人的な問題といふよりも、社会全体で、つまり、みんなが幸福な人間らしい暮らしのできるようにするといふ点を、社会全体の問題として考えなければならぬといふことが一つ。

その次には、そういうこともそれは一朝一夕にできることではないから、現在、どうしても働かなければならぬかたのために、まずちゃんとした保育所が施設としてできればいい。それができない場合には、それができるための一つの原動力として、地域で自発的に始めた私設保育所というか、奉仕的な形で、手のあいた人がまわりのお子さんの世話をする。またそこまですべてなくても、よその子だからというのではなくて、こちらが困る場合には、

磯野（リーダー） そのお金を本の予算から出すかどうかは別として、ともかく国の予算の中から、そのくらいとれるのなら、国が育児手当といふものを出してくれば、会社が出さなくてもいいといふことですね。

重松 教科書無償は大変いいことだけれど、それよりもっと違った方面にしたいだきたいことがあるのじゃないかと思ひます。たとえば、産休のあと職場に出たら、すぐ健康なかと同じように働かなければならぬ。そういうことを考えて、やはり婦人の特性と同時に、婦人のもっとも重要な育児といふ任務を考へていただいて、育児手当という形で、ある一定の期間だけは、母性保護という面で、さきほど言われた夢物語を実現すべく、婦人は声を大にして、その筋に要求したいだらうと思ひます。

佐藤 地方会議で助産者の先生からのお話ですと、赤ちゃんを母親から離すのに、医学的に最低の線が三ヶ月だそうなんです。したがって望ましいことは、三ヶ月に有給でまるまる休ませていただく。西欧諸国の社会保障の進んだ国は六ヶ月間は一日に四時間、一年は一日に六時間くらいのパートタイムで働いてよろしい、給料は本来の通りといふことになっているそうです。日本でも税金の使用をどうと考へたら、こういう面にもっとふりむけられるのじゃないか。次代の国民を作るためには、もっと犠牲をはらつてほしいのじゃないかと思ひます。

磯野（リーダー） いま佐藤さんもおっしゃいましたけれど、英国では、子どもが十八才になるまで、国から直接、日本の育児手当に当たるものが、お母さんに郵便局を通じて払われるわけです。夫の給料以外に、お母さん自身の手で直接払われるというよりな

ところもございます。まだ世界で、子どもが三才になるまで育児休暇を出しているところとは、残念ながらありませんが、そういう要求はほりほりの国の婦人達からも出ておりますし、いわゆる社会主義の国などでも、一時は託児所ですべてを解決したというふうに言われておりましたけれど、昨年の夏チエコの学者に会いまして聞きましたら「いやとんでもない、解決どころか、社会主義の国のほうでも、子供の大切さ、家庭の大切さというものが再認識されてきて、やはりそちらの方向にならっている」ということを聞いて、まあ私は心強く思ったわけでござります。やはり三才くらいまで、お母さんが全部休まないにしてもパートタイムなどで、育児に力を入れられないものか。教員の場合は、産休補助教員というものがあられるわけですが、ほかの仕事でも、何かそういうことが考えられないでしょうか。

重松 専売公社には保育所の施設があって、非常に働きやすいわけですね。

杉原 サラリーマンで月給をもらっているかたはいいんですが、私の地区は漁師町で、御主人は漁師で、奥さんが魚を売りに行くというのが多いのです。あとはニコヨンにゆく人です。そういう場合には、月給じゃなくて、その日の稼ぎ高とか、日給というところになっているので、休んだら全然収入がない。そういうところの問題もひとつ考えてほしいと思うのですけれど。

磯野(リーダー) いまのような場合でも、育児手当ということではあるわけですね。それは農業のほうにも関係してくると思うのですが、商家や農業のように休むわけにはゆかない仕事の場合には、どうしたらいいでしょうか。さきほど姑さんがいるから

間に見ゆかれるような、それとも小さな子供だけじゃなくて、幼稚園から帰った子供もみてもらえるような場所が欲しいと言っていました。

奈良 農村ではお姑さんに子供を預けて行くわけですが、母親としてはおばあちゃんにしたいという考えがあります。せがまれると要求に応じてお金を使わしてしまったりするんです。ですから幼児教育ばかりでなく、おばあちゃん教育もしていただきたいと思っています。

家徳 森岡さんのおっしゃったことは、仕事を一度やめてからまた復帰することがむずかしいということにつながっているのじゃないかと思えます。ですから育児する間やめても、あとの復帰がしやすいという態勢を進めてもらうということが先決じゃないでしょうか。

加藤 さきほど奈良さんがおっしゃったことに関連して、やはり農家では、おばあちゃんの理解が非常に大事だと思えます。私はおばあちゃんの立場で、三才児までは母親が全責任を負うということとを、うちのモットーにしております。それは自分の家だけでなく、近所隣りもそうであって欲しいと思ひまして、おばあちゃん教育をするというのは集めてくれないから、民謡教室というのをやっております。三十七、八歳の人から、七十近くのおばあちゃんまで、私の部落は百戸足らずですが、四十人以上が集って、三年半ほど続けております。

磯野(リーダー) 加藤さんの場合は、お子さんをお母さんにお預けになって、おばあさんが農業の中心になっておられるわけですね。

まだやってゆけるということもありましたね。それはまたプラスとマイナスの面があると思ひますけれど、サラリーマンの場合は、夢物語にしろ、とにかく道はあるのじゃないかということが出てきたわけですが、それが当てはまらない場合は……

重松 勤めていない人でも、やはり育児はしているんですから、育児をしていない場合は誰と同じじゃないかと思ひます。

杉原 ニコヨン、といっても職業安定所を通じてなくて、建設業の人が自動車で迎えにくるんです。たいてい子供を一日いくらで年寄りなんか預けて行くんです。

磯野(リーダー) これも夢物語かも知れませんが、一軒だけではなく、同じような家が一つしよになつて、毎日子供を代り番にみあうとか、魚を売りに行くのをいままでは一人でかついで行つたのを、オートバイとか、そういう方法はどうなんでしょうか。

秋房 私の里は農業ですが、農繁期に季節託児所を婦人の手でやっています。私もその手伝いに出了たことがあるのですけれど、非農家のかたが出来るんです。ですから漁業のほうでも、手をつないで、そういう時に助け合うという方法が考えられると思います。

森岡 地方会議で出た問題ですが、電話局などは共稼ぎの人が七〇%くらいいて、みな子供の問題で苦労していますが、ばらばらのために、ずいぶんお金がかかって、共稼ぎをしても子供が小さい時はプラス、マイナス・ゼロになるくらいお金がかかる。結局将来どうしても共稼ぎを続けなければならぬ立場の人は、結婚と同時に子供が生まれるということを考えてみんなて横立てたりして、一つの施設を作って、みんなて人を預りとか、職場ごとか、あるいは小さな町の単位ごとに施設を作って、働きながら休み時

加藤 とさきほど嫁が見かねて「お母さん仕事を代りましょうか」といつてくれるんですが、私は子どもを見ながら編物も家事もとてもできないから、いまのうちは自分には外の仕事のほうが余計やれるということ……

重松 さきほど秋田のかたから出た「おばあちゃんにしたい」というのは、若いのかたの望みだろうと思ひます。でも最近は何命かのびずして、私もすでにおばあちゃんの域に達しておりますけれど、自分ではおばあちゃんとは思っていないし、やはり私達も社会のお役に立ちたいという気持ちがあるわけです。そこで若い人たも謙虚な気持ちで、育児のために婦人という立場から手を握って自分の家の孫だけでなく率仕的にできる限りのことをしていったら、嫁と姑という関係がだんだんやわらかくなってゆき、老人もまた大切がられるようになるのではないかと思います。私はとくに学齡児童の保育ということをおんでいるわけです。

磯野(リーダー) さきほど吉田さんから、職場の籍は抜かないで休みということができたというところもおっしゃいましたが、これは、われわれ大いに希望し、あるいは要求しなければならぬことと思ひます。それからもう一つ、たとえやめても再就職がすぐでければということですね。どなたか、中年の婦人の再就職について書いておられましたね。

杉原 私は理想としては、下の子供が学校に行くまで家でみてやりまして、その間に教育を身につける。先生だったら児童心理の勉強をするとか、店員さんなら商品知識の勉強をなさるとか、富の増殖でなくて精神面の蓄積を、その間にやっておいて再就職すれば、能率が下がるということはないのではないかと書いて書き

ました。

丸山 商店など、勤め先が婦人のために共済組合のようなものを作
って、産休手当とか、児童手当などを十分にしたらいいだろうと
思います。

秋房 さつき杉原さんから、休んでいる間に精神的な修養を重ねて
おくとおっしゃったのですけれど、復職しようとしても、その空
間というのは、いま時代が早いテンポで流れておりますから、
私なんか、ぜんぜん自信がないのです。ですから、なんらかの教
育機関を国で作っていただいて、二年、そこで勉強してから職場
にかえるようにすれば、今までの経験も活かせるし、人間的な経
験も活かせると思うのですが。

北郷 私の店では子供物を扱っているので、年輩のかたのほうがい
いかと思つて四十くらいの人を雇ったことがありますが、現在は
娘さんばかりです。というのは、年輩の人が来られると、古くさ
いほうにもつてゆきますので、今までの娘さんが、だんだん働
く意欲をなくしてしまつて混乱します。二、三カ月の間でし
たけれど、結局は年輩のかたがやめたような状態になりました。

商品売場の場合は、年輩の人は経験者ですが、お客さんが年輩の
人に、主人とまちがえて、奥さん奥さんというので、若い人が自
分の売場がなくなつていやだということなんです。

磯野（リーダー） いろいろ夢物語が出て参りましたが、それらは
個人的なことでは解決できない。われわれがたがしたいなとい
つていただけでは、駄目ですね。英国などで、社会保険が非常に進
んでいて、うらやましいということを感じますが、よく聞いてみ
ると、それは主に婦人の団体が非常に大きな活躍をして、法律を

手で運営して、合理的にやっています。日本でも皆さんあまりご
存知ないと思いますが、東京にも協同組合の組織で託児所や幼児
の保育所をもっているところがあります。個人がお金を出し合つ
てやるのは困難ですが、働いているかたがたが積立てている厚生
年金が膨大なものになつていて、それを国がただ管理して使
わないということじゃなくて労働者に還元せよということ、そ
の還元融資が受けられるようになった。その使いみちの対象に保
育所がのぼっているわけです。そういうことは、民間の場合でも
いろいろ考慮されているものもあるということをお伝えしておき
ます。

磯野（リーダー） そろそろ五時が近くなりましたが、育児の問題、
とくに三歳児までをどうするかということが、きよの中心にな
りましたけれど、やはり児童心理学からみしても、三歳くらい
までのお母さんと子どもの関係をしっかりとておく、そのあと
の問題は、わりあいやりやすい。ですから、最初の段階をしっか
りして、その後は保育所などの子どもの集団の中に入れて、ある
時間を過ごさせた方が、子どものためにもいい。あまり家の中ば
かり入れておくと、お母さんに頼り過ぎてしまうということにな
ります。子どもにも集団生活をさせている間に、お母さんがベースに
応じて、だんだんパートタイムをふやしてゆく。離れ子のような
問題でも、集団的な少年団のようなもので、安心して子どもが学
校がひけたあと遊んでいられるようにする。さらにこういう問題
も大もとの上から政治的にわれわれの権利を使ってやってく。
さつきに理想的なものにもつていけないとしてもできるもので
やっています、この次にもう少し根本的な解決をする方向にもつて

作らせて、議案を通過させて、権利を獲得したという歴史をもつ
ています。そこで私達も参政権をもっているのですから、そうい
う面でもっとやる道があるのじゃないかと思ひます。ちようど有
権者同盟の三本さんがおいでになりますので、その点について伺
つてみましょう。

三本（特オブ） 有権者同盟では、婦人の幸せのために、一人一人
の身近な問題を、ただ一人ではとても解決できないことを、政
治に反映させて、国の施策から地方自治体の仕事としてとりあげ
てもらふための活動をしております。婦人の問題をとりあげても
らいますには、やはり議員さんに働きかけるということが必要で
す。法律を作るにしても、婦人の議員さんが婦人の問題をよく理
解して下さると思ひますので、婦人議員をもっと多く出すように
したいという運動もいたしているわけです。とにかく身近な問
題について、婦人の声を結集して、それを国の政策としてとりあ
げていただくように働きかけると同時に、一方では、さつき磯野
先生がおっしゃいましたように、高いほうから力をかけてゆく
ということも婦人有権者同盟としてやっているわけでございます。
竹井（特オブ） 保育所の問題について、お話が出ましたけれど、
私、おととしソビエトを視察した時に、もちろんあつたという国で
から、国の設備として保育所をもっておりますけれど、協同組合
組織で、生産から消費まで、全部本当に民衆の手で運営されてい
る大きな組織でございまして、事業をやつて余剰金がでますと、
その何割かは国へ税金として納め、残った分は会員の意思によつ
て何に使つてもいいことになっており、総会決定で、幼児の施
設に使うこともできるので、いろいろな育児施設を作つて民衆の

いくというような、立体的なやり方でいろいろな面からやつてい
く。きよう出たお話し合いを考え合せて、今後ますますこれを
発展させていきましたら、少しは解決に近づくのじゃないかと
思ひます。きようは、子どものほうを中心になつて、夫のほうは
少しおさなりのなりましたけれど、明日は、夫のことで、とくに
共稼ぎ夫婦の問題も含めて、また子どもが成長した後での職
場復帰の問題についても、どういう道があるか、また老後の保障
の問題、ことに工業化が進みまして、小家族の形になりますと、
やはり老後の問題が非常に大きな問題になります。それからもう
一つ考へていただきたいのは、新民法の中で老後の問題がどうい
うふうに扱われているか、ということでございます。

ちようど五時になりましたので、これで終りたいと思ひます。

（五時閉会）

第一部 会

第二日午前の部

午前十時再会

に主人が債権者やら労働組合にこづきまわされて、肉体的にも、精神的にもクタクタになっておりましたので、これではいけないと思って、私が第一線に出て働くことにしまして、小さをささやかな商売でしたが、やり出したわけです。その日のパンを得るために……。その時でも主人が台所のしごとをしてくれろというとは一切なかったのです。これはやきなおさないとなおらないと自分でも言っておりますし、私も諦めていました。それはいつも疑問に思っていたのですが、しかたがないんです。

磯野（リーダー） やはり個人的な性格やいろいろとあるにしても、ご主人がご主人の仕事を十分なさるために、ある程度奥さんが家で、その態勢を備えてあげることが必要なんじゃないかというご意見ですね。そういう点についてどう思いますか。

重松 いまの若い人は、その点、いま佐藤さんのご意見とはまったく反対の現象がおきているように思います。私の近所で共稼ぎをしているかたは、ご主人が暇な時にはお手伝いをしてる状態をみかけていますから、私共の年代の夫のありかたとは、ずいぶん違ってきていると眺めております。

北郷 私のところは、どうしても主婦が主にならなければいけない商売ですが、こちらができない時は、主人も手伝ってくれます。主人も小さい時から商家に育っておりますので、なんでも自分のことは自分でするという主義ですので、なんとも思わないで、ふとんのあげおろしなど全部やってくれております。

北川 昔から家事労働は全部女がするものだ決っておりますので、それを前提にしてものを考えておりますが、そういう考え方を全部御破算にして、改めて家事労働をどういうふうにして分担

磯野（リーダー） きのうは皆さんの御協力で、ことに後半は大変お話しが進みましたけれど、もう少し反対の意見が出てもいいんじゃないかという気も致しました。きょうは、こーいりみかたもあるけれど、また、こっちのほうからは、こーいりみかたもあるのじゃないかというふうに、少し議論を高めてみたらどうかと思うのです。

きのうは特に子供の問題で、せめて子供の小さい時はなんとかお母さんがみてやれるような形がでないかという点で、いろいろ考えたわけです。しかし、この部会では、だいたい、お母さんができれば家にいたほうがいいのじゃないかということが出てきましたけれど、何かの部会では、それに対して、お母さんが家庭に入ってしまったらということも困るのじゃないか。ことに女性の地位の向上とか、解放という点で、その進展を阻む。特に近頃、やはりお母さん、あるいは妻は、家庭にいたほうがいいというふうなことも出てきておりますので、そのへんのところで、少し違ったご意見を出して、討論してみたらと思います。

まず子供にとってお母さんが大事だということは、誰も異論はないと思いますが、それに対して、お母さんがどういふ姿勢で対したらいいかというところから考えてみたらどうでしょう。佐藤さんでしたか。ご主人にはなるべく家のことはわずらわしたくないというようなことを書いていらっしやいましたね。やはりそれは商家の場合とか、お家で企業をしていらっしやるとか、いう場合には、普通のサラリーマンとは同じには言えないんですけれど、そのへんから……。

佐藤 私の場合は、今から十年程前に会社が倒産しました。その時

したらいいかということを考えてみる必要があると思うのです。

たとえば料理にしても、男の方のほうは、コックさんになると一流といわれますし、電気洗濯機の洗濯なども男の方のほうがかえって喜んでするという傾向もありますので、もう一度考えなおしてみよう必要があると、私は思うのです。そうするためには、主婦はやはりもっとほかの面に視野を広げ、新しい生活態度と生活技術を身につけなければならぬ。今こそ大いに自信ある女性として立上る時期に直面しているんじゃないかと思っています。

冢田 いまの北川さんのお話は、たいへん理想的ですが、どうしても共稼ぎをしなければならぬ家庭で、子供を保育所に預ける場合には、どうしても送り迎えなどには、ご主人の協力を得なければならぬ。そのしわ寄せがご主人にくるということは止むをえないことだと思えます。

森岡 家事の雑務に対しても夫はある程度協力的な態度をとってほしいと思いますが、私達の場合は、積極的に頼めないで、それ以外のことでぜひ協力して欲しいのは、子供の教育とか、子供の顔の面で、これからは夫もぜひ負担すべきだと思っております。宿題とか、顔とか、子供の身のまわりの世話というか、情熱的な面でも父親の力というものは、とても必要だと思えます。

秋房 夫が協力するというのは、職業によっても違うと思います。私の家の場合は、紡績機械や工作機械を作っているのですけれど、私は機械のほうは全然わかりませんし、子供の教育についても、私は園庭などには興味をもっていて、本を読んだりするのは得意ですが、機械のほうは主人が帰って、子供に自分にかういふものを作っているのだということを話しますと、子供も、フーンお父

さんはえらいナといって、おもちゃなど買ってきても、機械のこととは主人に聞いたりしています。やはり子供には、それぞれの必要に応じて、ちょっとした時間でも、そういう具合に指導したらどうでしょうか。

柳 農家にせよ、商家にせよ、サラリーマンの家庭にせよ、それぞれの家には個性がありますから、その個性を活かすために、昔通りの家事の分担、女性はお炊事・育児、男の人は外の仕事というゆきかたではないかと思うのです。それで子供は子供なりに、お年寄りはお年寄りなりに、それぞれ仕事を再配分して、責任をもたせるといのが、お姑さんの立場を安定させるとい意味でも、いいのじゃないかと思っています。

加藤 各人に責任をもたせるといことを、私もやっています。その人の都合のわるい時や、自分の手のあいてる時は互いに手伝い合うのがいいと思います。たとえば私の主人と長男は山で大きな木を伐採して、材木にして部会に出しています。今は人手不足が深刻ですから、私の手のあいてる限りは出ていって帳面をつけたら、木の石数を出すとか、そろばんなどを手伝っています。また高松二年の娘は、家にいる時は炊事を、責任は嫁ですけれど、嫁に聞いて手伝いをしてるわけです。

丸山 私共では、はじめは夫の仕事、妻の仕事と区別してありましたが、だんだん店の都合で、役割に融通性が出てきました。夫も簡単な食事くらいは作ってくれますし、私のほうが成績のよい場合は、会合にも出かけます。

磯野(リーダー) だいたい今まで出たところでは、以前のような女の仕事と男の仕事という分担のしきりがくずれてきて、生活全

面をわけてやるという傾向が出てきて、少なくなるといっていいかもしれません。でも、現実に行なわれている。戦後しばらくは、夫が協力しないとか、できないということが多かったのが、やはり戦後二十年近くたつと、それが実現されてきたといふことは、大変に心強いことだと思います。しかし一方で、ご主人がお勤めのかたは、朝出かけて、夕方帰っていらつしやる。そうすると大変に忙しかたが、それ以上いろいろなことを頼めないといふことを聞きますが、そういうご経験がありましたら……。

吉田 私の所では、いまは私が家にいるからいいのですけれど、共働きをしている時は、お互いにどっちがどっちの仕事なんていってないで、お茶碗洗うのでも、食事の仕度でも、おむつ洗うのでも、手のあいたほうがやるということをやっています。退めてからは、私が家にいるという気持ちがあるせいか、主人のほうも手を出さなくなりましたけれど、ちよっと力のいる仕事とか、ふとんのあげおろしなどは、だまっていなくてもごく普通にやってくれてるんです。しかし仕事の分担ということでは、私個人の考えでは、やはり外で働いて帰ってくる人には、家でらくにさせたいという気持ちが大いにあるわけです。主人と同じ職場で同じ仕事をしていて働く様子を実際によく知っているせいかもしれませんけれど、こないし、本当に寝るだけなんです。日曜も月に二回くらいしかないし、その時は寝てばかりいて、なんにもしないんです。主人の仕事は私に全然わかりませんし、向こうも女の仕事はあまりわかりませんので、心のつながりというか、私どもでは共通の話題

と云うのは、子供の問題くらいしかありません。そこで裏に煙を始めたのです。みんなと同じことをして、一本の花が咲いたというようになささいなことでもいいから同じ話題が欲しいということから始めたのですが、それがとってもいいんです。何か一つでもいいから家中で共通の話題をもつということは必要だと思っています。

佐藤 私も、主人のきびしい生活の姿をいつも現実に見て知っていますし、また、近所の若い主人が、洗濯をどしているのを見て、うらやましいとも思うのですが、馴れないことをむりにさせて、ミスばかりしているのではエネルギーの損失ですから、それより優秀な技術のほうで自分の能力を活かすほうが、国家のためにもいいのじゃないかと思ひますので、それ以上手伝って下さいということを言わないうです。

北川 さきほどからいろいろとお話を伺って、全部それが真実だと信じているのですけれど、やはり私は独身ですから、男性に対しては冷淡だと言われるのですけれど、愛情というものの考え方が、愛情ということと、それから旦那様を甘やかす、家事労働に対して甘くみている。そういう点がいづれに思えるのです。それから奥様がたが、いかに家事労働を時間的・精神的にやっているかという二つの問題点をかみ合わせて考えてみる時に、プラス、マイナス、ゼロになつてしまふのではないかと疑問が絶えなわけですね。それで、愛情と生活技術というものの調和ということとを、もう少し深く分析してみる必要があるのじゃないかと、いつも考えております。

杉山 私のところは兼業農家でございまして、主人はサラリーマンでございますけれど、普段疲れて帰ってきた時は、兼業農家であ

まり忙しくないもので、主人を休ませるわけなんです。すると子供が「お父ちゃんゴロゴロしておて……」というんです。それで私はいつも「お父ちゃん疲れて帰ってきたのだから、父親のまねはしなさいな」といふ。一つの仕事をもっているのだから……」と云う開かせているんですが、やはり農繁期になると、朝は一時間くらい早く起きて仕事をしてくれまして、帰ってからも、一時間くらい休んで、すぐみんなで協力体制をとってくださるから、その意味でも普段は、精神的衛生上も休ませたほうがよいと思ひます。だから日常生活においては、子供にいつもお父ちゃんをお手本にしてはいいかなと教育しているんです。

柳 家庭の主婦は家事に対してルーズだといふお話をしましたが、家事というのは、役所の仕事のようにきちんとはゆかないもので、そこにくらかの融通性がなくてはいいかと思ひます。井戸端会議にしても、十分か、二十分程度は許されるのじゃないかと思ひます。それから主人への愛情を、個人という狭い視野じゃなしに、社会的に目をひろげてみてもらいたいといふことをおっしゃいましたけれど、一対一の場合はともかく、家庭の中では、そういうようなまなざしでみていたのでは、どうかと思ひますが、如何でしょうか。

杉原 私は結婚したてには、えらくたつて、こつしなさい、あましなさいと主人の世話をやきたかつたのですが、だんだんと、あまやかすといふ意味ではなして、さすが男やなと、主人のあとについてゆけば間違いないと思ひようになりまして、また、主人が疲れていないそなた時は、主人にたのみますと、お湯くんで洗濯機をかけてくれます。干すのは私がやりますけれど、お互いに体力

が弱いので、いたわり合ってやっています。

野中 私はやはり旦那様もいくら手伝う降うがいいと思います。
磯野（リーダー） 野中さんあたりの年代では、周囲をこらんに
ってどうでしょう。

野中 近所の共稼ぎのかたも、そうでないかたも、赤ちゃんがいて
おばあさんがいないんです。ですから旦那さんがよく手伝って
というよりも、奥さんの降りが、あんなこうしなさい、あしな
さいという有さまで、私をんか見ていまして、私にも一、二年し
たら結婚してもいいくらいの年頃の男の子がおりますので、あれ
ほど自分の息子をこき使われたら、いやな気もして、今から心配
しています。

奈良 私の場合は、専業機家ですから、家中みな労働的な仕事
をしております。ですから家庭内はなるべく私と母にまかせてい
ただいて、外の作業はなるべく主人にしてもらいたいと考えてお
ります。主人は私より一時間か二時間早く仕事に出て、私は家
中の整理整頓は自分です。男のかたには手伝っていただきたく
ないと思っております。ですから私は、私より少し早くいって下
さいというくらいのことしか、百姓の場合、方法がないように感
じます。

北郷 私の場合は、商売が忙しくて、自分で仕入れに行く場合があ
ります。そんな時は、サラリーマンのように、朝早く出かけて、
夕方帰りますと、家の中は、いっぱいちかかって、夕飯の仕度か
らなから……帰る途端にそれを見ると、ウンザリするんです
その時にサラリーマンの人の気持ちがすごくわかるんです。です
かたたとえば、内職をしていても、ご主人が帰る時間になれば、や

場合によっては、夫があまり疲れているのに、こういうことをさ
せては気の毒だから、これはこちらがするとか、また奥さんが忙
しい場合には、夫が手伝うということは、だいたい皆さん原則と
しては一致しているんじゃないかと思えます。

サラリーマンの場合でも、ほかの仕事でも、夫の労働の条件が
いまほど大変でなくなると、家に帰っても、妻の仕事に手を出す
余裕がある。昔はいくら余裕があっても、男はそんなことはすべ
きじゃないということですから、現在では、特に東京なんかは、
朝夕のラッシュの電車でもまれて会社について五時まで働き、ま
たあの騒ぎの中を帰ってきて、さあごはんとくというんじや可憐
想だということもあるわけですね。そこで夫が家事に協力するか
どうかという一つ前の問題として、それぞれの間で、あまり身体
を酷使しないでも暮らせるような労働条件を確立するということ
が、家族の生活にも非常に重要だということになります。

それからもう一つ、こんどは家の中の仕事の面から申しますと、
機械化やインスタント食品を上手に使うことによって家事の合理
化が進んできた。こうなると、夫のより不熟な労働でも、
ごはんとくし、洗濯もできる。このように家事の分担もしや
すくなるということになってきて、女の人が家事に費やす時間も
減ってくる。そしてこれも夢物語の一部に入るわけですが、
週五日制になって土曜と日曜と休んで休むことになる、
これもまた、家庭の幸福とか、家の中の協力を無理なくやってい
く上に大変プラスになりますね。女の人が自分の時間を作ってゆ
くというためには、そこまでやはり考えてゆかないと、根本的な
そういう態勢はできないんじゃないかと思えます。

めて、家の中はキッチンと整理して、夕飯の準備ができていたら
いちばんいいんじゃないかと思うのです。

北川 さきほどの発言に補足させていただきます。私が主婦がル
ーズだと申ししたのは、具体的に申しますと、井戸端会議と
いうのも大いにいいことで、レクリエーションとか、レジャー
とかにつながらないのだと思いますけれど、ただ、その内容によ
って、地域社会が大変困るようなことや、また個人的にいろい
ろ不幸を招くということもありますので、お話を建設的な意見
にもっていかれるような井戸端会議に変わりつつあるのなら、大
変結構なことではないかと思うわけです。

それからもう一つ、旦那様の仕事と、主婦の仕事、それから
家族の仕事の役割の分担ですが、これも個人差もあり、家庭の
職業の都合もありますので、一概には言えませんが、生活の合
理化というよりなことを、各自が全部頭におきまして、たとえ
ば主人が新聞を眺めましても、必ずしもあつた場所に整理して
おくとか、家庭の整理整頓というよりなことを、特に子供や主
人に協力して欲しいということなのでございます。ごはんの用
意というよりなことは、それぞれ個人差もありますので、適当
に考えればよいことだと思います。

磯野（リーダー） このへんで少しまとめますと、まず少
くともここにおいでになったかたがたのお考えによれば、そし
てそれはかなり現在では広く受け入れられている考えかただと思
いますけれど、これは女の仕事だから、どんなに忙しくても
男は手伝わなくてもよい、当然女がするべきだというふりを考
え方はこわれてきている。ただそれぞれの家族の生活によって、

そこで夫婦が互いに分担して、子供に手がからなくなり、家
事にもあまり手がからなくなった場合に、女の人はどうしたら
いいのか。そうして浮いた自分の時間というものを、どう使った
らいいか。今までと申しますか、戦後までは、日本の女は自
分の時間というものを、もつことをなかなか考えてはいけなかつたわけ
ですね。実は私自身「結婚しても一日一ページくらいは本を読み
たいわ」といったわけですね。今から考えると、誠にささやかな願
いですが、母が「そんなことを考えてはいけません。本が読
みたいという気持ちがあれば読めない時に不満になる。あなたのよ
うな人は心の中に不満をしまっておけない、ふくれ面をするに決
まっている。だから読みたいなんていう気持ちをこころいけなさい」と
というふうに言われたものです。これは私だけでなく、日本には
そういう伝統がありますので、女の人が自分の時間をどう使うか
という点に対しての訓練がない。時間ができると有閑マダムに
なつて、女が暇になるとロクなことしない、だから女を忙しくし
ておいたほうがいいのだという男の人の意見もあるわけです。今
まで日本の女は、子供だけを生甲斐にして、子供を育ててい
ればいいのだということになっていましたけれど、近頃よく言われ
れるように、子供を精神的離乳させなければいけない。子供を自
立させなければいけない。昔のように一生子供にかかるといふこ
とも期待できなくなってきた。そういう時に母親という役目が済
んだ後のことも考えなければならぬ。それは同時に老後——老
後ではかき第三の人生といったほうがいいというご意見がありま
したけれど、それをどういうふうに生きるかということも、大い
にこれから問題になるんじゃないかと思えます。

この中でお孫さんのいらっしゃるかた、適齢期の息子さんをお持ちのかた、まだお子さんが小さいかたもいらっしゃると思いますが、いづれにしても子供は大きくなるものですから、今から先のことを考えておいても、早過ぎることはないわけです。この老後の問題、第三の人生のゆきかたについて、家徳さんが特別にそれを問題として所感文にお書きになっているので、問題提起の形で何かおっしゃって下さいませんか。

家徳 実は私、毎年この婦人週刊を傍聴させていただいて、老後の問題があまり出ないので、この問題を書いてみたわけです。私の場合は五人の子供が全部片付いたり、世帯をもったり、孫も七人ありますが、主人が三年前に亡くなりました。今の相続法では、大変細かく分けなければいけないのだそうですけれど、家屋敷ばかりですから、分けようがないので、娘や次男は放棄する代りにお兄さんにお母さんを頼むという形で、長男と私が家を相続いたしました。家賃が少しばかり入るもの、長男と私で分けまして私はそれを小遣いにあてて。その代り固定資産税の半分も私がもって責任を果しているというゆきかたでございます。

磯野(リーダー) これからお話ししたいと思います時に、とにかくことで問題が混乱することがあるので、これを学問的に決っている定議ではありませんが、一応このお話しで使うことは決めておいた方がいいでしょう。子供が結婚してからすぐ後を老後というておりましたけれど、たとえば野中さんや、柳さんのように、もうすぐお子さんが結婚するというかたがたの場合、そのあとを老後という、あまりにも感じがびつたりしませんので、本当に自分ではやってゆけないという時だけ老後というて子供が結婚し

人も、精神的にも、自分が必要だと思われるような生活のハリがあったら、いやがられずに済むのじゃないかと思えます。

秋房 それこそ夢物語みたいですが、私は若い時から、いくら経済がたいへんでも、月に百円でもいいから、少しづつためて、それを生活以外のことに使う。一人でなしにグループも作って、将来託児所のような、社会的な方面に活かすとか、また趣味で、今まであまり習わなかったものを習うとか、そういうことをしたいなど、いつも考えているのですけれど。

北川 第三の人生、それから老後の問題、それによって子供の育てかたも違ってくるのじゃないかと思えます。たとえて申しますと、子供の教育投資、大学に全部の子供を就学させるというよりなことは、ずいぶんお金がかかると思うのです。その場合、親がそれだけの投資をしなれば、ある程度経済的に余裕が出てくるのでそれによって、どう生きるかということも考えられると思うのです。

もう一つ考えますことは、やはり教育投資のことですけれど、親として子供を育てる限界は、一応義務教育でしたら、中学三年までで、あとは子供が自分で苦学して、高校、大学を出るとか、社会的になにか線がついていたら都合がいいと考えるわけです。家徳 私達過渡期の母親は、いまおっしゃった教育投資といいますが、子供を教育しておけばなんとかなるという気持ちが、たしかにありました。戦後、激しい世の中になって、とても子供に頼ってはおられないという時代になりましたが、私自身も一生懸命に子供の将来を思って教育してきたのですけれど、戦後の空気に合うように自分の気持ちを切り替えるためには、どういふふうに考えれば

てから、そこにいたるまで、自分で誰の世話にもならないでやってゆける間を第三の人生というように分けていったほうがわかりやすいのじゃないかと思えます。そうすると、家徳さんや、重松さんは、第三の人生に属するわけですね。

重松 私は五人の子供をもっておりまして、一番下が二十才でございます。現在一人だけ私の傍にいて、あとみんな働きに出ております。私はつくづく考えまして、若い頃は、年寄りがつきそって、いろいろ指示をしていました。今までの年寄りはみんなそうで、そのため嫁と姑の仲があまりおもしろくなかった。それで私はこれから子供達を自分の傍から離れていって、年をとってしまったり、趣味に生きるより怪しいのじゃないか。その趣味を活動しながら、子供達に喜びを与える機会を、たとえば編物の一つもできるとか、そのほかなんでもいいから子供の面倒をみながら喜ばれるような方向にゆけたらどうだろうかと、いま考えております。

磯野 私の家は三世帯が、同じ家じゃないのですが、同一家族で生活しているんです。私達夫婦の考えと、おばあちゃん達の考えとそれから兄の子供で十八才のがいる。それに私の子供と、全部考えかたが違う中で生活していて、つくづく私も年をとった時のことを考えるのですけれど、私が店の仕事を手伝ったり、おばあちゃんに家事の仕事を手伝ってもらったりするので、それでうまくいっているのだらうと思うのです。おばあちゃん二人で朝から晩まで家の中のお掃除とか洗濯ばかりしていたら、嫁と姑のことでゴタゴタおこるのじゃないか。地方会議でも、私が共働きで外に出るから、姑さんとうまくいっているという人もいたのです。老

いいか。それで、自分は過去の人間だ、子供は社会人として立派に社会に働いているのだから、わが子であるけれど社会人であるという目をもつて子供をみることにしました。私は一軒の家に住んでおりますけれど、自分の部屋だけを私の域にして、食事の時だけ一緒ですけれど、あとは目障りにならないように、たとえば屋は嫁と二人の時、食後少し雑談くらいはしますが、夕食の時は、息子がいる時はさっと引込むという形をとりまして、もっとも近しい隣人という気持ちであります。そうするほうが自分自身も気がラクです。それがこれからの母親のゆきかたじゃないでしょうか。

杉原 今までの日本女性は、孤独に生きるという訓練ができてないと思うのです。結局、親にすがったり、子供にすがったり、そしてかえって大きくなると子どもからわづらわしく思われるようになる。その場合に、一人で読書をするとか、編みものをするとか、かにかそういうものに生甲斐をもつて、家徳さんのおっしゃるような生きかたがいいと思います。私いま上の男の子が高松三年で女の子が高松一年ですけれど、下の女の子が今から「お母ちゃんお兄さんのお嫁さんと仲よくしてね」というんです。

家徳 私、主人が三年前に亡くなりました。その翌年、末娘を片付けた時に、グンタリしたんです。自分はいま死んでも、誰も困る人間はいないのだ。誰も惜しがってくれない人もない。ひがみじやなく、本当にそう思った時に、半年くらいボーとしてしまったんです。その時に救われたのは、十年くらい前から地域のことであるいろいろやっておりましたし、はじめは親睦を図るために民謡をやり、責任者になって、大変わづらわしかったですが、今年で七

年になります。そういうことをやっていたことが、どれだけ救いになったかわからないです。現在も家の嫁は家事一本でやっておりまして、私は、また別のグループにもいって勉強したり、内職として都の嘱託で労働力調査をしたりしていることに生甲斐を感じております。

野中 東京のかたのお話を聞きました、本当に参考になりました。私の場合も男の子一人でございまして、二、三年のうちに結婚すると思います。そのうちに間もなく主人も停年になります。その時に息子夫婦と一緒に暮らしたいものか、別がいいものか、今から思案しております。近しい隣人ということが本当にいいことだと思います。

柳 私も同感ですけれど、趣味を活かして家族に喜んでもらうとか、社会奉仕に精を出すとかいうお話しですが、やはりその裏付けになるものは、経済的な問題だと思っております。それをどのようにして求めたいのか、お伺いしたいと思います。

杉山 私は、いま子どもが中学校です。だいたい手も離れましたが、主婦として子供の進歩に遅れないように社会勉強をしてゆかなければならないと思います。それから一人前に成長しましたならば、子どものいい相談相手になるように努めなければならぬと思います。それで老後のことを考えて、今からそろそろ貯蓄もしておりますし、子供との別居生活をたのしむような親になるということを目指しております。

佐藤 私はある新聞の投稿欄によって結ばれたペンダグループの一員ですけれど、偶然そのグループのかたで子供さんのないかたがいたんです。私も生きていたら二十一になる子供を亡くしまして、

に下手ながらたのしみを感じております。

丸山 私は育児も家事もゆずれられる立場になつたら、いっそ勤めにしたいと思っております。収入が得られますし、視野が広がりますから……。そのためには老後の貯蓄も欲しいと思っております。老後のための実力を貯えておきたいと思っております。

磯野 (リーダー) 老後の経済的な問題が土台で、そこがしっかりしていないと、いろいろと感情的な問題もからまってくるということがあります。先ほど教育投資ということがありました。昔は子供にかかるといことが前提になっていましたから、まず子供にかけて、あとでそのお返しとして子供にかかるといことでしたけれど、新しい家族制度の建前から申しますと、子供は独立してしまふ。しかし一方で教育はなんとかしなければならぬというところで、大学入試の問題とか、そのために高校・中学あるいは幼稚園の予備校というものである。これは老後の問題とちよつとずれるかも知れませんが、このへんで子供を守る会の宗像さんに教育のほうからお話を伺いたいと思っております。

宗像 (特オブ) 私の自己紹介をいたしましてお返事にかえたいと思います。私、子供が三人おりました、二十代で三人生み、三十代には地域の公立学校に入れましたので、子供のPTAで一生懸命やりまして、私はいわゆるPTA育ちの人間でございます。四十代になりましたから、いろいろ地域のグループ、それから「日本子供を守る会」の常任理事、また、豊島区教育委員に任命されました。一番女子がかりというか、四十代に教育委員を二回やっております。もう長女は結婚して、私の別棟に住んでおりますし、長男は大学を卒業して、大学院、一番末が女子大に通っております。

今は親戚の親のない子供を三人引取って大きくしております。子供のあるかたは、口では強いことをおっしゃっていても、やはり心の中では、子供をあてにしている気分がありますけれど、私は子供がいないので覚悟を決めて、三人の人生なり、老後までも、そういうお友達としっかり手を結び合つて、夢物語に近いですが、必ずや老人ホームのようなものを作りましよう、毎月勉強もしておりますし、書くということに喜びをもっており、建設的な行動もしようと話し合っております。それにはさきほども申しましたように、経済的なうしろだてがなくてはできませんから、みんななるべくヘソクリを作りまして、少しずつでも、金銭信託とか、株とか、運命的にお金をためるように心がけて、どんなことでも助け合つてゆこうと約束しています。

加藤 私共も農家として働きの確保のために家族制度のように、長男夫婦と私共夫婦と同居しておりますが、自分達は夫婦単位の気持ちで、あまりのぞかれないし、のぞかなくてもいいというところ、そこところは意識せずになんとかやっております。そしてこれは理想ですが、孫達がちゃんと手がからなくなつた時に別居して、主人と細々ながら農業だけでやれるように、主人もなるだけ長生してくれるように祈っております。いまの若い人達がどうしてあんなに農業を嫌うのか、本当にこんなにはすばらしい仕事で、これでお金がかつたら、あまりうますぎるのじゃないかと思っておりますし、自分にやっているので、それを老後の仕事として、自分ができるだけ働きながら、趣味に生きているということで、その土台作りのような意味で、民謡をやったり、書くということ

ですので、もう本当に受験の苦労がなくなったものですから、どうも今のかたが受験受験とお騒がせになるのが、私のいままでやってきたことから考えますと、意外な気がするわけです。特に戦後は進学ということよりも、とにかく子供達を生かしておかなければならないということで、田舎の学校を転々として、地域の学校に入られて、子供の能力を伸ばしてきてきたのだと思っております。子供達はこれから先ずっと生きる人間ですから、今の頭で受験とかなんとか考へて、子供の負担を過重にするということは、非常に子供に對して、子供を守る立場では、子供を犯しているという気がするのです。私の三人の子供につきましては、それぞれ子供の能力に応じて、こまめにはゆける、ということ、だんだん自分自身にそういう目が出てきたものですから、夫と私と子供達との討論の末、大学を逼るにしても子供達の意見はもちろん入れますけれど社会的、世界的な動向というものをから考へて、子供の将来を決めたり、そういう大事を時に夫がズバリと意見をいって、それで決つたということがいふふありますので、さっきからの夫と妻の立場ということも考へても、私は大変夫に甘くて、家事労働や何かの分担はあまりさなかつたのですけれど、大事なことでは、夫の一言が非常に子供達の将来に對して役立っている、いま考へてみると、それが宝石のように私には意味があつたし、子供達も親の言葉で今の道を選んだことを、それぞれよかったと思っております。受験とか、進学については、本当に今のお母さん達が、あまりにも先のことを考へられるので、どうも腑に落ちないという感じがいたします。

磯野 (リーダー) まず子供の教育によって老後の経済的な基礎を

作るといふことは、社会保障その他の関係もありますけれど、一つには、日本の場合、子供の教育にお金をかけなければならぬという点を、私も非常に疑問に思っております。私は英國に一年ほど留学いたしました。英國にもいろいろの欠点もございませうけれど、うらやましい点は、奨学金制度が非常に発達していることとございます。だから子供に大学に就学するだけの能力があつて、しかも資力がないうちは、ほとんど奨学金が出るわけですね。親が無理をして身の皮をはぐようにして、子供の教育にお金をつぎ込まなくてもいい。そういう点を考えますと、入学の競争に必死になつてゐる日本の現状は、自分達で首をしめてゐるやうなことになるかと。

家徳 私、さきほど大変きれいなことを申しましたけれど、私も自分の子供に、なるべくいい学校に入つて、いい出世コースをとつてもらいたいといふことで、官立に入つてくれなければ困るとか浪人はごめんだといふふうにいふてきたわけですね。官立には入りませんでしたけれど、五人の子供を次々に出すことは大変な苦勞だったんです。そして戦後バラツク建の時に、家内中が集つてゐるゐる話をすると、子供が私といふことになる、子供達の理想をなすほどと思つても、私がまた理窟にならないことをかえすんです。親のコケンにかかわるという気持があるわけなんです。そして最後には「お母さんには負けたい」といふことになるんですが、その一つには自分をいとおしむ気持があるんです。これだけ苦勞してきたのに、その氣持があるんです。

杉原 結局つきつめて考えれば、夫を大事にするとか、子供がよい学校に入つてほしいということも、一番自分が可愛いということと

ですね。私自身、誰よりも自分が一番可愛いということ意識するんです。

磯野（リーダー） つまりやる時には、子供のためとか、夫のためとかいうつもりで一生懸命やつてゐるけれど、それに対して何かお返しを期待しないでいられたらいいということ、そのお返しがない時に、あれだけしてやったのだからという氣持、これはある点で仕方がないことで、何かする場合に、そういう人間の氣持といふものを勘定に入れて考えないといふことはあるでしょうね。重松 その面では、私は二十七年ばかり教職にありまして、幸いなことに恩給をいただいておりますので、談々とした氣持で子供と別居してもいいとか、また子供から自分を大事にしてもらいたいといふ氣持は海いんです。自分で独立してゆけるという氣持が強いので、そこは辛いだと思ひます。

磯野（リーダー） 経済的にもよりどころがあるといふことと、もう一つは、ずっと社会的な生活を續けていらつたご経験があるといふことが、やはりいろいろあることに役立つでしょうね。北川 ちょっと違った角度にみると思ひますけれど、たとえば、現在のようにサラリーマンが一代で自分の住宅を建てるということ、は、なかなか困難な時代に、そういう中から子供の面倒をみて、投資をしてゆくといふことになる、第三の人生、老後の問題にまでは、経済的にも全然見通しがつかないわけですね。最近の団地の奥様がたは子供にいい着物を着せたり、ぜいたくをさせることが子供に対する愛情の表現のように考へ違ひしてゐるようですが、私は子供といふものは、裸で出てきて、自分で働くようになったら相当の生活をしてもいいが、小さい時は、できるだけ最低の生

活をさせるのが一番いいといふ考へかたなのです。冷いよりですけれど、それが社会的に貢献する一つの考へかたじゃないかと思ふんです。ですからただ子供にお金を使うといふのではなしに自分

が社会的に遅れない母親になると共に、子どもを一人前の能力のある人間に仕上げてゆくということが先決問題であつて、大学進学など第二として、やはりその子の能力に応じて、たとえば会社の小使さんでもいいから、自分の職業の責任を立派に果たせるような、そういう考へかたの子供にしたいものだと思います。なかまがむずかしいですけど。

磯野 私、私は主として、子どもの教育のことと話し合ひのですけど、子どもが喜んで大学に入つて、大学を出れば、あとはちゃんと生活できるし、老後をみてもらえと考へる人がとても多いように思ひます。私なんか自由業ですから、将来の見通しはあまり立たないんですけど、その時の状態で子どもに奨学金をもらへる程度の頭があれば大学に入れようと思ひます。それができなかったら、なにか一つのこととて自立できるように技術を身につけてさせて、立派な社会人として生活できるようにすれば、もう親の義務はそれで済むと思ひます。たとえば百万円あれば、百万円全部子どもの大学準備金にあててしまふという考へ方が間違つてゐるのじゃないかと、この頃つくづく思ひます。

秋原 そりおつしやいます、やはり現実問題として大学出た人は昇進も早いし、婦人が自覚をもつて自分達からすればいいといつても、やはりそこが割切れなれないと思ひます。

北郷 老後の問題が出ましたが、自分が働ける間はいいけれど、もし何年も寝込んだような場合は、どうなるのでしょうか。私の近所

で、八年間中風で寝てゐるかたがあると聞きますと心配になります。

家徳 私達の年令のものが集まると、境遇がどうであつても、だれでも、子供達に迷惑をかける長病はしたくないと申します。私自身もそうです。実は私の知つたかたで、九十になるお姑さんがいて大變世話がやれるんです。ところが若いお嬢さんがいるのに、自分が一生懸命グチをこぼしながら世話をする。そのわけは嫁に、また自分もあれをやらなければならぬのかといふことを見せたくないといふんです。ですから長病の老婦人の施設だけでも早く作つていただきたいと願ひしております。私自身そりなつたら入りたいと思ひます。

磯野（リーダー） このへんで、子供が一応独立したあとの第三の人生、及び老後にかけての経済的な問題をもうちょっと考へてみたいと思ひます。重松さんのように、ずっと働いておられて恩給もある。あるいは何かの形でずっと収入を自分で得ていらつしやるというかたは一番いいわけですね。それからもう一つ、第三の人生で何とか再就職できないものか。そのほか、どういう形が、第三の人生及び老後の経済的保障として考へられるか。ご自分のこととしてでも、またこういう場合があるという例でも、あるいは社会政策的な問題でも、なんでも結構です。

奈良 百歳をしておりますと、老後の労働源の一つに考へられており、手足が動かなくなるまで仕事に追われております。それで自分達の子どもに教育費がかからなくなつたら、それを自分達の老後の手当てとして貯蓄していくのが、百姓の場合理想ではないかと考へております。そして老人になつた場合は、農家であつても、

個室というものをもつて、若い人達とは一緒におられないのが理想的ではないかと思ひます。

森岡 家の近所に、山を一つもっていて、その山を全部売って子どもの教育費にあててしまったというのがあるんです。その場合、子どもが結婚して、お母さんと一緒に暮らすのはいやだなんていうことになると思ひます。お母さん一人じゃなにかと思ひます。全財産を教育投資にしまして、過重な期待をかけないで済むような方法を今から考えておかなければならぬと思ひます。それから老齢年金を、いまのような原金程度のものでなくて、一応自由に生活できる程度のもので、また病氣した場合、ただ入れるような施設を、國家的に考えていただかなければ、どうにもならないんじゃないかと思ひます。

重松 私八十になる老人をもつておりますが、主人の収入と私の収入があるので、それがもらえないわけなんです。すると老人が私はその千円をもらう権利があるといつてくやむんです。それで私は、そういう制限を撤廃していただきたいと思ひます。

柳 生命保険・養老保険に入るのも一つの方法じゃないかと思ひます。それから再就職のことについては、職業補導所のようなものを作って教育したらいと思ひます。

杉原 いまの時代は、貯金するばかりじゃないかと言われて、利息が物価の値上りに併行しない。物価の値上がりが利息より高くなつてゆく時に、少し貯金しても、何十年後にどれだけの値打ちがあるかと考えた場合に、やはり老後になつたら、パートタイムというか、よその忙しい家に三、四時間手伝ひにいつて、その時代の報酬を頂けば、年寄りの小遣としてはいいんじゃないかと思ひます。

りかかっているのをみかけますけれど、あれは本当に大変だと思ひます。けつして喜んでできることではなく、自分はまだ元気なんだぞということを示す悲しい誇示じゃないかと思ひます。

加藤 農家の場合、家でボヤボヤ手伝ひについて、もし病氣になつたらということが心配ですが、私の部落に近く老人ホームができるように決つて、皆でそれをたのしみにして、弱つたらそこに入ればいいという簡単な気持ちでいたのですけれど、老人ホームで、そういう病人を扱ってくれるかどうかというのを、もう少し研究してみなければいけないと思ひます。経済的な面でも、地元のものには月三千円で入れてくれるそうですから助かります。そしてずっと入りきりでもなく、帰りたいときは帰れるという自由な立場で入れるホームらしいので、たのしみにしてあります。

磯野（リーダー） このへんで主婦連の菊池さんから御意見を伺ひたいと思ひます。

菊池（特オプ） 皆さんのお話の中には、私の申し上げたいこともずいぶん含まれておりますけれど、まず夫婦の仕事の分野について、いろいろの意見が出ましたが、私は要するに一对一の単位の家であるというのを認識すれば、その区分というものは、本當にその人の愛情をもって立場を考えれば、ある時はお仕事をしようが、ある時はお洗濯をしようが、それはそれぞれその家庭のあり方でいいと思ひます。結局はお互いの人格を尊重するということ結びつきです。昔は女は道具のように扱われていましたが、一对一で生活できるようになるには、やはり妻の座というか、妻の人格というか、夫と対等に生活してゆける、二人三脚でなければなら

ます。

北川 とにかくある程度貯えておこうという心構えは、精神的な安定感になると思ひます。私、若いものの立場から老後の問題にふれて、もう一つ伺ひたいことは、さきほど東京のかたがおっしゃったように、自分は家庭的でも社会的にも一応全部役割が済んでしまったという淋しい気持ち、ある程度若い人達によって満たしてもらつたという態度についてなんです。このあいだ聞いた話ですが、老人ホームは生活に心配ないけど、退屈で精神的にはいつも淋しい思いをしているから、ちよつとした仕事でもいいから何かやつてもらつて、本當に皆さんのおかげで、こんなにいいものになりましたよというより、これは一つの生活技術ですけど、そういう態度をもちよつと考え合わせてゆきたいと思ひます。農村では幸い定年制がありませんので、老後に、自分の家の附近でお花を作つて、仏様にあげるお花にしたりする、花いっぱい運動ということも進めてゆきたいと考えております。

家徳 東京大会の時は、養老院に入りたくないという声が多かったのですが、これはやはりお年寄りが地域を離れたくないという気持ちと、養老院に対する信頼感がないことによるものと思ひます。そこで地域で施設をなるべく設けるようにしたほうがいいのじゃないかという先生のご助言がございました。私自身はこれで結構な気分と思ひますが、やはり社会保険を恵まれない老人のために強く打出したいのでございます。それから老人に仕事をということは、もちろん結構なことですが、私自身はりこんだに元氣にしております。とても身体に限界を感じるのでございます。よく農家の年寄りのかたが孫を背負つて腰が曲

ないと思ひます。その土台を作ることが大事だと思ひます。それから世間体ということが出ましたが、日本人は、とくに田舎にゆくと外見を心配する。自分自身のこととは考えないで、外の目だけ気にするという習慣、これは本當に捨ててしまわなければいけないと思ひます。私は、昔の共稼ぎの奥さんを知っておりますけれど、私がその奥さんのところを訪ねると、旦那さんがサツとお茶を入れてくる。「どうもありがとう」という奥さんの言葉になんのこだわりもない。そういうあつさりした考えかた、私はそれでいいのだと思ひます。

次に教育問題でございますが、投資というのと、何か非常に味気ない気持ちになりますけれど、私達女性にとつて子どもを教育するということとは、投資だけでは割切れない問題だと思ひます。その時にできる限りの力において、自分の分身である子どもを育ててゆこうという、この精神は、やはり時が移り変わっても同じじゃないか。自分よりよりよく生かしたい。自分よりよりよい生活をさせたい。しかし無理をして借金をしてまで自分の子どもを教育する場合もなきにしろあらずです。この頃は少し教育過剰じゃないかと思ひます。満三才にならないうちからピアノを習わせたり、幼稚園にゆくところから英語をさせて、母親は自分の喜びのごとくやっている。そういうのは反省すべきですが、本當にその子どものためによりよい方法で自分のできる力で教育をする、そしてその子の能力に応じてやるという賢いお母さんにならなければいけないと思ひます。

それから老人の問題ですが、私ももう老人の部類ですが、老人になりますと、ただ経済的な問題だけじゃなくて、精神的な問題で

たとえ老人ホームは、みんな自分と同じような人が住んでいて淋しいんです。私も友達とばかり話していると実にいやな気がする。きょうのようにお若いからと速と接していると、やはり自分が若返るんです。そういう意味合いで、老人ホームなどの施設のそばには幼稚園なり、託児所なり作ったらどうか。また趣味のグループを作る。これは言うは易く、なかなか実行できないことです。特定の立派なクラブを作ったりすることはすぐできますけれど、あまり趣味もない、というかたがたのために、何かのチャンスを作る、私は、末の子が小学校を卒業した時にPTAの役員会がございましたので、それをそのまま互笑会と名付けて、十五人が毎月五十円の会費で回りをちで合会して、なんのわだかまりもない、通令朗の問題、姑の問題、老後の問題と、一人も休まないで話し合っております。そういう簡単な集まりで、自分だけでなく自分よりいくらか遅れている。一といつては滑稽がありすが、そういうことを知らない人のためにも、少しは役立てるといふ大きな心持が欲しいと思います。

(再開) 一・三〇と五・〇〇

杉原 私のまわりをみると、昔の年寄りよりはる程豊恵まれてきたように思うのです。昔は全然小遣いもなしにいたのに、いまは年金も少しでも入るし、年寄りの人で案外お金をもっているので、びっくりすることがあります。

まていいのか、もっと前向に改正する余地はないものか、とくに老後の相続問題などはどういうことで、老後の保障の問題と一緒に考えてみたらどうかと思います。それでは、これで休養に入りたいと思います。

ませんし、非常に負担がかかります。それに老人にできる仕事といえは、住込みかなにかで、よそのお手伝いとか、お洗濯というような仕事よりないという現状です。それも多少の社会保障的収入があれば、いくらか心丈夫で、それを土台にして少しでも自分で収入の道をはかるといふ意欲も出てくるのじゃないか。なんにもなくてただ子どもに依存している時には、本當に心細いだろうと思います。やはり帰するところは、社会保障問題じゃないかと思ひます。

北川 私は今ので階でどういふふうにすればいいかということしか考えられないわけですが、実は先日、四十過ぎのかたと話し合っておりましたところが、たまたま家族制度というのは、やはり一帯合理的な老人福祉の方法じゃないかということを知りたわけですが、そう言われると、まんざら家族制度というものも捨てたものじゃないと思つたわけです。というのは、老人施設の完備しているスエーデンあたりでは老人自殺者がふえているということを知ります。そうしますと、やはりいくらか精神的に切換えなければならぬとしても、自分の子ども、親子の情愛というものは

たち切れない、それは人間としての本能じゃないかと思うわけ
です。現段階では、老人ホームを完備して下さいといっても、日本
の経済上から無理でございまして、万一できまして、スエーデン
の例もありまして、やはり家族と同居することの問題がある。
にしたほうがよい段階じゃないか。その同居の仕方問題がある。
東京の家徳さんの発言のように、ある程度距離をおいて同居する。
部屋を別にするとか、各自の家の都合によって違いますけれど、
そういうふうな方法を具体的にみんな考えてゆくよりしかたが
ないと思っております。

秋房 これも社会保障のほうに入るとは思います。ホームヘルパー
というか、再就職したいという婦人が多いですから、それと結び
つけて、市役所でそういう制度をとり入れて、病気で寝ておられ
るかた、家族と一緒にいても手の回らない人に、一週間に一ぺん
でも二へんでも訪問してをさめるというようなことができれば
いいと思います。

重松 私も今の御意見と同じですけれど、地方にはまだそういう制
度はありません。家庭奉仕員と申しますか、そういうものを市や
町で雇って、老人や病人をいたわってあげるといふことを進めて
いただきたいと思います。

杉原 私の町は小さい町ですけれど、私の知っている未亡人のかた
が、いまおっしゃった家庭奉仕員になって、一週間に一回ずつ、
同じ家にいって掃除してあげたり、洗濯や身のまわりの世話をし
てあげています。

吉田 まだ私共若いので、本当に老人のかたの苦しみや悩みはわか
らないのですけれど、いくらが身体が動かせる間は、ある程度の間

の問題、スエーデンの例が出ましたけれど、やはり老人だけが入
っている老人ホームというのは、いろいろ問題がある。私も英
国などでみましたけれど、老人だけが暮らしているところとい
うところは、やはりみんな急速に老いこんでしまうと聞かれてお
ります。

ここでわれわれは、身寄りのない老人のためにぜひ老人ホーム
が必要であるということ、それから、何かの方法がとれる人の
ためには、こういう方法があるということを示すこと、この二つ
を分けて考えてゆかないといけないと思うのです。

まず、さきほど年をとってしまった場合に、身内の人の世話が
あったほうがいいのか、家族制度もわるいところばかり
ではないということが出てきましたけれど、このへんは賛成、反
対いろいろ意見があると思います。

つまり老人が身内の世話を受けられるという点では、昔の家族
制度も考えてみる必要があるのじゃないか。逆から申しますと、
昔の家族制度の暗い面を入れたいようにして、なんとか老人と若
い人が近く暮せないか。さきほど、生活を分けたらいいというこ
とも出ましたが、まだ何かに何かいい考えはありませんか。

家徳 これは若い方にはおわかりにならない心理だと思います。若
い人は年寄りだと、決して歓迎しないことはわかっておりますけ
れど、でも私は私なりにやはり気がねはしているのをごさいます。
それがあって初めて家の中は円満ではないか。というのは私自身
きょうは嫁が一日出かけていると思うと、ふだん全然交渉のない
生活をしていても、なにか顔がすっと暗いんです。ましてや嫁の
立場とすれば、姑が、別に顔を見せなくても別の部屋にいらとい

隔をかけた同居が一番いい方法だと思います。それから老人が家
族から邪魔にされない程度の社会保障が必要だと思います。お金
もないのに面倒をみなければならぬということになると、どう
しても邪魔にされますから。そして、いよいよ本当に病氣とか、
ひどい老衰で、身体が動かなくなったり、しもの始末までしてもら
うということになったら、国の施設でみてあげるといふ方向にゆ
けば、一番いいのじゃないかと思えます。

磯野(リーダー) やはり私達はいつも、座敷というか、生活でき
ないギリギリのところまで全部含めて問題を考えなければいけな
いと思います。また一方から申しますと、それはまず何よりも、
大河内先生のおっしゃった貧乏退治ということがあらゆる面で必
要であって、老人の問題もまずともな生活を一生送れるような
経済的基礎を、賃金の面、あるいは社会保障の面、その他あら
ゆる面から考えてゆかなければいけないと思います。年金の問題
にしても、やっと日本では始まったばかりで、ついでの間では老
年金というものに対して反対の声もありましたけれど、近頃は
老年金は必要だということになってきました。また老人ホーム
というの、身寄りのない老人、ことに生活の基礎のない老人に
はぜひとも必要なので、われわれ自身もぜひ作ってもらうよう
に与論をおこさなければいけないと思うのです。さきほどからた
くさん出まして、むしろそちらの方にウエイトがかかっているこ
とは、老人の経済的な生活が食うに困らなくても老人の淋しさ
ということを頭に入れておかなければいけない。頭の切りかえの
きた新しい老人は、進んで老人ホームにいくというのが民主的な
老人のようになっていくと思いますけれど、しかし、人間の心

うことは、なにかのしかかるものがあるだろう、私もその気持は
よくわかるんです。おかしな話ですが、私は若い時から不精もの
で、身のまわりをかまわないほうでした。色が黒くて不器量だし
しゃれたってしかたがないという気持がありましたけれど、現在
はおし、それはしなくても、まあ見て感じのわるくないように身じ
まいだけはしていたい。若い人は、年寄りはきたないもの、うと
ましいものとみているからこそ、せめて身じまいだけはキチツと
しておきたいということをお心かげるようになって、亡くなった主
人には申し訳ないのですけれど……若い時には考えも及ばない気
持でございます。

北郎 私共は、子どもに対しては、すぐ子ども部屋を考えますが、
老人にも老人の部屋を一つ与える、老人だけの城というものを作
ってあげられたいと思います。

森岡 私の家は、別棟に老人夫婦がおり、老人同士のお友達がそこ
だけで出入りできるようにして、私達は私達で別の入口から出入
り出来るようにお互いに干渉しないように、つかず離れずちょっ
と冷淡のようですけれど、かえってその程度で理想的にゆくのじ
ゃないかと思っております。

杉山 私はとにかく、もう私達の時代には、子ども達の肩の重荷に
ならないように生活設計をしておく必要があると考えています。
たとえ子どもと同居生活していても、そこに愛情の生命のきずな
だけはつたがれてゆくのじゃないかと思えますが、如何でしょう
か。

北川 付け加えることになるのですが、国家として中途半端な社会
保障政策はかえって迷惑であるという気がするんです。現在六十

五歳以上になると、千円ずつ年金が出るそうですが、それによっていぶん各家庭でいざこざがおきているというのを聞くのです。そういう中途半端なことが決った場合、やはり女性の与論を、その時々、国家のいりる政策について目を向けていて、よりあげていくような態度が大事じゃないかと思っています。

磯野（リーダー） いざこざというのは具体的にどういうことですか。

北川 千円もらってると、それを老人は自分のものだというふうにかかえてしまふ。生活費は決して千円くらいでは足りないものでありませんけれど、その千円の使い道などで、ちょっと感情的になるわけです。

磯野（リーダー） 千円というごく僅かなお金が、生活費であるのか、小遣であるのか。たくさん収入があつて、小遣だけに使えるところではないが、そうでないところでは、それが果して生活を保障するためのものか、ただ敬老的なものであるのかというわけですね。

丸山 老人をよくしてあげる。それは経済的にも、精神的にも大変なことだと思ひます。しかし今は若くてもやがては誰も老人になるのですから、その時大人になつた子供達が、やはり親を見習つた態度をとると思ひますので、老人に対してできるだけやさしくしてあげたいと思つておられます。

磯野（リーダー） さきほど北川さんから家族制度ということがでましたが、今まで老人をみる時に、まず非常に問題になつたのは嫁と姑の関係だと思ひます。もちろん農家や家業がある場合にはなかなかそういう家族の暮らしかたの再構成をするということ

しつたように、子どもに教えるという意味じゃなくて、自分の愛情として注いでおけないという気持ちからみてあげて、本当に喜んであの世にゆかれたわけです。そういうことを娘もみておられますので、幾分はそれを感づいておられるんじゃないかという気持ちで、私は老後のことは自信をもっているわけです。

柳 私の近所に一人娘さんがご養子を迎えて一緒に生活しておられるという生活が理想的だといつておられます。私のところも女の子ばかりですから、いざ誰かに養子を迎えて、そういうゆきかたをするにたなるのじゃないかと思ひますけれど、これは親の立場の考えで、娘の考えとしてはどういうことになるのかかわかりませんけれど。

吉田 今まで年をとつたかたは、息子さんに養つてもらうという形をとつていたのは、男の人以外は外で働いてお金をつとめて、女の人には家にいて養われていたのだという考えがあらつたからで、娘さんはお嫁に行つてしまえば、自分の母親まで養つてもらうことはできないといふことがあらつたと思ひますけれど、これから家事労働の重要性といふことも考えられますから、そういうこともないのではなからうか。老人一人二人を十分に養つてゆけるだけの社会保障といふか、年金があれば、息子でかろうと娘であるとかまわさうと思ひます。私としては奥の母親が身動きならなくなつた時に、できれば自分でみてやりたいと思ひます。また姑は、いまのところ自分で働いておられますけれど、いざれば私のところへ引取つて面倒みるつもりでおります。

重松 さつき柳さんが娘の立場といふことをおっしゃいましたが、私は一人を母を養つております。また私の近くには、一応娘さん

とはむずかしいわけですが、今までのいわゆる男の系統を伝つて家がつながつていふという家族制度を離れて考えてみると、子どもと一緒に暮らすという場合、息子と一緒に暮らすなければならぬかどうかといふことも、もう一べん考えてみる必要があると思ひます。私が英國におりました時に、あつたことわざに「息子は結婚するまでの息子、娘は一生の娘」という古いことわざがありました。日本では娘はよそにやつてしまつたものと思ひ定めてしまつたが、新民法になつてから、子どもはみんな同じだから、必ずしも息子と暮らすなければならぬものかと思ひました。たとえば老後の世話をみてもらうという場合に、本当の娘ですと、こつちがおむつの世話を先にみてやつた、年とつてから、こつちがみてもらうことでもいいじゃないかという考えかたも、この頃だといふ出てきておられるわけです。そういう点について如何でしょう。

加藤 私の家では、長男夫婦の子どもをみてやつて、少しでもうちになつたら、いま高校三年の娘と別居するといふ考えです。家の中のものもそういう考えでおられます。その娘が結婚しても、今までの孝行という意味じゃなくて本当の愛情をもつて子どもを育てておれば、私が年をとつても、娘もほうり出すようなことはないだろうという自信をもっているわけです。というのは私数年前に私の姑が八十以上の老齢で亡くなりましたけれど、その姑がなかなかの人でして、本當に泣かされた時もあったのですけれど、寝込されてからは「かあちゃん、どうした……」と一から十まで私をたよつてくれたものですから、いじめられたことは捨ててしまつて恩したわけです。年寄りはいたわるといふのは、どなたかお

を養つて、そのかたを呼び寄せて一緒に生活しているかたがあらうし、ご主人の反対で、お年寄りを一人で生活させているかたもあらうし。私の場合は、年をとつても親子の縁はきれませんで、どんな親でも、自分の親ですと、嫁姑の関係をどうくはなすものか。しかし子どもはいつまで親を頼る気持ち、甘える気持ちのほうで、老人をいたわるといふ気持ちより先にくるわけです。また親は年をとりますと、娘になんでもしてあげたい。よその年寄りや娘の立場の人から、手にとるようになっていたいて、をみると、非常に不満なように私にグチを申します。そこで私としては現在までの過程においては、娘と親という関係はあまりよくないんじゃないか。やはり娘さんは一応結婚してよそに出て、後で話し合ひの結果、一緒に生活するとか、あるいは子どもの面倒をみてもらうためにお年寄りに来てもらうという関係ならスムーズにゆくんじゃないか。また嫁の立場からは一緒にいたいと思ひても、ご主人の立場からは、やはり問題があるんじゃないかと思ひます。

秋房 男性の立場から見ると、やはり娘と母親は密接すぎて、片方に追いやられる。一緒に住んでいなくても、私なんか、しょつち母親のところへ行きたい気持ちがありますし、左にか主人に相談するより、母親にということもあらうから、そういうところがうまくゆかないのじゃないかと思ひます。

家徳 私は娘が三人あり、三人ともかたがたしました。二番目の娘は夫婿二人暮らしで、主人も気のいい人間ですが、まあゆきかたといふ気持ちにもなりません。それから末娘は一人息子に嫁に行つて、両親と一緒にすから、近くにいっても一年に三回くらいしか

よこしてもらえない。そうすると未亡人の長女と暮らすのいいかという、経済的に大変でゆけません。そう考えますと、私の場合は、主人が亡くなった時の、皆の相談の結果もありますし、やはり長男のところにいるのが一番無難ではないかと思ひます。

北川 私は長女で、弟が長男で、一応相続権があるというふうに、以前は考えていましたが、現在弟はサラリーマンで別居しております。何も財産を分けて別居しているわけではなく、ただ勤めの関係でアパートにいて、心の中では等年になつたら、また農村に帰って田んぼでもしようかなと思ひているのじゃないかと私は考えているわけです。妹達はそれぞれ結婚しております。そこで民法が問題になるのですけれど、いよいよ両親が老いこんできたとか、どちらかが亡くなった場合、相続はどうなるのかということ等を常に考えながら日を送つておるわけです。田舎では、長女というのは兄弟の中でも発言権が強く、私も発言権を獲得しているわけですが、ただその時その時の感情で、娘のほうに住みやすとか、経済的に長男のほうがいいとかいうことではなくて、兄弟で本當に納得のゆくように、早目に決めて、両親にあまり老後の不安な気持ちをいだかせないようにしてやりたいものだと思ひております。

佐藤 私は主人が長男でございまして、二十年以上もずっと姑と一緒に暮らしてきましたが、昨年主人の末の妹に子どもができて、お手伝いがないので、おばあちゃんに来てもらえないかというので、姑も七十ですが、健康なので手伝いに行つて、とても重宝がられております。義母はとてもいい人間ですし、なんのいざこざもなかったのですけれど、家徳さんのおっしゃつたように

というふうな観点から、そういう人達が集つて、専任員のようにな、世話する人のいない子達の洗濯や、老人の身のまわりをみてあげるといふ方向にゆきたい。また私は恩給をいぐらかいたたいでいるが、それは私が働いた結果であるが、また一方、皆さんがたの税金のおかげでもある。そうすれば社会に奉仕することは当然の義務ではなからうかと考えて、私は一生懸命そういう方面に働き続けたいと思ひます。

磯野 (リーダー) さきほど民法の話が出ましたが、相続法というものについて、私自身非常に疑問に思つてゐる点があるのです。それは、まず夫が亡くなりましたと、すぐ相続が開始して、残った妻は三分の一しか夫の財産がもらえない。あとの三分の二は子どもたちのところについてしまふ。皆さんこれで満足していらっしゃるかどうか伺いたいと思ひます。たしかに相続する財産がある人は、まだましだといふことはいえますけれど、一番下のところは、どうしても社会保障、生活補給を拡充するといふ形でゆかなければならない。その上のところ、子ども達は一応独立して暮らしている。夫の財産が全部妻にくれば暮らせるのに、三分の一では暮らせないだらうと思ひます。

竹井 (特オプ) 私の姉の話ですが、私の姉は長男のところの嫁に参りました。長男だから田地田畑の相続権はもつておりました。ところが主人の弟が戦死して、子どもが一人残されたので、その子に財産をゆずりたいために、その頃は、長男でなければ相続権がなかったの、自分のところへ弟の子どもを養子に入れたわけです。ところが新民法に変わつてから、父が亡くなりました。それで姉の主人は田舎の財産を放棄するつもりで手続きして、全財産

に、いるということだけで、なにか重みを感じるのを返してみたら、母も同じように、私には何も言いませんけれど、なにか気づまりを感じていたのじゃないかと思ひまして、やはり長男だから、世間体があるからとかいって、母を独占してしまうのも考えものだと思ひまして、私がグループ活動などで留守の時は、おばあちゃんちとつと離れます。弟の方でもちよつと来て下さいと、なにか勝手なようですけれど、母にしては自分だけだからちこちから重宝がられておるといふことで、お年寄りも幸せだと思ひております。

磯野 (リーダー) そうすると、どなたの発言でも、結局は、昔のように長男だから何が何でも一緒にならなければならぬということもないし、それぞれの立場で一番うまくゆくような方法がとれるようになった。これは家族制度でしぼられていた時に比べて幸福になる可能性がそれだけふえたといふことがいえるわけですね。皆さんの御意見が大休一致したのは、ともかく自分が働ける間は、一緒にいるにしろ、お子さんの間をひっぱりだこまわるにしろ、そこまでは大変いけれど、いよいよ本當に老後になつた時にどうするか。老人ホームも健康の時はいいけれど、病氣になると、追ひ出される。病院は経済的な問題もあるし、なかなか大変ですね。そこでさきホームヘルパーとか家庭福祉員という職が出来ましたが、そういうことを身近に存知のかた、あるいはそういう仕事をしているかたがおりますか。

重松 私じゃありませんけれど、私が考えておりますのは、母子世帯とか、父子世帯などは、不届きの点がありますので、年寄りの生印斐というのは、働ける間はなんらかの形で働く、また専任す

を自分の養子になつた弟の子どもにゆずつた。ところが姉の主人がぱっくり一昨年亡くなつて、私の姉が一人残されたわけです。この姉が結婚後耳が不自由になり、一人では生活できないのです。そこで姉を入れた養子の相続権が出てきた。もちろん兄の残した財産は夫婦で働いて残したものです。それに対して養子が相続権があるといふ出てきた。私が一段かつて、とうとう養子を説得して財産放棄せよとしたが、非常に不合理な実例が発生したといふことをお伝えしておきます。

北川 そういうこともあると思ひますが、現在この通りに皆さんが参つてゐるかどうか、案外大部分のかたは、この法律通りに参つてないのじゃないかと思ひます。

磯野 (リーダー) 相続放棄をしてゐるかたが多いということですね。

北川 民法はやはり新しい夫婦単位の家庭といふことでできてゐると思ひますが、何千万というすばらしい遺産があるならともかく最低基準の生活でしたら、遺産は全部妻にやつてもらひたいです。金額に一本線を引いていただいて、それ以上なら分けてもいいし、それ以下なら全部妻に渡すべきだ。そういうことも但し書きとしてつけてもらひたいと思ひます。

家徳 新民法では、妻が三分の一、子どもが三分の二というようにどうしても分けなければいけないのですか。

磯野 (リーダー) 相続放棄すればいいのですけれど、しない人もあるし、また法律の面から申しますと、法律で一応権利があるものを、むやみに放棄したほうがいいといふことはいえないわけですね。どうしても放棄したほうがいいのだといふことであれば、む

しる法律を改正して、事実上即したようにする必要があるのでしよう。

家徳 東京会議で出た話ですが、相当の地位のかたで、ご主人が亡くなって、世間体など考えて、一人息子さんにすっかり財産をゆづってしまった。ところが若いお嫁さんが来て、なにかにつけて大変になった。なんでも京山のくすりをもうと思つて箱をあけたら「このくすりをのんだかたは、お金を入れておいて下さい」と書いてあったので、すっかりお母さんが悲しくなつてしまった。そこでどうせ死んだらみんな息子さんのものになるのだから、お母さんが相続すればよいという話がありました。それでもできるんですか。

磯野(リーダー) 今の民法ではそう決つておらずに、それは遺言がない場合のことで、遺言があれば違つた方法もとれるわけです。ただ日本は遺言の習慣がありませんけれど、遺言ができるのだということが、もう少し一般的に知識になつてもいいのじゃないか。よく亡くなった後に、夫は生前どういつていたと言つても、やはり書いたものになつていませんと法律的にはどうにもならないわけです。いまのように機械的に分けられてしまうと、大変世話になつた子どもにもたくさんやらない、こつちはあまりやらなくてもいいというふうなことがきかないわけです。それから北川さんのおっしゃつたように、財産があまりたくさんない場合は、妻だけが相続する。これも考えていいように思います。子どもが三分の二相続する。そして子どものほうに親を扶養する義務があるから、困れば扶養してもらはいいいじ。ないかと法律家はいうのですけれど、これはどうでしょう。

分与の請求権というのがあつて、夫の名前の財産の中から妻が請求できる。ところが仲よく暮らして夫が死んでしまうと、それは全部夫の財産のように扱われて三分の一しか妻にこない。子どもに三分の二やるために、家まで売らなければならぬというようなことになる。

一方 主権在民ですから、現在ある法律は金科玉条のように受身で守らなければならぬものではない。とくに女の人に関する法律は、私達が法律変えられるのだということを、もうちょっと考へてみてほしいのじゃないか。とかく法律家というものは、法律ではこうなつてゐる、ということ以上のことはいえない。ことに女の立場はなかなか親身になつて感じてくれないということもある。やはり女の人が、ここはへんだから、こうしたらいいんじゃないかということをお説きして、それを与論形成して法律の形にまで作りあげてゆくということは必要じゃないかと思ひます。

奥さんが全部相続するということについての法律家の側からの問題点は、妻と子と二重に相続すると、二重相続税をとられるという事です。その点はこうしたらどうでしょう。つまり夫の名義になつてゐる財産を、夫が亡くなった場合に、そこでは相続を開始しないで、妻と未成年の子どもの生活に当てる。そして妻が死んだら始めて相続を開始して、子ども達がそれを分けるということも考えられるのじゃないでしょうか。

家徳 私の長女が未亡人になりまして、今年で十三年ですが、まだ名義は変更していません。そろそろ孫娘が高校を終るのですが、私の娘が申しますに、今頃の娘は多てにないから、全部自分で相続するといつてますが、どういふことになりますか。

重松 年寄りになつて、とくに女は嫌われるのに、夫が亡くなれば財産は三分の一など、非常に歩がわるい。やはり夫婦単位の法律なら、その財産も夫婦単位じゃないかと思ふわけです。

磯野(リーダー) 三分の二ということも、法律では子どもが小さい場合と独立している場合とを区別しておりませんけれど、もちろん子どもの小さい場合には、子どもが相続したといつても、母親が管理して子どもを育てるわけですから、夫の残したもので一家が暮らすことになるわけですから、しかし、とくに問題になるのは、独立して暮らしている子どもが三分の二をもらつてしまふ。そうすると、いままで住んでいた家も始末しなければ、みんなに分けてやる分が出てこないということになるわけですね。北川 親を扶養する問題は、子どもの共同の責任であると思ひますので、どたんばにならないうちに、前もって話し合つてなんらかの対策をたてておくべきだと思ひます。もう一つ加へますと、民法はあくまでも夫婦単位であるということから、なぜ老人になつたら自分の家を出なければならぬのか、そこにまた一つの疑問があるわけです。自分達で建てた家なら、子ども達が大きくなつたら、老人ホームにゆきますというふうな低姿勢なことを考える必要がないと思ひますが。

磯野(リーダー) 老人が自分の家を出るというよりも、本当は子どもが出てゆくはずなんです。ところが日本では家族制度のなごりの考えかたで、新しい民法とがごちやまぜになつてゐるのでそのしわ寄せが老人のほうにきてゐるということもあるのじゃないか。

けんかをしいいようにならないで離婚する時は、財産

磯野(リーダー) 相続するといつても、いまの法律ですと、子どもの相続放棄の同意がなければだめなわけです。

ここで今、法律論を展開してゐる暇がありませんけれど、ともかくここで私達が今後の宿題として法律についても考へていひのじゃないかと思ひます。なぜなら片一方で社会保障の制度、もう一つはすでにある財産の中での老後の経済的を保障ということとを法律の面からもう少し考へてみる余地があると思ふからです。北川 夫婦別算制ということになつてゐるから、共稼ぎの場合、自分の給料から貯金したのは、自分の名義にするとか……

磯野(リーダー) いゝる工夫はしてゐるようですね。別算制といふのは、はじめは妻の財産の権利がなんにもないから、妻の権利を守るためにできたものですが、そうすると夫の財産は妻がいくら寄与して作ったものでも夫の名義になつてゐるものは夫の財産としか扱われない。こういう問題も大いに今後考へて、われわれが法律を変えてゆくという意欲をもつ必要がある。そういう場合、有権者同盟では、いろいろ活躍になつてゐると思ひますが、三木さん、どういふ道があるでしょうか。

三木(特オプ) 私達、民法についても、そのほかの法律についても、あまり詳しくは知らないで、もっと勉強しようということ、財産の相続とか遺言の仕方などをとりあげて、法律講座をもつようになつてゐます。そして与論形成をして、議員さんと呼びかけてゆくようにしたいと思つてゐます。また先生がお話になりましたのは、子どものある場合ですが、子どものない場合は、夫の母親とか、夫の兄弟にゆくということがあります。これも考へてみると、昔ながらの家族制度というものが、そのまま温

存しているような気がいたします。こういったことにも目を向け
る必要があるのではないかと思います。

磯野（リーダー） 子どもがいない場合は、夫の母が存命中は半分、
母がいない場合でも三分の一が夫の兄弟のところについてしまう。
これは昔、家産を長男相続して、嫁に子どもがいない場合、それを
嫁がもっていったというもので、いまのような法律ができ
たわけです。ところが産業化の進展に伴って、家産というものの
重みがだんだんなくなって、みんな給料で暮らす、しかも其縁ぎ
とか、お店をするとか、あるいは内助の功をするにしても、夫の
名義のものは、母親は年とっているからしかたがないとしても、
ビンビンしている夫の兄弟に三分の一についてしまうということば
やはり非常に不合理じゃないか。奥さんが五十年も先生を勤続し
て一緒に働きになった財産が夫の名義になっていたため、三分
の一を弟さんがよこせというような例もあります。現在の民法の
アナというものが出てきた。私達は今まで、民法の解説を法律家
から伺って、新民法拡充ということでしたが、これからは、
まず民法をよく知って、どこにアナがあるかということに十分に
考えてゆく必要があるわけです。売春禁止法の時にも有権者同盟
が中心になって婦人の手で法律を通したわけです。そのほかのこ
ともやろうと思えばできるわけで、あの時の経過を手短かにお話
し下されませんか。

三本（特オプ） 婦人議員のかたたちが過渡派的に、その問題をお
とりあげになって、団体がそれをバックアップしたという形だっ
たと思います。

磯野（リーダー） 婦人団体のバックアップがあったから通ったわ

長の中で、物価はどうあるべきかということを、さかんに研究し
始めまして、さらに実際に安いものを手に入れて、こういうふう
にして安く入るのに、なぜ市場では下がないかということを実
際に見て運動をしております。最近便利なスーパーが進出して、
特定の資本をもった人達が大きな利益をせしめています。われ
われの手でスーパーをもとうじゃないかということで、町内の主婦
婦が千人ほど投資をしてそれを作った。ここまで進んできたわけ
でございます。こういう場合、自分が一人で家計簿の中で改善で
きる限界と、どうしても集団なり、社会の条件を変えなければ改
善されないというものがあるわけです。ですから個人でやってみ
ても、どうしてもだめなところは、一つ壁をつき破って集団でや
っていく。非常に苦勞です。力も弱いですが、そういう
構えと運動というものは、主婦達の勇気と知恵とで大いにやって
ゆかなければいけないことじゃないかと思ひます。

磯野（リーダー） 婦人有権者同盟、生活協同組合、どちらも地方
に支部があるわけですね。私達はつい目の前の仕事に忙しいので
そういう皆と手をつなぐチャンスがあるのを見落しているという
こともございますから、小さな地域のグループを作って、そのグ
ループがそれぞれの目的に従って有権者同盟なり、生活協同と協
力しながらやってゆくという方法も大いに考えてよいのではない
か。主婦連、子供を守る会、その他全国に支部がある団体がたく
さんあります。

どんどん時間に追われて先に進みましたので、ここで問題にあ
がっているが落ちてしまった問題や、このところまで言おう
と思っていたのに、言うチャンスがなかったということがあると

けですね。

それからいまだ老人の問題や民法の問題が出ましたけれど、プロ
グラムの「家庭と社会」家庭の独立性の喪失の現象」これは
どういう意味かというご質問がありました。今まで二日間いろ
いろお話しして参りましたところで、だんだん明らかになりました
ことは、子どもの問題や老後の問題にしても、あるいは夫があま
り精神・肉体をすりへらさないような状態を作ることにし
ても、家庭の中だけではことが済まなくなる。昔は家庭の中だけ
を守るため、あるいは妻が賢母であるためにも、家の中だけに引込
んでいてはどうにもならないということが、つくづく身にしみて
感じられたと思うのです。そのように家庭が自立できなくなった。
それだけに社会的ないろいろな方法をわれわれも考え、またそれ
を実現するために、いろいろな組織を作らなければならぬこと
になるわけです。そういう点で、昨日も食品の問題についてお断
を伺いましたが、竹井さん、生活協同組合としてのご経験につい
てお話しくださいませんか。

竹井（特オプ） 技術革新によって大量生産になり、それに従って
大量消費ということが言われますが、コストが下がっているわり
に値段は下がらないで、むしろ高いものをどんどん使え使えと出
してくるわけです。その反面、労働組合は、会社はもうかってい
るから、われわれにも賃金の分配をよこせ。するとバーマとか、
クリーニングのような生産性のあるところまで賃金があが
ってくるという悪循環が、とくにこの三、四年激しく、物価がど
んどん上がっております。そういう問題を生協がとらえ、経済成

思ひますので、そういう点を少し拾ってみたいと思います。柳さ
んでしたか、全国学力テストで全国一になったけれど、その裏に
しわ寄せがきているということを書いておられましたね。あれは
非常に大きな問題じゃないかと思ひますので、そのことについて
お話し下さい。

柳 地方会議でも出たのですが、いまの子どもは勉強勉強で追いた
てられています。まして日本一のタイトルを獲得してそれを保持
するということになるとたいへんです。香川県は、学力テストで
中学校は三年間連続、小学校は二年間連続日本一ですけれど、そ
れは喜ばしいことではあるけれど、そのウラには、はげみになる
という反面、重荷になるということもあると思ひます。教育委員
会は喜んで、お祝いしたいなことをしているんですけど、その
裏には、非行少年が増加したとか、近視の子どもがふえたという
問題もありますので、はたして喜ぶだけでいいのかどうか。今後
もこのタイトルを保持してゆくために、学校にも、子ども達にも
家庭にも、必要以上の負担がかかってくるのではないかと心配し
ております。

磯野（リーダー） つまり学力テストのタイトルを保持するために
そちらの勉強ばかりをさせるので、それについてゆけない子ども
達が脱落して非行になったりするわけですね。

柳 人間形成の何うがあるそかになってきているのじゃないか。そ
ういうタイトルなどにこだわらず、子ども達が自由に勉強し、運
動もしてゆけるような教育のしかたをしてもらいたいということ
です。

磯野 やはり進学の問題で、東京会議の時に、この頃のお母さんは

非常に子どもの教育に自信がなくて、先生のお先鞭をかついてい
るという話がありました。

杉原 先月読みました雑誌に香川県の学力テストの問題が出てお
りまして、現場の先生からの報告ですが、結局できない子どもはそ
の目休ませたり、タイトルを維持するために人間性を無視してい
るんじゃないか。「高校生は抗議する」と高校一年生の子どもが書
いていましたけれど、結局大学入試の勉強をして人間性を失い、
非行へ走ってゆく、顔の違ったソーセイじゃないかという意見
が出ておりましたが、なるほど大人も子どもも、急行列車に乗り
遅れまいとしてやっているゆきかたにとてもゆがみを感じます。

磯野(リーダー) 学力テスト自身のこととは、直接家族の問題には
関係ないようですけど、そういう形で単なる学校の成績という
ものが、非常に青少年自体の大きな難問になってきた。そこに親
が巻き込まれて、子どもが一人前の人間になる余裕がない。大学
に入るまでいつも親に頼って、何の得も、ともかく入学試験を
通ってくれなければという形で、親から精神的離乳をさせるとい
うことよりも、入学試験の世話で親自身がさかさまになる。そ
うなると親も、子どもにつきこむということに喜びを感じてくる。
家族制度時代の子どものつぎこむという考えかたは、形は違っ
ても、心理的には似たようなものになってきた。そうすると、や
がて子どもが独立した時に、あのお母さんはどうなるのかと、母親
自身の老後の自立ということも心配になってくる。こういう現象
がいま出ておられます。それが学力テストと非常に関連があるこ
とだと思えますし、それからもう一つ、一方で勉強ばかりに力を入
れると、それについてゆけない子どもが非行に走りやすくなる

いへん力強くなったわけです。

森岡 いまは家庭が学校の延長のようになって、母親が先生の代り
をする。成績のことばかり考えて、子どもののびのびした性格と
か、情緒的な面が案外忘れられている。非行少年にしても、成績
のわるい子ばかりになるのじゃないだろうと思えます。そういう
家庭的しつけが非常に重要じゃないかと思えます。

秋房 私も体験したことでですけど、高校の三年になると就職組と
進学組に分かれて、進学組は先生がた一生懸命に指導されます
が、就職組はぜんぜん無視されたような感じで、三年になると、
学校に行くのが大儀なくらい差別されるんです。そういうところ
からやはり学校が嫌いになったり、遊んだりするものが出てくる
と思えます。

重松 非常に成績にこだわるという状態が親ごさんにあると思いま
す。5をもらったらオルガンを買ってあげるとか……。私父兄の
かたに手紙を差上げたんです。小学校の時代は点数にこだわらな
いで、その子の特長や欠陥などの個性を眺めて、将来、中学や高
校、大学に行った時に、どれだけこの子のねばりが出るか、ある
いは基礎的なものを十分授けるように教育をしていたきたいと
申したことがあります。答案は非常にみごとに書くけれど忍耐力
が足りない、一人でも頑張っただけで解いてゆくという力が
足りないように思えます。母親も、ある程度信念と実行力を備え
るべく、婦人学校などで学習してもらいたいと思えます。

家徳 これも東京会議の時に話した話ですが、子どもをよい学校に入
れるために親がふりまわされている。それでいて朝ごはんを食べ
させないで出すとか、ずいぶん矛盾した話で、そうなる子ども

いう問題もあります。また教育環境の問題も、家族の幸福を保
てゆくために非常に重要じゃないかと思えますので、日本子供を
守る会の宗像さんから伺いたいと思えます。

宗像(特オプ) 学力テストというと、教育委員として申訳ないこ
とをしているような気がするんです。一位を保っている香川に視
察に行ったり、実際に授業を参観すると、現場の先生にとって、
このテストの負担がいかに大きくかかっているかということがわ
かります。本当に教育委員会としても考えなければならぬ問題
がたくさんあると思えます。前に相当悪かったのが一位とか二位
になったという県でも、教育委員会が先生がたを奮励するから、
つい正々堂々とみんなに見えようように答案を書けということ先
生が指導したりするということを開きますと、テストは、本当は
初めは教育設備をととのえるとか、各地方の差をみて、教育環境の
地方差をなくすというのが目的だったのですけれど、毎年毎年や
っていくうちに、ほかの悪い現象が出てきたわけです。ですから
このへんで教育委員会としても学力調査のことはもう一度考えな
おしてみなければいけないと思えます。しかし、今の教育委員会
が無力な存在で、上のほうから言われると、いくら合議制でもや
はり通ってしまふんです。委員の力だけでは効果がないというこ
とがずいぶんございまして、やはり与論の力というのか、これ
は子どもがかわいそうじゃないかということ、もう少しお母さ
んが團結して、教育委員会に押しかけて、現実の問題を出して下
さるということが必要だと思えます。

磯野(リーダー) やはり教育委員会というのも手の届かないこ
ろではなくて、与論の力で動かせるということを伺いまして、た

が可愛いのか、親の虚栄心かわからないという形にあると思えます。
柳 学力テストの成績がどうか高校や大学の進学率がどうという
ことは、子どものためというよりも、結局、学校の名譽のためと
いうことが多いと思えます。それからもう一つ、現在の状態をみ
ていると、家庭が学校の先生のように、あるいは学校が家庭の延
長のような混沌としているところがありますけれど、やはり家庭
ですることは家庭だけ、学校ですることは学校だけというふう
に区切りをつけたほうがいいと思えます。

磯野(リーダー) ここにご出席になるようなお母さまや先生は、
やはりこれじゃ困るということでお話しがうまく合うわけだけ
れど、いろいろ悪弊が出てくるというのは、悪循環のようなこと
で、お互いに首をしめているということもあるんじゃないかと思
いますが、そういう点、PTAのほうをやっていらっしゃるかた
がありますか。

加藤 私二年ほど前に中学のPTAの役員をしてしまして、ちよう
ど卒業前のお世話をしました。先生と父兄と話し合う場が少ない
ので、その機会を何回ももつほど、頭のわるい親達の考え方を切
りかえることができるわけです。それで、子どもと先生と親と三
者が話せる場を月一回もつようにしました。私の部落は四つに分
かれていて、一部落で十二、三人になるので、ちようど話し合う
のにいい人数でした。先生にはご苦労でしたけれど、その年は本
当に成功して、先生も喜ばれ、子どもの希望通り、進学も就職も
できました。そんなつもりで高校のほうのお世話をさせていただ
くようになったら、そんな問題はぜんぜんとりあげてもらえない。
お金を作る話ばかり、しかも中学の時はお母さんが集まったのに

高校になると、私のほかはみんなお父さんばかりで、何のためのPTAかしらという感じがして、私ちょっと、そんな発言をしたら、案外会長さんがわかって下さるかたで、のちにとりあげていただいたのですけれど、そういうことで一歩でも前進してゆけば本当のPTAの活動になってゆくと喜んでおります。

北郷 超境入学のことですが、私共の学校も、市の中心ですのだから多いんです。私達も徹底的に調べますのですけれど、学校に一度来てしまうと、先生がたはわかっていても黙認して、多い組は三分の一は超境入学です。

奈良 農村では、子どもの宿題などを母親が教えるという機会が少なくない。しかし宿題はやってゆかなければ先生に叱られるし、よい点をもらえないということと、それを捕う意味で参考書を一課目ごとに買ってきてやって、子どもはそれをそのまま写してゆく。先生がそれにマルをつけてくれるので、家の人は、うちの子はこんなにできるのかなと思っているが、テストなどすると、三十点とか五十点とかとっているようなわけです。そのような勉強の仕方ではなく、農村では子どもの教育は先生達がもっと学校内でみれるようにしていただきたいと思ひます。

杉山 私のところは、学校に行つて先生と懇談する時には、子どもの勉強については二の次として、第一に子どもの健康と、社会的な道徳を身につけさせるために、子供会の会長さんと力を合わせて、子ども会を通じて、世の中のルールを守るようなことを、子どもに実行させてあります。

北川 婦人学校の話し合いの中の問題ですが、四、五年前から婦人学級が全国的に始まりまして、その時のお母さんがたの考えかた決まるから、高校入試は人生の別れ始めみたいになつてしまふといふので、親も必死になる。それを失敗したらすべてがおしまひだといふ形になるわけですね。

杉原 今年も県立を受けて受かったのに就職してしまつた人がある。親として何か割り切れない感じがするんです。邪魔をしたということになつて……。

磯野（リーダー） また受かつても就職しなければならなかつた人にしてみれば、経済的な事情のためにといふので、また大変あきらめきれないところがあると思ひます。

佐藤 超境入学のことですけれど、私の地方でも、進学率の高い有名校への超境入学がひどい、それも本格的で、お父さんとお母さんば別居して、お母さんが受験の子どもとアパートを借りて、何かの子どもはお父さんがみている。そんなことでもし家庭が破壊されるようなことがあつたら、その坊ちゃん一人が有名校に入られたとしても、あとの家族のことを考えますと、とても矛盾を感じます。

野中 高知では、私立のほう勉強が優秀なので、できる人と、お金のある人は私立を目指しているわけです。成績がよくても経済的な問題で公立というかたもありまして、やはり私はこの学校差というものをなくしたいと思ひます。

磯野（リーダー） すべてがレッテルでことが処理されるということとが、いろいろな点で家庭のほうにまでしわ寄せと申しますか、こうあつてはならないという問題を引きおこしていると思ひます。きょうのお話で、子どもが三歳くらいまでは、子ども中心といふか、落着いて育てられるように、産休をもつとせせないものか

は、自分の子どもに勉強を教えられような母親でありたいといふことでした。農村ですの、そういうことでずいぶん問題がありましたけれど、最近ようやく、別に子どもの勉強を教えなくても、親の威厳は保たれるものであるということが納得されたわけです。もう一つはPTAについてですが、学校に都合のわるいところがあるにもかかわらず、PTAの会合などでお母さんがたが要求をささない。それは子どもが先生に世話になつてゐるから、こういうことを言つたら、自分の子どもにはお返りがこやしなないかという風潮がとて見られます。なんらかの方法で、この壁をつき破りたいものだと思ひます。

それからもう一つ、小学校の時から家庭教師をつけたり、別に習いに行つたりという風潮が、地方でも非常に盛んになりました。それで学校の先生は自分の家に帰つてから、家庭教師になつて、そのほうが稼ぎが余計になるという悪循環についても研究の余地があると思ひます。

杉原 今年、二次試験に子どもを連れて行きましたら、同病相あわれむで、落ちた人ばかりで、私立でも大体二倍半の競争率だつたのです。福井は今年が最後でしたが、ひどいのは、三回落ち、四回落ちという人があるんです。これに落ちたら子どもをどうしようか、家の体面上、でつちにもやれず、家におけば不良化するかもしれないし、定時制にやろうと思つても、屋敷遊ばせておけないし、結局どうしたらよいか。これはやはり一つの社会問題だと思ひます。

磯野（リーダー） つまりその社会の中での人間の格付けといふようなものが、その個人じゃなくて、どこを出たか、ということと、いろいろな事物も出ましたが、その後でパートタイムのことで、子どもの自立性その他からいへば、親がそんなに手をかけなくてもいいはずなのに、有名校に入ればならぬために、親が家にしばられてゐる。学校のあり方というものも、われわれ大いに与縁を喚起して、みんな与縁になつてしまひますけれど、そこまで考へて、まず宿題といふものが、どれだけ必要なのか先生も宿題を出すのに、親が手伝ふことを当然のように思つて出すのか、そういう点も明らかにする必要がある。これは大学の入学試験や卒業論文をみた先生のお話ですが、この頃の子どもは考へることがないといふのです。決められたことを覚えるのはいいけれど、ものを考へて新しい目でものを見てゆくことができない。これは日本の将来のために憂うべきことじゃないかと思ひます。

森岡 佐藤さんがおっしゃつたように、子どもの進学のために現在の生活をおろそかにしていることが多いと思ひます。しかし現在がなかつたら、将来も未来もないので、毎日毎日の生活を大切にして、家庭は学校教育の延長ではなくて、家庭でなければ絶対できない教育をする。それが母親としての最大の任務だと私は思ひます。

丸山 私は子どもの学習をあまりみてやらないで、進学や就職は本人が本当に活かされる道にしたいと思ひます。子どもに望むことは、性格のよさと、たくましさが一番で中学二年の長男にも、基礎だけはしっかりやるようにとだけしか言つてありません。

秋房 学力のことではありませんが、母親の仕事と子どもということとで、私が経験したことですが、其縁ぎの家庭で、小学校に行つてゐる子どもが怪我をしたんです。近所の人が集まつて、お母さ

んはどこに勤めているのかと聞いてもわからない。お父さんのところも、はっきりわからない。近所中がけまわって、ある人がお母さんの勤め先を知っていて連絡をとって、病院に入れたのですけれど、そのへんのところをもうちょっと、学力学力というだけじゃなく、お母さんの仕事を理解させるということも必要です。知っていなければならぬ最低のことを伝えておくことも必要だということを感じました。

磯野(リーダー) つまり子どもを置いて仕事に出るなら、出てくる困らないだけの措置だけはおくべきだということですね。子ども外から帰ってくると誰れもいない。怪我をしても連絡もできないというような家庭がだんだんふえてくるので、そういう家庭の子どもを集めて、宿題させたり遊ばせたり、よく大学生がセツルメントということで、ほうぼうでやっておりますが、さきほど杉山さんがお話になりましたが、大学生に頼らず、そういう形の子どもの金というものは作れないものでしょうか。

杉山 とても子どものためにいいと思います。私達の部落では去年から始まったのですが、それを通じて子ども達はお友達もたくさんできるし、お勤めに出来る方も安心ですし、また私達も保護者として、よそさまの子どもでも、もしへんなことをする時は、自分の子どもと同じように叱ってあげるだけの気が出てきたわけでございます。

磯野(リーダー) 昨日、小さいお子さんを自発的に預かるという話が出ましたが、もう少し大きい子どもを引受けるということも、社会的な活動の一つとして考えられるわけですね。家徳 教育的環境ということが問題ですが、昨日お話ししたように遊

いてい男性ではないかと想像しておりますが、女性のかたもいらっしゃるのでしょうか。

家徳 東京は多いございますよ。

杉山 山口には女性のかたがいらないように伺ったんですが、どこえ陳情すればいいのでしょうか。

事務局 市町村からの推薦によって、児童福祉審議会の審査にかけて都道府県の知事が任命することになっていったと思います。各地(特オプ) 大変な仕事で、報酬はないし、自分の私財を投じてやっていらっしゃるようで、ご苦労な仕事だそうですね。

磯野(リーダー) 本場に児童の問題は大切ですが、これも夢物語と、身近にできることと両側があります。できる人は子供会など始めて、まず現在困っているところから、少しでもやっていくそして一方で、やはり根本的に、児童政策という国の政策についても、もっと考える余地があるということになるわけですね。この頃は児童心理とか、児童の問題を学校で専攻した人達が、実は行先がない。社会福祉科とか、児童科という科のある女子大もたくさんありますが、そういうところを出た人が、本場に留ったことを活かす職場がなかなかない。一方で児童問題が民生委員と一緒にやっていて、そういう名譽職にまかされている。こういうことはやはり地方自治体に大いに働きかけて、児童問題を専攻した人達をちゃんと給料を出して雇って、この人達が十分に児童対策を考えるということは、これはぜひとも必要じゃないかと思えます。私は英國では、児童係の公務員がいて、児童問題を専門に研究している。またその児童係だけで問題が解決することではな

いから、家族の問題を扱っける人達が協力して世話する。とも

園地を作りましたところが、ほとんどは中学のちょっと不良じみた子どもが独占して、危くて遊びにやれないという問題が起きたんです。これはどこの遊園地にもおきていた問題で、新宿区でも三軒ばかり有給の人をおくというのを聞きましたけれど、そろそろ自分も老境に入るので、その間に小さな小屋を建てて、そこを老人の集まりに利用して、子ども達もたのしみという場所にしたという夢を抱いております。

杉山 私もし子供会の世話を十年近くしました。夏休みの体操もうちの庭でするのですが、私も仕事をもっている関係上、どうしても体力的についてゆけない限界がある。また個人ではどうにもならないということを感じます。こういう集まりですと、わかってもらえますが、田舎ではものずきみたいに見られます。

重松 子供会を育てていくために協力して下さるかたは、たいていPTAのかただと思えますが、児童民生委員というのがありますので、こういうかたにもある程度みていただいたらどうかと思いますが、児童民生委員のお仕事の内容がわからないので、どなたか教えていただきたいと思えます。

宗像(特オプ) 民生委員が児童委員を兼ねていらっしゃる場合は子供会などのお仕事はなさるはずですね。

重松 する責任があるわけですね。仕事の上で児童の面が抜けているのはなげかわしいことだと思えます。児童委員と民生委員とはつきりしていただきたいことを、この席を借りて訴えたいと思えます。

杉山 私のところは子供会を作っておりますけれど、民生委員がどこにいるかということさえ知らないのです。それで民生委員はた

かく、そういうものがちゃんとできている。日本でもいろいろそういう点が考えられてきておりましようけれど、一番必要な末端のところがあるからうまくいっていない。児童問題について、福祉事務所なりどこなりにすぐに相談にもってゆけるような係の人を配属してほしい。ほかのところは無駄使している予算をここにまわしたらいいじゃないかというように、大いに考える必要があると思えます。また青少年の問題を扱う窓口が警察や何かと一緒にあっていて、つい相談にゆきにくいというところも多いようです。ですから、むしろ警察におくよりも、こっちにおいてくれ、というような注文はもっと国の家づくり人づくりというところの一環として具体的な方法をいろいろ考えていったらいいんじゃないかと思えます。

杉山 私のところで、今、義務教育の中学校の体育館を来年建設する予定になっていますが、それにつきまして、PTAだけではまかないきれないから、寄付で戸別割にしたかどうかということが総会に出たのです。その時みんな沈黙を守って、いいともわるいとも言わないで、部落にもってきて戸別割の金額を決めようとしているので、部落では、いま不満の声がごうごうなのです。この問題は市役所かどっかにもって行って予算に組んでいただき、寄付行為はやめて頂く方法はないものでしょうか。

佐藤 地方会議の時に、産婦人科の女医さんの発言で、近頃若い共稼ぎのかたがほとんどですが、人口流産の手術を受けるかたが多くて、人道上からも、母体の健康上からも憂うべき状態で、なんとかならないものだろうかという発言がありましたら、これに對して、またあるかたから、住宅が確保されている人はよろしいけ

れど、町のアパートなどでは、子どもがきたら出るという条件がついているのだそう、しかたがないから子どもを始末するということでした。それをぜひ、こんどの会議に訴えてほしいということでした。

吉田 さきほど杉山さんの寄付行為の問題ですが、岩手の婦人会議で、義務教育無償ということを経営にはうたがってあるが、PTAの負担が非常に大きい。たとえば体育館を建てる場合、国からいくら補助が出て、足りない分をPTAで補充してくれというのが、原則的に無償でお金を出してしまおう。そういうことが義務教育無償という方向と矛盾しているのじゃないかという問題が出されました。

磯野（リーダー） 従来とかく、お母さん達が寄付をして建てたということが美談になって新聞に出たりしましたけれど、国ですべきことを自分達でやって、むしろ弊害のほうが残るという点も、大いに考えなければならぬことですね。

秋房 さきほど大阪の佐藤さんが住宅問題についておっしゃいましたけれど、市営住宅に住んでいると狭いので、子どもが少し大きくなると、自分の部屋を欲しがるといふから、外に出て遠くまで遊んでいる。十時くらいまで平気で遊んでいる。隣いところ集って話をしているのを見ますが、へんな話にゆくんじやないかと心配になります。住宅というのは、本当に大切だということが身にしみ込んでいくべきですね。

奈良 農村では主婦農家が次第にふえて参りまして、やはり家庭に男の人がいないという観点から、子ども達も小さいうちにはいいんですけれど、小学生も五、六年になりますと、おじいちゃん、お

とを聞きました。ちよっとおかしいなと思ったら、気軽に相談に行けるように、町にそういう設備がたくさんできるといいと思います。

杉山 農村の主婦には、いろいろと研修の場がありまして、新しい時代にふさわしい女性としての教養を身につけて、婦人の地位は次第に向上しつつあるように思いますが、これに引きかえて農村の男性というのは、社会教育の場が一つもない。サラリーマンで兼業農家のかたにはいろいろありますが、純農家では、主人と主婦との間に格差を生じて、家庭生活において理解なき夫として、家族会議を開く障害になっているそうです。それで、男性の地位の向上のために、国が働きかけて、教育の場を作ってもらいたいということが、この前の会議で出たのでございます。

佐藤 大阪地方でこの頃、少年少女のスーパーマーケットの万引事件が多くなりまして、地方会議で出た話ですが、スーパーマーケットの品物の並べ方に問題があるのじゃないか。そのかたは子どもを二人連れて買い物に行くらしいんですが、ある日帰ってくるど、ポケットにいっぱいガムやチョコレートが入っているのびつくりしました。お母さんがカゴに入れるのをもって帰っていいものと思つて、三つの子どもですから、わからなくて持ってきたんですね。そのまま放置していいものかどうか心配になって、交番の警官に相談したらいいんですが、それはあまり行きすぎで、お母さんがじゅんじゅんと言つて聞かせるほうがわかるのじゃないか、そのままほおっておいたら、持ってくるくせがついて、それが高じて将来非行につながるのじゃないかという発言がありました。助言者の先生のお話では外国ではスーパーマーケットに子

ばあちゃん、それから女である母親を弱くみまして、いたずらをし過ぎるという傾向があるように思っています。いたずらが過ぎれば非行に走るといふことも考えられますので、主婦農家にはとくに家庭管理ということが大切ではないかと思ひます。それで主婦ももう少し勉強しなければならぬわけで、部落ではグループ活動とか、婦人学級などをもう少し勉強にしたいものだと思います。またそういう学習の場として、農協なり、市役所なりの力を借りて、地域的に一つの建物が必要ではないかと、痛切に感じます。

家徳 東京都には児童相談所というのがあって、お母さんがたが、どうしても家の子、少しへんだという時に連れて行って相談する。そうするとあまり悪くならないうちに矯正することが出来る。もうちよっと傷が深い子どもを収容するところがある。これをお母様が利用したらよいと思います。一か月九千円とかの費用がかかるのだそうです。それから、もし地域に児童委員というものができれば、地域でお互いに協力できるのじゃないかと思ひます。

磯野（リーダー） つまり地域で相談にものるし、さきほどの子供会のような組織もできるというわけですね。
森岡 延岡の私の知り合いの奥さんが、小学校一年のお子さんが、ちっとも学校に行きたがらないので、児童相談所に行かれたんです。すると、お母さんの話は聞かないで、子どもといふ話し合いをして、一日くらいかかって診断して、結局、先生との感情のトラブルがあって、そのために学校がいやになったというわけです。それで、小学校の先生を児童相談所の先生が呼ばれて、いろいろ話されて、それから、その子はとてもよくなったというこ

どもを連れて行くという例は絶対ないそうです。

磯野（リーダー） スーパーマーケットという新しいものが出てきているのですから、やはりそういうものがある社会の中で生きられるような子どもに訓練する必要があるということ、もう一つは、ことに小さい子が何をしたかというところをお母さんがもう少しわかって欲しいということです。お母さんは万引だと思つてびっくりして、警察に相談に行くというようになることになると、子どもが思ひやがびっくりして、非常に意心が傷付けられるということも考えなければならぬわけですね。

北川 スーパーマーケットの話が出ましたが、子どもの万引きがとて多いから、社会的に問題じゃないですかと、経営者にいいます。少しくらいとれたってかまわないように前段がつけてあると、非常識なことを平気で言うのです。人手不足のこともありまして、売れる側も、単なる自分の利益だけではなしに、青少年の育成ということを頭においていた方がいい。また商品の並べかたにしても、子どもがみればほしくなるようなものというところも考慮に入れて陳列してもらいたいものだと思つております。

それから、福祉施設の問題で、子どもが不良化した場合、養護施設とか、精神薄弱児の施設とか、いろいろありますけれど、やはり母体保護の意味から、人工妊娠中絶ということが、いかに母体を傷つけるか、もしそれが失敗して子どもが出た場合、その子どもは精神になるのじゃないかということ、私達の婦人学級では、主婦のかたから希望がありまして、正しい家族計画について、ずっと講座を続けてありますが、この人工妊娠中絶ということが、いかに社会悪かということを含め、PRする必要があります。

のじゃないか。これも青少年の不良化につながる問題ではないか
と思います。

磯野（リーダー） とくにその場合、家主が子どもができたら進い
出すというように対して、もっと家族を保護する決まりが
あった方がいいことになりませんか。いよいよ時間がなくなり
ましたが、特別オプザーバーのかたで、何か言っておきたいとい
うことがありましたら……。

宗像（特オプ） 体育館の寄付行為の話が出ましたが、私共の
地域でも、そういうことが以前に問題になりましたが、だんだん
役所のほうで予算化してきておりますので、寄付行為をする前に
必ず一休何と何のために寄付が必要で、どういうところに使われ
るかということをして、校長先生その他はいやがるかも知れないけ
れど、はっきりさせて、その中でどの部分は役所のほうにもって
ゆくというふうな見分けかたを、お母さん達にしていたきたい。
ただ出すばかりがいいのじゃないということを、もう一度考えて
いたいただきたいです。

竹井（特オプ） ここではあまり出ませんでした、消費生活のア
ンバランスということが、非常に大きな障害じゃないかと考える
のです。たとえば、私共が全国組織を通じて、同じ型の家計簿に
よって集計した数字を検討しましたら、非常に消費支出も多くな
っていて、エンゲル係数をみても、三八%という数字がでており
ますが、食生活の内容を分析したら、ぜひ必要だという基準栄養
の六八%しかないことでした。つまり、いろいろなものが
出回って私達の生活はらくになったと思いますが、案外本当
に人間の健康を保ってゆくに必要なものが忘れられているので

けないかということ、とくに最近感じますので、皆さんも消費
生活のありかたというものをもう一度検討することが大切じゃな
いかと感じます。

三本（特オプ） 産業や科学の発達で家庭の中を変えていったとい
う話が出ましたが、その中でマスコミの影響が非常に家庭の中
に入っていることが、問題にあまり触れられなかったように
すが、とくにテレビ、ラジオの子どもに与える影響が多いと思
いますので、放送番組についても、婦人の立場からいろいろ声を出
して、いい番組を作るような働きを各地でやっていただくように
お願いしたいと思います。

磯野（リーダー） 私達が昨日の午前から一生懸命考え合って参り
まして、産業化という大変むずかしいようでありまうけれど、
やはりその影響は、私達の家庭の中で、日常の生活でひしひしと
感じられていることです。まず家庭の中の親族の役割が、はっ
きりと区切られた区別というものがなくなって、みんなが話し合
いでやる余地がでてきた。それからまた家庭の外での仕事は、一
方でふえたけれど、家庭の中の生活の合理化をする。あるいは子
どもの教育の重点的なところを注いで、できるだけ母親が自
分自身の時間をもつということが、夢物語にしろ、そういう方向
に向わなければいけない。さらに、そういうことは、母親を卒業
してからの人生第三期及び老後のためにも、必要なことである。
若いうちから、そのような暮らしかたをしていかないと、いよ
よその時期になってからあわてても駄目だ。そしてまた、すべて
の人生のあらゆる段階において、今日のように家庭と社会とのつ
ながりが強くなって参りますと、常に社会的な環境を整備してゆ

かないと、家庭の幸福も保たれないということが、一応、非常に
大まかな結論であり、そして、それを実現するためには、私達が
ただそうなるのを待っているだけでなく、あらゆる面で、消費
生活の面では、消費に関する管理、あるいは地域の中で、あるい
は国の法律にまで及んで、常に自分達の要求を具体的に要求をし
てゆかなければならないということになると思います。また、入
学の問題、消費の問題にしても、全体として考えると、やはり、
みんながその時の風潮に自主性なく巻き込まれているというところ
に問題がある。とくに女の人は、その時の風潮に受身になって巻
込まれやすかったのじゃないか。このへんでみんなが立ち止って
自分達を巻き込んでいたウズを止めて、もっと積極的な意味のある
方向にそれを流してゆく。そういうことを一人一人が始めなけれ
ばいけないのじゃないかと思うわけです。

さきほど、婦人会議に出て来て、こういう話をすれば、みんな
話を通じるけれど、地域に帰ると、非常に孤立してしまうという
発言がありました。それはやはりここに出てくるかた達は、そ
れだけ意欲をもって、問題意識をもっていらっしゃるからで、こ
こではこういう問題を自分一人で考えているのではないという力
強さを感じに思うのです。しかし、お国へお帰りになる
と、ここで非常に希望にもえて帰っても、やはりここで通じ合っ
た話には、みんなと話を通じないということに対しての覚悟は、
みなさん、もって帰る必要があると思います。

それはまた違から申しますと、婦人会議に出席したかたは、残
念ながら六十人で、出席を希望して応募なさったかたは、それよ
りももっとたくさんあった。さらに関心はあっても所感文を書く

いうまでには至らないのか。さらにその外側には婦人会議
というものすら知らないか。それからさらにその外には、あ
んなことをやるよりも、自分の目の前のことをやって、おもしろ
く暮らしたほうがいいと思っている層、意識の面でも、経済的な面
でも、意識はあっても、問題をかかえていながら、本当にその日
に追われて、その問題を正面からとりあげるゆとりもないとい
う人達もたくさんいるということも、十分に考えておかなければな
らないと思います。しかし、この婦人会議自身の目的は、ここに
出席されたかただけのためではなくて、それを皆さんが地域にも
ってお帰りになって、前の出席者とか、同志のかたたちと協力し
て、まわりからの圧迫は強いでしょうけれど、少しずつその巾を
広げてゆく。何ごととも一歩に近づきませんが、お互いに力を
合わせてやってゆきたいと思います。

それからもう一つは、婦人会議の始まった頃は、新しい考えか
た、民主化というものを、ここで勉強して帰ってみんなに伝える
という啓蒙的な役割をもっていました。これからは、逆にこう
いう会議を一つのチャンスとしていろいろ考える会、それを中央
のほうに圧力としてあげてゆくという与論の形式の場として、大
いにこれを利用していくことだと思います。そしてこの会議で話
し合った夢物語も決して根のない夢ではないし、やってできない
ことはない。但し、必要なことを要求する場合には、ただ困って
いるから何とかして下さいという形ではなく、たとえば児童の福
祉のために、こういう人をこのように配置して欲しいというよう
に、具体的に、地域なり、団体なりに要求してゆくことだと思
います。

この会談はこれで終りますけれど、むしろ、これがはじまりだ
という形で、今後共一緒に勉強してゆきたいと思えます。どうも
ありがとうございました。

— 五時終了 —

第二部会

会議員

秋田	後藤 卓子 (無職)
福島	渡辺 弘子 (無職)
群馬	松井 八栄 (無職)
埼玉	山崎 弘子 (無職)
神奈川	山口 綾子 (会社経営)
新潟	笠原 さい子 (無職)
石川	乙谷 延子 (農薬)
山梨	鷹野 いさほ (農薬)
岐阜	片桐 やよい (農薬)
愛知	柴田 光子 (無職)
滋賀	海老原 彌栄子 (公民館主事)
鳥取	長谷川 つじ子 (無職)
岡山	酒本 早智子 (無職)
佐賀	武久 成子 (地方公務員)
熊本	谷口 恭子 (中学講師)

リーダー 日高 六郎 (東京大学教授)

特別オブザーバー

桑野 千代 (日本キリスト教婦人矯風会)
市岡 愛子 (全国友の会)
渡辺 美恵 (日本労働組合総評議会婦人対策部)

第一日目 四月十四日 十三・〇〇—十七・〇〇

日高 (リーダー) 今年の婦人週間のテーマはみなさんと承知の通り「現代社会における家庭の役わり」、特に産業化と家庭の関係、これをお話し合いたいということですが、第二部会の進め方についてちょっとお話ししてみたいと思います。

実は私、ちょうど十年前に、第二回の婦人週間に一度この会議に参加したのですが、その当時と比べてみまして、たとえばきょうの開会式、非常に華やかと言いますか、きらびやかな雰囲気、みなさんが「卒直に申し上げますけれども、お召しになっていらっしゃる衣服その他も非常に派手になっている」という感じがいたします。十年前には非常にまだ、わたしたちの生活は、戦後後の傷跡を受けて、かなり苦しかったと思うのですが、いわゆる産業化の進展、特にこの四、五年前からの日本の工業化の進展は非常なものであると思います。私たちは日本の現代の社会について考えます時に、やはり一番強く頭の中に入れておかなければいけないことは、今から二十年前の敗戦の結果、日本が民主主義社会の方向へ踏み出すということ、私たち決意したわけですが、その転換が一番大きな転換だったと思うのです。それと同時に、あるいはそれと並んでというふうに言ふとちょっと言い過ぎではないかと思いますが、その時に、この四、五年前からのいわゆる産業化、工業化の進展というのは、いわば戦後の日本の社会にとって第二の大きな転換だったと思うのです。この産業化ということとは一体どういう意味か。午前中に大河内学長がお話になりましたように、これは単純に工業化というふうに考えて下さって

もいと思う。いわゆる高成長というようなことをしょっちゅう私たちが聞いていますが、この四、五年前くらいからの日本の産業構造の変化というものは相当著しいものがあるわけです。

日本の場合一九五三年、つまりちょうど今から十一年ばかり前で、日本がそれと現在と、婦人の労働力の率はあまり変化してないが、雇用者が非常に増えている。つまり一九五三年には婦人の雇用者が二七・〇％だったが、一九六二年、つまり一昨年は四二・七％に増えている。つまりこれは農村などで働いていた婦人の方々が、どしどし都市のほうに出て来る。あるいは農村の中に工場ができるとそこに勤めて行くという現象が、この十年間くらいに急に激に起こってきた。その結果こういう数字が出てきているわけです。現在日本の就業人口のうち、いわゆる雇用者、つまり月給をもらって、あるいは日給をもらって働いている人は、全体の五二％から五三％になっている。全就業人員の中の雇用者が五〇％をこえるというのがこの二、三年の現象です。初めて五〇％の関門を突破したが、これはいままでも家族就業者、つまり農村で自分の家の中で働いていた人達が工場とか会社で働くようになったというのを単的に意味しているわけです。

言ってみれば、戦後の最初の日本の社会の大きな変革であった敗戦に続きまして、今新しい転換期を私たちが迎えているということになると思います。そのことはみなさまはひしひしと身近にお感じになっていらっしゃると思います。

きょうはここにおいでになっている方は、農村の方、農業をやっている方とそうでない方が半々くらいいらっしゃるようですが、たとえば、現在の農村の姿貌というのは、農地改革の次の変化で

後に家庭と社会との関係について話してみたいと思います。

第一の職業と家庭の問題ですが、ほとんどの作文がこの問題に触れていらっしゃるわけです。特に農村の、主婦農家での主婦の役割、主婦にいろいろ労働のしわ寄せがきて非常に大変だという現状、など。産業化というものが進んでいる中で、家のご主人が都市に行く。その中で農村の主婦がどういう生活を送っているのか。そのようなところからお話を聞いていただいて、気楽にお互いの考えを交換してゆきたいと思っています。

農村の方から一つご意見を出していただきたいと思っています。

山崎 ただ今の先生のお話は、まるで私のことを話しているような感じがしたのですが、私のところでも主人が出稼ぎに出まして、私が一人で一町五畝ばかりの田圃をやっています。いままでも夫に依存していましたが、急に私のやらなければならぬことがあるにやがてしてしまいました。それが一人で消化できればいいが、家のこと、あるいは税金や何かの申告、近所のおつきあい、無協のおつきあい、そういうようなこと、いさゝか自分の生活と一緒にやってみなければならぬのは重荷です。いままでも知らなかったことを急にやらなければならぬので非常に苦しい立場ですが、農村の主婦が早く一人前になるにはどうしたらよいか、その方法を教えていただきたいと思うのです。

日高（リーダー） ご主人が出稼ぎにお出になるようになった原因は、

山崎 いままでは農産物の価格と並行しておりましたから生活もわりあいと楽でしたが、農産物の値上がりの流れがのろくて、いままでは農産物の価格がものすごく上がって、生活費のバランスがと

あると言っている人もありますし、そういうふうに感じとっていらっしゃる方もあると思います。農村は農村で非常に急激に変化してゆきますと、都市生活それ自体もずいぶん変わってきている。

日本の新聞が現在のようになり三千万部くらいの部数になるために約五〇年かかっている。ラジオは開局してから五百万台になるまでに二〇年かかった。テレビは開局してから十年かかって千五百万台になった。つまりテレビが次々早くなっている。テレビは今ほとんど日本全国の七五％くらいの家庭に普及しているわけですが、そういう事態は十年前には想像もできなかった。そういうように私たちの生活環境が非常に変わってきているが、そういう中で私たちの家庭生活、これがいったいどうなっているのか。このことを二日間わたって、みなさんとゆっくりに考えてゆきたいと思うのです。

きょう、特別講演で大河内さんは貧乏物語というふうにおっしゃいましたが、表面的には非常に繁栄しているように見えてもいざばその繁栄の陰に人間が隠れている。そして、その人間の陰にいろいろの問題点が増えてきているというふうにも思うわけですがみなさんの作文をいろいろ拝見しまして、この部会では第一には職業生活と家庭との関係、についてお話し合いをし、きょうの後半では、現在消費ブームといいますが、そういうことの中で家庭のいわば実勢というものはいったいどうなっているか、あるいは家が合理化されていったとして、それによって生まれてきた余暇がどういう形で使われているかということをお話ししたい、と思うのです。

明日は家庭の中の人間関係の問題、特に子供の教育の問題、最

れなくなっていました。家ではお米だけで生活していましたが、お米の値段は足踏み状態で上がりませんから、生活費を得るためにてっとり早く出稼ぎに行っちゃうわけです。

日高（リーダー） 大体いつ頃からですか。

山崎 今年で三年になります。それからいろいろ農機具が機械化されて手間があるということもありますが、根本的には経済面が苦しいということですね。

日高（リーダー） 今のご意見を受けて、どなたかご意見ありませんか。

乙谷 私のほうでは山崎さんと違ひまして零細農家ばかりで、主として五反、七反、大きい人で一町くらいですが、それだけでは現在の消費生活に追いついてゆかれない。それで婦人の出稼ぎが多くなった。秋の取入れをすませて、十一月から三月まで、お父さんもお母さんも出稼ぎに行く。その間に子供とおばあさん、おじいさんだけの家庭が多いという現状でございます。

日高（リーダー） 女の方ほどの辺にお出かけになるのですか。

乙谷 主として関西方面。蒲鉾会社とか、紡績なんです。

日高（リーダー） 石川の乙谷さんからは、男だけでなく女も出稼ぎに行っているという話を聞いたのですが、東北のほうはどうですか。

後藤 私のほうでは山間の農村で、乙谷さんのように平均五反百姓が多いので、やはり今はただ田圃に立っただけではどうしても生活ができませんので、半年はやはり出稼ぎに行く人が多いようです。それでお母さんが家をあげ労働をしなければならぬので、子供をみる時間がなす。

日高(リーダー) しわ寄せがお子さんにいっているわけですね。鷹野 山梨県の甲府の平坦地の農村婦人ですが、やはり都市に近いというところの近隣の職場に出ていますので、残った主婦は、農業経営、育児、老人の世話、家事まで、全部やらなければならぬ。現在田舎にもいろいろ機械が入りまして、昔から比べると労働力がずいぶん楽になったが、それだけに人手不足が非常に多いと思います。私の地域で兼業農家が多くなったということは、結局こうした消費ブームにおおられて、電気製品を買うことによって、少しでも生活を豊かにしたい。それには農家生活だけではやってゆけないということであると思います。けれどもやっぱり主婦は家庭にあっていいお母さんであることが望ましいとは考えています……。

日高(リーダー) いままで四人の方から、農村地帯での、ご婦人の方も含めての出稼ぎの問題が出ましたが、現金収入がどうしてもほしいということですが、なぜ現金がいるのですか？

山崎 私の家の経営は、一反歩で六人家族、大体お米で収入が二十八万、表がよく取れて十萬くらいです。それで農産物から機械の消耗費、税金を引きますと、家計費として残るのが年間八万円しかない。家計費は月五千円くらいで最低じゃないかと思う。そうしますと、お米であがったお金では幾日も生活できない。農業外収入を得なければ生活できない。

日高(リーダー) 農業外収入がどうしても必要になってくるんですね。しかもその比率がどんどん大きくなってきている。資料からもこの二、三年の間だけでもずっと農業所得が減っていった、農業外所得に頼らざるを得ないという数字が出ているわけですが、

自分の息子を養育止める方法として近代的機械を購入することも考えられていると思います。

後藤 それから若い人がどんどん都会に就職してゆきますので人手不足になって、動力に頼らうとする向きもあるのではないでしようか。

山崎 農家にそんな甘い考えで農機具を購入するのではないと思います。たしかに農機具は必要なもので、私も無理をしても買おうということですから、見栄で購入するというより、実際機械がなければ農業がやってゆけないからだと思います。

日高(リーダー) たとえば佐賀県の武久さんのほうでは、財産的な意味で農機具を買う。これはある意味ではルーム・クーラーを買うのに似ていますね。そういうところで現金支出が増える。あるいは主婦農家になればなるほど農機具というものを利用しなければ労働をやってゆけないわけですね。

片桐 たしかに現在の農業は小規模で、一ヘクタールくらいのことですが、それでも男性が働きに出て、主婦農家になるためどうしても機械は必要ですが、しかし、機械を入れても、結局、農業は儲からないということではたしかだと思っています。

日高(リーダー) 自分の所有している農地が非常に零細であるのに、一応耕耘機なりなんなり揃えるという傾向がありますか？
武久 一軒の農家では、一台の農機具の能力の三分の一、五分の一しか使わないから、減価償却が高くなるのに購入しているのを見受けられます。私の考えでは、そういう方は、青年団の方などがよその田圃も耕耘したり、農機具を持っている人がよその田も耕耘するというやり方もあるのですから、それを頼んだほうがよいと思

その実情はみなさん大体回りを見て共通だろうと思うのですが、もう一歩突込んで、現金支出がずっと増えてきているのはなぜか。どんなところに現金支出が増えているか、この点について、どうですか。

鷹野 電気製品がおびただしく普及していますから、結局隣で買えば家でも冷蔵庫を買う。今度はルーム・クーラーというふうに都会なみに売ってありますから、月賦倒れという状態です。で、主人の月給はなにもいって、支払いにあてる。そんなに困らない家でもないへん現金収入ということを考えるようになったのです。

武久 私は農家ではありませんが、私の職業上から知った問題ですが、私の地方では農家の現金支出が多くなって、十年前と比較すると、家具・汁器類の伸びが一番多く、次が燃料費、教育費は五割目くらいだったと思います。燃料費はいままでは自家生産燃料でしたが近頃は購入燃料になりましたので、それだけ増えたわけ

日高(リーダー) ちょっとうかがいたいのですが、農機具は農業生産のためにどうしても必要ですね。それが、隣も買ったから家も入れなければならぬということとどういうふうに関がりますか。

武久 農機具というのは、本来の目的から言うなら、労働の手段として購入すべきものだと思いますが、私の近所では、一種の財産にしているようです。ですから自分にもあるということを示した

もう一つは、近頃若い人達が仕事をしながらないということ、

います。

日高(リーダー) だんだん話がわかってきたような感じがしますが、いままでのお話につけ加えてご意見ありますか。

渡辺 私も農家の主婦でないからよくわかりませんが、お母さんのグループの話し合いで聞いたのですが、耕耘機の借金が終わったころに、またその上の性能の機械ができてきたので、また借金してそれを取り替えたというのです。そういう場合に、なぜそれまでにしなけりゃならぬのかよくわからないのですが、いかがでしょう。

日高(リーダー) これはある意味では、農業というものが企業として成り立つか成り立たないかということが一つある。そして、たとえば米価の問題とか、さっき岐阜の片桐さんのご意見ですと農業というのは非常に合理的にうまくやっても儲からないということですね。ところがたとえば武久さんのお話だと、農家が企業性を無視して行き当たりばったりにやっていると、いきおい現金支出が増えるという考え方になる。両方あると思いますが、いったい現在の農家が現金支出が増えてきているという実情はいったいどうでしょう。その辺はどうですか。

笠原 わたしは自分の仕事上農家を回ってみて、やはり農業は割りが合わないものというところにゆくと感じます。私も野菜やお米を買いますと、自分の売るものとか、ほかのものに比較して非常に安い。そこに高い機械などを必要とすればなおさら合わないと思います。

長谷川 私の近くは農村でも米百姓でなく島百姓です。野菜の値が天候に支配されますので、今年は豊作貧乏ということ、島から

抜き取る手間さえもつたなくて、誰か差し上げますから取って下さいという現状です。そうした中で農家経営なんかできっこないと思います。実際、現金収入がなくなれば、よそに出稼ぎをせざるを得ない。そういう百姓があるということをお考えいただきたいと思います。

山口 私の地域は一番都会に近い農村——四、五年前までは農村と言ってもいい状態でしたが、今は大きい工場ができた、小学校も中学校も、大学までもできるような土地柄でございます。私の住んでいるところでは農家の人が全体の五割くらいで、それ以外の人は京浜工業地帯へ工員さんとして通勤しています。そして、私の近くのお百姓さんは土地ブームとか、そういう点では裕福ではないかと考えます。

日高（リーダー） 近郊農村ではそういうところも出てきていますね。ただし土地を売った後、いったいどうやってゆくかということとはまたいろいろ問題があると思います。

農業問題をここで丹念にやるとしても時間がないので、問題は、つまり農業というものはある意味では非常に割合わない産業らしいというお話はかなり出ましたが、そういうところからご主人やその他の家族のかたが出稼ぎにいらっしゃる。すると、そのあと主婦農家ということになって、家庭にしろ寄せられてゆく。ですから、本来の職業と家庭という問題になってゆきますが、これは農家ばかりでなく、共稼ぎ夫婦の場合でも同じような問題が起こってきていると思います。日本の女性は世界のほかの国々の女性に比べて非常に働いている。四〇％くらいの方が働いていて、その中で雇用者が非常に増えきています。そして、その約二〇％

は配偶者があるわけです。ですから雇用者の中の約五割の四分の一は共稼ぎをやっているということになります。しかもこの共稼ぎ家族の数はどんどん増えていっている。当然農家でも主婦農家で、家庭生活にいろいろなしわ寄せがいつていっているし、農家以外の共稼ぎの家庭でもそういう現象が起こっている。そこで、そういう問題にすぐ入ってゆきたいわけですが、一番共稼ぎをやっている問題は子供の問題だと思えますが、熊本の谷口さんには、子供が乳幼児の時にはやはり主婦は家庭にいた方がよいというご意見でしたね。

谷口 子供の児童心理という点から考えますと、子供は小学校の低学年三、四年くらいまでは依存期といえますが、ほかの人に頼りたいという時期です。その時期は学校から帰るのが早いですが、どうしても家に帰ると、まずお母さんと言いますね。その時期にはお母さんが家にいないと子供は殊に寂しさを感ずると思います。上学年になると自立心が出てきて依存心がだんだん減ってゆきます。だから私は、低学年まではぜひお母さんは家庭にいて子供を第一にしたいだきたいと思うのです。

柴田 私も同意です。その人の一生を支配するほど大事なしつけは七歳までに終わると言われているそうです。私もせめて小学校を卒業する、あるいは中学校も卒業するまでは谷口さんと同じように、母親は絶対と言っていいほど家庭にいていただきたいと思えます。

笠原 たしかにそれは理想ですが、母親の立場に立つ時、仕事の性質によつては七年も十年もの空白を作った場合に、はたしてそれを埋めてゆかれるか。それから、働くということは、収入だけで

なく女性の才能を發揮する意味でも大切だと思ふ。ですからそれが理想であったとしたら、母親に代るべき家庭的愛情を何によつて求めようか。家庭の中で求められるものは家庭で求めなければならぬし、家庭で処理できないものは、施設とか社会的なもので補ってゆかなければならないと思います。そういうしつかりした気持を持って働く人は、やっぱり働くことを続けていたいただきたいという気持を持っております。

海老原 子供の低学年までの情緒の安定には、設備とか食事とか物質的なものよりも、母親の愛情が大切ではないかと思ふ。小さい時は家が多少豊かでなくても、子供の情緒の安定には母親の愛情が一番大切なので、低学年に達するまで家にいてやりたいと思います。

山崎 みなさんのお話ですとお母さんが外に出て働いている状態だと思ふますが、私の行田市内は家内工業が盛んで、お母さん方が家で働いていますので、理想としては、お母さんが家にいることはたしかに結構だと思ふますが、仕事が流れ作業なので、その家で仕事が進まないとか次の人に迷惑をかけるというので、家にいても、よそで働いている以上にお母さんが忙しい。だからお金で子供を遊ばしている現状です。だから、かえって外で働いている人よりも、子どもと母親が金で繋がっている状態でこれはよくないことだと思ふます。

乙谷 私は農業をしておりますが、朝早くから夕方暗くなるまで働くので、かえってお勤めに出たほうが時間にきっちり家に帰れるから、子どもの面倒がよくみられると思います。私は、職場を通じてお母さん方がいろいろ勉強することから考えても、やはり

外に出て働く共稼ぎは結構だと思ふます。ただ私のほうはその職場がないので困るわけです。

武久 共稼ぎという言葉は、稼ぐという字にちょっとひっかかるのです。共稼ぎでなくても食べられるような社会に早くしていただきたいということ、それから婦人が能力に応じて働くということとは大切だと思ふます。

さっきの問題ですが、子どもの立場からは母親が家にいたほうがいいのかもしれないし、母親の立場から見たら、途中でやめたら空白ができて、それを埋めることも、復職することもたいへんだと思ふます。ですから私みたいに田舎に住んでいるものには、収入は少なくても、パート・タイムみたいに、自分が働ける時間と能力に応じて働ける働き場所があったら、少しは解決がつくと思ふます。

日高（リーダー） 男女比べて、特に三十五歳から三十九歳、四十歳以上になると職をさがしてもなかなかないということがはつきり出ています。つまり四十から四十九になって職を求めると、三人のうち、一人しか職がない。これは年を取れば取るほど職が見つかりにくいということ、そういう人は大抵小さな規模の職場で働くことになる。だからだいたいの条件が悪い。さっきどなたかがおっしゃったように、一度離れるとなかなかいい職場がない。従って中間年齢層が働けるような職場を作ってほしい。これはみなさん一致すると思ふます。で、その前のところですが、子どもがいる時にどうするか。

松井 託児所なり保育所なりの設備を、県なり市町村なりで充実して下されば、共稼ぎも心置きなくできるのではないかと思います。

／＼保育所／＼託児所の設備がすくないのが残念だと思っています。
母老原 私はどうしても小さいうちは母親の手で見てやりたいと思
います。保育所とか設備の整った中でも母親の愛情は小さい子ど
もには本当に大切だと思ふ。

後藤 私の場合は兼業農家ですが、私のほうの農家では、お母さん
方は外に出て働かなければいけないんです。だから保育所は、子
供を安心して預けておいて働くためにも絶対に必要です。今では
忙しい時は子供を負って田圃に寝かしておいたり、また五、六歳
頃になると弁当を持たせて一人で留守番させている状態です。け
れども町にお預けしてもなかなか取り上げてくれないので、この
ようなことをもって國のほうからも一私たちも協力して働きか
けますが、保育所が農村地帯に多くできるようにみなさんにお
願ひしたいのです。

谷口 今は農家の場合ですが、サラリーマンの場合、ご主人が給料
が高かったら奥さんはわざわざ働かなくてもいいと思います。し
かし安月給だったらどうしても働かなければならない。お父さん
には家族手当があるはずですが、調べたところ、公職関係でもお
母さんと長男が六百万、次男以下は四百円だそうです。これでは
とても暮らせません。ある私立学校で聞いた話ですが、先生が安
心して働くために家のことを心配しないように、一人五千円手当
を出しているというのを聞きました。そういうふうにしていた
なければ奥さんも助かるのではないかと思います。

日高(リーダー) 夫が五万円以上の賞金を得ている家庭では、主
婦は一六％しか働いていない。一万円から二万円の賞金しかもら
っていない家庭では、主婦は五〇％働いている。つまり働くとい

疲れているからと突放すような母親は家庭に帰っていただきたい
と思います。

海老原 私は、主人が安定して暮らせる収入だったら、主婦は家に
いるべきだと思います。

酒本 母親が働くことの賛否は一概に言えないと思う。その人々で
事情がありますから、働きに行くのも、家庭にいるのも自由でよ
いが、結局は自分の心構え一つで解決できると思います。

もう一つは保育所の問題ですが、県がしてくれから、国がし
てくれるからとじっと待っているというのではなくて、ある小さ
い農村の主婦の体験ですが、農繁期に子供の世話が困るため、母
親同士が相談して、お宮の境内で社務所の一室を借りて、村中
のお母さんが交代制で保育した。そうしたら県に認められて、そん
なに熱心ならと県から補助をいただいて、県でも早く保育所がで
きたという体験談がありましたから、ご参考までに。

山口 いままでお話を聞いていて思うのですが、婦人の職業として、
本来適していると思われる職業、それから小説家・評論家・官吏・
弁護士というような才能を十分発揮させ、それが大いに社会に貢
献できる職業、そういうものが女の人にとって非常に理想的な職
業だと思います。こういう人は国全体から見ても数はすくない。も
う一つの場合は収入を目的とする職業そういう目的の人が非常に
多いと思いますが、生活が苦しくて夫の月給ではとてもやりきれ
ないから赤字を埋めるために働く。この二つに分けて考えて、前
者のほうは職業生活と家庭生活がある程度両立しやすいのではな
いか。なぜかという収入も多いし、時間的にも経済的にも余裕
があるからです。しかし後者のほうの、収入を目的とする場合で

うことは、背に腹はかえられなくて働いているということがはっ
きりわかります。事業の規模で言いますと、これも大きい規模に
就職している人の奥さんは一二％、小さな規模で働いているとこ
ろの奥さんは四六％就職している。これは条件の悪い職場で夫が
働いている時に、主婦は働かざるを得ない。そういうふうに働か
ざるを得ない人達に対してどういうことを考えなければいけない
かということ、託児所・保育所の問題。もう一つは家族手当と
社会保障制というものが出てきているわけです。それについては
あまり反対意見はないと思います。「賛成です」という声あり
そうしますと、次に、経済的に余裕のある人の奥さんは働かない
でいいかということです。

松井 私、痛切に感ずるのですが、食わしておく、食わしておくと
主人に言われるので、夫の収入で生活できても、女性はある程度
生活力を持つことを痛感しております。

笠原 働くことはいいいことですが、私は、収入のために働くという
ふうには考えたくないんです。個人として、家庭人として、もう
一つ社会的立場に立って、日本の國の一員であるという気持ちで働
く能力があったら、やっぱり働くべきだと思います。

それから保育所の問題は結構ですが、それに足さなければなら
ないのは母親の愛情だと思っています。しかし、子供にへばりついて
いることばかりが愛情ではないから、たえず子供に愛情を注いで
いて、そうして働けばいいと思います。

渡辺 お母さんが勤めていて、子供がお母さんの帰りのバスを待っ
ていて、お母さんお帰りなさいと言った時に、きょうは何したの、
と手をひいてゆくようなお母さんなら、職場に出て働いていい。

すと、非常に賃金が安いし、その他の条件から考えて、家庭生活
と職業生活を両立させるのは、本質的にむずかしいと思います。

日高(リーダー) それは非常に重要なご意見ですが、労働者の妻
の就職理由というのを表でみると、家計の足しにするのが圧倒的
に多く、七八％ですが、以下子供の教育費、貯金、家具、電気器
具を買うため、自分で経済力を持ちたい、ひまだから、仕事がお
もしろいから、社会との繋がりをもちたいから、これが六％、親
兄弟に仕送るといふのが四％という形になっている。つまり大多
数の人は家計の足しにするという形で働いている。そうします
と、そういう人達にとっては家庭と職業は両立しにくいというこ
とになると、大半の人には家庭と職業がうまくゆかないというこ
とになって大問題になる。どうですか。

山口 両立しないといえますのは、やはり家庭というのは憩いの場
であり、子供の養育の場ですが、お母さんもお父さんも働いてい
ると、疲れが激しいから、うちに帰って来ても子供に笑顔を見せら
れないし、勉強をみてもらうことも、一緒に遊んでやることもで
きない。すべてのしわ寄せが子供にくるところに、農村の
場合には無理があると思います。

日高(リーダー) さっき酒本さんが、一人一人の事情にもよると
おっしゃいましたが、これはどういう事情の場合に母親は家庭の
中に残っていたほうがいいのか、その点をもうちょっと具体的に
考えますと、どなたかがおっしゃっていたように、家に余裕があ
れば主婦はことさらに職業を持たなくてもいいという条件で考え
るべきなのか、あるいはもうちょっと違った条件で考えるべきか、
酒本 両方含まれております。どうしても家計の足しに働かなけれ

ばならないお母さんと、能力があつて精神を打ち込んでほしいという事情があつてやめられない場合がある。だから心構えをしつかりして、家に帰った時は子供と話し合いの場を持つたり、氣を使つてやれば両立できると思います。

生原 私学校に勤めておりましたが、お姑さんの病氣、子どもができたことで時間勤めができなくて、学校の子供に対しては自分の子ども以上に責任を持っていました、良心にすぎないのでやめました。そして一躍行商人に変わったのですが、そうすると時間に制約されない、今もやっておりますが、成功しました。だからその事情は職業にも関係するのではないかと思います。

渡辺 私も学校に勤めていましたが、家に行つて家庭のことを思つたり、家庭に帰つてから学校のことを考えたり、結局両立しないのでやめてしまつたわけです。名古屋に住みついたことがありますが、そこには未亡人とか職災家庭が十軒ほどあつて、その当時保育所も何もないので、三人か四人の子ども達が弁当を背中に背負っている。その時に私は管理人をしていましたが、お願いしやすという言葉がないわけです。子どもたちは十時頃になると弁当を食べてしまふ。三時頃になると食べるものもないし、お金もなくてゆかないので、梅がなると梅を取って食べる。梅がなれば梅を食ふというふうな状態になったのです。管理人のところに行くと匂がくるが、残つてお母さんに、家のことをお願いしますという氣持がなくなつてしまつたのでは、いくら生活に困つていても、お互いが助け合つて生きてゆくという社会はできないのではないかと思います。子どもが病氣の時なんか、枕元に洗面器を置いてやつてお母さんが、それを見た時に、誰に訴えたらいいのかと思

た労働条件としてどういふ条件があれば共稼ぎができるか、その辺はどうですか。出産を機会にして職業をやめる人が多いが、これはいわゆる産前産後の休暇とか、母体保護とか、法律的には決つてお母さんが、そういうふうなことにいつて何か意見のある人、あるいは知つていらっしゃる方があつたらお話ししてください。

生原 私は山梨ですが、甲府市のある職場では、働く婦人のために乳児室がありまして、そこで赤ちゃんを生んだお母さんにいろいろなことをしてあげます。いままでは結婚を助機としてやめる方があつたが、こういう社会情勢の中で、職業を続けてゆく婦人が必要な時に、出産のために職場を離れるというのは惜しいことだと思ひます。

生原 私と学校を一緒に卒業した者が六人おりますが、六人がそれぞれの職業についておりますが、一番恵まれてゐるのは先生のようです。産休補助教員というのがある、お産で休んでゐる間は自分の代りをして下さるから、安心して休める。私もは特殊な職業で、スクーターに乗つて回るのが仕事です。流産や早産が多いのです。

日高(リーダー) 産前産後の休業ですが、農村の一昨昨年の調査で、産前に農作業を休んだかという質問に対して、前日まで仕事したというのが六十五歳以上の人にあつた。農業を休んだ人数が、二十日、三十日までが二〇%、三十日以上が六〇%。特に産前の休養というのは一般に非常に悪いですね。

ここにいらっしゃる方には、いわゆるサラリーマン、勤労者をご主人に持った方がすくないが、労働婦人の場合では、産前産後の休暇が取れるところと、取れない職場があると思ひますね。ど

つてたいへん悩んだことがあります。世の中にそういう子どもが多いということをやまざまで見せつけられました。

海老原 家庭と職業の両立についてですが、自分の職場では仕事に集中して、その代り限られた時間以外の仕事はしない。それから主婦は非常に過重労働になるが、一家の協力体制で自分の体力に氣をつけることと、目的のための自尊心でカバーしてゆけば、ある程度の両立はできると思ひます。

日高(リーダー) つまり働いてゐる人の職場の労働条件が一つと、家庭の中の協力の体制が一つありますね。

それから福島の渡辺さんがおっしゃつた、病氣の子どもをおいて、なぜ母親が出てゆくか。これは普通は一年に有給休暇が二十日間あるわけです。二十日間の休暇の中で一日や二日、母親が自分の子どものために看病することは当然できる。そういう条件がないのですか。

渡辺 矢対労働者ですから日給なのです。

日高(リーダー) その人も生れつきそういう氣持をもつていたわけではないが、やっぱりそういう生活の中でだんだん氣持が堅くなつてゆくわけですね。

渡辺 その子どもがどういふふうにかから育つてゆくかということも考えた時に、人の子どもでも心配になつてしまひました。日高(リーダー) たしかに共稼ぎには、いろいろな点で無理が出てくると思ひますが、その場合の考え方として、無理がゆくから職業のほうはすててしまふというふうに考へてゆくのか、たとえば身体が非常に弱いという人の場合には、働きたくてもやむを得ず共稼ぎをやめる、という主婦が出てくるのは当然だと思ふ。た

うしても、婦人労働が家計補助のような形であることに問題があると思ふのです。

婦人の賃金と男子の賃金を比較してみると、十八歳未満のところでは男女比が九六%、それが、四十歳以上になると三八%です。から、ほとんど女子労働者は年を取つても賃金が上がらないという形になってゐます。ですから女子労働だけで一家を支えてゆくのはたいへんなことで、ご主人をなくした婦人は非常に苦しい立場にあります。

そういう問題が一つ。それから、職場の中で本当に働いてゆける条件があるのかどうかという問題が出てくると思ひます。私は、婦人の働く目的が家計の足し、いわば経済のために働いてゐるということは当然のことだと思ひます。経済が苦しければ働かざるを得ない。そのためになんか条件が現在必要なのかということをもう少し話し合つてみたいと思ひます。

生原 そういふ方のためにこそ、さきほどから出てゐる保育施設とか乳児施設が必要だと思ひます。それに合わせて、子供を生んで三年間は子供を養育する権利があるとして、フランスの場合、子供が五人もあれば、そのご主人は働かなくてもいいくらいの子育手当がつく。そういうふうな面で面倒を見てくれる、というふうなことも考へてゆきたいと思ひます。

日高(リーダー) 子供の手当が多いのはフランスとイギリス。それからソヴィエトなどの社会主義の国では当然そういうことが行なわれてゐます。

社会保障制度で育児手当を十八歳未満の子供が一人からすでにもらうのですが、日本のお金に直して月に千円くらいだったのじ

ないですか。これはいわゆる社会保険的な意味での子供に対する養育費ですね。

笠原 それから中国では、少年級のものできたそうですが、日本でも、たとえば学校から帰っても、お母様のいないような子どものために、音楽などを聞かせるような級も、家庭への施設としてあってもいいのではないかと思います。最低所得の家庭では子どもになかなかそういうことをやってやれないし、本当に放任されてしまいますから。

日高(リーダー) そういう子供に対してなんらかの施設がほしいわけですね。

谷口 子どものための家族手当が外国では非常に多いというお話が出ましたが、それなら日本もそれに近づくように婦人の力で働きかけることができないか。そうするにはどうしたらいいか。そういうことが何かございましたら。

日高(リーダー) そういう問題は最後のところでもう少しお話し合いたらと思います。なかなかむずかしい問題です。共稼ぎという言葉自体がちょっと抵抗があるとおっしゃったのは非常によくわかる。つまりある意味では主婦が働けば一家を十分支えてゆくだけの給料はもうべきである。それがなくて結局、たとえば農村でいえば出稼ぎに行く、都市でいえば婦人の人が共稼ぎ的な家計補助的な意味で働く。そういう状況も非常に問題がある。そうなるときき出た職場の労働条件の問題になってくるが、婦人の労働条件が悪いにもかかわらず、やっぱり働かざるを得ないという考え方と、そんなに悪いのならもう家庭に戻って子供の面倒を見てやることに専念したほうがむしろいいのではないかと、

いかと思います。やはり経済力を持っている人のほうが立場が非常に強いし、男女の平等もそこから生まれてくるのではないかと思います。

片桐 たしかにそれはそうですが、いままでうかがったところでは、ご主人が給料をもらっていらして、自分は働かなくてもやれるというご家庭が多かったようですが、農村ではどうしても、たとえば一日百円の仕事でもやらなければならぬというさし迫った状態です。この人達にとっては、働ける能力のある人は働けばいい、収入があれば家に入ればいい、というのではない。みんな働かなければならぬのです。お話しの上では、うちで働いている人と、外に出て働く人とは、社会的にも差ができてくるという。

日高(リーダー) 妻の就職、社会的活動に対する男性の意見は、妻の就職に対しては、都会の男子よりもむしろ山村の男子のほうが意見が多い。つまり働かざるを得ないところではそれを認めるという空気が強い。今差が出てくるとおっしゃいましたが、それはどういう形ですか。

片桐 お話し合いの場が、家庭の雑用なり農作業なりしている人と、職場に出ている人と、それぞれ、その人達同士の間ではお話し合いができるが、いつも働いている人はとり残されたような気がするのです。どうも、一緒にお話しした時に、お勤めの方はその人達ばかり固まってお話し合いをし、家にいる人はその人達ばかりでお話し合いするとういうことで、うまくゆかない点があるのです。私は近所隣りに住むなら、そういうことはなるべくなくして、お互いに助け合ってお話し合いの仲間入りしなければいけないと思いますが、どうしてもそういうふうになってしまいま

いう考え方と二つに分かれてくると思います。

そこでさっきの谷口さんや海老原さんのお出しになった意見は母親の立場として当然であると思いますが、そういう考え方は考えが浅いのじゃなくて、条件それ自体が非常に矛盾しているといことが問題ですね。たとえば海老原さんの考えますと、男性が十分な給料を取るような社会になったら、女性はすべて働く必要はない、という考えに繋がってゆくと思う。そうじゃないでしよう？

海老原 非常に才能があったら！

日高(リーダー) 才能がない人は働かないでいいということになりますか？

海老原 女でも男より働ける能力と力を持った方は社会のためにどんどん働いていただければいいと思います。

海老原 それは働く才能でなく、働く意欲のある人じゃありませんか。家庭を合理化して、本当に意欲のある人は働いてもいいと思います。

松井 働くこと即経済力、それから働くことが社会に貢献する面と二つあると思います。男性の収入で女性が十分生活できる場合には社会的な貢献の働き方、必ずしも経済力を得るのでもなく、社会の前進のために働くこともいいと思います。

山口 私、ちょっと違う考え方ですが、社会に貢献するにしても、私たち女の人は経済力を持ったほうがいいと思います。そうしますと、夫に食わせてもらうとか、養ってもらおうという考えから解放されて、将来夫が死んだ場合でも、自分の職業があれば、子どもに頼らなくてもすむ。老後のことも道が開けてゆくのではな

す。

藤野 農家の主婦にとっては農業が職業だと思っています。農業を職業として活かすためには、収入を得るために夫を外に出す以上、自分がやっぱり朝から晩まで農業に専心しなければならぬ。子供に対して、親子で通信する黒板を設けて、きょうはどこに働きに行っている、というふうに伝言して、子供達に愛情を注いでやることをいつも忘れないように心がけたいと思います。

笠原 さきほど職業を持ったお母さんと持たないお母さんの差、家にいると社会に遅れるということが出ましたが、結局、婦人が働くことを阻めば、それだけ遅れてゆく。女も同じ権利をいただきたいながら、それを男の方と同等に行便することができない。そういう大きな立場から、なんとか協力して共稼ぎをして働くことを続けてゆきたいという気持です。

武久 今のお話ですと、家庭にあって家事に専念しているかたは働いていないような感じを受けましたが、主婦の働きも大きいと思います。

海老原 さっき夫に食べさせてもらうというお話が出ましたが、三、四年前朝日新聞に、主婦の労働を当時の賃金に換算すると、一月にして二万円か三万円になると出ていたと思いますが、自分が外に出て働いても、それと同じくらいの収入しか得られないとしたら、そのくらいの価値があるという自覚を持つことはいいと思いますが、外に出て働くには、肉体的にも精神的にも努力が必要なので、やっぱり主婦が家にいられるなら、そのほうがいいと思います。

日高(リーダー) 家事労働というのは経済的な意味でのものを作

る活動とは労働の性質が違ふと思ひます。家事労働は経済学的な意味でいう働くというよりよい価値で考えるのはおかしいと思う。もちろん、家事労働も当然意味のある労働ではあるが、それを強調すること、職業につくというよりは婦人の場合重荷になるからやめたほうがいいのではないかと、という意見になると、またちょっと違ってくるのじゃないか。だから、家事労働と職業労働が両立できるかできないか、それが一つ。それから、妻の社会的活動、これに賛成か反対かということがある。たとえばきょうのように集まってくる、PTAならPTAに出て行く社会的活動がある。そこでこの三つの組合わせが当然出てくる。つまり共働き婦人は家事労働もやらなければいけないし、職業労働もやらなければいけない。だからひまがなくなってしまう。社会的活動のほうへはほとんど力を注ぐことができないという形になります。しかしむしろ逆に、そういう職場に出て行くということも刺激されて、社会的活動を一生懸命やろうという気になる婦人もある。それからいわゆる主婦専業の人が、社会的活動をきちんとやっているかという、必ずしもそうではない。職業生活もやらないし、社会的な場にも出て行かない。本家に家に閉じこもってしまうという奥さんもある。この三つの組合わせは複雑な形ですから、明日の午後もう少し突込んで話し合いたいと思ひますが、職業別家庭という問題についてはもう少し意見があります。

のためだけで働いている人達が、現場で働いているうちに、自分の労働条件の中でいろいろなことを希望してくる。だから当事者が働き始めなければ実はそのようなものはなかなか造れないのです。ですから、いろいろ設備が良くなったら、労働条件が良くなったら働きましようと考えて、みんなが家の中に閉じこもってしまえば、いつまでたってもそういうことは出てこない。だから働くということとはもちろん、生活のためですけれども、生活のために働いている人が、自分で自分の労働条件に気がついて、いろいろ要求することによって労働条件が良くなってゆくわけです。そういう意味では、働いている人達が婦人の労働条件を良くするために、いわば先駆者の役割をして、あとから続いて来る労働婦人のために道をきり開いてゆくことを考えたいのです。だから、そういう人達にどうしてあげたいという言い方になりやすいが、当事者がそういうものを作ってゆくというふうに考えてゆくべきだと思ひます。

婦人が家庭をおろそかにしないで同時に仕事も持っているというところから考えると、パート・タイムの仕事がよいと思ひます。これは現在の人手不足のほうからできてきた一つの例ですが、ある工場で人手不足を解消するために、工場の職員の奥さん達を、一応ご主人を送り出して家をかたづけたと、車で迎えに行つて、子どもも工場へ連れてきて、子どもは託児所のほうへ預かって奥さんに仕事をしてもらう。もちろんお昼は奥さんも子どもも一緒にする。夕方は家事ができるように奥さんも子どもも家庭と一緒に送り届けるということをやっている工場があるのです。こういうようにしていただくと家庭の主婦としては非常に働きやすくな

考えられません。

ところがお母さん方のグループができてからは、話し合いの内容が委わってきたのです。いままでは不平不満をお茶を飲みながら話していたのが、グループができてからは、たとえば隅々を一杯一杯耕すやりかたとか、この次の集まりにはこんな話をしてみようかというように、生甲斐というか、お母さんも労働によって何かプラスになる、ということを経験的に考えてきたわけです。酒本 日雇労働者の婦人のことですが、この人達の教養の場がぜんぜんないんです。普通の勤めでしたら、日曜があるから、何かできまして、職場でもいろいろ教養面がありますが、労働者には何もない。何か社会的なことなどに出て行きたい時には、休めばそれだけ一日の労賃が減るから出られないということになります。この婦人仲間を機会に、そういう人達に一週間に一度でも、勤務時間中にもちょっとでもいいから、教養の場を設けてあげたいと思ひます。

日高(リーダー) 極くもその意見に賛成ですが、ただこういうところがあるのです。つまり今共稼ぎの婦人がたくさんいるが、その人達は、時には家庭の家事労働のほうに少しお寄せがきてしまう、というふうな労働条件の中で働いている。それから託児所、保育所もないような条件の中で働いている人がたくさんある。そういう人達に対して託児所や保育所をどんどん造りたい。これは当然のご意見と思う。しかし、本当にそういうものを造ってゆく推進力になる人はどういう人かという、結局、働いている人自身が、自分達が働く上で苦しいから何とかしてくれという声を出すことによつて、必ずこのことは動き始める。だから今、家計の足し

と思ひます。

鷹野 農家の主婦は非常によく働きますが、今農村では共同炊事とか共同飼育場とか、それから農閑期は婦人の修養の場で、婦人会で中央学級とか部落学級等、いろいろな学級が開かれますので、そこで教養は得られると思ひます。私どもの村でも一月に二回生花を習ったり、編物の講習をしたりして、いつも婦人の向上を考えていますから、昔の働くだけの農村の婦人たちが、現在は非常に向上していると思ひます。

日高(リーダー) そうですね。つまり、責任を持たされて、農作業のことまで考えてやるという主婦が増えてきていますね。

ここで第一の柱を全部終ったことにして、第二の柱にゆきたいと思ひます。まだ若干みなさんの間に意見のくい違いがあると思ひますが、それはもう少し時間をかけてお話を進めていって、ときほぐしたいと思ひます。では十五分ほど休憩して第二の柱に入ることになります。

(休憩)

日高(リーダー) それではこれから順序に従つて第二の柱のほうに入つてゆきたいと思ひます。

前のお話の中に、いわば見栄で、隣りが耕うん機を入れたからうちも入るとか、ルーム・クローゼットを入れて月賦に追われるとかいうことが出ましたが、いわゆるマスコミその他で、耐久消費資材・電気器具などの広告もたくさん出ているので、農村・都市を問わずそういうものが入ってきているわけです。ここでも消費ブームに巻き込まれてはいないかというように、やや消極

的に話を持ち出しているわけですが、たとえば電気器具などは、ある意味では家事を合理化するということに実働役立っていると思うのです。いってみればほんとうに自分の家で必要なものが自分の家の家計の中で計画的に買われているかどうかということが問題だと思えます。そこで、この消費ブームというものがどういう形でみなさんのまわりに浸透してきているか、その辺からお話を聞いていただきたいと思います、特にこの問題について鳥取の長谷川さんが、大分詳しくお書きになっていましたね。

長谷川 私は具体的な例をいたしましては、近頃、オルガンなんかがないへんブームになっているわけです。これは楽器製造の企業がたいへんに発展してたくさん製造しますと、どうしてもこれを消費者に押しつけなければならぬんですが、マスコミによっても、音楽教育が、一番子どもの情操を高める上において大切であるなどという文句をつけて、押しつけるわけでございます。それで、子どもがどうであろうと、お隣りでも買ったからということ、みえの一つとして、親がほしがって買って与えるというのは、まさに消費ブームに巻き込まれている姿だと思えます。

笠原 わたしの家ではそういうものを買う時には一応家族会議を開いて子どもの意見も聞いて、主人の考えもわたしの意見も、ねえやの意見も容れて必要なものを買います。普通の家ではたいがい冷蔵庫があるが、私の家にはありません。で、すけれどもみんな音楽が好きなので、ステレオを買いました。掃除機も持っておりません。いくら電気屋さんが押しつけに來まして、一応みんなでも検討しなければ買いません。

渡辺 今から十年前、わたしが学校を辞めた当時に、すこし疲れて、

き込まれた一例として申し上げたわけです。もし音楽教育をするならば、むしろ初歩は、自分が弾くよりもいい音楽を聴くということ、レコードからでもよろしいと思うわけです。無批判に、お隣りもあるから私もということになり易い姿が問題だと思えます。

日高(リーダー) そういう例が間々あるということはみなさまも大体お気付きのことと思いますが、農村のほうはどうですか。

鷹野 電気釜とか電気洗濯機というものはとても主婦の過重労働を緩和してくれると思います。私は、燃料は自家にありまして、最初電気釜を買ってくれたといいますが、要らない要らないと反対していましたが、大学出た娘が東京で自炊生活して重宝だから買ってやると言っていて、夏休みにおみやげに持って來た。そうしたら朝御飯炊いているうちに草取りもできますし、洗濯機を買ってもらってから、御飯作りしている間に洗たくが出来て重宝しています。広い田舎のことですから、五十層もあるところを毎日はいっていたが、昨年次男が掃除機を買ってきてくれましたら、やっぱり重宝です。だからやっぱり電気製品はありがたいものだと思います。この頃子どもに感謝しながら使っているのですが。

日高(リーダー) つまり家事の合理化と電気製品の関係ということですね。その辺はいかがですか。

武久 たしかに使えばいいものと思いますが、それを購入する時にどのくらい苦労するか。そのために、それを買わない以前よりもよけい働かなければならないとか、それからたとえば電気器具を入れる時に、当面一番必要な器具から購入する場合、どう順序を決めるかということが問題になると思います。また、電気炊飯

病気になるってしまったので、人を頼んで炊事や洗濯をしてもらって、一日日当百五十円を出していましたが、主人の俸給では間に合わなかったのです。それで、私の病気が治りつつある時に家族が相談して、お母さんのために洗濯機を買ってあげようじゃないかという意見が出て、それなら、お母さんの誕生日までということ、みんなで積立貯金をやって、二年間かかって私の誕生日に、買ってくれました。それから何年も経ちました。積立貯金をして、二年間辛抱すれば自分のほしいものを買えるというところで、長男の誕生日には音楽を聞くラジオ、それからお父さんの誕生日にはすこし胃を悪くしたので、ミキサーとか、娘の誕生日には、二年間かかって炊飯器をというように順々に、足かけ十年間かかってどうやら電気器具を一通りそろえたわけですね。その間、子供が教育にかからないうちになんとか形をつけたという考えで、月賦で買うというのをなるべく避けるために積立貯金でやったという次第でございます。

山崎 ただいまオルガンの話が出ましたが、私のほうも、中学も小学も音楽の発表会とかいまして、音楽を習いに行っているお子さんたちが招待券などを、クラスの仲の好い子どもに分けたりして、なんとなく先生方もそういうことを話題に取り上げたりするので、無理をしてもオルガンを習うとか買うとかいうことがありますが、教育的にも、そういう消費の仕方の問題があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

日高(リーダー) いまの問題をすこしみなさんで議論してゆきたいと思えます。

長谷川 オルガンが悪いというわけではなく、これがブームの中に巻

器を買うときに、それと組み合わせたいムスィッチを買うと、とても合理的に使える。つまり、より器具が効率的に使えるように工夫する必要があると思います。もう一つは、その手入れ、活用ということも必要じゃないかと思えます。

谷口 使い方によっては非常に役に立つが、それを無批判に入れますと役に立たない場合もあります。

私の近所のお年寄りが、電気掃除機を入れたという話をきいて、たいへん進歩的なかたと感心していましたが、いかがですかとお尋ねしたら、実は買いましたが、やっぱり掃のほうは便利で、一べんも使いませんとおっしゃった。だから、買うからにはほんとうに必要だということを確かめて、よく調べてから買う必要があると思えます。

酒本 私も長谷川さんと同じように消費問題を取り上げて書きましたが、いまおっしゃったように電気器具が合理的でいいことはわかるが、私どもの地方では、働かなければならない主婦が多いので、内職をみなさんなさっています。内職は時間で安い賃金でするので、いきおい電気器具でも、既成品のようなものが家庭に氾濫する。家計の収入の足しに働いているのが、結局お金がないから月賦で買うと、支出はよけいふえる。すると一生懸命働いているのが増収にならないから、もうすこし時間を延ばして働く。そこに問題があると思います。だから目的を誤まって消費ブームになるというところの問題があると思います。

日高(リーダー) 月賦々々で追われて、家事を合理化しながら、また労働過重という格好になってしまふ。農村などのばあいはどうですか。秋田なんかいかがですか。

後藤 私のほうでは電気製品は、それほど入っておりませんけれども、やはり考え方が低いというか、必要のある炊飯器や洗濯機よりも、子供にせがまれてテレビが多く入っている状態で、これはほんとうに矛盾したような感じを受けます。一軒の家でテレビをつけると、子供がめずらしがって何十人も集まって見に行きます。あまりよそのお宅に迷惑をかけないからと子供をおさえつける。子供は見たいというので御飯食べるのもどかしそうに見に行くという状態ですから、それがかわいそうだというので無理に買っているのが多い。子供をおさえるべきか、家計の苦しいのをがまんして買うべきか、問題があると思います。

海老原 私は農村にありますが、難しい話ですが、苦しい思いをして電気製品の中でテレビを買いました。子どもが社会から遅れないためには、それもやむを得ないのじゃないかと思えます。

乙谷 私の部落でも零細農家はかりですが、テレビの普及率が九〇%、電話が五〇%、最近では冷蔵庫も入っている。それが、みんなお金があつてするのでなく、虚栄心でたいへん無理をしてやっているわけです。

それと、お母さん方の服装など、着るのではなくて、ダンスにしまっておきながら、流行のものを次から次に買ってゆくという状態です。一方で封建性が残っていて、昔ながらのお節などでも五十人前六十人前持っている。うちにはないお葬式に恥かしいからと買っておく。その上にまた新しい製品も買う矛盾、そういうことでよい苦しいがっています。

日高(リーダー) 農村辺りで、お嫁に行く時に道具その仙持たせてやるといふ風習が残っている、というよりも、年々盛んになっ

てきているようにですね。いかがですか。

乙谷 一月ほど前ですが、私の甥の仲人役をしまして、なにも要りません、とお嫁さんをとるほうで言われるまゝを伝えました。そうしたら、仲人というものはそういうことを言うものだと言っていて信じませんので、私は隠しごとだと言って簡素にしろといましたが、親心だからと一通り下さったが、すぐ片付けて誰にも見せないようにしました。

海老原 私、社会教育のほうを担当していますが、結婚指定地区というところになっている地域で、この間青年団と話合った時に、大きな家でも小さな家でも、持たす数は同じだし、何となく衣裳が多い。三十万や四十万でも、合理的に物を持たせるのならかまはない。二、三年経ったら流行おくれになる衣裳などを持たせるよりも、合理性をもった支度が大切だ。身分相応ということとは、嫁にやるほうではできないので、男のほうから言い出すべきだと話し合われ、だんだん簡素化できるのじゃないかというところまで行っています。

日高(リーダー) 私、農協婦人部の集合に時々出ますがいつでもそういう話が出る。ある意味では聞き飽きたという感じがするが、どうにもならないということは、どこに原因があるのでしょうかね。

海老原 財産分けということも一つの意味になっている。田舎では、五人の子供があるとすると、均等配分になるのを、親が死ぬと、長男がみんなのところを棄権するという判を頼みに行く。やはりその意味でも、支度をしてやりたい、もらいたいという気持があ

てきているようにですね。いかがですか。

柴田 終戦当時はほんとうに地味でしたが、その後花嫁衣裳は農協婦人部などでお貸しするのでそのほうにはお金がかからないが、持っていく衣裳にそのお金を回すといった無駄な使い方をしたとせるという風習が年々ふえてきているという状態です。

片桐 やはり私どもの近所でもそういう傾向は多くあります。電気製品はほとんど全部、冷蔵庫まで持たせてあげる家が多くなつて、それでよい農家は生活が苦しいのじゃないかと思えます。

日高(リーダー) 普通平均どのくらいかかると言っていますか。片桐 普通の方が低くて八十万ぐらい。それだけの支出を二人も三人もにかけていたのでは痛みにきまっていますが、なかなか改善されません。

日高(リーダー) セケタ農薬がやつと八ケタになつていてどこですから……それで八十万衣裳持たせて、一年分の労働力ほとんど飛んじゃいますね。

藤野 私のほうも以前は結婚の簡素化とか新生活運動で、振袖も着ないしモーニングも着ないと決めましたけれども、結局ただ決めたことだけで、ちっとも実行されなくて、ますます派手になつてゆく。嫁入支度に農村の親は悩まされていると思います。

結局農村にお嫁さんが来ないという問題も、農薬労働をいやがるということもあるでしょうが、嫁入道具に金がかかり過ぎるといふことも一つの問題点だと思えます。その上、一年経って赤ちゃんでも生まれると、ベビードランスから一切のものを持たせる。それが何十万とかかるのです。もうすこしここを改善してゆきたいと思えます。

るのでしょう。

笠原 私が農服の行商やっている立場から、お嫁さんに行く人に、最小限度のものをすすめてあげた。そうしたらお姑さんから苦情が来た。

わたしなんかは、自分の洋服でも、流行の型に何度でも縫い直して、八年ぐらい着ています。だから、やっぱり一人一人の自覚じゃないかと思えます。

日高(リーダー) 大体今までのお話に御賛成と思えますが、所感文の中で、物価が上がって行って家計が苦しくなつてきているという問題もかなりありました。物価と家計の関係、あるいは家計の中のいわば非常に無駄遣いというものとのバランスについて、ご意見ありませんか。

長谷川 私は家計簿をつけていますので、家計簿から眺めますと、いろいろな生活のカルテを得るわけです。三年ほど前の食品支出の額と、三年後における額とほぼ同じです。それはどうしてかという、物価がたいへん上っているのに同じというのは、食品に對するお金よりもほかの家具費とか被服費によいばかり、シワ寄せが食品にされているわけです。ですから同じ金額でも食品の内容が非常に落ちてきているわけです。そのところを、消費という面で、主婦が一家の健康を支えるために、重大に考えなければならぬと思えます。

日高(リーダー) 友の会の方、いかがでしょうか。友の会は家計簿の運動を長くなされているので。

市岡(特オプ) 家計簿は生活のカルテだとおっしゃったのはよくわかりますが、農村の方たちが家計簿をおつけになるのは非常に

むずかしい。年間を通じての普通収入が一定していませんから。それからいまだ、三年ほどの間に食費が同じというのは、御自分のことではなくて全体的な資料ですか。

長谷川 グループです。

市岡(特オプ) 私どものほうは違っておりまして、変動がひどくて去年はたいへん食費が高騰している。一昨年までは一番最初に衣服費が上がって、汁器器具が上がって、去年は食費が上がりました。というのは、婦人の自覚で、食事をちゃんととらなければならぬという運動が高まってきたために、今まで主食に重点をおいていたのを、副食物や乳製品を多くとるようになって内容が変わってきたので、食費が上がったわけです。食費だけは他の費目を削ってもたっぴりという運動をしているので、食費を絶対下げたくない。その上にゆとりがあったらほかのものに回したいという気持は誰もあります。

それから共稼ぎをする人の問題ですが、薄給の人ほど高い住宅費を払っていて、大企業で給料の高い恵まれている人が三百円で社宅に入れるという矛盾があります。

日高(リーダー) 今のお話で、食内容を向上させたために、食費がふえる場合と、物価が上がったために食費がふえる場合と、どちらが多いでしょうか。

市岡(特オプ) 季節的なような気がします。一年間を通じてみますと、たいへん青い野菜が不足する六月から七月にかけてとても上がった、それが経済成長とかから合せて、たいへん上がる時がある。こんどは冬になるとやたら下がって、白菜なんか、農家の方があれで商売になるかという時期があります。一年を通じて丹

目に、子供の教育費が出ていますね。家計の足しというのが七八%、子供の教育費三二%、かなりウエイトを占めていますね。

今日ここにいらっしゃる方は、住宅問題にあまり困っていらっしやらないようですが、みなさんの周りはどうですか。

片桐 私自身の家は広すぎて困るのですが、長男が嫁を迎えて別居しました。そうしたら六畳と三畳の部屋だけで六千五百円払うので、とても困るのです。

山口 川崎市は非常に土地ブームで、五年ぐらい前は坪四、五千円でしたが、いま三万から四万円出しても買えない状態です。ほとんど一戸建ての家がふえている。その家賃も、二、三年前は八、九千円から一万円と聞いていましたが、今では一万六、七千円から、三部署ぐらいいなると二万円近くの家賃を払わなければ入れない。私も借家住いで、なんとか小さな家でも建てたいと思って、自分の収入に合った計画を立ててやっていますが、十年間ぐらい共稼ぎをしてどうやら土地が買えるのではないかといいやすでございませう。

長谷川 私、鳥取の米子市という田舎町ですが、それでさえも一坪が、町の真ん中は四万から五万です。ちょっと市外地になりましても一万円する。それで現金貯蓄をしても貯金の利子が五分五厘しかつかない。で、同年の計画で土地を買おうと思っている間に、その土地の値段は一年に千円、二千元と上がっていきますので、五分五厘の利子では追いつかない。それでみなさんの気持が堅実型よりも投機型に変わってきつつあるということを心配してきます。こういうムードが子供にもうつりつつあるので、教育的にも非常に大問題だと思っています。

念にデーターを作って考えますと、いわゆるボーダーライン以下の人が米価が上がったりという物価高で困るというのと、季節的な出荷のアンバランスによる影響と、二通りに考えなければならぬと思います。

日高(リーダー) 大体みなさん、やりくりお上手な方ばかり集まっています。ところが、家計の中で最近目立って、こういう点が重荷になっているという点があったら出していただきたいのですがいかがでしょうか。たとえば教育費の問題なんかどうですか。

山崎 普通、学校で使うためのお金でなく、体育館・プールが出来ますといろいろな面から寄付を出す。そういうお金が非常に多いのじゃないかと思っています。予算にない教育費がずいぶん出るのです。だから、義務教育費だけは、寄付なんかを取らないで施設をつくってほしいと思います。

日高(リーダー) 一昨年度の資料ですが、全日制高校で一年三万七千円かかる。さらに都市・農村を通じて、八人に一人はいま大学に進学している。すると大学の教育費なんかもなかなかたいへんだらうと思います。そういう点でなにか体験のある方はお出しただきたいと思っています。資料では小学校が年一万四千円、中学校が一万八千円になっています。

酒本 私立大学の教育費が国立に比べてたいへん高いのですが、国の予算で私立を援助してもうすこし安くしていただきたい。誰しも国立に入りたがるが、能力や学力に応じて私立に行かなければならぬ場合が多いのですから。

日高(リーダー) 婦人で職業をもっている人の就業理由で、二番

笠原 住宅問題について日高先生のお書きになったものを読んで驚きがあります。あるお母さんの発表ですが、共稼ぎして家を建てようと思っても絶対実現しない。だからそれよりも公営住宅をたくさん建ててもらおうようにすべきだ、というようになりましたが、その夢を近くする方法を教えてくださいたいと思います。

日高(リーダー) 戦後日本で大体八百万戸家が建てた。そのうち自力で建てたのと公営と比べると五割一ぐらいだったと思います。いわゆる住宅問題を解決するということをいろいろ政府のほうでも努力しているのですが、そのスピードは実に遅い。ですからこういう問題については、個人の力を越えたところにある問題だと思えますから、どうしても公共的な力で解決するより方法がない。そういう部類の問題だと思えますが、それについてはあとでまたお話をしたいと思っています。

消費生活の問題については商品知識が非常に大切だと思えますが、これについて長谷川さんが人工の色紙、食品の着色の問題をお書きになっていましたね。

長谷川 製造する企業家よりも消費者のほうに主権があるのだということを自覚して、消費者がよい品物を買うために手をつなげば、悪徳業者などに騙されるようなことはないと思います。私はあまり色彩が濃厚な練製品など作らないようにしてくださいと業者に申し込んだのですが、業者は色をつけて美しくしなければ売れないと言います。ですから、われわれ買手ほうに主権があるので、それから、そうした非衛生的なものはボイコットするだけの態度が消費者にほしいと思います。私が書いたのは、ポリエチレンの袋に入れたジュースのことで、五円を売っているが、保健所で検査して

いたいだいたら、水に甘味と防腐剤を入れて着色してあるだけで、原価計算すると一円でできる。それを五円で買わされて、栄養にもなんにもならないものを子供がなめている。そうしたこととも私たち主婦が手をつないで、いい品物を正しく買うようにして、悪徳業者を締め出すだけの運動をしたいと思います。

日高（リーダー） 有害食品の問題について、「知らずに食べている有害食品」という本が出ています。アメリカでは、人工色素は以前は十八種公認されていたが、現在十二種になっているそうです。ところが日本では以前と同じで、現在でも二十四種で、その中には痛になるおそれがあるタール色素というのがかなりあるらしいのです。そのことについては二、三年前に日本で国際癌学会が開かれた時にも問題になったそうですが、依然として日本では二十四種が許可されている。それから、たとえばアメ玉とかジュース・オノロケマメ・中華ソバ・黒ゴマ・抹茶・バター・ソース、みそ・ノリの着色もかなりある。愛知県はノリの産地ですが、あそこで一番安いコールドタールの色素を使っている。それを入れるとノリが黒光りする。果のほうでとめたが、業者はすでに東京市場に出していたので、回収して戻ったらしい。

それから農家で、キューリとかナスビにポリドール液の薄いのをかけるということがある。そういうことを農協が指導したことがあって大問題になって、果の衛生課から差止めになった。そういう例がずいぶんあります。これは非常に面白い本ですから、ごらんになればいいと思います。

そういう商品知識の問題はかなり主婦にとって重要だと思います。アメリカなんかの場合かなりひどいことがあるらしい。バックカー

が非常にたくさん入っているというので禁止になりましたね。

それから牛乳の中にベニシリンが入っているという問題がある。これは乳牛の精製を防ぐためにかなり大量にベニシリン注射をやるらしい。それが回り回って乳製品の中に入る。ベニシリンは、たいして必要のない時に使われると、ベニシリンが必要な病気になる時にベニシリンが効かなくなる。そういう問題はたくさんあるようです。そういうものの広告に巻き込まれないようにするには、どうしたらよいか。

渡辺 私、食品と衛生という本を読みました。シグダニの中にゴムが入っているというのですが、ほんとうでしようか。

長谷川 この問題は一人で考えてもどうにもならないので、これこそみんなで手をつないでやらなければならないと思います。たとえば、インスタントラーメンは十六種類あるが、それを広告に書いてある文面通りにやっても、上等に出来たのはたった二種類しかありませんでした。いかに広告というものがわれわれを騙すかというのを考えなければならぬと思います。電気製品のような高価なものになりますと知識がないからわかりませんが、大体、消費者を守る法律が少ない。もっと消費者を守る法律をたくさんつくっていただきたいと思っています。

日高（リーダー） それからもう一つは、消費者目体かたとえば主婦連とかその他の婦人会などの組織を通じて商品知識をみんなに普及するような雑誌とかをつくるいいと思います。アメリカあたりでは、広告を全然とらない雑誌を作っている。日本で言うところの「暮らしの手帳」というのがありますね。ああいう広告のひも付きにならないような雑誌を出して、商品と比較して、消費者教育を

ドという社会学者の本によりますと、アメリカの製造業が、売出した品物をどうやって早く捨てさせるか、その作戦ですね。一つは、心理的に捨てさせる作戦です。つまり流行遅れにしてしまふ。自動車の型をちょっと変えろとか、日本でも盛んにやっています。電氣冷蔵庫に自動霜取装置をつけたり、ちょっと変えて、実にいいというふうに宣伝して、前のものを心理的に捨てさせるという作戦です。それからもう一つは、それ自体が永持ちしないようなものをつくる。アメリカのタイヤですが一九二〇年頃出来たタイヤと現在のタイヤを比べますと、現在のタイヤの倍の耐久力がないらしい。あまり丈夫なものをつくとあと交換しないからです。もっと面白いのは、ジャガイモの皮むきの道具をたくさん売る方法を心理学者を雇って研究させた。ところが心理学者は、ジャガイモの皮と同じ色のナイフをつくった。すると、皮の中にまぎれて捨ててしまふから、売れ行きが何パーセント上がったというんです。日本でも売らんかなの広告にずいぶん問題があると思う。最近の薬品の広告なんかはずいぶん問題じゃないかと思う。いわゆる強肝剤のアンブルだとか、精神安定剤など、続けて飲むと害がある。それから合成洗剤などにも衛生的に問題のものがある。そういうものが、大手をふって広告が出ているのですから、消費問題というのは、主婦の立場としてはもっともっている研究する余地があると思います。みなさまのほうからそれに関連して御意見があったら出していただきたいと思っています。

渡辺 インスタントの食品なんかにもいろいろ問題があるのでしようね。

日高（リーダー） 最近出ているインスタントのゼリーで、防腐

やっています。そういうことも、消費者側としては今後考えなければならぬ。

渡辺 それから抽せん券付きとか招待券付きとか、耕うん機を買えば三泊伊豆旅行とかいろいろ付いているので、それに迷わされて買ったりするばあひがあります。

笠原 いま出ているもので暮らしの手帳のほかに適当なもの、ご存じでしょうか。

市岡（特オプ） 消費者協会からパンフレットが出ています。この間冷蔵庫のテストをやりましたが、みんな実験したのをまとめてパンフレットにして出しています。

日高（リーダー） それでは次に、家事労働の合理化から生み出された余暇について、御意見を出していただきましょうか。

これについての資料では、ごく一般的にいうと商家・農家・漁村の家庭の主婦は非常に余暇時間が少ない。

それからレジャーブームなどという言葉が盛んに新聞に出てくるが、みなさんの経験レジャーがありますか。私は二、三年前に、一九六〇年は黄金の年でレジャーがふえる、それで十二月末にある新聞社の人が、レジャーブームをどう思うかというインタビューに来た。それでその新聞記者に、あなたはいったいどのくらい働いているのかと聞いたら、新年号を作るのでこの二日ぐらいいはほとんど寝てないという。全然寝てない人が一生懸命、レジャーブームについて聞きに来るのでこっけいだと思っただけですが、実際にレジャーというのはそうたくさん持っていないと思います。が、サラリーマンの奥さんは、どっちかという暇があるので

藤野 農村でも、農閑休暇には家族ぐるみで一日清遊して温泉に行くとか、山登りとか、それからクリスマスが来るとクリスマスケーキを買って来て、都会なみに家中でパーティーをするとか、そうした楽しみもだんだんするようになりました。

山口 個人は、ほとんどレジャーというものはございません。大体、一日八時間労働か九時間労働に就いていますから。私の地域を見回して考えますと、全体の七〇%くらいの人は共稼ぎをしているのじゃないか。あとの二、三〇%の人はお茶の湯をしている奥さんもあるし、その他いろいろですが、私の地域では比較的レジャーを楽しむ環境の人は少ないのではないかと思います。

山崎 農村の主婦の方の余暇の利用方法ですが、見ておきますと、わたしのところでは、鎌や道具を持って田圃に出ていさえすれば、姑たちは仕事をしているものと見ておきますが、座敷で裁縫とか細々したことをやっている時は遊んでいるふうにとられてしまうので、そういうふうとたまたに時間の使い方をよく理解していただけなら、もっと農村の主婦は自分の時間が持てると思います。わりあい時間はありますが、区切りをつけて時間を利用することがまことに下手だと思えます。

谷口 私のほうはいは共稼ぎで、一般のサラリーマン家庭と同じです。から日曜日は休みになるわけです。ふだんは二人とも働いておられますから、大体二週間に一回ぐらいは自家用の小さい車を持っているので家族四人でドライブをする。あるいは夏休みとか大きいお休みが来た場合には、昨年の夏は南九州を一周しました。そういうふうな、家族みんなが話し合って計画を立てて、旅費も、みんなのお小遣いを出し合って毎月貯めておくというふうにして

おります。ドライブができない時は、小さい花壇を持っているので、家族揃って、手入れをするとか、あるいは一緒に歌を唄ったり、楽器を——一人は笛、一人はハーモニカ、一人はオルガンを弾くとかで、合奏したりします。一週に一回ぐらいはなにか家族でやるというように計画しております。

乙谷 谷口さんのお話を聞いて、夢のようだと感じしていますが、私も山崎さんと同様、考えれば余暇をつくることはできるのですが、お姑さんに気がねでできない。家事労働を一生懸命やっていますが、遊んでいると思われる。そういう点にもっとお姑さんの理解がほしいと思います。そういうことも、嫁に来手がない原因ではないでしょうか。

日高(リーダー) 姑の問題は明日取り上げたいと思います。嫁姑の問題は、現在はかなりよくなって来つつあると思いますが、戦争直後この婦人会議が始まった頃は、ほとんど嫁姑の問題が話題の中心になっていました。

農繁期には十四時間以上働く人が六〇%、五一%が普通の時でも八時間から十時間労働ということで、農村の主婦はかなり忙しいということではこれでよくわかります。

余暇の過ごし方について、何かの問題では、テレビについては海老原さんが、子供にとっても知識を得るためにいいと思って入れたということでしたが、それと違ったお話がありましたね。後藤 私の部落では、大体七〇%から八〇%以上がテレビを持っていきますけれども、私の場合は、余暇の使い方としては、星は田畑に行かない時は家事労働をやって、夜の時間はできるだけ自分のために使いたいと思っております。本を読んだり、それからあと

は内職がござります。テレビを見ることは考えることをしないと、いうことに通ずると思つて、特別見たい番組は見ますけれども、それよりも本を読もうと思っております。

海老原 子供の教育と勉強が両立しないということがありますが、うちは、留守の間に子供がテレビを見て淋しさを紛らわすという傾向がある。テレビの中で、好ましくないとされる番組の中にも、ちょっといいことがあると思う。好んで見ている番組ならなるべく家族と一緒に見て、それをタネにして冗談めいてでも、こういうことはどうだとかこうだとか子供と話してやるのが楽しいらしいし、そうすると、番組の悪い点もカバーされると思えます。

日高(リーダー) テレビの見方ということがあるのですね。海老原さんのおっしゃった面、たしかにあると思えます。

山崎 いまのお話は、テレビを見て結果がよかったということですね。私の場合は反対ですが、テレビを見ているから家庭的な家族のつながりがなくなっちゃうと思う。見たい番組を見て、見なくなればさっと寝ちゃう。家族の団らんがテレビに取られていってしまう。だから、あんまりテレビに促われないようにしたいと心掛けています。

谷口 やはりテレビの見方になりますか。私の家では、一日に、普通の日は二つだけは見たいというようにしている。自分で一番見たいという番組を選ばして、それで私も見たいと思うものを見せるが、その時おともできるだけ一緒に見て、ほかの時は消すということになっております。そういう習慣になっておりますから、テレビが勉強にそう害になることは考えられない。むしろ

勉強の足しになっている。指導の仕方では、いいほうに行くと思えます。

渡辺 私は普通、教育テレビを見えています。そして自分の子供が帰って来た時に——学校でも見ているわけですが、お風呂に入った時に、今日理科でどんな勉強したと聞くと、今日はこんなのがあったと話す。五年六年生になりますと、宿題なんか聞かれた時に戸惑う、その時に教育テレビでも見ておけば有効だし、意識があるのではないかと、今も続けています。

藤野 これはNHKにお願いたいが、農村ニュースに非文化的なものがあつたり、農村の苦しいことが非常に写されている。そういうのをあまり見せるから、農村にお嫁さんが来なかったり、後継者がなくなるのじゃないか、だから、もっと明るい農村を描いてもらいたいと話したことがあります。

日高(リーダー) 卒直に視聴者の立場からNHKなり民放なりに注文を出すということはテレビなりラジオなりをよくすることにかなうと思うが、案外そういうことが地域でも十分されていないのではないだろうか。テレビの聴取者のグループを作って、その中の話題を注文という形で放送局に出すことも、家庭の主婦としてやり易い方法ではないかと思えます。

藤野 千葉県のフクハラミカンは明るい話題でした。だから明るい農村の例もあるわけです。私は一日の新聞を朝見る時に、テレビで見たいと思うものに赤鉛筆で印をして、その時間になると見るようにしております。

日高(リーダー) 私は、明るいとか暗いとかにこだわる必要はないと思う。ほんとうに明るい面があれば明るいとして出すべきだ

し、農村であろうが都市だろうが、暗い現実があるとすれば、それはそれとしてみんなに知らせるのが、ある意味では報道であり、教養であり、娯楽であり、真実を国民に提供するということが非常に大切だと思います。だから、明るい、暗いというよりも、むしろ明るい真実があれば明るい面を出すべきだし、暗い真実があれば暗い面を出すべきだと思います。

武久 いま余暇のお話がありました、私はみなさんが羨ましいと思います。

私は、職業に費やす時間が八時間で、往復に費やす時間を入れれば十時間ぐらいかかる。残りの二時間か三時間を、買物とか食事の準備とか家事にかける。あと、残りまたは十時間は、睡眠とか整理などにかける。結局余暇は一週間にまとめて、日曜にあのだけだ。その余暇はごろ寝のほうが多い。それから季節季節に行なり家具の手入れとか、部屋のもよう替えに費やします。またそのために買物に出かけることが多い。ですからみなさんの話を聞きましたら、自分が生活に追われているのが切実に感じられて、こんな余裕がない生活をしていたらだめになると心配になりました。

日高（リーダー） 実は、ごろ寝が多いというのは全国の調査でその通りです。だからやっぱりくたびれているのでしょね。結局、暇があれば体を休めよう、そういうところにつながってゆく。ともかく私たち、ほんとうは働きすぎている。実際八時間労働になっているんですが、いまのお話の通り、十時間も働いている。あるいは農村では、統計表ではつきり出ているように、十二時間以上も働いている。ともかく日本人は非常に勤勉で、その点は非常にいい

いが、むしろ働きすぎたということが全体を通じて言えると思う。そこで、ある意味では、余暇をどういうふうに設計してゆくかという問題も、労働時間の問題と切り離しては考えられない。

ILO条約で四十八時間労働が決まっています、日本は戦後この条項を批准している。ILOでは現在は一週四十時間制というところが問題になってきている。日本ではそれが全然まだ問題になっていない段階ですね。これはやや歴史的に言いますと、十九世紀から現在まで労働時間が徐々に短縮されてきていて、最初は労働者の要求が十時間労働だった。第一次世界大戦が終わってからは八時間労働が要求された。メーデーというのは、アメリカでシカゴの労働者たちが最初にやったが、あの時の要求が八時間労働でした。それが日本では、戦前は八時間労働制は認められていなかったが、戦後四十八時間制になったわけです。現在、世界の趨勢は四十時間労働になっている。そうなっただけで余暇の問題がほんとうに生きてくると思います。

谷口 わたしは、もうすこし日本人は時間的観念を強くもったほうがいいと思います。それぞれの家庭で時間を作って生活するといふふうにすれば案外余暇が出てくるのじゃないかと思ひます。やる時はやる。休む時は休む。主婦が自分の時間を見出すということも必要だと思います。

日高（リーダー） 一方では制度的にきちんとしてゆく、一方では一人一人の心構えを作ってゆく、この両方が結びついてゆくことが大切だと思います。中小企業を例にとりますと、中・高年齢の人は日曜・祭日でも仕事に出てくる。そうして残業手当を稼ぐ。ところがいまの若い二十前後の、特に二十前後の人は、雇われて行く

時に第一の条件として、週休制があるかどうかを非常に気にしている。それから実際に仕事の現場を見ていても、若い人は五時に終るとすると、時間がくればささと帰る人がふえてきている。中年以上の人はなかなかそれができないので、のんびんだらに仕事をします。すると婦人が一番損をする。つまり、制度的なけじめをつけるという習慣が一方では必要で、一方では、余暇は、つくるものだという心構えがなければできないものだ。つくった余暇を、その次にどうやって活用するかという問題になると思います。

長谷川 家事労働は合理化されたが余暇がないという例ですが、私の家の周囲の人は、共稼ぎでない家は、家庭の雑務をしたあとで、瞬時も惜しんで、テレビとか電気製品とかを買うために内職をやる。ですから、家事は合理化されても、それよりよい内職のための労働時間が必要になるというわけです。

日高（リーダー） それでは第一日は以上でおわることにいたします。

（第一日了）

第二部会 二日目

四月十五日
於 虎ノ門 共済会館

二、結婚後、あるいは出産後も働きたい婦人のために必要なこと

(1) 託児所、保育所、そういう社会施設の整備

(2) 職場の労働条件の改善

(これは母体保護の問題、労働時間の問題等)

(3) 家庭の協力

(4) 家事労働の合理化

(5) 母親としての愛情と配慮

三、働く婦人は、働くことの意味、目的を自覚する必要がある。

(1) 家計のため

(これはただ流行の衣裳を買うとか、つまらないものを買って、月賦支払のために働くということではなくて、もっと合理的に家計を豊かにするため。)

(2) 独立の社会人としての力を作るため

(3) 社会のために役立つため

四、働く婦人の地位はまだ低い。

(その改善のために)

(1) 男女差をなくす (2) 婦人の質を作る

五、中高年齢層の再就職の機会をふやす。

(この中に婦人のためのパートタイムの職場をふやすことも考えられていいと思う。)

六、今働いている婦人が力を合わせて職場の労働条件をよくすることに努力する。

(これが非常に大切だと思う。きのうも申し上げた通り、働いている当事者がやはり自分自身の職場をだんだんよくすることに努力する、ということが後から働いてくる婦人のためにも非常に大

開会 午前一〇・〇〇〜十二・〇〇

日高(リーダー) 昨日の話し合いで、後半の「消費生活」の問題などについてはあまりくい違った意見も出ていなかったと思うのですが、一の方の「家庭と職業」の問題についてはいくらかお考えの違ひ方もいらしたように思ひます。もうみなさん気が持がすつかりほぐれて、少しは論議しましても別にこだわりはなかりうと思ひますし、私自身も、私の考え方について、自分は少し違ひうというご意見があつたらどしどし出していただきたいと思ひます。

さうは三番目の「家庭の中の人間関係」から入るわけですが、夫の立場・妻の立場というところに入ります前に、きのうの「家庭と職業」の関係についてみなさん方のご意見、それにつけ加えて私の考えをごく簡単にまとめてみましたので、それを最初にお話してから、共済ぎ、あるいは主婦農家の中の夫の立場・妻の立場というところへ話題を展開させていきたいと思ひます。

家庭生活と職業生活について大雑把にまとめて申しますと、

一、戦後働く婦人がふえてきた

二、農業では主婦農家の比重がふえてきた

三、婦人の雇用者の数もふえてきた

四、結婚後も働く婦人がふえてきた

五、低所得者層に共済ぎが多い

大体これが現状としては重要なポイントと思ひます。次にこれからの方向として

一、職業労働、家事労働者の活動がそれぞれ社会的に価値があるということを目覚めること。

切な意味をもつてくると思ひます。)

七、職業を持たないで家庭を守ることとを低く考える必要はない、

あるいは労働感を持つ必要はないと思ひます。

(それは個人の条件によることもある。個人の条件というのは、この場合は、本人とか家族構成員の健康とか家事労働が非常にたくさんあつて、外に働きに出ることができない、あるいは子供の肉体的・精神的の健康上の問題等の条件を考えなければいけないというようなことである。ただしこの際に、貧乏な家の主婦が働きに行くのは仕方がないが、生活の豊かな家の主婦は働きに出なくていいだろう、というような考え方には、必ずしも私は賛成しない。むしろ個人の条件という場合には、そういう貧富の差ということは考える必要はないと思ひます。)

八、共済ぎをしなければ生計が立たないという現状は不合理だと思ひます。

(つまり、世帯主の収入によつて家計が豊かに賄われる、ということが望ましい。そのためには、たとえば児童手当とか老齢年金とか、その他の社会保障の整備が必要である。)

九、(しかし、もし仮に)世帯主の収入だけで家計が豊かに賄われるようになった時には、婦人はすべて家庭に帰れ、ということになるだろうか。

(私はそうではないと思ひます。その際、多くの婦人が改善された労働条件の中で働いて、自分自身、および家族生活をますます充実させる、そういう方向が私は大切だと思ひます。また実際に産業社会の進展に伴つてそういう方向に進んでゆきつつある。)

大体きのうの「家庭と職業」について、私はこりうふりにま

とめてみました。このことについて質問がありましたら出していただく。あるいはこれを前提として出発して、「家庭の中の人間関係」、「共稼ぎ家庭」の問題に入ってゆきたいと思ひます。

海老原 先生が今お出しになった九つのご意見にたいへん賛成ですが、子供がごく幼い乳幼児の間は家庭に居てほしいという気がするのですが。

渡辺 乳幼児を預けて、時間がくれば乳を与えるということでも、「三つ児の魂百までも」ということがあるように、本家に家庭のしつけは三つか四つの子どもが大事だと思ひます。

山口 ところが子供が三人くらいになりますと自分の年齢が伸びてゆく。その場合、十年くらい空白の状態があるから、仕事に対する情熱が失われてゆくのではないかと。そうするとやはり後退してゆく方向に進むのではないかと思ひます。いろいろの条件を考えても職業は続けてゆくことを考えたいと思ひます。

谷口 職業の内容によっても違ふと思ひますね。その十年が却つて勉強になるという労働もあると思ひます。

柴田 空白という時間でも、毎日新聞やラジオを聞いたりして、ある面ではその中でだんだんいろいろな面で勉強しているのじやないですか。ただ遊んでいるのじやなくて、子供を育てる面なんかも相当勉強になることがあると思ひますから、やはり職業にもよると思ひます。

後藤 今お話を聞いておきますと、共稼ぎしないで家にいることが空白というように考えがたいぶんあるようですが、産業の進展の中でいろいろなことに振り回されている状態の中で、家庭の意義と

はかなり個人がおかれてある条件によるのでしようね。私が知っている職場では、これは本屋さんですが、既婚婦人が多い。大体労働時間が非常に短い職場で、朝九時から四時です。それから職場の中に働く母親の会というのがある、お互いにいろいろ工夫をして、職場を離れないでなんとかやってゆくようにしている。そういう職場があるわけです。

谷口 その根本の考え方といひますか、男の方は職業を受け持っていて、家に帰ってからはあまり仕事はない。つまり職業 という仕事を一つ持っているだけでも十分疲れると思ひます。女性のほうには家庭という大きな仕事を一つ持っているのに、その上にもう一つ職業を持つとすると、家庭と職場と二人二役になる。職場でたいへん疲れて帰って、家庭に来て小さい子どもがいると、また疲れる。だから家庭の仕事も職場と考えてもらえば、いいのじやないか。家庭と職業と両方を成功させてどっちも正しく働けるかというところに疑問があるのです。

渡辺 一つみなさんに解答していただきたいことがあります。職場と職場といつても、職業にもよるといふことが先ほど出ましたが、これは先生の立場のことなのです。その先生一昨年赤ちゃんを産み、今年また一人を産んだのですが、お産の前に授業参観日があった。その時お母さんたちが見に行ったら、寒い二月だったから、生徒は廊下から教室をばたけたり回ったりして、先生はストライプの服で居眠りしていた。父兄がそれを見て一体これはどうしたことだということになった。やがてその先生がお産で、産休取ったので、産休補助の教員がきましたが、昔先生をやっていた真面目な先生で一生懸命授業をしてくれた。ところが産休の補助の

いうことをもつと考えてみる必要があるのではないでしようか。笠原 私が考える空白は個人的なものでない。家庭の主婦としての務めを果たすのは空白ではないが、職場にそれだけの保障がないので、職場に対する空白ということを私はいいたいのです。前にしてしまふと、仕事に遅れているからいままでの地位につけておけない、そういうことなのです。

日高(リーダー) 現実の条件としては、たとえば赤ちゃんができて乳児の期間、たとえば一年、二年の間職場から離れてしまえば結局そこに戻れない、という現実の条件があると思ひます。日本ではきちんと解決されていないが、たとえばアメリカでは、乳児を持つている期間、一時職から離れるという傾向があります。そうして、しかし子供が手がかからなくなると、非常に家庭婦人の就職率が高くなる。それからソヴィエトとか中国のような社会主義国では、子供を育てる期間にいろいろの施設、たとえば職場に必ず託児所がある。そういういろいろな施設を作つてその問題を解決している国もあるわけです。ですから、いろいろな解決のし方を考えなければいけないと思ひますが、乳児を持つている期間は、母体保護その他のことで母体に休養を与えるとか、あるいは現在日本にもある産前産後の休養をできるだけばすとか、いろいろ工夫があるわけです。一つ日本で問題なのは、一度職場を離れると、その次職場に入る時には前のようにいい職場がないということ。これは実に女性にとってはつらい条件だと思ひます。つまり現在自分が氣にいらっている職場を守るために、ある程度工夫をして職業生活を続けてゆくか、あるいはそこで子どものために職場を捨ててしまふか、どちらかということになるわけですが、これ

先生のほうが、父兄も生徒もよくなつてしまつた。そういう場合、母親として、どういう態度を取つたらいいか、グループで問題になりました。

長谷川 私もそういう問題に直面したことがあります。女先生に受持つていただいて、一年の時妊娠なさつてお休みになつたが、その頃は産休がなくて隣の先生が据持ちで自習をさせられた。二年になつて先生が変わつたら、その先生が妊娠なさつた。三年続けてそういうことがあったので、わたしたち女性でありながら、本

山崎 私の小学校一年生の娘の受持の先生が、やはり産休で弱かつたので長くお休みになつた。その間代りの先生がみえていたが、子供の性格が先生によつてがらつと変わる。産休がすんで出て来て、朝は赤ちゃんを負つてきて学校の側に預けて、帰る時はまた負つて帰るそうですが、はたして時間中先生がどんな勉強をして、どのくらい自分の子供に氣持が注がれるか、疑問に思ひます。ですから、親心としますと若い先生に担任になつてもらいたくないわけです。

日高(リーダー) そうしますと、非常に卒直に言つと、若い女の先生は妊娠なさつたり赤ちゃんを持つようになつたらやめてもらつたほうがいい、ということですね。

笠原 アメリカは小学校の先生はほとんど女の先生だということを聞いていますが、アメリカでは子供を育てている間休職というのか、そうしてまた復職できるようになつていくのですか。

日高(リーダー) そうでなくて、一応やめてから働けるようになる

った時に、前とほとんど同じような条件で働ける職場が一応あるわけです。日本では大企業ではほとんどそういう人を雇わない。そうすると、結局条件の悪いところにしかいけないことになりま

す。

笠原 女教員の会議がある時に要求されるのは、それと同じようなことを勤める立場でおっしゃる。教育者は事務屋さんと違つて非常に責任のある仕事ですが、そういう問題が出てきた場合に、やめてもらふのでなくて、それこそわたしたちの子どもの教育のために、そういう方たちがそういう苦しい思いをなさらないで立派な教育のできる方法を考えなければいけないと思います。そうして子供を育てた経験のあることがプラスになつて、立派な教育ができるようになるなければいけないのではないかと。だから、子供ができたらずやめてしまうというのは、むしろ立派な教育はできないのではないのでしょうか。

日高(リーダー) 先生ばかりでなく、雇い主からいいますと、たとえば女性が妊娠する、出産する、ブランクができるということであれば、その際に女性はやめてもらったほうがいい、という考え方になると思います。そういう考え方に對してはどうですか。

片岡 しかたがない。

柴田 しかたがなく、仕事を続けなければならぬという先生もあるわけですが、そういうとき、周囲の校長先生方がもう少し暖かい目で働きたいように、日高先生のまじめの中にもありますが、改善された条件の中で、というのが本望に望ましい。これからそれをかち取つてゆかなければならぬが、一足飛びにはゆかないが、だんだん改善されてゆくと思いますし、先生方がそこまで周囲の

人に迷惑をかけていらつしやるというなら、本当に家庭に帰つていただいたほうがいいということにもなりますね。私もそれに賛成です。だから乳児の施設のない日本ではやはり共稼ぎが無理だという結論になるのじゃないですか。

日高(リーダー) お話をうかがっていると、どうやら私の既りの婦人の味方だという気がするのですが、こういう事実があるので

す。

最近大学出の女性は官庁にほとんど入れない。新聞社にも放送局にも入れない。大きな企業もとらないわけですが、つまり、女性が職場に出ようと思つても、みんな進出を拒まれてゐるわけです。なぜそういうことになるかという点、これは非常に問題です。雇うほうからいいますと、簡単にいえば、女の人は出産とかそういうことがあつて能率が落ちる、あるいは使にくいとか、だんだん年数がたつてくると、官庁などでは当然課長とか局長にしなければならぬが、労働省婦人少年局以外にはほとんど女の課長や局長のいる職場はない。女の局長さんなんか出ると、男の人がそこで働きにくいとか、いろいろなことを理由にして、だんだん女性は職場から締め出されてきているわけですが、それもやはりやむを得ないと思いますか。

柴田 女の方でも男に勝る力を持つていらつしやる方がありますが、そういう方には、世のために役立つ仕事を続けていただいた

らいいのじゃないですか。

笠原 ともかく男女同権という立場から、そう締め出しをくわされては困ると思います。銀行なんかでも入る時に結婚したらやめるといふ約束をして入るとか、悪心しない気がします。

ないということになっています。

海老原 それはしかたがないと思う。男女平等という立場からいいますと、生理休暇があり、産前産後の休暇があつて、能力が同じでも仕事の範囲に女性としての限界がある。だからある程度の差があつても男女却つて平等だと思ひます。それでなかつたらいつでも男の人に対してひけめを感じて働かなければならない。同じ仕事に對して男女の賃金に差があつても、休暇、休日、必ず休みという条件、産前産後休暇もあり、生理休暇もあるという保障があるなら、女のほうに低賃金でも、そのほうが男女平等ではないかと思ひます。

山崎 男女平等といひましても、今のお話ですと、仕事の量とか賃金を平等に見ているようですが、男女の平等ということ、責任とか義務が平等である、ということに結びつけたほうがいいのではないかと思ひます。どんな仕事をしても、やっぱり男には女はかなわないのじゃないかと思ひますね。

海老原 質と量といつても、同じ質と量の場合、同じポイントにいて同じ責任を負わされている男女が同じ賃金でいるということは、却つて女が男に對してひけめを感じるのじゃないかと思ひます。

日高(リーダー) 官庁は大体同一労働、同一賃金ですね。

山崎 自分でそれだけ能力があつて責任感があれば、決してひけめを感じることはないと思ひます。

海老原 ひけめを感じるといふ言葉がまずいかもしれないが、すまないと一弟が放送局におりまして、同じ仕事をしていても女には仕事の限界がある。夜通し外に泊つて仕事をするこゝてもないし、同賃金といふことは……といふ話もあつたもので

波辺 私は、締め出されるとか、締め出すとかいふ前に、職業を持つてゐる以上、あるいは主婦である以上、これはやつぱりその人の良心ではないかと思ひます。誠実であり、良心的だつたら、もし自分が職業を続けることがみんなにマイナスになるといふことになつたら、いさぎよく家庭に入つて子育てをする。家庭が堅実になつたら、今度は社会に立つて大いに活動してゆこうという心構え、こういうことが良心というものでないかと思ひます。

そういうことで、私は今までいくつかのグループを持つて自分なりに活動してきたわけです。間違つてゐるかどうかが批判いた

きたいと思ひます。

日高(リーダー) その点は私も賛成です。つまり心構えというか、もう一つは、婦人としての職場の中での能力というものを真剣に考える必要があると思ひます。根本的にはこういう問題があるわけですが、たとえば、企業なら企業という立場でいいますと、女性にたとえば生理休暇を与えたり、母体保護のために産前産後の休暇を与えますね。これは有給休暇です。すると、男性と女性が平等の能力を持つていても、その期間だけは女性を雇うのは損だという理屈になる。そうするとつまり、人手がもしあまつてゐるのなら男性のほうを探る。しかし女性を雇うのは低賃金だからという関係になります。仮に男性と女性に同じに賃金を払うという条件があれば、企業者としては当然そういう休暇のない男性のほうを雇うことになりま

す。では、それを男女平等という立場からどう

いうふうにお考えになりますか。結局女性にはそういうハンディ

キャップがあるから、職場からしだいに締め出されてゆく。締め

出されたいためには、男性よりもずっと低い賃金で働かざるを得

すから。

片桐 仕事の責任は職場にいる以上男性と同じ責任を感じるのじやないでしょうか。やはり女性には家庭という背景がありますので、男性の方に遠慮するという気持ちがあるのじやないかと思ひますが、日高（リーダー） オブザーバーの方で発言、希望がありましたら。

市岡（特オプ） 女の先生に対する厳しい批判もありましたが、いままでの日本の背景を見ますと、男は高等教育を受け、女は程度の落ちる教育を受けて職場に入つてゆくということも、先生は別として、社会的にみて初めから教育のレベルが違つていた。たしかに女は低賃金で入つてきて、だんだん確固たる地位を獲得してきてはいると思ひが、やはり男は上の重要なポイントを約束されておき、女は約束されてはいない。それで女性はいささか卑しい気持ちで臨戦のうちに働いていて現実があると思ひが、終戦後教育が變つてきて、男も女も平等の教育を受けるようになって、実力が認められるようになってきたから、将来は明るいと思ひます。けれども、現在はまだ過渡期にあつて家庭を背負つているということを考えて、周囲の人の励み目、あるいは暖かい目で見たいといふふうな気がします。

桑野（特オプ） 今は女子も教育の機会均等で、同等になんでもできて、私よく外国の学校の卒業式なんか招かれてまいりますが、今年も東大は女の一番が出ております。外語なんか、仏語、英語なんか女が首席で出る方がございまして、勉強において決して劣らない。しかし、社会に出ると冷たいので女性にはかわいそうだ、という校長先生のお言葉がありました。女に産休があるの

があると思う女性も職場から離れなければいけない、という現状がなかなか改善されてゆかないのではなか、という気がするわけですが、もちろん現実には家庭生活を持つておられる方がそういう問題にぶつかると、先ほどのお話のように深刻な問題があると思ひます。

では、そういうところから、三の家庭の中の人間関係といひますか、特に共稼ぎをしている主婦の問題に入つてゆきたいと思ひます。農村の方もだいたいしやいますから、農村の方から話を出していただけないでしょうか。

藤野 せめて農閑期だけでも女性を使つてほしい。

後藤 わたしたちの地方は本場の零細農家で、私の場合は兼業農家ですが、嫁姑の問題は表には出さなければいけません、依然としてありますし、また女の人が多く屋外に出て働かなければならぬことから、子どもを老人に任せておきますので、どうしても子供のしつけについて、年寄りとの間にくい違ひが出たり、いろいろな問題があると思ひます。

乙谷 私も農村の一人ですが、だいたい緩和されたようでも、まだまだ嫁姑の問題が深刻のようです。私の地方では、あまりにも舅姑の勢力が横暴といひますか、妻の座が狭い、四十くらいになつても、やはり大部分の家庭が、自分の実家に行つてお小遣いをもつてくるような状態です。

日高（リーダー） 敗戦直後には、嫁姑の問題には婦人の集まりができて、だんだんその関係はよくなつてきているのではないかと感じていたのですが、まだまだですか。

乙谷 若い方がだんだん首座になつてゆくのです。そういうことは

は当然です。ただ損だ損だと言わずに、男性が女性に対して母性を守るという目で見ていたかをければ、女はいつまでもおそろおそろで、伸びることができません。女は子供が抱えておりますから、男優先でも結構と思ひますが、女性でも伸びる力のある方は、課長・局長といわず、インドネシアみたいに厚生大臣にでもするようになっていた方がいいと思ひます。すべて社会は男女協力てよくならないと思ひます。

日高（リーダー） 今お話がありましたように、産前産後の休暇だけに限定して考えますと、企業の立場から言つて、そろばんずくでは、たしかに損だと思ひます。しかしそろばんだけで社会全体のことを考えていいかどうか、そこに問題がある。つまり、産前産後で女性が休んでいる時に、女性はいわば次の世代を作つてゆくという非常に大きな仕事をしているわけですが、そのことを含めて社会政策という大きな目で考えれば、産前産後の休暇や生理休暇を女性に与えるということは、社会全体にプラスになることですから、そのプラスを企業者はそろばんずくで、損だから、というふうで考えているのでは、社会全体の進歩のためにはまずいのではないか。なかなか企業者は頭を切り替へるのはいへんかもしれないが、根本的にはそういう考え方の方が進んでゆかないと困るのではないか。そういう意味では婦人はひけめを感じる必要はないわけですが、ひけめを感じるということが私はおかしいと思ひます。ただ、福島の前田さんがおつしやつたように、先生なんかの場合、そういう問題はあつてしようが、それは周囲の人、あるいは校長がその先生をもり立ててゆく、父母も理解してその先生を応援してゆく、そういう体制が作られていないと、結局、出産とか何か

いかがですか。

日高（リーダー） 逆にお姑さんのほうがお嫁さんにいじめられるのですか。

後藤 やはり貧しい零細農家では、経済ということがどうしてもお互いの間にすつきりしない一つの楯になつていて、何か問題がある時には、お金のことが絡んでいっていると思ひます。私のほうにはかまどを譲るといふようなことがありますが、お嫁さんが来た時にはお姑さんがかまどを持つていますが、お姑さんは自分の家の暮らしをはつきりお嫁さんにしらせて、こつこつに貧しいから、お小遣いはこつこつに我慢して下さい、と話し合ひたいが、お姑さんの立場としては、そういう貧しいことをはつきり知らせたくないで、財布をきつちり握つてお小遣いをあげない状態です。それが十年にもなりますと、自分が家の仕事の中心になつてきて、実権は任せられなければいけません、仕事の上では実力が出てくるわけです。そういう場合に、お嫁さんは強い態度に出てきます。一方、だんだんとお姑さんのほうには仕事ができなくなつてくる。そういうことがあるわけですが。

藤野 農村は新生活運動によつて改善されてはきましたけれども、やつぱり封建的な慣習はまだまだ根底にあつて、あらゆるものを拘束していると思ひます。今の嫁姑の問題にしてもたいへんよくなつてはいるが、私どもの村ではやはりお姑さんが財布を握つて、水道料でも、電気料でも、お嫁さんには何もわからない。婦人会などで盆踊りに参加の浴衣をみんなでお嫁さんが自分で注文して家へ帰つてきたら、お姑さんがいやな顔をする。旦那さんに相談したら、買ったらしいだらう、とやつと手に入れたが、姑の

むずかしい顔を見ているのが辛くて、結局そのお嫁さんは、揃いの浴衣が着て出られないから、子供を連れて実家に帰って、里で盆を迎えたという話もありました。自分も姑になつていますけれども、若い人たちは若い人たちの家計を任せてやつて、自由の時間も持たしたり、経済的にも自由な生活ができるようにしてやりたいと思つておられます。

武久 お姑さんとお嫁さんの間にお婿さん、つまり息子さんがいるのに、息子さんを側から見ていると、なんだか乳離れが悪いような気がします。お婿さんをどんなふうに嫁姑の関係の中で考えたらいいでしょうか。

鷹野 息子さんはやつぱりお母さんをたてますね。そういう家庭ではお母さんからお金をもらう。そして、お嫁さんはお里に帰る時にお小遣いとして千円ぐらいもらつて、土産でも買つてゆくというのですが、その家なんかは特にひどい家で、一般的にはよくなつています。

渡辺 私のほうでは男の人が間に入ると問題がややこしくなることがあるのです。

乙谷 私のほうでは、男がそういうところに混つたり、お小遣いを嫁さんに渡したりすると、その男はあまりよくない息子だと見られる。それで、お姑さんに働いてきたお金を渡し、お姑さんからお嫁さんにお小遣いをするというコースを経ている。私の場合は主人は公務員ですが、私も最初は商家に生まれて農家に嫁いで来た。なれない仕事をして、三年も四年も小遣いはくれなかったが、私の主人は理解がありまして、いろいろな会合にも出してくれますし、そういうところは男の人の自覚が必要だと思ひます。

スミースに行つておられます。

日高（リーダー） まあ、嫁姑の問題というのは非常に複雑だと思ひます。さっきの乳離れの問題は実に面白い御指摘だと思ひますが、姑さんの立場から言うと、姑さんのほうからいろいろ言ひたいことがあると思ひますが、姑さんの立場の方はいらつしやいませんか。

鷹野 私は長男は別居しておりますから全然そういうことは考えません。けれどもわたしは、若い人の会合に行つた時、なにになりたいかと聞きましたら、主婦になりたいと言ひます。やつぱり農家の主婦は、働くばかりが嫁の座であるという状態だったものですから、若い娘さんはそういう自分たちのお母さんの働く姿を見ていて、自分が結婚したら家計から家事万端を自分の手でやりたいというところに意味があつたと思ひますが、ほんとうにお姑さんが二人揃つているお宅にお嫁に行つた方たちは、働いて働いて、馬のように働くだけが嫁の立場であるということ、かわいそうだと思つたことがあります。

日高（リーダー） これにはいろいろあると思ひますが、母親は息子に対しては心理的に非常に強い愛着をもつています。ですからこれはいくら、嫁の立場を尊重しなければいけないと考へているお母さんでも、子供が結婚すると、心理的には、なにか子供が嫁に取られたという気持がどうしてもすると思ひます。これはある意味では人情みたいなものですから、そういう気持をもつのはおかしいじゃないかと言つても、なかなか切り切れないところがあると思ひます。特に、ほんとうに仕合せな夫婦生活を送つていない母親、子供にいろいろ期待をかけている母親は、ます

武久 私も二十七年にこちらの農家に引揚げてきまして、嫁姑の問題で苦労しましたが、今男の人が中に入らない限りいいということがありましたが、男は親の前で嫁の肩を持つと、嫁の肩を持つたと言われるから、陰に回つてはこらえておけとか、小遣いのことも弁解するのです。私はそれはいやだということです。親の前で、自分の妻にいい面があれば、それをほつきり親の前で低められる男性にならなければという問題は解決しないと思ひます。結局、女同士だけではいつまでも埒があかないから、男の人にも少し目覚めてもらつて、話し合ひで進めてゆかなければいけないと思ひます。

片桐 きのうの続きになるのですが、家庭を持つているお嫁さんたちが嫁ぎに行つたり、職業についたり、内職するという問題もお金が自由に使えるということが大きい理由です。そうしてみると、勤めているお嫁さんはお金も自由に使えるからどんなにおつきあひでもできるが、勤められないお嫁さんはみじめなのです。それで劣等感を持つようになつて、差ができるということですが、

日高（リーダー） 家族関係に関する表を見ますと、全国平均ですが、家庭の管理者が家計の管理をする。次に本人と夫という形になつていて、家計の管理については、半数の主婦は財布を握つていふという形になつていますが、今のお話を聞いていますと、まだまだそういう実情になつていないという報告が多かつたように思ひましたが、どうでしょうか。

乙谷 私の家では最初両親が家計を持つていましたが、今では通帳があつて、ほしい人は内訳を書いて出すようにして、全部四人ともが出道を分けていふという状態をやつていふので、その関係は

ますそういう傾向が強くなる。たとえば嫁が来ても、自分たちの夫婦の間の生活がほんとうに幸福な人であれば、そこで生活の充実ということが感じられるわけでしょうが、そうでない場合にはますます嫁に息子を取られたという気持がしてくるわけです。そういうかなり心理的な問題もその中に含まれていふすし、そういうところから、同居とか別居とかいう問題が出てきますが、資料の中に「親子同居の現状如何、および希望」というのがありますが、これについてみなさんどうお考えですか。この資料で、農村と団地とを比較してみますと、現在親と同居しているのは農村では四八・五、団地では一割しかない。意見として、同居がいいというのは農村で七一・一、あつたが、団地のほうでは別居がよいというのが圧倒的です。希望としては、老後、自分の息子夫婦と同居したいというのが、農村は八二・二、団地は八五・八です。そうすると、親とは別居したいが、子供とは同居したいということになる。意見として、農村・山村で案外同居がいいという意見が多いが、これはどうお考えですか。

片桐 私も農村ですが、仕事の関係で農家の仕事は協力してやらなければいけません。いくら年寄りでもそれ相当の仕事があるわけ、家族全体の協力というのは其様ごと同じです。みんなが仕事をししているわけですので、同居のほうで農繁期に便利がいいというところが第一の条件じゃないでしょうか。

山崎 結局精神的な面でなく、農家とすると仕事の面が重要視されてこつたというデータが出たのじゃないかと思ひます。

谷口 それと、経済的な面があるのではありませんか。片桐 経済的な面はいつでもつて回るが、わたしも農家でございま

すが、長男はちゃんと別居して、曲りなりにも乏しい生活をして
おりますけれども、全然親のわたしどもは隠居してやりませんが、
結婚したては別居のほうがいいと思います。

日高(リーダー) 同居・別居といつても、いろいろな形があると思
います。完全に家を別々に持つ必要もあるし、同じ家の中で
世帯を別にするのもありますが、片桐さんの場合は全然別ですか。
片桐 全然ゆききしません。あまり訪問しないほうが向こうも楽だ
と思いますので。

酒本 仕事の面、経済的面もありますが、やはり昔から一階にいる
習慣できたから、別居すると問題がある。私どもでは主人の勤め
の関係と、子供の教育のこととあつて別居しました。そうしたら
昔からの封建的な考え方で、周囲の方が、長男でありながら親を
捨てて出たというのです。そういうのをこれからなくしたいと思
います。

片桐 私の場合でもそういうことがございました。長男を出すと、
子供は次男が残るだけなので、長男を出すのはおかしい。当然同
居して嫁に家風を教え込むべきだということだったのです。しか
し、わたしの家風をそのまま子供につがせなくてもいいからと思
ひまして、嫁のほうも別居したいでしょうし、私も別居して自分
の生活をしたという事で、周囲の反対を押切つてしまいま
した。

酒本 これからは親がそういう気持ちにならなければいけません。
す。

渡辺 子供と別居するとか一階に暮らすというのは、年代によるの
ではないかと考えました。私は、主人の転勤であちこち歩いてい

います。誰しもいまおっしゃったように若い者は若い者の生活を
楽しみ、年寄りは年寄りの生活を楽しまないが、現状において老
後の保障制度がない現在では、たつた千円の老齢年金をいただい
て、年寄って食べられない者は、よくても悪くても子供と一階に
おつて御飯を食わせてもらわなければならぬと思います。で
すから経済的問題と保障制度の問題、それから住宅の問題がな
んとかならないと若い人たちが別に住むことはむずかしいと思
います。

日高(リーダー) 嫁姑の問題が親子の問題に移ってきているので
すが、たしかに調査の中の「同居はよい」という農村の意見の中
にもいろいろ経済的な要素とか、別居するというのを、外側か
らとやかくいわれるという風習とか、あるいは住宅問題とかい
ろんなことがある。ただ別居がよいという意見についても、親子
の間の愛情の問題が根本にあるわけで、よく私、農村なんかに行
きまして、農村のお母さん方に新しい法律で子は親を養う義務が
なくなったと思つている人は手を挙げてくださいと言つてみて
みますと、大体七割くらいの方が手を挙げます。法律では、子供
はみんなで親を扶養する義務があるということになつてゐるわけ
です。ところがいまの親は、どうも子供には親をめんどう見る義
務はなくなつてゐるのだというふうにみんな思つてゐるようです
ね。だから世話になるまいになるまいという考え方になつてゆくわ
けです。しかし世話にならないという事は、自力で生活するとい
うことじゃなくて、社会的保障で老後の生活を保障するという
制度ができれば、子供に直接世話を見てもらわなくても生活がで
きるといふことになるわけです。しかしそういうふうになつても

るので、引揚者のお母さんで、その頃は四十七、八の人と知り合
いになりました。男の子供だけ四人いて、その人は、子供とは一
階に暮らすまい、一生懸命行商してお金を貯めて自分の老後を楽
しみたい、子供には世話にならないといつて、ある年数の間を行
商やつていました。ところが五十過ぎた時に低血圧で倒れました
が、子供たちは、親のそういう気持ちが子供に通じてゐるせいか、
広島とか熊本とか遠いところに生活を求めて行つてしまつたので
す。そして、そのお母さんが病氣になつて、だんだん息子が恋
しくなつて来たが、息子は一人も帰つて来ない。それで、私が頼
まれて、代筆してあげたら、息子が奥さんをつれて帰つて来た。
ところが三日間いたら、こんな年寄りの病人なんがあつたとい
られないといつて行つてしまつたのです。子供には世話にならな
いと言つておきながら、結局、子供に自分で期待をかけていたか
ら、そういう結果になつて、淋しい老後を送つています。三十年
代ぐらいの人が、子供には世話にならないといふのは共通点では
ないでしょうか。けれども、老後の施設が完全で、年寄りの安住
の地ができてゐるのでなければ、やっぱり子供に世話にならない
といふことはなかなかむずかしいことじゃないかと考えさせられ
ました。

松井 私と渡辺さんのおつしやるとおりで、子供が見てくれば別
ですが、子供に責任を負わせないといふことを常に考へて、自分
でどうにもならなくなつても、子供には責任を持たせないと思つ
ております。

長谷川 同居する、しないという問題の中で、ただ人間的の關係だ
けでなしに、経済的問題と、住宅がないという問題があると思

精神的に、あるいは病氣になつた時に子供が親のめんどうを見る
といふことは当然のことと、これは子の義務というよりも、子供
としても親が病氣になつてゐるのを見ないですますといふ気持ちに
はとうていなれないはずで、そういうことが根本にあつて、そ
の上でさらに老人のいろいろな社会的な保障というものが加味さ
れてゆかなければいけないといふことになるのだと思います。そ
ういふ点について、どう思いますか。

渡辺 たしかに曲つて解してゐるということがあるのじゃないで
すか。

松井 それと、また子供が親に対して感謝という気持ちを忘れている。
幸福な生活ができる家庭ならともかく、恵まれない家庭の子は、
おれはどうしてこういう家庭に生まれてきたのだろ、こんなこ
となら世の中に出て来なければよかつた、という。そういう子供
の中には、親に対して感謝や、養育気持ちをもつていない子供が大
分あります。現在の社会の中で欲求不満なく暮らしていればい
いが、大体の子供が上を上と見てゐる。昔は自分の身分に満足
しろと言われて、満足してゐましたが、現在ではいくらでも自
分に力があれば開拓できますから、現在の生活に満足しないで、
人ばかりを羨ましが。親のほうも子どもを十分にみてやれな
かつた場合は、親を扶養しろといふことを言ひきれなくなる。農村
でもそういう傾向がずいぶんございます。法律の如何にかかわ
らず親のめんどうをみるという気持ち、また親を尊敬する気持は大
分薄れてゐますので、それがもとで、嫁姑の問題もずいぶん問題
をこじらしてゐるのじゃないかと思ひます。

日高(リーダー) 二つ問題があると思ひます。経済的に親のめん

どうが見れないということ、気持ちとしても離れてしまっている
ということの二つですね。そういうことについてなにか御意見あ
りませんか。

乙谷 私の地方はやはり農村の中でも封建制が濃いかでしようか。
そういう法律とは別に、やはり長男は親を養わなければならない
という気持ちを、親ももっていますし、長男も責任として感じてい
ると思います。

松井 私のほうは、近所づき合いからいっても別居はできない状態
で、どうしても長男夫婦が親を見なければならぬということに
なっていますが、経済的その他でしつくりいかなない面が多いと思
います。それをそのままにしておいて、一踏に注いでいる状態
から、なんとか、ほんとうに楽しくやってゆきたいと思つて私
はつとめておりますけれども、周りは、ずいぶんそういうこと
に悩んでいる人たちがおります。そういう感情をどのようにして
いったら、年寄りの、わたしたちの世代のものも楽しく過ごして
ゆけるだろうかということについて、みなさんに意見を伺いたい
と思います。

片桐 やつぱり長男は負担が多すぎます。先生は、子供はみんな共
同で親を見るといふ法律になつていとおっしゃいましたが、現
状では、農村では長男一人の責任になつております。子供に對し
て財産の分け前ということ、嫁入りの支度を充分かけてやる。
財産分けるということでも、実情は、法律に従つて分けるのじや
なくて、下の弟妹には財産分ける積りで支度してやるが、長男に
はなにもなく、親の扶養義務だけが残るというようにすることです
か。実際にはそういう法律は適用しないわけですか。

の子供のために働かなければならなくなる。最後の慰安期にな
ると息子の嫁取りとかなにかで、夫婦が慰安できる期間というの
がないのです。ですから、長男が損だという立場はほんとうだと思
います。

もう一つは群馬の方に質問ですが、子どもが、精神的に親を養
いたくないという気持ちになるということ、親と子供の間にヒズ
ミがあるのじやないかと思いますが、どうでしょう。

松井 親が、親を見ない子供に育てたのじや仕方がないかもしれま
せんが、むしろ現在の個人主義の世の中では、人情というのは大
分薄れている。親自身の責任というより、周りがそうだった場合、
幸福な生活をしている子どもはいいが、欲求不満の子供はかえつ
てこの世の中に生れて来たことに不満をもっている。現在の世の中
にずいぶんそういう子供が生まれつつあることを周囲で見してい
ます。そういう子供は政治なり、地域の婦人なり、母親なりが、精
神面で救つてゆかなければならないと思います。うちのほうの細
落はとも封建的で、政治そのものが、ボスに牛耳られている。
教育行政から地方行政、教育長までが牛耳られて、ボスの一存で
村政をやっているという社会の中で子供が成長しておりますから、
考え方も封建的というより冷たいのです。私、東京へ出て来て親
戚にも寄りましたが、みな豊かな生活をしていて「あなたのまわ
りはそんななの」といわれるくらい、生活程度も低いし、まわり
がボス政治でも、それに反発する人がないほど目覚めていないと
ころに生活しておりますので、子どもたちのそういう状態を身近
に感じておりますが、みなさんのあまり疑問もない生活をお見受
けして、ただただ私は拝聴しているだけです。

日高(リーダー) 長男には田圃とかそういうものがあるでしょう。
片桐 養うわけですが、それから上がる収入は少ないから、
分家させるほうが多くもちやうわけですね。

山崎 結局長男には不動産が残るが、親を扶養しなければならぬ
という立場に追い込まれるわけですね。

片桐 不働産の所得が少ないのです。

日高(リーダー) むしろ長男に生まれたら損だということですか。
片桐 損でもそれを避けられないので、私のところでは、おしゆり
とさんがもうすこしお嫁さんを大切に方法をとりたいと、お
姑さんはかなりのグループを作つて、一反ぐらいの畠を共同で耕作
して、そこで共同で仕事しながらお嫁さんの実情を話し合つたり
して、だんだんお嫁さんに対する理解ができてきて、お嫁さんを
背ながらにしておいてはいけないうことがわかりまして、お
姑さんがグループに入つていられる家のお嫁さんは、たいへん感謝し
ています。婦人会やいろいろな集まりにもお母さん方が進んでお
いでいます。嫁さんを出してあげるという気持ちがありまして、たいへん工合よ
くいつています。若い方には婦人会やいろいろな会合があるし、
お姑さんの七十以上の方には敬老会があるが、中間の方が出る場
所がないので、その方たちのグループを作つてあげるとよるしい
ようです。

武久 私たちのグループでライフサイクルというものを書くことを
やつていますが、それを書いてみて、農家の長男は、結婚したら
普通のサラリマンの家庭のように自分の家族のために貯蓄するこ
とはできない。農家の人は自分の弟、妹の学費を出すために働か
なければならなくなる。弟や妹が独立したあとは、こんどは自分
なわけですね。

武久 それでは、あなたの子供さんがあなたに對してそういう気持ち
をもっているのではなくて、社会的にそういう風潮があるという
ことですね。

松井 もし自分の子供がそういう気持ちをもつたら私の金責任だとい
うことを十分自覚しております。ですから自分の子供には言わせ
ないつもりですが、まわりで見聞きしておりますから御披露した
わけですね。

笠原 いま出ているのは社会的なほうですが、これは家庭内のこと
ですが、私は長男の妻で、やつぱりお姑さんと十何年か暮らして
きました。トラブルは起こしたことはありませんし、親戚関係
で喧嘩したこともありませんし夫婦喧嘩もしたことはありません。
根本になるものは愛情と勇気だと思っています。きょうだいづきあ
いの場合、ふだんはごぶさたしながら、それ不幸があつたから助け
てくれと言つてもだめだと思ひます。あだんから物質面ばかりで
なく、愛情のある交際が必要だと思ひます。笠原という家に嫁に来た
時から、今日からこの家の老女ということ、おしゆりとさん
も心から自分の母親という気持ちで仕えてきましたし、どんなこと
でもかくさないできました。お姑さんは古い人ですから話のわか
らない面もありましたが、お姑さんに愛されていると思ひました
し、年代が違ふからと思ひていました。だから、理解と愛情であ
る程度解決できるのではないかと思います。

渡辺 今日この婦人会議の問題というのは家庭の役割ですから、たと
えば松井さんのおつしやるように政治環境がボス的であつたら、
かえつて家庭の役割をお互によく学んで、ボスに巻き込まれない
ような父親、母親であつてほしい。なぜこんなひどい世の中に生

まれて来たかと子供が考えること自身、子供にとって一つの成長だと思えます。なぜかというと、私の主人は四才で両親を失なっているからほんとうの家庭に育っていませんでしたので、結婚してから私は苦労しましたが、主人は自分が怪我をして血を出しても、なめて治そうとしたのです。ふつうの子どもは、血を見るとワーワー泣くが、しばつてあげればいやされるから、すぐ泣かなくなる。それができなかった主人でした。今は長男も中学三年になつていますが、時々父親と子供が体をぶつけ合う。あれは一つの愛情の表現であつて、なくてはならないものだと思つてました。主人は柔道をやつていたので「一丁やるか」という調子で、机や本箱を片付けて技をやるわけです。こういうことが男の子には必要なんだ。男の子は父親を、友達としてでなくて、要するに父親との肉体的のつながりをそういうことによつて感ずることが出来る。そういうものが父親の役割ではないか、ということをお考えなわけです。

日高(リーダー) 親子の問題について大分お話しが出来ますが、家庭の中の人間関係の中で、夫婦の問題については今日は話題に出なかつたのですが、乙谷さんが、出嫁ぎ夫婦がふえて、かなり長い間別居生活をしているというお話がありましたね。ほかの分科会では、夫が出嫁ぎに行つて、外で浮気しているとか、そういう問題が出てくると聞きましたが、この問題について少し話していただきたいと思います。

乙谷 奥さんのほうが出嫁ぎに行つた先でいい旦那さんができまして、子供二人いるのに、家に帰つて来ないようになりまして。それから男の方でもそういうことがあります。期間が長いですから、山崎 農村の近くに工場が出来て土地の人を雇用しますね。農閑期

にはお嫁さんも出て働くが、今まで大衆の中で仕事をすることがありませんので、急に解放されて自由になつたような感じになつて、風紀問題がたふさん出てきて、母親が家庭を省みなくなつてしまつて困るという姑さんの苦情がたいへん出ているようです。お金も自由になるし立場も自由になるので家庭が乱れて、家の中の人間関係が薄くなつて困ると思つておりました。

日高(リーダー) これもある意味では今年のテーマの工業社会、産業社会になつてゆく過渡期の問題だと思います。

乙谷 私のほうで夫婦違ふところに働きに行くが、地方が同じばあに、たとえば大阪と神戸と奈良と京都の場合、夫婦が日曜ごとに会つて楽しんでる人もいます。そういうところだと、夫婦の雇用してくれるところもあるらしい。そういうところだと、夫婦の関係はいいが、親子の関係になると子供が淋しい思いをすることになります。

日高(リーダー) そういう夫婦の問題、それから共稼ぎの家庭での協力的な話は十分でございましたが、大体みなさんおわかりのことだろうと思ひます。主として姑嫁の問題、親子の問題に重点がいつたわけですが、オンザバーの方、なにか御意見ございますか。

桑野(特オブ) 私、婦風会の桑野でございますが、いま法律の問題も出ましたが、農村の方のご発言の中で、子供が親を扶養しないでもいいのが新憲法だと思つていふことがございましたが、それはたいへん間違ひでございますから、訂正していただきたいと思います。財産は、子供が五人なら平等に五人が分けてもらふ権利があるかわりに、親を見る義務も五人に平等にあると

務があるのだ」と言つておいて、ぼつぼつ老後の準備をしたばかりがいいと思ひます。

市岡(特オブ) 私、友の会ですが、デンマーク、スエーデンなどの福祉国家で老人が淋しそうで、日本のような家族制度を見せたほうがいいという御意見もありますが、そういう国の視察記の中で心にしみたことがあります。それは、淋しそうな一人の老人に聞いたら「独立を、孤独をもつてかち得た」と答えたということです。私は自分の心の準備として、この言葉をいつもかみしめたと思つております。

日高(リーダー) いま特別オブザーバーの方からいろいろ御意見がありましたが、一つには、法律的に民法その他の知識を十分なさまがお待ちになつていただきたいということ。それから法律を、さらに細かに制度化するということ。つまり、老後の生活を保障する社会制度というものがなければ、子供が親を扶養する義務があるという法律の建前になつていて、もし経済能力がないときは、社会保障制度が十分完備されていなければならぬという問題があると思ひますし、三番目にはやはり家庭の中の親子、あるいは夫、妻、舅、姑、一人一人の心構えがある。つまり法律と現実の制度と、それから一人一人の心構えと、この三つが巧く組み合はさつてゆかないと、なかなか問題が解決してゆかないのではないかと思います。

もうすこし家庭の問題についてお話し合いたいことがありますが、ちやうど時間ですから一応午前の部は終りにします。

(休憩)

いふことを知つていただきたいと思います。裁判所にまいますと親を扶養しないので、七十、八十になつたおばあさんが訴えにきたことがあります。また、親のめんどうを見ないでいいという考え方が、立派な子供で、相当な地位にある人にもありまして、実の親を見ても、こういう親の血が自分にも流れていると思つて、胸がうずくような気がすると言つた兄弟がありました。これは、だんだん話し合つていふうちにわかつてきて、兄弟で親にお金を出し合うようになりましたが、もとをたせば、親の教育が悪かつたこと、それから親が放縱な生活をして妄狂いをして子供を見なかつたということから、子供にそういう気持ちをもたせてしまつたのだと思ひますが、たとえそうであつても、いまの法律は扶養の責任のある者が平等で見なければいけないわけです。家がなければ回り持ちでも扶養する義務があるということをよく教えていただかないと、憲法そのものがわるいという問題が出ますので。それから親と子供夫婦の同居についてのご意見に対して、私の考へていふことは、経済が許せるなら、時代がちがうのですから、子どもたちは新しい生活法によつて親子が別居し得るような情勢に直していったほうがいいのではないかと思います。嫁姑の問題も同様で、親は子供を教育したから、もうそれで責任はないので、あとは子供が一人で仕上ればいいし、親は老後の生活のためにぼつぼつと心構えを準備して、ともに干渉のない生活をして、社会を明るく楽しくするというのが理想だと思ひます。若い者にも、年寄りにもそれなりに希望を持たすような生活ができるように考へていかなければならないと思ひます。子供には「お前の世話にならない」といふことは決して言わずに、「扶養の義

第二部会二日目

(午後6時 I)

(再開) 一・三〇・五・〇〇

日高(リーダ―) それでは午後は子供の教育の問題に入ります。資料によりますと、上級学校進学率比率は、一九五〇年つまり今から十四、五年前には、中学校から高等学校への進学希望者が男四九・五%、女が四一・五%ということで五割以下だったが、現在は男六五・五、女も六二・五、大体三人に二人は高等学校へ進学する形になってきている。さらに高等学校から大学・短期大学を含めて進学する人が一九六二年は男が二一・九%で、これは高等学校へ進学した者の中から五人に一人が進学することになります。女子のほうは一六・五%になっています。これは同年代の全人口に比べますと、略、大学進学者は男女合すると九人に一人くらいになってきていると思います。戦前は大学へ進む人は五十人に一人ぐらいだったのです。それが今は九人ないし八人に一人大学まで行く人がいる。高等学校は三人に二人という形になって、教育程度が非常に進んできているわけです。これもある意味では今年のテーマの産業社会と家庭と非常に密接な関係があるが、社会が工業化してゆきますと、どうしても学校はすくなくとも高等学校までは入りたい、そういう家庭が非常に多くなってくる。社会のほうでも高等学校程度の学力を要求するようになってくる。そういう事情があって、進学率が非常に高くなっていくわけですが、しかし進学にまつわっているいろいろな問題をみなさん抱えになっ

ていらっしゃると思います。最初幼児の問題がござりますが、幼児の問題は、家庭の中の人間関係などでもいろいろ出ましたので、先に進学の問題のほうから入ってゆきたいと思っています。群馬の松井さんは、感想文の中

で、高等学校進学の問題について、御自分の経験をお書きになっ

てらっしゃるので、簡単にお話をさせていただきたいと思ひます。松井 私の娘が進学を希望しましたけれども、家庭の事情で進学ができなくてたいへん悩んだことを作文に書きました。こういう問題は個人的にはなかなか解決できないから、社会的に解決する方法を考慮していただきたいと思ひますので、みなさまにおはかり

したいのです。日高(リーダ―) 松井さんの出された問題について、みなさんどうお考えですか。高等学校進学の問題などについていまみなさんが考えていらっしゃる問題をすこしずつ出していただきたいと思ひます。なぜお母さん方が子供を上級学校へ入れるということについてこんなに熱心なのか、その辺からどうでしょう。

柴田 わたしもやはり、山深い農村ですけれど、女の子を高等学校へ進学させる一つの理由は、お嫁さんになるばあいにそのほうがいいという簡単な理由から、行く者が非常にふえている状態でございます。それに農村の問題にもつながってゆくのですが、親はそういうことを考えて学校に子どもを入れますが、こんどは農業を嫌うという傾向になってくる。卒業するとすぐ、就職させるわけです。就職させると自然、うちの百姓仕事も手伝わなくてもいいという状態になります。そして、子ども自身は高等学校を出て来ると、ほかの中学の卒業の方よりもレベルが高いような錯覚で、百姓はやらない、百姓にはお嫁に行けないという状態の傾向がわたしの部落ではあります。

笠原 わたしたちは二人子供を持っていますが、二人とも大学へ入れようと思ひます。それは子供が勉強が好きだとかなかにか研究したいから、ということもあるかもしれませんが、親の立場として

は、高校出と大学出と給料が違ふから、まず就職のために大学を出したいと思っております。

山崎 私は、長女が中学三年生でまだ就職は考えていませんが、中学一年に入った時から、進学か就職かということで、子供同士で進学組・就職組とグループが分れることがあるし、また進学する生徒が先生が重く見ている傾向で、無理しても進学したいという気持ちが生徒自身にもある。生徒は自分のはっきりした考えで進学したいというよりも、そういう空気に巻き込まれているのではないかと思ひます。

長谷川 私もそのことは周囲で常に見受けれます。進学組の人は非常に優越感をもっていますし、就職組の人はやっぱり先生のほうもどっちかというところを去りにしがちですから、学校に出してくれんほどの親なら生んでくれなければいいのに、という考え方をしている子供もあるくらいで、親としてはどうしてもそこで、食物のほうでシワ寄せしてでも高校にやろうとふんばっているのだと思ひます。

山崎 まだ中学ぐらいですと、将来のことよりも現在の友達の間柄やなかで親にせがむ傾向があると思ひます。かえって中学卒業して下積みからその仕事を習ってしんから一人前の人間になるほうが立派な人間が出るのじやないかと思ひますが、子供自身とすると、学校の空気で、どうしても高校へ行きたいというような気持ちにさせられてしまうのじやないかと思ひます。

日高(リーダ―) 福島の渡辺さんの感想文の中に、教育過剰という言葉をお使いになつてゐる。教育過剰ということはどういうようにお考えですか。

渡辺 それは雇休補助教員として農村や町を歩いたが、農村の子供

ま、学力向上などを一生懸命やらせたりして、効果がなかなか上がらないし、町に行ってみたら塾に通っている子供が非常に多いわけです。それもピアノとかバイオリン、算盤というように、いろいろな塾通いによっても、むしろその子供にとって性格的にマイナスになっているという場合もあったように見受けられたからです。

日高（リーダー） 塾については、ピアノなどを習わせるといってもあると思うが、高等学校の入学試験に備えての補習授業や補習の塾もあるのじゃないですか、これは全国至るところかなり似たことだと思いますが、そういう中学校の段階から、進学組と就職組ができるというのは現在の中学校での問題点だと思います。たとえば東京のように、ほとんど進学する子が多いという場合や、クラスの中で二割、三割と就職組ができる場合には、どうしても就職組が劣等感をもつ。それがつらいので親にせがんでともかく高等学校へ行く組のほうに行かせてもらう。そういうところにいるらる問題が起って来ている。もう一つは進学組のほうに起っている問題は、県で言えば、県立のようないい高等学校へ入れようということと学校の成績を上げさせる、あるいは入学試験に備えて、補習授業とか塾に通わせるとか、家庭の中で勉強させるとかいう問題がある。このように二つ大きな問題が起っていると思います。

後藤 それに付加して農村の場合では、ほんとうに子供が頭がよくて勉強がしたくて学校に行きたいと思っても、長男はことさらに卒業したら坊いでもらわなければならないということで、学校に行かせたくても行かせることができないという母親の悩みがありますから、そういうこともみなさんのお考えを、聞かせていただ

の学校からなるべく落とさないということで、理想どおりにはいかないらしいです。

日高（リーダー） いまの御意見と違う意見の方、ありますか。

笠原 私の子供の行っている学校は全員高校進学を希望している付属学校ですが、そのために考えられることは、人間形成という面においてちょっとどうかと思われる面がある。先生にそういうことを申し上げますと、学生が真剣に勉強するということが人間形成につながるものである。そういう教育の仕方だから、というのが、それ一本でやっている学校がある。

武久 自分には子供がいまさんから教育のことは直接わかりませんが、けれども、私の経験では、私の中学校は進学組・就職組と分けていなかった。そして今ほど激しくはなかった。いまお話を聞いてみますと、予備校のような感じが中学の時からする。せめて高校ぐらいは、希望者が全部入るような門戸を開くような方向にいかないものでしょうか。

山崎 それは進学するお母さん方の第一の要求だと思います。

松井 だから母親として運動しておりますね。

海老原 私も子供が中学三年の時に高校全入の学校に入れましたが、全入ということで成績が下がった。それから勉強したくない子も親の気持で学校に入れるので、お弁当持って学校に通っただけというところで、学校ができないためにそういう子が不良化した。それならその間、みっちり仕事をさせたほうがためになるのじゃないかと思えます。

それからいくら全入を叫んでも、滋賀県の子どもの学力の状況では、全体の八〇％以上は進学し得ないのじゃないかということを開きましたし、全入ということは、能力とか高校の質とかから

きといえます。それはある意味では、卒業して就職しなければならぬ、そういう人の問題だと思えますが、それについて親の立場としてどういうふうに考えていらっしゃるか、意見を述べていただきたいと思います。

松井 私、就職組・進学組と差別することがよくないと思います。就職組はそれで一生正規の勉強を終わる子供もいると思いますから、そういう子こそもっと学力をつけて出してやるべきなので、先生は進学組ばかりよくして就職組をおろそかにする傾向があるが、進学組は高等学校や大学でさらに勉強できるということを考えていただきたいと思います。

乙谷 私の学校では、進学組・就職組と分ける賛否のPTAの話がありました。それではいけないということで、三年間全然分けないで、同じように勉強させています。それで結核入学率はいいいです。

渡辺 私のほうでは二つに分けて、就職組と進学組と別々に補習をやっているようです。

日高（リーダー） 補習の内容が違ふのじゃないですか。

渡辺 違います。進学の勉強の組と実社会に出てゆく組というように二つに分かれてやっているようです。

谷口 まだ中学二年生ですからそれほど深刻に考えてないが、ほんとうに子供の人格を尊重するならばやはり区別しないほうがいいのじゃないかと思えます。人間としての基礎の勉強はどの子も同じように与えてやるべきじゃないかと思えます。

山崎 それはたしかに邪念だと思えますが、いよいよ中学の進学を担当する先生の立場になると、非常に競争率が激しいから、自分

いって、全面的には賛成できないことじゃないかと思えます。

酒本 進学と就職と差別があるということですが、劣等感を持たずに就職するのは立派なことだと思います。就職するにはそれだけの知識が要りますから、就職専門の予備の知識を与えるような補習をすればいいし、進学するには進学する能力をつくるような勉強をする。お互に先生も親も、就職ということにもっと誇りを持たせる教育の仕方をしてもいいと思う。高校全入はいまの段階ではまだ無理な場合もありますから。

日高（リーダー） 高校全入問題についてはかなりいろいろな意見のくいちがいがあろうと思いますが、ひとつ進学組と就職組に分けるといふことから起って来ている問題としては、就職組がいま酒本さんがおっしゃったとおり、職業に就く、あるいは働くということは決して劣等感をもって考えるような問題ではないが、現実には就職組がひけめを感じているのは事実だと思います。そういう子供の気持ちを非常にいたわって考えてやらなければいけないのじゃないか。これはやはり学校によっては、就職組と進学組との間に先生自身がなにか差別をつけて、子供たちに対してというふうなところもあると思います。そういうことがあると、子供は非常に敏感ですから、ともかく自分たちはのけ者にされたという気持ちで劣等感を感ずる。いわゆる非行少年といわれるような子供も、そういうところから学校や先生に対して不信感をもつようになってしまう。よく卒業式の時、あとで子供が暴れたとかいうことを聞きますが、あれは大体就職組の子供達が多い。もちろんそういうことをするのはいいことじゃないが、学校としても教育の場として、もうすこし考えてもらいたい私は思うわけです。ですから就職組と進学組の区別をするということについての

私の個人の意見は、中学校のいわゆる義務教育の段階では、進学組・就職組の区別をしないほうがいいと思います。たしかに就職する人には職場に入ってからのことを予め教えておいたほうが親切だという考えも成り立つが、しかしそれは職場に入ってから、職場の中での教育をもっと充実させてゆくというところで解決してゆくべきだと思ふのです。仮に、進学組・就職組が現に出来ているとしても、もし教師がその二つの組を差別するようなことがあってはとも困ると思います。私、群馬のある中学校を卒業した子供の作文を読んだのですが、三年になって進学組は入学試験などに備えて補習授業をやっている。就職組のほうは暑い中で校庭にセメントの石をずっと並べる作業をしていた。ところがだんだん調子に乗ってきて、かけ声をかけてセメントの敷石を運んだら、教室の上のほうから進学組が顔を出して、「就職組やかましい、」と言うわけです。「おれたちは勉強している、やかましいぞ、だまれ」とどなった。それで就職組が、「おれたちだってこれは作業授業だ」とどなり返した。上と下でどなり合って、下から就職組の子供が石をぶつけてガラス窓を割って怪我人ができた。そういう経験を書いた作文を読んだが、現実にはそういう問題が起きているわけです。ですから就職組と進学組の問題というのはやはり相当問題があるのじやないかという感じがするわけです。

谷口 いまの高校全入運動ですが、わたしは子供の立場から申し上げたいのですが、私が勤めている高校に入った生徒が、非常に学校へ来てから態度が悪い。みんなに反抗する態度を示す。なぜだろうと家庭訪問したら、自分は就職したかったのに、親が通二無二高校に入れた。だからわたしは、全入運動というのは、親の意見が大分入っているのではないかと思う。ほんとうに勉強したい子供もいますし、早く社会に出たいという子供もいる。だから、その子の能力とか特性を考えて進学させるか就職させるか考えたほうがいいのじやないかと思ひます。

日高（リーダー） その問題が次の進学の問題に関係してくると思ひます。なぜ上級学校へそういうように一生懸命進学させようとするのか、その辺のところからもう一度考えていただきたいのです。さっき、娘さんの場合にはいわばお嫁入支度みたいな、それから新潟の方でしたか、男の子の場合、就職のためだとはっきり割り切っていらっしやいましたね。

鷹野 高等学校でもそうした問題があると思ひます。大学へ進学する者は進学組で、卒業期になると一生懸命で勉強して、就職の人たちは冬休みから実務で働いていますし、卒業の前になると、たいへん差が出てくる気がします。

私も四男二女の母ですが、五人だけ大学を出しました。一人の子は中学に入る時に、自分はどうしても技術家になるから工業高等学校へ入りたいといひ、高校を出て、工業のほうへ進んで、自分の道をやっています。兄弟六人集まった時に、その子を大学に入れなかったということが、いつもその子に対して済まない気がしています。その子は自分の好きな工業に進んだのだから大学を出ていなくても、将来それで立ってゆくからと、誇りをもっていきますから、その子自身は何も感じないが、私としてみれば、あの時にいやだと言つても大学へ入れておけばよかったと考へております。

山梨県では今年あたり二、三十人ぐらい不合格の人があつて、来年はもうひとつ学校を建てて全員入学させると異のほうでもいろいろやっているように感じますが、高等学校というものは今

は義務教育みたいになつてしまつた感じがすから、全員入学といふことが親の理想だと思つております。

酒本 ほんとうにこれからの時代は、高校を出ていなければならぬ急激な社会の変化についてゆくことはできないと思ひます。それで、全部が高校へ入るためには、次の社会問題につながるのですが、やはり教育の機会均等という意味からも、貧しくて入れない方には教育費の補助を国家がするくらいにして、全員を高等学校に入れるような世の中にしていかねばならないと思ふのですが。

日高（リーダー） 全入という意味はみなさんどういうように理解していらっしやるのですか。

乙谷 私は、高校へ希望する子供を全部というように解しています。

日高（リーダー） いまの段階では一応全入というのは、高校へ希望する人を全員入れる、そうしてゆくゆくは高校も義務教育、あるいは義務教育にしてゆくほうがいい、そういう考え方があるわけです。

山崎 なにか高校を出てないと一人前でない……そういう世の中のようにですが、各職場現場でもっとその職場に適した教育といひますか技術といひますか、高等な技術までといひなくても、ある程度の技術を職場で身につけるようにしたら、中学を出た方でも相当立派な人間ができると思ひますが、今のやり方では、中学だけで行くと、人間がそこで止まつてしまつたような感じが受けるのですが、いかがでしよう。

日高（リーダー） 中学校卒業・高校卒業・大学卒業、それぞれの学校の特長を生かして、それに応じて社会のほうでも働く場所も違ひし、内容も違ひという形がいいと思ひます。ただ、みなさん

自身お考えになつて、中学校を出ただけで、あるいは高等学校だけで世の中に出てしまつと、なにか一生下積みになつてその子供はかわいそうではないかという気持がある。そこでやっぱり、親がどうしても上の学校へやりたいという気持の本心じやないかと思ひます。

山崎 そういふことは受け入れる側の社会が悪いのじやないでしようか。高等学校出だからとか、大学出だからとか差別した目で見る。まず先にそれを解決しなければならぬと思ひます。

日高（リーダー） 中学出は兵隊、高校出は下士官、大学出は将校というように、社会に出てからの待遇なり地位なりが固定してしまひますと、これは親としてもなんとかして将校にしたいというようになるのじやないでしようか。その辺はどういうようにお考へですか。

笠原 根本からやり方を覆えなければいけません。イギリスの話を聞きますと、高校出も大学出も収入には大差がないそうです。けれども日本では、学歴のない者はある一定の地位より上げられませんが、初任給そのものが全然違いますから、大分損です。だから子供に能力があれば最高のところまでやろうと思ひます。

後藤 同じ大学でも一流か二流かでまた違ひます。

松井 東大の総長のお話にあらう太った豚よりやせたソクラテスになれ……といふこと。現在では、太った豚にはなりたいたが、やせたソクラテスにはなりたくないといふ立身出世主義が災ひしています。人間的尊敬を受けていけばわざわざ特校にならなくてもいいが、今のような考え方は、社会から見ていかなければ、なかなか改革はできないのじやないかと思ひます。

長谷川 東大に入れたならば、それこそ一歩太った豚になれるという心が親にありますから、幼児の時から塾に通わたりして、ほかの人間形成を無視しても知能に重点を置く。親も先生もそういう考えなので、東大尊重というようなものの根をとり去っていただきたいと思います。

日高（リーダー） 大賛成ですね。

海老原 東大尊重というのは、どうしても日本中の優秀な子が入るし、一応日本を支配する階層がそこから出るのあたり前と思いますが、そのためにみんなが努力することは仕方がないと思います。学生は勉強することが一つの義務ですから、すこし苦しんでもかまわないし、能力限界いっぱいには伸ばしてやって、その子を一番有利な立場で社会に出してやりたいという気持ちが親としてあるわけです。

日高（リーダー） いまの御意見が、やはり親の意見として非常に強くあると思うのですが、どうでしょうか。いまの御意見をずっと進めてゆきますと、やっぱり子供の間にびしびし勉強させたほうがいいから、学校のほうでもやってほしいと、PTAから先生にお願いするという形になってゆきますね。

渡辺 農村では次男、三男はやっぱり都会に出して現金収入を得るために、どうしても高校ぐらいは出していい捧給を取ってもらいたいということじゃないでしょうか。無理をしても進学させたいという結果になってくるわけです。

日高（リーダー） 子供たちはフーリー言っていますね。

松井 子供は毎日テスト、テストで、学校へテストしに行っているようで、おをあげております。いま中学三年ですが、私どものころは思考力の問題が出まして、暗記もするが、考えることも

あったが、今は○×式で、先生に聞いたら、どっかにやれば確率がある、○×式はアメリカから入ってきたので思考力はあまりない、イチかバチかどっちかということ、人間形成にはあまり役立たない、ということ、毎日、テストという教育は結局は進学のための勉強で、いまの義務教育では人間形成はできないと思います。

海老原 たいへん申しわけないのですが、自分の子供が最高の条件で社会に出るためには、ぎゅうぎゅういじめていただいていいと思います。

いま高校二年ですが、一年の時にも、二期期までに普通の勉強を済ませて、三学期はほとんど入学試験問題をしています。子供に、それでも楽しいのかと聞きましたら、小学校の時のかけつこの変形で非常に楽しいというから、わたしは、それはそれでかまわないと思います。

山崎 いまの意見に賛成です。親から見ているとたいへんですが、子供はそういうことで一生懸命やって、結構面白いのではないかな。自分の子供を見て思うのですが、そういう中から子供は子供なりの人間形成といいますが、友達関係なども非常に功利的になっているんじゃないかと思えます。

武久 いま聞いていましたら「車輪の下」という小説を思い出しましたが、学校教育というものは、もうちょっと基礎教育といいますが、一般教養のようなのが主体になるのが本来の姿だと思います。いまのテスト、テストの場合、能力のある子供はいいが、それについていけない子供との間にものすごい格差ができてくると思います。それをほんとうに平等に教育してゆくためには、下の子供の能力も見えていかないと……。

山崎 そういうことも考えられますので、うちのほうの中学ではクラブ活動に力を入れて、学問でためなりクラブの活動で先立ってやれるのという自信をもたせるようにやっておりますから、そういう劣等感などは感じられないような気がします。

松井 私、身近に経験したのですが、近所の小学校六年の子供が友達に手紙を出して、「君、ぼくよりかい点数を取るな」と書いてたという。それはすごく人を蹴落とすことであり、脅迫状みたいなものを出して、自分がいい位置に坐ろうといういうことを聞いて、びくびくした。それに対して先生は一応注意させた。その家庭のお母さんを見ると、ものすごく競争意識が多くて、なにがなんでもひとよりか、という教育をしている。家へ帰って点数が悪ければお母さんに叱られるから、好成績の子供に手紙を出す。こういうのは、みなさん、いかがでしょうか。

渡辺 うちの娘が高校試験の時に婦人会長の娘がわたしの子供と四人、めばしい高校をめざして勉強していた。その高校に落ちたところはたいへんだというので私立を先に受けたら、私立の時には四人一虎に入れた。それで四人とも自信を得た。そうしたら会長長の娘が一人の友達を吊り上げた。そういう問題があって、いよいよ試験になった時に吊り上げをやったほうの子の母親が、これされたほうは入ったわけです。そうしたらその子の母親が、これは先生の申請が悪いから落ちたのだといったので、先生はいたたまれなくなつて転動して行ってしまったということがありました。日高（リーダー） これはどうもいま日本の親が一部困っている問題で、ちよつとやそつとで解決できないのですが、事実をひとつみなさ、考えてほしいと思います。ここに地域類型別に見た全国中学校学力調査平均点という表があります。これは文部省で毎

年やっている学力テストの結果ですが、いわゆる市外住宅、サラリーマンなどの地域が一番点数がいいわけです。そうして純農村というののは下のほうから四割目ぐらいになっている。これを、たとえば三年の数学でみると、六四・四と五二・九で、十点上開きがあります。

それでは、なぜ住宅地域が点数がよくて純農村が点数が悪いのかというところ、その中の一つの原因として、たとえば理科設備充足率を見ますと、住宅地域四九・六％、純農村三五・一％という形になっている。図書なんかについてはむしろ純農村のほうが多いという形もありますけれども、生徒一人当たり自習負担とか、理科設備充足率などでは純農村のほうがかなり劣っている。これは一例ですが、ほかにもどんな原因があるとお考えですか。

乙谷 農村には刺激が少ない。それと人手不足で、なるべく使わないようにと悪くても、つい子供を使ってしまうことがある。そういうことが原因でないかと思えます。

日高（リーダー） たしかにそういうことが大きいと思います。それで、さきほどから東大の塾が出たので東大のことを申しますと、東大には、たしかに全国から学力の優秀な学生がたくさん集まると言うのですが、塾の敷金を調査してみることがあります。いま正統な数字を持っていますせんが、塾が農業という子供が東大では大体四割くらいで、いわゆるサラリーマンの家庭がかなり多くて、二七・八割くらい。それからサラリーマンよりも少し上の管理職あるいは経営者クラスの子供が一七・八割くらいいたと思います。ところが現実に日本の階層別あるいは職業別人口の比例で考えればゆきますると、純農村に生まれた子供は、管理職、経営者クラスの子供に比べると、大分二百五十分の一ぐらいの確率でしか東

大に入れないということが数字的に出てくるのです。これは結局、家庭環境で、小さい時から親が非常に受験勉強をさせる。あるいは家庭の空気がそれ自体が非常に文化的水準が高い。そういうことが長年積み重なってそういう結果が出てくる。そこで問題は、いまの状態のままで、都会でも農村でも、とにかく子供にはさっさと勉強をやらせようという能力の限界まで押し付けようとする。これは非常にいい家庭の子供が最後にはかち残ると思うのです。これは生存競争ですから仕方がないとしても、純農村に生まれた子供たちは非常に損をするという結果になる。こういう問題を一學に片付けようとしても、そう簡単には片付かないが、事実として、そういうことがあるということを一つ考えておいていただきたいのです。

もう一つは進学のための勉強がほんとうに子供たちのためになるかどうか、この辺はさきから意見が二つに分かれているが、むしろかきしめることですね。たしかに子供は若い時に勉強しなければならぬということがあると思う。それと同時に、いまのような、それを三当五落というような状態で果たしていいのかどうか、これはやっぱり問題じゃないですか。

酒本 いまの先生のお話を裏書きするような経験ですが、私も引き揚げて来て、子供には大学を出したいということで内職して働いた。結局内職に出ておきますと学校から子供が帰っても母親がいないので淋しいから、勉強しない、母が帰るまで外で遊んでいる。その時はまだ気がつかずに、とにかく愛情で、夜は話合いの場をもったり、日曜はできるだけ家族の団らんをもったりして、子供が不良化しないで明るく育ったから成功したと思って喜んでたのです。

が出来上がるだろうかという心配があります。

渡辺 大学に入って自殺したり精神が異常になったり、どこに原因があるのでしょうか。

日高(リーダー) 東大では、駒場の学生については最近特にその点が心配されていますが、この二、三年急にそういうケースがふえたのです。ですから、駒場へ始めて入った学生の精神衛生というところについては、最近とても考えていますが、やっぱりかなり入学試験準備の重荷が子供たちにかかっているのは事実だと思います。

笠原 だからそういう現実をどういうようにしたら人間として幸せに勉強できる状態になるだろうかということを考えたいのです。

日高(リーダー) では一つ問題を出しますが、さっき言ったように、一方では中学校だけでもよかったし、高校だけでもよかった。またともかく大学までは、という考え方が一方にある。それほど熱心なお母さん方が、果たして自分の子供の個性とかあるいは好みとか特徴とか、そういうものをしっかり掴んでいるかどうか。たとえば、この子はともかく大学に行きたいというお母さんに先生が、では大学のどちらに進みたいと思っているかと聞いて、即答できるお母さんは少ない。ともかく大学へやればいい。子供がいったいどういうふうへ伸びてゆけば子供にとって仕合せかということは考えていない。だから場合によっては、熊本谷口さんのおっしゃったように、子供はむしろ就職して働きたい、子供は子供なりに考えて、自分はこういう方面に向いているからそっちに行きたいと思っているのに、親はともかく大学へ入れるという。つまり親のほうが一生懸命になっている場合がある。

が、いよいよ大学に進学しようという時に、国立に入るにはいろいろな試験科目がある。中学で基礎教育の大事な英語とか、理科とか一番むずかしいことが身につけてなかった。その時に私は、た国立大学に入れないで私立に入ってしまった。その時に私は、子供の小さい時にわずかのお金を、一生懸命内職で稼いで、そのときはよかったと思ったが、こんど私立に入れたところが国立の倍のお金がいる。ああしまった、と思った。あの時ほんとうに家庭にいて家計を節約して切り盛りして子供の勉強を見てやったが、うが結果は得たかったと思った。其後の失敗談になるのですが、こういう経験もある。結局損だったわけです。

日高(リーダー) それは経済的にはたしかに私立に入りますと負担が大きいということはある。また実際に家庭によつては、国立でなければ子供は大学へやれないという家庭もあります。ですが、もしその子供さんがその私立の大学にお入りになって、そこでほんとうにいろいろの自分の好きなことをやって、好きな方面に就職してゆくことができるのであれば……。

酒本 そう思って諦めているのですが、やはり国立の大学で好きな専門を勉強するのだったらもっとよかったと思います。

日高(リーダー) つまり、みんなが高校の場合も国立、大学も国立だといって、ますます入学試験をきびしくしているのですが。笠原 そういう勉強の仕方をいいことだと思いません。ということは、東大生はとく背が高く細い。背丈だけは標準以上ですが、体重は標準以下だということを朝日新聞で読みましたが、そういう体格になるほど勉強しなければならぬということ、そのうして、そういうことをしてもほんとうに性格も立派で申し分のない人間もたまにはあるでしょうが、それで果たして正常な人間

それから、たしかに中学校出、あるいは高等学校出のままで就職すると損だということがあるが、ほんとうに計算してみたことがありませんか。大学にやった学費と、卒業して一生涯にもらう給料と計算してみても、損だという説が大部分ありますね。たとえば子供に四年間、二百万かけるとすれば、これを投資信託に入れておいたほうがずっと得です。しかし子供はやっぱり大学にやりますね。だから経済的にそれだけ自分のほうに限定とは考えていないが、その子供が世の中に出て下積みというか、なにか劣等感をもって一生過ごすのはかわいそうだという気持ちが一番強いでしょうね。純粋に経済的に言いますと、高等学校を出て一流の大企業に入ったほうが、二流三流の大学を出て二流三流の企業に入るよりも一生のみのりが多いのです。これは余談ですが……。

やっぱり子供の性格・素質・能力をほんとうに真剣に考えているか、ということが一つと、それから社会の現在の仕組みがそういうことになっているかということですね、その間にはさまれて、お母さん方は苦勞されていると思います。

松井 資料に、市街地と農村とで学力差があるということがはっきり出ていますが、それに対して国が施策をしてくださっているのでしょうか。現実には山村へ行くのはいやですとバリバリの先生は拒否する。こういうデータに対して、何も対策がないというのは、われわれ納得できないので、これをどうするという答を出していただきたいのです。

日高(リーダー) 文部省ではないので困るのですが……笠原 それで最近僻地と平場との先生の交流がある。新潟県では、どうしても僻地に二年行って来なければならぬというきめがある。私のところに下宿していた学生が先生になって、最近僻地に

行かれて、高田市内に負けない教育をしようと思った。全国テストをしたら九十四点、決して負けていないとおっしゃった。

日高（リーダー） それは文部省の功績でなくて、僻地に行った先生の努力です。それは非常に重要で、学力調査というのはいろいろ意見がありますが、とにかく文部省としては、これをやるのは、設備その他について教育条件の格差をなくするための材料を得るためにやるということですから、これだけいろいろ差が出てくれば当然文部省としては考えてもらわなければ困ると思います。それが一つと、いまのお話のように、先生が努力するということがあるいは先生がほんとうに子供の学力をどうやってつくるか、それを考えるということ、これが非常に大切だと思います。

私の個人的な意見では中学校の段階で、たとえば毎日六時間授業がある。六時間の授業をほんとうに真剣におやりになれば、補習なんかしなくても大丈夫な学力がつくと思う。これをさらにあと二時間補習すると合計八時間です。八時間精神を緊張させて一生懸命やるということは容易なことではない。六時間の授業で一生懸命真剣勝負でやれば教師のほうも油汗が出ますし、子供のほうもとてもたいへんです。私は補習授業をやったり、塾へ通わせたりしないでも、学校教育の中でみっちりやるということをやまず第一に考える必要があるんじゃないかと思っています。

山崎 でも現実には、先生自体が補習をしますということを言われるが、子供としては学校だけでできればそれにこしたことはないと思います。塾はどうですかと聞かれると、すすめるわけにもいいかないし、私としては見て見ぬふりです。要するにどこをつかまえていいかわからないような答しか出ないのです。

渡辺 中学校の先生は入学と同時に小学校の基礎をお前たちやって

も学校の先生の教え方が悪いと、一向家へ帰って意欲がない。先生の教え方がいいと、家でなにも言わなくても、どんなに机がなくても条件が悪くても勉強するということを自分の癖で経験しておりますから、やっぱり先生のほうへ学校教育はお断りしたいと思っています。

日高（リーダー） 谷口さんは先生で、松井さんは親で、そういう

論戦になって非常に面白いのですが。

谷口 学校の先生が悪いからとおっしゃいますけれども、お母さんが家庭に帰って来た子供に学校のことをよく聞き出していただきたいと思うのです。先生が悪いのなら、どういふ点が悪いかというのをよく聞いて、それじゃあ自分が勉強して、先生が勉強なさるように、質問でもしてみたらどうなのというように、子供が先生に積極的にやってゆくように母親が仕向けるべきではないかと思っています。

渡辺 それはやっぱり学校側と家庭の協力だと思えますが、たとえば宿題を一生懸命やって学校に行きます。すると、よくやってきたね、という先生の一言で、その子供はいきなり甲斐を感じると思う。家庭に帰って、お母さん、こんなに大きいマルもらったよと言え、お母さんのほうでも、明日もまた大きいマルね、といったように、先生と家庭が協力して、お互いにいきなり甲斐を感じるということであれば、子供の人間形成にもプラスだと思えます。

日高（リーダー） そこでつまり親のほうの立場からいましてど

ういう先生がいい先生だと思ひになりますか。

柴田 結局、先生の人格の問題にもなると思うが、この子供はこういうように指導したらいというのを掴んでいらっしやらないと、ほかのほうに行ってしまうと思ひます。特に数学や英語など

こないからわからないという。ところが高校へ行くと、中学の基礎をやったこないからわからないのだという。それで、一番悪いのは小学校の先生になってしまふ。すると小学校の先生は家庭が悪いからと言う。

乙谷 さっきどなたかおっしゃったように、先生にそれだけの熱があるといいが、先生方も職業的になっておいでになるのじやないでしょうか。ほんとうに熱をもって指導してくださったならば、六時間の授業だけで十分ではないかと思ひます。

谷口 いま、家庭に責任があるとおっしゃったが、これはたしかに家庭の指導の仕方ということをみなさんがどうお考えになつてゐるか。親が素人先生になつて、学校の代りみたいに子供に勉強を教えることが家庭学習とお考えになつてゐる方があるかと思ひますが、家庭では子供が勉強するような雰囲気をつくつてやること、ほんとうの家庭学習の指導の仕方ではないかと思ひます。子供は学校で精いっぱい勉強してきているから、お母さんがあまり勉強を強いるとかえってしたくない。それよりもテレビが見たい時は見せて、しかも明日のところは予習するということが大事だと自覚してくれば自分でやると思ひます。それをやるように自分の部屋を作つて、机を与えて、子供が勉強する時はそばでテレビなんかガヤガヤしないという環境を作つてやるほうがいいと思ひます。それと同時に、なるべく勉強は一時間か二時間ぐらいにして、休憩させてやるということをお母さんたちが考へて、神経を疲れさせないで回復させ、楽しく勉強させるようにしたほうがいいと思ひます。

松井 家庭でそういう雰囲気を作ることはいいいことです。それはもちろんやっておりますけれども、どんなに雰囲気を作つて

の基礎ができないとずっと進んでいけないので、ちよつとしたつまづきがあるために、その子供は学校がきらいになつてしまつて、英語はだめだ、数学はだめだ、という劣等感を感じるようになる。その時に先生が子供をよくみつめて欠点を補つてやる。そういうふうな先生が実際に子供に立ち向かつていらつたら、子供は自然に先生になつて、勉強もするようになりますし、成績も上がつてゆくだろうと思ひます。

乙谷 先生のよい悪いといっても、小学校の場合の先生と中学校・高校・大学とそれぞれあり方が違つてくるのじやないかと思ひますが、やはり高校以上になりますと頭のいい先生のほうが教える方もたしかによくなつて、同じ学年でもクラスの平均がずっと上がつてゆきますし、そういうことも影響すると思ひます。

日高（リーダー） 頭がいいということよりも、先生自体がいつも研究している、ということが一つあると思ひます。

松井 子供の可能性を引き出してくださる先生が一番いい先生だと思ひます。

日高（リーダー） 先生に対する期待というのはみなさん同じだと思ひますが、進学率を非常に高くしてもらつてゐるような先生がいいという、そういう意見はありませんか。

乙谷 やはりあります。

日高（リーダー） そこでさっきの問題に戻つてくるのですが、私自身の意見はあとで申し上げることにして、どういふ子供になつてほしいかということですが、差がつて県立の高等学校に入つてほしいとか、あるいは大学にともかく進学してほしいというよりな現実的な親の望みというものがあると思ひますが、果たしてみなさんがどういふ子供になつてほしいのか、その辺のところを

すこしお聞きしたいと思っています。

長谷川 立身出世なんかはしなくてもいいから人間としてみなさんに御迷惑かけないで、余力があればむしろすこしのことで社会に奉仕してもらいたいということ、たいへん利己的ですが、親をいつまでも忘れないで、老後においても大切にしてくれる子供を望んでおきます。

全篇 全く同感です。

日高（リーダー） そんなに立身出世しなくてもいいというなら、どうして一生懸命東大に入れたがるのですか。

長谷川 私は、子供が自分で東大に行きたいと言いましたので、よその人のように塾にやったりしないで、あなたの可能性でやれとほっておいた。そして受けてすべりましたから翌年、自分で早稲田に行きました。ですから、かならずしもいい学校を親として出てほしいとも思わないし、自分の能力で行けるところに行ったらいいと思いました。就職にしても自分が一生の仕事としてやろうというところに向くようにと思ってそんなに口を出しませんでした。

笠原 立身出世ということは、どの程度をいうのか知りませんが、大学出たからといって決して立身出世に入らない者が大部分だと思っています。私としてはまず第一に、権利の主張は認めるから、ぜひ責任を果たしてもらうように、子供の時から育てたいと思います。それから、自分が求めているものは人も求めているという気持ちで、思いやりのある温かい人間になってほしい。今までは日本人としてとか、長男としてという気持ちでしたが、だんだん大きくなるにしたがって世界の中の人、という気持ちで子供を育ててゆきたいと思うようになりました。海外に出ても恥しくないような人

思います。ただ親孝行のあり方も、受けるほうも子供のほうも、それぞれ考え方が変わってきているのだと思います。

日高（リーダー） 子供が利己的になり易い、そういう問題は、やっぱりテスト、テストで子供がいじめられているということといくら関係があると思います。これは極端な例ですが、ある学校で「教室の中ではお互に敵であれ、運動場ではお互に選手であれ」というスローガンが貼っている教室があったそうですが、これは実際、とんでもない話だと思ふ。やはりほんとうに友達同士助け合うというような気持を学校時代から十分に作っていかなければいけないのではないか。またある意味では、子供に、ともかく人を押しのけてでもお前は一生懸命いい点を取りなさいという教育をしてゆけば、子供はだんだん、自分さえ上げればよいということになって、そういう子供に育ててゆけば、お母さんのこともほったらかしてしまうということになる。結局母親が子供自身を利己的な子供に育ててしまうということにもなるのじゃないかと思うのです。

そういう点で、たとえばこれは一例ですが、ある中学校の先生が、いまのテストはほとんど〇×式です。親が、どこでもテストをやっているから先生、やってくださいと頼むので、それほど言うならやりましょうということで先生がテストをやった。その翌日子供たちが先生に、自分がどれが合っていたか間違っていたか、答を教えてくださいと言ふ。先生は、答はここにあるが、あなたたちに見せない、と破いて捨ててしまった。そうしたら子供たちは、「テストやって答がわからないと合っているかないか、テストにならないで困ります」と先生にうるさく言った。そういうことを四、五回先生がやったら、子供たちの中で議論が始まった。た

間になってほしい、そういうことを身につけさせたいと思っています。

日高（リーダー） どうもみなさんは子供に対していわゆる立身出世だけを求めているのではなさそうですね。そういうことは、私自身はやはり行き過ぎだと思っているが、今の皆さんのお話だと入学熱みたいなのとちよっとくいい違っているような気がしますね。

山崎 この間私の子供のクラスで、将来何になりたいかということ調べたが、意外にえらい人になりたいという希望が少なかった。えらくなるよりも、機械なら機械、電気なら電気、そういう専門的なことを一生懸命して、自分の能力を十分伸ばして、社会に役立つ人になりたいというのが大半であったということを子供から聞きました。親が子供に望むのは、やはり高いところの立身出世を望んでいるのではないかと思います。

日高（リーダー） それは、子供の考えは健全だと思います。

山崎 それから親孝行の問題ですが、私どもが習った親孝行は、今日も明日も、親にこうしましょう、言うことを聞きましょうと親孝行を迫られてきたが、今の子供は反抗するとか言うことをきかないと言いますが、意外に、親の将来のことは、私なんかの子供の時以上に心配しているのではないかと子供を見て考えています。というのは「お母さんわたしが月給取るようになったらにがしてもらいたい」と言うから「お母さんは外国に行ったことがないから、ハワイでもいいから行ってみたい」と言いましたら、「じゃあ一生懸命勉強していい学校出て月給取りになって、うんとお金をためてお母さんにやるよ」と言うんです。ですから、心底には、親を喜ばせようという気持ちを、子供は抱き持っている

たとえば國語なら國語の中で、山とか川とかいう字があって、ここにどれを当てはめると正しいかというテストがある。すると子供たちがお互に議論して、これは山というほうを入れるのが正しい、いやそうじゃない川だとか、議論をはじめた。そして議論して、どうもこれは山らしい、川らしいというふうな考えで判断するということ勉強をはじめるようになった。

これは一例ですが、ただ〇×式テストで、これは当たった、間違ったということじゃなくて、子供が、どの答が正しいかということをお互に議論し合って、考える、ということをやっているのです。そういう教育が一番いいんだということを先生はちゃんと知っておられるのだと思うのですが、しかし割り当てられた時間の中でそういうことをやっているとはとても教科書は全部終らない。そうすると、入学試験の時に心配だという気持ちになって、また詰め込み的教育に戻ってゆく。実際に入学試験とかテストとかがあるために、ほんとうの教育ができなくなっているという現状もあると思います。つまりほんとうに子供たちが自分の頭でものを考える、あるいは友達と協力し合って勉強をするということがだんだんおろそかにされているということもあると思います。

さきほどの、そういう子供にしたいかという点については、さきさきの長谷川さんの意見に全く賛成です。温かい気持ちで、みんな仲よく人間的に、いってみれば温かみのある人間になってほしいという意見に全く賛成なのですが、そういう立場からいまの学校教育を反省してみても、先生に対する注文を出してゆくというようにしないといけないのではないか。現状はどちらかというと、テスト教育をみっちりやって、なにがなんでもいい学校に入れて

くれという注文が先生方に殺到していると思うが、その辺を除々にでも先生方に、親はそれだけを考えているのではない、やはり子供が、さっき言ったような子供に育ってゆくということも考えているから、その点を十分考えてくれ、というように注文を出してゆくべきじゃないかと思えます。

それでは、特別オブザーバーの方、この問題について、いかがでしょうか。

市岡(特×オブ) 私、子供を通してきいたのですが、大学に入ってから意欲が一時後退する。それがとても大きな問題だということです。ほんとうに旧制の高等学校時代の青春を謳歌して、青春とは何ぞや、人生とは何ぞやと考えた青春時代のあんな時期が、いまの子供にないということは、私個人としては残念で、人間形成のそのところが、とても大事だなと思います。親も先生も協力して、ほんとうの意味の、人間形成について考えたい。社会的な地位だけが尊重されるというようなことが、かならずしもいい人間形成にはならないということを、私たち、わかりたいと思います。

桑野(特×オブ) 要するに子供の能力を見出すということが、先生も親も一番大切だと思います。親のほうの虚栄心が高くて、子供を買いかぶっている親子のほうが多いと思います。それからまた就職組と進学組を分けるという問題ですが、日高先生がおっしゃいましたように、就職組は就職した職場で必要なことを教えていただくということが前に開けているから、学生時代には、高等学校なり、中学校なり、それぞれその時でなければ勉強はできないことを十分、いっしょに勉強させるといいことだと思います。

市岡(特×オブ) それから各会社が産業化に力を入れて、大学や高等学校の教育を最後までさせないで途中で実社会に入れてしまう。また、会社社会に社風があつて、受けた教育と矛盾するようなことをさせる。一種の、片寄った人間をつくるような教育をしかねまじき昨今の風潮を非常に残念に思っています。

日高(リーダー) おっしゃるとおりです。私、東大にいますのが、大学卒業者の就職試験が、御承知のとおり十月あるいは九月です。実際これは困るのです。つまり四年の最後の半年間の教育は無茶苦茶になってしまふ。私の学生時代には大体就職試験は一月か二月にあった。これでも早いぐらいです。それを大学側として採用側側面として要求しないのは実に不甲斐ないと思っています。これは学校教育というものをほんとうに尊重して、就職者側でも最後の半年をこれは半年ですいぶん進みますから、そういうところを大切にしたいと思っています。

(休憩)

(再開) 日高(リーダー) 最後に「家庭と社会の関係」についてというところで、これは非常に大きな問題で、三十分ぐらいの時間にはお話し尽きないと思いますが、今年のテーマは「産業社会の中の家庭の問題」ということになっておりますし、今まで職業の場面、あるいは家庭生活の消費生活の場面、あるいは家庭生活の中の人間関係、あるいは教育の問題ということについて絶えず外側の社会との関係について考えながらお話をしてきたと思いますが、特にこういう大きな変動期の中で家庭の主婦たちが家庭の中に閉じ込められて、社会的な大きな視野の中で、家庭の問題も社会の問題も考えるというふうになってゆかなければならない。

これについては反対の方はいらっしやらないだろうと思いますが、具体的に家庭の中でいろいろ問題が起こっているが、実は家庭の中だけでは解決できない問題がある、これをどういうふうに考えたい、どうするかということで、こゝでは社会的な活動といふますか、PTA活動あるいは婦人会活動、農協の婦人部の活動、もつといろんなグループの活動、その他いろいろな婦人の活動があると思います。職業労働とか、家庭の中の家事労働、それから社会的な活動の三つを並べて考えた時に、家庭婦人として、社会的な活動の中にどういう形で入っていったらいいのか、そういうところを話し合ひの重点にしたほうがいいか、今ここで山口さんの意見をお知らせしましょう。山口さんは気分を悪くされて今、休んでいらっしやるのですが、これだけは言いたいといつておられたことがありますので。山口さんは美術工芸品の小さい工場を持っている方で社会的な活動としてPTA活動や町内会活動なども一生懸命やっていたらいますが、その中で、つくづく感じたことは、いろいろと家庭につながる社会の問題が

第二部会 第二日目

三・三〇・五・〇〇

あった場合に、社会活動をしていないと、世の中は本當によくならないというところで、ところが私もはその日その日の忙しさに追われて、目の前のことだけに没頭して、考えるということ全くしない。そこで山口さんは、毎日その時々矛盾に気がついたら、それを解決の方向にもってゆくように努力してゆかないで、同じ考えをもつ他の人々と分け合ってやるということが必要ではないか、そういうことの必要性を痛感して、そのことを是非この会議で発言したり、また、家庭という立場から考えると、結局社会が平和であるということが大前提になると思うが、今ではいろんな戦争の危険とかそういうものが全くなくなっているというわけではないので、家庭をおびやかす社会のいろんな問題に対しては母親が手をつないで抗議するなり、社会活動として是非やってゆきたいということをお話の皆さんに伝えていただきたい、とかく女は祈りをもってということをいうが、祈りをもつだけではだめだということでございます。

日高(リーダー) 今の山口さんのお話はこの話題とびつたりだと思えますが、なにかご意見はないでしょうか？
山崎 地方会議で結論が出なかったのですが、農村に団地ができる、団地と農村の交わり、婦人会などを通じて交わろうとしてもなかなか打ちとけないでやりづらいいということがあります。その解決法がなにかあったら聞かせていただきたいと思えます。
日高(リーダー) 今の問題についてなにかありますか？
笠原 一つのグループだけで話し合いをしないで、自主的にやれば一番いいんですが、あるいはどこかで音頭をとって下さるでもいいが、いろんなグループが同じテーマで話し合えるような機会を

つくること、もう一つは、皆さんが協力してなにか問題をもって役所とかそういうところにおつかる。とかく民主主義の徹底してないところは特別を目で見られるということがあるが、ちゃんとした理由が立てば、勇気をもって手をつないでことに当ることができると思えます。

山崎 たしかにグループができれば、一緒にそのことを研究するということも結構ですが、なかなかそこまでゆかないのじゃないかと思えます。

日高(リーダー) その問題は、資料の文化的、社会的な生活時間のうちわけに引っかけてみますと、サラリーマン家庭は交際雑談は非常に少ないという結果が出ています。農家は交際が二十六％、雑談が十五％、サラリーマンはそれぞれ十二％、七％というふうになっていて、農家あるいは漁村、商人に比べて少ない。サラリーマン家庭はどちらかといえば自分の家庭の中にひき込もって、周囲と交際しないという傾向が強い。これは一つのデータですが、私は大学の若い学生たちに接触して感じますが、最近の若い人たちの中では、人生に対する目標はマイホーム、マイワイフ、マイカーという考え方が強くなっている、自分の家庭生活を中心において、それを豊かにしてゆけばいいということ、今の若い人たちは、就職しても会社に対してあまり義理だてしないし、組合に対しては関心がないし、仕事についてもある程度はやるが、大体おざなり程度で、もっぱら生活の設計はマイホーム、マイワイフ、マイカーに向かっていく傾向が非常に強くなっている、サラリーマン家庭などはその典型かもしれないが、婦人にもいわゆるグループ活動をすればいいということはいくつかありますが、実際には家庭の主婦としてはいろんな障害があるのじゃないです。

か。

笠原 農村の工業化によって、働き手が農村から都会へ出てゆきますので、主婦農業になって農繁期の時なんか、とても食事のことが心配です。そういうときに、私も生活改善グループをもつて女だけでなにかいいことをやってみたいということで農繁期の共同炊事をやりました。そうしたら山梨大学の学生さんたちが食事の心配を下さるということになって、それから時間一杯仕事はできるし、栄養の点からも、毎日変わった献立で労働にマッチした食事が配給されるようになって皆から喜ばれています。そうしたことを県下に先がけて実行し五年になります、大変プラスになりました。それから山梨県では共同炊事が盛んになりましたが、これはいいことだと思います。

笠原 サラリーマン家庭の主婦が果たしてグループ活動ができるかということですが、私の会では八十七人のうちほとんど全部がサラリーマンです。ですから結局グループを成功させるにはその持ち方と内容の魅力が大切ではないかと思えます。私どもの会は午後からというのは講演会以外にない、勉強とか打ち合わせは全部午前中から昼までの間です。そうすると夕飯とか学校から帰ってくる子供にさわりがないというので出席がよいわけです。もちろん方は皆さんと相談して、どういうことを研究したいかということと話し合う。大きなグループでは末端まで浸透しないというが、自分の考えたことを自分でやっていけるか、ずっと協力的ですし、六年間続いてあります。

片桐 サラリーマンの方は羨しいと思えます。農家では、自分たちのテーマを見つけないとだんまりで、井戸端会議的なおしゃべりが多くて、テーマを設けると、窮屈だと言うのですが、ど

ういうふうにもっていったらいいでしょうか。

長谷川 私はじめてグループづくりに苦心した一人ですが、一番お母さん方に身近で、現実的な問題としてとびつきやすいのは料理です。だから私、八を集めて次の段階のお話をしたいと思う時に料理の講習をやることにしております。そうするとたくさん集まりますので、その料理をみんなで試食しながら次の言わんとするテーマを持ち出すと、ついつい込まれてその話に身が入るということになります。

片桐 うちのほうでも料理はよくやりますが、それにも集まってもええな。小さな工場の町が近所にあるので、その仕事をして一時間でも二時間でも休むのがおしいというので料理に半日つかない。夜は夜業もするので疲れてできない、そういう土地もあることをご承知願いたいと思えます。

山崎 今のグループづくりは農村は農村、こちらはサラリーマンばかりで同じ生活状態のグループというのは大変やりいと思えますが、私は農家の家庭と団地の家庭と生活の変った人たちが同じグループで町内のことをやる集まりをつくるのはどういうふうにもっていったらよろしいかお聞きしたいのです。仕事をするとかしないとか問題はありますがその前の問題です。

日高(リーダー) グループをつくるのはなんのためにするのですか？

山崎 農家は農家、団地は団地だということでは、町内の仕事はやってゆけないだろうと思えますので、それをお互いにやってゆけるようになんとかうまい方法をみつけないわけでは

日高(リーダー) 団地の人とそれから農家をやっている人との間に、共通の地域の問題がありますか？

山崎 衛生の問題、注射の通知を出すこと、週期の衛生とかそういうことは同じ町に住んでいれば農家でも団地でも同じようにやってゆかなければならないと思いますが、そういうことがうまくやられてゆかないのです。

日高(リーダー) それは生活環境で考え方が違うからだろうと思います。私も鎌倉におりますが、通勤している人と、いわゆる地つきの人との間にはつき合いがないですね。

山崎 しかし私は通勤者、私は農家だといって別な考えをもっておられますと、もし「蠅をなくしましょう」「蚊をなくしましょう」といって働きかけても、片方で協力しなければ、こっちだけできれいにしても目的が達しられないと思います。私は、そういうことは生活環境というようなことは別にして、その目的に向かってみんながなごやかにやってゆかなければならないのではないかと思います。

乙谷 私は団地には関係ないのですが、団地の方でいいリーダーを見つけて、その方と農家の方と話し合って協力されたいのではないかと思います。

渡辺 農家のお母さんは団地族に対して劣等感をもっているのではないかと思います。うちのほうでは、農家の人がある日野菜をもって団地に売りに行った、そうしたらみんなを買ってくれているうちに劣等感をもっていった農家のお母さんたちが、やはり話し合えば、団地の人の考えも私たちと同じなんだということがわかって、それから出入りができるようになって、非常にスムーズになっている。ですから、やはりあるきっかけが必要でしょうね。

日高(リーダー) それとお互いに見下げたり見上げたりをなくしてゆかなければならないと思います。

が少ないような気がします。農家の人も団地の人も同じ地域に住んでいるなら平等を意識をもって、環境の整備などは協力してやるという態度をもってほしいと思います。

日高(リーダー) 確かに家庭の主婦として、こういうことは考えなければならぬのではないかと、こういふことがあればどうぞ。

酒本 物価高は政府が悪いといってあげただけでなく、婦人の力でもう少し安く消費してゆくような努力も必要だと思います。私の町内では牛乳を飲む人が少なかったが、牛乳は健康にもいいというところを呼びかけて、集団牛乳にして普通の市販よりも二、三円安く購入して飲んでいました。牛乳消費組合をつくっても、商店にいらまされたら、長続きはしないとかいう批判もありましたが、今は努力して大変成功している例なんです。

日高(リーダー) 生活協同組合の小さなものをつくられたわけでですね。

酒本 大変成功して毎日ふえる一万です。

日高(リーダー) 家庭と社会の問題で家庭の主婦が社会的な視野をもって社会活動に参加して、家庭の中で解決できない問題についての理解を深めてゆくことが必要だということについては、一応皆さんで賛成だと思いますが、そろそろ開会の時間になりますので、特に家庭と社会の関係について、こういうことだけは言っておきたいということがありました……。

あとでこういうことを言っておけばよかったということのないように。

乙谷 私は社会というより、政治もからむと思いますが、きのうからの出かせぎの問題ですが、近くに工場のある人は結構だと思えます。私どもは働くところがないし、お金もほしいというのでな

鷹野 私は団地ではありませんが大きい団地ではそこだけのグループや組合があると思いますが、やはり環境が違うしいろんな考え方もある農家と団地では違いますから、団地は団地だけ農家は農家だけでグループをもってゆけばいいのではないかと思います。

日高(リーダー) それも一つの考え方でしょうね。無理をして目的もないのに、なにか一つのグループをつくらうとしても意味がないと思います。ここには農家の方も大分いらっしゃいます、農村ではいわゆる地域の婦人会という団体があって、個人として入るよりも、家として代表者を一人入れておくということ、全員が地域婦人会の会員として入るような傾向があると思います。自分が入るということだけでなく、つき合いたから誰か一人入れておくというふうな習慣がありますね。

片桐 大いにお嫁さんかお婆さんかどっちか一人入っている。家代表で個人としてではないですね。

日高(リーダー) それはやはりちょっとおかしいですね。お嫁さんでもそのグループの料理の講習会に行きたいということがあれば個人として入るという習慣が必要ですね。それからもう一つは、もしこれという目標がないのなら特にグループをつくる必要はないということです。そういう場合は、団地は団地の中で、農家は農家の中でグループをつくれればいいし、同じところに住んでいて、蠅や蚊をなくそうということ、団地と農家ということを超えて協同してゆかなければならない時には、協同的精神が必要になってくるかもしれませんね。

武久 私の仲間をみておられますと、今住んでいる場所が永住する場所だと思っていない方が多いようです。ですから山崎さんもおっしゃったように当然環境の整備とか全体でやるべきことでも関心

んとかして工場誘致をしなければ話し合いをしておりますが、なかなかそこまでゆかなくて大変みんな困っております。

谷川 これは現在大きな問題になりつつあるのではないかと思います。が、ごみの処分問題、これは主婦がちょっと気をつければ家庭で処分できると思います。私どもではごみ捨ての箱を機つかに分けて役に立つものはそれぞれの目的にしたがってゆけるようにしてあります。一つは卵のから入れ、一つは野菜のくずとか菜っ葉とか家畜の食べられるもの、それから金銭役に立たない捨てるもの、燃えるものはまた別に入れます。そうしてそれがたまるものは穴を掘って少しづつ重ねて入れていって一杯になったら土をかけてゆく、これで木がよく育ちます。近代的な生活もいいですが、電気やガスだけで生活していると紙くずをもやすところもなく、おふろ場を紙くずをもやす焼却機に使えば、たゞごみを取りに来ないといって市役所をせめないで家庭で処理できるように頭を使っていた方がいい。お店にしても主婦のほうで良心的ないい店を育てるようには買物の時に心がけると、いい店が多くなって、だんだんいい社会になってゆくのではないかと思います。

笠原 全体を通して大切なことだと思ふのは、まだまだ婦人は政治意識が低いことで、これは政治に関心をもって勉強しなければならぬと思います。そうして勉強しているうちにいるいることがわかってくるので、そういう態度をとってほしいと思います。

松井 なんと書いても世の中が平和でなければ駄目ですから、これから先絶対に平和を保ってゆけるようにと念願しております。

海老原 社会の大きな変動の中で家庭の幸福を築いてゆくにはどう

じても、経済成長の時代で大きく成長できる世の中ですから、自分の家庭のペースを守ってしっかり勉強するのが主婦の務めだということになると思います。

後藤 働かなければならないから勉強ができて進学できない子供について私どものところは高等学校まで五里くらいあり、雷国ですのて冬になると寄宿しなければならぬ、奨学金はあるが出してやれないというのでかわいそうだと思います。その場合どうしたらいいかと思つてある方にお話をしたら、「働きながら定時に通わせたらどうか、力になってあげる」ということでしたので大変感激しました。

谷口 通信教育もありますね、あゝいうのを利用なさったらいと思ひます。

日高（リーダー） 定時制の問題、通信教育の問題、それを含めて高等学校へゆく実力があつても家庭の経済的な事情でゆけない人のための大きな奨学金制度、これはやはり国なり地方の自治体なりでもっと力を入れてゆかなければならないと思ひますね。

渡辺 グループをつくる場合、一人が一人ずつ友達を見つけてふやしていったグループは長続きするように思ひます。なにかやるうという時にお母さんたちが手をつないで一つの仕事をやってみると始めて手をつなぐことの大切さがわかつて、お互いに学んでゆけるように思ひます。

日高（リーダー） そういう時に、農村などでは何人かだけが特別に集まつてゐるというふうにみられることがあると思ひますが、やはりそこところはさつきお話に出たように勇気とか友情というものが大切でしょう。

渡辺（特オプ） 家庭と社会の関連性の問題で、よそのお母さんた

する習慣が必要だと思ひます。

渡辺 「この子は不良だから遊ばせないようにね」、「あの子のお父さんは酒がき悪い」とか教えてくれるお母さんがありますが、私は子供にその子と遊んではいけないというより、不良だという子供に近づいていってお友達になつても、その人がよくなるという自信があなたにあれば仲よく遊びなさい、自信がなければ手を引きなさい、というふうなことを教えていってほしいと思ひます。

日高（リーダー） そうですね。松井さんのおっしゃつたような精薄のお母さんをもつてゐるお母さんに苦勞話をしなさい話していただいたことがありますが、本当に日本では八、九十万くらいの精薄児をかゝえて困つてゐるお母さんがいて、そういう子供をもつてゐる主婦にとつて日本というのには生きている社会だとしみじみ感じると言ひます。手が届きませんし、政府の援助も十分ではないし、そういうことで実に苦勞をしてゐるわけですね。みんなでそういう方を助けてゆくことを考えてゆかなければならないと思ひます。

いろいろ、ごもつともなご意見が出ましたが、傍聴者から質問が出ておりますので、ここで、ごくかんたんにお答えいたしたいと思ひます。

東京の尾崎さんからの質問で三つありますが、第一に「最も合理的な外国の例と比較して広い視野からみた教育制度、あるいは教育体制についての前途をお示し下さい」という質問ですが、これは非常にむづかしい問題で、かんたんにはお答えできませんが、外国の例というよりむしろ教育の本質というの、本当に能力のある人に対して平等な機会を与えるような教育制度をつくつてゆきたいと思ひます。そのためには家庭が貧しいから上の学校にゆ

ちの行動に対してなにか気づかれた場合、教えてあげられる方はどのくらいありますか？

松井 それは大変いいことですが、私どものほうでは生意氣だといわれまふので見ていても注意できません。近所に精神薄弱の子どもさんがいて、注意するとお母さんがどなり込んでこられるので私の住んでゐる地域社会ではできません。

石川（傍聴者） 私はやはり注意しております。子供にも注意するしお母さんにも注意しております。

海老原 私どもは婦人会で実際に注意しようと思ひ合ひまして、おもちやなんか散らかす場合私どものところでは片づけるようにさせております。この頃の若いお母さんたちは一応の意識をもつて育てていらつしやるのだつたらそのくらいのこととは考えられると思ひます。

山崎 私どもの市で、街を明るくしようということをやつてゐる中で、地域の指導者の方が回つて歩いて集会をもつて、他人の子供が悪いことをした時に注意ができるかという問題もとりあげられましたが、そういうことをみんなが心がけていけば、自分の子が悪いことをしてよその人から注意されてもあまり悪い感じはしないですむのではないかと思ひます。

日高（リーダー） 海老原さんがおっしゃつたことはよくわかります。お母さんとお母さんの教育の仕方が違ふというよりな場合は問題があるかもしれませんが、一般論だと日本の社会ではよそのお母さんがうちへ遊びにきてゐる時に、どうしても目に余るようなことをしてゐる時でも、それを注意するとたちまち具合が悪くなるというので注意することをひかえるのですが、本当は他人の子でも自分の子でも困ることをやつてゐる場合は積極的に注意

けないということがあつては困るわけで、そういう問題をよく解決してゐる制度がいい教育制度だと思ひます。

「一家をささえることのできない買金の低さはなぜか、どうしたら一人一人の所得を高めることができるか。」これは生産性の向上と国民の生産の全体を高めようというところが根本だとよくいわれますが、それと同時に、それがどういう形で分配されてゐるかという問題を見逃してはいけないと思ひます。日本は資本主義諸国の中でも企業の側に分配が多く行つてゐる。大体三五対六五の割合になつてゐる、つまり三五対六五の割合になつてゐる、つまり三五対六五の割合になつてゐる、これはほかの資本主義の先進国に比べてもかなり低い。イギリスは四五対五五くらいで労働者に五五割くらいが戻つてゐます。その点ではまだ日本は遅れてゐる。言い換へましたら日本の特徴は教育に熱心だということ、日本は教育は一流国に近い、産業は第二流、国民所得は第三流、これが日本の姿です。これが逆に教育熱心になつてゆく。国民がむしろ貧しいから逆に教育熱心になつてゆく。つまりなんとかしていい大学に入れておかないと子供が生活できない、将来社会の下積みになるような心配から親が一生懸命になる。親が絶対に上の学校にやれないほど貧乏ではないから、背伸びをしながら教育熱心になるという結果が出てゐると思ひます。

それから三番目の質問は、「秋田から出された進学できる能力があつても農村の労働力獲得のために中止させられるという子供の問題をもう少し話して下さい。」ということですが、これは農村の長男はもし本人に進学の希望があり親が承知なら大学へやつてゐると思ひます、経済的な家庭の事情もありますが、農村へとどめようと思つてゐる子供も大学へやる、そして新しい農業経営を

考えるという方向が一つ。それから長男だから農業にかなければならないというのではない、長男、次男、三男でも希望があれば、また一番農業に適しているものが農業をやればいい。長男だから宿命的に農業をつかなければならないということはない、長男がほかに進みたいのなら次男三男を農業に就かせてもいいと思います。それが尾崎さんのご質問ですが非常にかんたんで申しわけありません。

それから藤田さん。「婦人が持っている母性ということのために必要以上のひげ目を感じているのではないか」ということですが、これは母性保護の問題を権利としてもっと大らかに考えたいと思います。たとえば乳児院、託児所、学童保育のゆき揃った設備なんかを社会的に解決するように努力したらいいかと思えます。がどうですか」というご質問ですが、私は藤田さんのご意見に賛成です。これは私自身午前中にも申しあげましたが、決して女性の生理休暇、産前産後の休暇でも、そのために女性に職場に役に立たないというようなことは言うほうの間違ひで、母性というものは当然そういうことを通じて大きな役割を果たしているわけですし、そういうことを含めて男女平等の原則を立てるのが当然だと思えます。それと同時に女性に職場で実力をつけてゆくという問題と結びつけて考えてゆかなければならないと思えます。最後に特別オプザーバーの方で何か発言ありましたら。

桑野（特オプ） 現実社会における家庭の役割は、この変化の激しい世の中では、日に日に文化に向って進みつつある反面問題が多いのは、その進みつつある社会と家庭が平行してゆかないので非行少年なんかが多く出るのではないかと思います、ですから、できるだけ社会に目を向けて社会と一緒に自分の家庭が置れないよ

うに、いい家庭ができればいい社会ができるのですから、家庭の主婦も「ひまがない」といわないで社会にも目を向けて、婦人活動にもグループ活動にも許せる範囲で協力してゆくといいと思います。

日高（リダー） いよいよ時間になりましたが、ほとんど皆さんがまとめて下さったように思いますので、私がまとめることはないと思います。いくらかおみやげができましたのでしよいか、私自身は非常に勉強になりましたが、最後に一つだけ申しあげておきたいと思うことは、「産業社会における家庭の役割」ということで、これは非常に重要なテーマだと思いますが、とにかく現在社会が非常に変わりつつあるということと事実なんです。最初の日によつと申しあげましたが、日本が十九年前に戦争が終って民主主義の社会になったということですね、この事実をやはり十分に分かっておいていただきたいと思います。民主主義の社会というところ、産業社会ということとを別のようによつて考えられると困るわけですね。かつて民主主義の社会になる曲り角、これはつまり民主主義の社会の中で実は産業化の問題、工業化の問題が起ってきているわけで、ある意味では産業社会の影響でいる人々問題が起ってきているともいえるし、同時にある面では日本の民主主義が十分にまだ徹底していないということから起っている問題が大きいと思えます。つまり産業社会から起ってくる「ひずみ」というか混乱といいますが、そういうものの根底には、日本の社会が本当に民主主義的になっていない面から起ってきている事柄が大きいということです、ここで皆さんにもう一度考えていただきたいと思います。職業と家庭との関係についても、家庭の中、人間関係ということについても、あるいは教育の問題についても、

あるいは婦人が社会的な活動をなんなりに参加するということが、同時に解決してゆく方向は、日本の中に本当の民主主義の社会をつくってゆくということではなければならぬと思えます。ですから民主主義社会という言葉があまり使われなくなってきたようなことがあるが、これは非常に問題なので、新しい希望ができた年、昭和二十一年四月十日に皆さんが始めて一票を投じたこと、私はその日の投票所の風景を今もはっきり思い出します。雨の中を婦人が続々と（その日私が住んでいた鎌倉では雨が降っていましたが）、婦人が選挙にゆく姿をみて非常に感動しました、本当に日本の婦人がここで新しい社会の建設に歩を踏み出したという気がしましたが、そういう問題が産業社会と家庭との問題の中に買かれてゆかなければならないということを最後に申しあげておきたいと思えます。

（五時終了）

第三部会

会議員

青森 藤引 恵子（婦人相談所ケースワーカー）
宮城 猪野 康子（栄養士）
千葉 鈴木 きよ（無職）
神奈川 大河原 信子（無職）
富山 川口 洋子（工員）
長野 中村 登代子（無職）
静岡 川合 登美（漆器金具打方職）
三重 城 美喜（農業）
京都 辻 雪枝（常勤講師）
兵庫 湯浅 夏子（無職）
鳥根 今岡 一子（無職）
広島 宮本 泰子（建設業経営）
愛媛 脇水 成子（市役所生協食堂）
福岡 橋本 政子（無職）
大分 植嶋 志津江（助産婦）

リーダー 古谷 綱正（評論家）

特別オブザーバー

藤田 寿（婦人民主クラブ）
町田 初子（日本キリスト教女子青年会）
生野 澄子（全日本労働総同盟組合会）

小柴 美智（全国地域婦人団体連絡協議会）

第一日 四月一四日 一・〇〇〜五・〇〇

古谷（リーダー） 家庭と職業ということ、女の職業とそれに伴う共働き、それに関するいろいろな問題があります。共働きの問題の中には夫婦が一諸に働いていらつしやるということだけでなく主婦がうちを留守にする場合が非常に多いという意味も含めてありますが、最後の家庭の役割の中には消費という問題もあると思います。一応こういう順序にしておりますがどうですか？ きのうの問題では共働き主婦が家庭にいないという問題に関心が多かつたので、これから入つていつたらよろしいと思います。私が発言者の指名だけはいたいと思いますがあまり私にしゃべらせないでお互いにお話し合い願いたいと思います。どなたか問題を提出していただきたいと思いますがどうぞ。

脇水 共働きの問題について全体を通して一番多いに主婦が留守をしたあとの子供の教育問題、これに一番悩んでおられる方が多いと思います。幸い私の場合に小さな間はそばにおつて幼稚園くらいから外に出て働くことにしましたのでよかつたのですが、政治にながつて集団的に解決しなければならぬ場合と個人々々の努力、家族との協力によつて解決できる問題と二手にわかれておられると思いますが、その点で皆さんの英知をいただいてゆきたいと思っています。

古谷（リーダー） 脇水さんのところではきのうのお話では大変うまく解決していらつしやるそうですが、

宮本 それはご主人との間のことで、子供さんの教育問題について

ては残っているでしょう。

脇水 私の場合、主人が理解してくれるので、二供に目をつけて、自分のことをさせるように小さい時からしつけておりました。私が外に出て働くことにしましてから、なんのためにそうしなければならぬかということをお供によくわかるように話しております。それは子供たちの教育のため、電化製品を買うこともそうだし、文化の交流のために働いているのだということを理解させて、自分自身に家庭の用事を担当させてやらせております。ですから子供にも感謝し、主人の協力にも感謝しております。ただ子供が学校から帰ってきて「たゞ今」と言った時に「お帰れ」と言って返事をしないこと、それが非常に残念です。あとはマスコミでいわれる非行の問題、その他の問題については土曜の晩に家族会議を開いて話し合いをして、みんなの協力でも進めようとしております。それから小学校の間は一日中顔を見ないと、ひねくれはしないか、けがはしないかと心配です。おやつをもらいに職場に顔を見せるように言っております。ですから元気で来てくれたらそれで安心して晩まで働いております。

宮本 私母親として残された子供に対してそれに近い線に努力しておりますが、そうなるか一番気になるのは子供の教育について力を尽くさないということ。母親が手をかけてやれないから子供は家庭における学習がたたりなくて学力が低下するのではないか、そういうデータみたいなものがないか、それについてどうするか？ 個人については一学期、二学期と放っておいたら三人とも三学期にはたつと落ちました。進学のための塾だとかなか学校以外のことをしてやらなければならぬのでは

れまで気がつかないか、それが非行少年なんかにこういふことが原因になっているのではないかと感じました。

中村 私共共働きはしてありますが、昨年の夏頃からでしたか共働きを始められた御家庭が近所にあります。お子さんは五年と一年ですが今まではのびのびと外へ出て近所のお子さんと遊んでおつたのが、留守をあずかるという責任感からか、学校から帰ってくるうちにへ入り込んで、弟が外へ出ると呼び込んで兄弟で団結してよく遊んでおりますが、回りのお友達とくっ合つて遊ぶということをしなくなつた、そういうことをみておりますと、自分のところとは関係ないという顔をしてはいられないという気がしております。近所のお母さん方もそういうところへも目を向けていた方がいいと思います。

猪野 私も三才の子供をかかえて勤めておりますからおしゆりとさんに、子供をみてもらつておりますが、自分が日中手をかけないものですからなにかおみやげを買つてきてやろうとか、帰つてくるとやたらに甘えさせてしまつたり、母親の顔をみると「なにを買つてきたの？」といつて母親よりおみやげを待っているという感じで、要求すればなんでも買つて貰えるという子供になりはしないか、また、子供を預る者が子供の教育について勉強でもしていれば別ですが、うちのほうはそういうこともなく、昔風のしつけをするわけでもなく、ただ母親の留守の子守という感じで野放しの状態です。そうかといつて自分がやめてしまふと食ふてゆけなくなる。なんとかして一番難かしい幼児期を脱出するために保育所に四月からやつておりますが、野放しにしておいたので、規律の中に入つた場合に非常に抵抗を感じるらしく、物を投げつけるとかやたらに反抗するほどの

ないか、小学校とか、中学の一、二年どころか母親の目も加えられなくなると、そればかりでなく以上それに代わるなにかを与えなければならぬ、手を加えないでも伸びてゆくのが自分の力ですが、母親に依存するような態度でなく伸びてくれたらそのほうがいいと思つてみたり迷つております。

川合 私の場合は家庭で一諸に仕事をしているので私が手を加えることがなかなかできませんが、母親が仕事しているのを目の前で見ているので、子供のしつけとか勉強は親が仕事をしているためにみてやれないのだからと、子供は子供なりになんかやらなければならぬということが自然に植えてつけられていますので、なんにも心配していません。ただそれだけに婦人の仕事が多くて自由な時間がない、お勤めの方のように八時間労働なんてことはとても考えられません。寝るまで始終家庭の中で仕事があるものですから自由な時間が生み出したいということが悩みです。

鈴木 母親のいない家庭について角度を変えて申しあげれば、私どものほうは農村ですからみんな山へ出てしまふ。するとしつけの最も必要である三才児はみんな年よりになされてしまふわけなんです。そしてその年よりがお母さんの教育方針に従つてやつてくれればいいのですがやゝもすれば甘やかされがちになつてしまふ、そこに一つの悩みがございます。もう一つ私どもがしよつちゅういあるな合会に歩いておりますので一年のうち半年以上出ている始末です。そうすると子供が「お母さんただ今」と言つて帰つてきても「お帰れなさい」と言つてくれないので非常に淋しい、「お母さんなんとかして僕の帰る時に家にいてくれなさい」と手紙を書いてまいりましたので、私はそ

時期にさしかかっているわけで、急激に生活を変えるのもどうかしらという疑問がわいてきているわけですが、かといつてうちへ戻してしまえばなんにも意義がなくなると思ひますし、言つてきかせてもわからない一番大切な方向づけをしなければならぬ時期の、子供のしつけに悩んでおります。

辻 私の場合も仕事をもちて数年たちましたが、仕事に戻る前の日に家中のものが集つて、当番とか約束を決めました。年令に合わせて役を決めて主人にも一役かつていただき、いろんな形式を決め、土曜日には家族会議を開くことにしました。ところが今まで全部私がやつてきましたので唯もその分担をやらぬ、やはり今まで通り私がくるくると働かなければならぬのです。私はこれも長い目で見ようと思ひます。数年たつと家族会議も一回もしないし当番もしないのですが、ようやく落ちつくところに着ちつて共働きぎの態勢がやつとできかけたように思ひます。

今岡 私は今は団地の主婦ですが昔は山の中の僻地で保育所の保育をしていました。山の中の子供と団地の子供を比べると団地の子供に遊び場がございませんし、間どりも無理して建てた家なのでなんといつても狭く、お母さん方も家を建てるための借財返済に内職をしたりなさるので乳幼児をあずけようにもあずけるところがなく、個人にあずけるには保育料が高い、ミルク代にすい分かかる。また近頃のお母さんたちは直ぐ人工栄養にしてしまふので一万くらいとミルク代が高くなります。これは政治的に解決しなければお母さんたちが安心して働けないと思ひまして、私市役所にいつて保育所をつくつて下さるようお願いしましたが、予算の関係や方々からの要求もあつて早急

にはできないというので、今頃の陽気なら外へ出て遊べますが冬の間は外へは出られず家の中では存分に遊べない、これは集団的に解決しなければならぬ問題だと思いましたが、それは心ある主婦の方の監督のもとに広い家が一つたら一問でも解放していただいて四、五人でもみていただくようにしてほしい、犠牲的なものでは長続きしませんし、そうすれば喜んでお手伝いしようという方もいらつしやるのでそういう制度を認めていただきたいと思います。

川口 三才までの幼児の教育については、宮城の方のように私もおぼろげにやんちあずけて働いてありますが、私の職場で小学校へ行っている子供をもつた方は結局授業参観とか先生とゆつくり話し合えることができない。紡績は勤務が二交代で朝は五時、晩は十時にならないと帰ってこない、そのために子供に接する時間が限られてきます。特に子供が学校へ行っている家庭では早出の時は夜みんなど困らなくて済みますが、遅出になると、子供が学校から帰ってこない間に子供が寝てしまっているから帰ってくるので、子供が寝ている間にかばんの中を調べたりして予習復習がしていない時は子供がかわいそうだけれど、朝早くに起きてみてやつて学校へ送り出すという状態です。この方たちは今非常にいわれてはいる不良化の問題とか、金づかいが荒いとか悩みをたくさんもつていらつしやると思います。

城 私は純農家の主婦ですから私の問題は「出かせぎ」で、これは共かせぎと分けられると思います。共かせぎというのは私のきいているところによると一定の職場につかれて月給がある。そういう方たちは大きな職場で母さんに教養もありにふなり子供は家庭で教育しているようですが、私どもの場合は、百円

最近では公民館の指定を受けてやつていますが、意識の低い層をどのようにして婦人学級に引っぱりますか。皆さんいふお知恵はないでしょうか。

湯浅 私は三才児をかかえているので外に出て仕事はしておりませんが、共かせぎでなく共働きという表現をするならやはり働いております。たしかに子供がいると家の中の仕事も多いし、女の力がなければ男も外で働けません。だから女が外へ出るのも慎重に考えなければならぬと思います。女が働くには経済的な問題とか、専門職でそれを伸ばしたいとかいろいろあると思いますが、私の場合は子供が手を離れたら社会的な生きがいを感じるような仕事をみつけて働けば、主人も子供も納得してくれるのではないかと思います。愛情さえちゃんとつていれば、ある程度は解決してゆけると思います。

大河原 私のところは一番下が十才で上は成人式を過ぎましたのでごく小さい子供の悩みはございません。また私のところは商売をしていますので、私がいらない時には主人がおりますので小さい子供が帰ってきて主人との愛情の交換ができますし、そんなに心配はございませんが、私のお友達にテーブルコーダーを使っている方がおります。それをかけると、お母さんの声が聞えてとてもうまくいつているそうです。私は子供が小さい時は手紙のやりとりで効果をあげたと思います。そういう小さいことが子供を愛情で引つ張っておくきずなだと思えます。

橋本 私は勤めておりませんが、身近にいる今から結婚をしよという方たちは大抵二十七、八で収入は二万円から二万二、三万円、共かせぎをしなければ結婚ができないという状態です。共かせぎをしない方はほいほいとは一切目をつぶって専主の

でも五十円でも多いところに振々と変わりますので、子供のほうには、共かせぎの方以上に悩みがあつて困つております。私の場合は婦人会やPTAの役員をさせていただいて度々出ますので、三年生の子供の作文に「ある時お母さんただ今、と帰ってくる猫がにやんといつて迎えてくれたが、とても淋しい」と書いてあつたというので、子供がこんなに感じているのだなと思つて子供と母との連絡ノートをつくりました。そしてお互いに書き合つて、夜なんか子供と読み合ひをしますが、一行でも二行でもいいから書いてらどうですかと出かせぎに行くお母さんに呼びかけておりますが、その会合に集まるといふことすら農村の主婦にはむずかしく、とりあえず金を入れようとみんな出てゆかれるのです。

徳島 私どものほうでも出かせぎが多いのです。道路の工事とか、大きなダムの建設とかに農閑期を利用して出かせぎに出て、農繁期が始まると失業保険でこのうのうと暮らしている。それを見ながら隣の人もゆくというわけで農村は男手が少なくなり、女は男の人の留守の間働いてまた農繁期に働かなければならない。別府の温泉に近いので遊び場が多い、そうすると小づかいもよけいがあるので子供が日曜日なんかを利用して出かせぎのようなことをする。お母さんはどう子供を指導していつたらいいかかわからない、子供についてゆけない、と悩んでいる方も多いですね、私は婦人会学級をもつと盛んにしようと思つていますが、農閑期のでなかなか出席できない、それで夜の二、三時間を利用して婦人学級をしております。なるべく多くの方に出席していただくように「無忌」をしております。それにも出席できない方があつて、それをどうしたらいいかというのが私の悩みです。

もつてくるお給料だけで、非常に後向きな姿勢で生活しなければならぬ。現代に添つた生活をしようと思えば共かせぎの問題がおきてきますが、なにかを買つたためにかせぐというのではなく女の人の力を開発するというのがこれから考えられていくべきではないかと思つてます。そのためには家を出たあとの態勢がしつかり整つていふことが大切で、それには共かせぎをどううまくやつてゆかかといふことを考えてゆかなければならぬ。

備引 私は一才三カ月と満三才半の二人の子供をもつて、仕事を続けてゆくべきが家庭に帰るべきかと迷つております。皆さんのお話でスムーズに職業についておられる方というのは、子供さんが小学校とか、幼稚園にゆくとある程度成長しておられる方は比較的安定して仕事を続けておられると思つてますが幼児をもつた方はやはり悩んでおられると思います。私は幼児を二人かかえて、お手伝いさんに頼つてゐるわけです。それもお手伝いさんの都合とか子供が二人になつて条件が悪くなつたためなどで、去年は延べ七人のお手伝いさんが変わりました。私は前に児童相談所に長くつとめて幼児期が大事だといふことを説いてきました。それなのに自分の子供には絵本もよんでやれない、通いのお手伝いさんだから朝は戦争のようだし、帰つてから食事だけは自分でして主人や子供に食べさせたいと思つたので、後かたづけをするといふことだけでくたくたになります。私はケイスワーカーをやつておりますので家庭に入つて苦労したことが職業にもすぐ役立つと思つてます。職場で得た社会的な経験とか人間関係などは家庭でも役立つと思つたので、ここで職業を捨てたくないという気持と、職場の中で自分を生

かしたいという気持ちと二人の子供たちと一語に家庭の役わりを果したいという気持ちに悩んでいます。子供のしつけとか、いこの場とか、愛情の元足とかを全部犠牲にして戦場の中で自分を生かしたいという気持ちを持ち続けていつていいの、一たんここで休戦して子供たちを暖かな家庭で育てた方がいいか迷っております。この中で一たん家庭に帰って復職したというお話もあつたと思いますがそういうお話もお聞きしたいと思ひます。

古谷（リーダー） 一応いろいろ問題が出ましたが、共かせぎの問題については子供の問題が一番大きく出ている。そのほか婦人が職業をもつことの意義、外へ出て働くことの意義、それから湯浅さんの指摘されたこと、橋本さんの前向きな共かせぎ、柳引さんの職場をもつことの意義というふうな問題にありますが、これは「婦人と職場」というふうな問題にしてあと回しにして討議することとし、まず子供と共かせぎの問題、主婦のいない家の子供の問題というところで一応整理してこの問題の解決方法、最初に湯浅さんのおつしやつた政治的社会的な解決方法を考えると、これには託児所の問題とかいろいろありましようが、それともう一つは自分のうちの中で解決してゆく方法、この二つに一応問題を分けましよう。始めに家庭の中で、社会的解決にまななくとも解決の方法はないか、それには手紙戦術、ノート戦術、新兵器のテープレコーダーなんかもありましたがあるいは子供に独立心、自覚をもたせるといふ問題、お手伝いさんに頼んだ場合、これはちよつと問題には出ていなかつたが、おばあさんに頼んだ場合のプラス面とマイナス面、そういうことから家庭内で解決できる問題ということに問題を収縮して話し合つていただきたいと思います。

鈴木 私は地域の婦人会長とか、郡の婦人会長、母の会とかPTAなどいろいろな団体のことをやらされておりますので家庭を空ける率が多い。子供は現在二人勤めに出来ておりまして、うちにいるのは主人と中学三年の子供と私の三人だけです。それでも子供はお母さんのいない家庭を嫌しがらる、主人もいやらしいのですが、今年で婦人会長は五年目ですが主人はいやな顔をしておりません。それには一つの戦術を使ひまして、会の内容を相談しかける、テーマなんかを見せて先に主人に考えてもらひます。（笑） そうすると会議員の一人になつた積りで主人は喜んで鼻高々としております。帰りますとそのことを主人と子供に全部話します。一ヶ月の計画は全部黒板に日程表、予定表をかゝけて、この時はなににどの会議でこゝういふところへ行つて帰る時間は何時とすることを子供にも主人にも全部明らかにしておきます。一時間でも遅れるとこゝういふ理由で遅れましたと話しますが、これは私だけでなく主人もよそへ出張したりした場合職場のおもしろいことなんかを話して聞かせてくれます。お互いに話し合つておりますと出かけますにも大いばりで出られます。これは私の一つの手でございます。

猪野 先ほど三才児の子供を保育所にやつて悩んでいると申しましたが、そこから脱出するためにこの頃は土曜日は、主人も公務員で半日間で割合時間の余ゆりがあるためです。私も主婦にかなり家事一切をやつて、あとで必ずお茶を飲みながら自分が出すやつてもらひたいといふことを妹もおりますからお話を伺うわけですが、たとえば離乳期の子供にはこゝういふ食事を与えてもらひたいといふ一覽表を書いて台所にはつておき、妹たちにも実行してもらへるうちに、チャンスをつくる。自分の思つてい

ることを家族に早くわかつてもらつておとなの「おもちゃ」みたいな子供にしないで、怒る時には一せいに怒つて、一人が怒つて一人が助けるということがないやうに怒る時には一せいに怒る、こゝういふことを今実行中でどの程度効果があるかわかりませんがやつております。

植島 私は助産婦ですが子供の教育について各地区とも保健所で三才児の検診をやつておりますが、どなたか三才児の発育の状態だけをみるのならば行かないとおつしやいましたが、心身ともにどのやうに発育したかをみておりますし、今後のしつけなどについてもその時に指導しております。その場合妊娠とか分娩、産前産後とかお母さん教育、若いお母さん方の指導をしております。お母さんが勉強して帰られるとお姑さんが昔はそんなことをしなくても結構育つたといふやうなことをおつしやつてすべてが駄目になつてしまふことがあるので、私も若妻会といふか割合若いお母さん方のグループとお姑さんのグループをつくつて、お姑さんの言ひたいことは若妻会でも話し、お姑さんたちの会では現代のゆき方など、お姑さんの話せないことを代弁したり、お姑さんの話せないことを代弁したりしております。そしてお互いにうまうまやつてゆくやうに努力して少しは効果もあつたやうに思ひます。

中村 植島さんが会合に出られない方をどうやつて出そうかといふことをおつしやつていらつしやいましたが、私は共かせぎをしておりませんので、今の方たちの手助けをしたいのですが自分のところの小さい子供もおりますのでなかなかできませんが、その足がかりとして託児所のようなことをやつております。会合なんかに出られない方が利用して外へ目を向けていただく

ヤンスをつくるやうにということもございまして、自分の子供の環境ということも考へて始めました。私自身もいろいろと出ることも多いので、そういう場合テープを使うとおつしやいしましたが、子供は二年、三年ですから帰つてきた時に私がいないと淋しがりますので自分のうちの庭を遊び場に提供しました。砂場やブランコがありますと近所の子供がみんな集まつてきて遊んでおりますから私が留守した場合の淋しさということもそこで少しはまぎらしてもらえるのではないかと、お母さん自身にもつと社会に関心をもつていたでさういふ思つてグループ活動なんかもしておりますのでやはり出てきていただきたい。そのための一つの方法として遊び場を提供しております。

古谷（リーダー） 今のお話は岡田さんの提案されたことを実際に実行されていることで非常にもしろいが、障害や困難もあるかもしれない、よくお聞きしたいがあとのほうの社会的解決のところまでもう少し突っ込んだ私設保育所、パートタイムの保育所の問題でやつてみたいと思ひます。

川口 宮城の方のいわれたと同じ内容の意見ですが、おばあちゃんにあずけるといふことは、私は本当の親子なんですが突然問題として離乳になつたり、こゝういふものを食べさせてくれといつてもそんなものはめんどろくさい、風邪がひどいからお医者さんにみせてこようかといつても、昔はこれくらいのお母さんでござい。それが母親のつとめだといつたり、また月々の検診でも体重をはかるだけなら一年に一回か二回町でやつてくれるから必要ないといふふうなことで、意見の食い違いがある、家庭内で解決できる問題も、私も本場の親子でさえうまうまか

なのにはやはりお姑さんではうまいと多いと思ひます。だからお姑さん、おばあさん方には教育が必要ではないかと思ひます。

古谷（リーダー） 老人との問題でどなたか御意見は？

猪野 その点私の母も全然回りに出てゆかないでいながら、始めから私のほうから、またなんでも自分の職業柄知つてゐるものですからこうしてもらいたい、あゝしてもらいたいとどんどん出す、精神衛生のほうも保健所にゐるものですからすぐに言いたくなりますが、まず押えるわけです。そしてなにかのお話の機会に、たとえば食べるものもやらすおつぱいだけの隣りの子供はあんなに肥つてゐるのに、どうして人工栄養がいいのかというふうな疑問を母がもつ場合もあります。そういう時をねらつてこうこうと話す、『ふーん』とは言うが直ぐには同調しない、あまり感心した顔はしないのですが私のいない時にちやんとそれを実行してゐるんですね。だから向うから聞かれたら言うというふうにしてある程度まかしてしまふ。きかれたら人參はこういうふうにしてやつたらいいというふうに分が一步下るようにして、娘と姑でも近所でも有名なくらい笑ひ合つてゐます。お姑さんだから一步下るのかもしれないが自分自身そういう態度をとらなければならぬと思つてゐます。古谷（リーダー） 相手に疑問を持たせたりなんかしてやつてゆく、これは老人と一語にやる時の手ですね。

鈴木 お姑さんにも婦人会や若妻会に出てもらいたいということがありました、私どものほうでも老人クラブとの話し合いをいたしてあります。三、四回家庭の幸福についてということと話し合いをしました。その時の記録を少し読みあげますと、お

おばあさんと養子のお父さんがうまいゆかないためにお父さんは家庭を出ておられるのですが、子供にとつてはおばあさんは今は養なつてもらつてゐるが、おばあさんである。お父さんは離れてゐても自分のお父さんだという気持ちで、二人の子供さんがどんなにしたらひねくれているのが直るかと私も頼まれて困つてゐます。非常に勉強もいやがるし外へ出るのもいやがる、学校の先生が話にこられたら逃げてかくれる、朝も私が役所に出勤する折に顔をみて話しかけると私には話をしてくれるのですが、どうしてあげたらいいかと悩んでゐます。私は子供をふだんは放つておきますが日曜日には子供の友達になつて海へゆけば一緒に水遊びし、山へ行けば一緒にかけっこもかくれんぼもします、運動靴をはいて子供と一緒に山へ行つておにぎりや食べて遊んでゐます。それでうまい誘ふことができれば成功だと先生にいわれたので、三回は山に誘つていったこともありますが、知恵はないものでしょうか。

小学校の二年になる女の子と一人は中学の三年ですが、大きいほうは男の子で学校にもゆかずなかなか外へ出ない、家の中でこまかい模型軍艦をつくったり本を讀んだりするだけでそれだけに「こつて」おつたのが一月めにやつと学校へゆくといつてくれた、ところがその場になつたらいやだといふのです、父親がきて「学校へゆかんかい」と進めてそれでも二学期ほど学校へゆきましたが今はまたやめてしまつてゐる、そして小さい子供とばかり遊んでゐるのですが二年になった女の子を非常にいじめたりおばあちゃんにぶつかりたりする、警察からこられても警察の人には会いませんし、一度精神病院に入るとかいったら障子を焼いたのですが、近所の人はしまいに精神病院

年寄りの注文と婦人会員の注文と両方ございます。婦人会員のほうに注文は、年寄はいつまでも起きていて困るということ、子供を叱る時は年寄は黙つていてもらいたい、親にまかせてほしい。洗濯物は自分で出してもらいたいというよりなこと、お年寄のほうからは、返事を遅くしてもらいたい。ゆく先をはつきりしてもらいたい、黙つて出ないでほしい。月給をもらつたら全部自分の懐に入れなくて時には年寄にもお酒の一杯も買つてもらいたい、一家模様法を研究してもらいたい。などでございます。

古谷（リーダー） お互いに話し合つてみればなんでもないことですがそれがお互いにしこりになることがあると思ひます。話し合つてにしてもやはりいきなりでなく若い人のほうがうまく職務を考へることですね。

鈴木 先ほどの解決方法としてお互いに歩み寄りお互にばかになること、年寄りはおだて、便え、親孝行はされるでなくさせるようにしてほしいということ。

今岡 私は母をしておりましたので相談を受けられた時、孫を可愛いがりして困るという人には本をみせています。養育子、尼殿下の育児法という本をおばあさんに見せたら少しよくなりましたということがあります。

脇水 近所の方なのですがおばあちゃんが孫の世話をしておられる。そこは娘に養子をとられて家の中はおもしろくなかつたのです。おばあさんが先に死なれた。それでおばあちゃんがあるに甘やかしたせいか、子供が二年生になつた今、非常に手に負えなくなつてゐる。それで先生にお願ひなされたら先生がいろいろとをきかずどうしたらいいだろうと役所へ泣いて来られるのです。

に入れようといつてゐる、が私はそれには反対で母親の愛情がないからひねくれているので精神病ではないと思ふ。そのおばあさんが泣いてこられるし近所の老寄りもそれぞれお孫さんのことで悩んでおられます。おばあさんといわせると養子が悪いから子が悪い、養子さんにいわせるとおばあさんが悪いから悪くなつたといふことで、そのおばあさんも教育しなければならぬのです。またそういう養子さんのような人はどんなにしたらよくなるか、私は人のことですが一人の子供が今のうちになんとかなければ台なしになると思ふので心配です。

古谷（リーダー） 今のは極端な例ですが多かれ少なかれ老人だけで育てられる場合非常に内向的な性格になりやすいと思ひます。かえつて保育所などで親と離れて同年輩の子供たちばかりと遊んでゐると、元氣になつてその面でも今と反対のことが起きる場合も少し分あるが、うちに老人がいるから安心だといふふうにはゆかないと思ひます。

脇水 ネコかわいがりのせいで悪くなつてゐる例なんではないか。それをおばあさんに言つたら大変なんです。

鈴木 それは年寄りに育てられたから自分と同年輩の子供との接触がなかつたのでしょう。そこへ同年輩の近所のお友達と、一度や二度では遊ばないでしようが始めは遊ばなくてもかまわないうから傍でおもしろいことを友達にやらせてみたらどうでしょう。

脇水 近所の子供に鉛筆を一ダースずつあげておばあさんに内緒で一諸に遊んでもらつたのですが、それが親にわかつたら、あんな子と遊んだらいいかんといつて、脇水さんはあんな子と一諸に誘ひなかつたといつて悪くいわれます。子供は遊びたくても

親にいくなといわれます。学校でも学園に入れるとかいわれるので遊んでくれる人がいないので自然に離れていくのですね。

中村 私のところはそんなに極端ではないのですが内向的で内気な子なのです。連絡帳で学校の先生と連絡をとって、家庭と学校との交際を深めてお母さん同志がおつき合いをして子供を呼んで遊ばせる、お母さん同志がおつき合いをする自然子供も固まってきましたからそういうことで、解決まではゆかないんではないかという効果は上げられたと思います。

川合 私の場合今年成人式を迎える子供なんです、ほんとうのお父さんは戦死してお父さんが違うのでどうしたらいいかと悩んでいたのですが、お父さんが違うということを知っているだけに少しでもお母さんがお父さんの肩をもつと捨てられたような気がするんですね、だから二重人格みたいにお父さんのいるところではお父さんの気持を、子供のいるところでは子供の気持を考えてきましたが、子供も私の現在の姿をみて、必ず自分を見守ってくれるということがわかってきました。私は家庭の中で仕事をしてきたので皆さんと接する機会が少なかったのもう少し皆さんと会って視野を広くしなければならぬ、それには会合に出なければならぬが会合に出るには仕事を犠牲にしなければならぬので、ラジオのテーマを仕事をしながらメモをしておいて(テレビは見れないんですよ、手を休めなければならぬから)この子にはこの話題がちょうどいい、その下の子にはこの問題というようにして話し合いました、ところ、お母さんも案外知っているのだなこれなら話相手になるということになりました。それで今度のこともお母さん、やっとなのったな」と長男も喜んでくれました、だから私は、お母さ

んたち、おばあさんたち保護者の方の協力でいろんな視野の話を豊富にしてゆくということが一番いいんじゃないかと思えます。

脇水 その子にはお母さんがいない、私がその代りに一緒に遊んだり、夜でも子供に「一時間くらいちよつとゆくからね」といって行ってくるのですが、私と話している間はいいのですが直ぐにテレビなんかも独占しておばあちゃんには見せない、食事は二階に運ばせて一人で食べるとか、うちはいいんですが珍らしくひねくれておられるんですよ。

脇引 今のお子さんの話は極端に非社会的になっておられるのですが、児童相談所のような専門機関でどういう愛情の不満か、家庭内の人間関係がどういうふうにゆがんでいるか、知能テストをしてもらって心理療法をしたらどうでしょう。

脇水 それをしたことがあるんですが、県の子供の福祉事務所のあれで———。それならそれはしょうがないんです、学校のほうから警察の方からいわれても、先生のいふことも警察のいふこともさかんのです。精神鑑定をして精神病院に入るといいうんですが精神鑑定なんかできないのです、中学の三年といえど大人ですから逃げて人を近寄らせないのです。県の大会の時も愛媛県の婦人会の時も相談したかったのですが時間がなかったたので全国のお母さんにご相談したいと思えます。

古谷(リーダー) 私の考えを申し上げれば、そのお子さんを見てもいいしよくわからないのですが、本当の精神的欠陥が理由かどうかちやんと見極めず、ただ可愛いそうだから精神鑑定をさせないとかはつきりした処置をとらずにおくのはかえってその子の不幸になると思えます。まず子供同志で遊ばせる。

それが無理なら家庭のつき合いで振ってゆく、これもいい方法だと思えますが、もしそのお子さんが本当に精神的欠陥があるならこれははっきりと横引さんがおっしゃったように早く治療する、精神的欠陥というのは普通の病気も同じように考えればいいので、精神療法のレツテルをはることはかわいそうなことでもなく、もし必要なら精神鑑定を相当強制的な方法をとってもやってみたほうがいいと思えます。ただ教育とかしつけとかいうことよりもあるいはもう一つ先の問題でしよるがそうないればはつきりした措置をとったほうがいいと思えます。あまり長くなりすからこの問題は打ち切ることにしませう。

ただ今大分ご老人の話で時間をとりましたがこれが一つのかなり大きな問題ですが、先ほどの、帰った時に「ただ今」と言った時に返事をしてくれるお母さんがいないのは淋しいというのは、僕らが子供の時にも、学校から帰ってきて母親が病気をしている時にはうちの玄関をがらっと明けた時に暗い感じがびんとわかってしまうんですね、それから大学へゆき出して下宿している時、朝出かけた時のそのまゝ同じ部屋になつていてうのは相当大きくなっていて淋しいことで家庭的雰囲気というものは大きなものだと思います。だから共かせぎをなさうちへ帰って誰もないということは大変な問題だと思えますので、この問題をもうちょっと突っ込んでこんな方法はないものか、あるいはもう少し突っ込んで子供のほうにはつきりした自覚をもたせるという方法、うちへ帰ってもそのことを淋しからせないような方法についてご意見を伺いたいと思えます。問題児にならない強い子にするためには？直接子供の問題に移しましょう。

橋本 私はグループ活動なんかでよく家を明けますので四時くらいまでには帰らない時には手紙を置いてゆきます。お母さんの文学的表現とかウイットのある愛情のほとばしるような文面を残しておきますと、お母さんと手紙のやりとりをしたような気持ちで喜びます。内容が問題になってきますが、私の場合はしよっ中いというのではないものですから、かえって私のいいいことを珍らしがるようですよ。

宮本 具体的には？

橋本 それはその時その時によって違いますが具体例は申しあげにくいですがね。書くという習慣を少しづつおつけになるというのではないかと思えます。これは一つの解決策ではないかと思えますのでちよつと———。

古谷(リーダー) 子供さんに返事を書かせるのもいいですね。鈴木 小さい子供さんの場合にそうですが少し大きくなりましたら子供になんのためにお母さんのお勤めに出ているかという目的をよく自覚させるということですね。そして家計の内容もわからせて会合なんかで出かける場合もこういうところへ行ってくるということを知らせる、わからせるというのも一つの方法だと思えます。

中村 先ほどグループのお話がありましたが、私はだまに出かけるのですから子供もさほど苦痛ではないと思えますが、きょうはこういう会合があって三十分ほど遅れるといって承知させておきます。子供は承知してもお母さんお手紙を書いておいてちよっうだいというのでしばらく手紙を書いておりましたが、最近はお手紙をグループにふき込んで歌なんかも入れておきますと帰ってきて何回も回しては喜んでるようですよ。

大河原 鈴木さんがおつしやつたようになんのために出かけるか
ということ納得させてゆく先を話します。そして帰る時間を厳
守して子供は安心して遊んでその時間に帰ってまいります。
時間厳守ということは大事だと思えます。

中村 約束を果して時間を厳守することは大事だと思えます。
古谷（リーダー） なにかを買ってきてやるということなら約束
を果すのですが。

大河原 私はしつこく言う出かけるのでおみやげには頼りません
が、さつき申し上げたようにしておけば母親がいなくても自守
性のある子供が育つのではないのでしょうか。

辻 子供に働く母親は美しいという誇りをもたせるようにした
いと思えます。働く姿は美しいという気持ちを植えつけておけ
ばいいと思います。働く姿は美しいと思えます。

古谷（リーダー） やはり子供には大きい子と小さい子とありま
すがいくつくらいから切りかえてゆくとよいでしょうか？

辻 上の二人は中学と大学ですから今の自覚はもちつゝあると思
います。下の小学生は甘えておりますがだんだんそれに近づい
てゆくと思えます。

川口 私の子供は小学生ですが私の職場の方で、二人とも同じ職
場で共かせぎをしておられるのですが生れた時から人にあずけ
つ放して育ててこられたのですが、なんのために働くかという
ことを教えても駄目なんです。結局家を建てるまでといつて働
いたのですが、建ててみたら想像以上に、つたからまたそれ
で働くというのですが、お母さんに言ってもPTAにもきてく
れない、今度はお母さんテレビを買ったらやめてくれとお金の
ことまで心配すると悩んでおられる方があります。教えたむ年

古谷（リーダー） 手紙も結構だしテープも結構ですがやりつ放
しでは駄目でそれからあとの効果がどうなっているかというこ
ともたしかめなければならぬと思えます。それから愛情
の交流があるからというだけでは安心してられない、非行
化、不良化が防げるというだけでは安心してられない、もう
少し積極的に子供の教育を考えて、子供の非行化のことなんか
考えれば問題はむしろ少くなりますがそこまで問題を進めなけ
ればならぬと思えます。

宮本 実際に共かせぎの家庭とそうでない家庭の学力の差が出て
いるかどうか知りたいと思えます。
辻 共かせぎの家庭と一般家庭の学力の差は、たしかに低学年で
は親がついてみてやれば効果があるが、しかし放任されて
いるから共かせぎだから学力が低下するということはないと思
います。五年、六年になるとはつきりとその子供が持つているも
のが出てくると思えます。

古谷（リーダー） 母親がいなかったために引き出せるべきものが引
き出せないということはないと思えますが参考書の与え方にも問題があ
ると思えます。

古谷（リーダー） そういうことも含めて母親の参考書の与え方
とかに普通の家庭でしたら相当母親の工夫や努力がゆくが、そ
つちを全然している暇がないから、こちらのただ愛情が交流し
ているから問題児にはならない、非行化しないということだけ
では安心してられないということだろうと思えます。

陽水 私はその場合子供のテストだけはきょうなんのテストがあ
つたの？とききようにしております。間違つたところがあつ

合もよく考えてみないと理解できないところもあるのかもしれ
ませんね。
古谷（リーダー） 宮本さん学力低下のことをおつしやつておら
れましたが。

宮本 ずっと家庭を留守にしなければならぬお母さんは共かせ
ぎの目的ということが大事だと思えます。消費の悪循環のため
に出るのだつたら働く時期がいつまで続くかわからない、若い
時から働いている延長である場合でもやはり時期を目的によつ
て確立しなければならぬと思えます。家庭によつていろいろ
な手段をとつておられるにしても似たりよつたりですがこゝで
新しい手段としてのテープ、これはうちにあるのに活用してい
なかつたということなんです。（笑）しかしそうしておいても安心
できるものではない、それからあとの時間をどうするか。うち
は母子家庭ですから母親がどうしても働かなければならぬ。
これは一生でしよう。共かせぎのように時期が決まれない。
私の場合はつきりしているが子供がその気持ちをききとつてゆ
かなければならぬ。お母さん手紙が書いてあるがそれからはどうするか
ということをお子にきいてきくと自覚させなければならぬ。うちの
子供は学校に行っているからまだいいのですが、算数はどういふ
うにしなさい、国語は書き順に気をつけて読んだ次の日には書
取をしなさい、と書いておいてそれをしたかどうかをたしかめる。
学力の低下をどういふふうにして防ぐか、結局か家庭教師にな
ると問題は複雑になるのですがそういうことで食いとめなければ
いけないか、自分自身で伸びてゆくのが子供の本当の能力だ
と思えます。まして子供の教育費のために共かせぎをする、そ
のためには子供の非行化が起つてもいけないと思えます。

つた折には親がそれをことが間違っているからこうしろといわ
ないで、もう一べんあなたがよく考えてみてわからなかつたら
先生にきいてみて今度はそれをお母さんに教えてくれといいま
す。そうすると子供が母ちゃんに教えてやれるところがあると
いつて楽しみにしているようです。子供が勉強することに對し
て母親がいつも気にかけてくれると思つて母ちゃんの方も一
諸に勉強するといつてくれます。末の子供が小さい時に私が連
れて歩いておりました幼稚園から放つておいた、しかし学力
は一年、二年、三年と順々に上つていっております。母ちゃん
も社会に残されぬように勉強するから勉強のし合いっこをし
ようといつております。短歌会、舞の勉強、俳句、読書会と母
ちゃんの勉強は夜の二時間だから行つてくると言つて家を明
けていても一諸に勉強する気になつてあまりマイナスイメージはな
っておりません。放つておいても学力が低下しないように母親が
気をつけられたいと思えます。私も一諸に工夫して勉強して
います。

古谷（リーダー） 今の宮本さんのご質問ですが残念ながら共
かせぎと一般家庭の学力の統計はなく、地域別やなにかの統計し
かないのですがちようどこゝにおもしろい統計があります。
親子関係と子供の問題、行動、問題児はどういう親子関係か
ら起るかということですが、非常ににつきりしているのは正常
児のほうが父親とよく話をするのが十四パーセント、時々話をす
るのが五十二パーセント、父親とほとんど話をしないのが二十三
パーセント、あとは答えがないんだそうです。問題は父親
とよく話をするのが七パーセントしかない、時々話するのが四十
三パーセント、ちよつとも話をしないのが三十九パーセント、

そのほかは答えがない。母親とよく話すのが正常児の場合三十五パーセント、時々話すのが五十二パーセント、これは非常に多いわけです。ちよつとも話をしないのが十一パーセントで、あとは答えがない、問題児は母親とよく話をしないのが十八パーセント、時々というのが五十五パーセントで、ずいぶん多い、全然話をしない、相談もしないというのが十七パーセント、あとは答えなしです。問題児は母親とは「よく」と「時々」を入れるとかなり話し合っていますが、父親との話し合いの不足が問題児を生む一つの原因になっているのではないかと思います。そこで共かせぎの問題で子供とお姑さんの問題が出ておりましたがまだ全然事主という言葉が出ておりません、事主と共かせぎの時にどうしてうまく利用しておられるか、うまくごまかしておられるか、あるいはどういう形で協力してもらっているか、家庭内の問題で事主のほうに問題を移してゆきたいと思っておりますが、あまり事主には関心がないのでしょうか？

宮本 少なくともここに書いていらつしやる方のご主人は理解がありになるんじゃないですか？

川合 私の場合は私の出ることのほうが多いですね、お父さんは仕事のことしか知らないで、子供に對してもあまり話し相手になつていただけない、その点でお母さんのほうに重きがおかれるんじゃないかと思ひます。(笑)

脇水 主人は家の長ですから父ちゃんは一番大事な人だということとは小さい時からいつておりますが、主人に對しては女の子ばかりですから嫁にやらなければならぬ、嫁をとるなら親をみるというわけてゐるのだから子供が嫁にゆくときは自分が嫁にゆく積りで勉強して下さいといつています。私のところは労働者

導引 私の場合は経済的なことで働くのであれば主人は貧しくとも自分の給料でやつてくれ、しかし私が仕事に對して執着をもつておればそれに対しては協力すると私自身の考えにまかされておりますから迷つております。婦人の再就職の問題は公務員など休職中は無給でもいから休職制度が、労働基準法なんかで決められていてもの職場に復帰できるような制度があらばいいと思ひます。大事な幼児期を家庭にいてやりたいと思ひます。

古谷(リーダー) 再就職の問題も大きい問題で、それはあとで、共かせぎとも関連はありますが社会的な問題としてとりあげてゆきたいと思ひます。休憩に入るまでは事主の問題に重点をおいてゆきたいと思ひます。

猪野 私は主人とほとんど年が同じですから友達みたいなもので半分は経済的な目的のために働いています。主人だけ働いていたのでは今の公務員のペースでは生活できない、家族が七人もおりますから。ですから仕事を生かすための半分と両方の意味で働いております。ですからしつ中子供の問題については母は主人の母ですから私の言えないことは主人に言つてもらう方法をとるわけです。ところが主人は親子で話すよりお前のほうがいい、そういう話し合いの機会をつくつてやろうというのとで、やはり主人と妻との関係はまたなければならぬが特に共かせぎの場合は職場で疲れ果てて帰ってくるのですから友達同志の気持ちで近寄るがそれは妻がしなければならぬと思ひます。母がゐるからとかなんとかということではなくあくまでも主人を立て、よくということば私ども妻としては必要ではないかと思ひます。

ですから勉強の機会が少ない、運転を、おろして、おろして、きたらすぐ休を休めさせて心配事はなるべく主人にいわないようになつております。事故でもあれば私が悩まなければならぬから主人とはけんかはしないことになつております。主人には親書会に行つて勉強してきたことは早く帰つて休の休まる場合に教えるのですが、母親文庫にはメモをするところがありますから、大事なところで主人に見せたいところはしるをつけておいて読んでみて下さいといふます。そのひまがなければ私が主人に教えるようにしてあります。主人と一緒に勉強して自分のみ込んで少しづつ分け合つてゆくようにしています。子供たちには主人がうちにいる時には主人と接するように、父ちゃん遊びなさい、おふろにも父ちゃんとききなさいといつて。

私のところはこういうことないんですが――(笑)

宮本 私のところは母子家庭ですから反論になるんですが母親がいつまで働かなければならぬかという時間的な問題です。だんな様も本当は奥さんにうちにいてほしいのではありません、か、やはり女の人はせめて小学校幼児期はできるだけうちに奥さんといてほしい、だんな様のみなならず自分もそう望むべきだと思ひます。私は幸せにも幼児期にはうちにいて一番下の子が一年に入つた時に働き出たのですが、娘時代に事務的能力や会社の経営に對していくらかの知識があつたので中断があつても働けるのです。その間に託児所などの施設がほしいといふ、問題を社会的に片づけられることも結構ですが、幼児期にはできたうちにいられたい方がいいのではないかと思ひます。その代り中年になつても働ける可能性といふものをなんとか開いておきたいと思ひます。

今岡 私は乳幼児をあずかつておりますが、そのうちではご主人が朝送つてきて帰る時にはご主人が連れて帰る、それは絶対に雨の日も風の日もご主人の泊りの日以外にはお父さんの役目になつております、おしめなんかもおうちで使つたものはお母さんがあらつたものをご主人がほすということにして協力しておられますがとてもうまくいつてゐるらしい、側からみていると家庭絶対論なんかを書いておられたことに通じる面もあるかもしれないが、そうしておられないと共かせぎの方は困りになるでしょう。

辻 私らの仲間の先生でおいさんの協力――六人家内ですから相当お洗濯ものもあるでしょうがそれを全部上から下までおじいさんが洗う。洗たくものはないかと小さな声で二階まで呼ばれるのだそうですが、洗濯機であらゆるものを、全部洗濯される、ほす時にはご近所の手前があるから女先生がほされるのだそうですが、それでおじいちゃんは無罪放面でパチンコにゆかれる、それで一つの仕事をしたわけですからね、なかなかユーモラスにやつておられる。

古谷(リーダー) 電機洗濯機はなかなかおもしろいもので買つたばかりの時は私も家内に使わせないで僕が洗濯をしましたがそれは趣味でもあるのですね。城さん、出かせぎの問題で夫の問題もあるのではないですか？

城 主人も一緒に全部出ます。養育期はともかく養育期にはほとんど二人とも出てしまひます。そうしました時に主人との問題は、一諸に動いていてところした場所では申せないような愛情の問題が起ります。そういうことが職場でおきてきます。橋本 それは人間ですからそういう問題もあるでしょう。

城 「じゅんさい」をとりに行つたらあの人たちが親しくなつて
いたとか、そのために家庭内で不和が起きたというふうなこと
で、共かせぎと出かせぎでは、主婦の教養の格差がずい分違ひ
ます。辻さんは教師であり教養の程度が違います。こうした場
所で話し合うのもどうかとおもいます。

榎引 青森県の婦人会でもそのことがずい分出ました。男が出か
せぎに行つてある人はゆくえ不明になつて帰つてこない。ある
人は生活費を送つてくれない、そのために妻が淋しいので部落
の異性と交渉ができる、そのことに関連して子供の非行化が問
題になつたり、ひどいのは主婦が出かせぎにゆく、子供をおい
たままでね。特に青森県は労働の供給県ですから出かせぎが大
きな問題です。主婦が名古屋に集団で二十人、三十人と出かせ
ぎにゆくことが問題になつてゐる。青森県は特に非行少年が多
いことで問題になつております。夫が集団で出かせぎに行つた
場合には一週間でも二週間でも帰つてくれるように雇用主に申
し入れようかというようなことが話し合はれました。

城 私らのところでも長いものは半月も一月も帰らない、子供と
主人をおいて主婦が出かせぎに行つて青年とかけ落ちたとい
うような事例もあります。

古谷(リーダー) 出かせぎが多くなつたのはいつ頃からですか？
城 ここ二、三年ですね。近代的な生活をしよう、マスコミの影
響で農村も都会の真似をしよう、洗濯機、テレビなどの電氣器
具がほしいとありあえずお金がほしい、なに事も金さえあつたら
解決できる、なにせ金、金ということで出かせぎに出ますので、
出かせぎに行つた場所です。そういうことが起きまじたり。

猪野 そういうケースの保護世帯も非常に多いですね。そういう

数字がだんだん増加していつております。
榎引 青森県の場合夫が出かせぎにゆくので男手が少ない、二十
戸の戸数のうち男手がたつた二人でその男手を雇うためにまた
出かせぎにゆくというふうな悪循環もあります。

植島 私の周囲も出かせぎが多いのですよ。奥さんは自分で働き
ながらその上にテレビがほしい、洗濯機がほしいということ、
もう三年になります。国道十号線の拡張工事があつた際、目の
前でよそからきた女の労働者が一日四百円、四百五十円になる
ときくとその人が働かなければならないという家の主婦がその
工事に出かせぎにゆく、それでうちの仕事はできないし田畑は
荒れてしまふ。私のほうは豊稔の「しつと」を栽培して草
をとる時期、こやしをやる時期があるのですが道路工事に出て
いてこやしがやれないためにひよるひよるのものがでる。す
るとできた製品は安いのですがそういうことも考えないで労働
者になるのが流行になつてしまつて子供は放つたらかし、五十
円をばつとやつてパンでも買つて食べなさい、すると子供たち
は母親のいない間にテレビのあるところに入り込んでみたりあ
ちこちをフラフラしてゐるので、その状態が私たちの目に余り
ますので最近では子供会をつくるうといつてゐます。道路工事は
なくなりましたがお母さんたちは働くくせがついて基礎工事に
「主婦農家」といつてゐる人がまた働きに出かける、「なぜそ
んなに働くの？」ときくと、テレビ学級に入つたが人のもので
見るのはつまらないから自分も買いたい、現金がないから月賦
にしたが月末になると請求がくる。私のところはどこからも月
給は入つてこないから私がかせぐ」と言つてゐる。子供の教育
にしてもテレビから文化をとることはいいがお母さんは見る時

(再開)

古谷(リーダー) 共かせぎについての家庭内の問題、家庭で解
決出来るいろいろな方策は今までくりにしまして、社会的、
政治的の解決方法に移つていきたいと思ひます。

一番、今問題になるのは保育所、託児所、これをもつとたく
さん作つてくれたらよからうと、これはほとんど全部に書かれ
ていたことなんです。ただたくさん作つてくれればよいとい
う問題、どうしたらいいという問題、又すぐ作ることが出来な
いのなら私設の託児所、たとえば、中村さんのやつておられた
ようなもの、又それによつておこる障害、今岡さんのいわれた
ように私設でやつた場合公共団体といったものの補助が受けら
れるならば余程やりやすくなるという問題、さらに託児施設が
出来るかどうかということ、これはさつきの子どもの教育の問
題にもつながると思うんですが、そういう問題もあると思ひま
す。又預けるとその経費の問題などもわり合ひあると思ひん
で、そのような社会的、政治的といひますか、そういうため
に共かせぎの問題をどのように解決する道があるかといつたこ
とからいきたいと思ひます。中村さんから、やつていらしたご
経験、その特に障害の面、こういう点が非常に困つた、それ
から、こういう壁にぶつたつたといふことを紹介していただき
ましょうか。

(休憩)

中村 共かせぎが対象でないので一つの足がかりとして、地域の
おかあさん方の啓蒙活動ということからパートタイム式に最初
始めておりました。私自身がいろいろ出る機会が多くて、子ど
もが小さいために出ることが出来ずそういう不便をつくづく味

わつておりましたので、自分の子が手を離れて来ましたので一しよに皆さんのお役に立てたこととから始めたわけですが、まず地域のおかあさん方が、自分のうちは関係ないからというのではいつまでたつても解決しない問題ですし、少ししよになつて考えていたのだと思つてはいるのですが、今やつてゐる託児所は、一時間二十四円でお預かりしております。で、大休利用されている理由は、PTAの会合とか、一週間ほど親せきのお手伝いに行く時預かつているとか、そういう第一段階ですけれども。

古谷(リーダー) その二十円というのはお八つとかなんとかいうのはもちろん出さない……。

中村 お八つは別に十円いたでもいい、実際には十円でまあかなえない。ドーナツなんかうちで作りますと三四十銭くらいですから、なんとかなりませうけれども、アイスクリームなんか買いますと十円で終つてしまします。営利を目的としてやつておられませんけれども……。

古谷(リーダー) 何人くらい、平均して。

中村 平均しますと、二、三名ですね。地域でPTAとか講演会がある時は七、八名という時もございますし、大々ない日もございます。

古谷(リーダー) お宅はお庭みたいなものがありだけでも……。

中村 団地ですけれども一棟二階も使えますから、庭をつぶして子どもも側面からけがのないように見ているだけで、……自分の子どものことから出発したようなわけですね。

古谷(リーダー) そういうようなことがもしあつちこつちに出

ななら初めからしないほうがいいとかなかなか意見が一致しない。中村 私のところでは午後になると学校から帰つた共かせぎのお子さんが集まつて来て遊んでおりますから、何か学童保育の方策をたてていかなければならないような氣になつておりますけれども……。

宮本 支部会の時もお話が出たので、あ、そんなものかなと思つた話なんです、今広島市内にあるわずかな既設の施設でさえ人手不足、設備の不十分であっているらしい、実際に利用された方から寝ている赤ん坊の側へ一わたりお乳をおいただけで、のものがむまいが放り散し、子どもがやせて帰つて来た。預けておいても氣が氣にやなかつた。やむを得ず病氣だから預けた、という話が出たら、ずい分共鳴する方が多かつた。既設の施設でさううまくいってないなら、これから新しく出来た場合合計に望めないのじやないと落胆説のほうが強かつた。そうすると、さつき先生がおつしやつた地域的な、地域連合といった広がりの方がえつて望ましいような氣がするんですが……むずかしいですね。

橋本 私は、以前住んでいた団地で、一人が一人を一カ月三千円で預かるんです。預かつた奥さんはしつかりものでびしびしつけるんです。アイスクリームなんか外でたべてはいけませんよと言う態度で保育ママさんに預けた時はきちんとするがほかあさんの手もとにわたると今度はほかあさんも一しよになつて外でたべていらつしやるという具合で、せつかくしつめたものがなんにもならないとけんかになりました。なかなか人間関係が機械のようにならない。そういう問題になつてくるのではないかと思ふことがあるんですけれども。

来てくると大分助かるんじゃないでしょうか。今のようなものですと非常に小規模なものです、それしか出来ないと思ふんですが、今岡さんのお考えではもう少し進んだものをお考えだつたんじゃないですか。

今岡 私の住んでいる所からちよつと離れた松江市にあつたような施設があつて問題がおこつたことがありまして、そこは給食もやつていた関係から集団赤痢が outcome して、私設の場合は大へんなんです。それと乳幼児の場合たんの上からものが落ちて来てけがしたりした問題もありまして、私設は預ける人も預かる人も困るので、認可があつたら双方ともいく分楽になるんじゃないか……。

古谷(リーダー) 中村さんのやつてゐるのは許されるんですか。柳引 東京、大阪だと家庭福祉という制度ですか、あれは自分の子どもがおつてはいけなかつた記憶していただきますけれども、五、六人まで、部屋も六畳間で、東京都なんかでやつてゐるんじゃないでしょうか。

湯浅 神戸市でも、やはり子どもが小さい時とか、経験のある人、ある一定期間講習を受けてやるわけですが、教が少いですし、全部がそこに預けにいけなかつた。私の所は団地で、同じくらいに入居しておんなじような子どもがおりますから、ほかあさん方の協力さえあれば背嚢保育みたい……私もずつと前から氣がついてゐるんですけれども、なかなかそこまでみな意識が高まつていけなかつた。預けておいてその間にお買物に行くと、その程度の考えしかまだ出来ていない。

古谷(リーダー) 子どもの当番みたいなものを作つてね。

湯浅 おしつけておいて自分は遊びに行こうということ、そん

川台 私も地域的に子どもを預かつてもらいたい方が多いんですが、皆さん内職していらして一日三百円なり四百円なりかせぐ人が多くて、今の中村さんのように一時間二十四円預かつてくれる方がないかと思ふんですが、機能的にされるといいと思ふんですが。

大河原 子どもが小さい時に幼稚園でやはりそういうお話が出たんですが、幼稚園なんかで午後でも預かつて下さるといいわけですね、ということでは呼びかけたんですが、管轄の問題、幼稚園は文部省、保育所は厚生省なので認可がおりないというのと、りやめになつたことがあります。

宮本 私どもの幼稚園は申し込みを集めて……あんまり安くなかつたんですよ、一月二万円くらいで……私立の幼稚園で、大河原 ももろん薬山も私立の幼稚園なんですけれども、管轄が違つて……。薬山には保育所というのは全然ないんです。

鈴木 私のほうは農村ですから保育所はございますけれども三キロ以上で非常に遠いのです。バスで朝晩送迎するんですが、バス代として三百五十円とられるんです。それから日々のその家の経済状況によつて段階があるんですね。平均して千円くらいなんです。すると最低千三百五十円払わなければならぬ。これは農村では大きな負担でなかなか通わせられないという問題がある。それからもう一つは託児所の問題、中村さんのおつしやつてゐるような、木更津の若夫婦なんですからけれども、共かせぎで月三千円で預けるそうです。そしてお八つ代として別に払う。そこでは二人を預けている。すると六千円する。奥さんの月給分がみんな保育費にかゝつてしまつて仕方がなくて奥さんがやめてうちで子どもの面倒をみることになりましたけれど

ども、それと保母さんの、教養とか愛情という問題がそこに一つおきて来たのです。

中村 最近はお産場に託児所が、たくさん出来てきましたけれども、私はむしろ地域に出来た方がいいんじゃないかと思えます。戦場まで子どもを連れていくというのは、何か戦場に家庭の中のものを持ちこむようで、戦場の方、男性ですね。人間関係うまくいかないんじゃないか、地域や団地なんか一つ一つあつたらいいんじゃないかと思うんですけれども。

今岡 今の三千円で預ける話、私のところでは今、七千円が相場です。その上に全部お八つもミルク代も別にとります。朝八時から五時半くらいまで。それでも喜んで預かる人はありません。いろんなものを入れたら一万円になります。高給とつてい方は職もやめたくないし、専門職の方で続けたいとおつしやる人は預かる人がないので人を探して頼むと五ヶ月くらいしたら又他の方、ほんとうに子どもが可哀そうです。時間の問題などでおかあさんと預かつたほうがけんかをするなど人間関係がむずかしく永続きしない。お手伝いさんを頼んでも少したつと事情があつてやめていくことでは子どもの教育、しつけなんか出来ないと思ふんです。東京で保育ママということを確認して、三人までですか。預かるなんかがあると聞いたんですけれども。

事務局 東京ばかりでなしに神奈川とかあつちこつちで保育ママ制度というものを実施しているんです。これは何か資格といつても、子どもを育てたことのある人とか、部屋の広さがどのくらい、設備がどのくらい、こういう規定があるのです。それにかなつた人が認可されて、子どもさんを預かつていらつしや

るそうして一年に二千元とか施設に対する補助金が出ています。

古谷(リーダー) 結局どうなんですか。公立の託児所といったようなもの、保育所……。

事務局 施設ですね。

古谷(リーダー) オフザパーの方で、よくこの問題を御存じの方は。

小柴(特オブ) 東京の江東区の場合を申し上げます。事務局はうのお話でつづいておっしゃるけれども、ただ資格の問題で、子供を育てた経験があればということでしたが、その資格審査が大へんやかましいのです。第一条件として、保母さんをした方、助産婦さん、それからお医者さん、学校の教員さん、そういう婦人に対して資格が相当きびしくなつております。それからあまり大道路に面しているお宅でもだめということで江東区の場合は二箇所あります。そのおかあさん方の子どもが全部成人しているという条件なんです、その時分にはお母さん自体が疲れてなつていて今さら孫の面倒もみられないのによその子どもをいくらくれるんだか育てられないということ、むしろたくさん子どもを扱つていらした方ほど敬遠されるようです。むしろ子どものない人で育てるあげたいという方は資格がありません。そういう方のあるへ里親制度に登録していただいて何かうまい方法をというところを研究しておりますが、お役所の仕組みがもう少し……。健康診断やら何やら大へんきびしいので全国のおかあさん方の力によつて、それこそ全国一せいに手のあいたおかあさん方に援助していただかないとむずかしいでしょう。保育園を作る母の会というのも結成されて、土地はないかとい

安心して働けるようにするとか、保育所を作つてもらいたいという前に、先ずそういうことを政治的に解決しなければ、公立の保育所の設置というのはむずかしいと思います。

古谷(リーダー) どうしたらいいですかね。

宮本 保育所が出来たままでは五年先か六年先のこと、結局自分の子どもは大きくなつてしまつてしまうと悲観的です。

鈴木 保育所が出来れば理想的ですがそれにもまして気がかりなのは、一人ないし二人の保母さんで何人かをみると型にはまつた子どもが出来ないかということ、それと同時に保母さんのいかによつてその子どもがどんなになるかということも考えられると思ふんですが。

古谷(リーダー) その問題があると思ふんです。保育所が足りないことはたしかなんですし、それはすぐに解決がつかないと思ふんですが、その他に託児所に預けて、鍵つ子が今問題になつていますけれども、託児つ子というのが出来はしないか、三才児までに人間の性格が決まつてしまふんだというふうな学説があるから、そういう時に託児所に預けたということですが、その子の人間生活が決まつてしまふと大へんなことですが、託児所に実際に預けられたおかあさんの経験、どんなにかいらいやいますか。

猪野 まだ私は半分ですけれども、すぐ隣に、学校の先生で、上の子は三年保育で下の子も三年保育に通わせています。お手伝いさんがすごく替わつたりなんなんです、それで子どもが反抗期がこじれて親を恨むと思わなくて三才ぐらいで我が強くなつてしまつた。それが保育所に預けたら、もの集中するといふことが出来てきた。留木で構成するといふ遊びが出てきて、それ

をおかさんが発見して、私、こういうわけで馬鹿みたいに積木をあさつて歩くのよ、とお話するんですけれども、いろんな積木だけをおもちやに与えるんです。すると子どもは保育所から帰って来てその積木遊びに集中する、そしてものごと集中していくという。それで落ちつきが出て来たということ。三年保育にも精神衛生上からいうといる問題があるらしいです。特殊な、おとななみの考えをもっているような子どもが中にはいますから、しかし非常にいい例じゃないかと思つています。うちでもそれをまね出来ればと思いますが、どこの子ども同じというわけにいきませんけれども、絵本を見るとか、紙芝居を見て来てうちでいうように、何かに集中することが出て来たように思います。

古谷（リーダー） 経費はどれくらいですか。

猪野 町立の保育所ですから。給食つきで千円です。

脇水 私は変つたケースから皆さんにお伺いするんですが、身体障害者、盲で二人で働いておられる子どもさんの教育に、この間県大会で泣きながら話されたおかあさんがあるんです。自分が盲ですから子どもを施設に預けようとしても快く預かつてもらえないんだそうです。人をやとえばいいがやとうだけの余裕がない。普通の家では、盲の家庭に普通の子どもがあると、安い部屋を貸してくれないそうです。盲だから火の用心が悪いとか、あと家がどろなるかわからないといつて、普通の人が千円で借りられるところを二千円も三千円も出して貸してもらえないんだそうです。そして託児所へ預けようとしても両親が盲だということで一応敬遠される。お前のおかあさん、おとうさんは盲じゃないかと、とこのつた家庭の子どもに限つて親のわ

私は、ほつておきなさい、私の所に来たらもうある程度神経を使わずに、私は私でやりますと。おかあさん、おとうさんもそうです。あんまり本を頼りすぎるとか、このごろは少く生んで立派に育てようという気持ちが強いものですから障害もあるんじゃないか。だから私はむしろ共かせぎの方はたしかに人に預けたほうが一番いい教育方法だと思います。そばにつきすぎているよりも、やはりある程度つき離して、夜はじかに皮膚を通しての愛情で育てたほうがいいんじゃないか。若いおかあさんにまかせておけないところがある……。

湯浅 私はそれにちよつと反論があります、というのは、一番上の子どもは気を使いすぎたところがあります。身近に相談する人がないために心配するんですね。だから夜泣きが多かつたんだと今ごろになつて気がつくんです。当面しているときは真剣に考えてわからなくなるんじゃないかと思ひます。ですからそれは一概にはいえない……。

今岡 やつぱりそこに勉強ということが大切になつてくるんじゃないかと思ひます。

湯浅 勉強するということがぬけていると思ひます。団地の中でも時間があるのに、ただ世間話ばかりして子どものこととはちつともみていないで、それでブランコから落とされたといつてはお互いに怒りあつて、あの子とは遊びなさんなというふうな言われると、だんだん遊び場に出てこれなくなつてしまふ。焦点が子どもでありながら、だんだんそこからおかあさん方の意識が外れていってしまうような気がします。

辻 たしかな方に預けたらいいじゃないかとおつしやいましたけれども、私はその一つの例を同僚に見ておりますので。汽車で

からない所でいじめるんだそうです。子どもは泣いて帰つても辛抱しなさいといつておさえるといわれるんです。そういう身体障害者の方の場合、共かせぎの身体障害者の子どもだけをおかみなしに預かつてくれる託児所とか保育所を作つてもらふことは出来ないものだろうかという問題が出たのです。それは集団の力による解決になるんですけれども……泣いて訴えられたのです。ほんとうに可哀そうで少しでもよくならよう、皆様のよい名案をもらつて帰りたいと思ひます。

宮本 結局そういうことに対して現在早急に解決するに付やはり政治的な力を借りるより仕方がないし、やつぱりこれから既設の設備がちゃんととのつて、それとも、これからそういつたきちんとした施設ができる可能性があれば優先的ということではきても身体障害者、特にその方のためということとはなかなか前送りより速いことじゃないかと思ひます。

古谷（リーダー） 普通の施設でさえ……。

宮本 ええ、そうなんです。それよりも既設のもので、あるいは地域的なおかあさんたちで、時間をもてあましている人たちがいるんですから地域婦人会とか育成会とかPTAでもつて真剣に話し合つて、そういつたものが出来るまでの時間的な間隔を埋めるように、考えなくちゃ、夢みないなことが急に実現出来ればいいんですがね。

今岡 私もそう思ひます。今日のおかあさん方は少し子どもの教育に熱心すぎるように思ひます。私も預かつておりますが、共かせぎの場合だと子どもに接する機会がないから余計に神経質になられるのかもしれないが、本を見たり、保健所に付たり、お医者さんに相談したりしてき細なことで気を使われます。

一時間か二時間もかかる山の中の自分のおかあさんに預けてしまつた。自分の赤ちゃんやんが何印のミルクをのんでいるのかそれさえも知らないし、どんなサイズのズボンをはきシャツを着ているか知らないし。おかあさんのほうがたくさん自分の子どもを育てているからたしかよという話を聞きました。それも極端すぎると思ひます。一月も二月も会いにいかれないのです。安心して。性格かも知れませんが……。

古谷（リーダー） それは性格ですね。そこまで信頼出来ればこれでもいいのかもしれないね。

今岡 公立の保育所が政治的にはすぐ出来ない場合、東京都でとりり上げていような、保育ママをあまり資格にとらわれないで、人格に重点をおいて許可して預けるようになったら、建つて日時を要しても少しくらい解決するのじゃないか。

古谷（リーダー） 人格というのだけは、調べようがないので、お役所仕事で……。

小柴（特オプ） 急な御質問だったので先ほどデータをもちまんでしたので調べてまいりましたのでお書きとめいただきたくと思ひます。これは東京都の場合は民生局婦人部の管理課が所管しております。部内に保育ママが百六十七名おまして、多い区では三十名、少ない区もございします。先ほど何か助成金が出ていられるかと私勝手に決めてお話ししましたが申しわけありません。都のほうでは、ブランコ、おすべり、乳母車、その他遊ばせるのに必要な玩具だけを無料で貸してあるそうです。これが都の助成金です。金銭の助成はございせん。乳児は一ヶ月四千円、ミルク等は全部家庭もち、それから幼児は三千五百円で朝の七時から夕方の六時までお預かりするそうです。そして現在完全に働いていらつしやる保育ママさんは百十名だ

そうです。資格の中で落していましたが栄養士、学校は短大以

上卒業の方でしたら資格はなくともいい。年令は二十五才から五十五才まで、大体一人で三名を限度として預かるそうです。これで珍らしいと思いましたが、三年生までの難子学童を保育ママとして預かっていることで、その場合は一カ月二千円で共に日曜日はお休みだそうです。百六十七名の保育ママに百十名しか利用していないかという点、助産婦さんのお宅に学童をもつていても勉強をみられない、学校の先生あがりの方は学童がほしいということで、双方にいろいろな希望の差があること、地域を指定したくとも、希望者をつつたために密集している所と散らばっている所とがあつてバランスがとれていないということのためにあまり利用されていない。子どもを預ける場合は福祉事務所の福祉課を通じて、家庭状況を審きこんで申込むのだそうです。これが東京の保育ママの実体です。

古谷（リーダー） 保育ママというのたしかに一つのやり方だと思ひますけれども、今聞いただけでも、百六十七人中百十八人が働らいていて、三人ずつだと三百三十人で、とても全体の解決にはならないと、それと宮本さんのおつしやつた解決がいいにはいいのですが、それが果たしていいかどうかということ。一番手つとり早いのは猪野さんのお話の町立、あるいは公立が出来れば値段も安くいいんじゃないか、それで公立の託児所をたくさん作つてもらふことが一番いい解決方法ですが、これは政治の問題だといひますけれども、実はこれは大きな国の政治というよりも、もつと身近な町なり市なり区なりで解決出来る問題じゃないかと思うんですが、そういうところへの働きかけはもつと身近にやれるんじゃないかと思うんです。町会議員なり市会議員なりにこんな無駄な金を使っているなら託児所

いじ上がつたところまで話し合つてみましたが、だけど結局……。

宮本 それは個人でお願いに上がつたんですか、それとも……要望しているおかあさんたちの声は何人くらいですか。

今岡 お願に上がつたのは二人でした。

宮本 全部、名前を連ねた人。

今岡 二百名くらい……。

宮本 二百名くらいお集めになつて、市会議員だけにお願に上つたとどまつた……市長さんかなんか……。

今岡 民生課……。

宮本 民生課だけ……どこまでその書類が届いたか、つまり私たちの声がどこまで届いたかが大事なんです。そのお願いに行つた市会議員は御自分が一票入れた人だろうと思うんです。その場合にその声がどこまで届いたかというのをきつめないと裏散霧消しちゃつたらいけないじゃないか。結局託児所の問題はすごい予算がいつて一朝一夕には市でも町でもとり上げてくれないと思うんです。託児所ばかりでなく、いろんな場合に私たちは時間その他の許す限り、いろんなチャンス、いろんなアイデアをつかまえて自分たちが実現してほしい政治のすき間を埋めていくために、ちよつとでも努力することは効果あると思うんです。それについてやはり、去年とおとし、私仕事もつていて忙しかつたのですが広島市に移動図書館があるんですがガラス張りなので日にやけて本が痛んで図書館の先生方が困るんです。なんとかしてほしいけれども予算がないといふんです。何年たつても。百万出すと五十万にけずられてく

を作つてくれる早い話が歳費の値上げ分を出してくれば託児所の一軒くらいすぐ出来るだろうという方法でやれるんじゃないかと思ひますが、実際にそういうことをやつて作つた、あるいは作れなかつたという、御経験から出た話はございませんか。

今岡 私も市会議員の所にお願に上がりまして、市役所の民生課に行きましたけれども、託児所を作るのには一番お金がいるんだそうで、給食やお八つやクレヨンやはさみとか千代紙とかとても千円なんかでは出来ないし、それに保育ママの給料も私わなければならぬし、だから保育所に払う市のお金は相当なものだそうです。だから新しく建てることをしるというよりなことです。

古谷（リーダー） その場合、お願いに行つた資格とか団体はどういう形で行つたのですか。

今岡 私は一年ばかり団地に住んでいました。その前山のほうの保育所の主任保育母をしておりました時に、三カ所くらいに保育所がありまして小学校に上がるまでの子は全部保育所に通つていました。それはおかあさんが林業とか農薬などにあけ暮れていたのでために保育所にこられたんです。うちには玩具などを使つて、献立もたててあつてうちで食べない給食をしますから子どもたちは非常に喜び日曜日がくるといひがりました。団地では狭い部屋で、冬のうちはちよつと暖かくなつてはね上げた足も動かぬおさなければおかあさんににらまれるという状態で可哀そうだと思つておりましたら、おかあさん方も話にこられるようになつて、それで、市会議員の方、民生委員の方にたずねて、陳情書をおんなでこしらえて町内会長さんの連合会を通じてお願

る。なんとかならないかと考えましたら製菓会社で名前のはいつたカーテンやどんちよりなんかをぶらさげている。それで広島市の明治製菓に頼みに行つたわけです。私たち移動図書館を利用してはおかあさん方のグループで。そこへ何度も頼みに行つて可能性があるとわかつたら東京の本社に手紙をどんどん書きましてね、それで一年がかりでほんとうのブラインドでないけれどカーテンがついた。今やつていることは移動図書館をやってこれというお願いです。お役所の判こが通るところを、全部印刷してそういうことを連書して出しています。一年目は自動車文庫作つてくれといつたんですがだめで、その時助役さんや教育委員長さんが断つた理由は、自動車文庫作つて配つて歩く本がないじゃないかというので、二年目は、自動車文庫あきらめましたから本を下さいとお願に行つた。すると予算が少しふえているんです。ところが今年はどうしたことか予算が組んでないんです。おとなの図書館と子どもと共同でビルが予算に組まれていた。結局市長さんに頼んだと思つても届いていないんですよ、だから私たち書類の行方を追求して歩いたんです。

古谷（リーダー） それが必要ですね。市会議員に頼んだら、よくわかりました、なんとかしましょう、で終つてしまふ。つまり市会議員というのはいわゆる代弁者なんです。だから、われわれが使うという感じになつてこないといひ、あなれどつてそれだめだつたんだ、というのをいつていかないと、市会議員といふものが自分より上の、おかあみないな感じになつていたのはだめでわれわれが使う人間だということをやつていつたら

大分事態は違ってくるんじゃないかという気がするんです。

宮本 その時私が一票入れた人が——前年も前々年も頼んだ市会議員が結局力がないのか、関心がなかつたらしくして他の方に今年は戦法を変えてみてね、そうしたらからとは思わなければども結局私たちが手を変え品を変えて目的のためにあいつとをしてみなければいけないんじゃないかと。

水沢（特オプ） 自治体の予算をとるということでございましたら、諸願書の形にすれば市会にかけなければならぬわけでございますね、ですから諸願書ではだめなんです。諸願書にいたしますの一番いいのは一つは地元の世論が必要ですので、そういう人たちの意見、出来れば署名を集めて、諸願書とする。

これには紹介議員を何人かお願いして、出来れば各党の紹介議員をとったほうがいいと思いますけれども、そうするとかけざるをえないわけです。予算はどうするかという前に必要かどうかということが審議されます。それがかかる時に傍聴することが必要で、そういう形で運動をおこしていくというふうなやり方が出来ると思います。

古谷（リーダー） 婦人民主クラブの方、藤田さんと名簿には書いてありましたけれども、水沢さん替りに出ていらつしやいます。

猪野 今、おつしやつたのはほんとうでございませうけれども、私、乗養自動車というのを県で買ってもらいたいと思つた時、地域婦人から二千元ずつ寄附してもらつて、百八十万もする車を三十万だけ基金を作つたわけです。その基金と諸願書を議会に提出したところ百八十万の予算のうち、五十万は厚生省からいただきました。その上に百三十万をそっくり出して下さつた。

う考えが案外ないんじゃないか、何か代議士、市会議員という

のは私たちがえらんだというだけで、えらばれれば偉い人たちになつたという感じがしているんじゃないかと思ひますけれども、これはこの人を使つてやるためにえらんだということに充分考へて、つまり選挙権が出来たということは、あいつらたちを使う権利が出来たんだというふうな考えたらまだまだやり方がずいぶんあるんじゃないかと思ひます。

中村 議員を使うということですが、私も家庭の婦人として出来ることとして、子どもも好きですし、そういう点で今の保育ママを一生の仕事としてやっていきたいような気もしているんですが、資格がむずかしいものですからそこで足踏みしているわけです。資格があればグループもつておりますし、そういう方たちと議員を使うということができると思つておりますが、もつと資格を緩和していただけないでしょうか。

古谷（リーダー） それが、さつきもお話ししたようにお役所仕事となると、資格を緩和したために何かおきた時に責任をおわされるというのがお役所のどうにもしようがないところだと思ひます。

宮本 この資格というのは東京都の条令で、全国的なものじゃないんでしょ？ どうですか、それ。

小柴（特オプ） これは婦人部内と民間協力を得て、そして解決をしようということで、公立の保育園が出来ないものですから働く婦人が集まつている問題解決を婦人部に訴えてできたものですから条令などというものはございせん。

宮本 ですが新しくお作りになる時は、資格をお作りになる時にお考えになつたらいいんです。

私たちの作つた三十万はとつておきなさいということ。そう

いうふうにある程度のことを、誠意をお金で示すということはいろいろ問題があるでしょうけれども、すれば車一台買つてもらつて、四十年版にもう一台なんとかしましよと議員さんのほうから書つてくれるようになったんですね。ですから保育所の問題もそうやつていけばある程度解決出来るんじゃないかと思ひます。私の受け持つている管内では、市営の保育所その他民営の、お寺さんがやつているのがあります。そういう所にも話しかけてみるのも一つの手じゃないかと思ひますし、保育所になりますと、今度国から給食のなん割かは保証が来ますから安くしていただけるのじゃないか。そういうお寺さんとか、神社なんかのような所に地域婦人会の一つの仕事としてやつていけるのもいいんじゃないかと思ひます。

鈴木 これは保育所ではなく、成人式の着物のことでございます。本年度は全部町で着物を一揃え揃えましたけれども、それは毎年着物が派手になり競争になりますのでどうにも困まつてその話し合いを持つたのですが、その話し合いの場に町長さん連れてきていただいて、若い方たちと母親一しよ話し合いをせよですが、その悩みを町長さんに聞いていただいて、そしてどうも町長さんを説きふせてしまひまして、町費で買ひましようということになり、ではこんなふうに書類を議会のほうに出すようにというので、その通りにいたしました。今年四十万の予算をもらつて全部町費で買ひました。

古谷（リーダー） 婦人が選挙権を得たことは、代議士やなんかをえらぶ権利ができたというだけでなく、こういう連中を使う権利ができた、自分等の支配下に入れて自分が使えるんだと

小柴（特オプ） 助成金でもお出しになるんならなかのことね、

せしておやりになつたら余計いいんじゃないか……。

中村 それは認可があるんじゃないでしょうか。

古谷（リーダー） どこだつてお役人の気持というのは同じですからね。

湯浅 せつかくいい制度を作つても活用できないような形にいるよりはあくまでも……。

中村 もう少し巾を広げていただい……人がらね。

生野（特オプ） 私全機同盟におりますけれども、ちよつと御参考まで。全機の場合婦人が多いので婦人問題が深刻ですが、会社内で託児所をやるのですけれども、それだけに事業の中でも地域に働きかけて、組合から市会議員にたのんで三カ所で託児所を作つていられる所があります。それで宮崎県の延岡市と広島県の三原市、三重県では渡会郡の小俣町という所でやつているんですが、その中で三原市の場合は交替番の女子のために夜間の保育所があり、夜は十時まで預かります。この三カ所の場合はいずれも組合から資金が出ているものです、組合のほうから働かせるかと……。

川口 それと関連して、私の組合でも今までとり上げてきたわけですが、今年は全然そういう項目がなかつたわけです。で私どもはほうから意見としてのべたわけです。そしてその意見が組合と会社との話し合いによつて出されたわけですが、やはり企業内で作ることにはある程度問題もありますし、それよりもやつぱり地域にも困まつている人がたくさんいるということ。会社からの提案などで町に小さい会社もありますので、その会社が各々少しずつ助成するという形で地域に作つたらどうかと

いうような話し合いになつたわけです。これから建設するといふ形になつていますが、この間婦人連合会の一つの行事として山村にはいつた市で県政公聴会があつたわけですが、そこで農家の方から出かせぎが多いので乳幼児の保育所がほしいという話が出た時、県知事から特別に作るということはむずかしいけれども、現在ある保育所に乳幼児も収容できるような指導していきなさいというお答えがあつたので、私たちはこういうチャンスを見逃がさずにとんどんしていきなさいと思つております。

脇水 参考のために皆さんにお聞きしたいんですが、八幡浜の場合、人口約五万人で託児所は一カ所もありません。戦時中は託児所がありました、戦後は保育所になりました。保育所は四才から六才まで預かるんです。四才でも事情によつて四年預かつてもらひ場合もあるんですが、大てい幼稚園が二年保育と一年保育。保育所が小さい子どものほうで、平均三年なんです。この中で五万人くらいの都市の方はおられませんか。その中で保育所よりもつと小さい乳幼児を預かる施設のある所ございせんか。

横引 その場合は託児所と保育所が区別されてないと思ひます。厚生省でやつてゐる保育所の中に乳幼児を預かることもできることになつてゐるんです。ただ、保育所の定員の問題です。手がかりますので、そういうことで各保育所にまかされてゐるわけです。おんなじ施設で今は全部保育所と呼ばれてゐるわけです。

脇水 子どもが三才、四才までは私がついでおりました。子どもを預ける場合、大体子守賃は、朝八時から五時、六時までで一カ月六千円から七千円なんです。すると私が働いててもそれに

三才以上の保育さんの定員と別になつてゐると思ひます。三才以下の場合、保育さんの数を多くしなければならぬし、設備を数多くとる必要があればならぬといふことで、保育所にまかされてゐると思ひます。私の子どもをやつてゐる保育所では乳幼児も預かつてゐるんです。けれどもそういうことも公立なら市とか区とかおあさんの話し合いで解決出来る範囲のことがあるんじゃないでしょうか。

古谷（リーダー） 施設があれば、あと人の問題と、いくらか何か作れば……。

脇水 八幡浜の母親には勉強しようとか、知ろうとする人が少ないといふことですね。

横引 それからもう一つは費用の問題ですが、先ほど千円といふお話がありましたけれども、あれは公立としても安いと思ひます。たしか所得税によつて規定があるはずで、所得税の額によつてAクラス、Bクラス、Cクラスと、定員が余つた場合は保育園とおあさんとの自由契約となり、その場合費用が保育園によつてまちまちになつてゐると思ひますけれども、普通は全部決まつてゐると思ひます。

脇水 保育園の費用が三段階になつてゐることは聞いてゐたんですが、保護家庭は無料、それから中までの貧しい家庭で千円、それからのいい家庭の人が預ける時が千三百円というように。

横引 最低二千五百円か三千円……。

猪野 私の場合こゝろの問題があるからと園長先生に頼みに行つたわけなんです。それで特に定員外で千円を入れてもらつてゐるんです。

いつてしまふんです。小さい間は家を建てて苦しかつたんですが、その間は一番小さい子は木の下に寝せて、上の子に守りさせて働らいたんです。梨包み、桃包みのお手伝に行つたんです。そのころ一日二百円だつたんです。するとパンやおかしを買つてやると百五十円くらいかかるんです。残るのは五十円くらいなんですけれども、うちにおつてもお八つ代はいるからと辛抱して働らいてゐたんですが、小さい間は保育所に預ける考えはなかつたので保育所の問題は研究してゐなかつたんですが、みんな保育所、保育所といひますでしよう。八幡浜で保育所に乳幼児を預けてゐる方は一人もありません。保育所いつたら四才以上の、自分で歩いてゐるような子を預けるんです。そして乳幼児は一月六千円なり七千円で、役所に來てゐる出かせぎの方なんかでも全部子守に預けられるんです。ですから八幡浜では保育所を作つてくれ託児所を作つてくれといふ切実な声が、一つもでないんです。それで県大会をした時、松山では職場で、昼休みにお乳をやり帰るが往復一時間かかるから哺乳時間の十時と三時をまとめてお昼に二時間にしてゐるがそれでは母親が辛いのでどうかして職場で保育所を作つてくれとか、地域でみてくれないかといふ要求が出るんです。私は預けたら子守賃がかかるからと自分だけの考えで人に無理をかけないで働らいておつたんですけれども、今のおあさんはそういう要求ができて、安心して安いに預けられて幸せだと思ひますよ。

古谷（リーダー） 八幡浜の場合は施設はあるけれども、人やなんかの関係で乳児を預からないといふのですか。

横引 そうだと思ひます、三才以下の場合は保育さんの定員と、

それと、三才でどこまで通ひ通せるかといふことで安くしてゐたでゐるのです。ですから親が行つてお話し合ひをするといふことも必要じゃないでしょうか。

脇水 八幡浜の場合私立だけで市立の幼稚園はないます。そして保育所は市関係なんです。

横引 保育所は市立と私立とあるんですけれども、幼稚園はまだ義務教育制度になつてゐませんから公立はなないんじゃないですか。

辻 京都にはあります。

猪野 幼稚園は文部省、保育所は厚生省管轄で性質が全然違つてゐるんですね。

脇水 いい勉強になりました。私全然知らなかつたんです。

古谷 五万人の都市に保育所がどうのといふのは数字の問題じゃないと思ひます。結局必要度の問題で、必要を所ではたえ五万だろつと十万だろつとたくさんで、必要を満たす努力が何らかの形でなされてゐたらとつくづく思ひます。問題は初めの頃にかゝつてきて、なぜ、女の人が今、そんなむずかしい問題を克服してまで働らかなかちやならないかといふ就職の問題と、できれば再就職の問題と、さきの問題とをからみあわせて先のことを考えたいし……。

横引 根本的な問題と思ひますのであしたゆつくりやりたいと思ひます。

古谷（リーダー） あした、女性と職業の問題をとり上げたいと思ひます。きよりはいきなり大きい問題にはゐるよりも、もつと身近なところからいつて私の作戦通りそこまでいつたような形になつたようなわけ……。大体問題も出つくしたかと

思うんですが、聞いてみると、お話し合いを始めた時は託児所の問題もまるで悲観的だったんですが、だんだん話していくうちに悲観的どころか、皆さんの威力をもつてやればすぐ出来そうを感じがしたので、かなり具体的な成果もあつたんじゃないかと思ひます。共かせぎと子どもの問題は一応このくらいにして、明日は早速、宮本さんの待望しておられる、婦人と職業の問題にはいつていきたいと思ひます。それから、まだ少し時間がございますのでオブザーバーの方で……。その前に、町田さん御発言にならないので一言感想でもおありでしたら。

町田(特オプ) 私、皆さんの話を伺つておりました、大へん身近な問題をほんとうに真剣に考えて取り組んでいらつしやるというところに敬服いたしました。ですけれども、子どもの教育ということが問題になつていきましたが、やはり共かせぎの場合に子どもに接する時間が少い、その少ない時間をほんとうに子どもへの幸福のためにどういうふうに使はたいかという精神的な何かがある少し考えられたら非常にいいんじゃないかと思ひたんですが……。お手紙をすることも、テーブルコーダーをお使いになることもテクニクとしてはいいことですが、もう一段上にたつて人間というものの本質を考えて子どもに接していつたら大へんいいと思ひます。それから、おかあさんが働いていて時間の問題は、三才児以上にありますでしょうね。保育園の問題なんか。そういう集団生活によつて子どもが社会人として育つというくせをつけたほうが人間としていいんじゃないかと思ひました。三才児以下の乳幼児の場合大へん問題が大きいと思ひますけれども、出来ればどんなに家庭が貧しくても、ほんとうに母親の心づかいというものを一番必要とする時期に

やないかと思ひますので、ある程度考えてあげたほうが、いいんじゃないかということ、私自身が感じます。そういうことが不可能な場合はそれぞれの家庭の事情に合つたやり方でなさるより仕方がないと思ひますけれども、そんなことを感じました。

古谷(リーダー) あと小柴さんなにか……。

小柴(特オプ) 一人だけ江東区から出ている婦人議員です。そういう立場からちよつと一言申し上げたいと思つたのですが、一票渡してやつた、議員を使えと、大へんいい結論が出たと思ひますが、一票行使ということがあればこそ女も議員になつておりますので、ここでそういう結びが大きな問題になつていらないかと思ひます。議員の立場から一言申しあげます。私も四人の子どもを育てながらPTA、婦人会とやつて、女中さんもおかざ公務員の女房としてきた人間ですから、皆さんが歩んだ道はひしひしと感じてきたわけですが、そこで考えましたのは、私が野にいました時は、議員では自分の要望したものは必ず通らなければならぬんだ、議員はそれをつとめるのが義務じゃないかと思つていました。が、東京都の場合ですと、保育園作りたい、職災のままだに焼けただれた鉄筋校舎がごろごろとしていて、それも直していかねばならぬということになりますと文教政策の上にも大へんな予算があるのでそれだけに一方的なものの見方をして、議会陳情をなさるとむしろ失敗するということになります。そして御自分の感情に負けて、あの議員は動かないとか、それが動かないからその先がどうなつたかということになつてしまひますので、無駄な陳情とせめ方だけはやめていただきたいと思ひます。一番ポイントとしておらつていただきたいのは、

おかあさん方の精密な調査です。ただ陳情と署名をとるだけで明け暮れしますと、先頭をきるものが悪口を言われたり、出る釘は打たれるで挫折する場合が、女性の陳情にはございます。具体的なものをもつて来ていただきたい。それには土地を探して、あそこの土地は坪いくらでその土地が何坪あれば保育園のどつちの企画があつたのかと、議員が答弁のできないまで地元で調べあげていただきたい。ただ作つてくれ、何をしてくれというのとは一番無駄で、何回波状攻撃をやつても同じでござい

ますので、理事者が答弁のできないまでに、綿密な調査をまじめ上げていただきたいということを切にお願いしたいと思ひます。それから、家庭問題で何つていきましたが、私も子どもを育てる間、両親もありませんでしたので、子どもの母にかわるものは、大と猫と小鳥にまかせたということだけをつけ加えさせていたきたい。飼育するには自分がやはり時間に帰つてやらなきやならない。自分がおかあさんに育てられていると同時に、自分が育てなくちやならないというものを与えるということも、やはりテーブルコーダーや手紙よりも、私は効果があつたように思ひます。……植木の栽培とか、全部そういうもので子どもを引つづけてきた経験があるので、それから出ていて子どもが何をしてくるか心配だということがありました。やはり子どもと生活設計をたてまして、子どもが何時から何時まで何をすると、何時から何時まで犬の散歩、というふうな、お互いにスケジュールの話し合いをして切りぬけて来たということをお聞き

古谷(リーダー) 小柴さんが議員ということを知らないで大へん失礼なことを申し上げましたが、しかし、今おつしやつたこ

とはたしかにそうなんです、大へんいい教訓を覚えていただいたわけですね。全く、ただ作つてくれじやしょうがないので、できるのになぜ作らないのだということでもつていかなくちやならない。そうするには相当議員の助力も必要じゃないか、しじゅう議員の所に行つて、こういうものを作りたいけれどもどうすればいいか、うまい手はないかと、このへんの結びつきを使うといつては大へん醜態があるんですが、使わせていただきたいと、そういうことで……。

宮本 さつき長くなるからはいたんですけれども、ただ自動車文庫を作つてくれ、ただ何してくれと言つたわけじゃないんです。それまでに三年がかりで、私たち子どもの読書の手助けをするおかあさんのための読書会を作つたんです。最初私が図書館に行きながら、せつかく図書館があるのにいる人不備な点もある、なんて図書館の方と話し合うようになって予算がとれないという話を聞いたたりしてうちにそういうおかあさん方が二、三人集まつて、よい子にする母の会、という読書会がグループ毎にふえまして、三年目には四百人、今五百人いるんですが、五十くらいグループができた、そういうたグループと地域にあるグループを結びつけて四百人近いおかあさんが子どものための読書運動というのを展開しまして、三年目にやつと実現したかつこうです。波状攻撃でないけれども、やつたので、やつぱり何か荒唐無稽な陳情とやないから実現したんだと思ひます。

古谷(リーダー) まだ四、五分ありますけれども、もし何も御発言がなければお疲れになつたでしょうから……。

城 皆さんの話し合いとまるで反対の立場ですけれども、農村は経済産業の成長によつてほとんど都市のほうへ人口が移り

まして、このごろは家族計画と人口の流出と両方で子どもが減つて来まして、今まで二百人ぐらいの小学校の入学生が今年は九十名くらいで、来年は七十人、その次は六十人くらいと、ものすごい減り方で、長男がほとんど農家を継いでくれませんが、中学校を今年卒業したのが百五十人いますけれども進学がほとんどで家庭に残るのは二人か三人ぐらいで、ほんとうに淋しい思いです。この農村の問題は、政治につながることですけれども、なんとか家にとどめる方法はないだろうかということ。もうちよつと農村に魅力があるようにやつていただけないだろうか、池田さんになつてから余計ひしひしと感じますので……家ではおじいちゃんも私も農業をやっているが長男に高等学校も農業科出て大学に行くのなら農業大学に入れてやるわという、そんなところのいやや、農業みたいなものしやへん、とこり言うのです。村のほうでも村長さんがやさしく言われまして、農村でありながら農村にとどまるような教育をしない先生が悪いと言つて言いますけれども教師は調査をするときみんなが農業はいやだ、都市に行きたいというのをやむをえないじやないかということです。深刻な問題ですので、一つ考えていただきたいと思います。

辻 児童数が市内はどんどん減つて来まして、団地のほうではちやうど満員になるわけです。結局あいた校舎は西部劇の死の街みたいなやつておられますので、ああいうものをうんと利用して保育所にしてもらえたらと、それも一つのヒントじやないかと今思つたものですから。

橋本 農村から人が流れ出しているということに関連して私の所は炭鉱ですが、閉山になりましたので労働者たちは大へん困つ

ておりますけれども、若い人たちとか、働かせる人がまだ田川市内にたくさんいるわけですが、労働賃金が安いために全部よそへ出ちやうんです。労働賃金が生活保護より安いので、働らくより家で生活保護をもらつたほうがいいというので保護者が全国で第二位になつています。そういう土地でもやつぱり保育児の問題は、あるんです。だからそこがあまりあきじやないけれども、年とつた方が県外に出られないで、しかも田川市の中にはもうすでに職業がないという、そういう深刻な問題をかかえておりますので、これも御参考までに、よろしく。

古谷（リーダー） まだいくらでも話は出てくると思うんですけども、明日また少づくりやらなきやからないので、今夜精力たくわえておく意味で、きよりは時間通りに終ります。明日は午前中に婦人と職業の問題をやつて、午後から消費の問題、それに関連して、今の農村の問題、消費と農村の問題、大体そういう目安をつけておいたらいきたいと思います。

閉会（五時）

古谷（リーダー） 昨日約束したように、きよりは、家庭と婦人、婦人と職業、という問題からはいつていきたいと思います。午前中に二時間とつてありますからだつぱりしやべれると思ひますけれども、午後消費の問題とか、農村の問題をとり上げていきたいと思います。

家庭と婦人、職業と婦人、はテーマとして出しておいたのですが、ほんの思いつきですからこれにこだわる必要はないのですが、早速どなたから発言していただきましょう。さう、大分根本問題だといつていらした瀬引さんか宮本さん、どちらか……。

脇水 やはりほんとうの家庭の主婦の辛さは、子どもの養育を主としたものであり、子どもの一番大事な教育は三才から四才までの幼児期にあるのじやないか。ですからせめて子どもの小さい間は母親の手で育てていきたいと思うのが母親の願ひじやないでしょうか。それを、乳幼児を保育所に預けて、というのは絶対に働かなくてはいい場合と、それでもない場合とあるんですが、ほんとうは幼児をおいてまで働かなくてはいい場合とよくするためにはどうしたらいいかということが根本問題じやないかと思ひます。主人の収入さえ満足にあれば乳幼児をおいてまで働きたい人はそんなにないのじやないか、特別な人を除いては。

古谷（リーダー） 経済問題で働かなくてはいい場合と、それだけでよく女はうちだけに閉じこもつていてはだめだといので、視野を広くしたい、社会の為に働くべきなればいかなんだといので働く人がある。だから、今おつしやつたのは経済的な考えだけの問題ですね。

第三部会 二日目

十五日 一〇・〇〇～五・〇〇

弱水 働らなくてはならない場合でも、絶対の場合を除いては、大事を三、四才までの間は奥さんの考え方一つで、生活できないことはないと思ひんす。

古谷（リーダー） それにはきつものもちよつと出ていきましたが、再就職の問題ですね。一度やめたら働らく機会がなくなるというところもあるんですが、どういふ解決手段があるか、あるいは自分の経験など、そういう話を聞かせて下さつたら……。

宮本 結局、職業の定義みたいなものになるかと思ひんですが、日本の結婚生活では男の人が働いて、女は養なわれていくというところから職業に対する考え方は決まっていたかと思ひんす。といつて職業が生活を支えるための手段であると割切つてしまつと、男の人が収入を得て暮らしていけるなら、女は家庭に、といふあり方になるかもしれません。職業はあくまで収入のための手段であるとなると働らかなきゃいけないともいいきれない。すると職業というものは男でも女でも、自分に適した、一生やりたいもの、収入以外の目的があるのではないか。それによつて女が家庭を犠牲にしても働らかなくてはいけないといふ場合もあるでしょうし、個々の問題だと思ひんですが。

中村 今のお話に関連しますけれども、ここに出てくる前に、私は近所の友だち四・五人にどうして共働きをしようと思ひんのかと聞きましたが、皆さん第一に経済的な理由をあげました。それで最初は経済的な理由から出発したであろうと思ひんす。また、それも生きるための最低の経済という一つは電気製品とか、ピアノがほしいという、生活を向上するための経済的な理由と二つにわけられると思ひんす。経済的な理由だけでしょうか、なんか潜在的に他に理由があるのじやないか、あつてほしいとい

思つたのですがそういう声は聞かれなかつた。私は家庭で今、子どもの世話と雑事に追われておりますが、子どもが手を離れた時に、何を目標にして生きていつたらいいか、考えるとたまになくなるのですが、そういうことからおあさん方が職業を一步深めて考えて、生活態度をきちんとしたら、そこから子どもにのしつけについても根本的な問題が出てくるのではないかと思ひんす。

古谷（リーダー） 婦人が職業をもつたほうがいいという大前提は大体そうだと思ひんすけれども、ただそれが家庭との両立といふことに一番問題が出てくるんですが、きのう他の部会のリーダーの方とお話をしたところが、第一部会ではどうも家庭を犠牲にしてまで職業をもつべきじやないという意見が非常に多かつたといふことだつたんですが、こゝではどうですか。

湯浅 女の職業といふと男のものと別な考え方をされがちですが、男でも女でもライフワークをもつべきであると思ひんす。自分に適した職業についてもやめなければならぬ場合も生じると思ひんすけれども、いつかは再びそれをもつてにして、自分の教養を高めていつて、もう一度職場につくという態度が必要じやないかと思ひんす。そういう考えの人がないと、女の職場が女の手でせめられていくように思ひんす。

猪野 私、女の人が職業をもつことは賛成でございます。といふことは、私は女性の職業のうちでも家庭の仕事を近い養育士をしてありますが、これは男の方にはもてない、女であればこそつとまる職業じやないかと思ひんす。家庭生活にプラスになることがございます。それから、地方にグループをもつておりますから、そのお話し合いの中に、自分の生き方につ

いて示唆を与えられることがございます。ですから今は一面経済的理由から働らいておられますけれども、たとえ経済が豊かになつても、自分の職能は一生いかしていかたいと思ひんす。

そのかわり、家庭を犠牲にしてまでとは思ひんせん。やはり家庭に帰つた場合は主婦になりきれよう努力していますし、女性が職業に溺れてしまふことは不賛成です。それは自分自身で、調節していけばうまくいくんじゃないかと思ひんす。

辻 女であればその職業、家庭にも直結する職業は大へん結構です。私の場合は教育関係です。女であつても男に伍して、またそれ以上に頑張らなければならぬ仕事の性質上、私の年輩になつても、校内にプールがあれば泳ぎを指導をし、運動の時間はボールをもつて駆けずりまわり、鉄棒ででんぐりまわりもしなければならぬ。決して女であることに甘えてはいけません、一生懸命やつております。一生懸命やつたあとというのには気持ちのいいもので、お茶汲みとかそういう仕事でしたら、私おそらくとりにやめてしまつていと思ひんす。プライドをもつてやつておりますので、張りをもつて生活していますけれども誰でも、とは限りません。私も子どもが三人おまして、一人一人の子どもが大きくなるたびに、いつもそれでいいのだろうかと疑問をもち、何かりちでの仕事でも外での仕事でももちたいと……。自分の思つた通りに仕事をもちことができたのですけれども、そういう意味で家庭と職場を両立させていつてこそいきいきした人間性ができるのではないかと思ひんす。

今岡 私、団地の主婦で、職業をもつておりませんが、きのうから労働省やNHKの働らいておられる女の方を見ると羨ましくなります。女の方は職業をもつたほうが美しくみえるのではない

いかと思ひんす。職場で能率を上げる方は家庭の雑事もうまく処理していける方ではないかと思ひんす。

橋本 職業をもつていける方はそれを誇にも思つていけるし、大それた自分の立場をいよいよにお考えのようになつていけるけれども、私は家庭に在る立場から考えてみて、大体十時頃に家事が終ります。それから四時ごろのお買物までの間をいけるわけですが、その間をどう使うかといふことで職業をもつ方を羨ましいなと思ひんす。ただ、育児、三才児の問題とか派生的な問題がそこつてくると思ひんすがなんとか解決して自分の職業をいかしていくといふふうに、前向きに考え方を進めていつて外へ出ていく。そのために国家とか個人的な力を動員してやつていきたいなと思ひんす。私のように子どもに手のかからなくなつたものはパートタイムの仕事とか、いろいろ他に積極的な方法があるんじゃないか。

宮本 結局、宮城県の方のように、女であればその仕事で家庭との連けが深い仕事をもつていける方は幸せですが……、これは男の人の場合でもいえることで特別のケースですが、私みたくいへ、まづたく経験も、技術もないものがいきなり土木建築業をしなければならぬのは追いつかぬような場合もありまふ。道材道所というか、道敷といつたものが容易に得られるような世の中だつたら、何も土木建築業をつがないで、家庭を最低維持できるような職業にまづたろうと思ひんす。出来ないう職業をついでいつていくのはどうだ無理です。女であればといふ仕事でもないし……、男でも、こんな仕事はふさわしくないと転々と転職して失業保険をもらつて次の仕事を求める。それが男と女を含めて求人難の一環をなしているのじやないか。

適職であれば女も仕事を持ち続けていいし、また収入以外に社会的貢献を自覚して、女も仕事をもつべきだと思います。それはある程度育児を卒業した中年期になつてから職業につくということがあるのもいいのじゃないか。子どもたちの心配がなくなつてから収入のことを考えないで働きたいと思います。

鈴木 家庭と職業を両立させることは理想であるけれども、現実にはそうはいかず私も職業本位になつています。お金をもらつている関係でそのなりがちなことだと思います。せんだつてなると、女が職業をもつというときは、やはり経済的な問題があるわけで、真のねらいは、家庭の幸福ということにあるのじゃないか。離れも家庭の幸福を願わないものはない。経済的、精神的に恵まれていれば主婦は家庭にあるべきだと思います。子どもが犠牲になるようだったら、大切な三才児がい子に育たない。最後には非行少年になるようなことだつたら悲しむべき家庭になるのじゃないかと思うんです。無理のないように自分の立場とか家庭の状況によつてするべきだと思います。

古谷（リーダー） 川合さんの所は家内工業ですね、条件が違ふと思いますが。

川合 私の所ではうちの中でやつていて関係で一日中主婦の仕事とも離れられないわけですね。私もうちを出て働きたいきたいと思います。うちではお勝手のこと子どもものこともみんなやらなければならぬのでとても忙がしいのです。主人はお勝手のことを手伝うこともないし、また手伝つてもらうわけにもいらない、そういう点でどんな様の御協力のお聞きしたいと思いますが、

宮本 家内工業つてどんなお仕事ですか。

なんとかしてもらえないだろうか、解決のできるような盛り上げた声をもつて帰つて来いといわれました。いいお話を伺わせていただけたらと思います。

大河原 自分に職能があつて、それを家庭でも理解し、そのために社会がよくならんでしたら無理していろいろの障害をのりこえて、続けていつたらいと思ひますけれども、どうでもいい方は職場でもマイナスじゃないかと思ひますね。私の場合はお店がある半面、私が中年になつて働いてゐるのは手芸なんかをしてゐるからで、それを教えておられますから、全然新しいことはないですが、やはり子どもを育てあげて、家庭にも余裕が出来てくると、なんか世の中から遠のいたような気がして働きたいという意欲は誰でももつてゐると思ひます。その場合地域で、厚生係などに登録して臨時のお手伝い、留守番など、いつでもそこに申し込めば仕事ができ、ある程度の賃金をいただけたらどうですか。

古谷（リーダー） 大分お話を伺つたのですが、経済的に問題がなければうちにいたほうがいいじゃないかという、鈴木さん、大河原さんもちよつとそういうニュアンスがあつて、………他の方は経済的な問題とは別に女の人も職業をもつべきだと。大河原 それは子どもを育てる間だけね。

橋本 私は職業を広く考えてゐるわけです。うちの中でもなんかできる、それも職業です。私の場合なんかモニターなんかいいじゃないかと思つてゐるんです。手芸もいいし、育児ママも一つの職業、賃金を千円でも二千元でももらひのが職業。

古谷（リーダー） つまり賃金だけが目的じゃないで、外とうのつながりをもつてゐるということですね。うちにいて育児と一

川合 オルゴール、貿易機器の一番最後の仕上げなんです。一つは私だけしか出来ない技術があるわけです。私は出たいんですけれども主人一人では仕事ができないのです。お勤めに出入れば家庭から一応離れられる。私の場合は寝るまでです。会社から帰れば仕事が終わりますから、すぐ仕事場に坐るわけです。泊りで行く場合は徹夜することもあります。そういうことを、職をもつというとはとつてもいいことだと思ひますが、自由な時間が与えられない。私たちのような家庭工業に対してはなんとかならないものかなと悩みつづけてきたわけです。

古谷（リーダー） 逆に、うちをしじゅうあけて心配して働いてゐるものからみると、そういうふうな技術をもつてうちで働いてゐるというところは羨ましい。それぞれ人のことが大へんよく見えることになると思ひますが。

脇水 私だつたらそれのほうがいいと思います。自分の自由に時間を使ひたい。少しは過重労働にもなつても、し甲斐があると思ひます。

古谷（リーダー） 城さん、農家のほうで……。

城 職場をもつていらつしやる皆さんは辛せだと思ひます。私の近辺の農村ではテレビの部分品の組立てとか、そういう出稼ぎに農閑期を利用して若い方が家庭を離れていられるのです。朝八時から夕方五時までにかサラリーマンで楽しそうですが、おばあさんに家庭のことをまかしきりで出られますので、おばあさんのくどきが多くなつて、いろいろなこと聞かれます。ここに来る前地方会議をした時に、中年の方から、小盛りの若いおかしな家は家にいて、中年になつて働ける職場を

しよにやつていけるといふ職業は川合さんのような、技術をもつてゐる方は別ですが、収入としてもそれは期待出来ないし、それから職場の中には収入といふことも相当の収入な面でも意味がある。またそれを望んでゐる方も多しんじゃないかと思ひますが、一応外へ出て働らく職業というほうの問題をいふと、三才児くらいまでの間はうちにいたんですけれども、やめてしまふと職業にもどれない、折角手が離れ、働らくに出られる時になつて今度は仕事のほうがない。それから前に職業をもつてゐない方でも、これから働らくという時に就職不可能だという問題が一番大きいと思ひますが、できれば育児に手がからなくなつた時に職業につくということが理想だと思ひますが、そういうことができる可能性があるか、あるいはこりしたらいいんだということ……。

横崎 私は助産婦をしておりすが、友だちに保健婦がおります。子どもを育てる間はうちのことをしてだんなさんは運転手で勤めておられたが、最近だんなさんがやめて農業をなさる。というのには保健婦の収入のほうだんなさんが運転手でお酒を飲んで帰つたりするとこつちのほうが多いんだそうです。それでお子さんから手が離れたので、今度は奥さんが選手交替ですと出てゐますが、そういうことが私どもの職業では——助産婦保健婦などみんなできるようです。昔とつたきねづか

古谷（リーダー） そういう特別な女の人ばかりではない技術をもつてゐる方は割合に職業にもどることは簡単なんです。それがやらない場合は困難だと思ひますが。

川口 私の場合はまた特別で、紡績ですが、昔紡績で働いてい

た年とつた方で、けつこう臨時の仕事として間に合うわけです。私たちの組合のほうでは臨時工はかんばしくないとし、本工化しているわけですが、年とつた方とか農家の方は本工より臨時に力を感ずる人もいるわけですね。私のところは女子だけで千五百名ありますが、年間の退社が大体二〇〇名から二二〇名とつております。すると大体二百名くらい毎年やめられるわけですね。それで新入社が百三十名しかないと、結局あと臨時工に頼らなければならぬという方の賃金でも四百六十円から五百円とけつこういいわけですね。ですから紡績では附近の農家の方とか、ある程度年いっただ方はいいと思います。

古谷（リーダー） 再就職できるわけですね。

榊引 幼児のある間は家庭に在るべきだという説を目分に打ちたれるような気持ちで伺つていたわけですが、どのくらい家庭や育児を犠牲にしているかということが問題だと思ひます。それから再就職の問題は職業によつては、看護婦さんのように人手の足りない職場は再就職しやすいけれども、一般の公務員は普通は絶対といつていい、別の問題に発展していつちやうんですが、恩給の問題があると思ひます。私はあと五、六年勤めていると恩給がつくこれは老後の問題につながるわけですね。それが問題だなあという感じがしているわけですが、そのへんどどうでしょうか。

川台 私の悩みは、皆さんみたいに恩給もボーナスもない時間もないわけですが、そのうえ老後が問題なんです。それほど収入があるものでもないし、私の所は貿易ですから、何年か前に出した見本が今ごろに来るような始末で、全然内地の物価とつり合いがとれず、そういう面でも心配でして、それから産前産

後何週間の休暇ということも聞きますが、うちの仕事ですと生まれる前までやつています。二週間なり休んだらまたすぐ仕事をしなければならぬ。そういうことで若い方はとても漆器の商売などになりてがらないですね。それで人手不足でうちの人は子どもも動員してやらなければそれだけの収入がないわけですね。そういうことで老後どうしたいでしようかと、地方会議でいつたら、年とつたらどこかで使つてくれる所があるでしようと言ひますけれども、どつかのお掃除くらいだつたら使つてくれるかもしれないけれど、老後のことを考えたら外へ出て働きたいということですね。

古谷（リーダー） 老後の問題も相当大きな問題ですけれども、鈴木 その点家内工業も農業もおなじやないでしようか。農家はもつともつと仕事の小規模なものだし。

城 農家は、今経済成長の影響で、三重県でも四日市の周辺の工場なんかからバスで送り迎えして農家の婦人をつとていきまので、農繁期になるのにどうするかと心配しているのです。みんな工場にとられ、自然、婦人は働らくことに魅力を感じて家に帰つて農業をするのをいやがつて、もどつて来てくれません。肝心の米や野菜を作るのに魅力を失なつてしまつて大へん案じているのです。

川口 私の工場ではそういうことはないんです。農繁期になりますとつとつたりやめられます。それで又暇になつたら来る、そういう条件があつてやられるんじゃないですか。

古谷（リーダー） 大へん封建的なことを申し上げますが、女の人、出産休暇なんか今大きい企業ではほとんど有給休暇、それから生児休暇、これはとつていられる方は案外少ないかもしれません。

が、そういうものもある。つまり使ひ慣れた立場からいふと、いろいろ経営者にとつては損な場合があるんですね。しかも男女同一労働、同一賃金がいわれている。それならお産なんかしない男を使つたほうがいいじゃないかという問題がある。ではないか、女の権利が非常に拡張されて来たのはいいが、それがかえつて女の職場をせばめているということがあるんじゃないか、女でなければできない職場でしつらいが、どつちにでもできる仕事となると、それがせばめられているんじゃないか。

宮本さんの所は女の方使つておられますか。

宮本 事務員が二人と、現場の仕事というのは女の人はたくさんいるのです。直属の事務系統が二人か三人。

古谷（リーダー） 男と女とどつちの方が経営者として使いやすいですか。

宮本 働らいている女の立場は小企業も大企業も同じだと思ひます。けれども私の立場を申し上げますと、経営者のはしくれの技術的なことはぬきにして、お役所に行つて交渉したり、現場説明とか、入札とか、決定的な仕事、それから営業とか、新しい仕事を開拓するとかそういう面でいささかなりとも実績を上げていけるのか、責任を与えない。私を可哀そうだと思つて責任を与えないのか、それとも女だから責任をもてないといつてくれるのか、その所がはつきりわからないけれども、ほんとうのところ、女の人に責任を持たされるほど女の社会的地位が高くないんじゃないか。仕事によつては平等の賃金を要求することは考えられない。男も女も今の年功序列賃金がくずれたら、その人の能率に合つた給料が与えられるべきで、女でも男より余計給料もらつたつてかまわない。男でも能率の上らない

人は少くともいいんじゃないか。そういうことが理想的な給料の形じゃないかと思ひますがそこまではない気がするので。というのは同じことをしてもやはり女だからという目があるんです。

古谷（リーダー） そういう問題と、今申し上げた生理的な意味でも、たとえば学校なんかでも産休教諭というものをかかければならないとか、経営者のほうからみると、ある程度、女の人を使つたほうがいいことは犠牲を払わねばならぬ、そういう女の権利が認められて来た一方、それによつて職場がかえつてせばめられている。早い話が、私たち新聞社でも放送局でもほとんど女の人を入れないですね。前は入社試験だけは受けさせたけれども実際に入れない。最近ではもつとひどくなつて試験から女の人を受けさせないというふうな、女の人の権利が高くなるにつれて逆に職場がせばめられていっているような状態があるんじゃないか、それをどう考えたいか、あるいは女は少しは待遇が悪くてもいいということではないか。

辻 男女同権で同一賃金で、そうなつてきますね。すると同一に見られるということに女が甘える傾向が少し出てきたのじゃないか。それ故にやつぱり女はな、と言われるのじゃないかと思ひます。たとえば産休の場合、産前産後六週間ずつあるでしよう。すると当然その方は休まれますね、一日もかかさずね。そういう場合にそれだけ皆さんにお世話になりますね。それを同年代の方だけにお願いするか、あるいは学校全体の職員、用務員さん、調理員さんにもお願いするか、それとも当然だからと迎える日かばつと休む、いろんな場合があるんです。そういうさ細なことで気づきにくいことを感じさせることが多いように見

受けます。同じ仕事をしながらちよつとしたことでふつとそういう差をつけられるのは残念だと思います。

鈴木 私以前は教師をしておりまして子どもを生んだためにやめたんですが、やはり産休をとつてみますと、当然だからと大威張りにとれるというわけにいかないです。なぜかというところ、子どもが可哀そうなんです。その場合補助教員が来てくれればいいんですが、田舎のへき地の学校なんか産休の補助教員なんか来ないんです。すると同年の先生が四十人なり五十人なり一人で受けもたなければなりません。するとつい自分の受け持つていた子どもはきま子扱いになつてしまふんです。そして結局自分のほうの子どもも、もう一人の先生のほうの子も犠牲になつてしまうので、産後の休職も決まつただけとらずぎりぎりの線を出ていく状態になるのです。教育者として仕方がないのじゃないかというんですが。

辻 それは大分前の話ですね。今はぎりぎりまで、たとえ映画見に行つてもお休みの間はきつちり休みます。それでお互いいいと思つています。

古谷(リーダー) 実際にはそれでいいはずなんです、それだけの権利が与えられている。ただその時に、教育委員会で代わりの補助教員をつけるべきなのにそれが充分やられていない。そこに問題があるだろうと思うんですが、ただそういうふうには有給休暇で休んだ場合、男のほうからみると、あまりいいことやつてやがるというふうな気が……女同志だつたら今度自分がお産する時休めると思うからいいでしょうし、また経営者の立場からみればそういうことのない男を使い回りがいいという気分になつてくるということがあると思うんですがね。

つた人は相当な給料を出さなければならぬ。これが大きな障害になつていふと思うんです。女の人でも四十くらいの人と二十・三の人とが若い人のほうが賃金が高くなるようなふうな点も、あるんじゃないか。やはり自分の特殊技能をもつていない人は、再就職の場合は相当安くてもいいと、そういうことを言い出すとけしからんと言われる場合が多いのでだから思い切つてそういうよりなあれが社会全体に一つの制度化されてくると――労働省から怒られるかもしれないが――割合うまくいくんじゃないか。それからパートタイム的な働き方ですね。一日中は働かないけれどもこの時間なら働けるというふうなこと。しかも大分パートタイムの仕事はあるようだけれども、内職アルバイトとなつて逆に利用して安く使つてやろということが多いと、これもはつきりした基準ができてもう少し職業として確立されていくような方法が出来れば大分違つてくるんじゃないかと思うんですが、そんな点……

猪野 地方会議の時に非常にこの問題が大きく取り上げられていていろいろな職場の方がみえて討議されたんですが、結局なんとなく働きたい、まわりの人が働いていて自分も働きたいという、ブームのつてやつていけるから、パートタイムの制度も向上しないんじゃないか。そういう考えをもつていふ以上、女性の、特に中年の職場はせめられていくんじゃないか。だからほんとうに仕事をしたい、自分も社会もプラスになるような仕事をしたいのだからと思う人は大いに働らくべしそうでない方は無理してまわりのブームのつて働らく必要はないという結論に達したわけですね。私もそれを考えますと、なるほどなと思ひました。私もまだ三十前で若いほうですが――

今岡 私若い方と働いておりましたけれども、権利ばかり主張して、同じように仕事をしても疲れたということをや若い人が先に言い出します。私みたいな大正生まれのものは何をしてもそんなに疲れないような気がしませんでした。疲れる場合は同じでも口に出して言わないのかもしれないが、それにやはり中年過ぎで、子どもが学校に行つて手離れになつてから働く人は若い人になれない能力があるんじゃないかと思うんですが、その職場がせまいです。私も農家ですけれども、子どもが学校へ通いますので町内うちを建てて出ておりました、それで去年の三月にお勤めを止めました。町に出たら私に合つた仕事があるだろうと思ひましたが全然ない。店員にしても若くて綺麗なお方が多い。人手が足りないという世の中でありながら、小遣い程度のものでもいいと思ひけれどもそれもない。田舎なのでパートタイム式のものもない、乳児を預かつているんですが、それでママコースいうのも受けてみようと思つたんですが、四十才までで一才位は超過してありましてそれもないですね。中年過ぎのものが家のことも子どものことも心配なしに働ける所がもう少し開けていいんじゃないかと思つておりました。

古谷(リーダー) これは女ばかりでなく男でもおんなじことがいえるので、今若い人は引つぱりだとしてくれども、中年以上になつて、ことに定年になつてからの就職というのはほとんど不可能だと。人手不足、といつていけるのに、そのくせみていると年寄りでもできるような仕事を若い連中がやつていける。ああいう所が不合理だと思ひますが、そういう問題が解決していけば再就職は割合うまくいくんじゃないかと思ひます。が、年功序列的な賃金になつていけるものだから、男の場合は年とつ

生理休暇はとつたことありません。とつたら自分の仕事がある所になつてしまつて、てんでこまひしてしまいますから、産休も生むぎりぎり前まで勤めておりました。休んだら仕事が出来ない一方ですから休めないわけですね。男と同じに調整して同じにスケジュールが組まれますのでやつていかなければならぬ。そういう者としてはやつぱりすこやか子育てといけるような方にたくさんお子さんを生んでいただいて、職業に生きるものは子どもを極力制限するほうが自分もいいし子どもも犠牲にならなくてすむんじゃないか。やはり普通の家庭と職業をもつた家庭の違いを自分がかみしめて勤めるなら甘い考えで職場に出ているといわれたいですむんじゃないかと思ひます。

猪引 ただなんとなく小遣いのために働らくという以外に、私たちの地方会議では教育費の負担ということが問題になりました。高校ともなれば教育費の負担が多くなつてくるし、義務教育でも多くなつていふそうです。さらに大抵の家庭では少くとも息子を大学にやりたいという希望はもつていふようです。頭がよければ公立に入はいれるでしょうけれども、私立に入れるには何十万というお金を用意しなければならぬ。教育費をたくさんえるために働らくと出るといふおかしな声もよく聞かれます。たよりです。

古谷(リーダー) 再就職をうまくやつた方はいらつしやいますか。一度やめて。

宮本 私は最初はおうちの会社ですが女事務員ではいつて産休はなくてもううちの会社だからお産の時休んで、子どもが生まれたらベッドを置いて事務所でおかして三人を育てて四人目の時に一番上が六才か七才だったので、これから小学校にはいるの

で、やめなければならぬというのでお給料もらうのよししました。それから一番あとの子が手がとれたから再就職して、また今あらたに事務員から再就職で一応重役ということになったわけです。三回、再就職です。

臨水 私も結婚するまでは調理士のような仕事をしておりましたけれども、すぐ子どもが生まれたのでそれができません。子どもの教育費は主人にばかり頼っていてはいけないうと子どもをつた日から頭になりましたので、なんとかして働きたいという心はもつておりました。小さい子があると、いい病院も二、三口があつたのですが、迷惑をかけたらいけないということと、嫌われる面があつたので、ほんとうにしたいという今までの仕事はのけて小さい間子どもをつれて働ける仕事を探してはしってきたんです。農家の中の住宅地ですから子どもを木の下に寝させたりして働きました。そして末の子が幼稚園に、大きい子どもが学校へいくようになつてから、前の仕事にかえりたいと思つて今の市役所へ勤めたわけなんです。ですから子どもの大事を問は、私が犠牲になつて見守つたわけなんです。だから非行少年になるとかまたどうかという話がありますが、それは母親の考え次第ではないかと思うんです。こういうところに来ておられないような家庭に非行少年とか問題児が多く出ると思うんです。私はそういう家庭の職業と子どもとのつながりなんかを少しでも習つて帰りたいと思うんです。私の場合ですと、主人の収入が一応あるからあんまり欲張らず家庭を充実させて心配なしに働けたら少しの収入でいいと思うんです。欲望をおさえて家庭を充実させて、円満な家庭で心配なしに働けたらそれが一番幸せだと思ふんです。それで私、働らくことは大いに賛成なんです。

庭の両立。よくあの子のおかさんはPTAばかり行つていてうちをちつとも見ないというような話も聞いていますけれどもそういう公的なことをやるのは、社会に奉仕するという気持ちもありましょうし、それだけでなく、やつぱり自分がやりたい気持ちがあると思うんです。そういうことによつて外に広がっていく。今度は職業でなく、いわゆる公的な仕事をもつていられる方も大分あるんじゃないかと思いますが、そういうことで、どうですか。

湯浅 私は教職についておりましたが結婚してやめまして、子どもが今三才です。神戸市は生活協同組合が古くから発達している所です。その中に婦人部というのがありますし、そこでは暮らしの中から問題をみつめて家庭婦人を対象に、お買物や何かを通じて、また家計の指導なんかを通じて経済的な物の見方というものを生活の中に浸透させていくという仕事を地道にやっております。そういうことを協同組合の組織を通じて一部の人間だけでなく、生活の底辺の人から上の人まで浸透させる。それに私は非常に魅力を感じて、子どもが一才ごろでその会合に出てみました。生活設計の問題、物価の問題などいろいろと勉強いたしました。実生活に結びついておられますし、出した声も広まっています。行政面にも通じる道がありますので、非常に張り合いがあつて、暇につかなくとも、これは私に与えられた一番いい仕事だなとやりがいを感じております。それから去年は県の生活モニターが兵庫県全体におかれ、応募して採用になり消費生活モニターをやりました。市場なんかを見ておりました。感ずることが多いのです。それから役所の男の方たちは台所のことまでよく知らないわけですから、家庭の主婦が一つ一つなまの

社会に出て働いて人柄も作り忍耐力も作り、子どもに仕事の尊とさも覚えさせて……大賛成です。

古谷(リリーダ) 私ごとになりませんが、私の家内は新聞記者をやつていて、結婚の時にやめさせたのです。本人は非常に反対したんですけれども。それから僕としてはできればそのまゝやめてくれたらという気持ちだつたんですが、子どもが手を離れるとどうしても一度新聞記者をやりたいというので、幸い前から話もあつたので同じ職場に再就職して、それから十年ほどやつて最近さすがに年になつたのでやめたんですけれども、その時、前からずつとやつていけば二十年になつた、もつと偉くなつているといつては僕を困らしている。事実再就職したために勤続年限が少いので月給は前の実績をみてくれているのですが、地位みたいなものは勤続年限に非常に関連するのでいつまでたつても上らないと、こういう点不満だつたようです。僕の場合は経済的に別に働かなくても困らないという程度で、うちにいてくれたほうがいいと思つていたんですが、働かずに出ると自分でも気持ちよくて、家庭内も明るくなつたような感じもしたわけなんです。そういう意味で、女が仕事をもちたいことは必ずしも経済的な意味だけじゃなく、いろいろあると思うんです。ちゃんとした職業をもつだけじゃなく、うちでできるような、なんかつちこちめするような仕事をもつこと、これは一番大事なこと、人間が明るくもなつてくると、ただ社会の進歩に遅れないようにという意味だけじゃなく、年とつてからも大きな助けにもなると思うんです。職業だけでなく、いろいろな婦人会とかPTAの会とか、こういうところに出ていかれるのも同じような意味があると思うんですが、こういうものと家

声を出して上げることが大事なことだと感じました

中村 私、先ほど生きる目的というのを申しましたけれども、私も最初の子どもの三才くらいになつた時に、時間的に余裕ができて、何か心の中がぽっかりあいたような気がして、何かしなくちやと思つたのですけれども見あたらないので、手つとり早いところで教養を高めるといふことでお茶とかお花を習つてみました。それがそれでもまだ物足りなくて、うちにいて、家庭婦人が社会に貢献できるもの、何かないかしらと思ひまして、ある新聞社の投稿者のグループにはいりましたが、そういうことで少しずつ世論の形成者として、もっているものをいかに使えばならないのじやないかと思うんです。先ほどから再就職の問題がおきておりますが一たん家庭にはいつたものの再就職は、イギリスあたりでは可能らしいのですが、日本では望めないように思ふんです。ですから、自分の能力に達したもの、うちの中でできるものをみつめていく必要があるんじゃないかと思うんです。そういうことから託児所もやつております。

大河原 今、先生がおつしやつたことに関連して、地方会議でもですが、男の方は独占欲が強いといいますが、若いうち、とくに新婚のうちは絶対よそへ出したくないという方が多いんです。ある中年の方が、自分の息子も娘の婿も自分のお嫁さんを出したくないという。それでも中年以上になると、家庭の婦人は外に出て働いていたほうが魅力があるというんです。ですからこれは男の協力がなければ絶対にできない問題だと思ふんです。

鈴木 先生が公職を云々とおつしやつたのですが、実は私もその被害者の一人なんです。現在、母の会では県の常任委員、婦人会

のほうは郡の連合婦人会長、地域的には地域の婦人会長、農協婦人部長、それから役場のほうで福祉協議会の理事と社教委員とひまなものですから全部あわされて、そのために非常に忙しな日曜しかうちにいませんので、初めのうちは主人が協力してくれなかつたのです。外へ出るのをいやがるんです。私も初めは困ってそれで自分のしていることを少しでも主人に知ってもらわなければならぬと思います。全部予定表を作り、帰つたら話し合いのテーマなんか話して、主人にも一しよに加わってもらうということもいたしました。町での話し合いなんかの司会自分でもやります。そして有線に流します。それを聞いてもらいますし、うちへ帰って聞いてもらいます。で、町のほうの社会教育委員会などの仕事や会議は、私のうちでは主人が役場に勤めておられますので、その関係で全部わかるんです。職場の方もうちによつちゅう来られますし、福祉課長なども参ります。そういう場合、私がいろいろ話をしたり質問をしたりするので、ようやく現在では主人が私に同調して私の影武者になつてくれました。今婦人会では、婦人会の役員は無報酬というところが問題になつております。社教の委員ですと一年四千円もらいました、ところが婦人会は全く無報酬しゅうでしよちゅう時間をつぶしているんです。それを賃金に換算したら大へんなものですがこれは自主団体ですから、当然報酬しゅうはとれない。しかしそれ以上に自分に得るところが非常に多いわけです。自分が利口になつて、円満な家庭にあればそれが一番いい収入じゃないかと思つております。川合 私もうちの仕事の関係で役が多いんです。学校、町内、七

つくりもつております。そういう、人の世話をするといいところが子どもにはプラスになつていります。学校に行く勉強はできないくせに人の世話をすること、人の上に立つとするとですね。私の姿をみていて、おかあさんだつてできるんだから私も誰かのことをやつてやろうというふうな気持ちが自然についているようです。忙がしいことは忙がしいが人の世話をすることはいいことだし、それによつて家庭にもある程度プラスになる。子どもも成人式すみました。私にとっても協力してくれまして、私からはあまり言いませんけれども主人もきよりはこいう話が出て川合さんはとても骨おつてくれたんだよ、ありがたいなと他の人から話を聞かされるので信頼して、出掛けることに協力してくれまして。

欄引 再就職した先生のお話を伺いたいのです。

辻 私の場合は実に複雑で現在では決して手放して喜んでいる状態ではありません。といひますの、最初は子どものお入つ代があつたらと思つて内職みたいな始めたんですが、肩がこつてサロンプス代にもならないのでこれはとてもつまらぬと思ひました。実は私辛抱強いと思つてゐるし、辛抱したんですが、こんなに労働多くして苦が多いのはつまらぬと思ひました。けれども子どもが小さかつたし、三人おりましたので外へ出ることは考えられませんでした。が、教壇に立つことを必死になつて思つていたので新任のあいさつをしている夢まで見た。ようやく一番下の子が小学校にはいりまして——なんでもしたかつたらあきらめないうえに強く頑張ることだと思ひます。ええまた私の最終学校の成績とか○型のレントゲンとかパスしして常勤講師になつてあまよかつたと思ひました。そして朝

から張り切つて出かけて、子どもからも、もつと若い服装しなさいかんなどとはげまされて出かけていつたんですが、給料日になつたらガクンとなつてしまつたんです。というのは、することは絶対同じです。それ以上に苦勞が多いのです。いろんなものを全部おなじにやらなければならぬのに給料日になつたらあまりに安いのです。

欄引 常勤講師というのは欠員の所の……

辻 長期欠勤者の一時的な補充です。これも自慢するようでかしいですけれども、市内に百四十五ですか学校があるのですが、せんぐり長期欠勤者がある。するとみんな途切れてかわわんとおつしやるのですが私は幸いにしてつと休みなしで行つてます。

古谷 (リーダー) すると職場が次々と変つていくわけですね。辻 変わります。長期の間はずつとそこにとどまつていますが、カメレオンみたいなその環境々々ではつと色変りするんです。

最近はおきて来まして実に早くつけこみます。欄引 いつまでも臨時みたいな形で昇給も何もないわけですね。辻 そうです。それでおなじことをやつていてね。人事異動がある度に本採用にしてくれと頼むんですが、いつでも年令の障害で、非常にお気の毒ですがと同情されるのは実に口惜しくてかないませんけれども、ここで挫折したらいかんと思つてしよちゅうもくなく人事異動とか、校長さんに本採用にしてくれと言ひにくいんです。そのためにあらゆる方面の知人となくさんの児童を得てものすごく交際範囲が広くなりまして、手紙がたぐさんくるんです。おかあさんから着かつたというお手紙、それがあつたからとそ教員になるのだと思ひます。今度の場合も

校長先生に日程書いて一週間まるまるお休みさせて下さいと言つたら、市教委からは扶助はできませんがと言つて出してくれしたのですけれども、そのために家庭の一週間分の立案、学校の通案それから新学期から始まるいろんな教材の作成とか帳簿作成、あらゆることをしてかけつけて来たわけです。一応、自称ですが適職につけたその喜びをもつと待遇に反映してもらつたためにあくまでも仕事は頑張つて要求していきと思つています。

古谷 (リーダー) 非常に不利なんです、条件は。

辻 どこへ行つてもお気の毒ですといわれまます。

古谷 (リーダー) 制度がそうなつてゐるから——。

辻 予算は京都府の財政から出ているのですが市の人事で動いているのです。すると府の予算が出ませんからつてこいうふうな逃げられます。

湯浅 神戸市の場合再就職しようと思つてたんですね。が、女子の場合受験資格は三十五才までです。再就職の場合も新卒と同じように試験を受けます。教職課程とかみんないつて来ます。憲法から何から。すると一応職を離れていましてまた勉強しなければなりませんし、必らず通るとは決まつておりせん。それにパスしないと正規の教員に採用されません。

古谷 (リーダー) 前は正規の教員だつたんでしよ。

湯浅 地域が変わるとそれを受けなければなりません。古谷 (リーダー) そういろいろの裏面を見てもうべきですね……。湯浅 やはり教員の場合、実績とか……結構しかあつた方が子どもと接した場合よくわかりますし、いい先生になる可能性があるのでそこでおさえられてしまつて成績だけで一応資格をと

らなければ、常勤講師の資格も与えられません。そうして俸給は低くなります。

辻 俸給の低さですが、正式だと、私の年令でしたら現在私がもらっている給料の三倍くらいになるんです。三倍の給料もいりませんから本採用にして下さいという、それはできない、採用したからには三倍払わなければならぬというのです。

古谷（リーダー） そのところが変ですね。

猪野 休職しやなく退職しますと、地方公務員は絶対再就職できないんです。なつたとしても初任給は、高校卒ならそれと同じくらいしかもらえない。それから年金も通算されず第一歩からやり直しになるわけです。一たん公務員になつてしまつた以上は年金もらうまでは子どもの世話になりたくないと思えば二十年は続けて働かなければ無理という現状です。

古谷（リーダー） 前によくやつてやめた人がもどけないということはお役所も教育委員会も損をしているんです。

楠引 教師とか福祉関係などの仕事は女性としての特質をいかすものと思いますが、そういうことは全然。また再スタートしなければならぬということです。

猪野 新しい教育を受けた人と同じ試験を受けると、落ちちやいますね。

脇水 子どもを学校へ行かせている母親の立場になって考えると、先生には悪いのですが……。私の子供の受け持の先生が妊娠されたんです。そして生まれた赤ちゃんが切開手術をして亡くなられたんです。するとまた翌年妊娠されたんです。すると二年もつづけて休みをとられます。代わりの先生に来てもらつたらいのですが、八幡派の一番大きな学校でも常勤の先生に来てもらえ

なかつたんです。すると三年、四年の大事な時に先生がおられ

ず、きよりは二時間目習やつて三時間目隣の先生がちよつと来なさつたけどちよつと教えてもらつたきりで、というのを毎日繰り返されてみなさい、親にとつては一生の不作ですよ。ですから私新学年になる度に先ず、男の先生？ 女の先生？ と聞くんです。一年生の間は女の先生がいいから心配しません。ですけれども二年、三年、四年になりますと女の先生はいらんと

思います。二年続いた関係で……。

辻 おかあさんがそう思われるのは不思議でかなわんですわ。女が女の足を引つ張つて何事だと思ふんですがね。

脇水 足を引張るのでなく、それは偶然二年続けて大事な時にぬけたから、私の子どもが能力が足りないかもしれないが、自習時間ばかり二ヶ月間してみなさいよ、ほんとうに。

古谷（リーダー） それは再就職が可能であれば恐らく簡単に退職できるわけです。それができないから、本人だつて余程苦しかつたらうと思ひますけれどしがみついていなければならぬ。だから今の問題、国や全体が損していますね。

脇水 その先生、今でも心やすくおつき合ひしておりますし、ここで初めて公表するんですが、ほんとです。子どもには一生懸命自習しなさいと、一切悪口は言いません。私だけが思つたんです。

古谷（リーダー） 前の条件で再就職できればその時やめていきますよ。

辻 休職でもいいからそういう制度があるといいわけですね。

楠引 それと常勤講師をおくという制度の問題ですね。

脇水 常勤制度でもまた予算に引つかまつてくるんですね。それ

は。そういう方を配置する学校としない学校とあるんです。

古谷（リーダー） ほんとうはなきやいけなわけですね。

辻 プールをおく学校は同和校といゆる部落のでなければいかん同和校だつたらプールがもらえらるがその他の学校はびつちりの数だけもらひわけですね。

楠引 保母さんの間でもそういうことがふえていますね。保母さんがお産で休んだ間、県の福祉課とか厚生課に登録しておいた前に保母さんやつた方をお願いする。

植嶋 私は前に学校に勤めていたんですが、教員資格審査を受けて、最近産休要員となつております。時々中学校でも小学校でも出ます。私開業助産婦ですから、自由にかえる許可を受けています。

古谷（リーダー） それは仕方がなしに制度が悪いものだからその欠陥をうめるためにそれぞれの町や村で適当にやつてゐるんですね。

辻 ところが産休やなんかは、女の本採用の方からそういう運動が起らないということが不思議なんです。かえつて男の先生方が、今度組合でとりあげるからと、関心もつていらるんです。どういうわけでしょう。

脇水 先生がもつと団結して先生の方で盛り上げたらと思ひますけれども、そうしたら母親は子どもが可愛いんですから、子どもを預ける先生に味方するのはわかつてゐるんです。先生が最初に立ち上がった母親に呼びかけて、みんなやつたらうまくいくんじゃないですか。

宮本 結局、再就職のことを考える場合に、初めに勤めていた、たとえは教員の方は教員の場にかえられる、私たちの場合は自

分が一番事情のよくわかつてゐる。經理事務とか、内容もわかつてゐる会社に復帰できるというのとだと思ひます。収入のために先生が他のことをするというのでなしに、それを可能にするための運動とか盛り上げというのは、現在自分の職業が大切であつてね。もしかしたら離れなくちやならないという立場にある人、それからむしろ後輩の幸せのために現在の職場に再就職の道を開いておくという努力をすべきだと思ふ。それから職業というのは収入を得るための手段でなしに、結局収入がなくても社会的に貢献できるものを職業と呼ぶのでしたら、家庭を犠牲にしても一家庭の犠牲というのは個々の家庭で受け取り方が違ひますが、やつぱりできる方はなさるほうがいいのじやないかと思ひます。

は反対なんです。

町田（特オ） 婦人と職業という問題に対しては、大分核心にふれて来ましたが、再就職の問題とか、公務員の問題も大へんな問題だと思ひますけれども、人口の半分が女なのでたえずそういうことを社会的にも認識して世論をおこして実践していくことがとても大事なことにやないかと思ひます。子どもたちを育てあげても、家庭に余裕ができず、どうしても給料をいただかなければならない家庭もあるでしょうけれども、経済的な余裕ができた場合でも、何か社会奉仕という面で公的な仕事をもつことは女も社会に目を向けて、成長しますし、大へんいいことじやないかと思ひます。ただ、そういう場合いきなり出ていくといろんなギャップがあると思ひますので、うちねいらしてもたえず努力をして勉強していくことが大事じやないかと思ひます。

小槩
(特オブ)

生野（特オブ） 共かせぎの人が非常にふえてゐるわけですが、それは家庭か職業かという問題の前に、現在の賃金制度というものゝが、男子一人の賃金では生活していけないということにあると思ひます。物価高もありまして住宅費なんかの占める割合も非常に大きい。そして働く以上はいいかげんな仕事をすることは女の氣持としてできないと思ひます。それから先ほど先生が経営者の立場としては産休があるとか、生理休暇があるとか、男女同一賃金だから女は使にくいと言われたようですけれども、繊維の場合ですと、生理休暇は有給の所が多いが、産休は健康保険の六〇日補償がほとんどです。それ以上出している所は非常に少いのです。それから男子の場合は、残業とか出張なんかで、人一倍働らいて認められるが女子の場合はそう

分の立場を分類してもらう一度お考えいただいたら地方における婦人活動というのはすばらしいものになるという希望をもちました。この点を充分考えていただいてまたこの次の機会にいいお話を伺いたいと思います。

(休憩)

再開 一・三〇一五・〇〇

古谷(リーダー) 初めにオブザーバーの方で、主婦連合会の小柴さんの代わりに田中さんと子さんがおいでになつています。

それでは、今までのことでも、まだまだ話が足りないしはつきりした解決も出ていないわけですが、先に進める意味で、初めに家庭生活と消費、つまり消費攻勢にどういうふうにしていくか、消費生活の問題をとり上げていきたいと思ひます。早速湯浅さんが大分消費について御意見がありがたいので。

湯浅 私がつておりますことは生活協同組合の問題と、それから消費問題などを通じて消費者意識を高める、というようになことを皆さんの中にはいつて一しよに勉強してきました。このごろいろいろな商品が出てまいりましたし、生活様式も非常に洋風化してしまつて、都会生活の場合はテレビや乗用車が生活の中に入りこんで生活の変化が急激です。で、私たち主婦も買物をする場合いろいろ迷いがでています。よく注意しないと知らず知らずのうちに消費ブームの中にまきこまれてしまつていふふうになつています。そこで消費組合という買い手側の店を作つていくことが大事じゃないかと思ひます。企業が、売らんがための店をいろいろ作つておりますけれども、そういうのでなしに、自分たちがほんとうにほしいものをだして、それを購入していく共同の組織がだんだん必要になつてくるのではないかと思ひます。そういうつたことで、消費組合の問題は日常生活特に婦人の生活と密接につながつております。私たちの考えをそこにおいて生活しなければ改善できないことですので、今一

番身近なとても面白い問題だと思つております。

古谷(リーダー) 橋本さんも消費のことを所感文に……。

橋本 湯浅さんの、使うほうの側が主体性をもてというお話、まったく同感です。湯浅さんのほうは日常の食生活につながる割方身近な問題ですが、私たちのほうは電気製品、機械といったように形が大きくなるわけです。そういう製品も、私たちが、是非必要なものよりも、むしろ虚栄心などを満足させるためにいきなり買つたりしているのが、生産者側にふりまわされている消費者の姿ではないかという気がいたします。今まで主婦がつていたこと、たとえば洗濯なんかも機械がつてくれる、機械がやれることを今まで人間がつていたというふうにも考えられると思ひますが、そういう意味で機械を使いこなすのは人間であるのに、製作者がつつたものをいきなり家庭婦人がとびこんで買つという態度を少し考へてみたいと思つております。湯浅 消費生活協同組合の中の婦人部ではいわゆる家計実体調査をやりました、地域の方々がどれくらいの支出をしているか、それが妥当な線であるかどうかということ各自が家計簿を作つて提出して、それを全国的な組織がございまして、そこでまとめ、地域差を全国的に比較検討してみました。物価が上つたといつても池田さんの数字ではんとやられますと、主婦の意志が反映しませんが、こういう場合に実体はこうだとお役所の人たちに知つてもらふために資料作りを努力してやつたわけです。それによりますと、三十五年から三十八年にかけて二〇%くらい上つております。実際の生活のために使つていけるものが上がつていきます。池田さんのおつしやつた水準は七、八%くらいでをおさえられ私たちの調査とは違つております。そういうことを

数字の上ではつきり認識するということと二年間いたしました。それははつきり出ますので、皆さんにも認識を深めるためにせひしつていただきたいと思ひます。

古谷(リーダー) 訴えるためにはやはりリーダーとか資料とかが必要なのですね。

宮本 結局、今の池田さんの七、八%と日々生活しているおかしな方が集めた二〇%の差は、お役所仕事が遅いから、池田さんの手もとに資料が届くまでに半年なりなんなりかよつちやつて、ということなんですか。

湯浅 そうじゃないんです。日常使つていける。たとえば洗濯とかそういうものの値上がりかひどいのです。それと池田さんの出される数字では耐久消費財とかあんまり上がらないものはあります。そうするとずいぶん分差がついてきます。ですから実際に生活している場合には一年間にその実質はずいぶん分けてきているんです。

古谷(リーダー) 物価指数をとる場合に何と何といういくつかの商品があるわけです。それにはいろいろなものはいくら上がつても統計にはでてこない。だからよく、統計と主婦が肌で感じているのとは非常な違いがある。実際に数字でやつてもおそれくそれは違つてくるわけですが、お役所仕事とはいひけれど、あらゆる物価を入れることは統計上無理なので、そういう形で代表的というものをとつていけるんですが、そこからいれていけるものが多く、しかもそのなかで上つていけるものが非常に多いわけです。サービス料金なんかは物価指数の中にそう大きなバーセンテージを占めていない。だから床屋などのようにどんどん上がるようなものはすぐには統計にはでてこないということ

があるわけですが。

湯浅 パーマ料金も初め六百円になり八百円になり九百円になり現在では千円になつてゐる。それが一年半ぐらゐの間に上がりました。そういう実体を毎月持ち寄つて記録に残していつて、いざことがあつたら見せて話し合おうと。

古谷(リーダー) もう一つ、消費ブームで、農村にまた非常な消費ブームというものが起つてゐるわけでしょう、そういう問題……。

城 農村もマスコミにおどらされて余計なものをあれもほしいこれもほしいと都会のまねをして冷蔵庫、扇風機などを買つてゐます。そういうものを買いますので自然経済がやりにくくなる。お金がほしいので出かせぎに出でしまふという状況でございませう。それと野菜なんかのことですけれども、皆さんはほとんど消費者ですが、私たちは生産者のほうです。キャベツなどの野菜の値段は安定していませんので、たくさんとればずいぶん安くしても買つてくれない。それで一個五円もしないキャベツが店先をみると三十円、五十円、六十円という。あの差は、商人が手取りにされるのですけれども、そのあまり大きい差をなんとかならぬだろうかと思ふのですが。

古谷(リーダー) 流通機構の問題があるということがいわれているわけですが、結局生産者は事実上われわれが聞いてもほんとうに安いと思ふような値段で売つてゐる。ところが消費者のほうには高い値段で買ふという。それから、城さんに伺いたいのは、農具なんかもどんどんはいつてゐるわけでしょう。それがほんとうにプラスになつてゐるのか、もちろんいくらかはプラスになるわけですが、それ以上に支出が多い、要するにわ

れないからで、それがあります経済生活に影響してゐるという現状です。そこを直していかなければならないと思つてゐるわけですが。

植嶋 大分で私が回つてゐる地域でもそういう面がみられ、婦人学級でもそういう問題がとりあげられておりますがなかなか結論が出ません。お母さん方も経済の勉強もするので子供たちを引きとめる策としてそれ以外にない、借金をしながらオートバイを買ひ、馬車で荷運びをしておつたのをトラクタを買つて馬を売りました。それが今度は「テラー」に代つた。それも自分の家の近くまで無理をしなれば入らないような状況でも買つてゐる。そういうしなければ長男がうちに居つかない、お嫁にきてもないというのが悩みになつております。

猪野 結局こういうことは個人の力では解決できないから、組織の力で改善するように盛り上げてゆかなければいつまでたつても悪循環をくり返すのではないかと、いろいろが地方大会の場でございまして。経済的要求にのみばわれるということではなく、家庭の一人々々の主婦が各自の消費生活を見つめ、検討して目標を立て計画的な生活を習慣化させるように組織の力でやつてゆこうという結論に達しました。(笑)

宮本 組織の力を、ということですが組織という言葉には実に幻惑されます。組織力を持たない小企業の従業員に代つて……といふのではないのですが、先ほど農家の方が耕耘機やなんかのことをいひおつしやいましたが、小企業大企業でも経営者が生産のためにそういうことを考えるように、家庭経済というものがある様子が、奥さんが消費することになり立つてゐる以上に、主婦が本當に個々の経済生活がなり立つてゆくので、

りに合わない、まわりの競争とか何とか……というところですか。

城 一台の耕耘機をたくさんの方が利用できるのですが、少ししか田んぼをもつていないものでも一台買いたいという虚栄心がありますし、その耕耘機が長く利用できるのならばいいけれども、田をたがやすのに一週間くらい使用して納屋の中にほうりこんでおくという不経済なことをやつておりますので、村のほうでも改善事業を、いろいろな方法で呼びかけていたけれども、農家の封建的な性質と、土地への執着心が深いので上からいつてもなかなか応じない。それをどうしてみんなにわかたつていただけるかということが大きな問題です。

古谷(リーダー) 農村だけの問題でなく都会地にもあると思ひますが。

猪野 奥は城さんのおつしやるような調査を一月に実施したばかりです。三百世帯を対象にしましたら、テレビの普及率が平均九四%、オートバイが六六%、耕耘機が七〇%、冷蔵庫とか炊飯器が一二・三%とびてきてゐる。ところがそういう家庭の台所をのぞくとほとんど井戸水を汲んできて洗つてまたこつちのほうへいつて切つたりという、昔ながらの生活をしてゐる。それで文化生活だと考えてゐるということを実際調査して気づいたのです。なぜそういうものをそまえるかというところ、農村に線が来てが、線にきてもらいたくない、あるいは長男にうちに残つてもらいたくない、だからオートバイほしいといへば、経営状態も何も考えずに買つて与えるという、ほんとうに農村の文化生活はアンバランスです。そういうことから離村するものが出たり、農村に魅力がなくなるのもほんとうに改善がなされて

そういうものを組織の力でということとはむずかしいと思ひます。

鈴木 消費の問題で私も昨年の暮ごろ、県の連合婦人会で「かしい消費者となるには」というパネルディスカッションをやりました。私は組織の受け持ちでしたが組織電気製品その他の五つの部門にわかれて各々業者に出でいただきましたが、組織には市人からデザイナーがいらして繊維品のお話があつたが、「いろいろと変つたものがあつていけない、つい、いいものが出ると買つてしまふ」と言つたら「それがわれわれの手ですよ、私はデザイナーですから毎年新しいものをつくつて消費者をまき込むのが私どもの仕事です。ですから皆さんはまき込まなければいけません」とおつしやつた、ですから私も業者にあやつられてゐると考えられる。そうすると集団の力も必要だとは思ひますが、それよりも自分の必要性を考えて買ふことが大切で、隣りが買つたからうちでも買ふというのでははつきりと思ひます。農村では山の水を切つて人夫を雇つて運ばせてあるのにそれをくさらせてプロパンガスを使つてゐる。私は自主性、計画性が必要だと思ひます。

古谷(リーダー) もう一つの点だけを指摘したいんですが、皆さんのおつしやることはもちろんたしかです。猪野さんは組織の力やなんかに頼らないものを買ふということですが、鈴木さんのおつしやつた自主性も結構ですが、新しい物を買ふなという形になつてしまつては後向きになると思ひます。恒久消費財の普及率の高いのが洗濯機です。アメリカの例をみますと電気洗濯機の普及率は非常に低い、順序は忘れましたがほかの電機器具の中で最も低い。それならアメリカの主婦たちが手で洗濯してゐるかといへば、そうではない、共同のすくい洗濯機が

あつて洗濯場があり、そこへ持つてゆけば乾燥まで十五分か三十分ですつかりかわいたものを持つて帰れる、だからそういう方向にもつていつたらいいのではないでしょうか、それぞれ一軒のうちに洗濯機をもつていても一日のうちで使うのは十五分か三十分くらい。先ほど城さんのおつしやつた電気器具の場合も全部で使えば一軒の負担は少なくてすむのではないかと思います。ただ消費メーカーの攻勢にやられていくというのではない、そういう前向きな姿勢でやつてゆく方法はないものでしょうか、いかがでしょうか。

宮本 私どもの建設機械はブルドーザー一台で何百万円もする、そういうものに対して業者同志の話し合いでリース方式というか、機械のメーカーばかりでなく、機械をもつていて貸す協会が発してきてくれるらしい、しかしそれがまだ普及してないので仕方なく各企業で自分で買ひが、一年間のうち三百万円の機械を使う工事はそんなにたくさんない、だから「おかし」という無駄なことのために破産することも考えられる。だから農家の設備投資にしても、それから主婦なり家庭なりが一率にそういうものを買わなくてすむように、今の組織の力がどの程度かわからないが公民館なんか洗濯機を五、六台揃えておけばいいのではないかと。そういうふうなことを組織の力というのでしょうか。

湯野 考え方を研究するための組織、正しい消費者の理解、身につけるための組織の力です。

試 農村の人は自分で理解してやるという力がないので、組織でみんなが話し合つて研究してゆくほうがやりやすいのではないかと考えられます。たとえば私のところも農業の構造改善で耕地

ものを出す場所から組織化されてゆけばいいと思います。

川合 新製品の販売宣伝が婦人会にくると婦人は案外珍らしいもの好きですから手を出す、そのために商人たちはものを売るには婦人会を頼めばいいという声があるくらいですが、そのあと使ひ方を研究しようという会合がない、買ひからにはそれを生かす意欲があつたらしい、それがなかつたらほんとに利用されてしまいます。

古谷(リーダー) 鈴木さんが会をやつたらデザイナーがきて宣伝をしたということですが、それではせつかく婦人会でそういうものをやろうと思つても売り込みに利用されたら逆な効果になつてしまいます。

川合 マヨネーズを作る機械ですが、二、三回使つたら中が駄目になつた、それをどとへいつて直したらいいかわからない、その責任は全然とつていないんですね。つくつて見せられた時はとてもよくできたのでみんな買つたのですが、つくつていたら駄目になつてしまつた。宣伝に迷わされて買ひのがほとんどなんです。

湯水 電化製品でもほかの品物でも家庭の必要に応じて買ひという母親の自覚が必要ですね。話し合いなどでこういうものがあるつたから今度は考えましようとか、たとえば私どものところでは娘をお嫁いりさせるのに五十万はいるという、どんな生活をしていても電化製品を持つてゆかせなければならぬというのです。持つていかないとはいふから持たしてやるというが、持つていつた先で利用しきれない、だから電化製品なんか必要に応じて買ひよう母親の知恵と工夫によつて解決する本ことが必要でしょう。例から電化製品が必要だというのなら

整理することになった。だんだん畑で一反の田に十枚二十枚の小さい田があつて、これでけどうりにもならぬというので、県から助成していただいて、上の方も一生けん命骨折つて幾晩も寄りましたが、たちまち金が必要なのに無駄なことだ、県がみんな助成してくれるのならいいが半額では生活できないというので結局はまともなすいまだにこまかい田で秋や五月がくると不自由だ不自由だといひながら解決できないでいる。だからとりあえずは成人教育というの現在の農業といふことをわかつてもらえるように指導していただくということからやらねば、スムーズにゆかないように思います。

宮本 もう一回、どういう方法が組織化か、ということですが、その突つ込み方というのは、私は婦人会の会費ではないのです。が婦人会に呼びかけて廃品の回収を提唱しました。たとえばミキサーが壊しいという方、ミキサーは早く買つていた家庭は放つたらしくしてジュースがほしいといつていますが、そういうものを持ち寄つて婦人会あたりで即売会をやつたらいいと言つたのですが、そういう声が出てこないしやろつとしない、これは組織化をはばむ何かがあるのだと思います。

湯浅 組織化のお話が出ましたが日本より進んだアメリカですら、消費者は最も大きな層なのに組織をもたないケネディーが言つたそうですが、家庭の主婦なんかは組織化するといつた場合にそれが本当の組織にはなつてゆかないと思います。結局通産省かどこかで消費者グループをこしらへるという話が出ていますが、本当の消費者といふものを考えた場合に問題があると思ひます。私は婦人たちの声を一番反映する方法で、一人一人が意見をだし合つてその人たちの意識をもつた発言というか声という

いいが、私どもの近所では保護家庭が多いのですがその家庭にテレビや電気洗濯機が入つていて。私どもは主人が会社におつたら二万円くらいの手取りがあるのですが、保護世帯では四人家族で一万八千円から一万九千円の保護費が出る、そのすると保護を受けている家庭が先に電気製品を買ひ、子供らでさえあそこにもあるのにといふのでつい無理をしてしまつたので、働いていてる家庭では電気製品を買はず保護を受けている家庭で買ひといふのに「正直者がばかを見る」といふ感じがします。電気製品でも必要のないものは買ひないよう私たちがつと研究してゆかなければならぬと思います。

中村 組織のお話があり、見栄の話も出ましたが今の世の中では目の前に電気製品がずらりと並んでいてある程度ブームに乗つてゆかなければならぬ、前向きな心がまえで考えてみまして反省するわけですが、一応電気製品を揃へすしても實際に一番使つてゐるのはテレビだけです。電気洗濯機もあまり使ひませんが、冷蔵庫なんかも満員にやつてゐること少ないんですが、買つたからにはどういふふうになつてゐるか考えなければならぬ、そういうことで先ほどの自主性も必要だし私どもが生活する上での生活態度も大切です。特死なんかがありますと、かにも計画をしないで安いのがあるから行つてみましようといふことで近所のお母さんたちは必要のないもので安いののせられて買つてきてしまひますが、そういうことで自分の心がまえがしつかりしてゐないからだと思います。

古谷(リーダー) 子供の保育所のお話、再就職の問題なんかはどうにもならぬ制度の問題とか妙な壁にぶつかつて、婦人単位

の力ではどうにもならんようですが、この問題だけはご婦人たちの力で、学習と研究というものでどうにかなつてゆく問題ではないか、政治が悪い国が悪いというのをいわないでもすむ問題ではないかと思ひます。その中にはメーカー攻勢などの問題もありますが、婦人たちの力で対抗できるのではないかと思います。そういうことで具体的にどうやっていったらいいかということですが――

橋本 前に私団地に住んでおりましたが、そこでもやはり電気製品ブームが起りました。その時に若いお母さんでしつかりした方でしたが、そこは冷蔵庫も買えば買えるのですが、自分の生活に充てて生活してプロパンガスもないし冷蔵庫もない、ところが子供さんがバイオリンをやっているからステレオがほしいということ、大体家庭の電化には、プロパンガス、電気、掃除機、扇風機、冷蔵庫、テレビというふうな順序があるのですが、そこは私どもの買えないステレオがきた、電気製品でも自分の都合のいいものから買ひになる。そういう生活態度は自主性がある、一軒一軒の特殊性を生かした使い方だと感心しております。

植嶋 組織の力という声が出ておりますが私のお世話している婦人会は、いなかの意識の低い、網羅的な婦人会で、隣の奥さんが入っているから私も入るといふふうなもので幅ばかり広くなつてしまふ、だから組織をかえるような意識をもつた人たちを育てるよう別グループでそういうことを研究しております。たとえば蒸し器とか、蒸し焼きをするコンロみたいなものを業者が持つてくると二、三度講習してもらつて先に約束し、同時に料理を十二、三品教えてもらつて、向うは金を売

んでおりますものはお町内というもののなんにもつながらない。都会でそういうた許可制というふうなことをやつていらつしやる方があれば教えていただきたいと思ひます。

湯浅 生活協同組合は婦人部がそういう窓口になつています、組合員は誰でもそこであらう商品がこれでもいいのかときけば答えてもらえます。

湯水 組合員でないものは？

湯浅 百円出すと誰でも組合員になれます、組合に入つたら生協のお店で買った場合購買額に対して割引がきます。スーパーみたいな安売りはしないが市価より少し安い程度で販売しますし、商品については、婦人部に仕入れ協議会があつて意見を反映させて仕入れていきますから悪いものはつき返せるし、こんなものを買つて下さいという希望も消費者側から出せるわけです。

古谷（リーダー） そういうことができればいいですね。どこの地域にも――ということはずかしいでしょうが――

湯浅 今度消費モニターの制度がおかれて各市町村にも生活協議会みたいなものができまして、窓口が一応つくられると思ひます。

橋本 一つの本をPRするみたいで悪いのですが、「暮らしの手帳」で商品テストを発表している、私は売り出されたらすぐに買わないで暮らしの手帳でとりあげたら買おうと思つておりますが、あんなに雑誌みたいなものがある程度知識が得られますね。

辻 消費者が要求するし、そして買えるような商品をつくることですね。かびの生えた「きょうざ」を売つたりすることがない

るためでしょうが、それをつちが利用したわけですね。

城 私のところも二、三年ほど前に婦人会の組織を利用してクリーニングの講習というところで、ホワイト糊をつけた蛍光洗剤をまよめて買えば安くなるというので一人七百円も八百円もするものをみんなが買ったが、あとで批判を受けてしまいました。その後はいろんな物売りがきましても絶対会長の許可をしないと買つてはいかんということをしておりますので、商人が会長の許可を得ようと思つて一生けんめいサビビしますが、こちらも商人に一生けんめい対抗しております。

古谷（リーダー） 植嶋さんや城さんのようなところでは商人はなんにも売れなくなりましたね。

大河原 そうかといつてなんにも買わないというのでは進歩がない、私は下の子が十才ですが電気機関車がほしいのですね、でも私は買ひなさいとは言わない、八千円するのですが買おうと思えば買えるのですが、迷つているところです。子供には百べん考えなさいといつています。娘は東京へ出ているのでほしいものがたくさんある、小ずかいをとつていきますから十分買えるのですが、嫁に行つた時のベースを考へて何回も考へてから買ひなさいといつております。それととにかく家庭ぐるみの趣味をもつては宣伝におどらされるのが少ないのではないでしょう、私のところは旅行を趣味にして一年に一回の大旅行のために貯蓄をするようにしています。

古谷（リーダー） 目的をつくつてやることでですね。

大河原 園芸をやることもいいですね。

辻 今三重県の方、大分県の方のお話を聞きました。が会長さんの許可制でやるということは大変結構ですが、私ども都会に住ん

ように、海苔まきの海苔を買いに行つたら一べんに百円も値上りしている、今まで百五十円だったものを二百五十円出して買つてきた、しつこくきくとうるさがるのでしつこくしなすにです。

古谷（リーダー） 主婦の研究や学習は一人一人がやつても限度があります。暮らしの手帳もその全部が網羅されてはいないし、結局生活協同組合みたいなものがあればいいですね。なんらかの形で組織して主婦の立場を防御することが必要ですから……。

中村 生活協同組合というのはいいと思ひますが私どもの地域ではそういうことをおききしたことがない。私どもは団地です。でグループの中に誰か一人ずつくらゐ靴下製造とかインスタントラーマンなんかを売っている人と親戚だとか親しいといううな人がいる。そういう人を通して二割引まで売つていただくというふうなことをグループでやつております。それからグループで市内に出ていってどこが一番安いかわかることを調べ、そこへ行つて油なら缶で買つてきてみんなで分けるというふうなことをやつております。

橋本 消費ブームの影響ということについて、もう一つは共かせぎの経済の問題に関連して低賃金ということがあると思ひますが、それらの問題にふれていただきたいと思います。きのう農村の方から問題にしてほしいといわれていた農村地帯からの人口の流出、青森県は出稼せぎの供給源として、農村地帯をかかえて深刻な問題となつていきますので、私どもの力ではどうにもならないと思ひますが認識を改める意味でも問題にしたいだけだと思ひます。

古谷（リーダー） 消費生活の面では結論が出たように思ひます。

主婦の研究ともう一つは組織で手をつけられるところからやつてゆける面があるのではないか、生活協同組合がないところは中村さんの言われたやり方もあるし、そういうようにして消費ブームに抵抗しながら、買わないということでもなく前向きにやつてゆくということ、今お話があつた方向に話を続けてゆくと低賃金の問題になりますが、これは共かせぎの大きな原因で、なかなか大きな問題です。農村の問題を少しやつてみましょう、離村の問題、きのうの城さんからの提案ですが――

城 きのうも話しましたように農村ではだんだんと農業を離れて都市に流れてゆく傾向がふえて、長男もあとをついでくれず、みんなが進学とか工場に出ていつて私どもの村も一万以上の人口が五年の間に九千人を減るほど人口が減つてきました。それをどのようにして食い止めるといふことを皆さんに考えていただきたいと思ひます。

猪野 私農村を担当しておりまして余り度ごとに一千人減つた、今年は二千八減つたといわれます。どうしたらいいのかしらと思ひますが、これも組織の力で生活改善を大きく呼びかけてゆかなければならぬと思ひます。農村の生活には全然興がない、一生懸命働かなければならぬのであつて情熱豊かな気持ちを持てないのかもしれないが、しかし食卓に並べられたものにすら美が感じられない。そういうことを改善してゆかなければやはり農村を嫌う、計画的に生活を合理化しても根本的に考へ方を改善しない限り離村は食いとめられないのではないか。そのためには今までの組織活動でなく新しい方向の組織活動が必要ではないか、これはほとんど分野になります、いつも考えさせられるのは地域によりリーダーをもつて、そのもとに

町のよりな建て方で昔風のところがなくなつてしまつて淋しいと思ひますが、そうしなければ町に若い人が行つてしまふ、家庭の中の雰囲気から変えてゆかなかつたら残る方がないんじゃないでしょうか。

古谷(リーダー) ここに統計がある、専業農家と兼業農家の数ですが三十年から三十五年までは専業農家が三十四、五パーセント、兼業農家が六十五、六パーセントです。三十年から三十五年の間はそう変つていないが三十五年からは急激に兼業農家のパーセンテージが多くなつております。しかも農業を主とした兼業の農家の数より兼業を主とした農家がどんどんふえてゐる。つまり純農家よりほかの職業を主とする傾向になつてゐます。どうでしょう城さん、兼業をするといふことがいくらか農業だけにしづられていないといふことがあるのでしょうか。

鈴木 それは農家に金がないといふことです。農業をしても一ヘクタールの田を耕やすのには最低三人はいる、そしてその上に農機具を使わなければやつてゆけない、三人が泥をきみれて一年間働いて一ヘクタールからどのくらいの収入があるかといえれば、米八歳として一歳五千円です。それから四万円、それは兼業収入です。純益はその二分の一、たつた二十万のために三人が一年間泥をきみれて働く、月に一万ちよつとの生活しかできないから、電気洗濯機はおろか電気料も払えない、そうするとどうして一人は外へ出て働かなければならぬことになるのです。川口 私ども付近では今度新産業都市の指定を受けて国道筋はどんな家が建つ。すると農家の土地が高く売れて農家は食ふだけをつくつて主人や子供が働きに出てお金をもちてくる

よいアドバイザーを得てみんなの力で進めてゆくことです。一県がよくなつてもだめですから皆さんの力で直してゆかなければならぬのではないかと思います。私がもつてゐる青年学級の生徒は十八のうち九人までは農村に残りたくない、工場の近くで二畳でも三畳でもいい鍋、釜一つずつでもいいから二人だけで暮したい、お姑さんのいるところではいやだといひます。農業国である日本がつぶれるのではないかと不安を感じております。それが解決しようにもしようがないのですね――

城 大変深刻な問題だが、解決のしようがない。私の年にやつて考えてもやはり農村より都市のほうがいゝと思ひます。若い方は無理なないと思ひます。私の近くでもお嫁さんが洗濯機をもつてこられても、お姑さんが「電気代がかかるから手で洗濯すればいい」、親からもらつた手で洗濯すれば減らないし、電気代もかゝらない」といふ。封建的なお姑さんといふお嫁さんの人間関係、そういう問題を解決する成人教育から始めてゆかなければだんだん若い方が農村から離れてゆくと思ひます。

古谷(リーダー) 離村は大きな問題ですが、ただそれを農業が大事だから残つてゐるといつても解決にならずやはり残れるようにしなければならぬところに問題があると思ひます。それだけでなく今おつしやつた家庭問題もすい分大きい、十人のうち九人までお姑さんと一緒にいたくないといふのは農業自体がいやといふことではない家庭問題なら解決の方法があるのではないかと思ひますが――

川合 私は生まれも農家ですし兄弟もみんな百姓をしておりますので町に住んでいても百姓に戻りたいと思ひます、私の奥家でうちを建てました。本当の百姓なんです。うちの設計は全然

といつた兼業農家がふえてゐる、土地が売れて現金収入があるから消費ブームをおおつてゐるといふことがあります。

城 農家にもう少し現金収入があればお米だけでもう少したくさん収入があれば兼業しないですむわけです。先生なんかの職業についておられれば月給を一年に四十万も五十万も貰う、それなのに、農家では三人も四人もかかつて四十万と収入がないので自然になか働きに出なければならぬ、もう少しお米さんの値段を上げていただいたいと思ひます。一歳七千円くらいだつたら今の消費水準と合うのではないかと思ひます。

古谷(リーダー) それをどういふ消費者ばかりのところではないか。追いかけてこつてですね。お米が上ればまた月給も上げてほしいといふことです。

藤引 工業方面には融資してゐるのだから、政府はもつと農村を大事にして援助しなければならぬ。そうでなければ農家はつぶれてしまいます。

脇水 お米だけの生産に頼らずお米は一年中かかるものではないのですから多角経営をされたら――

城 そのために出かせぎに行つたり、共かせぎをしたり。脇水 お米は夏の間の労働だから冬の間に別のものをすれば、今頃は四季の感覚がいろいろにいろいろの野菜が出回つていますから――

鈴木 それを今の農家は考えています。それでレタスとかなんとかやつておりますが豊作貧乏、増産をすれば安くなる、そのために二東三文で肥料代にもならない、そうすると農家はどうかといふことです。

脇水 これはむずかしい問題ですね。今年はお野菜が安かつたです、それで今度は一本の大根もなかつたりする。

今岡 野菜をつくつて出されるような都市周辺の農村ならまだいい、それから工場が近くにあって食べるだけつくつて、家族のうち一人か二人工場へ回されるようなところはいいのですが、私のほうは工場誘致をしても工場もこないし野菜も山ばかりで町がないからそうたくさんつくれない、少しでも家がみつたりなんかすると生活保護も受けられないので、みんな売つてしまつて生活保護を受けますかというよりなことが部落長をしている人の口から出る始末です。

古谷（リーダー） 農業振興法ができていますので相当政府としては考えているのでしようが、工業やなんかの方面には相当な助成金が出るがどうも農村には十分出ていないようで、消費者からいえば生産者米価は相当なものだという声もあるかもしれないが、今お聞きしていることややはり農業は遅れている。近代化されていない、どうしてかというやはり金がないのが原因でしよう。相当な資本を投下すれば相当近代化して採算の合うものになつてゆく可能性はある。それには政府の助力をまたなければならぬ。今「どろんこ」になつて働いているとおつしやつたが、そのためについやされる労働力があまりに大き過ぎるということが問題ですね。それとも一つは国を工業化してゆくとすることが国を富ませるということだし、そのほうが国全体としては得なことになるので、どうしても農村があと回しになります。池田さんは農村切捨論だといわれてあわて、農業振興法なんか出したきらいはありますが、全体を富ませるためにはやはり工業のほうに力を入れたほうが手つとり早いという

ことで農業のほうにし寄せがきていいると思ひます。そこで農業を見捨てることはできないし、社会問題ですが、たゞ農村としては駄目だと止めることだけ考えないで、もう一回り大きく考えればそれで工業が振興されるのである程度国が近代化するためのやむを得ない点かと思ひます、そのために農村がすつかり犠牲にされることはやり切れませんが、といつて若い労働力を生産性の上らないところに引きつけておくのはよしあしを別にしてもちよつと無理なところが出てくる。だから農村を最も近代化して手がはぶけるような形にもつてゆく。主婦農家とかいわれているがうんと近代化すれば主婦が片手間にやつてゆけるようになる。今のまゝの形で農村に若い男手をあくまで押えつけておこつというやり方でなくもう少し遠つた考え方でやるべきでないんじゃないか、それを考えないと非観論ばかりになるし、金を補助してくれというのでは底なしのところに金を注ぎ込むよりなことになる、農業振興法はどの程度効果のあるものかわからないが、この辺で思い切つて農業に資本を投下して農業の形を思い切つて変えて人手が少なくてすむようにする、それには小さい土地をみんなが少しづつ持つて細分化していることに問題があつて、農業は一つの大きな革命期にきていいるし、その革命のために損にならないように一諸に順のきり換えが必要なのだが城さんたちよりも一世代古い人にはわからない、その辺に一種の啓蒙運動の必要性があるのではないか、方向としてはそう考えるほかないんじゃないかと思ひます。

脇水 それについてですが四国の南洋は段畑が多いので有名なところですが段畑だけしか持つていないお百姓さんはみじめでした、それがこの三、四年に切り換へました。それなら少々

古谷（リーダー） 農業の経営というのは相当な資本を投下して

経営を合理化し、共同化してゆくことが必要なんです。

大河原 日本中の農村をそういうふうにもつてゆけるようにと思ひます。

城、そうなるまでが大変です。なつてしまえばいいが。

大河原 そうなれば農村の方がいい、鶴見事故の時など子供たちは大丈夫かとかよく心配したのですが勤めに出来るにも東京神奈川あたり命がけです。それがないだけでいい、貧乏のもので生計に從事して羨しいと思ひます。悲観論ばかりではない。

今岡 去年の十二月にPTAで発表するため中学校で家族構成の調査をしました。農村は直系家族が多いというふうに話をもつていこうと考へておりましたが、データをとってみると直系家族が少なくなつてゐる。田畑をわけてもらつて、離ればなれで暮らしているところが多かつた。私どもの村で共同生活をしようというので十軒が家も田も売り払つてその金を集め、それに農協が何百万か出して山を開いて養蚕と豚の経営をやつたのです。ところが人間関係が非常に複雑で、一年の間はやつたがなれない仕事のために病人が出たりなんかして、もうあとにも先にもならないような状態になつたらしい、私も印地に住んで両方考へてみましたがやはり農村のほうに人間関係はむずかしいのではありませんかと思ひます。婦人の場合でしたら榮養士とか農業指導員をリーダーにした会合があるから割合いいと思ひますが、男のほうは「隣りに蔵が建つて腹がたつ」という話があります、男のほうとけ合ひないものがある。男の人は女よりはるか遅れていいるように思ひます。女同志は仲よくやつていても男の方は何かばねとところがあるように思ひます。

古谷（リーダー） ですから農村の場合に、家はできるだけ分け

て土地はできるだけ集約化して共同化するというふうなことで今の今頃さんのお話では家の分化はかなり進んでいるというところでしたがそれはほんのりしているのは、やはり家を別々にしては農業経営上非常にやりにくいといふことがあるのですか？

城 長男であればうちのあとを立てなければならぬという気持ちがありますので。

古谷（リーダー） そうすると農村の中自体にも問題があるのですね。

城 私のところはおじいちゃんや主人と長男がいる、おじいちゃんには六十五才、孫は中学三年ですが、縦が横でも農業のあとを立てさせようとする、主人は時代の波だから出ると言えども一たん出させて後で帰ってきたらいいというふうに、年令に応じて考えに開きがあります。

古谷（リーダー） 一応外へ出て働いてきて農業に再就職すると使われるようになりますか？

城 それはできないわけですが、長男であれば家のあとを立ててもらいたいという老人の観念が強いので……。なんとかして離したくないが若いものは離れたい。

中村 私どもは婦人学級とか、全国婦人会議というふうな話し合いの機会があらゆるところにあります、男の方はこれが少ないので男同志がもの考え方を変えてゆかなければならぬのではないのでしょうか。

宮本 男は集まれば飲みやいますからね。

蒲引 今のことはとても大事だと思います。青森県はいつも後進県だといわれ、「尊属殺し」といつて息子が父親を殺したりあるいは父親が息子を殺したりする事件が年間四、五件は報道さ

後完全に逆転しましたので、しかし農村の女の人も都会地で逆転したくらい力があるのですからできないことはないではないでしょうか。

城 それは農村の婦人はもう少し強くなればいけないといふことでしょうね。

古谷（リーダー） そうですね、都会地ばかりに靴下をはかせておくことはない。

植松 農業もしていないのに恐縮ですが、さつきからお話の出ていた家族関係、農村にお嫁さんのきてがなの家は小さいところで大ぜい入っているからでそんな姿ではないといふこととから本当に僅かの金を集めた無尽で、ちよつとした小さを

「かけ出し」でもお部屋をつくつて、独立したお部屋をつくつたらどうか、そのように少しずつ改善してゆきましようといふことから進めているのですが、それにもお父さんのお叱りがある。

蒲引 農家の主婦がもつと強くなればならぬといふことが出ましたが、都会の女性が強くなつてきているといふことです。でもつと農村の女性と交流すればいいのではないか、団地マダムとかそういう方が農村のお母さんたちを助けるような動きがあつたらすばらしいのではないかと思います。

宮本 それは行つて助言するといふのですかその方々に。

蒲引 具体的な動きとしてどういふふうにするかといふことですか？

宮本 それはアイデアとしてはいいかもしれないが農村の男の方と女の方の交流が必要ではないでしょうか。農村でやはり会合がもたれていると思えますがその会合と都市でもたれる会合の、

れます。これは親子関係がうまくいっていないといふことである。とくに津軽の人は雪で半年間は閉じ込められて無口でほかの人とあまり話し合ふことがない、それが青森県の悲劇だと思えますが、やはり男の人の人間関係がよくなるよう話を合の場がほしい気がします。

中村 グループで出かけてゆくと私たち主人に悪いという気がします。男の人は出かけるところがなくて気の毒な気がします。

古谷（リーダー） いや一向困つていませんよ。

鈴木 私どもの委員会では、女は大変いい、修養の場も多いが男性にはそういう場がないから、婦人会の婦人夫に換えたいといふ話が出ましたところ、男はもう成人した一家の長で、家中の人を立派に食べさせている、だからこれ以上教育の必要はないといわれたのですがいかがでしょうか。

古谷（リーダー） 農村の家族関係の「がん」は姑だといわれていました、家族関係の「がん」は男の人になりましたか。

猪野 男の人がそういう考えだからいくら女が勉強しても改善されない。

古谷（リーダー） それは一番農村が遅れていますね。都会地ではほとんどもう「笑」僕らは月給袋を渡してお小遣をもらつているんですが。

猪野 五反歩の田にしても女同士共同化を言っているのですが、男は五反歩の田にいくをいれて自分の土地は自分の土地だといふ、せつかく農林省からいただいたトラクターが雨ざらしになつていて、くいが入つているので動かさないのです。そのように農村は男の人の方が古い、東北の場合は特にです。

古谷（リーダー） そういう点はあると思えますね。都会地は戦

やり方とは会の持ち方が違つてはいないか、多分時間は守られない、お酒を飲んでなにを話し合つたかわからないような会合で、私ども中小企業の場合と同じではないかと思えます。中小企業には福利施設もないとえば社宅なんかないから人も来ない、農家は設備が悪いから人がこないといふのでね。それにしても一つの事業ならバランスシートをつくつて税務署からもさされないように複式帳簿をつくらなければならぬ、遅ればせながら経営の合理化もいわれているが農業の場合でも経営の合理化を考えて、どんな様子が社長なら奥さんは副社長ですから、一軒々々の農家の中の話し合いがほしいと思います。

蒲引 たとえば農村では農繁期になると子供の水死事故がずい分多い。これはできる農村でできない農村とあるが、近い町のお母さんが季節的に保育所をつくつて保育時間を受け持つてあげるといふふうなことがあればいいと思います。団地と都会の交流にもなるし。

宮本 都会に住んでいるものはいないが、うちの子供は四なか親戚がないのかお母さん」ときくのですが僕を知らないうちがいて、もしお役に立てば婦人会を通して農村との交流ができれば私も会社を休んでもお手伝いにゆきたいと思ひます、夜はお話し合ひもできると。

川合 私どもの総会で、組合組織を通じて男の方の理解がなければできないといふことが出ました。一時から始まるのに三時半頃十人くらい集まつて会長さんが「これから総会をやります」と言つてちよつとことやつたら、飲み出した、「主婦を使つていふことは私たちが重荷なんだから組合を通じて奥さんを出してほしい」と言いましたところ、全然とり上げない、組合は飲

む会合でまとめた話を聞いてこない、幾時もしようしー
ー、男の方も私どもの立場を理解してほしいですね。

古谷（リーダー） 農村と都会の交流があるといい、目下農村で女の人のやれること、それは意識を変革することでこれは都会ではかなり行っている、農村では女は男に隷属しているということが身にしみていて理屈ではわかつていてもそれが反社会的に出てこない、男が財布をもっていることで、ひよつと男に命令されれば腰が上つてしまふ、意識を変えろということはずっと態度から変えて行つてほしいことをいえばストライキをするくらいの覚悟で男が理不尽なことをいえば、女一人では駄目だから婦人会あたりから応援してやるということもあるし、都会であげた婦人の成果を学ぶということも結構と思います。しかしそれは農村の婦人の力でやらなければならぬ。環境やなんかの不利な条件はあるがそれはやつてやれないことはあんじやないかと思ひます。都会地では女権拡張どころか男権回復をいいたいと思ひますが農村ではまだまだ因襲的なことが残つていて、婦人会なんかも生活改善というか少し分けるようなことをやつていながらも根本的な女の権利、生活の上での女の発言権というものを認めさせるような行動を、婦人会やいろんな話し合いの場でやつてゆく必要があるのではないかと思ひます。思の会合がないとわつしやつたが男は団結していない、奥さん方、女房たちが団結してきたらそれに対抗できる強さはなんにもない、一度団結してかかつてきたら、都会地のように一たまりもなく倒されるから農村でも一度やつてみたら、一べんにくずされるのではないでしょうが、

斎野 私のはりでは公民館長さんを中心にして、女の人がただが

す。私どものわからないものがあるんですね。

今岡 私にはよそから入つてこの家のものになつたのでそれほど土地や山には執着がありませんが、やはり男の人にしてみたら祖先伝来のものがあるからそれをたやすくつぶされては困るという気持ちもわかりますが、それをみんなで使えるようにした場合の便利さということも考えてほしいですね。それで五日も六日もかかつて話し合いがつかない、そういう面が、今私のうちを敢てあげましたがよそもそうじやないかと思ひます。

脇水 ちよつと聞いたことですが愛媛県では農道や作土の関係で、お母さん方が寄り合いの折に話し合いをされて、男のほうに土地に対する執着が強いからなんとかしようというので、農閑期を利用して父親参観を行つた、お酒なしにこんな集まつたことはないというくらいほとんど集まつた、学校で参観されて一応子供の勉強をみた。中にはものわかつたお父さんもあつたので奥さんから話をされた、その話を集まつたお父さんたちに話したところ、農道はむずかしい、できないというふうに反対していた人もスムーズに了解し農道ができた、それからお父さんが子供の教育に対して関心をもちたれるようになつて一挙兩得となつた。お父さんをお酒なしの集りに引張り出したらうまくゆくのではないかといいことに聞きました。実行されたらいかがでしょう。

植鷗 奥さんが先回りしてはいかんというので公民大学の中に夫婦学級をつくってもらいましたところ、男性は若い方が少なくおじいさんが多い、それで初期の目的に反して老人学級になつてしまいましたが、女の方は若い方が、意欲的に出ていらつしやるのですが、男の方は「しらべ」のおじいさんばかりです。からそれでは村づくり、町づくりができない、理解してい

やがやさいでも仕方がないので少し女性が本質的に向上するにはどうすればいいかを各地のリーダーと話し合いをいたしました。その時に公民館長さんの話に今までの農村の婦人はサシスセソの生活をしていたがこれをカキケコに昇せたいといふことができました。これは「サ」は裁縫のサ、「シ」はしんぼのシ、「ス」は炊事のス、「セ」は洗濯のセ、「ソ」は掃除のソで、カキケコは「カ」は観察、「キ」は記録、「ク」は工夫、「ケ」は研究、「コ」は行動に移すというふうになつたのですが、婦人が向上してゆけば財布を握つていゝ男性から脱出できるのではないかといいことが最近ありましたのでご紹介いたします。

今岡 そうばかりとは思ひませんが、今のお父さんは子供の教育にも熱心ですし、娯楽も住居の思いやりもあるのではないかと思ひます。男の方が遅れているという面は、家庭内の話し合いがされて家庭を大事にするという気風はあつても、一歩進めて社会的に尽くすという点が欠けていることではないか、自分の土地に対する執着とかいゝんなものからたとえは私の家の前に農道をつくるためにうちの田んぼを全部つぶさなければならぬ、その時に自分の家だけが使ひのならないが上三軒が使ひのになつたやうに早く出されないういふふうな觀念がまだ捨て切れないういふのではないか、家庭内では思いやりがあるのではないかと思ひます。

古谷（リーダー） 男の方がそういう觀念が進んでいるのかと思つたら農村はまだそうではないのですね。

藤引 うちに対する執着というものはあるのではないかと思ひま

ただくには若い人がいいですからね。

藤本 いかにしてお父さんを引張り出すかということなんです。それにはやはり出て行つたことの収穫というかおみやげを持つて帰ること、それを一回二回と実績を積み重ねることによつてお父さんを引つ張り出すことにもなるうし、女の人の地位が高くなる足掛かりになるのではないか、それは農村だけでなくサラリーマンの家庭でもいえることでしょう。

古谷（リーダー） 農村からの離村をおさえるには農村の改革が第一にやらねければならぬ。それは非常にむずかしいことですが第一には資本を投下して近代化していくこと、これは農家だけの努力じゃできないとお話をいろいろ聞いていれば今すぐとりかゝれることも相当あるういふ感じがするわけです。そういうことによつていくらかでも農村がよくなつていけば、離村の問題にも自然にいくらかの影響を与えらるういふことです。ただ僕は、離村を減からいかんというのは、前向きな考え方じやないういふ感じがするのです。農村問題はこれくらいで、それではまだ少し時間がありますので、先ほど藤引さんがちよつと提案された男の賃金の問題ですね。これはまさにわつしやつた通りで解説もいらぬかと思ひますが、その点どうですか。問題を提起していただいたら。

藤引 公務員ですと、四年制の大学を出てきて初任給が一万五、六千円ですね。結婚適令期になつても二万円もあつた人はいないか、民間会社はもっと多いらしいですが、低賃金です。ですから結婚する時は共かせぎできる奥さんをもらうといふことを考える男性も多くなつて来ていると思ひます。そういう現実でさつきのような共かせぎの家庭生活の不安定が繰り返さ

れていくのではないかと気がするんですが。

古谷（リーダー） 共かせぎが問題になつてゐるのは、女の人が社会に目を開くと、自分自身の成長とかいわれていたんですが、問題は収入を得るといふのがパーセンテージにしたらどのくらいになるかしりませんが、ほとんど大部分だと思います。職業をもつという事は、ほとんど収入を得ることであると思ひます。それを考えますと、私たち初めて月給取りになつた時は六十五円くらい。今の月給の二百五十倍になると三万円から四万円近いものになる。しかも税金は一文もかからずあのころの税金は月給百円くらいからだつたと思ひが負担を感じるような税金ではまづたたくなく、かえつて得意になつて、払つてゐるぞというより金額だつたと思ひます。そういう税金の点まで入れると、われわれの時代とまづたたく違ひですね。今、民間会社のいい所は初任給二万四、五千円くらい出す所もありまじやうが手取りは少い。僕らが初めてもらつた時は特においしい給料でなかつたですが、それでさへ実質収入は今の倍くらいになつてゐる。どうしてこの賃金が安いのか、いろんな国民所得なんかは戦前の水準をはるかに突破したとか、完全に回復したといつていながら、賃金だけが安くおさへられてゐる、これはインフレのどこまかしでもあつて、何万円といふといふような気がするが、去年の一万五千円の初任給と今年の一万五千円では全然内容が違ふといふ結果になつてゐるんです。一体日本がそれだけ大國になり国民所得もふえてゐる。そのお金はどこへ行つてゐるだろうと実に不思議な気がするわけですが。

櫛引 税金は高いと思ひますがそれがどこへ行つてゐるだろうという疑問はあります。

中村 女性が社会に進出するために負担がふえ自分を犠牲にしてゐるということもあるんじゃないでしょうか。

古谷（リーダー） 一つの思ひつきとしては面白いかもしれせんが……。

橋本 炭鉱ではそういうこともあります。夫婦共かせぎではいつておりましたら女のほうをやとつたほうが安いからというので、……小さな産業ではよくあるんですよ。

古谷（リーダー） 非常に特殊な場合にはないことはない。だからといつて全体の男の賃金の低さがそれだということはないと思ひます。

川合 私の場合は外に出ていつて給料をいただいたほうがいいからオートバインにして使つてほしいと問屋さんに交渉したのです。現在私には夫婦揃つてやつてゐる工賃をわりかつていくわけですが、それだけの給料を払えないから、やつぱりお宅でしたほうがいいということなんです。一日いくつできるから品物がいくらだという工賃を要求するわけですが、全然通らない。初めてやる方と相当差がついてゐるわけですが、そういう差がない。初めての人も器用ならすぐそれだけのものがとれる。収入はうて次第で安定した給料というものが無い。生活が不安定なんです。

辻 資本家が利益をとりすぎると聞いておりますけれども、外国にくらべて日本は。

古谷（リーダー） 男子の賃金と一般の賃金のことですが。逆に女が高ければそれで男が豊なつてもらえるか、今、辻さんがおつしやつたことは、僕は最後にお話し申し上げようと思つてゐたのですが、つまり分配が充分じやないと、分配にまわされな

古谷（リーダー） 僕らは所得税を得意になつて税務署に払

にいつたことは覚えていますが、税金が高いといふことはありませんでした。一つには戦前は財閥といふものがあつて、ほとんど税金は負担してゐた。ところが戦後はそういう非常な大口の税負担者がなくなつたのである程度はしやうがないと思ひますけれども、その税金を喜んで払えるくらいの収入がわれわれにはいつてくるべきです。ところが収入は来ないで税金の負担がくるといふことはおかしい感じがするわけですね。そんな点少し。

辻 公務員とか大企業は賃金の系列がきちんとあつていいんですが、中小企業では新卒者の初任給を上げますと、一年前、二年前、三年前に入社したものよりも新入社員が上になつてしまひます。古いほうが分が悪くなつてゐる。それを調整しないと、どういふことなんでしょう。

古谷（リーダー） 大企業でもそういう問題はあつてゐる。あとからはいつた人の初任給高くないといふので、前の人もいくらか上げるけれどもその率が少いので不公平が非常に出て来てゐます。つまり物価騰貴、今ある意味のインフレ傾向だと思ひますけれどもこれに追いついて行けないといふことでしょうね。

中村 男性の賃金が低いので、結局結婚する場合に経済的理由で共かせぎをするといふことになつてくる。それが一番大きな原因だと思ひますがそれを裏がえして考えてみると、共かせぎが返つて男性の賃金の低さの原因になつてゐるといふこともあるんじゃないでしょうか。

古谷（リーダー） 女の人が安いから男も安く使つてゐると……。

ないでもつぱら資本蓄積、あるいは生産向上のほうに金をとられてゐるといふところが今の賃金の低さの問題だと思ひます。経営者、資本家が非常に利益を得てゐる。だがそれは彼らが私腹をこやしてゐる。ぜいたくしてゐるといふことではないので、今の高い経済成長と工業の発展のために日本が戦前の水準を突破して池田さんに言わせればいわけの大國になつてきた、外國が驚くほどの経済成長を上げていつた。このほかに金がまわされていつた。つまりはつきりいへば施設のための投資ですね。いろんな。工場も拡張し生産を上げるために大へんな金が投資されてゐる。それで分配される分け前のほうにはまわされないと。いふことですね。これが今の最大の原因だろうと思ひます。

これはいいか悪いかは二つの考え方がある。この際少しがまんして、思ひきつて日本の生産性を上げてあとで分配にあずかるうじやないかという考え方、そうじやなく、今そんなに生産上げなくともいいから、われわれにも分配をもう少しふやしてくれないかというのが社会党なんかの考え方だといふと思ひます。とくに今、中小企業の非常な賃金の低さ、これが問題になつてゐますが、これも同じ理由からで、中小企業の主なものは大体大企業の下請けです。これも大資本の資本蓄積、つまり設備投資、生産性の向上のために中小企業のほうに相当しわよせされ中小企業の犠牲のもとに大企業の設備投資がなされてゐる。中小企業への支払の形が六カ月後などというより先に先にのばされてゐる。賃金繰りに追われるから早く割らなければならぬので実際は五百万円でも四百万円にしかならぬといふうり大企業が生産性を上げるためにかなり勝手なことをやつてゐるわけですね。低賃金といふのは、この際刻苦欠乏に耐えて日

本の将来のために大いに支拂なければならぬものがある。これは無理をお願いでしうか。ここだけて討議しただけでは……。

古谷（リーダー）　いい考えかどうかは考えようにあると思ひますが、これはただ戦争で迷惑をかけたから補償するといふのはそれと大差を部分しやないもので、今賠償として払われているのは、それによつて向こうに賠償力を与えて、こつちのものを売ると、つまり日本のために利益になるよりを形で相当使われている。だからその意味では税金をまづたく無駄な所につきこんでいるわけじやない。ただそういう場合、賠償を払つて日本が利益を受けているといふことは抽象的なことで、日本のどの部分が利益を受けているかといふことになつてくる。するとさつき言つたような生産性が上つてくるのは大企業でしう。つまり日本の経済力といふものがついてくる。日本の生産力を上げるための賠償ですね。経済成長をどんどんしうじやないかといふ考えにたては決して無駄なことじやないし、税金をそつちに使つてもかまわない。ところが逆に、そつちはどうでもいいから分配の便りにまかせといふ考えにたてば賠償は多すぎはしないかといふことになる。もう一つは軍備ですが、今日日本が軍備に使つてゐる金はジェット機一台が四億円といわれていますが、全体としていへば戦前の軍費が占める割合に比すればかなり少い。最近は大きくなつて来ましたが、吉田さんの時代にはほとんど金を使わないで日本がこれほど復興できたのは軍備に金を使わなかつたためといわれていますが、日本が独立国として軍備に金を使つてゐる額は予算の率からいへば必ずしも過大なものではないのです。ところが日本が平和憲法といふものを

古谷（リーダー）　それも私、先ほど分配にまわすべきか、生産性を上げるべきかと、どつちにすべきだといふことをここで言つたら大へんになりますので解説だけします。

脇水　いろんないいお話が出ただけで、それがどういふ順序をへて上に上がつていくのか実際私が見たことないんです。ぼんとうに私たちのためになるという問題が出たり、なんとか僕の方が、先生その他御側の方の方が、順々に、上にあげていくよう

もつていて、戦争する機会がないのだからだけの軍備が必要なのかどうかという疑問も出てきます。それに對して、独立国である以上、自衛といふことを考えなければならぬ。いかに今ジェット機飛ばしてばかりいるようだが、専門家に言わせれば、二、三年ではあつたものの訓練はできない。今からでも遅いくらいだといふ考え方もあるくらいで、軍備といふものも、今の普通の独立国の軍備といふことかといへば、日本のはずしもうやみか多量といふほどではないわけです。だから軍備に使う金全部こつちになませといへば話は簡単ですが、それもそのいふ両方の考えよりがある。一番の問題は賠償で、全部その他のこともそれにはいると思ひます。が、つまり日本をもつと経済的にも成長させるほうに力を入れるべきか、それとももう少しわれわれの今の生活を楽にしてもらふべきかといふ所に結局問題はわかれて、どつちをとるかといふことは皆さんのお考えに思ひつきます。大休時間が来ましたから、最後の賠償金の問題は私の解説ばかりで一方的なものになつてしまつたようですが、どうしてこういう賠償金になるかといふことはおわかりになつていただけたと思ひます。

（休憩）

（再開）

古谷（リーダー）　もうあとわずかですから最後まで一つしつかりやつていただきたい。五時まで、ちょうどあと四十分あるんですが、ここで質問やら、あるいはオンザバーの方の最後の発言とまともに使いたいと思ひますが、先ず質問から始めます。傍聴者の方から質問が来ていますが、「最初めは青森県の三沢

にしていたきたい。それは無理をお願いでしうか。ここだけて討議しただけでは……。

古谷（リーダー）　いい考えかどうかは考えようにあると思ひますが、これはただ戦争で迷惑をかけたから補償するといふのはそれと大差を部分しやないもので、今賠償として払われているのは、それによつて向こうに賠償力を与えて、こつちのものを売ると、つまり日本のために利益になるよりを形で相当使われている。だからその意味では税金をまづたく無駄な所につきこんでいるわけじやない。ただそういう場合、賠償を払つて日本が利益を受けているといふことは抽象的なことで、日本のどの部分が利益を受けているかといふことになつてくる。するとさつき言つたような生産性が上つてくるのは大企業でしう。つまり日本の経済力といふものがついてくる。日本の生産力を上げるための賠償ですね。経済成長をどんどんしうじやないかといふ考えにたては決して無駄なことじやないし、税金をそつちに使つてもかまわない。ところが逆に、そつちはどうでもいいから分配の便りにまかせといふ考えにたてば賠償は多すぎはしないかといふことになる。もう一つは軍備ですが、今日日本が軍備に使つてゐる金はジェット機一台が四億円といわれていますが、全体としていへば戦前の軍費が占める割合に比すればかなり少い。最近は大きくなつて来ましたが、吉田さんの時代にはほとんど金を使わないで日本がこれほど復興できたのは軍備に金を使わなかつたためといわれていますが、日本が独立国として軍備に金を使つてゐる額は予算の率からいへば必ずしも過大なものではないのです。ところが日本が平和憲法といふものを

市の地域婦人団体においでの方で、出かせぎと共かせぎの問題で、「地方農業においては非常に低所得であるために出かせぎその他のため一家団らんが機会が失われ、家庭が崩壊にひんしてあります。青森県地方会議において私前大督の石崎宣雄氏は、産業社会の進展の「時期としてやむをえない」といふ見方をされました。やむをえないものとして婦人の手にすべての機軸が要求されることに納得がいきません。古谷先生にお聞きします」

農業のことば「こうにわかないので農業問題としてお答えするのは無理かと思ひますが、私前大学の石崎さんが産業改革の「時期として仕方がない」といふ見方をされたのが御不満のようですが、産業社会の進展のために必要だからといふ意味じやなく、今のようないつ時期でも収入やなんかを他から得るためにぎりぎりなことでやむを得ないことだといふ意味じやないかと思ひます。そういう意味でなら私もやつぱりある程度やむを得ないと思ひます。これは農村の貧困に理由があるのでこれを解決しないかぎりには出かせぎはやむを得ないかといふので、これを解決するには、結局農村に金をかけて、近代化をやる、ほかに方法がないのじやないか。でさるかできないかは別としてそういう方法しかないじやないかといふよりここの部会では結論も出たわけです。たゞそのために婦人の手にすべての機軸が要求されるのは納得がいかないといふことはごつとも思ひますけれども、実はこの点について私にはわからないので、第四部会（リーダー）の松原治郎先生に聞きましたら、第四部会でも問題になつて、その一つの解決の方法として、出かせぎに行つてゐる御主人と手紙の交換をする。家族との間で手紙の交換をするという運動をやつてゐる団体がある。地域の婦人会の

人たちがしょうがーという方法が一つ。それから有給休暇を二日でも三日でも与えて帰してくるよう、出かせぎ先の雇用主に要求してとらせる。月に一回なり二月に一回なりいろいろ方法があると思いますし、これは一種の生理体的なものがあると思うんです。それから、出かせぎに行つてそこからもらう金を亭主がみんな使つてしまつて、一文もはいつてこない主婦の犠牲が多いので、貸金庫では、雇用主から幾協成て直接送金してしまふ、つまりさいふは奥さんが握るといふそういう方法が考えられていると。どの程度実行されているかは知りませんが。主婦の犠牲をいくらか緩和するといふ意味では一応四部会が出た方法にこんなものがあります。

次は東京都の横山さん。「グループ会に出席しない仲間をさそい出す方法。グループの月例会合に出席したくない人、内職またはパート・タイムで働かざるに人、それ以上に組織活動にはいりたがらない層の人を誘導するには」という質問ですが、これはいい智慧のある方から伺いまししょう。

宮本 グループの活動の意味で……

古谷（リーダー） 婦人会をやつたり、いろんな会合ですね。それに一こう出てこない人というところでししょう。横山さん

横山（質問者） 皆さんえらばれた優秀な方ですから、社会と家庭とか、経済とか、政治とかと御自分の生活とをよく結びつけて考えていらつしやいます。一般に収入のための活動とか、育児の問題とかそういう問題に気をとられて考えない人たちに何か呼びかける方法で具体的にいい智慧があったら……

鈴木 東京の方にびんとかないかしれませんが、農村の例を申し上げます。私たちのほうも婦人会活動でいろいろグループ活

古谷（リーダー） これはタレントで……

大河原 リーダーの魅力もそうですけれども、会自体の魅力でまよは出席してよかつたと思えば出席すると思います。それからグループに対するその人の意識だと思ひますね。

古谷（リーダー） その意識をもつていない人をどうすればいいかということだと思ひますが。

中村 私のところは何度も申し上げておきますけれども、託児所のよくなことをやつておつて庭に砂場とか、子供の遊び場所がありますので、小さい子をもつていてどこへも出られない人が子供を連れて遊びに来ます。そういうおかあさんをとらえて婦人学級の資料を見せたりNHKでやつてお話をすると気が向けてくるんです。これならうちでテレビを見ながら勉強できるということ、意識の高揚ということをまず最初にしておきます。

辻 会のテーマのえらび方だと思ひます。婦人にとつて切実な問題、避妊法の指導をするとか、そういうことでまず集めたことがあります。それから行きたくとも隣近所の人が行かないからとかいうこともあるので、同じ長屋だつたらその家主さんをつかむんです。わり合ひきくんです。有力者から説得してもらふことも一つの方法だと思ひます。

古谷（リーダー） これは落語式ですね。

宮本 結局、グループのやつていながら非常に興味があつても今までやつたグループ活動ではあきらめた人とか、時間的、場所的に行かれない人があります。それから出てこない方を観察してありますと、非常にうちの中を綺麗にしていらつしやるそういう所へ何気なく出かけていつてグループは少人数でや

動があります。その時には各部落の責任者に一応通知いたしますが、それだけではだめです。責任者が戸々まわつてお話ししてもなかなか家族のものが出してくれない、本人が出る意志がないというののもちろんですが、そこには大いに家族の協力が必要なんです。それには有線放送を使ひまして、文書とにも流します。それをおしゆうとさんも家族も隣同志も聞いてあります。すると行きましようよと互いに誘ひ合わせるようにして出るという方法をとつてあります。

古谷（リーダー） つまり、今おつしやつた主旨は、しつこく誘うということ。それならば東京でもできるだろうと思ひます。他に……

川合 私どもの場合は家庭で内職をしなければならぬし、また知識を吸収しようという欲のある方は全然ないものですから、そういう方をどういふふうにして誘おうかといふことで悩み続けて来たのですが一つの例として、出られない方を誘うには、やつぱりお金の魅力で、五百円の無尽をやつたんです。それを順ぐりにつけて、それが楽しみで出る。それから地域婦人会ですと、出ればおみやげをあげるということが成功した。たとえは婦人に子供さんのお八つとか、そういううちよつとしたものを婦人会費から出して。ただばく然と呼びかけても絶対に集まらないと思ひます。

古谷（リーダー） これはえさでつる方法……

今岡 リーダーの方の魅力で、最初は引つぱつておきます。それから次々会員の方にかわつて、リーダーを交替制でやつていたとくと、自分が責任をもちますから出るようになるのじやないかと思ひます。

ればいいので、大勢でやろうという気持ちを初めからおもちにないで、お宅綺麗だからこの次の会に貸してねとおしかけていく。女はだべることが好きですからあらこれどういふふうにして作るの、とか、コーヒーをいれることの好きを奥さんには教えてくれとおしかけていくんです。そのたびに場所をかえるということでも成功したことがあります。

古谷（これはおしかけ式ですね）

植嶋 私のほうでは、その日に出席しない方にプリントを、出席予定の人数より多く用意しておいてプリントをおみやげにします。講演のあつた場合は私がぬき書きですけれども、それをすぐがりに切つて、さし上げ来たらこれ以上に開けたのよとつけ加えています。あんまり何べんもいわれて義理が悪いからというので出てくる方もありますし、内容をにおわせますと出てみようかなということ……私助産婦をしてありますので育児など、乳幼児のある方にはそういうお話をします、集まりの時間の前に。すると行かないで損したということ集まつて下さる方もあります。

古谷（リーダー） これは映画の予告編。

橋本 どうしたら引っぱり出せるかというところ非常にインテリで婦人会なんかに出られないという人、高殺すきで私のよりなもつさり出られないという人、聞がいろいろあると思ひますが、その腹にちやうどいい人を使者にたてる。たとえば大学を出たインテリ・マダムだというそれと似合ひ人を使者に向ける。

古谷（リーダー） 次の質問にうつります。時間があんまりありませんのでできるだけ簡単に話したい。東京の小泉さん

の質問です。「共かせぎに付随する問題として、婦人の職場における能率低下が時々あげられるが、これは職業意識が家庭中心になるものか、共かせぎの体験者にお聞きしたい」職業意識が家庭中心になるものかとはつまり家庭のことが第一になるのではないかとこのことだろうと思います。

猪野 私も、それ一番初めに自分でもそうじゃないかなと感じましたけれども……採用する時にそこに引つかりが出てくるんです。私たちの職業は一生を通しての職業なのに、三年くらいつとめてやめてしまおうと指導方針がものすごく尻切れトンぼになつてしまふので、一番初めに聞かれるわけです。すると自分では勤めたいから大丈夫ですといいますが、そういう限りは絶対能力はおとせないことになつてしまふんです。私どもの職場の中でも家庭中心に朝は八時半にちゃんと来て夕方四時半にびつたり帰つてしまふ方もありますが、職場に来たら一人の女子の、職場の人というより自分で区別して、絶対能率は低下させてはいけません。私の場合、むしろ独身時代よりもいい仕事ができるわけなんです。というのは、農村に出てグループの指導しておりますので、よい家庭の婦人じやなきやグループの婦人の気持がわからないわけで、倍くらい能率をあげております。

辻 普通、八時間睡眠の八時間労働、八時間自由時間となつていくんですが、私の場合は睡眠はどうしても七時間はとらしてもらいますけれども、家で子どもの相手になるとか、整理とか、家庭におけるサービスなどの時間は非常に短かい。学校にいる時間がすでに九時間、十時間になります。それでも足りないで家で仕事をします。ですから時間的にも職業中心にならなくては

動まらないと思います。

古谷（リーダー） 大丈夫だ能力は低下してないということですね。ここにいらつしやる方は皆さん必らずそうだろうと思ひます。けれどもまわりをみると必らずしもそうではないところもある。ここにむずかしい点もあると思ひますが、猪野さんや辻さんの心がまえでやればいいというふうにとつてもえ

ばいいと思います。もう一つ、中部日本新聞文化部の三浦さん「共かせぎの場合の家族融合について、夫と妻と子どもと家族揃り機会の少くなつたことはありませんか。家庭内で一家揃つて過ごす時間が短くなつたとは思ひませんか。家族の人たち、特に子どもの考えについてのことについてよく知つていふという自信がもてますか。母親が家事の用をしてくれる要員という以外にどんなことに必用とされていふと思ひますか。夫は思春期の子どもへの教育にどれだけの力を貸していふですか」いろいろありますが、結局家族との問題に集約していいかと思ひます。

猪野 それも経験上ですけれども、私は七人家族でしゆうとと義理の妹が二人あります。私の勤めていふことをみんなに理解して貰うために朝は妹と私が共同で炊事場に立つ、下の妹が掃除母は子ども専門にタツテする、主人は同じに起きて私たちの居間の掃除とかいふような雑用を分担するように決めたわけです。そうすると余暇が出ますし、職場に行つても疲れが残らないので仕事ができる。結局家族で話し合つていふなければならぬと思ひます。家族の協力をすることですね。

古谷（リーダー） 時間が短かくとも能率をあげてやつていくということですね。

脇水 私の場合も分担してする。主人の理解と子どもの協力というところが一番大事なところじゃないかと思ひますが、その話し合ひは毎晩話し合ひをするということもできない。私のところは主人と私だけでその二人が働いて留守にするという場合はやつぱり子どもの協力が必要だと思ひます。母親が働かなくてはならぬ理由を子どもにわかたせようとするんです。生活には困らないけれども、あなたたちを能力に応じた勉強をさせるには私が働かなくては、とうちやんの月給だけでは足りないからね、と子どもに家計簿を見せるんです。中学か、小学五、六年になつたらわかたせられるんです。

古谷（リーダー） それじゃあ、時間がございせんのでこのくらいにしたいと思ひます。最後にオプザーバーの方から一人

二分位ずつ感想を聞かしていただきたいと思います。

生野（特オプ） 私も家庭をもつておりますし仕事をもつていふ女の気持もよくわかるんですけれども、何しろ真険な気持で事をやつてその職業をつづけていふという状態なんです。それで、自分の周囲の職場のこととかはわかりますけれども、農村の問題とか、ちよつとは聞いていますけれどもよくはわからなかつたことをたくさん聞かせていただきまして、これからの勉強のヒントになると思ひます。どうもありがとうございます。

町田（特オプ） 私もたくさんさんのことを勉強させていただきありがとうございます。ただ、今日おける家庭の役割という課題が出ておつて農村の問題がいろいろ出ましたけれども都会ににおいてもやはり産業機構の中に人間がいやでもおろでもはいつていかなければならぬ。人間自身が機械化されてしまつてくるような大都会のそういう問題が出なかつたと思ひます。

そういう中でほんとうの人間性をとりもどすために家庭といふものがどんな場所であつたらいいかといふことを私はちよつと伺いたかつたように思ひます。それから、今までデイスカッションされて来た一つ一つのこともみんなそれ自体が一つ一つの政治になつていふこと。直接的なことであれば、子どもの問題、就学の問題、社会福祉の問題などでありますが、それが賃金が低いとか、税金が高いつつていふことが税金にしてもそれが一体どういふふうな率でどういふふうに使われているかといふことをもつと突進に考へてみる必要があると思ひました。それから大きな問題としては、みんなが世界平和を願つていながらやはりそこに一まつ不安があるんじゃないか、ほんとうに安心して生活できる根本問題がもつと考えられなくちゃいけないんじゃないか、その中に日本の国としても大きな問題をもつていふのではないかと思ひます。

田中（特オプ） 私の感想といえるかどうかかわかりませんが私のほうは地域の婦人会の連絡協議会ですから皆さんの所屬してゐる団体の中央の事務所です。ここでは皆さんのお話の中に出的消費問題で苦情とか買物相談とかそういうことを各府県で活発にするより県の婦人団体にそういう窓口を作つていふのが苦情が集まつてこないのです。P.R不足が原因していふと思ひますが、皆さんの中からそういうことがどんどん出てくるというところが大切なので、こちらもそういうことを考えながら仕事を進めていふますから、県の窓口を大いに利用していただきたい。組織の力を利用するということは消費者意識を高めることにもなりますし、婦人会でなくとも、広く皆さんの声をもつ

ていつていただきたいと思ひます。それと父親の封建性の問題なども出ましたが、このごろは父の日運動などでおとうさんに感謝しながら民主化に努力してもらおうという運動が、農村などにも浸透しているようですから、こういうやり方も一つの方法だと思つております。それから、皆さんのような方々がこれからリーダーとして出ていらつしやる場として、今年度からは文部省が家庭半級というのを、世界のフオーク体で出ておりますからそういうものを一人々々のおかあさんの自主性によつて大いにやつていただきたい、そういうよりなことも地元で帰つてお願いできたらと思つております。

藤田(特オプ) 私、けさ大阪から出て来て一時間ほどしか何もないのです。感想を申し上げる権利がないのですけれども、他の分科会では家庭をもつた婦人が職場で能率が下るので賃金が低いのはやむをえないという方が多かつたのですが、ここでは自分は家庭で協力してもらつて能率が下つていないという方が多くて心強かつたことです。私たちは子どもを育てるといふ大切な仕事を何か今まで必要以上に卑下している。職場なんかでも、大きい会社では結婚して子どもができたらずめて段しいというところもあつて、小さくなつてくるように感じるのですけれども、次の世代を育てるのですからもつと私たちの権利を主張していくべきではないか。それと都会では乳児院とか保育所とか学童保育所をもつと私たちは要求していかなければいけないのじゃないか。それには婦人が団結していかなければいけないのじゃないか。さつき若い女の先生方に受け持たれると困るという声が出ましたが、実際困るわけですが、産休先生とかいろいろなことでおぎなわれて、もうちよつと乳児の時分は休

みの期間を長くしていくべきではないかという事を思ひます。古谷(リーダー) それでは一応要約してみます。

この部会では最初共かせぎと子どもの教育という身近な問題からとり上げていつたのですが、子どもと交流するという具体的方法が出て来たといふことと、さらに発展して交流だけで愛情だけでことが済んではいけない、つまり非行児、問題児にしないことだけで満足してはいられない、もう少し子どもを学力の点でもしつけの点でも、共かせぎをしながらできる方向にもつていきたい、今までは共かせぎと子どもの問題というところしたら子供と愛情の交流ができるかといふことだけに終つていたような気がするんですが、その意味で一歩前進したような感じがします。さらにそれに附随して託児所の問題、私設の託児所のある程度成功している例もありましたが、それには限界がある、結局公立の託児所をたくさん設けてもらひ他はない。その方法としては相当数の人が一しよになつてすれば決して可能性のないことじゃない。できるという見通しがかなりできて、とくに地婦連あたりから具体的運動の方法も教えていたといふので、この点もかなりの収穫があつたと思ひます。それから二日目になつて、婦人と職業という大きな問題に集つてきたのですが、この中で職業というふうに限られないで、とにかく女が仕事をもちつたことが必要なんだといふことがあつたと思ひます。ここで再就職がとり上げられて、ことに教員、公務員の人たちが非常に再就職がむずかしい、むずかしいだけじゃなく再就職できても条件が悪くなる。しかもそれがために、お産なんかする時もその職にかじりついていけると、女の先生に受け持たれると困るということも出たが、もし再就職が簡単にいくならばまた

すぐ再就職するといふことでありこれは制度上の欠陥で、われわれ一般の人がみんなこの制度のために困つてゐるのじゃないか、再就職の問題をいろいろな方面に働きかけなければいけないといふこと。消費の面では消費者を組織化し、その力によつて決して損をしないようにしなければならぬと同時に、自主性をもつて自分に任んどうに必要を、適したものだけを消費して、まわりの人に左右されないようにするといふこと。農村問題では、農村の出かせぎと離村が問題になりましたけれども出かせぎにしても離村にしても、これをほんとうに防ぐためには農村の近代化、農村の革命が必要じゃないか。これには農村に政治の力、国の力でたくさん金を出してもらつて、それによつてそれによつて近代化すれば相当出かせぎなども解決されてくるんじゃないか。それからこの中では農村の一番の癌はこれまでよくいわれていたようなしゅうとめさんでなくて男であるという結論が出て、今までは家庭問題はみんなしゅうとめさんだつたんですが非常に画期的な結論が出たんじゃないかと思ひます。そこに低賃金の問題が出て来ましたが、これは解説にとどまりました。

以上みんな政治につながってくる問題ですが、実はこの部会ではそれほど政治の話が出なかつたのです。政治に責任をもつていつてしまえばみんな片がついてしまひるので、やつぱり自分の生活に根ざしたものでそれを克服するためにはどうしたらいいかといふことから政治に目を向けていくのがいいと思ひます。ここでお話ししたことを地域の婦人会などでお話しする時、地方の政治、中央の政治に及ぶことであると思ひます。それは皆さんの政治に対する態度でやつていただくほかはないと思ひます。

こういう司会を初めてやりまして、御婦人ばかりの集りは不得意でろくな助言もできず大へんふつつかであつたと思ひます。ただオプザバーの方から適切な御意見をいただき、また私が充分にとり上げられなかつた問題を質問でおぎなつていただいたりしてどうにか終ることができ、出席者の方にもちろん、オプザバーの方にも傍聴者の方にも深く感謝したいと思ひます。

終了(五時)

第四部会

会議員

北海道	倉島 静 (農業)
山形	長南 てる (生活改良普及員)
茨城	安達 千寿子 (農業)
千葉	窪田 百合子 (無職)
富山	高畑 幸子 (農業)
長野	百瀬 初美 (農業)
京都	長沢 幸子 (農業)
和歌山	清水 松代 (農業)
島根	万波 公子 (農業)
岡山	中村 節子 (工場勤務)
徳島	多田 さち子 (農業)
長崎	手光 芳江 (農業)
宮崎	日高 キシエ (無職)
鹿児島	原田 信子 (無職)

リーダー 松原 治郎 (東京学芸大学助教授)

特別オブザーバー

河野 燦子 (日本青年団協議会)
渡辺 敏子 (全国農協婦人組織協議会)

第一日目 四月一四日 一・〇〇一五・〇〇

松原(リーダー) 全体のテーマは、「今日における家庭の役割」として、「産業社会の進展の中で」というサブタイトルがついており、第四部会の場合には、この産業方面を受けとめている場として、農村社会を考慮してみよう。そして、その中で、日常、農業生産にもたずさわって、あるいは農村社会の生活をしておられる方を中心に、第四部会を構成したわけでございます。

そこで最初に、内容にはいります前に、全体の方向づけだけをしておこうと思います。ここでは、四つの柱をたてたわけですが、最初、産業社会の進展というものを、農村社会で受けとめる場合、農業生産のあり方が変わってきている。農業生産における婦人の役割が変わってきている。こういう形で考えなければいけないんじゃないかと思うわけです。

したがって、それは、生産、あるいは労働に、直結する問題になつてくる。そこでまず第一に、全国各地の農村の中で、個々の農家の中の生産活動がどうか変わってきているのか、現状はどうなっているのか、それをまず話し合っていた方がいいと思います。

それを、とくに婦人の立場から考える場合、婦人の労働とその負担にくつとくところの消費生活の問題を含めて、まず個々の農家の生活の実情がどうなっているのか、それを検討してみようと思います。

第二番目に、それと関連して、生活の実情をとらえるために、地域社会の中で、個々の生活をとらえてみる。とくに最近のように、経済変貌が、はげしい波となつて農村にのしかかっている時代には、今までのような村落的なまとまりというものも、

はげしくゆり動いている。

個々の農家のそれぞれのものの考え方も、あるいは生活の方向もまちまちになつてきている。そういつた中で、日常婦人会の役員、あるいは農協婦人部の役員をおやりになつてゐる方がおいてのわけですから、そういうお立場から、地域活動をどう進めていられるのか、個々の生活と関連しながら、地域活動の問題を取り扱つていきたいと思ひます。

それから、同じ地域の問題を考えます場合に、もう一つひじょうに重要視しなければならないことは、最近のような、日本の社会の変動は、ただたんに、経済変動だけではなくて、それに伴う所得増進計画であるとか、あるいは地域開発計画であるとかいう一種の大きな政治の動き、行政の動きとしておこつてゐるわけですから。

したがつて、政治の動きの中で農村は、だんだん片すみみに追いやられ、地域の開発が進むときには、行政の重点がどうしても工業化の方向にうつつてしまふ。そして、農業生産の振興なり育成なりが、あとまわしになる。あるいは、農村周辺の地帯では生活環境上の諸施設、託児所の問題、上下水道の問題などがあとまわしになるということがあると思ひます。

だから、個々の農家の生活の態も、こういつた地域社会をなめる場合には、政治や行政の問題にまで視野を広げてみる必要があるんじゃないかということを、第二の問題として考えてみたいと思ひます。

以上二つの農業生産と消費生活を中心とした農家生活の変動の実情、それから地域社会としての農村生活の実情を考えた上で、あと二つの柱を考えてみようと思ひますが、一つは、

このように二つの大きな柱があるわけです。経済の変動をどうとらえるか。あるいは、これに對処して、家庭をどう考えるか。婦人自身をどう考えるか。家庭管理の中心としての婦人自身の役割をどう考えるかという、この二つを考えてみようと思ひます。

それでは、北から始めまして、北海道の倉島さんからお話しいただきたいと思ひます。倉島さんは、とくに開拓農村からおいでになつたわけですが……。

倉島 私は終戦後、東京から現在の荒地にはいりまして、農業をはじめたもので、農業経験は、深い幅の広いものはもつておりませんが、現在は一町歩ほどやつております。

経験から、農業とは、ひじょうにむずかしい、幅広い、奥行き深いものだ、常々考えておりました。何しろ、能やぶをきりひらいて、十年近くもかかつて耕地をつくりあげ、ひじょうな難関を突破して、ようやく基礎ができたようなわけで、とにかく大きな耕地もでき、やつと生産が上昇しつゝあるという段階のところ、最近の貿易自由化の声で農産物の価格が安定せず私も畑作農家は行き悩んでおります。水田農家のように米価が安定してあります場合には、経営もしやすいでしけれども、畑作農家の場合はひじょうに苦勞します。その年々によつて、蔬菜が成長作物といつてよかつたり、また豊作貧乏というより悲しい事態に直面したりしております。

私たち開拓地の農家は、農作農業のできるところでさえ、農業経営者がなくなつてゐるというのに、ひじょうに生産の低い条件の悪いところで農業経営者がなくならないというのが不思議なくらいです。

このように変動の中で、それに対処する新しい家庭生活のあり方あるいは家庭管理のあり方は、どうすべきかということだと思ひます。それは生産活動と同時に、消費活動をやらなければならぬ農家の場合には、ひじょうに重要な問題であります。そのことは主婦の生産活動と、それから主婦の家事労働あるいは育児等々のからみ合いの問題をはらんでくるわけでありまして、そういう上になつて、これから新しく生活時間を設計したり、あるいは生活様式の設計をしなければならぬんじゃないか。さらにいえば、そういう設計を十分なり立たせるためには、家庭の人間関係のあり方も、考えてみなければいかんじゃないか。あるいは、家族の中や、個々の農家の生活が新しくなるばかりでなくて、同時に近隣関係をも改革しなければ、最終的には解決できない問題ではないか。

たとえば交際費の問題は典型的だと思ひますけれども、そういう形で、三番目に交際費に對処する新しい家庭生活の管理のあり方というよりなものを考えてみよう。

そして最後に、たんに、経済の変動にふりまわされるのではなくて、変動の中で農家の婦人の役割りを再確認すべきじゃないか。

それは、一つは生産者としての婦人の役割り、それから、家庭管理者としての婦人の役割り、二つを同時にもつていなければならぬ。

それからもう一つは、親として、母としてあるいは妻としての役割り、人間関係のうえの役割りがあるはずである。

さらに、それだけではなく、地域社会における婦人の役割りへと、もつと視野を広げて考えなければならぬ。

そうして、最近、農業の近代化のためには、基盤を広げて、もつともつと機械化されなければいけません。農家の生産基盤を拡大するには、どうしても大きな耕地が必要になつてまいります。

それで、私たちのように、わずかな耕作面積しかもたないものは、これからの農業経営はやつていけないという悩みにぶつかつてくるのです。

それで、どうしたらほんとうに楽しく明るい夢のある社会を作りたいか、あるいはどうするか、それぞれ話し合つてはおりますもの、世界情勢の変動と申しまうか、日本農業経済のゆれ動く中で、一人一人の力では何ともいたしかたない、やはり政治の面で解決していかなければならぬ問題だと、考えております。力の弱い私も婦人といたしましては、こうして広い場で、これからの私たちのいくべき道というものを、大ぜいのみなさんの言葉の中から、ひろいあげていけるのではないかと、このように考えております。

松原（リーダー） 倉島さんは、主に畑作は何ですか。

倉島 最近までは、小豆とか雑穀を作つておりました。今は蔬菜をつくるようになってまいりました。ところが、また蔬菜も、ご承知のとおり大暴落という事態になつて、ひじょうに悩んでおります。

松原（リーダー） お子様がお四人とお聞きしたんですけれども。

倉島 上の二人は大学を卒業して勤めており、あとの二人は高校に在学中です。しかしここでは、皆農がなりたない、ひじょうに劣悪な土地なんです。子どもは、小さいながらそれを知つておりますから、農業はあまりやりたがらないようで、大学も理工科系

のほうに進みたい意向でして、私も無理にもあとを継がせたいような立派な経営もやっておりませんので、今のところは、後継者がでないというような形になっております。

松原（リーダー） 間に、ときき会議の方々から質問をばさんでもらつて結構です。お一人が長くなりますと、その、時間がかりますから……。

手光 耕地面積は？

倉島 最初入植したときは、五ヘクタールということになっておりましたが、ひじょうな傾斜地で、くわもたないような、岩や石の多いところで、また、水が流れているようなところも加えて、今までおこしたところが二・五ヘクタールありますけれども、現在金額のあがるのは、二ヘクタールくらいなんです。

万波 開拓地にはいるうと思つた動機みたいなものはなんですか。倉島 主人は陸軍に勤めておりましたが、終戦になつて引き揚げてまいりまして、当時食べるものがないということが一番の悩んで、それを得るために、現在のところへはいつたやうなわけでして、当時は、土地を広げることが国土開発であり、食料増産ということとが國家の要請であつた時代なんで、自分も日本再建に精力を尽すというやうな気持ちではいりました。

松原（リーダー） それでは、山形の長南さんのほうから。長南さんは日本の米どころの庄内地方のまん中あたりだと思ひますけれども、そこで生活改良普及員もやつておられるわけですね。

長南 私のほうは、山形県の庄内平野の中心地でございます。現在は多角経営というところになっております。

今一番問題になつてゐるのは、冬季の出かせぎ問題です。これは、二三年前から農業基本法が制定されてから現われた現象で、

それでは、茨城県の安達さんのお話を伺いたいと思ひます。

安達 関東平野ながらというやうなところで、個人経営では相当大きくやつてゐるほうの農家に、私は嫁ぎました。やはり、小さい百姓の方は、農閑期には、東京のほうに出かけるやうですね。そして、貯金することが競争みたいになつてゐるんです。

米麦地帯ですけれども、米麦では手間がかかりませんが、タバコをつくと、手間がかかるかわりに、相当収入が上がるんですね。それで、手間はかかるけどタバコをやつて収入を上げたり、出かせぎに出たりしておりますね。まあ、そんなところが日常ですけれども……。

松原（リーダー） それでは、同じ関東でも、千葉の窪田さんに、農家のこと以外に、生活のことを含めてお話しくださいつても結構ですから、お願いいたします。

窪田 農業に携つてゐるなど大きなことをいえるほどやつてはおりませんけれども、いろいろ考えるところはございます。

私のほうは、暖かい地方で稲の早期栽培も進めておりますし、フランスメロンやきゅうりの栽培も行なわれています。しかし、新しい農業といわれるビニールハウスの栽培なんかはできておりません。主な原因は、ビニールハウスを作るにも大金がかかりまして、野菜の価格が安定してゐないから、それに金をかけても、返済が大へんだということ、二番目としては、技術面の不安定ですが、それと若い農業学校でも出た人なら、それに習ひまゐることのできるのではありません、むかしから農業をやつてゐる人は、石橋をたないで渡るくらいで、人がやつてみて、成功したらやるわけです。自分が、失敗してもやつてみようという気にならないうです。

最初は、若い人が多かつたんですけれども、このころは、二ヘクタール以上の、中農層以上まで、出かせぎにいくやうになりました。出かせぎの主な先は、東京が中心で、職種は青空天井とかスコップ一個で働く場所でございます。

だいたい庄内は、水田の単作地帯で、総収入が百万といつても、たぶんにもれず、消費景氣にあおられて、正月すぎともなれば借金がいよいよふえてゐるわけです。

出かせぎには、三つの層があつて、一つは耕作面積が少なくてもうしてもやれないでゐる層と、それから、人がいくからいく、残つてゐると、部落の神社の行事やら、消防やらのお世話しなければならぬからばかきといふと、人につられて出る層と、それからもう一つは、この機会に先進地の農業をみて来て新しい農業の芽を育てようとする層もあるやうです。しかし、最後の層はひじょうに限られております。

そして、目的は、やはり耐久消費財、バイクとかトランジスタラジオとか、最近では、小型乗用車の頭金を稼いでいくというやうになつております。

だいたい、こういうことなんですけれども、私つくづく考えるのですが、農業生産には、ひじょうに目をかかやがしてゐるんですけれども、生活のこととなると、何か自分のことではない、な、そういう現状ですね。畑の担当の先生と私と一緒にいますと、畑のことには一生懸命に集まるんですけれども、お料理とか子どものしつけということになると、あまり集まつてこないというところもあるんです。

松原（リーダー） 月給制の問題を生活設計のところでお話しただければと思ひます。

第三番目としては、田んぼも畑もあるところで、両方やつてゐるところは、とくに忙しいんですが、畑だけで収入を上げるよりは、田んぼと畑を平均にやつて、平均に収入を上げたほうがよいという考えがあるんです。だから、ビニールハウスを作つても、しようがないということになつたんです。

四番目としては、とくに、八幡製鉄がくることになつて、ゆくゆくは、この辺がどうなるかわからない。そのうちに、ここが商店街になるかもしれない。そうすれば田んぼは高い値段で売れるんではないかというやうな、模倣眺めの様子で、新しい農業に踏みきつて、どうしても、農業をやつていかをければいけないというやうな、意気込みがないんじゃないかと思ひます。そういうことが、子どもの面にもあらわれて六十何人か卒業しましたけれども、農業をするというので残つたのは、おそらく一人もいないんじゃないかと思ひます。

話を聞きますと、八幡製鉄がでけると、学力がないと、結局就職するときに困る。それで、今のうちに教育をつけておくということなんです。ですから、結局農村は、年寄りとお母さんが残つてやつてゐるわけなんです。婦人会の集まりでも、兼業農家で自分のたべるだけしか作つてゐないお母さん方は、割合に集まるんですけれども、忙しい農家のおかあさん方は、ほとんど、農休日というのがきめてあつても、行なわれてゐないやうなありさまです。

私のほうは、出かせぎはございません。暖いところですから、早期栽培なんか始まるし、いろいろ蔬菜を作るのに手間がかかるし、冬場の休んでいる期間というのがちよつとしかないんです。だから、百姓の土方にいかれるという程度なんです。

松原（リーダー） そうすると、もう京葉工業地帯の工業化がそのへんまで及んでいるんですか。

窪田 ついそこまで一海岸近くのところなんか、補償金をいただいでありますね。私のところは、海岸から一里ばかりはいつておりまして、海岸に工業都市ができると、住宅地になる、団地か何かができるんじゃないかといわれています。

松原（リーダー） そういつた問題で、あと共通のことがらが出てくると思いますので、その問題も、あとで取り上げてみたいと思います。

次に、中部地方の富山の高畑さんをお願いします。

高畑 富山県と申しますと、売炭屋さんかと申されますが、売炭はたしかに私のところの大きな仕事ですけれども、新進都市に指定されました、観光も、立山というすばらしく美しい、雄々しい山があります。そういう関係で、山あり、海あり、川あり、ひじょうに天然に恵まれており、そのうえ、発電所も、いくつもあつて、黒四ダム、そういうダム工事がひじょうに盛んなのです。

私のところの、すぐとなりに、四百戸の部落があつて、伝統的に出かせぎに出るところなんです。そして、男の人たちは、土産業とか、土木工事、ダム工事、そういうふうな、忙しい間は家へ帰つてきますがそれもほんとうに田舎のころ一カ月と、秋の取り入れのころ二十日くらい、それと、お正月二日から三日帰つてくるという状態です。

それで、私個人会長として何とか農家を楽に、楽しくしていきなというみんなの念願から、婦人学級で、家事労働を制限するために台所、作業場の改善を取り上げて、五年くらい前から、一生懸命みんなで勉強してきました。そして昨年、どういふ成果が

ら、近代化された工場の中で立派な技師になりたいとか、自分なりの夢をもっているんです。それをかなえてやりたいし、子どもたちとも、上手にやつていきたいと思ひますし、いろいろと悩みを感じるんです。

そういう場合は、どういふふうにしていつたらいいかみなさん方に、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

松原（リーダー） 今のお話しの中に、かなり重要な問題があつたと思ひますけれども、今までのお話しで、共通しておりましたのは、出かせぎ、兼業化がひじょうに進んでいく、それが流行のよりの形で進んでいく反面には、兼業農家でしかも婦人でありながら、米作りをする上にいい米を作りたいという農業に対してひじょうに強い関心をもつていらつしやる。しかし、そのことがお勤めのご主人には不満である場合もあるし、お子さんにひじょうの問題もある。これは、当然この会議ですぐ問題にしなければならなと思ひますが、のちほど問題を整理して、討議の手がかりにしたいと思ひます。それでは、長野の百瀬さん。

百瀬 私は、結婚して五年になります。子どもは三才と一才、男の子が二人あります。耕作面積は、二・四ヘクタールで稲作です。

私は、嫁という層から抜け切つていないようです。うちの経済をくわしく知らせてもらつたのがつい半年くらい前のことなんです。今までは、周囲の人にくらべますと、耕作面積が多いから、「あなたのところは問題じゃない」などといわれたものだから、そうかなと思つていたんですが、具体的に、うちの経済状態を話されてみてひじょうに問題が多いということに気がついたんです。総収入は百万以上ありますが、トラクターを導入したり、人手不足で一日だいたい八百五十円以上の賃金を払つてよそから労働

あつただろうかという討議をやつたんです。五年くらい前には、例を申しますと、ホームポンプが十軒のうちに二軒くらいしかなかった。ところが、今では七十八軒に進んできました。プロパンガスも八十九軒になつた、それと同じように、台所の配置がえとか模様がえをして、ひじょうに近代的になつてきたんです。その結果をみんなで話し合つたんですけれども、若いおかしな方は家事労働が楽になつて、家の中で楽しく子どもたちと一緒に生活ができるという人もあるのですが、男の方が出かせぎに出ているのに、若いおかしな方も工場とか、土木工事とかに、家に残るをかけて出ていく家庭がたくさんあるんです。それを何とかしなければならぬ。みんなで、自分の生活の時間を持ち子どもたちの教育なりいろいろの面で、もつと一人一人が信念をもつて勉強していかなければならぬんじゃないかと、思つていられるわけですね。私のところは、一町四反くらい、私が主になつて米作一本で一生懸命やつていられるんです。今、米は、統制のワタにはいつていて、割合に恵まれた額がきちつとはいつてきますが、統制がはずれた場合にも、困らないようなんが立派なものにしていきたいと思ひます。

もう一つは、富山県は米どころだけれども米がまずいともいわれております。私は、富山県のお米はおいしい、いつまで保存しても味が衰へない、そういう米を作りたいなという夢をもつていられるんです。ですから、私一人で朝から晩まで、くるくるまわつて計画を立てているけれども、落ちつかないんです。主人にも手伝つてもらつてはいますけど、銀行に勤めておりますので、いろいろ細かい仕事をもち帰つてきますので、私が農業に追われておりますと、あまりいい顔をしないんです。子どもたちもだんだん大きくなり、頭は高校に入學したばかりですけれども、大学を出た

力を得なければならぬように経営状態で、経済的に楽な生活はとてできないんです。私の地域の環境は、松本の市街地に自転車で十五分くらいのところなんです。このごろでは、宅地がだんだん造成されて、近所でもアパートを建てたり、主屋や納屋を改造したりして、サラリーマンに貸しているんです。そういう小づかいかせぎをしておりますし、私の夫も冬には土方にも出ますしコンクリートの工場などでも働いております。それはうちばかりでなく、農家の男はほとんど出かせぎにいきます。そんな状態の中で、新進都市に指定され、若い人の間にこのことが論議のまとなつていきます。私自身も、いつ工場が進出してきて、農地を強制的に買上げられる事態になるかもしれないし、そういう不安定の中で、生活手段の農地を手ばなしたらなどと考えることもありま。現在の状態と環境を含めて、ここにもみなさんに共通した問題があるんじゃないか、そういうことで、何か解決する方法をみいだしていきたいと思つております。

松原（リーダー） 百瀬さんは、ご出席の中で、一番年の若い方のようにですが、一つはお嫁さんの立場というものがあつて思ひます。これはあとでお話ししたきたいと思います。

長崎の手光さんは、お姑さんの立場で、作文をお書きになつておられるようですが、そういう二人の間でお話ししたきたいと思ひます。

百瀬さんは専業農家で、いつ住宅地にならないともかぎらないそういう不安な中で、農家を支えていかなければならぬという問題は、たんに、自分のところだけの問題ではなくて、そういうたことの見通しすら与えない現在の政治、とくに地方行政という問題でもあると思ひるので、のちに討議の手がかりにしたいと思ひ

ます。

これは、千葉の窪田さんからも出た問題で、次のテーマにした
と思います。

それでは、京都の長沢さんをお願いします。

長沢 私の地域は、俗に、うなぎの寝床といわれる細長く続いた山
の中にはさまれたところで、耕地面積が少なく、比較的恵まれて
いる家は、ほとんど山をもっている家なのです。立地条件が悪い
ため、働くわりに、恵まれず、若い人はだんだん都会へ出てい
きますし、親たちもそれを奨励しているくらいで、若い人が村に
残っていると、かえって目につくくらいです。(笑)それで、主
婦が残つて農業をしているので、すいぶん忙しい暮らしです。
その忙しさからの解放のために、共同経営などで、合理化をしよ
うと思ひますけれども、小さく区画されている水田ですから、労
働がしにくいところなんです。

私も途中から農村にはいつてみなさんと社会的なつながりをも
つためには、同じ体験をしなければと思つて農業を始めたんです
が、やつとその技術を覚えかけたという段階なのです。やつぱり
女の人に農業をまかせるのは無理ですし、私たちの地域では個人
だけで経営の合理化を考へても限界があるんじゃないかと思ひま
す。しかし、横とのつながりをもつて、何とかして経営の合理化
をはかつて、忙しさから解放されるよう、今後考へていかなけれ
ばならないと、私は考へております。

松原(リーダー) 実際に、ある程度の共同の方法のきつかけ、あ
るいはすでに何らかの共同作業をおやりになつてゐるわけでござ
いますか。

長沢 養蚕を共同でやつております。そのほかは、まだほとんどや

考へてやつております。

松原(リーダー) 今のお話しの中に問題点が二つあつたと思ひま
す。一つは、構造改善の問題にひつかかると思ひます。

水田を果樹に転換する問題、それは、大きな借金を個々の農家
が背負わなければならぬ。それが、今までの農家の生活の圧迫
ということになるんじゃないかと思ひます。これは大きな問題で、
つとこみはじめると、大へんになると思ひますが、のちほど、話
をあらためまして、やりたいと思ひます。

後半のお話は、全体的どこでもみられる家庭の電化が進むにも
かわらず、生活様式がそれに伴つて変わつていない。冷蔵庫は
あるけれども、中身は空っぽだ、こういう現象は、生活改良普及
員の長瀬さんもいらつしやるので、いろいろお話しを伺いたいと
思ひます。

それでは、鳥根の万波さん。

万波 私がお伺ひしたいと思いますのは、主婦の健康保険の問題と、出
かせぎ農家の主婦の、この二つの問題でございます。

農家の主婦の健康保険は、鳥根界の場合で申しますと、国民健
康保険に入っている一般農家の家族は国庫で五割みてくださるわ
けですが、サラリーマンの家族になると七割までみていただく
わけです。もちろん、サラリーマン家庭の本人は無料になつてお
ります。

婦人部の会合で労働過重に陥りやすい農村婦人が五割の国庫負
担で押さえられているのはどういふわけかと、みなさんおつしや
います。こういうことを、農家の婦人がだまつていてよいのかと
よく聞かされるわけです。この問題は、私たち一人一人がさけん
でも、とても避けるものでないので、この席上で取り上げてはど

つておりません。

松原(リーダー) 今までのうち、はじめて出てきましたのは、農
業経営の共同化、共同組織を整備していくことによつて、主婦自
身の労働の合理化も考へなければならぬということですね。こ
れは、他からみると思ひますから、先で問題にしたいと思ひま
す。

それでは、和歌山の清水さんどうぞ。

清水 私のところは、割合気候も暖いし、みかんを主に作つてお
りますが、すいぶん奥のほうですから、段々畑になつております。
水田も大部あつたんですけれども、最近ほとんどみかん栽培で
す。みかんが一本の木からかごにいっぱいといれるには五、
六年かかりますので、それまでにとでがいます。消費もし
なければならぬし、肥料もやらなければいけませんし、恵まれ
ているわりに、経済的には豊かではありません。

最近みなさん冷蔵庫なども買いますが、中に入れるものがな
くて、じやがいもがはいつていたり。(笑)つづものを入れた
り、いろいろ家具を整えても、便所にはへがうようよしている
ような環境で、とても矛盾を感じます。農家のあととりを家へ引
きとめておくために、車を買つたり農機具の新しいのを買つたり
する家もあるんですけれども、それが競争み合いになつていま
す。私はこんなことよりも、食生活をもつとよくしていかなければ
ならないと思ひます。お年寄りたちは、むしろ、じやがいもと
つづものだけで、こんなに長生きして何事もなかつたといわれま
すけれども、子どもたちは、インスタント食品や栄養のあるもの
を好みますし、その間に立つて私たち主婦は、一番つらい思ひを
しているんです。それで、にわとりを飼つて、野菜もグループで

うかと思ひます。そして全国的な組織にでも訴えて、もつともつ
と大きく取り上げていただけたらと思ひます。

それから、出かせぎの家庭で、おとうさんの長期の出かせぎに
は、主婦の苦勞、子どもたちの淋しい気持ちを考へて、せめて一
カ月に二日か三日くらいの有給休暇をつづつて、職場から返して
ほしいという問題でございます。

私の知つてゐる家庭では、おとうさんが今年の正月に出かけて
まだ帰つてきません。小学校の三年生と中学一年の子どもがいま
すけれども、テレビも何もいらないから、おとうさんを返してほ
しいといひます。この二つの問題を勉強させていただきたいと思
ひます。

松原(リーダー) 今の問題、二つとも重要な事柄だと思ひます。
健康保険の問題は、たしかに現在おつづの健康保険は企業体が加
盟して、国民健康保険とは多少の差がありお医者さんにかかる人
も、国保の人が少ないということが問題になつております。それ
に隣接して、主婦農家の方の健康の問題は、やはり考へていかな
ければいけません。じやないかと思ひます。

それから、出かせぎの将来の問題、これは今まで出かせぎのお
話しが何回出てきましたけれども、ただ出かせぎの問題を、男
の方が出かせぎについて、農業労働が女の方にかかつてゐるとい
うことだけをつかまえて考へるんではなくて、この問題を家庭の
問題と関連してとらえなければならぬ。とくに夫婦の問題にもか
かわつてきますし、子どもの教育の問題にもかかわつてくる事
柄だといふてよいと思ひます。

こういう家庭管理、家庭の人間関係の問題にまで含めて、出
かせぎの問題を取り扱う必要があるんじゃないか。これは、あと

で問題にしたいと思います。

それでは、岡山の中村さんお願いします。

中村 私のところは、四年前まではぶどうとお米の集散地だったのですが、新産都市となり、工業がだんだん進んできて、田んぼなどもそのために買上げられる状態です。で、農業だけでは経営がでないの、やはり兼業農家がふえてきたわけです。一つには農作物の価格が安定していないということもあるかと思いますが、四年前までは専業農家がずっと多かつたが、現在では、兼業が七十五パーセントで、専業が二十五パーセントくらいになっております。

兼業という、三ちやん農業といわれておりますが、おとうさんがみを出かぎにいますので、残っているのは、年寄り子どもだけで、村の共同の役割りをする人もいないし、日常の生活にも支障をきたしているようなわけです。

それから、最近はお米の価格が大へんふえてまいりました。それは小作料が安いことと、小作権の保護を、あまり政府がしすぎるためではないかと思えます。小作に出した田んぼが返つてこない。あるいは、ひじょうに高い値を出さないと、地主の手に戻らない。それで、少し高いけれども請負いに出して、一年間お米をつくつてもらうというケースが大へんふえてまいりました。

それから、経営者がいないことです。工場へ若い人が働きに出ていき農業をする人がなくなつております。中には、百姓をしていたのではお嫁さんが来ないから、サラリーマンになる。(笑い)それから、工場が建つてきて、いつ自分の土地が買上げにかかるかもしれない、今資本を投じて農業をやるのもどうかと、様子を見ています。

松原(リーダー) 契約というのは?

多田 これは一反につき最低二万円という……。

私のところの耕作で一番安定しているのは、葉たばこで、手間はかかりますけれども、一反が大体十万円くらいになるんです。主人はいないので、私が葉たばこを経営しています。つくるときに、指導員がものすごく熱心で、肥料のことでも移植のことでもひじょうに細かく教えてくれるので、葉たばこは安心して栽培できます。

私なんか下手で、収入は少ないんですが、それなりに補償金がいただけるんです。ほとんどのものをつくつてみただけですが、葉たばこみたいにくちんとしているのはいないと思えます。

主婦農家がふえております今日、とまりが植えているから、さあ家も種ようかというような経営ではだめだと思ひます。

それから、葉たばこを、乾燥するとき、薪でくべていたんです。薪ですと、家族が全部時間割りをしてやるんですけれども、最近、五軒でグループをつくつて、共同でやつております。

私のところは主人が勤めておりますから、夜通しするのは、ほんとうに困るんですね。それを共同でするときはくじ引きできめまして、きょう夜したら、明日は昼というようにするからこそつくれるんだと思つています。

おとしですか、薪の代りに、重油バーナができたとき、こないものはないと思ひました。横で寝ていながら乾燥できるんです。みんなが買ったんです。そうしたら、今年の二月ごろガスバーナができて、それならほつともいい。二年しか使つていない重油バーナは、買手はなく、売るにも売れないんです。やつぱり機具を組織的にあんまりパツと売りこまれると、あとで

それと、ぶどうのほうも、ひじょうに手うすになつてきて、農業経営がひじょうにむずかしい状態になると思ひます。ぶどうをつくつたり、お米、お麦をつくるのにかかる時間と労働力を節約して、少しでも工場に出ていく、あるいは土方に出ていく方がひじょうに多くなつています。

こういう現在の状態の中で、私も主婦は、子どもをどのようにに教育していつたらいいか、人間関係をどのようににしたらいいか、また、労働を強要されている、主婦自身の健康をどのようににしたらいいかと考えております。

松原(リーダー) 農業生産を、ある程度阻害している条件みたいなものもいろいろあげられたと思ひます。新都市地域にはいつていて、農協組織みたいなものを閉鎖しているという面もあつただろうし、小作の土地の、所有権、耕作権の問題、請負い耕作というような問題もあります。

もう一つ、生活の面で、いろいろな近郊農村の悩みというものがあげられたかと思ひますが、のちほど整理いたしまして、それそれ問題にしてみたいと思ひます。

それでは、四回へいきまして、徳島の多田さんお願いします。多田 私のうちの耕作は、田と畑両方あわせて一町八反です。主人は勤めておりますから、私が中心になつて農業経営を行なつております。

私の地方は、畑はうりとか大根の産地なんです。今年、うりも大根も安くつて、私のところは契約栽培をやつており最低二万円の補償がついておつたんですが今年は大だけだでなしに、抜いてもくれないんです。私のところは抜きましたが、近所には、そのままのところがあつた。

困ることがあると思ひます。

松原(リーダー) 今のお話の中に重要な問題もたくさんあつたと思ひます。一つは、農産物価格の問題が、農家のひじょうに大きな障害になつていっているのは、この場合でも同様と思ひます。とくに、契約栽培のように、市場と関係をもつて農業が行なわれる場合には、とくにそういうことが課題としてあげられるかと思ひます。

それからもう一つは、とくに主婦が中心となつて農業を進める場合に問題として出てくるのは、農業指導の問題がある。畑作の場合は専売公社の技術員が指導をします。一般の最近の農業技術指導で全般的に特微化しているのは、技術員にまかしてしまふということ、ほとんど手をつけていないということもあります。主婦農家が農業の中心になつていく場合に、指導というものが望まれるわけで、それは、今後の課題になりますし、最後に出た、新から石油バーナ、ガスバーナの、目まぐるしい農家の技術革新の問題では、商業政策として結びついてはいつてくること、ひじょうに大きな問題だと思ひます。そのことが、一方では、農家経営における生産費の圧迫というふうな、いろいろな問題をここにあらわしてくると思ひます。

私もたばこの生産地に何回かいったことがありますが、乾燥のときの労働のけしきは、ほかのものにくらべものにならないですね。何日か徹夜をしなければならぬし、常に一定の温度を保つだけではなくて、専売公社に指定された温度にあわせてやらなければならぬということがありまして、つくづく大へんだと思ひました。あとでもう一度全体のお話の中で、農業生産をはばんでいるもの、主婦労働をはばんでいるものということ、

考えてみたいと思います。

それでは次に九州へいきまして、長崎の手光さん。

手光 私は、汽車の中で、佐賀県の農家の方と会いました。北海道に旅行に行く途中で、子どもさんをもつておられるが、一人は大学へいついて、農業の後継者がいない。ご主人と二人で二町三反長さが七十間もある、こつちの道から向こうの道までは自分の土地だということです。そのお話を聞いて、うらやましかつた。長崎県の耕地面積は平均五反から六反しかなく、その耕地も平坦なところにあるんないけりけれどもあつちからこつちまでくるのにトンネルを通るんです。とてもけわしい段々畑なんです。平野もあることはあるが、瀬戸平野と島原にあるだけで、あとは全部けわしいところです。農業の機械化で農機具は買っているけれども労働が、よその県の人に紹介できないくらいひどいんです。だから、主婦がそれだけ過労になるということですね。

もう一つは、そんなふうで、耕地が少ないので、他産業に流れる人が多いんです。

私のすぐ上の人は、ご主人が福岡に出かきに出ておりました。が、とうとう家族いっしょに引きあげていきました。小作権の保護をしすぎるくらいがあつて、人に貸してはとられてしまつたのではないかと心配から、親類にあつたような形になつて——そういうところに、私はもう少し政府の施策を考えてほしいと思うんです。

それから、主婦農家というのは、ある一面からいつたらせいたくなんですね。他のほうから農家の生活費以上の、何万円というお金がはいつてくる。きのうお聞きしたんですが、ご主人は銀行にお勤めしていて、ご自分で百俵以上供出して、内職が月に五万

円以上はいつてくる。私のほうの農業では、全部かかつても五万円どころか、三万円も二万円もはいつてこない。そんなところに大きな問題があると思うのです。

私のところでも、一戸あたりの耕地面積は少ないのです。そして、他産業に流れていくのです。ご主人は大学の先生をしていて子どもさんは大学にいつている。奥さんは商売をしている。その手間に田んぼを耕しているという方がいるのですが、そういうのは別にして、ほんとうに農業で食べていく、他に道のない農家にもう少し温かい施策をしてほしいと思います。これが貧乏果の悩みだと思つてます。

私はこちらにくるときに、農業の会で司会をさせていただいたんです。大体、今度の協議会のテーマは家庭の役割りで家庭の問題はですけれども、農家の経営問題という、が然目の色が透り込んでます。涙を流してつらいことを訴えるんです。私は根本問題は、農家の所得がきつ、これが一番原因しているんじゃないかと思ひます。

私のところは、一町ばかりしかつづいていないんです。長男が百姓をやると申しますので、牛小屋をつぎたして建てたり、乳をしぼるのを四頭と育成牛三頭、七頭飼つています。ほかの男の子は大学にやりまして。

私のところは、大学にいつた子供よりか、長男のほうに、主人の退職金や何かもつぎこんだんです。二男、三男から毎月お金を送られてくるのです。二男から一万円、三男から二万五千円づつ送つてくる。そのたびに長男が情けない顔をするんです。ほんとうに農家の長男がかわいそうだと思つてます。(涙をとめて)牛乳というのは、生産するところもきついても、飼う人もき

つ。牛乳は、昔はぜいたくでしたけれども、このごろは、学校の給食では、なくてはならないものになつていきました。この流通問題はどうしても大手メーカーにかなわない。私たちが一生懸命やつてもかなわない。これをどうにかして、専売品みたいな取り扱いにできないもんだったら、これは私、問題だと思つてます。

嫁は農業がとて好きで、農業でなければといつてきたんです。長男も、どうしても農業でなければいかにといつて、そのころはそれほどひどくなかつたんです。畜産と果樹のほうへもつと力を入れたさいどさげばはじめたころよりだした。それが政府からいわれてから三年もしないうちに、牛乳は足りないんだといひながら、三年目には、乳製品が売れないから、バターなんか買つてくれといつて、私たちも買わされる。たのみにする政府が先の見通しを誤つて三年くらいでひっくりかえす、そんな政策をたてられては、私たちの農家は太へんきついです。もう少し政府が温かい政策をとつてほしいと思います。

松原(リーダー) 私もその通りだと思つてます。婦人会談というようになるとなると、家庭の中の婦人の問題、それを、嫁と姑の問題であるとか、家庭の中の人間関係であるというように限つてしまふんですけれども、私作文を讀ませていたをまして、感じたことは、まず最初に、ご主人方が直面しているのは、農業経営の問題で、農業経営者としてのご主人方が話し合つて、とにかく、一通り事情をお話しいただいて、それから、いろいろ問題にはいつていきたいと思ひます。

それでは、宮崎の日高さんに伺いたいと思ひます。漁業経営に携わつておられる日高さんは、漁村の様子をお話くださるのでしようね。

日高 私は純漁師の漁師の嫁でございます。農村の方のお話を伺つておりました。農村は、一生懸命お働きになるけど、いつもご主人と一層でいいなと思つておりました。出かせぎで私も漁師と、ちつともかわらないんだということを、つくづく感じた次第です。

私の場合を例にとつて申しますと、今までは大型船に乗りこんでおつた関係で自分の時間がたくさんあつて、のんきに暮らしておつたんですが、昨年からは沿岸漁業にきりかえたのです。沿岸漁業になると、いろいろ融通がついて楽なんですけれども、零細な沿岸漁民は、わずかに、二トン、三トンから十トン足らずの船で命をかけて働いているのです。そういう零細漁民に対しては、何の生活の保障もないんです。大型船になると、船員保険法による組合制度があつて、融通されるが零細漁民にはそれがありません。そのため、あとを継ぐ人がなくて、仕事をするのは年寄りばかりです。それと、あと私も女です。漁にはでられませんが、船つてくれば男と一緒に仕事をします。頭から水をかぶつたりして海にいきますが、まあ、漁があるときは、値段は安くありませんけれども、とにかく気持ちにはりあひがあるんです。ないます。なつたら、農業は、いくら台風がきても、自分で食ふことくらいはできると思ひますが、漁師の場合は、一文もないんです。そういう中から子どもを教育を考へても、なかなか手がまわらない場合もありますし、この問題を、とても強く感じたので作文にもそれを書いたわけなんです。

私たちは、これから、漁業をするように、子どもを育てていかなければならぬんじゃないか。次をになつていく人を育てていかなければならぬんじゃないかと考へておりますが、零細漁業

だと、頭のいい子は学校に出て、サラリーマンにするのが、親の願いです。自分が船に乗っていると、ほんとりに男の生きがいは、この海原にあるんじゃないか、私は子どもがいないんで、もらい子でも育てたいと思います。

松原（リーダー）　ここにお集りの方々、漁村の経験をおもちにならない方がたくさんあると思いますので、そういう点で、これからあとも日高さんのお話している耳を傾けていきたいと思っています。

それでは、最後に鹿児島県の原田さんにお話しいただきます。そして、まどめにしたいと思います。

原田　鹿児島県は昔から出かせぎの県として有名でございます。桃太郎の童話にたとえるならば、おとうさんは他県に出かせぎに、おかあさんは山に柴刈りに、そして印や畑にまいるというふうにかえなければならぬと思います。

農業総収入というのは、専業で一人あたり全国の四十六位という低位置におかれておりますのに、消費はだんだん上昇をたどり、生産面と消費面のアンバランスが目だつてまいりました。

鹿児島県では、五〇・七％が現在農家で増えているようです。鹿児島県では、農村村落運動と申して、農家で環境づくり、仲間づくりなどという運動を起しております。その中に、仲間づくり運動が取り上げられ、農業経営者の育成ということが、やましくさげばれているようです。

農家にあとと息子を引きとめるために、電化製品をそろえたり、農機具をそろえたり、新しい家を建てて、そこに息子夫婦が住まりようにしてやりますけれども、鹿児島県というところは、かわつた県民性をもつていて、父親は、ただ、でたらめにいばるこ

としかしらない（笑い）県なんです。息子たちは農業を継ぐとして農業関係の学校をでて科学的経営で、一生懸命やろうといひきごみでいるんですが、父親が、そういう経営をやつたらおしまいだと、息子の意見を、てんで取り上げてくれないんですから、せつかく農業で立とうとしている若者たちをよそへだしてしまふような結果になつていっているのです。

お話を聞かせるにも、ある青年は、いなかにくる前は、三級品ばかりだ（笑い）などと、ぐちをこぼしてましたけれどもそれをもうおむこさんは五級品かと、（笑い）という話があるので

お話を聞かせるに物質的な受入れ態勢は、完全に近いほど整っているんですが、精神的受入れ態勢となると、お財布はおかあさんがにぎつていたり、嫁を労働力としてしか考えていなかったりというところで、一級品の花嫁さんがくるはずがないと、先生がおつしやつたそうですけれども、農家に優秀なあとと息子育成するといふ面では、鹿児島県にはいろいろと悩みや問題があると思ふんです。そういう点で、みなさまに教えていただきたいと思っています。

松原（リーダー）　これは、鹿児島、宮崎、南九州の場合にひじょうに大きな問題になつていっていると思ふすけれども、農業経営者はいかに育成していくか、従来から、若い人たちが県外にでる県でしたけれども、ただだんに、個々のお宅で息子さんを引きとめるというふうな、何ら具体的な解決策のない問題、それが問題をはらんでいる事情かと思ふすけれども、そういうことも、当然あつて問題にしたいと考えます。

以上、北海道から鹿児島まで、全国の各地の実情を、とくに農

ておられる。その場合に、農業の妨げになる条件がいろいろあるということだと思ふんです。

ひじょうにたくさん出た中で、注目されることの一つは、やはり新しい農業をやらなければならぬが、その妨げとなるのは価格の問題である。政府が助成したから、ひじょうに評判がいいからと、蔬菜なり、酪農なりにきりかえると、やがて価格の暴落を生んで、どうにもならなくなるということがある。そういうことが続く限りは、新しい農業にふみさることは、とくに婦人の場合はむずかしいんじゃないかと思ふんです。

もう一つは、農業の行先不安を与えていると、新産業都市の指定地域の村の方々が何人も発言されましたように、行先工場になるかもしれないし、宅地になるかもしれない。それなのに、一生懸命に農業をやろうというのがむづかしいことなので、将来その地域が農村として成り立つていくのか、あるいは工場地域として成り立たせるのか、その見通しを、行政担当者は住民とくに農業生産者である住民に、指示を与える必要がある。農家の方からいへば、はつきりと見通しとしてつけていただく必要があると思ふわけです。

さらに農業の近代化、あるいは労働の合理化をはかるためには当然経営の合理化がはからなければならぬ。経営の合理化が、機械の導入ということだけであれば、いろいろな形で商業商品の売り込みの問題にひつかつてくる。それに立ち向うためには農業の知識、技術を身につけていなければならぬんじゃないかということをおぼれたと思ふんです。

さらに、経営を合理化していくためには、個別の経営というワ

業生産に関連してお話ししたいたわけですが、その中で、いろいろの問題が出たわけで、たしかに日本の農業生活の実情は、語り尽せないほどの、ひじょうに大きな問題をはらんでいると思ふんです。もはや現在の段階では主婦農家、出かせぎ農家という事柄を、ただだんに三ちゃん農業とか、あるいはかあちゃん農業とかという形で、ジャーナリズムでも問題になつていますけれども興味本位の課題にする段階はすぎたんじゃないかと思ふんです。これは、もつと正統に、理性的に取り扱わなければならぬんじゃないか。

従来、主婦農家の問題というと、すぐに農業労働の過重ということだけを問題にしてきた。本来、農業労働が過重であるかどうかということは、ただだんに、肉体的、生理的に労働がつらいからということではなく、労働に比して割に合わないということにあると思ふんです。日本の農業を割に合わないといふのは、専業農家にだけいえるものではなくて、主婦が中心になつてやつている農家の場合も同様を考えなければならぬ。その場合に、主婦農家も農業というものをもう一度理性的にみつめる必要があるんじゃないかと思ふんです。それを妨げるいろいろな条件は何かを考へる必要があるんです。この会議の最初の課題は、実際に農業生産、あるいは漁業生産に携わっている主婦の方として、実際の農業をこれから先、どういふふうに考えていくか、それをばはんでいふ条件をどう解決していくか、そういう立場で問題を考えていければならぬんじゃないかと思ふんです。

今までお話しに出ましたことについて形式的にいえることは、兼業化が進み、出かせぎが進んでいる。しかしその反面、残つた農業というものがある、そして、農業の主力は婦人方になつ

らも出ましたように、葉たばこ生産の共同化が、なしかに多田さんたちを支えているし、この婦人会議に出席できるのも、共同化のおかげということもできるわけです。

以上、いくつかあげられましたが整理してみただけでございませうけれども、それをもう一度自由な発言でもつて、討議してみたいと思います。そのあと、もう一度整理して、そのうえで、今度は逆に田中さんが出た点が、何人かから、ただただに食えないからという面をこえた、一種の流行みたいになつて、消費財を買うために、自動車のお金を払うために出かせぎに行くというお話もあつた。生活の面にひつかつてくる問題として、出かせぎ、兼業ということを考えてみる。それから、家庭の中の細かい問題にはいつていきたいと思ひます。

休憩にはいります前に、特別オブザーバーで、全国農協婦人組織協議会の渡辺さんがおられますので、何かありましたら、ご発言いただきたいと思ひます。

渡辺(特オブ) お話しを伺つて、みなさんが農業をおやりになつていて、共業化の問題とか、そういう問題も出ておりますから、今まとめて伺つたうえで、そういう組織的なものに結びつけて、これから、よりよい農業をしていただきたいと思ひます。

松原(リーダー) 午後、自由討議があります中で、ご婦人方が農業の勉強も身につければならぬし、経営の合理化もはからなければならぬし、農業の姿勢を正していかなければならぬ問題もありまして、渡辺さんにご指示いただいたり、あるいは全国の実例をお話しいただいたりする機会をもちたいと思ひます。それでは、各地のご報告の中で、この点だけは自由討議にはいる前にお聞きしておきたいということがありましたら、どなたか

らでも結構ですから、二、三人しかお話しできないと思ひますが、どうぞ。

窪田 私のほうでは、人を雇うのに、一日八百五十円ですが、ほかの県ではどの位でしょうか。千葉県では農繁期になりますと、昼と夜、お茶二回で千円くらいなんです。

倉島 田中さんのときは全般的に五百六十円くらい払うんですね。

窪田 農繁期ですね、ほんとの田植えどき。

倉島 ほかの期間はずっと安いんじゃないですか。

窪田 ほかの期間は、草取りに六十くらいのおじいさんをたのんでも一日六百円くらい。若い人たのんだら、どのくらいかかるかわかりませんね。

長南 田中さんのときは千三百円くらいですが、このごろの傾向として時間制になつてきております。

安達 そういう賃金のきめる場所はどこで、

長南 農協とか……。

安達 農業委員会なんかで……。

清水 私らの、みかん取りの季節労働者は、千二百円から千五百円くらい。

長南 食事はサービスですね。

高畑 お話しをお聞きしまして、とつても賃金が高いので、驚いてるんです。私も、賃金は六百五十円、それも忙しいときです。私のところは、共同化がとてよくいつていて、五人グループとか、十人グループで、田植えを共同でやるんです。

きていたんだら、必ずお返しをしなければならぬ責任がついてまわります。お金では解決できない問題があるもんですからそれを何とかできないものだろうか、考えているわけです。

松原(リーダー) 今、労賃の問題がでましたけれども、これは人手不足が原因している問題ですが、ただその場合も、人手が足りなくなつたから、労賃が高くなつただけでなく、逆に需要と供給からいいますと、需要の労力を必要とする農家の数がふえたんですね。かつては、中農以上しかこういう労働を必要としなかつたわけですよ。五十アールとか三十アールしか経営しない主婦農家のほうが、逆に雇用労働力を必要とする。それが、千何百円になつてきますと、それだけ労働をかけて割に合うか合わないかの計算をつけてやらなければならぬ。

安達 全部人手まかせで米をつくつた場合、一升のお米が九十円にきますね。だから合いませんね。税金と肥料代は全然ないです。

窪田 私のところは委託耕作してあるんです。どつちが得か考えるんです。肥料代出して、私のところはお寺なもんですから、特別安く農家がやつてくれるんです。ところが今はそれではいけなくなつて、一反で二俵半というんです。それは昔の小作と同じです。こつちは固定資産税を払つて一反二俵半じゃ、それこそ割が合わないんです。

長南 二俵半くれるところは、そうないですよ。固定資産税、相続税、細かく計算しても人につくらせては一銭にもならない。かえつて赤字ですね。土地の価格のあがつてるところと低いところは違ひますが、大した差はないですよ。

窪田 売るときのことを考えますと、あまり高いことはいわれないうんです。すぐ返してもらわなければいけないと思ひます。それに、目先に工業化がぶらさがつているのであること。

日高 食事つきで、何時間労働でしようか。

松原(リーダー) 今、労賃の問題がでましたけれども、これは人手不足が原因している問題ですが、ただその場合も、人手が足りなくなつたから、労賃が高くなつただけでなく、逆に需要と供給からいいますと、需要の労力を必要とする農家の数がふえたんですね。かつては、中農以上しかこういう労働を必要としなかつたわけですよ。五十アールとか三十アールしか経営しない主婦農家のほうが、逆に雇用労働力を必要とする。それが、千何百円になつてきますと、それだけ労働をかけて割に合うか合わないかの計算をつけてやらなければならぬ。

安達 全部人手まかせで米をつくつた場合、一升のお米が九十円にきますね。だから合いませんね。税金と肥料代は全然ないです。

窪田 私のところは委託耕作してあるんです。どつちが得か考えるんです。肥料代出して、私のところはお寺なもんですから、特別安く農家がやつてくれるんです。ところが今はそれではいけなくなつて、一反で二俵半というんです。それは昔の小作と同じです。こつちは固定資産税を払つて一反二俵半じゃ、それこそ割が合わないんです。

窪田 朝七時ころから始め、薄暗くなつてあがるくらいじやありませんか。

長南 庄内の場合、正味十時間ですね。

日高 漁村では想像がつかないと思ひますが私どもの加工賃は、一時間四十円しかくれません。今年は少し値上がりになるかと思ひんですけれども、あまりかわらないでしよう。ですから、ずいぶん農業に働く方は思われていらつしやるなと思ひます。

高畑 私のところは、たとえはいろいろのお仕事に出ても、いくらたくさんのお金をいたたいても保障がないでしよう。忙しいとき

だつて十日、二十日くらいで、農閑期になればだれもたのまないでしよう。十日や五日でるよりも、農繁期には工場へ出て、きちんとした時間で、ちゃんと保障をされて、また来年は必ず雇つていただきますよというところなら、みんないきますね。

それから、先ほど私は、主婦農業を楽な気持ちでやつていようというにそれらしいんですけれども、それは全く反対です。

自己的な考えかも知れないんですけれども、大学に出さなければならぬ子供が二人もいますし、貯金もしたいし、老後は二人で楽しく農業をやつていきたい、それには一・六アールくらいの耕地はぜひ必要で、むりしても停年ころまではその土地をもつていたいと思ひます。

松原(リーダー) それでは休憩の時間になりましたので、その間にまた考えておいていただいて、もしご質問がございましたら、休憩後の最初にお尋ねいただきたいと思ひます。

(三時休憩)

(三時二十分再会)

松原(リーダー) 最初に直接農業の生産に携わつておられる主婦の方々として、農業をどうみづめるかということからはいつていきたいと思ひます。そのほか、育児の問題、家庭の問題などたくさんあると思ひますけれども、なるべく体系だつて話しを進めていきたいと思ひますので、農業、漁業含めて、生産活動をしていけるうえに、どんな悩みがあらになるか、早なる質問でなく、耐議として、自由に進めていきたいと思ひます。

長崎の手光さんから、会費をやつた場合に、農業の問題になる目と色がかわつてくるというお話がありました。私も前に栃木県だつたと思ひますけれども、婦人の研修会を、生活改善と、農業部門にわけてやりましたところが、大部分農業の部会にはいりたいたいわけて、ひじょうに驚いたということをお聞きしたんです。先ほども申し上げましたように、単に主婦農家の問題を、同僚論や、興味本位の問題としないで、農業生産者として、これは工場労働者の場合でもサラリーマンの場合でも、生産者として自身をみつめるということが、必要なんで、そのへんから話しを進めていきたいと思ひます。どなたからでも結構ですから、自由にご発言をいただきます。

安達(野菜の価格が安定してない、そういうことよりも農業基本法にもとづいた構造改善をすればいいんだから、もうかる農業をしなればといわれるが、そういう方法を教えていただきたいと思ひます。

松原(リーダー) 今のお話は、要するに、みなさん方に近代農

ことには無頓着だつたんですけれども、農家経営ということにめざめてきたと思ひます。

窪田 家計にひびくことなんですね。

手光 私のところもその問題が果の婦人会のときに出了んです。みかんを植えたんです。ところがそれがうまくいかなくて、その間の生活費が苦しくなつたんです。その生活までみてくれるような温かい施策がほしいということ。それから、自分のところは養鶏をやつていて、所得倍増がさげられておる折から、今までより倍増をしなければ、所得の倍にならないだろうということで、倍の羽数にふやしたんです。倍にふやすとすれば、資本金も倍で、労働力も倍なんです。ところが結局所得の段になると、倍にならないかつた、こういう悩みなんです。

それから、もう一つは、池田さんは、日本は大福だといわれる。けれども大福でなくともいい、小国でいいから、もつと生活の安定するような国をつくつてほしいと、これはこの間私が司会をした会議に出席した養鶏をやつてゐる人の要望なんです。

松原(リーダー) 養鶏を倍にしたけど、所得が倍にならなかつたというお話ですけども、倍にならなかつた原因はいろいろあると思ひますけれども、具体的にどういうところですか。

手光 そこまでは、時間がなかつたものですから。耐議する暇がなかつたんです。

多田 私は養鶏を二百羽くらいしております。卵の収入は、流通関係でものすごく値段が違ふ、それも月によつてすごく違ふんです。ところがエサ代は値上がり傾向で今年もよほど上がつたと思ひます。ですから、私の家では赤字の月は養鶏の赤字を主人の月給で埋める月がたびたびあります。卵が高いとき、足りない月にまわ

業をやつてももらいたいと思つてゐる、それなのに、みなさんの収入からそういう方向にとびついてこない。そのために、作物の価格が不安定だといふいい方をされた。しかし、実際に経営をしておられる立場からすれば、近代農業にきりかえるときに、本田、果樹のように収入があるまで、資本をねかさなければならぬといふ問題もあるわけで、そういう方策をしてくれないで、もうかる農業をやるといつても、困るじやないかといふた趣旨だと思ひますけれども、そういう点に対して、各地の事情を少しづつこんでみたいと思ひます。

長崎 今私のところは町の組織が運動してパイロットつくり指定していただいたんです。しかし、いざ踏みきろうとしたら、地区民の間に反対運動があつて、返上したわけです。その理由は、庄内地方は、一応水田の区画整理もできて、よそよりはつと見事にわつてゐるんです。三反、三十アールを一本にして六つ機械がはいるようにしたんです。その前に排水工事をやらなければならぬわけなんです。ところが、一億二千万円という限定された資本の、三倍以上もお金がかかるんだそうです。そうしますと、現在の農業経済が、すでに借金で、その返済のために月給制をとつてゐるくらいですから、それ以上は、どうして負担にたえられないといふわけなんです。そのときに、女の方たちもめざめて、運動したんです。そういうことが他の方にも影響して、ひじょうにちやうちよしてゐるんです。もう少し投資額が多かつたらいいんじゃないかと思ひます。

松原(リーダー) ご婦人の方がとくに声を大きくしてといわれたのは、どういふ面ですか。

長崎 農家の婦人は、家計を自分でにぎつていないから、そういう

したらいいんですけれども、子どものものでも買おうかなという気持ちになりまして、そこところ、自分でも反省してゐるところなんですけれども。

松原(リーダー) 価格の変動のことが出たんですけれども、その場合に、婦人方としてどういふふうに対処してゐるか、また経営者としてどうしたらいいとお考えですか。価格の問題を、国の政策として安定価格、支持価格をつくるようにしてほしいということ、たしかなことですけども、それを願うことと同時に、やはり経営者としてやらなければならぬことがあると思ひます。価格対策をどのようにやつてゐるか伺いたいと思ひます。

多田 私の地方は、エサ袋を返して袋代を引いてもらつてゐます。細かいことですけども助かります。

松原(リーダー) 当然問題になりますのは、価格が不安定であると同時に、安いというときの問題として、一つは流通価格のある部面までを、生産者が確保するという問題があると思ひますね。個別にリヤカーにくつつけて出すんじゃない、共同経営の仕方があると思ひます。それから、価格の変動に対処していくためには、長期的な見通しになり、あるいは経済や何かにおける価格の勉強が必要だと思ひます。

自分が売りに出した卵、野菜がどこでどう値がついて、どうなるのか、あるいはどのくらいこの地域には出荷されて、価格がどうなるのかという勉強などもやらなければいかんじやないか。そのへんについて、いろいろ実際にお悩みになつてゐることでしようが、もう少し価格の問題で話しをしておきたいと思ひます。日商 生産者の場合はとても変動があつて、価格の悩みが多いんですけれども、消費者の場合はどうなんでしょうか。魚の場合でも

たくさんとれた場合はうんとたなかれ、同じ町に住んでいる自分
が買るときはすぐ高いんです。そういう矛盾がある。卵や野菜
でもそうですか。

多田 卵は少ないですね。

倉島 卵価の問題となつてきますと、生産コストをきり下げなければならぬという問題になつてきます。私はひるまの養鶏で二百羽くらい飼つておりますが、ケージ小屋でなすつた方は、ケージがいい、いいといわれます。けれども、寒冷、積雪の極みの多い農家には適さないものがある。それなのにすぐ農民がとびついていくという、まずさがあつたんです。案外商業的な宣伝にまどわされてるんじゃないかと経験された方の意見を参考に、みんなを話し合つております。まだ結論めいたものは出ておりませんけれども、農業経営のうえに、設備投資が大きすぎるんじゃないかと考えております。

窪田 うちのほうでは、養鶏センターができておまして、そこでは手間をかけないでさうです。そのかわり、場合の向きとか何かいつさい計画的にできていて、結局それによつて人件費なんかを節約して経費をうかすというんですが、そういう経営をやつてゐる方がぼつぼつ出てきております。

松原(リーダー) にわとり談議になつてしまつたが、倉島さんからお話しがあつたように、価格の問題に対処するために、生産者が自分の財布を知る必要がある。コストをもつと節約する方法はないかということもありますし、それをやるためには、当然、機械や道具の売り込み、そういうものに対応するだけの経営者としての能力を身につけていく必要があると思うんです。それと同時に、農業経営あるいは漁業経営の技術ということを、当然問題に

しなければならぬし、技術能力を身につけなければいけないと思ふんです。

もつとご婦人方自身が技術面の勉強をされる必要があるし、それに伴つて技術指導を要求する必要があるんじゃないかと思ふんです。

先ほどのお話しの中にも、実際に農業技術を勉強していられるということが大わけですが、どんなふうにしておられるのか、いろんな技術上の悩みがあると思ふんです。とくに長沢さんはあとかから農業におはりになつて、一生懸命技術の勉強をされたというんです。

長沢 農業改良普及所に、農村婦人を対象とした農業講習会がありまして、一月に一回、一回の勉強が四時間ですが、それに通つたわけなんです。私たち何も知らないものは、科学的な見地から教えられたんです。またグループ活動の中で、グループのみなさんから教えられたり、グループに技術員をよんできて、一緒に勉強をするという方法をとりました。

松原(リーダー) 学校を出てから、もう何年にもなると思ふすけれども、あらためて勉強するといつたことに対する悩みといつたものはありませんか。

長沢 私の場合は、勉強してきたことをすぐ実施できましたけれども、もつと若い方は、せつかく習つてきても速攻があつてできないといふことがありますが、それが悩みだと思ひます。

松原(リーダー) それに対してどうですか百瀬さん。

百瀬 私はまだ嫁の立場で、直接農業経営というのに対しては、勉強不足で、そういう資格もないんですけれども、嫁にきた当初は、父も母もそして夫も私というように家族労働をやつていた

んです。その当時は人間関係の問題で、とにかくうまくいかないんです。夫が外に勤めに出ると、二・四ヘクタールありますから年寄りにはできない、父が外に関係した仕事をもちまして、たくさん収入は得られないけれども、毎日出るんです。それで私たち夫婦が耕やすようになった。母は私に子どもができてから子守り専門にやつてくれるんですけれども、現在は農業からあがる収入は私の夫が全部もちつて、家の経済いつさいやつてゐるんです。そういう面では私の地位は大部向上して、二人で相談してやることができますから、まだ従属的な立場にはゐるんですけれども、割に平等にやつております。

松原(リーダー) 今、若いお嬢さんの方からお話しがありましたので、少しご年配の方から。

万波 私農協婦人部に関係しておりますが、私も山間部ですのもつと林業経営が重くみられなければなりません。

原木を出すことはできませんけれども、しいたけの原木を出して、しいたけを売る。改良士から指導を受けて、婦人がみつめて三年ほど前からやつております。ところが価格の面で困つて農協にお願ひして、共同の乾燥場をつくつておりますので、一応みなまとめて乾燥して、そこから農協の手を通して共同出荷するようになつています。値段は私わかりませんが、共同販売、あるいは農協を通してやつておるわけです。

松原(リーダー) 農協の話が出たんですが、ここにど出席のかなりの方は農協婦人部の役職関係にも携わつてゐる方が多いんですけれども、私も農協婦人部の活動を方々で拝見させていただいて感じたことは、農協婦人部というのは、農協の組織そのものではなくて、農協を側面から感りたてていく組織である、ですか

らやつてゐることは農協の販売面の仕事をする。石けんやちり紙の共同販売をするといつた面でしかタッチしてこない。農協組織にタッチしてこないという面がたくさんあると思ひますけれども、その点高畑さんはどうですか。

高畑 今のお話しを聞いて、私も痛烈に感じてゐるんです。ほんとうに購買面の仕事だけを押しつけられて、それでちつぽけな、年間三万くらいの助成金を恩にきせたらようにお話しになるんです。

電気製品を買ふとか、農協マークの愛用とか、そういうことばかりをおしやるんです。

私は、購買面のことだけで、二万、三万の助成金で実際農協婦人部というのは終わるのではなく、生活指導とか生産指導をやつて、共同でやる仕事をやつていただきたといふ、いつも話すんですけれども、農協調査団の方は男の方であり、婦人の立場をおわかりにならない。偉い方には年令的に、私たちの年代の考えを、全然わかつていただけないんです。それで私、この間農協婦人部の協議会に出たときに、今まで農協婦人部というものは、婦人部に何かやらせる話しかつただけだけれども、農業の経営面で大きな柱をたてるときに婦人部から理事を必ず入れていただきたといふことをいつて、悪かつたかなとあとからひやりとしたんですけれども、これからはそういう面で、もつとやつていただきたと思ひます。

松原(リーダー) ご主人は銀行ですね。農業は一人ですね。農協の組合員としてはご主人ですか。一戸から二人はいつても本来はいいはずですが。実際はご主人はお勤めしてゐるのですから、ご主人は協力組織の婦人部として活動することしかできない。

農協婦人部の方はほかにもおられると思ひます。

「平光」私の心にもそういうことではないんですよ。やつていただけないんじやなくて、やらない婦人部に責任があるんじやなかるうかと思ひます。當農指導をしなければならぬと思つたのは、昨年ごろで、農協婦人部を設立して五年になるんです。婦人部というものがあつたのに、なぜ農協婦人部をつくらなければならぬか。その意味がわからなければいけない。農協婦人部は、農業経営をするうえに必要なからあるんで、そのためには購買事業も信用事業も手助けするのは、意味があると思ひます。食事もよくしていかうか、少ない収入で立派にやりくりして家計をまかなうとかのために、家計簿をつけたり指導をしたり、忙しいとき保育所をつくつたり、そういう面に二年以上費して、當農指導も一生懸命やらなければならぬというので、いろいろなことを少しやりかけたところなんです。

しかし、それに一つ問題があるんです。というのは、婦人が会に出るということがひじょうにむずかしいことです。役員会なんかも、とても過重になりますね。お料理でも、自分の部落で一つ講師をしようとか、仕事が多いんですね。他方では、地域婦人会にもでなければならぬ、同じ人がいくつも役をもつことは、研究のあい路になると思ひます。

松原（リーダー） たしかに婦人の方のそういうことは問題です。今度は漁業経営はどうなつてゐるか、それと婦人組織の問題を考へてみたいと思ひます。

日高さんは漁業婦人部長ですね。

日高 やはり農協婦人部と同じで、貯蓄と購買のお手伝いですが、実質的に動かなければいけないというので、あんまり組合におぶさらないうちに生活の合理化ということで、現在やつております。

三十七年度あたりから、婦人部は、暮らしの共同設計という身近なもの、グループの中から始めまた自分でできないものはグループ活動で行い、なおかつそれを上にもつていこうというのと、やつてゐるわけです。そういうものをみなさんのほうで、末端までいさとどかせるようにしていただければ、當農指導の問題も、組織を通じてあがつてくる道もあると思ひます。

暮らしの共同設計ができて、三年目ですから、今年はいさ一度自分の立場で見なおそうじやないか。やはり農業事業を通じての婦人部であるから、農協の婦人部員の自覚をもちなおして、いろいろ悩みを解いていこうじやないかということを、婦人部は事業方針としてうたつてゐます。

松原（リーダー） たんに消費生活面の設計をするということだけではなくて、生産生活を含めた共同設計ですか。

渡辺（特オプ） 末端にまゐりますと、農協婦人部と地域婦人会がはつきりしてゐないんです。地域婦人会の活動が多くて、そちらにひつぱられる方もあるかもしれませんが、農協婦人部がどうしてできたかを考えればおわかりになると思ひます。

暮らしの共同設計とは、つまり自分たちの生活部門、主婦労働になつておりますから、當農とかそういうことも協同化する。田植えどきだつたら、何軒か共同でやる。そういうことがわからないうときは、農協の指導員にきてもらうとか、そういうことです。日高さんの発言を私は詳細漁業だけでグループ活動を始めたというふうには受け取つたんです。

日高 零細な漁業の主婦だけで、もう少し生産をあげてもらうために、何とか話し合いをしてやつたらどうかという話が出てゐるわけです。というのは、農業と違つて、女が直接仕事をするとい

最近では、零細漁民の奥さんだけの組合をつくらうじやないかという話しがちあがつてきました。生産力をあげていただくためには、私たちがもう少し勉強しなければならぬのじやないかという問題にぶつかつてきたんです。近いうちに一度会合をもつてこの問題を盛りあげていきたいということになつてゐるんですけれども、最近では私のほうは、油津の漁業なんですけれども、油津というのは青つてゐないんです。漁協婦人部があるだけで、注目のまともになつてゐるわけです。地域婦人会みたいな教養面ももつてゐるし、生産面ももつてゐて、なかなか複雑な立場にあるから、これからはむずかしい問題がたくさん出てきて、いきづまりもくるんじやないかと思つておりますけれども、現在の段階ではグループの活動は生産力をあげることに重点をおかなければならぬんじやないか。そのために教育の問題も取り上げていかなければならぬんじやないかと思つております。

松原（リーダー） 農協、漁協婦人部の問題が出ましたんで、ここぞ全国農協婦人組織委員長の渡辺さんに、今の問題で感じにのりましたことをお願いします。

渡辺（特オプ） いろいろお話しが出ましたけれども、農協婦人部は、十二、三年前の発足当時農協の信用事業を手助けし、購買から始まつたことは事実なんです。たしかに婦人部の活動がなければ、農協は成り立つていけないところまで、婦人部は手伝つてゐるのです。今までも購買事業、信用部門だけの仕事だけではないといふことは、婦人部の部長さん方には浸透してゐるんですけれども、その自信が、末端までいきわたつてゐないんでないか、私たちは全国的な仕事をしてゐるので、末端まではわかりませんが、概況からみてそう思ひます。

りのではないんです。

船が帰つたとき、ただ水揚げを手伝うくらいです。男まかせなんです。経営面でも、税務署の中告も男まかせで、女は船の帰るころ浜に出ているという状態なんです。それじやいけないんじやないか、女として主婦として、もう少し何とかする道があるんじやないか、それを解決する場をもちましようという声がちあがつてゐるんです。

長南 暮らしの共同設計を進めるにあつて、グループでやりになるというのを強くいつておられますけれども、現場側からいいますれば、生活改善グループとか、実際あるグループによつては、農協婦人部の態度がつかない、これはどういう指導方針をとられてゐるのですか。

渡辺（特オプ） それは私のほうも全国組織として、たしかに農協婦人部が農協はあつて、農協の中の部門ではなくて、そのまわりにある一つの部門だ、農協が理解がないといふことは、実際聞いたこともございますが、婦人部の事務局は農協の組合長なり専務なり、参事という主幹部が担当してゐる。婦人部の事務局を確立したりしなければならぬといふことを、今年度は痛切に感じてゐるわけです。

農協がつめたいといふお言葉もあつたようですが、つめたいといわれる前に、やることをやつてしまつて、こりいふことをしてくれと要求をだしていただけたらいいんじやないかと思ひます。

松原（リーダー） 長南さんは生活改良普及員をやつておられるんです。私が受け取りましたのは、つまり、農協婦人部は、地域婦人会とイコールですけれども、地域網羅団体の場合に、たとへば、生活改良事業などの場合、サークル活動によつて、意識的な方々

を中心にして、小さなものから盛りたてて、こうという考え方が
ある。そういうサークルができ、外からサークル育成をされると、
組織がぶつかり合うという問題が各地にあるということなんです
けれども。その問題は、地域社会のところで、婦人組織をどうす
るかということを取りあげていこうと思つていますので、あとに
まわしていただきたいと思います。

それでは話しをまとめてみますと、最初、農業を取りまく価格
の問題を取りあげてきました。価格の不安定が農業をやつていく
うえに、ひじょうに障害になつていっているんじゃないか。それを解決
する問題は、いろいろあるけれども、一つは、事業の整備をする
必要がある。それには、経営上の勉強なり、あるいはコストをき
り下げるための努力なりが必要だがそれは、個別では解決しきれ
ないものをたくさんはらんでいるので、組織の力にたよらなければ
ならないんじゃないかということで、設備婦人部の問題にまで
はいつてきたんだと思います。

それから、農業を取りまく条件として、休憩前に各地のご報告
のなかで、また重要な事柄は、とくに新産都市指定地域の方か
ら、これから農業に重点をおいてやつていて、将来どうなるんだ
ろうかという不安が常に背後にある。その中で農業を一生懸命や
れといわれても、ひじょうに問題があるんじゃないかということ
がでたと思うんです。

それで、とくに近郊地帯で農業をやつておられる方の場合に、
そういう不安をどのような形でもちながら、あるいは、それ
に対して、どういうふうにかえておられるのか、そのへんを伺い
たいと思います。

新産都市としては、岡山の中村さん、長野の百瀬さん、千葉の

窪田さん、まだほかにもあるかもしれませんが、そのへんからお
話しをお聞きしたいのですが、中村さん、そういう問題に対し
てどうぞ。

中村 私のところは、期待している方が多いんです。将来子どもが
百姓をしてくれないだろう、それならば高く売れるときに売つて
おきたい、自分たちは年は上るし、ということ、工場誘致に協
力するところが多うございます。中には、反対する方もあるにはあ
るんですけども。

松原（リーダー） 中村さんは共同組織で農業の合理化を進めてい
こうと思つたけれども、いつ農地がなくなるかわからないなか
で、踏みきれないということでした。

中村 農業に熱心な方もあるんですけども、養鶏を主にしようと
いう方、中には早く売りたいという方もあるんですけど、まちなち
なんです。あまりにも変化がめまぐるしいものですから、将来の
見通しがたないということが大きな問題で。

松原（リーダー） 窪田さんは、同じような問題を出しておられま
した。

窪田 中には先を見通して、山も畑もみかんを植えたところもある
んです。またある人は、都市ができたら、必ず新鮮な野菜を必要
とするに違いないと、野菜をつくる計画を立てたいという方もお
ります。大半は、やはり子どもにも農業をやらせたくないという
考えです。子どももやらないでいるわけですから、そのところ
ろはどう結論をつけたらいいか。

松原（リーダー） どうしようもないということですか。

窪田 なかなか勇敢な方もおりまして、これから百姓になつて、も
うけるんだという方もいるんですよ。

松原（リーダー） 問題なのは、そういう形でたしかに宅地化工場

化が進んでいくと思うんです。それにもかかわらず、すべての農
地がなくなつてしまふんではなくて、何らかの形で残っていく。

みじめな形で残っていくんじゃないかと、産業化、工業化に伴つて、
農業それ自身も近郊農村の農業として平衡していけばいいんです
けれども、兼業化が進み、あるいは、坪一万で売れたという話が
はいつてくると、これからは農業をやつていくという方も、動
揺していくんじゃないか。農業に対して消極的な姿勢しか出てこ
ないんじゃないか。果たしてそれでいいんだろうかということが
問題で、そのためには、たしかに小さな臨時農業として残したん
じゃ意味がない、中村さんの話にたよりに、委託、信託事業み
たいな形で土地を集めて、大きな経営をやつていくという方法も
あるのに、そういうことがあとまわしになつて、まず工場にす
らんたら、うまく売るために、土地を売しながらもつていようと
いう考え方が、全国的に広がっているという感じがします。

その問題は、つつこんでいくと、論議がつきないと思います。
以上農地についていろいろ考えてきたことですが、まだ農業に関
して、こういう点を問題にしたい、こういう点はお聞きしておき
たいということがありましたら、だしていただいて、討議したい
と思います。

中村 工場問題について私の考えておりますのは、みんな臨時農家
になりますから、残つた者が協力して、共業的な経営をすること、
工場ができたら、住宅ができ、人がふえますから、野菜とか果物
とか必ず必要になつてくると思うんです。ですから、そういう方
面をよく研究して、ここには野菜をつくる、ここには果物を作る
とか、というように大きな方針をもつてやつていつたらと思いま

す。それにはやはり指導者がほしいということです。

原田 鹿児島は、今暖かい土地の特色をいかして、ボンカンやら、
おさがたさんとかあるので、商品作物づくりがさばっている
んです。工場の誘致も問題になつていっているんですけども、市場
が遠いので優秀な商品をつくつても、運賃などにかかるといふ問
題が残つてなかなか踏みきれないでいるわけです。その打開策と
いいますか、商品づくりの沿つたいき方を考えてみたいと思つて
います。

百瀬 新産都市となつて工場が進出してくると、結局、今でも不足
している労働力が、ますます大きな企業にとられて、どうしても
また労働力が不足してくると思うのです。また、松本では、都市
改良総合開発事業が進んでいて、大きな発電所ができて、都
市九十万キロワットという大きさです。ところが、発電所ができて
も、地元の私たちに恩恵は、果たして、くるかどうかということ
です。地元負担金はうんとふえてくるが、また大きな工場がくれば
そつちに水資源の利用が優先されるんですね。百姓をしていく
えに、どうしても不安を感じます。耕地がなくなつたものは、そ
ういう工場に働きにいけないといひますけれども、大勢の家族
を養つていくほど賃金がもらえるかどうかということもあるん
です。

私たちの地区では、新産都市大いに賛成ということと呼んだん
ですけれども、私たち若いものとか、心ある人とか、グループ活
動で勉強している人は、新産都市は、絶対反対なんです。

高畑 新産都市とか何かで、工場が誘致されて、人手がそちらにい
つて、農地も少なくなるなどいろいろ問題がありますが、そう
いう悩みは社会の発達段階の上では仕方のないことだ。そうする

と、やはり専業でやつていかれる方は、高度な技術を修得して、そういう方から私たち主婦農業のものがいろいろと教えてもらって仕事を進めていく。また工場へでもどこへでも進出していく。自分の家では、いくらくらの経費があるか、はつきりみきわめて、何年かの計画を立てる。そして最後にはどのくらい残そう、設備投資はどのくらいか、はつきりつかんで、伸びていくものは伸び、吸収されていくものはされていくと思ひます。

松原（リーダ） 今まで農業に生活の中心をおいてきた方々として、今度の新産都市に対して、どう対処していくかということなんでしょうけれども、それを論議してみたいと思ひます。

長南 富山の方のご発言も、経済の流れからみればもつともなことですけれども、これを近代農業の足がかりとか、農民崩壊の一過程とか、そういう形の中では、やつぱり切りすてられていく農民として考えるとき、私、問題だと思ひます。

私のほうにこういう例があるんです。私のところは出かせぎが多いんですが、最近はお夫婦で暮らすところが多いんです。お年寄りがいなければ離農したい、土地を売りたいんだけれども、だれにどういう値段で売るかというところ、だれも買手がいない。残った人のいうことには安んじたいとつたつて売られる方はまだいい、自分たちが離農するときはだれが買うんだらうと。

高畑 私のところの近くでもそうなんですけれども、農協合併が大きい取りあげられ、私たちは合併するよりも地区地区に農協があったほうがいい感じが便利だと思ひますけれども、やつぱり合併して、農業構造改善とか、乾燥上の設備とか、そういう仕事を立派にやつていただくには、どうしても共同でやつて、そ

ん。それで、ほとんど若者は開拓農業にまきりをつけて、都市へ出ていつて九パーセント残つていません。中高層年令のものだけ残つています。

せつかく私たちが汗と油で切り開いた土地を、だれが守るんだらう。これは私たち婦人の一人一人の意識の向上では解決できない、国の理解ある政治しか解決できない問題だと思ひます。

松原（リーダ） 産業社会の進展、あるいは工業化が進行する中で、倉庫さんのお話のように政治の動きもござります。その中で、みなさんがいわれたことは、すべての人が仕合わせになるような方向が見い出されなければならぬ、これは大前提でなければならぬと思ひます。ところが実際には、新産都市の開発が行なわれる場合に、私どもも三つ四つ新産都市の調査をしたことがあるのですが、その中でしみじみ感じたことは、新産都市の産業の内容は、あくまでも生産効率の高い重化学工業の工場をひびつぱりこむことなんです。それだけに、村の関心が集中しているのだと思ひます。たしかに日本の産業社会とか産業という場合には、工業を中心と考えております。農業だつて産業の一つなのですが、とにかくその場合、農業生産に生活の主力をおいている、あるいは生活の半分なり一部なりをおいている人々にとつてみれば、百瀬さんが出されたように、新産都市には反対だという声が出るのは、ある意味では当然じゃないかと思ひます。

しかし、そのことは同時に、高畑さんがいわれたことを否定することにもならないと思ひます。新産都市の指定地域、あるいは開発の進んでいる場合に、とくにこつてくるのは、工場誘致を前提にし、地域全体の生産性の数字をあげることを考えて、所得倍増計画を立てていく、一定の限なり町村をあわせた地区

して生産も多くなつてはいけません。トラクターや大きな機械もほとんど入れたいというのです。とにかく、そういう中で生きる方はほんとうに一生懸命にやつていただきたいし、他産業に移る方はそういう方向で立派にやつていただきたいと思ひます。

百瀬 私不勉強で人生経験も少なく、まだ二十六才ですが、もつと大きな意味でみんなが仕合わせになる世界というものを考えたいんです。

農業構造改善事業が、六割切りすてたかといわれていますが、人間は当然みんなが労働しなければいけないと思ひます。だから働くことは大事です。働く人が安心して生活できる社会を私たちは理想としていります。吸収されちゃう人は仕方がないということではなしに、みんながもつと考えて……。

倉庫 私みなさんのご意見を伺つて、日本の農業の宿命というものを、まざまざとみせられたと思ひます。農業経営の形にも、いろいろあり、兼業農家があり、今論議になつている新産都市の間にもあるが私たちのような、開拓農家は、日本農業の底辺ということがわかりました。

私たちが未開の荒野にはいり、それを開拓して耕地にするときに、つまり開墾時に、生活費として開墾補助を、国からもらつております。畜舎を建てるときも、住宅やサイロを建てるときも、いろいろを而で、多くの負債をかかえております。北海道の場合は一戸あたり六十万から七十万の負債をかかえておるんです。それを年賦償還で今返さなければならぬ段階にはいつておりますので、私どもは、なんとしても一年間の生活費プラス営農施設費、農業資本プラス年間の負債償還を生みださなければならぬ現状です。とてもとても、それだけの生産をあげることはできません。

の水準をあげるといふことに、行政担当者がうきまをやつしているといふことです。

その場合、水準をあげるには、既存の生産性の低い産業をあげるようにしては、東京とか大阪とか、生産性の高い工場をもつていく地域には追いつかない。それで、生産性の高い産業をひびつぱりこむ。そうすれば地域の生産性はあがるわけです。

その反面、既存の産業、農業とか、あるいは昔からあつた工場などを完全に置きざりにされてしまふ。地域の内部に目を向ければ、新たにいつてきた巨大産業の生産性の高さと、その周辺にある農業や中小企業の生産性の低さとの格差は、づつと開いてしまふ。地域の産業化が押し進められる場合には、その地域の産業により生きていく人々の既存の産業をも同時にひきあげる施策が当然とられなければならぬ。私どもは、それなくして、地域の開発はなんじやないかといふことを、もう一度再確認しておきたいと思ひます。

これは当然問題になると思ひますけれども、たしかに地方行政のあり方が、農業振興等を完全にあとまわしにし、開発に力を入れる。開発は一種の投資です。投資というのはお金をかけて、もうけを得ることですが、農業なんかにお金をかけても、もうからない。だから、もうかる投資を先にするというのは、地方自治体としては当然で、農業振興にかける財政が、だんだん縮小して行く傾向にあるわけです。

農業は相対的に、縮小している傾向にあるので、農業を生活のかてとしている人には、重大な関心事であるし、とくに主婦の場合同、その必要があると思ひます。

新産都市の計画をみますと、私は、おかしいんじゃないかとい

う気がするんです。開発のモデルを考える場合は、このへんが工場地帯、このへんは何というふうに考えるのは当然ですけれども、そこが生産力地帯という地点に、畑でもつて生活している人があるのに、その人々の生産の場であることを無視して、このへんは何だとか割りきって考えることに、いろいろ問題があると思ひます。

そういつた中で、やはり農業を考えていくというご婦人方は自分の農業を取りまいてる政府の動きなり、行政のあり方なりを、もう一度見なおしてみる。それを個人でするのでなく、共同で、あるいは共通の勉強の場で見なおしていかなければならぬんじゃないかと感じるわけです。

ところで、部会討議のテーマは、「今日における家庭の役割」ですから、だんだん家庭の中の問題に焦点を移していきたいと思ひます。

休憩前のお話しの中で、全国共通にできたこと、現在の家庭の大きな柱は、出かせぎとかお勤めとか、これはご婦人自身が出かせぎにでる場合も、あるいはご主人がお勤めされている場合もありましようが、ただだんに専業農業でやっていけない状態である。出かせぎを、とくに家庭生活の問題にまで目を向けてとらえた場合には、どういう問題をはらんでいるか、そういうことを少し話し合ってみたいと思ひます。

あと二十五、六分ですので、きょうだけで論議が尽せないと思ひますが、そういつたことに論議を移してみたいと思ひます。

また農業の問題がおこつてきたら、明日のまとめで問題にして今度け農業から目をそらすことになりましたが、出かせぎ労働の問題、通勤、農業の問題を、どなたからでも結構です。どうぞ。

に悲しい問題があるように思つて、涙がでてしようがなかつたんです。

長南 私のほうでは、父親がいないので、学力の低下が問題になっています。やつぱりおかしな点では何となくもいうことを聞かないという点、それから、六年生くらいの子どもには、都会では家庭教師などをつけて勉強させますけれども、農村ではそういうこともなく、父親が見ておつたのに、その父親もいないので、学力低下をきたしてゐる。

それから、何が一番困るかといひますと、相談相手がいないうことですね。たとえば税金の申告とか何かにしても、今までそういう生活をしておらなかつたのが、自分が責任を負わなければならぬ、そういうことがひじょうに困るというんです。

また私のほうは、米の産地で、僕も農業があるわけです。それに家畜の管理、牛を飼わなければならないので、農業改良の先生のお話で意外に思つたことは、出かせぎの留守に主婦のあずかつていた牛が、よく管理がされてふとつてゐる。それだけ緊張していると思ひます。それから消防のことなんです、男はほとんどいなくなるもんですから、消防団を結成するにも困るんですね。部落の男女関係ですけれども、これも、旦那さんの留守に話題にされてはいけないという緊張感があつて、保険の外交員とか、指導員とか訪問しても、長くいられることをちゅうちよする。(笑)

長沢 私の村の状態をみますと、男の人が出かせぎに出るようになって、兼業農家がふえてから、女の人が強くなりました。いろいろなより合ひでも、どうしても女の人が出なければならぬ。その点で、税金の申告とか、部落のいろいろの事情に対して、女

会局 私の近所でも、長期間出かせぎにでて、帰つてこないという家庭がふえて、その子どもさんが、馬かごをみて、「小さなお家の中で赤ちゃん小鳥もおとうさん小鳥も、みんなそろつていていいな」といつたのを聞いて、ひじょうに胸を打たれたんです。子ども自身のいつわらざる告白だと思ひました。

このままで子どもさんがかわいそうだというのでグループで話し合つて、出かせぎのおとうさんと手紙の交換をしようと、部落ぐるみで、絵日記をかくとか、季節の花を押し花にして入れるとか、親と子の結びつきを、そういう形でもつてやつたこともありました。

高畑 私のところも、土建業とか、ダム工事とかに、一年中いつてゐるんです。帰つてくるのはお祭りとかお正月とか、忙しいときだけなんです。二十五、六才の若いおかしな人のお集りのときに私ちよつと席へでてみんな旦那さんが出かせぎにでていて、どおですかと話したところ、ボロボロをきかれました。そして、帰つてきて玄關にくつがあつたのでとんでいつたらお祭りだったので親類の人がごちやごちやいて、おかしな人のお集りのごちやを出しなさいといわれ悲しくなつてといつて、泣くんです。それで、私は子どもたちもかあいそうだし、あんたたちもかあいそうだが、おとうさんも出かけてゐる、おかしな人も工場に働きにいくとなつたら、子どもたちは、どうするのかわかんないんです。すると、それでも、自分が工場に働きにいかれば、端下のお金は、自分のお小遣いになる、だから、どうしても仕事にいかたい。やつぱりきれいな着物もほしくなるし、子どもたちにも、おかしなやつも買つてやりたい、いうんです。それを見ていて、封建性とか、女の人の宿命とかいう問題ではなくて、何か根本的な、ほんとう

の人が目を向けるようになって、広くものを見るようになったといひますが、明るい面ではないかと思ひます。

松原(リーダー) 中村さんは工場にお勤めですね。中村さん自身はどうですか。

中村 私の生活は、朝起きると、牧草をして、子どもを学校に出し主人を送り出して、私が出かけます。九時に始まつて、五時に終ります。ごく近いところで、もとの私の田んぼです。自分の田んぼに通つてゐるような気持ちで歩いていきます。ですから、朝は、農作業はできないですけれども、ひじょうに熱心な方は、朝草取りをして工場へ出ていきます。また帰つてから、一時間半から二時間くらいは、日が長くなりましたら日の暮れるまでやります。これから田植えの時期、田んぼの時期になつたらどうしようかと考えている最中なんですけれども、朝晩の農作業の時間を有効に使えば、農家もたくさんいいのがでておりますから、そういうものを利用していきたいと考えております。

子どもの場合に学校から帰つても、おかしな人がいない家庭ですと留守番がいないうちにはいれない。隣り近所で遊んでいる子どもがあるのも、そういうことで、母親としての悩みがあるわけですから、子どもの身のまわりには注意して、愛情をもつて子どもをみつめていけば、ある程度は補えるんじゃないかと思ひます。

窪田 私がよくいくところで、おじいさん、おばあさんはあんまりやらないで奥さんが一人で百姓をしている家がある。耕作面積も少ないので、ご主人はお勤めにでているんですけれども、そこで若い女の方と仲よくつて出ていつてしまつたんです。子どもが三人もあるのに、何のために農家の人は働いているのかと思つて

悲しくなりました。

松原（リーダー） 出かせぎの問題、通勤の問題は、いろいろを面で家庭生活上に影をなげかけている。人間関係の問題、とくに家庭の中心である夫婦の問題にもひびがはいるようなことがおこつてくる可能性すらはらんでいる。ところで、そういうたことを、これから先じっくり論議していきたいと思いますが、その前提として現在ひじょうにはげしく出かせぎ労働が行われているのはなぜかというのをもう一度考えておく必要があると思うんです。出かせぎに行かなければならないほど貧困ということもあります。それに輪をかけて、物価の上昇、あるいは生活費の上昇ということがある。それを解決しなければならぬのはもちろんですけれども、その前に今たくさん出されたようないろいろな犠牲もあるわけです。そういう犠牲をのりこえて出かせぎをやらなければならぬという状況、それをもう一度つかんでみたいと思うんです。

その後出かせぎがもたらす家庭生活の問題をもう一度反省してみたいと思うんです。さきほどどなたからか、出かせぎが流行のように行なわれているという話をうかがいました。その点どうですか。最近出かせぎが多くなっているという点について。

原田 鹿児島は貧乏県で、ただでさえ狭い耕地をよけい小さくわけてしまわなければならないんです。やむをえず出かせぎに出なければならぬという状態にあるんです。

長沢 私たちの地方も、やはり耕地面積が少ないので、人があつてもしかたがないから、流行とかでなく出かせぎに出ることを奨励するようになつています。

諸田 団地の奥さまが、電化製品を買うためにとおつしやいました

いになつてゐるものですから、農協からすでに収入の二割を現金でもらつてゐる。五割は大体借りてゐるので、収入のうち七割というものは、すでに借金してゐるわけです。そういう事情で、生活費を稼がなければならぬのです。十萬千の現金がかせけるといふことと、失業保険がつくといふことが理由のようです。

松原（リーダー） 出かせぎの問題、あるいは兼業の問題は、日本の農業が直面している最大の問題の表現だといつていいと思うんです。出かせぎをもちたしているものは、やはり日本の農業の、ある意味では、刺りの悪さ、生産の低さ、であり、その反面でおこつてゐる消費生活の変化がもたらしているものと考へてゐるわけですね。それでは、生きていけないうる現実の中で、出かせぎが行なわれているということを前提として、その中で、出かせぎがもたらしている生活上の問題点を人間関係上、育児、子どもとの関係上、これらのもたらす問題を明日ほり下げてみようといふことが一つです。

それからもう一つは、それは日本の農業の発展に、どう結びついているかといふこと、農業の生産を逆にひきさげている、そういう問題にもひつかつてゐると思ひます。最初の、各地のご報告の中にもありましたように、そういうことが、土地制度の問題にひつかつてきて、兼業化が進行するに従つて、零細な農地が集められて、能率的な農業が、進行すれば、ある意味では、日本の農業の進展にひつかかりがあるわけですが、今日のままで大部分出かせぎや兼業農家でいつたら、将来日本の農業はどうなるかといふことも、役後には考へていかなければならぬと思ひます。農業の進展につれ、好むと好まざるとにかかわらず、ぎりぎりの生活の現われとして進行してゐる出かせぎは兼業を

が、近ごろは、日々にとてもお金がかかるんです。耕地が狭いとなると、子どもを教育しなければならぬし……

手光 長崎県も島が多くて水田がぜんぜんない農家もたくさんあつて畑作にたよつてゐた。それで流行とか盛業ではなくて、ほんとうにお金がいふんです。子どもを学校にやるにも、困まつてゐる。それに私たちのところでは、家族計画をあまりしてゐないんです。私の部落は別で、婦人部で家族計画をして、多い人で四人というのが二軒か三軒くらいで、あとは二人か多くて三人くらい。ところが島の人、五人も六人も子どもをつくる、なぜかといふと、技術がよく知らないんですね。農協婦人部もほおつておき、受胎したときにおろしにいふんですが、貧しい人にかぎつて、おろせない。そんな悪循環で、子どもにお金がかかるから、やむにやまれず出ていくのです。

多田 私の地方は耕作面積は広くて、農業だけで大体やつてゆけると思ふんですけれども、現金収入の少ないものは、作付けをやめて、現金収入の出かせぎにはしる人が多くなりました。そんなことは大きな損失だと思ひますけれども、やはり流行といふんですか、おムギなんかつくつたら流行おくれみたいなのうに感じて。去年の長雨でムギを全部焼き払い、私の家なんかたくさん作つたけれど一俵もとれない、おとしも不作でした。それでおムギをつくつたら損という気がしまして。

長南 私の方がなぜ出かせぎが多いかといふと、流行もありますけれども、やはり直接の大きな理由は、農業といふのは、天候によつて、毎年収入が違つて、サラリーマンのように年毎に所得がふえるという保証がないからです。

約十年ほど毎年豊作みたいな気がして、過剰投資で、手につ

家庭の生活の中で、受けとめる場合に、どうしたらいいんだろか、何が問題であり、それを解決するにはどうしたらいいかといふ各人の問題に、明日ははいつていきたいと思ひます。

（五時閉会）

第四部会二日目

一五日 九・〇〇一五・〇〇

松原（リーダー） 昨日は、今日における家庭の役割りを考える第四部会に出席している方が大部分、農村漁村で、実際に生産労働にも従事しておられる方々で、その家庭の役割りを考える前提としての農業労働、あるいは農家の経営、あるいは出かせぎ、兼業等々の生産にかかわりあう問題を話し合つたわけです。

そこで、きょうは一つ角度をかえて、別のほうからはいつていつて、最後にもうの話しをくつづけたいと思うわけです。

別の角度からいって、家庭の問題を前提として、もう一つ考えておかなければならないことは、消費生活です。これは、農村あるいは農家といいますが、ただたんに生産者とだけ考えるべきではなくて、生産者であると同時に消費者でもあるわけです。

そこで、消費者としての立場が、あるいは農家の経営にも生産の活動にも、何らかの影響を及ぼしているわけです。

きょうは最初、消費者としての農家生活の問題を話し合つて、その前の生産活動とこの消費活動とのからみ合わせの中で、家庭の役割り、あるいはそこにおける主婦の役割りというものを、最後に考えてみようと思います。

きょうは最初、消費者としての農村生活、あるいは消費者としての農村家族、農村家族の問題を話し合つてみたいと思います。

それも、日常を含めまして、いろいろな問題を相互にだし合つていただければというふうに思います。最初どなたからでも結構ですけれども、消費生活の問題を話し合つていただきたいと思ひます。

今度は南のほうから、きのう北からいきましたので。

原田 鹿兒島は暖かい特色を生かして、たばことか菜種、さつまいもなどがたくさんとれるんですけれども、消費生活に生産が追

いつきません。テレビだとかミシン、農機具はほとんど農家が備えてはいますけれども、農家の生活が浅いといえますか、不作のときにもそういうものを買っていますから、肥料代に追われて、とても苦しい立場に追いこまれる、というのが現状です。

松原（リーダー） どなたでも結構ですけれども、九州の方。

日高 漁村は、農村にくらべて、消費生活は電化でも何でも遅れていますけれども、最近はお魚の漁獲あたりが首領をとつて、いろいろ電化製品を普及しているようで、テレビは、たいてい取りつけられたようです。しかし、まだまだみなさんの水準まではいかない現状です。ほしいにはほしいんですけれども、それ以前にもつと必要なものがあるんです。みなさんのお話を聞かしていただい

てから、また申し上げたいと思います。

手光 消費生活の面ではなくてはならないものですけれども、テールなんかがいっぱいはいつたんです。ところが私のところは、地質的に恵まれず、耕作面積の多いところなんかは、牛でほいほいするのがかかしくなるんです。耕作面積の少ないところでも全部買つてしまつて、テールを持つています。

ところが、それを傷めるのも早いですね。道が悪かつたりなんかで。買うとき無理して借金して買つていてはしょう。それを払つてしまわないうちにいたんで、これを先々に、ずっと循環するんじゃないかと思ひます。資材をきれいに使ひこなしして生産をあげて生活をよくするんらいんですけれども、資材を購入する費用に追われるというふうな悪循環がみられますので、そういう点、考えたいと思ひます。

それから、やつぱり生産資材ですけれども、油ですね。軽三輪とかテールなんかには使う油は、営業用のタクシーの油と違うの

ですから、税金を少し軽減していただけないだろうかという声があちこちで聞かれるのです。これは農民のほかに全国的にそう考えている方がいらつしやると思ひます。

それから、テレビはよく普及しています。三年ばかり前へん端へたんです。そのときはお勤め人とか、それから兼業農家では百三十台ばかりはいつていたんです。そのときに、専業農家は、たつた四台しかいつていないんで、農家はきつんだなと思つたんですけれども、今はほとんどいつています。ところが、私がいちばんほしいと思う電気洗たく機がいつていない。電気洗たく機を入れているのは主婦農家が多い。私はみんなに洗たく機のはやめて電気洗たく機を買うよりよびかけていますけれども、お金がないし、洗たく機は手でも結構間に合いますからというんです。（笑）結局お金の問題に最後はなるといいます。

去年話し合つて、今年から積立貯金をしていっています。月々に百円、二百円、三百円、四百五十円、それから千円として希望をとつたんです。大部はいることはいつたんですけれどもそれが買えるような金額になつたとき、果して電気洗たく機になつてくるのは、十人のうち、一人なるかどうか、ほかのやりくりに使われるんじゃないかと思ひます。

松原（リーダー） 今お話しの中にできました、生産資材の問題はあとでご承知の通り、生産との関係でやりたいと思ひますが、とくに電気製品、その他の耐久消費財のふえる状況というのは、全国的な資料からも明らかのように、テレビの普及などは、あらためてだすまでもないことだらうと思ひます。しかし、その場合に果たして農家の生活の必要上、それが買われているかどうかという問題があると思ひますが、そのへんについて、もう少し実情

なり問題なりをだしておいていただいて、討議にはいつていきたいと思います。

高畑 私のところも電気ブームでいろいろはいつていますけれども冷蔵庫を強制的にこの家はと思うところへは、玄關においていくんです。(笑) 私が部長をしているもんですから、農協婦人部で斡旋するように、話してくださいといつてこられるんです。

文化生活には必要なものですけれども、では、農業でそういう生活にさせるには、農家収入でできるかと聞いてみたんですけれども、「いや」といつて笑つていらつしやる。しかし、そういうことで、私たちのグループで、富山県の農家収入はどのくらいあるかということとを農協で調べてもらつたんですけれども、今年の農業収入と兼業の収入を全部合わせた平均収入が、六十五万あるんです。一戸あたりの総収入です。調べた方のおつしやるには、現在では、六十五万だけれども、六年後には平均八十五万にならなければ農家生活は営めない。みなさんの家庭と考へ合わせてみて、何とか進めて下さいといふようにお話しをしたわけです。

それで、私の村だけですけれども、農業で大体どれくらいお金を借り、どれくらい貯蓄をしているかを聞いたところが、約四百戸のうちの七〇％は全部農協でお金を借りているんです。あとの三〇％は、たぶんもつていらつしやる方もあり、少しは借金があるといふふうなんですけれども、よそからもらつてきた、出かせぎのお金とか、内職のお金は、全部消費生活にまわつてしまふんです。子どもの洋服でもくつでも、町の子ども以上で、とてもきれいな格好をしているんです。しかし、そういうことも、もつともつと考へてやつていかなければならないと、みんなで勉強しようと思つていふんです。

わけて耐久消費財、あるいは被服というもののにお金をかける。そのうへ、北海道は歴史が浅いので、交際費がひじょうにかかる。何かしら、そういう面で割りきつてないところがあつて、無駄なところが、まだまだあるんです。話し合ひのたびに、もつと自分たちの消費生活を収入にみあわせた、バランスのとれたものにもつていこうじゃないかという話をしてあります。

多田 生産したものを売るときにすぐ安く、買うとき高いでしよう。ですから、自分のところで生産したものは、なるべく自分の家でたくさん使うようにしております。有利な食生活をしたかと思ひまして、ですから、養鶏にしても、屠場になつたものは売つたりしないのです。ちよつとやせていたりすると一羽百五十円か二百円くらいにしか売れないんです。一羽料理したら、ものすごくたくさん肉があるんです。農繁期の前なんか、鶏の料理を三羽くらい一べんにしてそれを冷蔵庫の中に入れておくんです。買つたものはかなり冷蔵庫に入れないもいい。その点をみなさんもう少し考へたらと思ひます。

それから、割れた卵でも私のところはお菓子屋さんが、パツパツとその場で割つてもつていくんですけれど、一個五円でしよう。五円だつたら何も買えませんが、自分の家で食べたかと思ひます。が、現金収入のために、手段を選ばないといふこともありませう。

食料のうちで割つた卵は食べられないという。(笑) 鶏は食べられるためにあるんだから、もつと割りきつて、自分の食生活を豊かにすることを考へたほうがいいのに、何か、そんなことは非難のようになりやすいけれど、それは脱却したいと思ひます。松原(リーダー) かなり細かい問題がでてきましたけれども、普及員をやつておられる長岡さんは、

万波 農協の婦人部として、家計簿の普及運動をしてあります。

農協のほうでまとめて斡旋していただきますので、七〇％くらいはいつております。私の農協の管内で、その家計簿を一カ月ごとに提出して話し合つてみますと、ほとんど五〇％が食生活に使われているのです。主婦の家でも、食については相当重きをおきますので、衣食住の三つの中では、食をこれ以上簡素にすることに事柄が許さないと思ひますのでせめて衣服の面で考へていかなければならないと思ひます。流行を追いますと、もう際限がない消費高が収入をこえるほどになっていますので、収入をこえない程度に消費生活といふことも考へてみたいと思ひます。

倉島 私、ロビーではかの部会の方とちよつとお話ししたんですけれども、第三者の立場で私から申し上げると、農家の方というのは、消費生活にひじょうに無計画じやないかとおつしやつたんです。私も強くそれは感じました。きのう生活指導にもつと重点をおいてくださるといふとお話しがあつたけれども、ほんとうにそうだと思ひます。何か婦人の集りとか会合にでている農家のほかあさんは、家計簿を年間の収入と見合せて、収入の何％は食生活に向け、何％は教育費に向ければ生産とみあうということばよく研究していらつしやるんですが、末端のところまで徹底してないんです。そういう面があつて、何か無計画に消費していらつしやるということとをまざまざと見せつけられるんです。

冷蔵庫を買つても中に入れておくものがない。いつも何かを入れておくとする食費ばかりかかつてしまふ。エンゲル係数を考へると、全国の勤労者の場合よりまだまだなんですけれども、収入が低いからといつて食生活にしまよせをするといふわけにはいかないですね。そういうつらさがあるのに、かつまた流行に追

長岡 みなさんがおつしやるように、判断がくるつていふんではなにかと思ひます。

やはり消費の順序として、まず健康を考へることが大切で、そのためには食費とか、それから被服、住居、に主力をおいて、次に体裁、水準を考へていきたいと思ひますけれども、自分がどういふ生活目標をもつて、どういふふうに住まいをいくかという姿勢がなく、買物の目標が明確でないから、人並みということに左右されるのではないかと思ひます。

高畑 これはよその方と比較はできないかと思ひますが、家計簿をつけてパーセンテージをだしているんです。私のところの食費はお米をつくつていふんですが、それをお金に換算すると、主食費が八割、副食費が二十三割、二十八割くらいです。これでいいのかどうか改良普及員の方にお尋ねしたんです。二十八割なら普通標準といふことです。先ほど食費に四十割といふお話しができましたが、四十割も食費にかつたら、食べるために働いている生活になるんじゃないか。それでは文化生活ができないという話しを聞いて、私も婦人会のいろいろな方と話し合つて、もう一回家計簿を考へてみようと思ひます。よそからものをもらつたりするとさあ食べようと、ガツと食べてしまふんですけれども、そういうところはもう少しはつきり考へていかなければならないと思ひます。

松原(リーダー) ちよつと整理して考えますと、最近の消費生活といふのは、たしかにいろいろと問題をばらんでいる。農村だけではないうすけれども、とくに農村の場合には、収入に見合つて、どういふふうに住まいをやらなければならぬか、バランスを失つてはならないといふお話しがあつたと思ひます。

何を基準にどういう方向で計画づけバランスをとつたらいのかというのを、もう少し論理的に、はつきりさせておく必要があるんじゃないかと思ひます。

全体として、農家の収入は、たしかに低い。したがって、それに見合つて、消費物資の購入が行われるべきだという意見がある。そして、それを明らかにするために、家計簿の記帳運動のようなものもしてみなければならぬということもできてきたと思ひます。

しかし、収入に見合つた消費ということだけでは、明確な計画を立てる基準にはならないんじゃないか。長南さんのほうから、その場合にさらに二つに水準をわけなければならぬ、一つは生産段階でまず最低生きていくために必要な食であるとか、体を暑さ寒さから保護する衣、その次の段階で水準とか体感を考える、というお話しがあつた。

ともかく、収入に見合つて消費生活をするということが一つの前提になることはいいまでもないことですが、それだけではまだ計画を立てる基準にしては、弱すぎるんじゃないかという気がするんです。なぜ私たちが消費生活をするのかということが問題になつてくるかと思ひます。

長南さんがわけたように消費生活をしているわけですが、それだけでなく、われわれは社会生活をするうえでも消費生活をしなければならぬ。体裁という言葉を使いましたが、体裁以上に社会生活に必要なために消費生活をしなければならぬと思ひます。その場合に、最初の生産のことなんです、たんに動物的な生き方をすればいいということが人間の生活の水準ではなくて、基本的に、生産生活ときり離さない形で論議してみなければいけな

のは、まさにその通りです。そういう観点で、どうすればより能率的に合理的に労働の再生産、生産の水準としての消費生活ができるかということ、まず前提として考えてみなければならぬんじゃないか。

それから、社会生活に対応するものとしての消費生活というものは当然あるのです、それに見合つた消費生活を確保することは、けつしてせいでなく、社会生活をしていくうえに必要だと思ひますが、しかし、それが農村では大きな問題になる。

第一の生産の水準が逆に圧迫されているながら交際費というものに高い金がかかる。しかしそれもいつか交際を断つてしまへというのではなく、交際のあり方を自分の生活の水準に合わせて考える。あるいは考えるような社会生活になつてほしいという事柄だと私は考えるんです。

ただせいたく走つていくということではなくて、どうしたらバランスのとれた生活ができるか。どうすれば消費生活の計画化ができるかということ、もう少し話し合つていただきたいと思います。

倉島 私、先ほど交際費のことをちよつとお話ししましたけれども、みなさんのほうはどうなんですか。私のほうでは、最近、農村はそうでもないのですけれども、幼稚園に子どもさんが入るにお祝いをもつていく、小学校へ入学するにお祝いする。四月になると交際費が一萬、二萬とかかつて、消費の大半が交際費に向けられるというふうな、何かひじょうに矛盾したものが出てきているんです。北海道は一般的に派手で計画性がなくて、無駄が多くて開放的だというのが共通性といわれておりますけれども。

いんじゃないかと思ひます。私どもが消費生活しているのは、生産するため、いいかえれば私たちが生産生活することは労働を使うということなんですけれども、そこで使われた労働が、何らかの形でもう一べんつくりなおされなければならぬ。生産という活動に消費するその労働を再生産しなければならぬということになると思ひます。

しかも、私どもの生産の生活、あるいは農家の経営は合理化され、計画化されなければならぬという段階にきていると思ひます。生産生活、いいかえれば労働を使う生活が合理化されていくとすれば、その裏側にある消費生活、生産の水準である社会生活、労働の再生産をする生活というものも当然見合つて合理化され、計画化されなければならぬんじゃないか。どうすれば合理的にエネルギーを再生産して、明日の労働力をつくりだせるかというのを考えなければならぬ。収入はこれだけしかないから、これだけの生活をするのがあたり前だ、それ以上のものを買ひのせたいかであるという形で節約運動、あるいは消費を拒否するような、むやみやたらに消費する態度を非難するようなことだけでは解決できないんじゃないかと思ひます。

たとえ冷蔵庫の問題にしても、使い方によつては、とくに農家の生活などには、必要である。家事労働を中心にやつておられる都会のサラリーマンの奥さんの場合には、毎日お使いにいくことも可能であるし、それが一種の労働として十分に成り立ち得るわけですが、農家の婦人の場合には、お使いを二日に一べんとか三日に一べんにしなければならぬ。冷蔵庫を買うことは、農家の場合せいぜいではないと思ひます。

手光さんのお話しのように、洗たく機が農家こそ必要だという

手光 お祝いではないんですけれども、私も痛感しているんです。

私の部落は、二十四戸あるんですが、私の姑の時代は、一昨年八十二才で亡くなりましたが、いなかの姑にしては理知的な人で、交際を割り切つて考えていました。二十四戸のうち、毎月のようにだれかが入院したり赤ちやんが生まれたり、何かがあるんです。ところが姑は、近所の五、六軒くらいしかつきあつていなかった。私はお嫁にいつた当時は肩身のせまいような気がしましたけれども、だんだん誇りを感じるようになって、ところが姑が七十五才になつて、私がしやもじを受けつたときに、私が農協婦人部長の役を受けました。私も姑のような交際の仕方をすると思つてゐるんですけれども、みんながそれを許さなくなつた、去年農協婦人部の全国大会がありました。そのとき、みなさんがいろいろなものをもつてきてくださったんで私もお返しをしなければならぬ。とつても交際費にかかるんです。私は姑よりか現代的でなければならぬのに、実際は反対になつてゐる。交際費がとて今年問題だらうと思ひます。そのところをみなさんはどういうふうによつておられますか。

高畑 交際のお返しという話が出たので、お話ししたいと思ひます。農協婦人部の会合で、ある一人の方から、「生活改善」とか「新生活運動」とかさげばれているので、病氣見舞いのようなものをやめましょうという発言があつたのです。一人の方がほんとうにそれはいかことだ。私のところは三百円もつてこられたから、五百円もつていかなければならぬ。必ず三百円のお見舞いにしましょうといつたんです。私びっくりしました。病氣見舞いに三百円だ五百円だと金額をきめてもつていくなんて、なにか、根本的な問題を取りちがえているんじゃないかと、とても悲

しくなつたんです。しかし、私一人でお見舞いをいたしません。お返しをいたしませんといつても、どうしても近所にさしさわりの活動は大事だと思ひますが、根本的問題をもつと真鍮に勉強して、お互い理性をもつてやりたいたと思つたんですが。

長沢 私たちは部落の婦人会で赤やんが生まれたときは、隣り組みがお互いお祝ひするとか、部落の中の香典はお返しをしないとか、鯉のぼりを立てるとか、そういう風習があつたけれども、鯉のぼりが立てられれば学校の校庭に立て、各自のうちに立てないといふことになつています。

清水 私のほうは、お嫁さんにくるときは、競争のように衣裳やら道具など、何百万という仕立をして、それも借金してつくつていく人も多いんです。そして今までだつたらお嫁さんのおみやげとしておまんじゆりくばつたんですけれども、婦人会で廃止するようにして、実行しております。病氣見舞いに対する金快祝いも金部婦人会で廃止するようにして、それは完全に実行されております。

窪田 私のところはもつとひどいところで、ほんとにはお見舞いをもらわないほうがいいそうです。だから病氣にでもなりますと、みんなでぞろぞろいくんです。百円くらい出したお見舞金を持つて。そして退院したら、お赤飯をいれて、そのうえに何かのせて持つてくるんです。それじゃ入院してさうざんお金を使つたあけく、困るんじゃないかと思ひますけれども。

これはひじょうに不合理だと思つておりましたところ、病氣見舞いのお返しは五十円くらいの品物にすると、組合長さんのところで話合つてきまつたといつておりましたけれども、とにかく交際

金をいたたいたんです。それで私たちはお返しをせず、どういふ反応を示すかと思ひました。うちは年寄りが二人いるのでひがみを感じたらしいんです。そのかわり後からきた船に對しては、その都度、少しづつお返しをしていきたいと思つています。昨年一年間三百万水あげでしたが、今年は四百五十万を目標にしてやつておりますが、借金はいくらも苦しくなくやつていけたのは、そのためだと思ひます。世間体を考えたらこんなことはできないと思ひます。

百瀬 松本の近郊農村のことですが、生活改善とか新生活運動で、冠婚葬祭のことは、四、五年前私が結婚した当時は、一番さけはれていたので、ところがこのころでは、そういうことに關心がうすれてきたんです。それについて考えてみたんですが、そのころは村としてのまとまりがわりにあつたんです。生活程度も百姓の専業が多かつたので、生活改善で、結婚式には隣り近所は百円ずつ持つていくことになつたんです。最近では兼業が増えて、農業者外収入が多くなり、みんなのつながりもなくなつてきたんです。そして結婚式があると、すごく持つていく。婦人会とか若い妻の会では、運動として話しかけていても、消えてしまつたつあるんです。近郊農村としての大きな変化というものが、小さなところにも影響しているんじゃないかと思ひます。

松原(リーダー) 交際費の問題をめぐつて多くの実例をお話しただけだと思ひますが、それでは、どうしたら無駄と思はれる交際費が節約できるかを考えなければいけないわけです。お話しの中に、二つ方向があつたと思ひます。一つは、富山の高畑さんがいわれた、気持ちのこもらない交際の仕方、交際費のかけ方は無駄じゃないかといふこと、例えば、病

費というのがかかるんです。

日高 病氣見舞いのお返しは、私不思議に思つております。私のところは全然ございせん。お互い助け合ふといふことで、相手によつては品物をもつていくし、困つていの方はお金にしますが、いくらかはきめません。そして自分が病氣したときにお見舞いに来て頂く、それがお返しとなる。そういう形で、別に金快祝いにどうのといふことはありません。

それから漁村では、船をつくらと浸水祝いをやりますが、それが派手で、旗を立てるんです。それも一回立てるきりで、しかもそれに自分の名前を入れて贈らないと贈つた気がしないといつてみんな名前を入れるんです。そして全部海の中になげこむ風習があつたんです。若い夫婦もいっしょに。(笑)その習慣を、婦人部で取り上げたんです。小さい船なら旗は三本以内、大きい船だつたら五本以内といふことで、婦人部ができて足かけ七年になりましたが、最近ようやく実行されてきています。旗をもつてお返しに大きな宴会を借金してもやらなければならぬ。それをしないとお返ししないといふような格好になりますので。

このことも船の乗り組み員だけでよく内輪にやりましようと思ひ合つてきたんですけれども、私の関係しております婦人部では、お酒二合くらいつけて、船員さんと大工さんだけといふことに、なつておりますが、まだまだ、徹底しておりません。

最近あつたことですが、お祝いは、漁業組合から一本、造船所から一本、鉄工所から一本で、他の方は全部お断りして、できたらお金でくださいといつたんです。私たちはほんとに苦しい中から船を改善したので百円でも二百円でもいただけたらロープの一本も買いたいし、その他の費用のたしにもしたいからと、お

気がなかつたときのお見舞いを、いただきものをしたから五百円しなかつたから三百円にしようといふ、そういうきめ方が基本的におかしいといふお話しだと思ひます。交際費の出発点はいくらもなく病氣にかかつた人のお見舞い、あるいは病氣がなかつたといふ喜びのあらわれである。これは本質的には、社会的な心の交流の問題で、それを離れて、金の高になつていくこと自体がおかしいと思ひます。

それからもう一つでたのは、それを解決する方法として、部落なりグループなりが取りきめていくという考え方です。個人の家だけでできないので、グループあるいは地域で取りきめて、一斉に解決する方法を考えなければいけません。お話しだつたと思ひます。最後に百瀬さんのお話しにもありましたように、数年前新生活運動がさげばれました。もつとさかのぼれば、大正期にもありましたし、昭和の経済更正期にもあつたと思ひますが、常に経済の変動のあるときには、節約運動が取りきめられるわけです。古い文庫などをみますと、おふろは一週間に二、三回以上はいつてはいけないといふ取りきめをした。しかしそんなことじゃ解決できないんじゃないかと思ひます。日高さんのお話しのように、個々の家の実情に合わせて、自分の力でまざることをだと思ひます。

たとえば、部落の取りきめて、病氣見舞いを三百円に規制する。そこで、今日における家庭の役割の中で、交際費を考へる場合には、当然個々の家庭の中における生活の実情、漁業の経営の実情、農家の経営の実情、の中で、自分には、これだけしか交際費はかけられないといふことを、例えば、農協婦人部の家計簿記載運動の中でもはつきりさしていくべきだと思ひます。それをはなれて、交際費はいくらがいいとか、婚礼のときはお酒を一本にす

るとかを、何回やつてもくずれてしまっているんじゃないかと思ひ込んで、

私はよく農村調査でまわりますが、東北の庄内の村にいつたときに、私はつくづく感じたことがあるんです。庄内の家はものすごく大きいんです。たきかきあつて、はいつたところにいるりて床の間がある。その奥になんどがある。土間からあがつりまう。もつとはつきりしていることは、土間を除いて玄関が二つあるんです。地主さんのところへでは三つある。正面玄関は日常使用しない。偉い人が来ないと出入りしない。家の人がその玄関から出るのは、概にはいつたときで、生きていくうちに出入りできない。

中座敷、奥座敷は、ほとんど使用していない。うす暗いなどで寝起きしているわけなんです。なぜそんなふうになっているかを考えたんです。もう一つおもしろいのは、玄関のわきに手水鉢がのつかつていて、男便所がついているんです。一見奇妙な感じがすけれども、その生活には、ある意味では必要なんです。なぜかという、人を寄せたときにお酒を飲む、お酒を飲んだら便所を使わなければならぬ。集つてやるのは男だけで、男便所だけあればいいということなんです。

考えてみると、こういうことなんです。農家の家のつくり、ないし生活というのは、家族の生活のためではなくて、村生活のためにあるんじゃないか。奥座敷は、何年に一べんあるかないかの法事、婚礼のときに親戚の人がくるのでその人をとまらせるんです。

庄内のある村で青年からおされて革新的な欧化から出た議員で

先ほど万波さんから、食生活はこれ以上は簡素化できない、これは生産の最低限度だと思ひますが食生活のほうに流行を追いつていくというお話しがありました。きめの細かいところまではいつて、現在の消費生活の状況は、どうあるべきかを、もう少し論議していただきたいと思います。

きのう、食習慣をかえるために努力されているという清水さんのお話しもあつたかと思ひますが、食生活は衣生活、住生活はどうなつていくか。これからどうしていききたいか。そのへんの話しをしていききたいと思ひます。

中村 私のところでは、自給自足を一つの目標にして、やぎを飼つて、一年間ふんだんに飲めるような生活をしてあります。

食生活で買ひものは、魚、肉にほとんどしぼられてあります。野菜はその時期に合わせて菜園を完備して年中不足のないように気をつけてあります。

松原（リーダー） 今のお話しは、多田さんが先ほどされた、生産したものを売るときは安く買ひときが高いつたこと、自分のうちでつくつたものを食べたほうがいいというお話しですが、手光 それは感心していいと思ひます。よく考えないと、通することがあるんですね。多田さんの場合は肉とか鶏卵とかあるからいいもの、鶏も全然揃つていない。家もたくさんあるし、家によつてはどうしても限られてしまつて、野菜しかないところもあります。ないときのほうがむずかしいんで、そういう農家が多いんじゃないですか。

高畑 実は私のところで食生活改善ということ、こういう表をつくつたんです。黄色いのが農繁期で、緑が農閑期なんです。それを大体十日間やつてみただけです。その結果そういうふうにてき

すが、その人が家の建てなおしをするときに、東北大学の生活改革の先生に設計してもらつた。それがだんだん形をなすようになると、近所や親戚から通々たる非難がおこつた。モダンなテラスをつけて、中央にだんろがあり、燃すと一階と二階にある小さな部屋がどの部屋もあたたまるようになる。それで、こんなちつぽけな部屋ばかりじゃ、法事や結婚式のとき、おれたちはいつたいどこへ集まりするんだと非難するのです。

家というのは、村の生活のためにつくつていて、すべての面で家庭生活を村の方向、社会の方向に向かつてつくつていく、これはある意味では必要かもしれないが、社会の進展の中で、もつと根本的なものが、個々の家庭生活が大事にされなければならぬという時代、村生活に向いた消費の仕方をしていていいだろうか。

衣食住の体制がそのままでいいだろうか、反省する必要があると思ひました。

村の取りきめではかるのが最終的な交際費の解決の方法ではなくてやはり個々の農家の生産、ならびに消費、つまり経営ならびに家計の状態、それに必要な家族員の労働の仕方、あるいは労働の再生産の仕方に合つて、衣食住の体系が生まれなければならぬし、それに合つて必要な社会生活面での交際費が考えられなければならぬんじゃないか。だれかが世間体を考えずに、突破口を開かなければならぬし、あの人は賢い生活をしていゐるんだという形でうわさされるような、突破口が必要なんじゃないかと私は考えるのです。

交際の問題からもう少しその前提になる家庭の消費生活にはいつていただきたいと思います。

ました。赤い線が基準量です。私のところはみんなが牛乳など飲まないで乳製品がひく少なくて、おかあさんは油でいためたものがきらいなんです。子どもは油が好きなんですけれども。

それでお豆腐ばかりたべて、こういう表がでたんです。

長南 私からみればいいほうですね。

高畑 婦人会の展示会にだしたんです。これをつくつたことによつて、私の家の食生活が改善されたんです。私は何もいひなかつたんですけれども、おかあさんが感じてくださつて、何でも油でいためてくださるようになったんです。バターやチーズを使うことにやがましくいひなかつたんで、うちの食生活がよくなつて、栄養があがつて、ほくほくしているんです。

松原（リーダー） これは全国的なことではないけれども、乳製品使用が低いということは問題です。農繁期と農閑期とくらべて、むしろ農閑期のほうが基準が低い。食事の仕方と同時に、それに対応する冷蔵庫などを、うまく合理的に組み合わせれば、農繁期の食生活を豊かにすることが可能かもしれないですね。

長南 でも、私のところからみたらいいですよ。

高畑 自分で考えているつもりでいながら、少しも考えていない。松原（リーダー） 今いい資料を見せていただいて、それと高畑さんのお宅自身で改善されたというお話しを伺ひましたが、今の食生活に関連して、農家なら、自分で生産しているものを使う自給自足に、ある程度の重点をおく必要があるんじゃないかというお話しがでてそれに対して、手光さんのほうから、それだけでは問題があるというお話しがでましたが、そのへんをもう少し考えてみる必要があると思ひます。

と申しますのは、最近起つてきている基本的な変化は消費生

給が金がかかるようになってきた、そして各地の農家の自給の
体制がくずれたとからきていると思うんです。その中で、
再び自給を考えるとすれば、今までとは違つた形でなされなけれ
ばならないんじゃないか。二つ問題をばらんとくると思ひます。
一つは、農業生産の仕方と米麦中心の生産であると思ひます。その
生産の中で自給を計ろうとすれば、ここに表で示したように、
且つてと同じような食生活の片寄りを生ずる危険がある。

もう一つは、そのことが生産の近代化の足をひつづける結果とな
ると問題だと思ひます。といひますのは、できるだけ金を使わ
ないようにするために、自己の消費に見合つて生産の組み合わせ
をしていいたと思ひます。自分の家で食べるようなものをつくつ
て、余まつた部分を販売するという生産の仕方をしていいたんでは
これからの農業は成り立つていかないではないか。これからは、
農林省もいつているように、成長農産物でなければならぬし、
最初から市場目あての農業をしていかなければ成り立つていかな
いのではないか。そのへんをにらみ合わせながら、農民が生産し
たものを売るときは安い、買うときは高いという現状を克服し
ていかなければならぬんですが、こんな状況の中で、食生活を
改善するといふことが、ひじょうに重要な事柄になるんじゃない
かと思ひます。

それから話しをまたちよつと先に進めて、流行、商品の売り込
み、あるいは宣伝、そういうことと消費生活との関係が先ほどお
話しにでていましたが、そのへんのところをもう少し……。

窪田 テレビなどのマスコミによつて、農家の生活様式が都会に近
ずるの改善にしても、ガスをひくにしても、まずまわりをみて、
近所で買えば自分の家もという傾向が強いんです。

ほしいものはこらえて、必要なものだけ買ひましようといふこと
になつた。私のうちは、まだ冷蔵庫も洗たく機もありませんけれ
ども、一つ一つ買つていこうと、年寄りがおられますので、テレビ
を買つたのが三年前です。この次の計画をしてありますが、冷蔵
庫は水で間に合いますので、洗たく機を買うことになつておりま
す。若いものは掃除機が買ひたいといひますけれども、ぼつぼつ
私たちのグループでも話し合つて、品物を整えていくことに力を
入れているようです。無計画に買ひと、あとですぐその品物を売
つたりして、借金になるんではないかと思ひます。

長沢 私も生活目標をもつといふことは、大切だと思ひます。
私のほうでは、子どもが三つ、四つになると、実家から着物をも
らうんです。私はいつたん嫁いだらもうわなくてもいいと思つて
いたんですが、姑が世間体が悪いといふので、どうせお金をかけ
るんなら着物のかわりに、オルガンをもらうことにしたんです。
オルガンだと、子どもも楽しいし、私自身も楽しく、一家で合奏
したりします。近所の人が、いいことだなといつておられます。
若い人が再婚をもつてやつたらいと思ひます。

松原（リーダー） 長南さん、数年前から始まり庄内一帯にも最
近行なわれている月給制を少しお話しただきたいんです。

長南 私のほうは、大きなお金は年に一回しかこないんです。
それで、日高さんのように、大金が一度にはいつても、無
計画に使うこともできず、その管理がむずかしい。それに、元小
作人だつた方が急に自分の土地をえたのですごく派手になつて、
機械とかいろいろでくるものを買ひ。結局そういうわけで、借
金がふえる、借金がふえたといふことは、一年で返済する能力が
あるから、農協では貸しておつたわけです。ところが、借金が、

それから第二番目に考えられることは、昔は貧乏人の子どもと
金持ちの子どもというものに差があつた。ところが今は、農地改
革によつて平均になつたんで、親がかなり無理をしているところ
がみられるんです。結局、第一の問題は、まわりのことを気にす
ることから始まるんじゃないかと思ひます。耕作地がそんなになくて
も、人が耕運機を買ひた買わなければならぬ。バイクを買ひと
自分も買ひといふような部落の風潮といふか、そういうものが強
いんですが、みなさん方のほうではいかがですか。

松原（リーダー） まわりを気にする消費生活、それはたしかにあ
るんです。

清水 家庭で使うものは家族同士話し合つて、ほんとうに必要で、
どうしても買わなければならぬものであるか、あとまわしにし
てもいいものかを、第一に考えて買わなければならぬと思ひま
す。また、流行を追うといふ虚栄心で買ひ物が最近多いんです
けれども、農家は経済的な面も考へて、台風で、せつかく災つて
いたミカンが一度に落ちてしまひますから、貯蓄も大切ですよ。
そういうことを第一に考へる必要があると思ひます。

松原（リーダー） 家族同士話し合ひといふことを実際にやつてお
られるわけですか。

清水 去年バイクを買ひか冷蔵庫を買ひか話し合つたんです。
そして冷蔵庫のほうが必要といふことで、冷蔵庫を買ひたんです。
日高 漁村では漁がある、いづべんにお金がいひつてくるんです。
二日か三日で何万という金がいひる。ないとなつたら一銭もない。
不漁のことを考へずに、うんといひつたらばつと派手に使う。

青ごしの金は持たない主義だつたんです。人が買ひた買ひ。人が
持つていけば虚栄心で買ひつていたんです。郷土部をつくつてから、

一年に返済できなくて、長期化してくるんです。すると、利息が
多くなつてしまひます。利率の觀念がなくて、これではいけな
いといふことで、新潟県の中の島ですか、生産準備資金と納税準
備資金と、經常会計費と、臨時費と、四つに区分して、月給制に
したわけです。これは計画生活といひていひますけれども、自分の
家の借金が、農協にいくら、農協以外の商店にいくらと全部相談
して、何年計画でそれを返済するかをきめるわけです。それは秘
密で、参事さんなり、金融主任と話し合つてきめぬわけてす
ところ、近頃は、それもくずれてきて、商店以外の借金もみんな
農協が肩替りしたもんです。普通ならばこれくらいしか貸せ
ないといふのが、逆に多く借りられたわけです。借金もできない
のは人々みでないといふような風潮があつて……。 (笑)

一番感じるのは、經常会計費といふのが三町五十六反くらいで、
七人家族で一万二千円なんです。耐乏生活をよぎなくされている
わけです。かと思ひと電化の普及は金面でもトップなんです。
お祭り、冠婚葬祭などは臨時費に含まれている。臨時費でふくら
ませて、これから融通するといひても、知識のないものでは、ど
うしようもないですね。

松原（リーダー） 今のお話しは、新潟県からおこつて、山形県、
秋田県にはいつていつた月給制の問題なんです。もつと厳密にい
い方をすれば、農家経済計画化運動といふものですが、お話しの上
に、必ずしもそれがうまくいつていふとは限らないんです。あ
る意味では、解体しかかつていますが、なぜそうなつていふか
を、私も調査したことがあるんですけれども、二つ意味がある
んです。

一つは、経営計画と消費計画と両方含めて農協が把握している

ということですが。

農協はそこを把握していれば、売れるものは金はいつてきますし、農協の経営にとつてはある程度有利なんです。全部農協経由ですから。しかし逆にいいますと、庄内に、単作でも、略穀とか蔬菜作とか、米以外の新しい農業に向いた家もでてきているわけですし、月給制で経営をおさえられると、自分の家が伸びていく障害になる危険がある。

上層農家から、月給制をやめていく傾向がでてきたわけですね。そこらへんで経営の計算と家計の計算は別として問題にしなければならぬ。

経営と家計をいっしょにして、ワケにはめてやっていくというところに限界があつたんじゃないかと思われまします。

もう一つは、消費生活の面で、生活節約運動が、まづたく生活節約運動になつておらず、これを買いたいといつても、農協の係員がきて、あなたの所得ではそれは無理ですからおやめなさいとおさえるほかに農協がまわつてしまつたので、準備費で何とか見合わせてもらおうというものが、むしろ重荷になつてきたというところがある。たしかに、農業経済計画化運動は、一定の時期に、必要を運動だと思ひますけれども、それは、ある意味での過渡期の運動で、個々の農家で、長期の見通しを含めて、計画が立てられない時期に必要な運動だと思ひます。

ある一定の段階にきますと、最後に個々の農家が自分自身で計画化しなければならぬんじゃないか。最終運動ではなくて、個々の農家が自分で計画化の手伝い、あるいは考え方の手伝いをする、計算の仕方の手伝いをするということ、ゆくゆくは、組合が全部押さえる運動じゃなくて、個々の農家が自分でやる運動

松原（リーダー） このへんで一つ、特別オブザーバーのご意見を聞きたいと思ひます。農協全国婦人組織委員会の渡辺さんがみえておりますので、今まで論議されました点について、どうお感じになつてゐるか、伺いたいと思ひます。

渡辺（特別オブ） 農協婦人部というのは、全国組織の団体です。で、私は、はつきりした方針をいえる立場ではないんです。と申しますのは、今農業があり専業があり組織的組織でその末端にいつてしまつと、一つの方針として全国でこうあるべきだとは、なかなか今の段階ではやれないことがあるわけです。

一応それはいつても、何の方針もなく、ただ、やれやれと申しているわけではなく、農協婦人部としては、暮らしの設計を立てたわけですね。それを個人が間違えないで、自分に見合った方法でやつていただきたい。家計費、交際費の話がでておりますけれども、やはり自分で意識して、はつきり踏み切つていただかなければ、なかなかこの問題は割り切れないんじゃないかと思ひます。

ここに農協婦人部の部長さん何人かお見えになつておりますが、やはり組織としての長じやなくて、個人として割り切つて、ご自分で実践してよかつたという経験、自分で体得したものを部活の中にいかしていただきたいと思ひます。

松原（リーダー） お話のように、全国的に、地区によつてあるいは職業生産のやり方によつて、設計のやり方はちがうと思ひますが、何か一例、特殊の事例で結構ですけれども、暮らしの設計というところでどういうことを考えているか。

渡辺（特別オブ） 私が最近見てきたところでは、愛媛県にある農協です。そこでは、農協自体に生活部をつくつてゐるんです。最近農協自身で生活指導員を配置して、生活改善を取り扱つ

てなければならぬと思ひます。

これはともかく、一つの画期的な運動として、年に一べんしか金はいつてこない農家生活の場合には、ひじょうに効果的な運動だつたんじゃないかと私は思つてゐるわけです。

日高 月給制は今漁村でもさけられてゐるんです。やり方は長雨さ、んのおつしやいましたように、漁協が肩替りして、再三調べて、各種の従来やつてゐるような形をとつておりますが、私の場合、個人で月給制をとつてゐるんです。できるかどうか疑問なんです。が、私どもは三十何年も乗り子として使われておりました、一人三人前の配当をもらつても、やはり生活は苦しかつたんです。

船主と船主との差がはげしく、金は自分がだすから、労働力の出資はお前たちがしろということが始めたんです。昨年、家内全部寄つて、月一万五千円で生活できるかどうかを検討したんです。

少し無理でも、三年がんばつてみよう、金と正月は一万五千円のボーナスをだすということで出発したんです。漁があるときはいいんですが、漁がないと四世帯のめんどろをみななければならぬので、苦しんだけれども、今年はおかげで漁がおりますので、いい船では、三月一カ月で一人二十万もつたという人もゐるんです。

うちの場合は、今年最低一万五千円、最高二万五千円ですが、年間を通じて配分しなければならぬので、とれないときは困るからということをはつきり合つてきめました。

歩合制が重荷がなくていいといつておりますけれども。

生活費としては少ないかもしれないけれども、毎月まとまつたものがはいつて、今まで生活が不安定だつた漁師にとつては、いいんじゃないかと思ひます。もちろん私たちも月給でやつておりますので、船の経営費と家計費は全然別になつてゐるんです。

ております。生活が目的で、営農はその一つの手段と考えれば、やはり自分たちの生活は改善すべきではないと、生活自体を取りあげたわけですね。その中では、公益事業や、幼稚園もやつております。農協をそこまで踏みきらせたものは、根本的には婦人部であつた。婦人部が話し合いの中で、自分たちの生活を守つていくものは農協にやらしたらどうかという意見が集中して、農協が生活部をもつて婦人部と一体になつて仕事をしているわけです。

もう一つは、青森の三好農協ですけれども、青森は出かせぎが多いところなんです。二月でしたが、約二百五十人くらいの農協婦人部の部落研修があつたんです。そのとき出かせぎの問題で大変話しがわいたんです。その部落では二十一世帯の中の十九世帯が出かせぎにいく、さらに九世帯は家族ぐるみ、あとの四世帯は夫婦で行つてゐる。話の中で、果して出かせぎにいつてゐる金が完全に自分たちの手元にきてゐるかということがでたときに、きているという人は少ないんです。三好農協は、家族は全部月給制で食べてゐるから、東京の就職先と農協が提携して、主人の小使い銀を除いて、すべて農協に送金するようになつてゐる。それも婦人部などがいろいろ話し合つてそういうことに踏み切つたわけですね。

松原（リーダー） 今二つの農協の事例をお話しただいたんですけれども、愛媛の農協の生活部ですね。これは先ほどの論議に関連させますと、自給農家の食生活の問題で、自給では片よるんではないかというお話しがでました。個々の農家が片寄ることを一定の地域の中で、たとえば食肉銀行といつた相互連携の形で少し広い範囲で自給体制をつくることで、問題を打開するといふ方法もあるんじゃないか。卵か肉とかを農協の生活部なりなんか

の組織の中で一つの組織だった自給体制をやるということも、現在の生活の体制の中で考えていつていいんではないかというふうに考えたわけですね。

三好農協のことも、きのう盛んに問題になった出かせぎとかかわりあい、ある程度参考にしていい問題じゃないかという感じがします。出かせぎ収入というものが、無計画な生活消費に結びつくのではなくて、全体としての計画的な農家経済の中に結びつくような形で行なわれる必要が、現在のように出かせぎが急速に進んでいる場合は、必要なんじゃないか、以上消費生活の問題を生活管理に因連して論議してきたわけですね、あと十五分しかございませんので、問題を提起する程度にとどめたいと思いますが、この変動に対処する、生活管理を、主婦の労働の面から労働時間の設計、生活時間の設計ということも問題を提起していきたいと考えます。

倉島 開拓農業の場合は、みなさんのおつしやるより、労働時間はさらに長いんです。健康管理とか何とかいわれますけれども、労働短縮をした場合、生産が計画通りいかないの、労働時間を長くするのは、二、三年前でした、地区内で二百六十戸のおかあさんを対象に農作業にどれくらい時間がかかるか調べたところ平均十一時間というんです。まったくの過重労働で、ほんとうに家庭というものが生産の場ではないということがわかつたんです。

農作業をする人の五月から十一月ころまで、六カ月平均して、九時間くらいの方もいましたけれども、中には、十一時間、十二時間という家庭があります。八時ころまで外にいます。既存の農家の方から、うそかと思われるかもしれませんが、開墾とい

う掛けを切り開いた仕事、まきわけという仕事があります。どうしても労働時間が長くなります。

主婦本来の話し喜びというようなものをそがれるのが唯一の悩みでしたが、それでも冬の二、三月の三カ月の間に、みなさんと話し合いの上で、もつと時間を工夫して、労働のわりふりを考えてみようじゃないかという話しはでるんですけども、論議をつくしてもいい結果がでてこない。ただ、悩むを感じるだけで打開策がでていないという現状です。その中から少しでも余暇をうんで、私たちの休養と、子どもたちとのあたたかい心のつながりを配慮しようじゃないかというふうな、今中途半ばな段階です。松原（リーダー） 安達さん、たばこ栽培をやつていて忙しいと思いますけれども、どうですか。

安達 私のところでは、自分のことになりましたが、収入はたばこをすればいいことはわかつていても、労働力が大へんで、できないんです。若い者と年寄りといつしよに同じ時間労働したんでは、年寄りが可愛想だというんで、労働時間を分けあうようなことはしていませんけれども、それほど目だつたようには別に……。

松原（リーダー） 安達さんは家事労働はどの程度おやりになるんですか。

安達 朝一時間だけやるんです。あとはおあさんですね。農繁期にはひとにたのんで表で働くようにしています。

松原（リーダー） お嬢さんの立場から、百瀬さん。

百瀬 ぼつぼつ忙しいんです。種まきです。大体四月の下旬から五月になりまして起床が四時半から五時になります。一時間で掃除をして食事をつくらします。大抵掃除は母がしてくれまして。うちは屋敷は広いので、きれいに掃除しているひまはとてもないから

ぞうきんをかける程度です。それから、七時から八時は、子どもが二人いるもんですから、上の子は保育園へやつておりますので、その仕度をしたり、洗たくをするんです。洗つて、干すようにしておいて、母に干してもらいます。そのあとすぐ田んぼに出ます。大体お昼前十五分から二十分休みまして、ずつと労働するんです。昼の食事は母がつくつてくれます。そのためにいろいろ注文をつけるわけにもいきませんし、私がとんで帰つて手伝うようにしていますけれども。そして一時か一時十五分といえ田んぼにいきます。午後の休みが二十分くらいで、夕方暗くなるまで働きます。それが大体五月の稲つけのときの時間制りです。ですから、私自身の生活時間は農繁期は労働に明け暮れるということ、お昼にちよつと子どもをだく程度、夜は子どもをだいてやるという程度で、とても子どももなつく時間がないくらいです。

原田 私の町の場合は、主婦の労働時間は十二時間十九分で、一日のうちの五十一分になつています。再生産する時間が十時間十二分で四十二・六分、家事作業が三十二分しかなく、二・二分、その他が余暇なんですけれども、読書や新聞を読む時間はわずかに二分ないし六分で、テレビを見るのも二十分内外しかありませんし農繁労働のほけしさは、家事労働の短かさで表わされています。松原（リーダー） それは農繁期ですか。

家事三十二分というのは、お嬢さんの場合ですか。それから家事の重要な作業はお嬢さんをお願いするのですか。

原田 ご飯の場合はお茶づけとおつけもので片づけるあんばいですが、私自身農作業をやつていませんから、くわしくはわかりませんが、お話しを聞いてみると……。

手光 私たち夫婦とも恩給をいただいておりますし、次男、三男か

ら仕送りがありますので、将来の見通しは暗いのに、建物の借金はあるけれども、わりと明るく暮らしているんです。四年ほど前嫁がきて朝私が五時におきておりましたけれども、若い人がしたほうが都合がいい場合があるんです。私がやりだしますと、一人でやらなければならぬんです。牛の世話は一際私はしなくなりまして。今は朝だけは嫁がしてくれまして。食事は、晩は自分の家の鶏とか何とか殺さないときは必ず外に買いにいります。食事の中の一べんは必ず休のために取るものをとるようになっております。

嫁の労働を軽減するために、私は嫁のパンティからみんな洗います。それから嫁には、肉体的にも精神的にもきついだろうと思つて必ず昼寝をさせました。長くて二時間くらい。（笑い）大抵一時間くらい。子どもが生まれるまでは昼寝が続いたわけですが私は晩ご飯は必ず五時から六時までの間としています。それが普通の家庭と違うところです。というのは、近所の生活をみると、大人は生活に追いまぐられて労働時間が長くなり、十時ごろ帰つてご飯を食べているんです。それまで農家の子どもはご飯を食はずにいます。私がいなくなつてもそんな習慣をつけては子どもが可愛想だと思ひまして、夕食は早く習慣をつけました。自分たちが働きなければ働かぬ、それは私たちが干渉しないことになつています。

松原（リーダー） まだお話しを聞きたいのですが、大体のまとまりをつけ、あとやりますことを一応簡単に取りきめておきたいと思ひます。あと労働の問題を含んで、生活時間、あるいは生活の設計ということを考える。それからとくにその中ででてくる家事労働、育児の問題をどう考えるかということにまず論じてみたい。

続きました。今お話しの中にもお話しさんの話も出てきました。家族の中の人間関係の設計を含めて考えれば、そんなにやらないかと思えます。そういうことで、生活管理についてのもめをやりたい。

さらにわれわれの家庭生活を考えます場合には、それだけでは解決できない問題がある。その一つの方向としては、農村における生活環境施設がひじょうに弱体である、あるいはますますその較差が開いていくという現状、これは農家生活を圧迫しているという面があると思えますので、そういう方向に目を向けてみたい。そのあとで、先ほど保留にしておいた婦人の組織を、どう整備したらいいかという問題を含めて、生活環境施設や社会環境の問題を考えてみたいと思えます。

最後に現在の家庭の役割を考え、農家の婦人がどのような社会的地位をえたいかということ整理しながら考えてみよう。生産者として、管理者として、親として、妻として、農家婦人の役割りを考えてみたいと思えます。

このように願ってやっていますので、よろしく願います。

(休憩)

あります。私の無理は、年寄りにもしわよせされるので、忙しいと勤めがいいか悪いか考えてしまいますが、まだ結論はでません。

会社では一時間休憩時間がありますから、みなさんといつしよに話し合う機会が多いわけです。同じ勤めをもっているものが、子どものことや主人のことなど、こういうことは困るんだという話しがでるんです。手芸とか編物とかをもつてきて、できるだけ有効に使おうと思つてあります。

私の趣味として、お花を庭につばいづくり、それで家の中をかざつたり、ご近所にあげたりしています。売るほどの技術もないし、またそういう気持ちもないんです。

松原(リーダー) ほかにもう少し、どうですか。

森田 農家のおかあさま方は大へん忙しいということは認めますけれども、農繁期以外は、割合時間的にルーズな生活をしているんじゃないかと強く感じています。会社なんかは三十分くらいすぎても完全に集まっていますし、ほんとうの寄り合いで、必要事項、連絡事項は、三十秒もあるかないかです。私はいつも雑巾の三枚や四枚話しながらチクタクやっていますけれども。(笑い) 男たちの生活にもそういうことがありますけれども、どうぞお上がりがくださいというながら、三十分、一時間たつてしまふということがございます。(笑い) そういうところを考えると、時間を有効に使つたら婦人会の会合にでる時間がみつけれられるのではないかと思います。

高畑 私婦人会長をやつておりますので、みんなで話し合つて、休憩時間は迷惑のかからない時間を選びましょう、用件は簡単にしましょう、婦人会の会合は集合時間と解散時間の厳守をいたしましょうというのを申し合わせて、私の地区はとてよく守られ

(一時三十分専念)

松原(リーダー) 午前中に約束いたしましたように、労働の設計、あるいは生活時間の設計ということでお嫁さんの生活時間、ご年配のお嫁さんのお考え等々、お話し願つたんですけれども、もう少しそれを続けさせていただいて、だんだん問題を深めていきたいと思えます。

中村さん、お勤めと農業と両方おやりになつて、どうですか。

中村 お勤めをもちます前は、割合自由に時間を使つておりましたもので、それから、会社にはいつて、八時間をそのほうへとられ、実質は十六時間で暮らすことになつていますので、いくら時間があつても足りないくらい忙しい気持ちです。それで、このままではいけない、何か計画性のある時間の使い方をしなければならぬと近ごろつくづく感じておる次第です。今ごろでしたら、朝六時半ごろに起きて、炊事に一時間くらいかかります。その間に掃除機でうちの中を掃除して、七時半から食事をし、八時ごろ子どもたちと主人を送り出します。そのあと洗たくものをほしてから、会社にております。その間に、主人は養鶏を少しやつておりますので、エサをやつたり、やぎの乳をしぼつたりして食事に間に合うよう整えてくれます。

姑は、もう八十四才になるんですけれども、ひじょうに健康で家の仕事をよく手伝いしてくれ、私が帰りますとお風呂とご飯を用意しております。私はすぐ夕飯のおかずや、翌日必用なものを買いだしにいつて、忙しいときにはすぐ田んぼにでます。夜は夜で洗たくをしないと、洗たくの時間がないのです。私が忙しいときは、主人は自分でワイシャツを洗たくすることもありますし、子どもたちもお風呂場でやつてくれたり、みんなに迷惑をかけて

れて、実情もあがつているので悔まれております。

それと、私の生活時間の基準なんですけれども、私のところは農繁期は私が主になるんで、とても忙しいんです。農繁期は第一番に自分の休養を考えて電気製品なんかをフルに使うように心がけております。太陽熱でおふろをわかしたり、家事労働の分担も家族で話し合つてきめたり、それから一週間制というとかかしいんですけれども、大体月曜日は一週間の買物をする、火曜日はお掃除を主に家の中をやる、そういうふうな大体日をきめてやっていますんですけれども。

松原(リーダー) 今お話しの中にありましたように、特に農繁期に休養を考えて電気製品を使うということを、もつと具体的にお話しただきたいのですが。

高畑 炊飯器にタイムスイッチをつけて、忙しい夜中は、六時に田植えにでなければなりませんから、五時半に起きるともうご飯がたけていておつてもできておるうちに、二ついつしよにかけたりなんです。ちよつとしたものはかんづめを利用して、朝は絶対に手をかけないというふうなことです。晩は子どもが帰つてきたら必ずスイッチを何時に入れるようにと伝達事項を黒板に書いておいて、主人なり子どもなりが、私がどこへいつているかと、黒板をみればすぐわかるようにしているんですけれども。

長岡 お金と違つて時間は目にみえないものですから、漠然と使いがちですけれども、私のところにこういう例があるんです。

子どもたちにおくれないように、勉強したいという若妻のグループが読書することにしたわけなんです。ところが本をまわしているうちに、農繁期にはいり、実際は中味を見ないで本をまわしていたわけなんです。それじゃあつかうの目的が駄目になると、

話し合ったところ、意見が二つに分かれたのです。忙しいから見られないというのと、見る気がないから見えないという意見と。結局、その実情をつかむために生活時間の調査を一年以上も続けてみて、自分の生活の反省をしたわけです。すると農休日でも、夜もそうですが、洗たくなどに意外に時間がかかっていることがわかったのです。そんなことから、見る気をおこして読書するように読書時間を優先させることを計画の中におり込んだのです。そのためには、洗たく時間の短縮に、洗たく機というところまでいかなくても、夜洗つて、朝干すというふうにしたんです。結果的には農繁期が一番読書の時間がとれたというんです。

万波 農繁期だから本が読めたということですが、公民館に属しておつたところが、私のところでも図書館から、本が貸し出される状況を見ると、農繁期は割合多かつたのです。すると、必ずしも読書が忙しいから本が見られないというところは、図書館の統計からは成り立たないことがわかつたのです。

で、今おつしやいましたように、自分で勉強したいと思えば、いくら農繁期だといつても、その時間を生みだせないことはないと思います。

多田 私は生活時間と農繁の生産時間と、いろいろ組み合わせて生活をしております。その例をあげますと草取りはトランジスタラジオを聞きながらしますと、ラジオを聞く時間と草取りが同時にできますので、実行しております。ほかにもいろいろ組み合わせてしております。

卵のよごれを拭く作業は割合目が自由になるんで、その時間にテレビをいっしょにみます。

それから子どもが二人小学校にいつているので、子どもの勉強

人数別、色別にして、中に入れるのです。子どもが乱雑に入れることもありますが、指摘しますと、だんだんそういう傾向もなくなつております。

それから、農繁期になると食事のことが問題になりますね。私はランチ皿に盛り合わせて、余計な食器は使わないことにしています。よそさんはどんぶりめしか、一品料理とごらんになるかもしれませんが、自分で納得がいつて、いくらでも合理化の形ができていけばいいということで、やつております。

台所に立つ時間も、冬の間を調べてみたことがあるんですが、前の家は台所が広かつたものですから、動作が長いんです。みつともないが、ずつと台所もせまくなったためにだいたい時間が少なくなつたことは一つの進歩です。帰つたら設計にかかると、鶏舎が離れているので、食事の仕たくをしながらか鶏舎へとんでいくんですけれども、そういう労力をなくすることを考えております。鶏舎と住宅をくつつけると、くさくていやじゃないかといわれますけれども、換気の面を考えると、くさくさくはないだろうと思います。

高畑 とても立派なお話しを伺つて、私それほどまでに細かいことはやつていないんですけれども、トランジスターの話をして、所感文にも書いたんですが、教養の時間を生産時間の中から生みだそうと考へて失敗した話をしたかと思ひます。

子どもたちが進学や何かで学校の帰りがおそいし、帰つてから予習や復習をしなくてはならないので、テレビを見る時間を食事の時間に合わせたんです。そして、子どものみだり番のときに食事の時間とくみつけてやつたところが、最初の二、三回はうまくいつて、喜んでいました。ところが食事の時間は家中楽しい時間

をみてやるのも子どもの隣りに座つて、横からみて相伴しています。私は、それだけでもいいと思ひます。ですから、晩は子どもも部屋で一時間なら一時間を私は原稿を書いたり、短歌を作つたり自分の時間に使い、子どもは子どもで使つています。炊事も順番を考へて朝なんかおだしをかけて、その間にひよこにえさをやるんです。今作業をしている先の先ぐらいのことまで考へていゝるんです。畑仕事は、単調な作業ですから、頭を自由に働かせてお昼と晩の献立を考へるんです。お昼に帰つたら晩の野菜類なんかさきさんでおくんです。副食物は、一つか二つ先の分を用意しておくようにして、時間を有効に使つていゝるんですが、そのほか、細かいことにものすごく組み合わせをつくつていゝるんです。

長沢 主婦に生活時間や余暇がほしいのはわかつていますけれどもそれによつて収入やもうけが減ると困るので、なかなか時間がつかれないんです。私たちのほうは、零細農家で少し、限られた耕作面積から収入や収量を落とさずじやない時間をつくろうとすれば、広いところでやつていゝられるような技術も知つて私たちのところでもできることはやつて手をはぶきたいと思ひます。

倉島 私たち一日の生活をふり返つてみて、年令のせいも、すぐものを忘れるんです。いつか統計をとりましたら、さがしものの時間が……（笑い）一カ月四時間何分とでた。これには反省させられました。二、三年前から、ものを置く場所はきめて、足袋、ふろしき、みんな使つたあととさちつと、どんな忙しいときでも、あつたところへもどしておくようになりました。

私のところはいろいろなものを賣う力がありませんので、薦くほどおんぼろの箱が重なるんです。それに千代紙をはつて、

にしたいと思つて、いろいろ工夫して、かわつたものをこしらえたりするのには、何があるのかわからなくなつて、はしだけ助かしているんです。食事の時間にききたいなと思つていても、何も話さない、私情なくなつて、合理化も考へものだとつくづく思つたんです。

百瀬 合理化を工夫なさつていゝることを聞いて、小さい子どもさんにおありにならないで、わりに自分の時間としてお使いになれるのでうらやましかつたんですけれども、私は労働と赤ん坊を育てなければならぬんです。それで今悩んでいるんです。テレビでも生理解ママという言葉を聞いて、生理解的に無中にならずに、もつと大らかな気持ちで子どもをみていゝればいいんじゃないかと反省したんですが、農繁期におかあさんがみてくれないと、明治時代に生まれた母で私の希望通りにお守りをしてもらえないんです。最低子どもの世話ができる時間だけでも日々の生活の中からもちたい、それが願ひなんです。みなさんが子どもを育てるときにどういふふうにして時間をみつけれられたか、伺いたいと思ひます。

松原（リーダー） 今育児の問題がでてきたんですけれども、私もこの生活の時間と労働の時間に就いて、その中で子どもを育てる問題、しつけの問題、教育の問題とはいつていたかと思ひます。たんですが、その前にちよつと簡単なしめくりをやらせていただきますかと思ひます。

午前中から今までに、ひじょうにいいお話しをお聞かせいただきましたと思ひます。こんなに生活の時間を苦勞し、ほんとうに真剣に考へておられるのかと、お聞きすることで精いっぱいだったんです。ほかの部会の先生方のお話しを伺いますと、都会で生活

していらつしやる方が多くて、共かせぎがいいか悪いかという論議がされておりますが、この農村部会では、共かせぎがいいか悪いかをこえて、農業生産、あるいは農家生活をしながら、かつ出かせぎや通勤をしなければならぬ。

しかし、その中でどのように生活の時間をつくりだし、合理化し、能率化させていくかということにはいつていると思うわけです。いろいろできましたが、一つは生産労働と生活時間、あるいは余暇時間という言葉もございました。また、教養のための時間ということもございましたが、拘束される時間と、自分の生活に使う時間とを組み合わせたいと考えているところまでできているんじゃないかということ、ひじょうに強く受け取られたわけですね。最近世間でいわれているように、農作業や出かせぎに追われてしまつて、ほかの時間はいつさい考えられなくなっているということは、もうあてはまらないんじゃないか。その中で生活の時間を真剣に考えて、それに必要を限りで、電気器具なり生活用品なりを使つておられることも知つたわけですね。

それからちよつとでできたのは、あまり問題にならなかつたが、当日の生活設計だけでなく、一週間、一月の生活時間の設計が必要じゃないかという気がしたわけです。高畑さんのように、月曜日は何の時間、火曜日は何の時間と。たとえば私どもはNHKで全国の生活時間調査をやつたことがありますが、その資料を分析して読んで感じたことは、農業生産者の生活時間は、全体的にみると、工場労働者、高給生活者の生活時間にくらべて、労働時間が絶対に長いわけではない。農繁期や、秋の取り入れどきは、長いには違ひありませんが。ただひじょうに特微的なことは、一週間という生活の制限がないことです。つまり、農家の場合に日曜

日がない。しかし全体の時間の感じからいつても、最近の農業技術の発展の度合いから申しても、必ずしも一週間に一度の休養の日を導きだすことは不可能ではないんじゃないかと私は考えているわけです。

一週間の時間の組み合わせというよりな考え方をもちことは、休養の時間を、あるいは勤めに使ひやすい時間なりを導きだして、くる一つの手がかりになるんじゃないか。そうでないと、毎日サラーマンでいへば平日のような時間の組み合わせになつていて、かつ労働の合ひ間にわずかな時間を見いだして休養や趣味にあてる時間の中から、ある意味では、積極的な余暇の使い方をしていないような気がするんです。そういう生活時間の設計も、一週間なり、一カ月の生活設計という見方をすることも必要じゃないか。

この問題はまだまだたくさん語るべき事柄があると思ひますけれども、時間に制約されているので、最後に百瀬さんがおだしになつた、忙しい農家の主婦の生活の中から、育児、あるいは子どもとの精神的な交流、子どものしつけなどが、どういう形ででてくるのか、あるいはどういう形でだしたらいいのか、そのへんのことには話しを移していただきたいと思ひます。

手光 私、嫁にかわつて子どものお守りをするんです。その立場をみなさんに聞いていただきたいんですが、その前に私自身、若いころ共かせぎをして、姑に男の子三人たのんで職場にでたんです。姑は、農家の姑としては、理想的なところがあつて、子どもも男の子ばかりだつたからでしようが、愛情はかけるけれども厳しく育ててくれました。食事の時間には三つくらいの子どもから、ワラジをはかせて、雪が降つていても下の川に手と足を必ず洗わせ

にやつたんです。一番下の子が三つのときまで姑といつしよにいなかつたんですが、私は何と冷めたいかわかさんだろうと心の中で少し恨む気持ちもありました。しかし、それが子どもに自主的な何かを培かせたような気がして、いいことだとなつづくと思ひます。さて自分のときになつたんで、今後は二才と四才です。

その四才の子がとくべつめで、晩の食事のときはお茶わんをがらがらさせて傷づけるんです。私はお茶わんのかけたのいかやなんですが、嫁はそんなことに対してわりと無神経で、子どもは何かしなければ遊ばないというんです。でも私は、子どもはお茶わんが必要で遊ぶんじゃない、そこにあるからするんで、お茶わんでないものをやつたほうがいいんじゃないかというんです。そんな、ほんとうの親子でもむずかしいところがあると思ひます。けれども、私は、姑に感心したので割りきつたしつけをしたと思ひます。

うちの近所には、とつてもあまやかしているおばあちゃんがいいます。その子どもさんには、ご飯を食べずにお菓子ばかり食べさせている。おばあちゃんがいなくて遊ばないで遊ぶんです。私の孫より一年早いです。手がかるんです。可愛いことは可愛いんです。すけれども、ある程度けじめをつけなければいけない。

これも家庭がうまくいかないと、嫁と姑の間に摩擦がくるんではないかと思ひます。

松原(リトナー) お婆さんがたくさんありますけれども、潜水さどうですか。

清水 私の家は分家ですから年寄りはいませんが、そのために、子どもたちがいふん可愛想な目というか、淋しい思いをさせたいんです。朝は早く田んぼにいくので、子どもはぼつぼつだされて留

守番をすることがよくあつたんです。仕事の都合で夕方おそくなつたりすると、テレビなんかみてぼんやり留守番していることがあります。そんなときは、やはり農家には年寄りがほしいなと思ひました。

倉島 私の場合は年寄りがおらなかつたので、いつも畑につれていつて遊ばせながら仕事をやりました。私たちがはいつたときは、農家はわかあさんがいる限りがいいなとつくづく思ひました。

年寄りをかかえているお婆さんはそれなりの悩みがあると聞くんですけれども、私は開墾時代に子どもが乳のみ子だつたもんでから、そのときの苦労が、今まざまざと思ひ出されるんです。

長沢 私たち嫁の立場から申しますと、わかあさんに自分を認めさせることだと思ひます。まず信頼されること、そうすればこちらからお願ひしたいときに心よくしていただけるんじゃないかと思ひます。私はお百姓も何も知らなかつたのですけれども、外へでて百姓のことを勉強して、家の中の仕事をいつさいがつかい私がするようになつてから、家庭の人間関係がよくなつてきました。

原田 生まれは鹿児島じゃないんですけれども、私が鹿児島に嫁にきて、まず驚いたのは、男の子を大にすることなんです。(笑)

い)私そういうことを知らないで、子どもにもお醤油を買いにやろうとしてびんを渡したんです。男の子に醤油びんをもたせてとおくるんです。何かを分けるときにも、まず長男に一番いいところを一番たくさんやるんです。下の子どもが、おばあちゃんやが食物を分けるときは、大きいかにいちやんに一番大きいのをあげて、私ははいつこばかりだとぐちをいうんです。わかあさん、よそ者の育て方はこういうふうにするんですよと、母に私たちの育てる方針を説明してもらつて、それからあんまり男の子を特別扱いに

松原（リーダー）　今まででできたことを整理してみますと、こうなるかと思えます。つまり、お年寄りがいることは、現在、少な

くとも日本の農家の主婦の生活の実態からいつて、あるいは労働の重さからいつて必然である、いなければ、子どもさんが淋しい思いをする、ある意味では相互協力しなければならぬ状態にあるこれはたしかだと思ひんです。しかし逆にいつて、お姑さんに育児をまかすことがお嬢さんにとつては、たえられないような気持ちになる場合がある、ということじやないかと思ひんです。です

から、お姉さんはじやま者ではなく、必要も存在してゐる。つまり家庭の中の役割りの中では必要な立場にあると思ふんです。しかし、その必要がどうしてじやまになるかというところが問題になるんですね。この場合に、まずお姉さんに信頼されることであるという話しがでた。しかし、そうなるには、いい嫁になるためにエノルギーを使ひ果たしてしまふかもしれない。しかしその場合

に、ただ信賴す

解してもらうという意見も出た。この問題は、すこし以前から論議されながらなかなか解決のつかない問題ですけれども、若い方もお年寄りの方も、この姿貌の時代の中心農家の主婦として、女性として生きていくための、ほんとうに精いっぱい生活の知恵を劉み合わせ、あるいは設計しておられる状況でお嫁さんとお姑さんの中に子どもを育て方の方針の食い違いを調整するには、今までのような形でやり方ではむずかしいと思うんです。生活全体の中で子どもを育てること、育児ということも含めて設計をすることができると情勢の中にきたんじゃないかという気がするわけです。

清水　私は最初の子どもを病院でお産したんです。その時僕の音屋に私よりおくれて出産した人がいました。お姑さんが二、三日たつてきて、お前えらかつたやろう、ごころうだつた、よく産んでくれたなと、お嫁さんにいつておられて、私はほんとに自分がいつてもらつたようにうれしくて、あんなおかあさんと嫁であ

つたらしいと思ひます。

倉島 安達さんがおつしやらないので、少し私が代弁させていたが
きますが、安達さん江都屋におはいりになつてから、おかあさん
がおにぎりを持つてきて下さつたそうです。おかあさんご自身で
おにぎりになるときは大きなおにぎりなんでしよりけれども、若い
人向きの小さな丸々したおにぎりを、おかあさんの手でつくつて
くださつたんだそうです。この方のうちの人間関係がスムーズだ
いっているという感じがわかる気がするんですけれども。

安達 私のところは動かなければならないので、自分の余暇を持
たいという気持ちからでもたんですけれども、自分の好きな手
の時間をつくりだすために、おかあさんに私を認めてもらうこと
を考えたんです。一生懸命小遣いをためたんです。私などの小遣
いは、一銭一銭のお金を集めたものなんです。真心を込めさせて
るには、はじめはものより湿かになんと思ひつて始が一喜喜ぶ

ツトレスを買つてやうかんとす。同業も驚いて、とていふもの
金をためた、払うだけのお金があるのかときかれたんです。次は
親孝行すれば子どももこれをみてゐるんじゃないかという気持ち

は常にもつていましてね。それなら、うさぎの足が、
わらいで、どれが母でどれが自分の子どもだかわからないように
今はやつております。しかし子どもをわがままに仕こんでもら
たくないんですが、とにかくのんきで困っちゃやうんです。

-270-

お母さんが仕こんでくれたんで、困ったことだと思つて、こういうところ先生にいわれたんですけども、おかあさんからも悪いつていつてもらえないかしらといううと、聞いてくれるんです。手光さんみたいなきびしく仕こんでいただいたほうがいいんですけれども。

テレビで「暇」といふのがあるんですが、夕飯後、急いで片づけて、みんなが風呂はいつている時間、テレビを耳だけで聞いて手芸をやっているんです。

松原（リーダー） 嫁と姑の問題になりました、ここでは嫁と姑の問題は精神的な交流の問題なんで、ある意味では永久に問題として残る事柄でもあると思うんです。

ここで考えなければいけないことは、そうした心算的交流をもちろんな前提とするわけですが、それだけでこれからの生活設計を考えては、いけないんじゃないかという気持ちもがひつかつてくるわけなんです。今まで暮らしの設計や時間の設計を考えてこられたみなさん方であるので、役割り分担をもつとはつきりさせる必要があるんじゃないか、精神的な交流を中心としながらもかつ、もつと家庭の中の役割り分担をはつきりさせ、そうしたうえで、お嫁さんの望むような育児がなされなければならぬんじゃないか。そのへんについてももう少しお話しを進めていただきたいんです。夫と妻の関係もでてると思いますが、出かせぎの問題がひじょうに極端な例としては、夫と妻の関係にひびがはいるような事象さえおこる現状ですので、そういうことにおいて、家庭の人間関係をもう少しつとんでいいただきたいと思っています。日高 漁村の場合ですと、連洋漁業にでる場合に、漁場の関係で、入港先が鹿児島、宮崎、熱海、宮城というように、方々に渡つて

をいし、最近はお互いに干渉しないで、自主的に働くというところがわかつた段階ではないかと思いますが、ミュージックにきだして喜んでおります。

こんなところにも、安心してでてこれますので、その点はみなさんから見れば仕合わせじゃないかと感じておる次第です。高畑 姑と私の問題なんですけれども、古い家で、ばらつとしていて、一人一人が自分の時間をもつこともむずかしいので、家を四つに仕切つて、廊下を縦横につけたんです。それでおかあさんの部屋もできましたし、子どもたちの勉強時間も違ひし、部屋の使い方も違いますので、子どもたちのお部屋を別々に廊下をはさんでとつたんです。主人も、自分のことがしたいというので部屋をとつて、私の部屋は、今度つくるといつております。

農家の生活設計をするには、別居はできないんですけれども、ばらばらというしよに住んでいるのではどうかしらと思うんです。

百瀬 私の家は父と母が、母屋に住んでいるんです。私たち後るときだけは別棟です。納屋の二階を改造してそこにいます。同じ棟に住んでいると人間関係でもめることもあるんですが、その点、私の家では、年寄り夫婦と私たち家族が独立した時間をもてるものですからうんと助かつたと思うんです。

清水 きより原田さんから、嫁は単なる労働力とか考えられていないといわれたんですが、私のほうもそれに似たことがあるんです。五月にお産する人がいるんですが、その人が静脈瘤ができて絶対に産してはいけないといわれていながら、よそへいかねばならないというんですよ。お家の中でぶらぶらしているとどうも何かいわれそうでいやだ、働けなくても座つてでもいいから畑に

いきます。家へ帰るのは、二カ月に一べんか三カ月に一べんしかなく、農業の出かせぎの方とほとんど同じです。農業のほうは遠慮ですけど、いざというときは電報でも何でも通じますが、海の場合は入港しないと連絡がむずかしいのです。親子、夫婦間の連絡として、手紙のやりとりが続いております。子どもを中心とした、お父さんへのお便りということもやつております。以前は行つた先々に女ありで、せつなく働いても家へもちかえつてくるのは少なかつたんですが、最近はお父さん夫婦の力で働きかけたことが実を結びはじめ、そういうことは全然なくなつております。夫婦の仲がよければ嫁、姑という関係も、だんだん解決してくるのではなからうかと思ひます。

私の家庭の場合、私たち夫婦に、姑夫婦、それに主人の妹が二人おります。嫁は私と一つしか年が違わない大正十一年生まれと昭和三年生まれです。姑よりも小姑との人間関係にとても苦しんだんです。はじめは下手につかえてきたんですけれども、やはり二人とも仕事をもっている関係で、うちの仕事や炊事も全然手伝つてくれません。

私は下手にやるのをやめて、お互いが干渉しないことにしたんです。そうしたら、最近、自分たちから進んでそれぞれ炊事以外のことはやつてくれるようになりました。それと、下の妹は勤めが市役所関係で、いくら世間が広いんでしよう、私が忙しうにしている、何か手伝うことはないか、たのまれればするといつておりますが、年令的にたのみにくいんで、話し合いの場をもちたいと思つても、リーダーになる人がいないんです。リーダーには主人がいいと思ひますが、出港が三日、四日かつた場合は一睡もしないで帰つてくるので、そういう問題にまきこまされたく

いつているほうがいいというんです。そこに夫の責任があると思うんですけれども。農村の主婦は、食事は残りのものとか、お魚は一番小さいところばかり食べて、それでも農村の嫁は労働しているんです。自分というものを大切にできるような環境を年寄りの側からつくつてほしいと思います。

多田 私のところは、おかあさんが私が二倍くらい食べるんですけれども、自分でしてみたらどうでしょう。

清水 年寄りがいいてはなかなか……。

多田 年寄りがいるんですけれども、たくさんつくつてくばり残つた方をまん中へおいておくんです。私は二回か三回おかわりしますが、年寄りはついでだけしか食べられないんですよ。

清水 私もそんなにいうんですけれども。

多田 自分でしたらどうですか、年寄りがどうのこうのと気にかけないで。

清水 診察の方が見えられて、あなたのほうはお産の前日まで働くというんじゃないかといわれるんで、陣痛が始まるまで働きまうといつたら、それくらいにしないといふていけないんですかと聞かれたんです。実際はそれほどでなくともいいんですが、わしらこうしてきたんだといわれたら、昔からしてきたことが自分にはやれないことがないという気持ちになるんですね。

手光 私は七人家族ですけれども、八つあつたときには残りの一つは嫁にやります。嫁は人より必ずエネルギーがいるんです。牛乳のときは、特別二つ残つたときは息子に、三つあつたときは主人にやります。それも品物によつてですけれども、労働のほげしい人から順々にやります。おかあさんのやかましいときは、分けたあと残るようにして、だれが食べてもいいようにすれば年寄り

はたくさん食べませんものね。

清水 そうすることが女の美德のように思っている人が多いんですよ。

手光 それを会合のときにいつていただかないと。それから、さつきの続きなんです、人間関係をよくするために話し合いの場がつくれないとおつしやいました、昔は農家なんか、特別話し合いの機会つてなかつたでしょう。食事ときが家族会議の一番いいときだつたんですが、今は食堂にテレビを置いているので、「晩」とか「春の潮」とか、朝も昼も晩も、見ているんですね。NHKの方に聞いていただきたくてすけれども（笑い）それは一面視聴覚を広めてはいるんですが、放送の材料ですね。私は「晩」を見て、あんな格調の高い家庭の模様を映してくださるのは喜しかつたですね。その前に「バス通り裏」が上映されましたね。十朱さんの扮する現代の子の女子学生が、あるときあぐらをかいたんです。あれを見て、ひやつとしましたね。あぐらもいいんです。あの時間に見せられるのは困りますね。それから「おにいさん」といつしよ」というのは、ほんとに現代の子のいいところだけれども、ある面からいつたら困るところがある。それをご版のときに見せるんですね。

それと、この前の月の文芸春秋に日本の女が前とだいぶ違つた、前のほうがよかつた。こういうと封建的なのだけれども、やつぱり昔からの日本の家庭生活とか、女の生き方はいいところがある。ところがこのごろは、「バス通り裏」になりますけれども（笑い）あのおかあさんは、同僚の先生が迎えにきたとき、立つて自分のご主人の話しをするんですね。私は古いのかもしれませんが、いい家庭のいいしつても見せてほしいですね。

原田 鹿児島は島津藩の政策で鎖国主義をとつていたので、みなさん方より大部おくられているんですね。お嫁さんの立場から大部進んだご意見だったので、私の意見はさしひかえていたんですが、和歌山の方のご意見に、勇気づけられています。

鹿児島のお嫁さんは、深夜本など読もうとすると、百姓の嫁が勉強して何になるとか、畑の仕事にいつて赤ちゃんにお乳を飲ませると、赤ん坊をだしにいつて仕事を休んでいるとか、お嫁さんの毎日は、気がねの連続なんです。労働時間は一番長く、睡眠時間は一番短かい。お嫁さんの苦労は、見ていて気の毒でならないんです。今だんだんそれも改良されてはきました。テレビやラジオでいろいろ知らされますから。しかし、いまだにみなさんの水準にまだ追いついていないような感じがしました。

松原（リーダー） はからずもNHKテレビの「晩」や「バス通り裏」を素材にして、お姑さんとお嫁さんの両方のものの考え方がでたようです。嫁と姑を含めて、家庭の人間関係をどう新しくしていこうか。経済生活や労働時間の生活設計の中で、それをどう位置づけるかということになりますと、お姑さんのものの考え方、あるいはお姑さんのお嫁さんに対する思いやり、あるいはお嫁さんが、お姑さんの信頼を得るための心づくし、それだけでは解決つかない。その中からいろいろ具体的な話しがありました。お姑さんやお嫁さんの、家庭における役割をもつとはつきりさせるといことができたと思います。といつてもこれは、だれかが心のもち方でどうするということ、役割をはつきりさせるのではなくて、ある意味ではもつと割り切つた、たとえば高畑さんのように家を仕切つて個人の部屋をつくるのか、若い夫婦の部屋をはつきりさせるとか、細かいことだが、多田さんのように、

高畑 いまのお話しを伺つて、私の家庭は古くて、姑が主人を命のよう思つて育ててきたので、ものわかりも悪くない、十点満点の九点以上といういい姑なんですけど、現実からかけ離れた、昔風の落ちついた静かな母なんです。私のようにはつきりものというほうですと、どうも合わなくて困つていたんです。ところがテレビでいろいろある家庭がでるのを、毎日姑が見てくれるので、とつてもこのごろ理解がある人になりました。少しいき過ぎたものも出してもらつと、私たちがそれよりかよいと思われるだろうと（笑い）おかあさんこれおもしろいわといつて、おしつていっているんですね。

手光 私のほうもそういう考えで見ていかなければいけないですね。倉嶋 考え方によつては、比較することによつて、自分が少し向上しているんだということを、周囲の方に知つていただくことにもなりますね。

清水 人のなりみて、わがふりなおせですね。

長沢 私も高畑さんと同じです。こんなものは見せてほしくないという手光さんのご意見もわかりますが、おかあさんに現代の子どもや現代の嫁はこういうふうだとわかつていただければ、親も昔のように考えてはいけないうことがわかつて嬉しいくらいです。

手光 私もわかります。子どもが大きくなつたら、七十枚ほど畳を敷く、三百年も前の家を、一部屋改造し、ダンスホールをつくつてお友だちを呼んで、子どもたちダンスをさせたいという、いくらか進歩的なところも私にはあるんですが、さつき申しましたは、そんなのいいが、家族の話し合いの場で、一番大事な時間にあんなのはつかりや困る、放送時間を考へてほしいということです。

食事の盛り方とか、そういう物理的な条件を含めた、お嫁さんとお姑さんの家庭生活の参加の仕方を考える必要があるんじゃないか。そうしたことであつて、はじめて信頼とか心の交流とか、心づくしとか、思いやりとかがほんとうに生きてくるんじゃないか。思いやりだけですべてが解決するものじゃないということがわかつたわけです。

きょうのお話し合いなど、私いろいろな会合へでいて、こんなに内容のこもつた、心の交流しあつた会合はなかつたと思ひます。そういう話し合いを一つ区切つて先に進むのは心苦しいのですが、もう少し話しを進めていきたいと思ひます。

現在の家庭の役割りを論議する場合に、家庭の問題ばかりでなく家庭がおかれています地域社会やあるいは地方自治体の中における家庭の役割りも同時に考へてみなければならぬと思ひます。

特にここにおいでの方は、農村地帯あるいは漁村に生活されている方である。やはり生活は、特に社会的な生活環境、施設の問題等々、不十分の面がある。そのことが個々の家庭の生活の条件を一そう悪くする面があると思ひます。そのようなことを少し考へてみて、なぜそうなつていのか、それを解決するにはどうすればいいかを話し合つてみたいと思ひます。

それから昨日話しがでて、一部保留にした婦人組織の問題にもふれてみたいと思ひます。託児所の問題や、環境衛生の問題もでてくるでしょうけれども。

倉嶋 北海道は耕地面積はともかくも、耕農兼林地という、木のはえている山を、冬の燃料にもつている関係から、耕地面積が多い、その中の十戸なり二十戸が、生産単位になつていて、私のほうはこれを部落と申しますか、部落の会合をします場合に、部落会長

たをうです。そして二時までの営業を十二時までにし、レコードも、がんがかけさせないようにしたということです。法だから仕方がないときらぬないで、力を合わせることはいいことだ、また希望がかなえられたら、法律も改正してもらうように、これからは働きかけたいというお話しでした。

原田 鹿児島では、上水道は大部ひかれてきたんですが、下水道とみると、まったくお話しにならないんです。それを地方会議にもちだしたんですけれども、水道はとにかく、下水道はとも、というご意見でした。私一人が、なんぼ下水道が大事だといつても、みんながそれを認識してくださらないことには、どうにも方法が立たない。下水道は衛生の面から考えて、ほんとに大事だと思ふんです。

中村 市の上水道は一部はいつておりますが、私の現在住んでおりますところは、簡易水道になっております。近くの山へ大きなポンプをつくって、山の水を部落の各家でひくように、共同作業でしています。費用は各個人の家で負担し、それに市からいく分の補助がでているかと思ひます。

それから環境衛生施設は私のところは昭和三十八年だつたと思ひますが厚生大臣と毎日新聞社から賞状をいただいたんです。

環境衛生組合というのがあつて、組合連合会長は公民館長がなさつております。婦人会では、現在、お墓の花立てに蚊がわかないようにきれいにしたり、油を入れてまわつたりすることを担当しているんです。下水の施設と申しますか、道をきれいにし、全部コンクリートでかため、ハエとか蚊のわくところが全然ないようになり、焼却場をつくりましたが、それは一部市から補助がいただけるんですけれども、各部落の負担になる。その程度です。

なかなか集まつてこなくなつた。あるいは役員を選ぶのに一苦労する。何のために婦人組織があるのか、わからないことになつてきます。そういうことで農協婦人部の組織の問題がでくると思ひますが、これからの婦人組織の問題、現状、それらを少し話し合つてみたい。どなたからでも結構です。

高畑 私婦人会とか農協婦人部のお世話をしておりますので、そういうことは痛切に感じています。私は、一番最初に婦人会の役員をしてから今年で十二年になるんです。最初は大きな役ではなかつたんですけども、婦人会に愛情をもつてみると、それにひきずられてついひきうけてしまうという状態をみて、婦人会は、このままでいたらつづいてしまうと思ひます。婦人会を育成していく段階ではリーダーが大切で、よいリーダーを選ぶには、このごろは消費生活が大変なので、私たち自体で、何か報酬をあげなければならぬ。それともう一つは、町の協力団体になつたり、農協の協力団体になると、婦人会自体がその方にエネルギーを使つて、自分たちの運動をおろそかにする、それをいつも感じていふんです。

手光 昨日も農協婦人部の活動分野で、管絃の面で農協が取りあげてくれないという問題がでましたけれども、あんなのは、婦人部長が案を立てて実施する。講師はほかからやつてきても、婦人部長は、自分でちゃんと案を立てる役目を果たすべきだと思ひます。

ところで、婦人の組織がだんだん機能を失ひ精力を失つて、壊体するよりな方向をたどる原因の一つは、同じ地域には、多くのすぐれた人とか、家庭環境の恵まれた人ばかりいないので、一人で二つも三つも役をひきうけ、地域婦人部もPTAも農協婦人部

原(リーダー) 役かにごさいませんでしよりか。今まででましたことは、農村の生活上、改善しなければならぬいろいろな生活環境施設があるわけですが、これが逆に農村だからいらないという形で法的にも、あるいは社会的な通念としても、むしろ最初からあきらめて、あるいはあきらめさせられているという面がたたくさんある。たとえば農村はお姑さんがいるから、保育所なんかいらぬんじゃないか、農村だから下水道なんかいらぬんじゃないかというように、これは間違ひなもので、農村ほど保育所の必要があるわけですし、下水道の完備も問題になると思ひます。たとえば家庭の糞尿の処理など、相当大きな問題として、全国的に広がっているように思ひますが、それが都会だと、下水道が問題になるけれども、農村は下水道ははじめから問題にならないという前提自身がおかしいんじゃないかと私は考えるわけです。まして、最近のように、地域開発が進んできまうと、どうしても生産性の高い工場をひきつづけてくることに重点がおかれ、地方財政がその方に振り向けられてしまうという状況にある。そして、これがあります同じ地域の中で市街地と、農村地帯の格差を深めていふんじゃないかと思ひます。

こういつた中で、農村の生産と消費と、両方の中核に携わつておられる主婦や老人の方々が、声を大にして言わなければならぬことだと思ひます。それによつて、新しい方向の糸口ができてくるし、実際にできてきつづけるわけですが、そういう方向でのご婦人の社会的活動が、これからますます期待されるんじゃないかと思ひます。そういう情勢になつていふにもかかわらず、現在では、婦人の組織が停滞しつづけるし、あるいは農休しつづける。婦人会の集まり、あるいは農協婦人部の集りに、

もやつている。それがガンになつていふのではない。会に魅力を感じさせて、会員をひきつづけて盛りあげていくには、それだけの事業をしなければならぬし、たくさんの方々がいるんです。それからもう一つ、たとえば農協婦人部が農協に利用されるばかりで、自分たち本来の運動、活動をしなないということがでているように思ひますが、私たちは、農協の外部団体であつて、農協を盛りたてることが、農家の生活をよくすることなんです。

農協はこのごろは農協なしには何もできないんですよ。それは、お金を借りるのも農協ですし、肥料も借りる。私たちのところでは麦の肥料を借る家は二十軒に一軒もない。お米のときもそうです。もしも農協がなくなつてしまつたら、しばらくは、肥料屋さんも貸してくるでしよが、今以上に農民は苦しくなると思ひます。だから私たちが農協を生かすようにしなければ、私たちの農業はちよつと……。農協に信頼されるようを働きをしなければならぬと思ひます。

高畑 私、農協婦人部と婦人会の会長を兼ねていふので、今のお話を伺つて思つたんですが、私のところに母親クラブというのがあるんです。ところが母親クラブと婦人会がタイアップして仕事をしたいと思つて、役員のほうにも話しをするんですけれども、いい返事をしないんです。先方から話しもないし、農協と、地区婦人会と別にやつている。

手光 うちのほうでは、会長も役員も分けていふところと、両方あるんですけれども、両方うまくいつていふという話はあまり聞かないもんですから、自分の会でも計画的にやりたいと思つていますが、子どもの教育もありますし、私体が大きいので、ともかくやつていふという状態です。何かやるときには朝の三時ころまで

統計をひっぱりだしたりして案をたててゐる。泣きたくなるくらい自分を犠牲にすることもありますが、合理的に役員会を選挙しようとするには、婦人会は婦人会の役員会でいろいろ話しがあらりますし一緒にできません。私はだから別にしたいと思うんですよ。何か相入れないものがあつてうまくいかないのをみているので、私が会長をしている間は、両方うまくやつていきたいと思つてゐるんです。

松原（リーダー） 組織とか婦人部におはいいになつてない安達さんはどういふふうにお考えになつていますか。この問題について若い人たちの組織でもあるんですか。おかあさんがおはいいになつてゐるんですか。

安達 若妻会がありますね。

松原（リーダー） それと若妻会の関係はどうですか。

安達 対立していますね。

松原（リーダー） きのう農協婦人部の話の中で、農協は主として婦人であるにもかかわらず、婦人は農協組合員じゃない。銀行や工場に勤めている主人が会員というおかしさがあるということがあるけれども、組織が従来個人加入ではなく、家の資格で、その家族は全部はいらなければいけないということですが、そういうことが実際にはいけないうんじやないかと思つてすけれども、そのへんはどうですか。

万波 福島県根の広瀬農協ですけれども、この場合を申し上げますと、去年の十一月合併いたしましたときに、私も婦人会も一口千円を出資して農協の組合員になろうという相談をいたしました。それで、婦人部全部ではありませんが金のことがありますので、できれば婦人を選出しようと話し合つております。現に島

根の、いわね農協では、婦人部長が理事に当選して、活躍しておられるようですので、私も農協もそこまでやりたいとがんばつています。

松原（リーダー） 組織の問題ができましたけれども、渡辺さんここ

渡辺（特別オブ） 組織のことですが、大体各部落とか、グループなどがあり、それから一団体に一人の婦人部長さん、郡段階に部長さん、郡段階から県段階になり、県の農協婦人部の会長さんでいらつしやるわけです。これは全国にあり全国農協婦人部といふ執行部体制をつくつてゐるわけですね。選挙は、東北、北海道、関東甲信越、近畿、中国四国、九州と各ブロックから一人づつ選出されます。その地区と地区を三つに分けたところから九人で構成されている。全国団体の執行部体制の中から私も話を聞くことが多いんですけども、なお、地区の研修会にでいくとか、みなさんとお目にかかれることが多いわけです。そのときいわれることは、農協婦人部が設立されたときは、農協の安定化にあつた、大体それが前向きにおこつて、後期は、そういうものから実績をもつて、事業をもり立てていくための外郭団体であるべきだといふ、全国段階でも、県段階でもそういう話しは聞かされてゐるわけです。

ここで何つて、末端にいくと、それが浸透してないということがかつたわけです。末端にいくと、部長が、農協婦人部と両方兼ね合せている都合のいい方だけで、自分たちの主張をしようという声があるんじゃないかと思つてゐます。長崎の手光さんのように、はつきり自分が農協婦人部は分かれた団体であると、判り切つたリーダーがいれば、それなりの主張が浸透してゐると思つ

農協婦人部でリーダーシップをそなえた人が出て、活躍してゐると思つてゐます。結局指導者というものは、みんなの意見を聞いて、あまり先鞭しりしないで、グループの浸透をはつきり認識してゐると思つてゐます。なお中央会などを通して指導願いたい希望なんです。

松原（リーダー） 婦人組織の問題を考えます場合に、たくさん解決しなければならぬ課題が、壁が、農村には存在する、それにもかかわらず、婦人組織が停滞し役員のなりてがないという現状がある。そういう二つの矛盾を結びつける場合に、一つこういうことがあるんじゃないかと思つてゐます。

特に、農村の組織の場合に、始めに組織ありきで、それから何かしようという考え方があつてゐる。地域から地域婦人部をつくるべきだ、農協の中に協力組織としての婦人部があるべきだ、それでみんなが組織的にいゝ。はいつたら、さて何をしようかということになる。組織に、まず形の上で役員をつくらなければならぬ。だがやりやうなさいということ、おしつけ合いがおこつてくるんだと思つてゐます。このへんで考え方をまったく逆になければいけないんで、はじめに個別の要求があるわけなんで、その要求を果したために組織がある。組織の役割はそこになければならぬ。地域から組織がなければならぬということが先に立つてゐるところに問題があるんじゃないですか。

ある意味では、農業者全体の要求であれば農協組織、あるいは農協婦人部組織でなければならぬし、また、もつと個別の米づくりをしている農民の、あるいは果樹づくりをしている農民の要求や小さなお子さんをもつた母親の保育所の要求をだす必要があると思つれば、それに応じたサークルがあつてしかるべきだと思つ

長南 外郭団体というところに農協婦人部の限界があると思つてゐる。

松原（リーダー） 農協はやはり組合員を構成単位としてゐるわけでしょう。私のところでは婦人部の組合員が多くゐるんです。

といつても、それは選挙のためにふやしたんで、みんなはいつてゐるわけではあります。先ほど愛媛のいい例があげられたんですが、あれは特殊な条件に恵まれたところで、正式な組合員になれば、共同事業をしてほしい、などということも、取りあげられるんであつて、そうでないと、協力体制であるから、農協は協力してやるんだということ、押し切られるような現状なんです。

それからもう一つは、婦人部にしても農協婦人部にしても、グループを育成している立場から申し上げたいんですが、今まで育成したグループのうち、八人から十五人のグループが婦人会なり

んです。ですから、組織が自分にとって必要な組織であれば、役員をだれがやるかと悩むことはないはずだと思ひます。それにもかかわらず、農村には婦人会があつて、農協婦人会がなければならぬといふことで、二つの組織があつてはまずまず大へんだから、いつそのこと一つにしてしまふという結果がでてきたんだと思ひます。そんなことから、もうひとつと農協婦人の話しをしたいと思ひますが、必要に応じてこんな組織があるんだといふことを、ちよつとしていただきたいと思います。倉島さんのお話しを伺つたあとで、清水さんには母親グループのお話しをお願いいたします。

倉島 はじめに同じ要求のために二つの婦人会が三年間も心を合わせて努力した結果、実を結んだといふお話しなんです。

北海道はひじょうに人口が散漫で、辺地が多くて、小規模学校といふ種々班という小学校や中学校が多い。それで学力が低いといふいわれがあります。それで北海道のおかあさん方は悩んでおりました。最近文部省の方針として、種々班の小学校、中学校を合併することになつて規模の大きい学校に合併される形になりました。それで一つの中学校に七つの小学校から通う子どもがたまたまいっしょになりました。七つの小学校から通うんですから、ひじょうに通学距離が長く、はなはだしいところは二里も三里もある。学力の向上から考えれば効果的ですけども、通学に要する時間は、子どもにとつて負担なんです。夏は自転車で通学するからいいんですけども、冬雪や雨のときは、困難で、どうしたらいいだろうと、地域婦人部、開拓婦人部、農協婦人部の三つのおかあさん方が道当局に働きかけて、七十人を収容する冬期宿舎を建設していただいたそうです。婦人会の対立意識を超越して、

一つの目的に向つてまっしぐらに進んだおかあさんがたの協力のたまものをみなさんにお知らせしたいと思ひまして。

松原(リーダー) あまり時間がありませんが、和歌山の清水さん徳島の多田さん、親子会の役員をしておられるといふことですが一つどうぞ。

清水 私たちの母親グループは、最近の非行少年の多いのを嘆いてつくつたのがもとですが、はじめ、私たちは何も知らなかつたんです。地区のある方が、こつちの会があるが、どうだろうといふことから、一べんそういう会をつくつてみたらということになつたんです。会をつくるには会費も大層いりますし、それに僻地で講師を呼んだ場合は、旅費がたかさんいます。講師はほかからもお礼をだしてくれすけれども、いろいろの面で、大へん苦勞してはいるんですが、母親グループの会員が子どもたちのためを思つて地域では人の集りや子どもの卒業式やクリスマスなどに子どもたちをまじえて、いっしょに歌つたり、踊つたりすると、かなり誇りにいっしょにいくとか、子どもたちとともに遊んだり学んだりすることを目的にしています。そしてあちこちで開かれるグループ会などについて勉強しておりますので、今のところ会員はみんな気がそろつておりますが、やはり自分の子どもたちの成績となるとみんなかくすようにしております。もつとこれからは、うちの子はこういうものがかんけれども、お宅はどうしていただけますかといふような話し合ひを会にしていきたいと思ひます。

手光 P.T.A.の会とその母親との関係は？

清水 別になつていて、関係ないんです。

手光 出席なんか負担を感じませんか。

清水 やつぱり子どものことですから、ほかの婦人の会合より出席

しますね。

手光 同じような仕事だと、P.T.A.のおかあさん方の限りが、やはりです。ほかにP.T.A.の運動も活発にしていますか。

清水 学校の連絡くらいで、あまりしていませんけれどもね。

多田 和歌山の方の話しを聞きまして、似かよつていふと思ひますけれども、私の地方の親子会は、つくつて一年にしかならないので、まだ軌道に乗るところまでいってないと思ひます。けれども、私はこの親子会をつくつて一番よかつたと思ひるのは、グループを小さく区切つたことです。私の部落は、三十軒ほどですが、それくらいで区切つていたので、すごく気やすいんですね。そこで一番問題になるのは、農閑期でも、いなかには割合遊び場が都会より少ないことなんです。一般的に考えたら遊び場所があるようですが、田舎の時期になりますと、遊び場所はお宮やさんしかないんです。お金をあまりかけずにお宮に砂場をつくつたり、ボールを買つたり、大きな規模のことはできないんですけれども、積極的に遊ぶときはそこで三十軒のグループがそろつて遊ぶようになります。それまではあつちで二、三人、こつちで二、三人といふふうに遊んでいましたが、大体かたまつて遊ぶので大きい子が小さい子を見ますし、親も安心できます。それから、そのお宮は小さくて、官主さんがいないんです。登が一枚あるので、学年の上の子が下の子の宿題なんかも見るようにと進めていますが、多少効果があるように思ひます。

私のグループは、割合成績がいいと思ひられています。田舎の人は自分の子どものことだけ一生懸命になり、他人の子どもが悪いことをしても割合ほつとくんです。親子会では、近所の子どもが悪いことをしていたら、必ず自分の子だと思つてしかりましよ

うといふことを第一の目標にしたんです。

それからリクレーションですが、農閑期は親と子どもが、朝も顔を合はさん状態で接触が少ないので集まるときは、いつも親子いっしょに集まります。私の家はすごく広くてほとんど使わない部屋がたかさんありますので、会合には私の家を開放しています。オルガンをもちだして親子で歌をうたうんです。経費は少しもかかりませんし、みんな気やすく、欠席される家もありません。ですからお金もかけず、設備もない、小さな会なんですけれどもそれなりに、つくつてよかつたと思つてはいます。

松原(リーダー) 最初にお約束しましたように、休憩後、きのうから話してきたことをまとめ、最後に課題である農協婦人の社会的役割をどう考えるか、あるいは社会人としての役割をどう考えるかをまとめたいと思ひます。

(休憩)

(四時二十分再会)

松原(リーダー) まとめをかねて、あと三十分くらいしかありませんので、今までの中でこつちのことだけはぜひいっておきたいところ、この点だけはぜひいいたいという点だけを、最初にやりまして、最後になかなか簡単に結論のでる問題でもありませんけれども、きのうからを振り返つていただきたいと思います。

最初健康生産の問題、出かせぎの問題、消費生活の問題、それからさらに進みまして、婦人組織の問題と進んできたわけですが、けれども、今までのうちで、でてこなかつた問題でも結構ですからいい残した問題がありましたらだしていただきたいと思います。百瀬 私は傍観者として、婦人会とか農協婦人会の問題に関して、

意見を発表したいと思っています。

グループとしては、私は若妻会に属しておりますが、婦人会の会館など高年層の方だと思っておりますけれども、一人一人が積極的になって何か活動しようという気持ちが見られないます。実際そういう組織や婦人会のリーダーの話しを聞いてみますと、結局役員だけの活動になってしまつて、末端にまでいきわたつてからず、意欲もないというんです。ところで、自分の属している若妻会を考えた場合に、三年たつてみるも、やつぱり閉つぽい婦人会と似たような徴候がでているんです。熱心な人はいる熱意を示しているんですけども熱心でない人はリレー日記をまわしても書かなくなつてきています。

先ほどの長崎さんがおつしやつたんですけれども、八人なり十人なりの小グループがいくつかできて、それがまとまつて大きな組織として発達していくというのが、これからの形じやないかと思ふんです。

松原（リーダー） 今のお話に聞かして。

高畑 私のところにも若妻会のグループがあつて、婦人会に属しているんです。会長もあつて、自主的にやつております。会館のほうから経費を助成してはいますが何とかなり少いびてほしいと願つてゐるんです。

私は若い方と、高い方の中間にゐるので、両方の意見を聞く機会が多いんです。若い方の意見を聞くと思うこともありますが、ちよつといき過ぎだと思ふこともある。また年令の高い方のおつしやることもわかるような気がするしで割切り切れないものを感ずることもあるんです。

婦人会の年間行事として、敬姑会という敬奉会を五十五才以上

のお姑さんと呼んでするようにしてゐるんです。

若妻会、婦人会の会館は、五十五才以下の方が主ですから、そういう人が集まつて、感謝の言葉を述べてゐるんです。

未亡人の方には、女の立場として、気持ちだけでもみんなをなぐさめてあげようというつもりで会を作り満足して、三年ほどたつんです。婦人会は何をやつてゐるんだ、またうちの嫁を連れていつてしまつてという声がでるもんですから、婦人会は集まつて交をことばかりやつてゐるのではない、家庭教育の問題や、家庭の合理化などいろいろやつてゐるんだということを少しでもわかつていただけて、とつてもいいと思ひます。

それから、慶應期にはグループの発表会があるんです。部落ごととに学級をもつてゐるので、学級委員とグループリーダーとが、今年の上半期はどういうふうにしてきたかを一人一人が、壇の上のほうで下手でもいいから、三分か四分話し合つてゐます。

発表会でもでもでたものを、統計をとつて十一月の農民祭に小学校で展示するんです。農民祭にはいつも小学校で学芸会があるんです。PTAと共催で村中の人が仕事を休んで子どものものを足していく。機織では予算もとつてくれますので、婦人会では一年の予算をどういうふうに使つたかを、表にして展示してゐるんです。私は私なりに柱をきつたとて、そのほかは自由にやつていこうと思つてゐます。

それから、正月から二月にかけて、わりと暇なので、お料理の講習会とか短歌とか和歌とか、下手でも、つくつたものを先生を招いて、見ていただけてゐますので婦人会活動の反省は役員が担当し、ほかの方は思つたことをどういふことでも一人づつ書いてゐます。

日頃考へてゐることを冬の間に原稿用紙にまとめてだしてゐるんです。四百人中、八十人ほど応募者があつて下手でも生の声が聞けるんです。学習にでられない人も、ひじょうに勉強になつてゐます。私はその四つの柱をたててやつてゐます。

松原（リーダー） それでは、百瀬さんにおだしになつた、休憩前の最後の問題ですけれども、やはりこれから婦人の組織を、生活の変化に合わせて、発展させる必要があるというところは、長南さんもおつしやられたと思ひますが、高畑さんがだされたように、むしろ婦人組織は小さなグループを育成していく役割を負わなければならぬんじゃないか。そして、年寄りと若い人の結びつきの役割も果たさなければならぬんじゃないか、こういうふうにいひわたるんです。たしかにお二人の発言通りだと思ふんで、グループができる土地団体とかわされるということじやなくて、それぞれの目的によつて、組織がなければならぬわけで、そういうたものの結びつきの中から、ほんとうに農家の生活、あるいは婦人の立場をまもめ、あるいは拡充していくために、何が必要なのかを真剣に話し合ひ、活動することが大切じやないかと思ひます。

原田 私の町も、出かせぎにいく人には送行会とか何とか、はなはなしい催しをしてやるが、町に残る人は何もしないという話がありました。ところがこの間在町青年に夢と希望を持たせるため、助ましの会をつくらうという一老婦人の言葉が町政に反映され、私たち婦人に、明るい希望と勇気をわきおこさせたので、みなさん方にもこの喜びを分けたいとお話した次第です。

それからもう一つ、私たち小さいグループですが毎週木曜日にお花をやつております。月末の木曜日には朝からいつて各家庭の

お惣料理をかわりばんこに披露しあひ、それをお昼に先生といつしよに試食してゐます。お花とお料理の研修をかねあひの交流がよくできて、自分のところの悩みごとやら、心配ごとまでも話し合つて、なぐさめたり喜んでたりしてゐます。研修は、先生を呼ばなくてもできるのではないかとこのことを知りましたので。

松原（リーダー） 一昨年農家の婦人会の部会をさせていただいたんです。鹿兒島からおいでになつた、当時改良普及をやつていた柳田さんがそのときに報告したんですが、鹿兒島、宮崎は、昔から学校をでると、主に京阪神地方に青年たちがでいくので、就職列車がでると、知事さんや町長さんが盛大な歓迎会をやつて送りだす、学校の先生が毎年一べんくらい就職先を尋ねる。

ところが農家をひいて野良に働いてゐる者には先生が声もかけない、そういうことが果たして正しいかどうかと柳田さんがいわれてたんですが、それが二年の間にこういう形で実のつてゐるというお話を伺つて、私も喜んで思つたわけなんです。

中村 今回の会ではあまり問題にならなかつたかと思ひますが、私の県では、後継者の問題がひじょうに深刻な問題となつてゐます岡山県のある高校卒業生に、アンケートをとつたところが、三百人のうち一割足らずの人は、農家に嫁いでいいという答えなんです。が、三百人のうち、半数が農家の娘さんだという話を聞いて、深刻だと思ひました。

ある地方では、町長さんが農家にお嫁さんを世話してくださつた方には、五千円の奨励金をだしたいという起事を週刊誌でみましたが、ほかではどのようにしてこの問題を解決してゐるのか、お聞きしたいと思ひます。

柳田 結局今の問題にもつたがつかつておりますけれども、いい家庭を

つくるといふことは、家庭をこわさないということと同じだといふんです。なぜかという、農家に嫁にいつても家からでた人にもつていられるから物く気がしないというのです。どんな新宅を建ててやるし、あげくの果てに、おとうさんがなくなれば、財産分与をしなければならぬ。お嫁にいつた娘たちも、子どもを生むときは実家です。帰るときは、産着、うば車、いつさいつけてやらなければならぬ。するとお嫁さんは、働いても働いてももつていられる、そういうことをなくすように話し合つても、いらないと頼まれてきたのですが、どこで話していいかわからなかつたものですから。

原田 鹿兒島では、つらいということ、「のさんこつちやこえこつちや」といふんですけれども、なるべくそういうことを口にすることをいわれているんです。というのは、子どもの頃に農村の生活はつらいという入感を与えつけないためです。でないと、農家にきてくださいといつても駄目なんです。小さいときから、農家はもしろいという雰囲気があれば、お嫁さんもうるのではなにかと思ふんですね。串良という町では、のさんこつちやこえこつちやという言葉を口にしないように申合せているんです。

手光 あとこの問題ですが、県の婦人会に話なんです。自分のところは二町あまり耕作していて、長崎県では大きいほうです。子どもが三人いて、長男は養鶏をさせて、それは解決しているだろうと思ふんです。農業学校でた三番目の子に田畑の耕作をさせようと思つていたが、このごろはミカンづくりが盛んなので、ミカンづくりをさせたんです。ところがミカンは十年たたなければ駄目なんで、ちつとも家のためにならない。どこかにいくときは、汽車賃をせびられる。こんなことなら就職させればよかつた

と、あるおかしな人がいわれるのです。

今からの農家は、二町あれば成り立つていくかという質問がだされ、ほかの方からもでたんです。ミカンの養成、あるいは、ブタの飼育に、お金をたくさん借りているので、分割で返さなければならぬ。それを払つてしまわなければと思つているのに、子どもは養家を支つて、しよつとしない。そういう深刻な悩みがあるんです。

また私のほうの、特別交通に不便なところに十六人の青年がいるんですが、お嫁さんをもつたのは三人か四人、三十四、五才になつた人もいて気が気じゃない。誰かがお嫁さんをもらいにくとこつちからもあつちからもいくので、結局どこにもいけなくなるという深刻な悩みがあるんです。

私いろいろな都合にでているので、おかしな人、あなたのお嫁さんをみんなサラリーマンにやらないで、自分のうちでもお嫁さんがほしいのなら、一人くらいはといつたら、自分がつらい思いをしているので、農家にやる気はない自分の息子にはほしいけれども、矛盾した話なんです。

多田 私は嫁にきた立場でだけれども、わりと百姓が好きなんです。百姓ほど自分で自由になる職業はないと思ふんです。だからとけじめをつけないから苦しいんじゃないかと思ふのです。私は草がはえていても草とやめたり、作付けも一年中の計画を立てて自分で勝手にやります。どうして農家の嫁をいやがるのかわかりません。

百瀬 嫁にきたのは五年前ですから、今ほどではなかつたんです。私も百姓をしているという劣等感はずつともありません。食料を生産するのはお百姓なんです。今の若いお嫁さんたち、きた

ないとか、体中黒くなつたりすることに突な意識をもっているんじゃないかと思ふんです。どうして突な意識をもつたり、百姓を軽蔑したりするかということに問題があると思ふんです。農村でも一生懸命働いて、そこから得られる喜びとか、苦しくなく暮らしていける生活があれば、どんなお嫁さんでも、きつと農村にお嫁にいきたいと思ふんじゃないかと思ふんです。

長沢 お嫁さんをもらうのに、台所とか、お便所を改善する、家があるんですけれども、物質的な改善よりも、精神的な改善が大層じゃないかと思ふんです。それをしないと、お嫁さんはこないんじゃないですか。

日高 漁師の嫁になりてがないます。私は嫁ぐとき、全然農業に関係のない家だつたので今さら漁師の嫁になつてといわれましたが、私はなるべく頭のいい方を漁師の嫁に世話しています。男のいない家をあずかるんですから、漁師の嫁こそ、頭のいいお嫁さんでなければならぬということ。男側も考えなければならぬところがあるんじゃないかと思ふんです。

安達 いくら家の中で人間関係をよくして働いても人手不足でどうして追いつけないんですか、少しでも手間ははぶけるといふようなことをお聞かせ願ひたいのです。

松原(リーダー) 農家の嫁の問題で、ちよつとまとめさせていただきますが、二日目にたつて、私は頭の中で、一昨年の十回の農村の部会に出ましたとき、今回をはかりながらお聞きしていたわけですが、ひじょうに明るい気持ちで、この討論を終えることができるような気がするのです。と申しますのは、農家の嫁の問題は、一昨年もたつたわけです。そのとき、結論としてでたことは、自分の嫁が今の自分の主婦としての生活をみている

ので、農家の嫁さんが農家にいきたくないというのは当然と考えられるわけなんです。それを今の嫁はドライとかで解決する問題ではないんじゃないか。自分の娘や息子が農業をいやがるのは、自分の生活をみじめにすることだといつた結論しかでなかつたんですけれども、きょうの結論はそうじゃないと思ふんです。自分の生活をみじめにしないこと、そしてそれを生活の中でみつけたしていくわけです。

多田さんの細かい設計のお話しもあり、多田さん自身の明るい顔や百瀬さんの顔をみればわかるわけですが、自分の生活をみじめにしない設計があまりにない、こういうことがこれから農家に嫁ぐ前にやらなければならぬ、原田さんから、ぐちをいわないというお話しがありました。それだけでなく、ぐちのない生活にしていこうと、いろいろの隘路はあると思ふんですが、手光さんがおつしやつたように、農業をついでいる長男に勤めにでている二、三男から送金がたかさんくるといふような、どうにもならない日本の農業の生産性の低さはあることはあるんですけれども、各生活設計の中で、明るい婦人の生活が営めるような条件ができていくし、営まなければならぬ段階にきていく。それをのりきるだけの姿勢ができていくのではないかと思ふんです。それが一昨年と今年の距離だろつと思ふんです。これからの地域で、いろいろな問題や課題にぶつかると、壁につきあたるともあるだろうと思ふんですが、常に自分自身の問題としてとどめないで、前向きな生活設計の中で、農家の主婦の立場を明るくしていくことを考えていたのだと、お話しを伺いながら感じたわけなんです。そのほかにまだおありだろうと思ふんですが。

長瀬 生活設計をするにも、異つくとする生活技術が必要なので、

農業技術と同じような立場で、生活技術も考えていただきたいと思っています。

高畑 私、わりとはり切つて、いろいろ計画を立てているんですが、主人がそういうことに協力的なんです。姑は古くさいといいますが、その点やつぱり現代の若い方たちは、お嫁さんをもらつたらおかあさんも大切にしていたきたいが将来をみ通して、子どもたちが大きくなつてからの設計も考えて、ほんとに協力してほしいですね。協力がなければ、家庭の計画も全然できないんですから。

倉島 農村の結婚問題に関連することなんですが、私どものほうで農村青年の研修会がありますので、婦人部からオブザーバーとして出席させていただき、若い方の交際をあたためたい目で見るといふ形をとつております。それによつて、嫁は農家へくれたくないというおかあさんが、農業に積極的に関わっている青年をみかけて考えなおされたという実例が二つありました。

農閑期でアルバイトのつもりで勤めにでて、何となく時間だけで働いている青年より、かえつて農村の青年が大きな希望をもつて前進している姿がはつきりわかつたといつて。

松原(リーダー) まだどきどきいまだかなければならないこともたくさんあると思いますが、今夜、あるいは明日の晩まだお話しする機会もあると思うんです。その中でもつと語りあつて、たくさんおみやげをお持ち帰りいただきたい。

先ほど安達さんからもできましたように、紙面を北から南からまわされて、これからの連絡をおとりになるということですので、この会だけで終わらせないで、これがかつかけになつて、日本全国に大きな波紋になつて広がっていくように、みなさん方の間だ

けでも、新しい前向きな家庭のあり方を考えていただきたいと思っています。

きのうから話し合つてきたことをふり返つてみますと、まず第一に、各地での生活の実情が話し合われたわけですね。その中でできたことは、やはり現在の農村の婦人の場合、産産社会の進展の中で、家庭を考へる。何よりもまず生殖過程の農業をどうするか、所得の低さを解決するために出かせぎにでなければならぬといふことが最大の関心事であつたわけですね。家庭の役割については、農業生産活動を助けている問題を、個人としても、もつと正面からぶつかる必要があるんじゃないか。価格の問題もでてきましたし、農業労働の不足の問題もでてきました。さらには新産業都市の開拓の中で、農業が将来どうなるのかわからない状態におかれていることなど、農業の発展をはばんでいる事情もでてきたんです。今までは男しか考えなかつたことを、ご婦人が考えなければならなくなつてきていると思います。

それからもう一つは、出かせぎの問題に関連して、それが、残つたご婦人に、いつさいの農業労働がかかつてくるというだけの問題ではなく、子どもと親の精神的な絆の問題、夫と妻の絆に影響を投げかけるような深刻な問題になつてきていることも話し合われ、それを解決するためにいろいろ手段を考えようということもでてきた。

三番目に消費生活に対する考え方、消費生活を考える場合に、当然婦人の労働との関連で考えなければならぬので、さらに労働の時間的計画をどうするかということに関連して、生産労働と、普通の生活時間と生活時間を考え、能率的に分離した生き方をしているといふ具体的な話し合いが行われ、討議されたと思ひ

ます。

さらに、経済的な計画をいつそう促進するためには、最終的には家族の人間関係の中で解決していかなければならない。特にそれは、世代の関係、お嫁さんとお姑さんの関係、親と子の間で語られなければならぬ、親と子の関係の解決は、単に、精神的な心のふれあいだけで解決すべきではなく、やはり、具体的な生活設計と役割り、分担、あるいはそれに必要な物理的条件の整備で解決するということもでてきたかと思ひます。

そうした家庭の中の生活設計は、当然家庭外の生活との結びつきの中で問題にしなければならぬ。たとえば経済の問題としては、交際費の問題もあるし、また婦人組織をどのように進めるかという問題もある。さらに家庭の生活を豊かにしていくためには、当然社会的な生活環境、託児所とか、下水道とかの要求も、改善していかなければならぬ。それには、いろいろな行政上の隘路などが、問題にされたわけですね。ともかく村なり、地方自治体における住民の個々の家庭の生活が、より豊かになつていく上に必要な限りで社会生活がおし進められなければならないという姿勢は、その中からでてきたかと思ひます。

そして最後に、これからのあり方として、農業の後継者を、いやない方をすればひとめで、農家に集まるようにするためにも、現在の若い人たちの魅力をはきだすだけの、新しい明るい生活をする必要がやないかということに結論がきたかと思ひます。

最初に予定した討議の内容のなかで、まだ語らなければならぬ点がたくさんあると思いますが、要は、こういう経済変動の中に追いこまれ、流されるだけではなくて、その中で自分

ちの船のかじを、自分たち自身がとつていくことが必要であり、しかもそのかじのとおり方も、すでにみなさん方自身の中に心がまえとしてできあがつているし、具体的にかじをおとりになつてつある、樂觀的な結論をだして恐縮ですが、そういうた道ができていくということ、はつきりと確信していただきたい。

それには困難な条件がたくさんあるけれども、それに立ち向かうためにはそれだけの姿勢がなければならぬが、その姿勢が次第に整備されてきつたといつていいと思います。

これで二日間にわたつた第四部会の討議を終りいたします。

(五時閉会)